

茨城県教育財団文化財調査報告第140集

北浦複合団地造成事業地内
埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

木工台遺跡 1

平成 10 年 9 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

210.231

k173

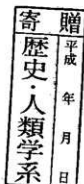
(NK)

茨城県教育財団文化財調査報告第140集

北浦複合団地造成事業地内 埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

ほっくたい
木工台遺跡 1

平成 10 年 9 月



茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

00603040



上 木工台遺跡全景，下 第2号鍛冶工房跡

序

茨城県は、鹿行地域の総合的發展を目指して、東関東自動車道路の潮来～水戸間の延伸や、これを補完する国道や主要地方道等の幹線道路の整備を図っております。このため、この地域は、都市的開發の可能性が極めて高くなってきております。このような状況の中で、北浦複合団地整備推進事業が計画されたもので、その予定地内には木工台遺跡をはじめ多くの遺跡が所在しております。

財団法人茨城県教育財団は、茨城県と埋蔵文化財発掘調査事業についての委託契約を結び、平成8年10月から平成9年3月まで木工台遺跡の発掘調査を実施してまいりました。この調査によって貴重な遺構、遺物が検出され、北浦町の歴史を解明する上で多大の成果をあげることができました。

本書は、木工台遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が学術的な研究資料としてはもとより、教育、文化の向上の一助として広く活用されることを希望いたします。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である茨城県から多大なる御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、北浦町教育委員会、北浦町開発課をはじめ、関係各機関及び関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、衷心より感謝の意を表します。

平成10年9月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 橋本 昌

例 言

1 本書は、茨城県の委託により、財団法人茨城県教育財団が、平成8年10月から平成9年3月まで発掘調査を実施した茨城県行方郡北浦町に所在する木工台遺跡の発掘調査報告書である。

なお、木工台遺跡の所在地は次のとおりである。

木工台遺跡 茨城県行方郡北浦町大字内宿字井戸作台1,508番地ほか

2 木工台遺跡の調査及び整理に関する当教育財団の組織は、次のとおりである。

理 事 長	橋 本 昌	平成7年4月～	
副 理 事 長	中 島 弘 光	平成7年4月～	
	齋 藤 佳 郎	平成8年4月～平成10年3月	
	川 俣 勝 慶	平成10年4月～	
常 務 理 事	梅 澤 秀 夫	平成8年4月～平成9年3月	
	齋 藤 紀 彦	平成9年4月～	
事 務 局 長	小 林 隆 郎	平成8年4月～平成9年3月	
	西 村 敏 一	平成9年4月～	
埋 蔵 文 化 財 部 長	沼 田 文 夫	平成8年4月～	
埋 蔵 文 化 財 部 長 代 理	河 野 佑 司	平成6年4月～	
企 画 管 理 課	課 長	小 幡 弘 明	平成8年4月～平成9年3月
	課 長	河 崎 孝 典	平成9年4月～平成10年3月
	課 長	鈴 木 三 郎	平成10年4月～
	課 長 代 理	根 本 達 夫	平成6年4月～
	課 長 代 理	清 水 薫	平成9年4月～平成10年3月(平成8年4月～平成9年3月係長)
	主 任 調 査 員	小 高 五 十 二	平成8年4月～平成10年3月
	主 任 調 査 員	池 田 晃 一	平成10年4月～
	主 事	川 崎 敦 史	平成10年4月～
経 理 課	課 長	河 崎 孝 典	平成8年4月～平成9年3月
	課 長	鈴 木 三 郎	平成9年4月～平成10年3月
	課 長	佐 藤 健	平成10年4月～
	主 査	田 所 多 佳 男	平成8年4月～
	課 長 代 理	大 高 春 夫	平成6年4月～平成9年3月
	課 長 代 理	清 水 薫	平成10年4月～
	主 任	小 池 孝	平成7年4月～平成10年3月
	主 任	宮 本 勉	平成9年4月～
	主 任	木 下 光 保	平成10年4月～
	主 事	柳 澤 松 雄	平成8年4月～平成9年3月
	主 事	小 西 孝 典	平成9年4月～平成10年3月

調 査 一 課	課長(部長兼務)	沼田 文 夫	平成 8 年 4 月～
	調査第四班長	海老澤 稔	平成 8 年 4 月～平成 9 年 3 月
	主任調査員	黒澤 秀雄	平成 8 年 4 月～平成 9 年 3 月調査
	主任調査員	茂木 悦男	平成 8 年 10 月～平成 9 年 3 月調査
	主任調査員	平松 孝志	平成 8 年 4 月～平成 9 年 3 月調査
	主任調査員	宮崎 修士	平成 8 年 10 月～平成 9 年 3 月調査
整 理 課	課 長	小泉 光正	平成 9 年 4 月～平成 10 年 3 月
	課 長	川井 正一	平成 10 年 4 月～
	主任調査員	茂木 悦男	平成 9 年 7 月～平成 10 年 9 月整理・執筆・編集

- 3 本書に使用した記号等については、凡例を参照されたい。
- 4 本書の作成に当たり、出土土器の編年について、財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社佐々木義則氏に御指導をいただいた。
- 5 木工台遺跡出土の鉄器及び鉄屑の金属学的分析については岩手県立博物館、パリノ・サーヴェイ株式会社に、炭化材分析についてはパリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。分析結果は付章として報告する。
- 6 発掘調査及び整理に際して、御指導、御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

7 遺跡の概略

ふりがな	きたうらふくごうだんちぞうせいじぎょうちないまいぞうふんかざいちょうさほうこくしょ						
書 名	北浦複合団地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書						
副 書 名	木工台遺跡Ⅰ						
巻 次	Ⅱ						
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告						
シリーズ番号	第140集						
編 著 者 名	茂木 悦男						
編 集 機 関	財団法人 茨城県教育財団						
所 在 地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2				TEL029(225)6587		
発 行 機 関	財団法人 茨城県教育財団						
所 在 地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2				TEL029(225)6587		
発 行 年 月 日	1998 (平成10) 年 9 月 30 日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所 取 遺 跡	所在地						
ほ っ く だ い 木 工 台 遺 跡	いばらきけんみづかたてんきたうらまち 茨城県行方郡北浦町	08424	36度	140度	19961001～ 19970331	20,494㎡	北浦複合団地 造成事業地内 埋蔵文化財調 査報告書Ⅱ
	おおあざうちじくあびせどくたい 大字内宿字井戸作台	-	06分	30分			
	ぼんら 1,508番地ほか	53	06秒	25秒			

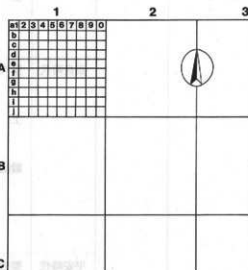
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
木工台遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡	11軒	土師器(坏・高坏・甕・壺) 須恵器(坏・坏蓋・甕) 土製品(土玉・紡錘車・支脚) 石製品(紡錘車・砥石) 鉄鎌・鉄滓	古墳時代から 平安時代にかけての集落跡。 鉄滓等が多量に出土し、かなり長期にわたって使われたであろう鍛冶工房跡も2軒検出されている。	
			土坑	2基			
			鍛冶工房跡	1基	砥石 鉄製品(鎌・釘・鋸・刀子) 鉄滓 銅製品(帯金具)		
		奈良時代	竪穴住居跡	45軒	土師器(坏・高坏・甕・壺) 須恵器(坏・坏蓋・甕) 土製品(土玉・管状土錘・支脚・紡錘車)		
			土坑	2基			
			鍛冶工房跡	1基	砥石 鉄製品(鎌・釘・鋸・刀子) 鉄滓 銅製品(帯金具)		
		平安時代	竪穴住居跡	44軒	土師器(坏・高坏・甕・壺・羽釜) 須恵器(坏・坏蓋・甕) 土製品(土玉・管状土錘・紡錘車・支脚・羽口)		
				土坑	6基		石製品(紡錘車・砥石・金床石)
				鍛冶工房跡	1基		鉄製品(鎌・刀子・釘・鋸・鉄錘・鑿), 鉄滓 銅製品(帯金具), 灰釉陶器
			時期不明	竪穴住居跡	6軒		土師器(坏・高坏・甕・壺), 須恵器(坏・坏蓋・甕)
		据立柱建物跡	1棟	砥石			
		溝	30条	鉄鎌, 鉄滓			
		土坑	148基				

凡 例

1 遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標を用いて区画し、木工台遺跡はX軸=11,560m, Y軸=60,400mの交点を基準点とした。

大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西、南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C..., 西から東へ1, 2, 3...とし、その組み合わせで「A1区」「B2区」のように呼称した。さらに、小調査区も同様に北から南へa, b, c...j, 西から東へ1, 2, 3...0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠し、「A1a区」「B2b区」のように呼称した。(第1図)



第1図 調査区呼称方法概念図

2 遺構、遺物、土層に使用した記号は、次のとおりである。

遺構 住居跡-S I 掘立柱建物跡-S B 堀・溝-S D 土坑-S K その他-S X

遺物 土器-P 土製品-D P 石器・石製品-Q 金属製品-M 拓本土器-T P

土層 擾乱-K

3 遺構及び遺物の実測図中の表示

= 焼土・赤彩
 = 炉・竈
 = 粘土
 = 黒色処理

● = 土器 ○ = 土製品 □ = 石器・石製品 △ = 金属製品

4 土層観察と遺物における色調の判定は、「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

5 遺構・遺物実測図の作成方法及び掲載方法については、以下のとおりである。

(1) 遺跡全体図は縮尺500分の1とし、各遺構の実測図は、60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。

(2) 遺物は、原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 「主軸方向」は、炉・竈を通る軸線あるいは南北の柱穴を結ぶ軸線を主軸とし、その主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。(例 N-10°-E, N-10°-W)

なお、現存値は()で、推定値は[]を付して示した。

(4) 土器の計測値は、A-口径 B-器高 C-底径 D-高台(脚)径 E-高台(脚)高 F-つまみ径 G-つまみ高とし、単位はcmである。なお、現存値は()で、推定値は[]を付して示した。

(5) 遺物観察表の備考の欄は、土器の残存率、実測(P)番号、出土位置及びその他必要と思われる事項を記した。

目 次

序

例 言

凡 例

第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 木工台遺跡	7
第1節 遺跡の概要	7
第2節 基本層序	7
第3節 遺構と遺物	9
1 竪穴住居跡	9
2 掘立柱建物跡	318
3 溝	320
4 土坑	327
5 鍛冶工房跡	346
6 遺構外出土遺物	354
第4節 まとめ	359
付章	363

挿 図 目 次

第1図 調査区呼称方法概念図	6	第12図 第4号住居跡実測図	19
第2図 周辺遺跡分布図	6	第13図 第4号住居跡出土遺物実測図	20
第3図 基本土層図	7	第14図 第5号住居跡実測図	21
第4図 木工台遺跡調査区設定図	8	第15図 第5号住居跡出土遺物実測図	23
第5図 第1号住居跡実測図	10	第16図 第6号住居跡実測図	25
第6図 第1号住居跡出土遺物実測図	11	第17図 第6号住居跡出土遺物実測図	26
第7図 第2号住居跡実測図	13	第18図 第7号住居跡実測図(1)	28
第8図 第2号住居跡出土遺物実測図	14	第19図 第7号住居跡実測図(2)	29
第9図 第3号住居跡実測図(1)	16	第20図 第7号住居跡出土遺物実測図(1)	30
第10図 第3号住居跡実測図(2)	17	第21図 第7号住居跡出土遺物実測図(2)	31
第11図 第3号住居跡出土遺物実測図	18	第22図 第8号住居跡実測図	34

第23图	第8号住居跡出土遺物実測図	36	第62图	第26号住居跡出土遺物実測図	90
第24图	第9号住居跡実測図(1)	38	第63图	第27号住居跡実測図	92
第25图	第9号住居跡実測図(2)	39	第64图	第27号住居跡出土遺物実測図	93
第26图	第9号住居跡出土遺物実測図	40	第65图	第28号住居跡実測図	94
第27图	第10号住居跡・出土遺物実測図	41	第66图	第28号住居跡出土遺物実測図	95
第28图	第11号住居跡実測図	42	第67图	第29号住居跡実測図	96
第29图	第11号住居跡出土遺物実測図	42	第68图	第29号住居跡出土遺物実測図	97
第30图	第12号住居跡実測図	44	第69图	第30号住居跡実測図	98
第31图	第12号住居跡出土遺物実測図	45	第70图	第30号住居跡出土遺物実測図	99
第32图	第13号住居跡実測図(1)	47	第71图	第31号住居跡実測図	101
第33图	第13号住居跡実測図(2)	48	第72图	第31号住居跡出土遺物実測図	102
第34图	第13号住居跡出土遺物実測図	49	第73图	第32号住居跡実測図	103
第35图	第14号住居跡実測図	52	第74图	第33号住居跡実測図	103
第36图	第14号住居跡出土遺物実測図	53	第75图	第34号住居跡実測図	105
第37图	第15号住居跡実測図(1)	55	第76图	第34号住居跡出土遺物実測図	106
第38图	第15号住居跡実測図(2)	56	第77图	第35号住居跡実測図	107
第39图	第15号住居跡出土遺物実測図	57	第78图	第35号住居跡出土遺物実測図	108
第40图	第16号住居跡実測図	59	第79图	第36号住居跡実測図	110
第41图	第16号住居跡出土遺物実測図	60	第80图	第36号住居跡出土遺物実測図	111
第42图	第17号住居跡実測図	62	第81图	第37号住居跡実測図	112
第43图	第17号住居跡出土遺物実測図	63	第82图	第37号住居跡出土遺物実測図	113
第44图	第18号住居跡実測図	65	第83图	第38号住居跡実測図	115
第45图	第18号住居跡出土遺物実測図	66	第84图	第38号住居跡出土遺物実測図	116
第46图	第19号住居跡実測図	68	第85图	第39号住居跡実測図	117
第47图	第19号住居跡出土遺物実測図	69	第86图	第39号住居跡出土遺物実測図	117
第48图	第20号住居跡実測図	71	第87图	第40号住居跡実測図	118
第49图	第20号住居跡出土遺物実測図	72	第88图	第40号住居跡出土遺物実測図	119
第50图	第21号住居跡実測図	73	第89图	第41号住居跡実測図(1)	122
第51图	第21号住居跡出土遺物実測図(1)	74	第90图	第41号住居跡実測図(2)	123
第52图	第21号住居跡出土遺物実測図(2)	75	第91图	第41号住居跡出土遺物実測図(1)	124
第53图	第22号住居跡実測図	77	第92图	第41号住居跡出土遺物実測図(2)	125
第54图	第22号住居跡出土遺物実測図	78	第93图	第41号住居跡出土遺物実測図(3)	126
第55图	第23号住居跡実測図	80	第94图	第42号住居跡実測図	128
第56图	第23号住居跡出土遺物実測図	81	第95图	第42号住居跡出土遺物実測図	129
第57图	第24号住居跡実測図	82	第96图	第43号住居跡実測図	130
第58图	第24号住居跡出土遺物実測図	84	第97图	第43号住居跡出土遺物実測図	131
第59图	第25号住居跡実測図	85	第98图	第45号住居跡実測図	132
第60图	第25号住居跡出土遺物実測図	87	第99图	第45号住居跡出土遺物実測図	133
第61图	第26号住居跡実測図	89	第100图	第46号住居跡実測図(1)	134

第101园	第46号住居跡実測図(2)	135	第140园	第65号住居跡出土遺物実測図	187
第102园	第46号住居跡出土遺物実測図	136	第141园	第66号住居跡実測図	188
第103园	第47号住居跡実測図	138	第142园	第66号住居跡出土遺物実測図	189
第104园	第47号住居跡出土遺物実測図	140	第143园	第67号住居跡実測図	191
第105园	第48号住居跡実測図	142	第144园	第67号住居跡出土遺物実測図	192
第106园	第48号住居跡出土遺物実測図	142	第145园	第68号住居跡実測図	194
第107园	第49号住居跡実測図(1)	144	第146园	第68号住居跡出土遺物実測図	195
第108园	第49号住居跡実測図(2)	145	第147园	第69号住居跡実測図	197
第109园	第49号住居跡出土遺物実測図(1)	146	第148园	第69号住居跡出土遺物実測図	197
第110园	第49号住居跡出土遺物実測図(2)	147	第149园	第70号住居跡実測図	198
第111园	第50号住居跡実測図	148	第150园	第70号住居跡出土遺物実測図	199
第112园	第51・52号住居跡実測図	150	第151园	第71号住居跡実測図	201
第113园	第52号住居跡出土遺物実測図	151	第152园	第71号住居跡出土遺物実測図(1)	202
第114园	第53号住居跡実測図	152	第153园	第71号住居跡出土遺物実測図(2)	203
第115园	第53号住居跡出土遺物実測図	153	第154园	第72号住居跡実測図	205
第116园	第54・55号住居跡実測図(1)	154	第155园	第72号住居跡出土遺物実測図	207
第117园	第54・55号住居跡実測図(2)	155	第156园	第73号住居跡実測図	208
第118园	第54号住居跡出土遺物実測図	157	第157园	第73号住居跡出土遺物実測図	209
第119园	第55号住居跡出土遺物実測図	159	第158园	第74号住居跡実測図	211
第120园	第56号住居跡実測図	161	第159园	第74号住居跡出土遺物実測図	212
第121园	第56号住居跡出土遺物実測図	162	第160园	第75号住居跡実測図	213
第122园	第57号住居跡実測図	163	第161园	第75号住居跡出土遺物実測図	214
第123园	第57号住居跡出土遺物実測図	165	第162园	第76号住居跡実測図	215
第124园	第58号住居跡実測図	167	第163园	第76号住居跡出土遺物実測図	217
第125园	第58号住居跡出土遺物実測図	167	第164园	第77号住居跡実測図	219
第126园	第59号住居跡実測図	169	第165园	第77号住居跡出土遺物実測図	221
第127园	第59号住居跡出土遺物実測図(1)	171	第166园	第78号住居跡実測図(1)	223
第128园	第59号住居跡出土遺物実測図(2)	172	第167园	第78号住居跡実測図(2)	224
第129园	第60号住居跡実測図	174	第168园	第78号住居跡出土遺物実測図	225
第130园	第60号住居跡出土遺物実測図	176	第169园	第79号住居跡実測図	227
第131园	第61号住居跡実測図	177	第170园	第79号住居跡出土遺物実測図	229
第132园	第61号住居跡出土遺物実測図	178	第171园	第80号住居跡実測図	231
第133园	第62号住居跡実測図	179	第172园	第80号住居跡出土遺物実測図	232
第134园	第62号住居跡出土遺物実測図	181	第173园	第81号住居跡実測図	233
第135园	第63号住居跡実測図	182	第174园	第81号住居跡出土遺物実測図	234
第136园	第63号住居跡出土遺物実測図	183	第175园	第82号住居跡実測図	235
第137园	第64号住居跡出土遺物実測図	184	第176园	第82号住居跡出土遺物実測図	237
第138园	第64号住居跡実測図	185	第177园	第83号住居跡実測図	238
第139园	第65号住居跡実測図	186	第178园	第83号住居跡出土遺物実測図	239

第179区	第84号住居跡実測区	241	第218区	第100号住居跡実測区(2)	293
第180区	第84号住居跡出土遺物実測区	242	第219区	第100号住居跡出土遺物実測区(1)	294
第181区	第85号住居跡実測区	243	第220区	第100号住居跡出土遺物実測区(2)	295
第182区	第85号住居跡出土遺物実測区	245	第221区	第100号住居跡出土遺物実測区(3)	296
第183区	第86号住居跡実測区	247	第222区	第101号住居跡実測区	299
第184区	第86号住居跡出土遺物実測区	248	第223区	第101号住居跡出土遺物実測区	301
第185区	第87号住居跡実測区	249	第224区	第102号住居跡実測区	303
第186区	第87号住居跡出土遺物実測区(1)	251	第225区	第102号住居跡出土遺物実測区	304
第187区	第87号住居跡出土遺物実測区(2)	252	第226区	第103号住居跡実測区	306
第188区	第88号住居跡実測区	254	第227区	第103号住居跡出土遺物実測区	307
第189区	第88号住居跡出土遺物実測区	255	第228区	第104号住居跡実測区	309
第190区	第89号住居跡実測区	257	第229区	第104号住居跡出土遺物実測区	310
第191区	第89号住居跡出土遺物実測区	258	第230区	第105号住居跡実測区	311
第192区	第90号住居跡実測区	259	第231区	第105号住居跡出土遺物実測区	311
第193区	第90号住居跡出土遺物実測区	259	第232区	第106号住居跡実測区	313
第194区	第91号住居跡実測区	261	第233区	第106号住居跡出土遺物実測区	314
第195区	第91号住居跡出土遺物実測区	262	第234区	第107号住居跡実測区	315
第196区	第92号住居跡実測区	265	第235区	第107号住居跡出土遺物実測区	315
第197区	第92号住居跡出土遺物実測区	267	第236区	第1号掘立柱建物跡実測区	319
第198区	第93号住居跡実測区	268	第237区	第1号溝実測区	320
第199区	第93号住居跡出土遺物実測区	269	第238区	第4・5号溝実測区	321
第200区	第94号住居跡実測区	269	第239区	第6号溝実測区	322
第201区	第94号住居跡出土遺物実測区	270	第240区	第9号溝・出土遺物実測区	322
第202区	第95号住居跡実測区(1)	272	第241区	第11号溝実測区	323
第203区	第95号住居跡実測区	273	第242区	第14号溝実測区	323
第204区	第95号住居跡出土遺物実測区(1)	274	第243区	第17・18号溝実測区	324
第205区	第95号住居跡出土遺物実測区(2)	275	第244区	第24号溝実測区	324
第206区	第95号住居跡出土遺物実測区(3)	276	第245区	第30号溝実測区	325
第207区	第95号住居跡出土遺物実測区(4)	277	第246区	第31号溝・出土遺物実測区	325
第208区	第95号住居跡出土遺物実測区(5)	278	第247区	第12号土坑・出土遺物実測区	327
第209区	第96号住居跡実測区	284	第248区	第14号土坑・出土遺物実測区	328
第210区	第96号住居跡出土遺物実測区	285	第249区	第16号土坑・出土遺物実測区	329
第211区	第97号住居跡実測区	286	第250区	第45号土坑・出土遺物実測区	330
第212区	第97号住居跡出土遺物実測区	287	第251区	第48号土坑・出土遺物実測区	331
第213区	第98号住居跡実測区	288	第252区	第53号土坑・出土遺物実測区	332
第214区	第98号住居跡出土遺物実測区	289	第253区	第54号土坑実測区	333
第215区	第99号住居跡実測区	290	第254区	第99号土坑・出土遺物実測区	334
第216区	第99号住居跡出土遺物実測区	291	第255区	第102号土坑・出土遺物実測区	335
第217区	第100号住居跡実測区(1)	292	第256区	第132号土坑・出土遺物実測区	335

第257回	第134号土坑・出土遺物実測図	336
第258回	第135号土坑・出土遺物実測図	337
第259回	第137号土坑・出土遺物実測図	338
第260回	第140号土坑実測図	338
第261回	第165号土坑実測図	339
第262回	第166号土坑実測図	340
第263回	第167号土坑実測図	341
第264回	第168号土坑・出土遺物実測図	342
第265回	第1号鍛冶工房跡実測図	347
第266回	第1号鍛冶工房跡鍛造剩片・粒状滓 出土分布図	348

第267回	第1号鍛冶工房跡 出土遺物実測図(1)	350
第268回	第1号鍛冶工房跡 出土遺物実測図(2)	351
第269回	第2号鍛冶工房跡実測図	353
第270回	第2号鍛冶工房跡出土遺物実測図	353
第271回	遺構外出土遺物実測図(1)	356
第272回	遺構外出土遺物実測図(2)	357
付図	木工台遺跡全体図	

表 目 次

表1	木工台遺跡周辺遺跡一覧表	5	表4	木工台遺跡土坑一覧表	343
表2	木工台遺跡住居跡一覧表	316	表5	鍛造剩片・粒状滓出土状況	348
表3	木工台遺跡溝一覧表	326	表6	木工台遺跡鍛冶工房跡一覧表	354

写真図版目次

P L 1	木工台遺跡遠景，北西部完掘状況			遺物出土状況，第25・27・28号住居跡，第27号住居跡竈遺物出土状況，第28号住居跡竈遺物出土状況，第26号住居跡・第163・164号土坑，第29号住居跡遺物出土状況
P L 2	北西部遺構確認状況，第1号掘立柱建物跡遺構確認状況，東部完掘状況，中央部完掘状況，第1～3号住居跡，第1住居跡遺物出土状況		P L 7	第30号住居跡，第31号住居跡，第32・48号住居跡，第33号住居跡，第34号住居跡，第34号住居跡竈遺物出土状況，第35号住居跡，第36号住居跡
P L 3	第3・8・9号住居跡遺物出土状況，第4・5号住居跡，第5～7号住居跡遺物出土状況，第6・14号住居跡，第7号住居跡，第8号住居跡		P L 8	第37号住居跡，第38号住居跡，第39号住居跡，第40号住居跡，第41号住居跡，第41号住居跡遺物出土状況，第42号住居跡，第42号住居跡竈遺物出土状況
P L 4	第9住居跡，第11・106号住居跡，第12号住居跡，第13号住居跡，第13号住居跡遺物出土状況，第14号住居跡，第14号住居跡竈遺物出土状況，第15・20・107号住居跡		P L 9	第43号住居跡，第45号住居跡，第45号住居跡竈，第46号住居跡，第46号住居跡遺物出土状況，第47号住居跡，第47号住居跡遺物出土状況，第48号住居跡
P L 5	第16号住居跡，第16号住居跡遺物出土状況，第17号住居跡，第18号住居跡，第19号住居跡，第20号住居跡，第21号住居跡，第21号住居跡遺物出土状況		P L 10	第49号住居跡，第49号住居跡遺物出土状況，
P L 6	第22号住居跡，第23号住居跡，第24号住居跡			

- 第50号住居跡, 第51号住居跡, 第52号住居跡, 第53号住居跡, 第54号住居跡・第102号土坑, 第54・55号住居跡
- P L 11 第56・85号住居跡, 第56号住居跡竈遺物出土狀況, 第57号住居跡, 第58・59・60号住居跡, 第58号住居跡竈遺物出土狀況, 第59号住居跡竈B遺物出土狀況, 第61号住居跡, 第62号住居跡
- P L 12 第63号住居跡, 第64号住居跡遺物出土狀況, 第65号住居跡, 第66号住居跡, 第66号住居跡遺物出土狀況, 第67号住居跡, 第67号住居跡竈土層断面, 第68号住居跡
- P L 13 第69・70号住居跡, 第69号住居跡竈遺物出土狀況, 第70号住居跡竈遺物出土狀況, 第71号住居跡, 第71号住居跡遺物出土狀況, 第71号住居跡竈遺物出土狀況, 第72号住居跡, 第72号住居跡遺物出土狀況
- P L 14 第73号住居跡, 第73号住居跡遺物出土狀況, 第74号住居跡遺物出土狀況, 第74号住居跡竈遺物出土狀況, 第75号住居跡, 第76号住居跡, 第77号住居跡, 第77号住居跡竈
- P L 15 第78号住居跡, 第78号住居跡遺物出土狀況, 第79号住居跡遺物出土狀況, 第79号住居跡竈遺物出土狀況, 第80号住居跡, 第81号住居跡, 第82号住居跡, 第82号住居跡遺物出土狀況
- P L 16 第83号住居跡, 第83・84号住居跡, 第86号住居跡, 第87号住居跡, 第87号住居跡遺物出土狀況, 第88号住居跡, 第88号住居跡遺物出土狀況, 第89号住居跡
- P L 17 第90号住居跡遺物出土狀況, 第91号住居跡, 第92号住居跡, 第93号住居跡, 第93号住居跡遺物出土狀況, 第94号住居跡, 第95号住居跡, 第95号住居跡遺物出土狀況
- P L 18 第95号住居跡土玉出土狀況, 第96号住居跡, 第97号住居跡, 第98号住居跡, 第99号住居跡, 第100号住居跡, 第101号住居跡, 第102号住居跡
- P L 19 第103号住居跡, 第103号住居跡遺物出土狀況, 第104号住居跡, 第105号住居跡, 第106号住居跡, 第107号住居跡, 第107号住居跡竈遺物出土狀況, 第1号掘立柱建物跡
- P L 20 第1・2・3号溝, 第4・5・6・7・8号溝, 第9号溝, 第14号溝, 第17・18号溝, 第24号溝, 第31号溝
- P L 21 第48号土坑遺物出土狀況, 第53号土坑遺物出土狀況, 第92・99号土坑遺物出土狀況, 第134号土坑遺物出土狀況, 第135号土坑遺物出土狀況, 第137・148号土坑, 第140号土坑, 第165号土坑
- P L 22 第1号鍛冶工房跡, 第1号鍛冶工房跡遺物出土狀況, 第1号鍛冶工房跡炉, 第2号鍛冶工房跡遺物出土狀況, 第2号鍛冶工房跡炉, 第2号鍛冶工房跡炉遺物出土狀況, 第2号鍛冶工房跡炉遺物出土狀況
- P L 23 第1~3・5~7号住居跡出土遺物
- P L 24 第7~9・11・13・14号住居跡出土遺物
- P L 25 第14~19号住居跡出土遺物
- P L 26 第21・23・24号住居跡出土遺物
- P L 27 第24~26・28・30・31・35・36号住居跡出土遺物
- P L 28 第36~41号住居跡出土遺物
- P L 29 第46~48号住居跡出土遺物
- P L 30 第49・52・55・57~59号住居跡出土遺物
- P L 31 第60・62・63・66~68・70・71号住居跡出土遺物
- P L 32 第71~74・76~79号住居跡出土遺物
- P L 33 第82・85・87・88・91・92・95号住居跡出土遺物
- P L 34 第95・97・100・101・103・104号住居跡, 第9号溝, 第14号土坑出土遺物
- P L 35 第14・45・48号土坑, 第1号鍛冶工房跡, 遺構外出土土器
- P L 36 出土土製品 (土玉)
- P L 37 出土土製品
- P L 38 出土土製品, 石製品
- P L 39 出土石製品, 鉄製品
- P L 40 出土鉄製品
- P L 41 出土金屬製品
- P L 42 第1号鍛冶工房跡出土遺物

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経過

茨城県は、鹿行地域の総合的發展を目指して、東関東自動車道路の水戸～潮来間の延伸や、これを補完する国道や主要地方道路の整備を図っている。このため、この地域は、都市的開発の可能性が極めて高くなって来ている。このような状況の中で、北浦複合団地整備推進事業が計画された。

平成6年3月28日、茨城県は、茨城県教育委員会に対し、北浦複合団地整備推進事業予定地内の三和・内宿・成田及び長野江地区における埋蔵文化財の有無について照会した。茨城県教育委員会は、同年5月11・24日、6月23日に現地踏査、同年10月11～13日、平成7年1月24～26日に試掘調査を実施した。平成7年3月2日に茨城県教育委員会は、事業予定地内に、炭焼遺跡・三和貝塚・札幌古墳群・成田古墳群・木工台遺跡・木工台古墳群・手配台遺跡及び内宿井戸作台城跡が存在することを、茨城県に回答した。

平成8年1月30日、茨城県と茨城県教育委員会は、成田古墳群(8,477㎡)・木工台遺跡(20,949㎡)の取り扱いについて、文化財保護の立場から慎重な協議を行った。同年2月5日、茨城県教育委員会は、茨城県に成田古墳群・木工台遺跡を現状保存をすることが困難であるため、記録保存の措置を講ずることとし、調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。茨城県教育財団は、茨城県と埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を結び、平成8年4月1日から成田古墳群、平成8年10月1日から木工台遺跡の発掘調査を実施することになった。

第2節 調査経過

木工台遺跡の発掘調査は、平成8年10月1日から平成9年3月31日までの6か月間で実施した。以下、調査経過についてその概要を記述する。

10月 遺跡東部に試掘トレンチを設定し、試掘調査を開始した。土師器や須臾器片等の遺物が出土した。

7日、遺跡西部より重機による表土除去を開始した。14日には遺構確認作業を開始し、堅穴住居跡、土坑、溝等を確認した。16日から、方眼杭打ち測量を実施した。

引き続き遺跡東部の重機による表土除去と、遺構確認作業を行った。その結果、住居跡106軒、土坑158基、溝30条を検出した。

28日から遺構調査を開始した。調査グループを2班に分け、1班は遺跡西部から東部へ、2班は遺跡東部から西部へと調査を進めることにした。遺構調査は住居跡、土坑から進めることにした。

11月 11日、第1号住居跡の遺物出土状況の写真撮影を行った。掘り込みが深く、掘り上げるのにかなりの時間を費やした。

26日、重機による表土除去を終了した。引き続き遺構確認作業と遺構調査を並行して行った。28日まで第1～12号、第51～63号までの住居跡、第1～17号、第101～116号までの土坑、第1～4号までの溝の調査を終了した。

鉄滓が多量に出土する地点があり、製鉄関連の遺構の可能性も考えられた。

12月 引き続き遺構調査を行った。第21・22号住居跡からは鉄滓のほか、釘と思われる鉄製品も出土した。

12日までに、第18～25号、第117～120号までの土坑、17日までに第13～25号、第64～75号までの住居跡の調査を終了した。

- 1月 5日から調査を再開した。14日、第36号住居跡の竈の完掘写真撮影を行った。遺存状態がよく、砂まじり粘土でしっかりと構築してあった。

30日までに、第26～37号、第76～85号までの住居跡、第26～32号、第121～132号までの土坑、第5～12号までの溝の調査を終了した。

- 2月 12日、「木工台遺跡出土土器の編年的位置づけ」について、ひたちなか市文化・スポーツ振興公社 佐々木義則氏を講師に招き班内研修会を実施した。

28日までに、第37～48号、第86～97号までの住居跡、第156～168号までの土坑、第13～30号までの溝、3基の製鉄関連と思われる遺構の調査を終了した。

- 3月 11日までに、第98～107号までの住居跡の調査を終了した。12日、委託者に対しての報告会を実施した。13日、埋蔵文化財の啓蒙普及のため報道公開を行い、15日には、これまでの調査の成果をもとに現地説明会を開催した。多くの見学者が来跡した。18日、航空写真撮影を行った。

25日までに補足調査を完了し、安全対策を含め平成8年度予定の現地調査を終了した。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

木工台遺跡は、茨城県行方郡北浦町大字内宿字井戸作台1,508番地ほかに所在している。

北浦町は、茨城県の南東部に位置し、北は鹿島郡鉾田町に、東は北浦をはさんで同郡大洋村に、南は行方郡麻生町に、西は同郡玉造町に隣接している。当町は、昭和30年に津澄村、要村及び武田村の3村が合併して北浦村となり、平成9年10月1日に現在の北浦町となった。行方郡の北部に位置する当町の総面積は約58.5km²、東西約9km、南北約7.5kmのやや東西に長い町域である。

北浦町の地形を概観すると、北浦湖岸近くまで延びている台地と湖岸沿いの低湿地、及び小河川によって形成される低地にほぼ分けられる。台地は玉造町方面から潮来町方面に延びる標高35~39mの行方台地で、緩やかな丘陵を形成しており、畑や山林等に利用されている。また、湖岸に面した台地の東側には支谷が樹枝状に入り組んでいる。台地の内陸部は、比較的広い台地を形成しているが、先端部分は細長く突出した舌状台地となっている。台地を開折しながら東流し、北浦に注ぐ武田川、山田川、蔵川の兩岸に開ける低地や、湖西部の沿岸に帯状に巡る湖岸低地は、当町の水田地帯を形成している。

地質は、砂鉄質の中粒砂よりなる石碕層（見和層堆積以前の沖積層を総称）、灰褐色のシルトからなる、見和下層（見和層は関東平野に広く分布する狭義の成田層に対比される）、黄褐色の中粒砂からなる見和上層、灰色中粒～粗粒の砂からなる竜ヶ崎砂礫層、灰白色粘土層の茨城粘土層（県南では常総粘土層、千葉県は松戸粘土層、東京の板橋粘土層に対比される）、関東ローム層（南関東の武蔵野ローム層、立川ローム層に対比され、一般に新期ローム層と言われている。また、宇都宮付近のローム層と比較すると田原ローム層、宝木ローム層に対比される）の順で堆積している。

木工台遺跡は、北浦町の北東部、北浦に注ぐ武田川の左岸標高約31~35mの台地上に位置している。当遺跡の南側の沖積低地は、水田として利用されている。水田と台地との比高は、約15mである。調査前の現況は山林と畑地である。

参考文献

- ・大森昌衛・蜂須紀夫「茨城の地質をめぐって」1987年8月
- ・茨城県農地部農地計画課「土地分類基本調査 玉造」1984年11月
- ・茨城県農地部農地計画課「土地分類基本調査 磯浜・鉾田」1991年3月

第2節 歴史的環境

北浦町には、縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く存在している。当町は、北浦をはじめとした水利に恵まれており、龍ヶ浦と北浦に面した行方台地は、古代から人々の生活に絶好の舞台となってきた。ここでは、北浦町の主な遺跡について時代を追って述べることにする。

旧石器時代の遺跡として、古館遺跡⁽⁴²⁾があり、珪質頁岩製の石器が出土している。

縄文時代になると県内各地に貝塚が形成されるようになり、当町内でも15か所の貝塚が確認されている。貝塚をはじめ縄文時代の遺跡は、北浦に面する湖岸の台地上や武田川、山田川の兩岸の台地上に多く見られる。

調査が実施された遺跡として、次のような遺跡がある。森戸貝塚^{もりと}とも呼ばれる鬼越貝塚^{おにごえ}は(65)は、清水潤三氏により、昭和29年7月に調査され、後期の遺跡であることが判明した。鶴ヶ居貝塚^{つるがいの}(35)は北北浦村教育委員会によって、昭和47年7月に調査され、中期から後期の遺跡であることが判明した。今山遺跡^{いまやま}(38)、六台遺跡^{むくた}(41)、平遺跡^{たいら}(43)は、山田地区遺跡発掘調査会により、昭和63年から平成元年にかけて調査され、中期の集落跡であることが判明した。今山遺跡からは中期のファイヤーピットも確認されている。六台遺跡からは、中期のフラスコ状土坑が7基確認されている。また、茨城県立歴史館^{いばらき}の学術調査によると、今山貝塚^{いまやま}(38)は中期の貝塚、成田早川貝塚^{なりたはなかわ}(10)は中期から後期の貝塚であることがわかった。この他には、出土遺物等により時期の判明している遺跡として、中期から後期にかけての遺跡として長野江貝塚^{ながのえ}(5)、両宿貝塚^{りょうしゆく}(19)後期の遺跡として、並松遺跡^{なみまつ}(54)、後期から晩期にかけての遺跡として戸呂井戸遺跡^{とろいど}(48)、晩期の遺跡として、穴瀬貝塚^{あなせ}(6)、大塚遺跡^{おおつか}(36)等がある。平成8年に茨城県教育財団が調査した三和貝塚^{みわ}(3)は、中期の貝塚と考えられていたが、前期の貝塚であることが判明した。

弥生時代の遺跡としては、包蔵地が確認されており、武田川流域と山田川流域に分布している。武田川流域には両宿神明遺跡^{りょうしゆくしんめい}(59)、下山遺跡^{しもやま}(18)、内宿遺跡^{うちしゆく}(16)等が所在し、山田川流域には、御門山遺跡^{ごもんやま}(30)、南高岡平遺跡^{みなみたかおかひら}(66)、関戸遺跡^{せきと}(31)、古屋平遺跡^{ふるやひら}(29)、中山遺跡^{ななかやま}(49)等が所在している。

古墳時代の遺跡は、茨城県教育財団が平成8年に調査した集落跡の炭焼遺跡^{すみやま}(1)、古墳群の礼場古墳群^{れいば}(2)、成田古墳群^{なりた}(4)の他に、古墳群としては、大塚古墳群^{おおつか}(20)、新堀古墳群^{にいほり}(23)、ドンビン塚古墳群^{どんびんづか}(25)、堂目木古墳群^{どうめき}(26)、及び木工台古墳群^{ぼくどけい}(11)等がある。成田古墳群からは、壺鏡、杏葉、響等多数の馬具が出土している。集落跡としては、昭和63年から平成元年に六台遺跡、古屋敷遺跡^{ふるやしき}(40)、平遺跡、今山遺跡、古館遺跡、平成2年に風早遺跡^{かぜはや}(44)等が調査され、古墳時代前期から後期にかけての遺構が確認されている。古屋敷遺跡からは円窓土器が出土している。

奈良・平安時代の遺跡としては、今回報告する木工台遺跡の他に、六台遺跡、古屋敷遺跡、平遺跡、今山遺跡、古館遺跡、平成3年に調査された葛蒲沢遺跡^{くまがわ}(55)がある。六台遺跡からは青銅製の丸軻が出土している。

鎌倉・室町時代になると城館跡が主になり、武田川流域には、武田氏が築いた神明城跡^{しんめいじょう}(14)、木崎城跡^{まきじょう}(17)、小貫館跡^{こわんかんと}(63)、西館跡^{さいかんと}(15)及び内宿館跡^{うちしゆくかんと}(13)等が所在している。山田川流域左岸台地上には、山田氏が築いた山田城跡^{やまだじょう}(46)、前館跡^{まへかんと}(53)、古館遺跡、古屋敷跡及び平遺跡等が所在している。同流域右岸台地上には、小幡氏が築いた小幡城跡^{こはたじょう}(64)、古屋台館跡^{ふるやだいかんと}(32)、前原館跡^{まへはらかんと}(33)等が所在している。このうち、昭和62年に神明城跡、昭和63年から平成元年にかけて古館遺跡、古屋敷遺跡及び平遺跡、平成6年に木崎城跡が調査されている。

※文中の〈 〉内の番号は、表1、第2図中の該当番号と同じである。

〔註〕参考文献

- (1) 山田地区遺跡発掘調査会「古館遺跡調査報告書」1990年3月
- (2) 北浦村教育委員会「北浦村文化財地図」1986年8月
- (3) 茨城県「茨城県史料 考古史料編 先土器・縄文時代」1979年3月
- (4) 北浦村教育委員会「北浦村鶴ヶ居貝塚」1972年7月
- (5) 山田地区遺跡発掘調査会「今山遺跡調査報告書」1990年3月
- (6) 山田地区遺跡発掘調査会「六台遺跡調査報告書」1990年3月
- (7) 山田地区遺跡発掘調査会「平遺跡調査報告書」1990年3月
- (8) 茨城県歴史館「県内貝塚における動物遺体の研究3」1981年3月

- (9) 山田地区遺跡発掘調査会「古屋敷遺跡調査報告書」1990年3月
 00 山田地区遺跡発掘調査会「古館遺跡調査報告書」1990年3月
 01 山田地区遺跡発掘調査会「風早遺跡調査報告書」1990年3月
 02 葛蒲沢遺跡調査会「葛蒲沢遺跡調査報告書」1991年11月
 03 茨城県教育財団「主要地方道土浦・大洋線道路改良工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書 神明城跡」「茨城県教育財団文化財調査報告」第48集 1988年9月
 04 茨城県教育財団「国道354号国補道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 木崎城跡」「茨城県教育財団文化財調査報告」第109集 1996年3月

表1 周辺遺跡一覧表

番 号	遺 跡 名	県 遺 跡 番 号	時 代					番 号	遺 跡 名	県 遺 跡 番 号	時 代				
			旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈良・平安 中近世以降				旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈良・平安 中近世以降
1	木工台遺跡	1464				○	○	34	御門山古墳群	1486		○	○		
2	札幌古墳群	1478				○		35	鶴ヶ居貝塚	1435		○			
3	三和貝塚	1490		○				36	大塚遺跡	1419		○			
4	成田古墳群	1479				○		37	千両山古墳群	1418				○	
5	長野江貝塚	1492		○				38	今山貝塚(今山遺跡)	1437		○	○	○	
6	穴瀬貝塚	1461		○				39	中山古墳群	1424			○	○	
7	金上遺跡	1459		○				40	古屋敷(遺)跡	1428				○	○
8	遣祖神遺跡	1462		○				41	六台貝塚(六台遺跡)	1436		○	○	○	○
9	塚原古墳群	1412				○		42	古館(遺)跡	1426	○		○	○	○
10	成田早川貝塚	1463		○				43	平遺跡	1439		○	○	○	○
11	木工台古墳群	1481				○		44	風早遺跡					○	
12	炭焼遺跡					○	○	45	妙義台貝塚	1442		○			
13	内宿館跡	1487					○	46	山田城跡	1425					○
14	神明城跡	1429					○	47	新橋古墳群	1415				○	
15	西館跡	1433					○	48	戸呂井戸遺跡	1440		○			
16	内宿遺跡	1489					○	49	中山遺跡	1441			○	○	
17	木崎城跡	1430					○	50	京田古墳群	5168				○	
18	下山遺跡	1466		○	○	○		51	蛭入古墳群	5167				○	
19	両宿貝塚	1465		○				52	前館遺跡	1467				○	
20	大塚古墳群	1470				○		53	前館跡	1427					○
21	松並古墳群	1417				○		54	並松遺跡	1434		○			
22	権現山古墳群	1414				○		55	葛蒲沢遺跡			○		○	○
23	新堀古墳群	1471				○		56	清水台古墳群	1420				○	
24	殿山古墳群	1469				○		57	台山古墳群	1422				○	
25	ドンビン塚古墳群	1482				○		58	北原古墳群	1416				○	
26	堂目木古墳群	1483				○		59	両宿神明遺跡	5174		○	○	○	
27	大峰古墳群	1484				○		60	塚原古墳群	1480				○	
28	地藏後古墳群	1485				○		61	うなぎ塚古墳群	5166		○	○	○	
29	古屋平遺跡	1453		○	○	○		62	諏訪後古墳群	1421				○	
30	御門山遺跡	1454			○			63	小貫館跡	5173					○
31	関戸遺跡	1472		○	○	○		64	小幡城跡	1431					○
32	古屋台館跡	1432					○	65	鬼越貝塚	1444		○			
33	前原館跡	1488					○	66	南高岡平遺跡	5164		○	○	○	



第2図 木工台遺跡周辺遺跡分布図

第3章 木工台遺跡

第1節 遺跡の概要

木工台遺跡は、北浦町の北東部、行方台地東部の標高31~35mの台地縁部から南に伸びる舌状台地上に位置する。その東側には北浦が湖水を湛えている。調査区は平成8年度と平成9年度に分けられる。平成8年度は、東西約240m、南北約160m、面積約20,494㎡を調査した。現況は畑地である。遺跡の西側に支谷を挟んで内宿館跡、南側に武田川を挟んで内宿遺跡、木崎城跡がある。

今回の調査によって、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての堅穴住居跡106軒、土坑158基、製鉄関連遺構2基、溝30条、掘立柱建物跡1棟を検出した。以上のことから、当遺跡は古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての集落跡であることが判明した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に146箱出土した。遺物の大部分は古墳時代後期から奈良・平安時代の土師器や須恵器で、住居跡の覆土及び床面から出土している。また、鉄製品のほか、羽口、鉄滓等が出土する遺構も検出している。

第2節 基本層序

調査区北西部（B5f4区）にテストピットを掘り、基本層序の観察を行った（第3図）。ソフトロームはなく、表土直下からロームはすべてハードロームである。

第1層は、耕作土。厚さ約50cmで極暗褐色をしている。

第2層は、12~14cmの暗褐色をしている。色調、上下の層序からみて武蔵野台地等という第1黒色帯に相当するものと考えられる。

第3層は、16~32cmの褐色のローム層で、始良Tn火山灰(A T)層を含む。

第4層は、20~34cmの締まりある褐色のローム層で、上下の層序からみて武蔵野台地等という第2黒色帯に相当するものと考えられる。

第5層は、38~56cmのローム層で、褐色をしている。第4層より粘性が強く締まりもある。

第6層は、14~20cmのローム層で、5層と同じく粘性・締まりとも強いが、5層より層が密である。

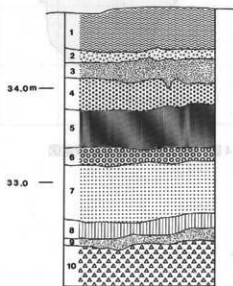
第7層は、56~62cmのローム層で、暗褐色をしている。粘性・締まりとも強い。

第8層は、10~18cmのローム層で、第7層と同じく、粘性・締まりとも強いが、第7層より層が粗い。

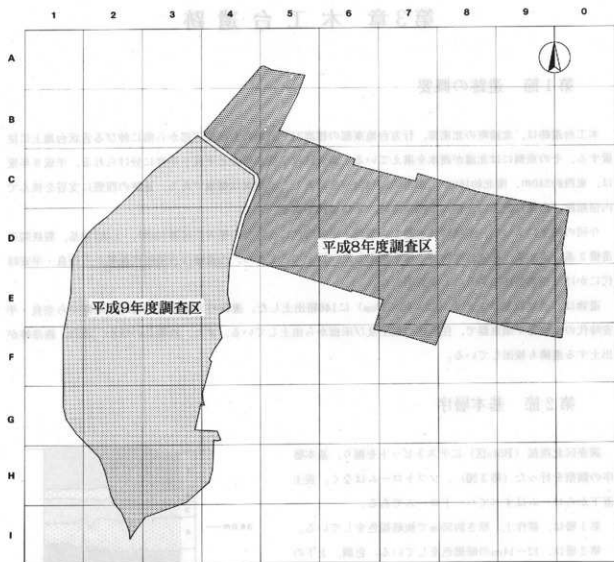
第9層は、10~14cmのローム層で、締まりもあるが、特に粘性が強い。

第10層は、40~50cmの灰褐色の粘土層で、黒色の火山灰粒子を含み、粘性もあるが、特に締まりが強い。

遺構は第2層上面で確認し、第3・4層を掘り込んで構築されている。



第3図 基本土層図



第4図 木工台遺跡調査区設定図



遺跡土表 地面

0 40m

第3節 遺構と遺物

1 竪穴住居跡

当遺跡の遺構は、古墳時代後期から奈良・平安時代に至るもので、調査区の全域から106軒検出した。以下、検出された住居跡の特徴や出土遺物について記載する。

第1号住居跡（第5図）

位置 調査区の西北部，B4g3区。

重複関係 第1号溝，第2号溝，第3号溝が本跡を掘り込んでおり，本跡は各遺構より古い。

規模と平面形 長軸4.48m，短軸4.29mの方形である。

主軸方向 N-4°-E

壁 壁高は20-50cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅20cm，下幅8cm，深さ10cmで，断面形は逆台形である。

床 平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット 6か所（P₁-P₆）。P₁-P₄は径23-30cmの不整形円形，深さ26-50cmで，配置や規模から主柱穴と思われる。P₅は径20cmの不整形円形，深さ39cmの補助柱穴，P₆は径42cmの不整形円形，深さ13cmの出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部を壁外に35cmほど掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は，崩落しており，両側の袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部まで長さ120cm，最大幅130cmである。火床部は，床面を10cmほど皿状に掘り窪めており，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は，緩やかな傾斜で立ち上がる。

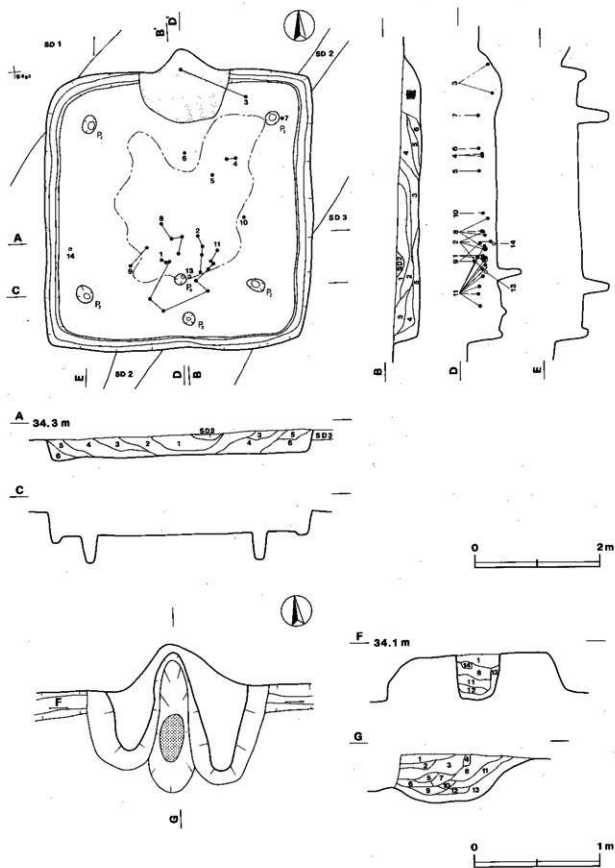
竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 焼土大・中・小ブロック少量，焼土・ローム粒子・砂粒少量
- 5 暗赤褐色 砂粒多量，焼土小ブロック・焼土・ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 6 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子・砂粒少量，ローム中・小ブロック微量
- 7 暗赤褐色 砂粒多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック・焼土・炭化・ローム粒子少量
- 8 暗赤褐色 砂粒多量，焼土中ブロック中量，焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子少量
- 9 暗赤褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土大・中・焼土粒子少量，炭化粒子少量
- 10 暗赤褐色 砂粒多量，焼土・炭化・ローム粒子少量，焼土中ブロック微量
- 11 暗赤褐色 砂粒多量，焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
- 12 暗褐色 砂粒多量，焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 13 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック・砂粒少量，焼土小ブロック微量
- 14 暗褐色 焼土小ブロック・砂粒少量，焼土・ローム粒子微量

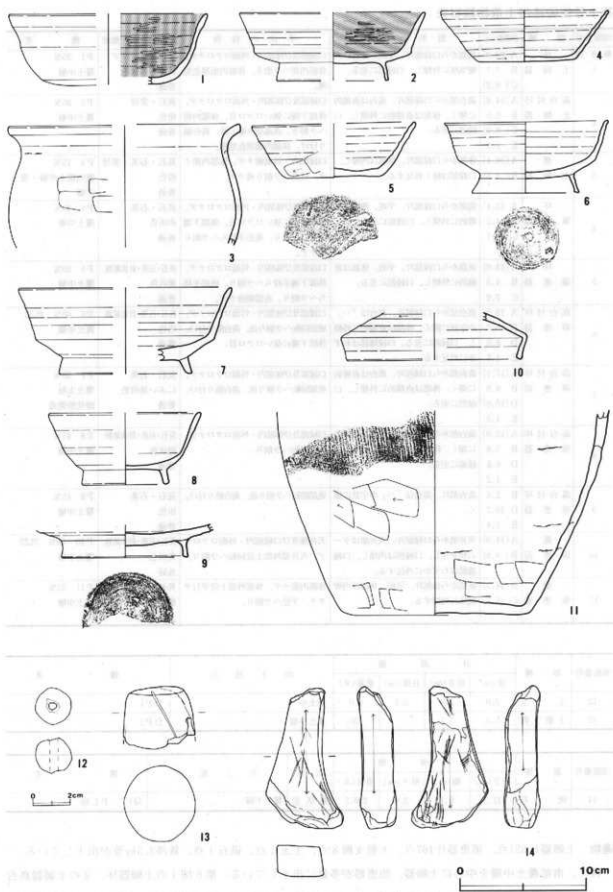
覆土 6層からなる。不自然な堆積の状況がみられ，また，各層ともロームブロックを含んでいることから人為的堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量，焼土・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子・ローム中・小ブロック微量



第5图 第1号住居跡実測图



第6图 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表

図取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色・質・焼成	備考
第6図 1	土師器 環	A(26.0)	底部から口縁部片。平底。体部は内帯灰味に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面へう磨き。体部内面黒色処理。	雲母・スコリアに多い黄褐色	P1 35% 覆土中層
		B 5.7 C(8.2)				
2	高台付土師器 環	A(14.8)	高台部から口縁部片。高台は直線的に傾く。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端に強いロクロ目。体部内面へう磨き。底部切り離し後、高台貼り付け。体部内面黒色処理。	長石・雲母	P2 35% 覆土中層
		B 5.5				
		C(8.9)				
		E 1.5				
3	甕 土師器	A(18.4)	体部から口縁部片。体部は内帯し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へう磨り後ナデ。	長石・石英・雲母 褐色	P3 15% 甕内覆土中層・覆土下層
		B(9.8)				
4	須恵器 環	A 13.4	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端回転へう磨り。底部手持ちへう磨り後ナデ。	長石・石英 赤灰色	P4 40% 覆土中層
		B 4.2				
		C 7.7				
5	須恵器 環	A(13.0)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下層手持ちへう磨り。底部手持ちへう磨り。底部周縁ナデ。	長石・石英・針状炭物 黄灰色	P5 30% 覆土中層
		B 4.3				
		C 7.9				
6	高台付須恵器 環	A 13.0	高台部から口縁部片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転へう磨り後、高台貼り付け。体部下端に強いロクロ目。	長石・石英・針状炭物 灰色	P6 60% PL23 覆土中層
		B 5.7				
		D 8.5				
		E 1.5				
7	高台付須恵器 環	A(17.1)	高内面から口縁部片。高台は直線的に開く。外部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転へう磨り後、高台貼り付け。	長石・石英 に多い黄褐色	P7 30% 覆土上層 酸化還元焼成
		B 6.9				
		D(10.6)				
		E 1.3				
8	高台付須恵器 環	A(12.0)	高台部から口縁部片。高台は直線的に開く。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転へう磨り。	長石・石英・針状炭物 褐色	P8 45% 覆土中層
		B 5.8				
		D 6.8				
		E 1.2				
9	高台付須恵器 環	B 2.6	高台部片。高台は「ハ」の字状に開く。	底部回転へう磨り後、高台貼り付け。	長石・石英 灰色	P9 15% 覆土中層
		D 10.2				
		E 1.4				
10	須恵器 甕	A(14.0)	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し、口縁部は内傾し、口縁端部はわずかに外反する。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転へう磨り。	長石・石英・針状炭物 黄灰色 良好	P10 15% PL23 覆土中層
		B(3.8)				
11	甕 須恵器	B(16.3)	底部から外部片。平底。体部は内帯欠陥に外傾する。	体部内面ナデ。体部外面上位平行ナデ。下笠へう磨り。	長石・石英・雲母 褐色	P11 35% 覆土中層
		C 15.2				

図取番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
12	土玉	2.0	1.8	0.4	6.0	覆土中	DP1
13	土製支脚	6.1	5.1	—	150	覆土中層	DP2

図取番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
14	砥石	11.3	6.1	2.6	226.5	凝灰岩	覆土下層	Q1 P.L39

遺物 土師器片621点、須恵器片167点、土製支脚8点、土玉1点、砥石1点、鉄滓3.5kg等が出土している。特に、南部覆土中層を中心に土師器、須恵器が多量に出土している。第6図1の土師器環、2の土師器高台付環、8の須恵器高台付環、11の須恵器甕は南部の覆土中層からそれぞれ出土している。3の土師器甕は甕内の覆土中層と北東部の覆土下層から出土したものが接合した。4と5の須恵器環、6の須恵器高台付環は

北部の覆土中層から出土している。7の須恵器高台付坏はP₁付近の覆土上層から、9の須恵器高台付坏は南部の覆土中層から、10の須恵器蓋は東部の覆土中層からそれぞれ出土している。12の土玉は覆土中から出土している。13の土製支脚はP₁付近の覆土中層から、14の砥石は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と思われる。

第2号住居跡（第7図）

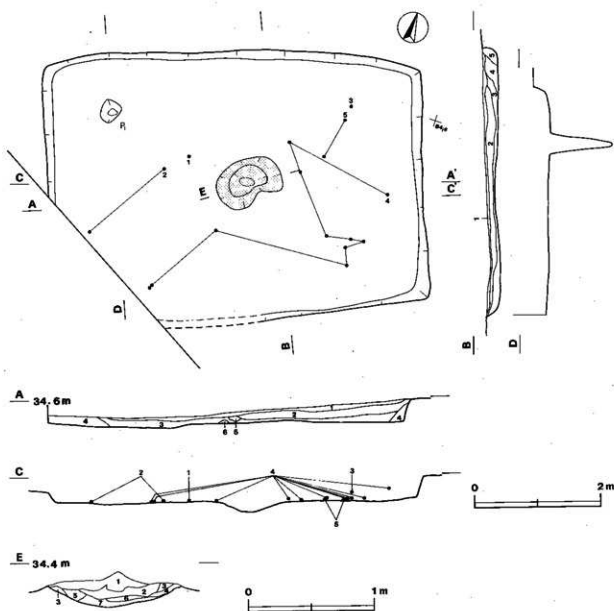
位置 調査区の北西部、B4j s区。

規模と平面形 長軸5.98m、短軸4.33mの長方形である。

主軸方向 N-70°-E

壁 壁高は17~34cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、全体的に軟らかい。



第7図 第2号住居跡実測図

ピット 1か所 (P₁)。P₁は径37cmの不整形形、深さ100cmで、柱穴と思われる。土師器の壺の中土層の遺物
 炉 中央部からやや東よりに位置し、長径105cm、短径74cmの不整形楕円形で、床面を15cmほど掘り窪めた地床炉
 である。炉床は赤変している。

伊土層解説

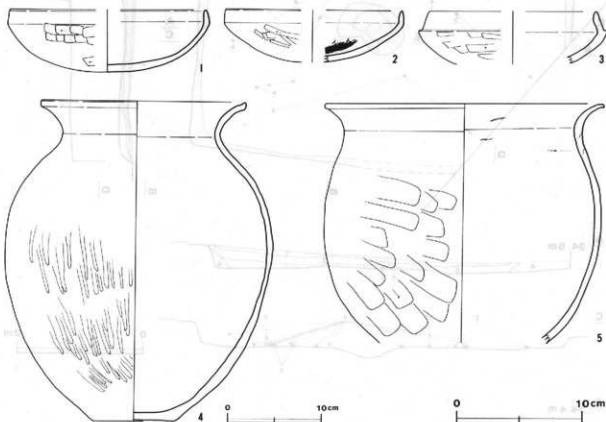
- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子多量
- 3 にがい赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 4 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 5 暗赤褐色 ローム・焼土粒子少量
- 6 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 7 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量

覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム中・小ブロック少量
- 5 暗赤褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片369点、須恵器片26点等が出土している。第8図1の土師器坏は中央部の床面直上から、2の
 土師器坏は西部の覆土下層から、3の土師器坏は北東部の覆土中層からそれぞれ出土している。4の土師器
 甕は東部及び南部の覆土下層から出土したものが接合した。5の土師器甕は北東部の床面直上から出土している。
 所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期(7世紀前半)と思われる。竈がなく遺構中
 央部に炉跡が検出されたことから、工房跡等、住居以外の目的に使われた可能性が高いと推察される。



第8図 第2号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	目録番号	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
第8図 1	坏 土 師 器	A〔15.8〕	底部から口縁部片。丸底。体部は内 壁しながら外傾し、口縁部はわずかに 内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ デ、外面へラ削り後ナデ。	長石・雲母 褐色 普通	P12 40% 床面	
		B 5.0					
2	坏 土 師 器	A〔14.2〕	底部から口縁部片。丸底。体部は内 壁しながら外傾し、口縁部はわずかに 内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ デ、外面へラ削り後ナデ。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P13 20% 覆土下層 底部内面にケール付着	
		B〔4.1〕					
3	坏 土 師 器	A〔13.3〕	体部から口縁部片。丸底。体部は内 壁しながら外傾し、口縁部との境に明確な稜を持 つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ デ、外面へラ削り後ナデ。	長石・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P14 10% P L23 覆土中層	
		B〔4.2〕					
4	夾 土 師 器	A 21.7	体部一部欠損。平底。体部は内傾し ながら外傾し、口縁部は緩く外反す る。口縁部はわずかにつまみ上げ られている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ デ。外面上位ナデ、下位腹方向のへ ラ磨き。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P15 60% P L23 床面 二次火熱痕	
		B 34.3					
		C 8.6					
5	夾 土 師 器	A 22.0	底部・体部一部欠損。体部は内傾し、 口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ デ、外面へラ削り後ナデ。	長石・雲母・スコリア・ガラス 褐色 普通	P16 85% P L23 床面	
		B〔18.7〕					

第3号住居跡 (第9・10図)

位置 調査区の北西部, B5j区。

重複関係 本跡の床上に、第8号住居跡が構築されており、第8号住居跡よりも古い。

規模と平面形 長軸6.53m, 短軸6.10mの方形である。

主軸方向 N-2°-E

壁 壁高は55~58cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅20cm, 下幅10cm, 深さ8cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は径20~40cmの不整形円形、深さ53~61cmで、配厚や規模から主柱穴と思
われる。P5は長径37cm, 短径28cmの不整形円形、深さ24cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部を壁外に70cmほど掘り込み、砂混じり粘土で構築されている。天井部は、崩落しており、両側
の袖部が残存している。規模は、笑口部から煙道部まで長さ150cm, 最大幅160cmである。火床部は、浅く皿
状に掘り窪められている。煙道部は、中位に段を持ち、さらに外傾して立ち上がる。

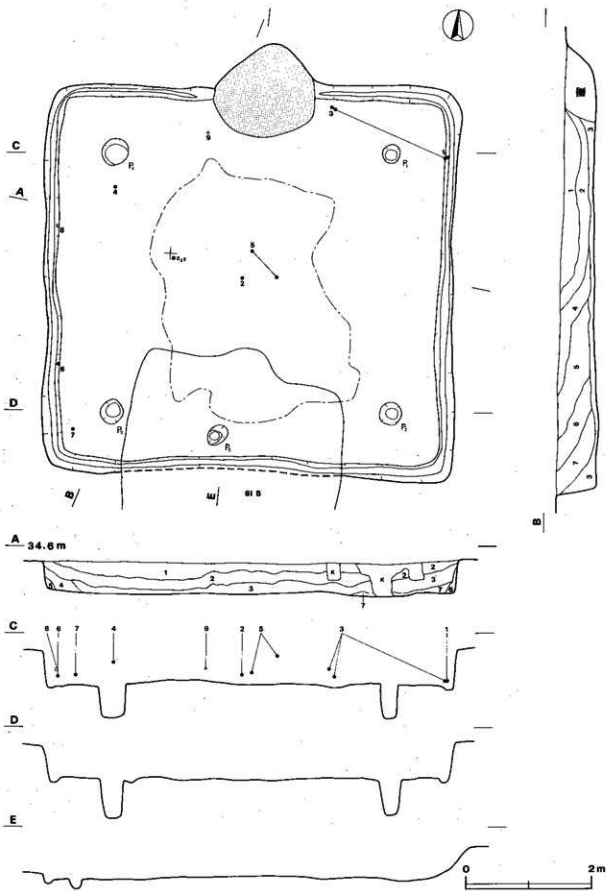
覆土層解説

- 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量
- 暗褐色 砂粒多量, 炭化物少量, 焼土中ブロック・焼土・ローム粒子微量
- 暗褐色 焼土・ローム粒子・砂粒少量, 炭化物少量
- 暗褐色 砂粒少量, 焼土中ブロック・焼土・ローム粒子微量
- 黒褐色 焼土・ローム粒子・砂粒少量
- 暗赤褐色 砂粒多量, 焼土中ブロック・焼土・ローム粒子少量
- 暗赤褐色 焼土中ブロック・ローム粒子少量, 焼土大ブロック微量
- 暗赤褐色 焼土・ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム微量
- 暗赤褐色 焼土粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 暗赤褐色 焼土中ブロック・炭化物中量, 焼土小ブロック・焼土粒少量
- 暗赤褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土中ブロック・焼土粒少量
- 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒微量
- 暗赤褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土・炭化物粒子微量

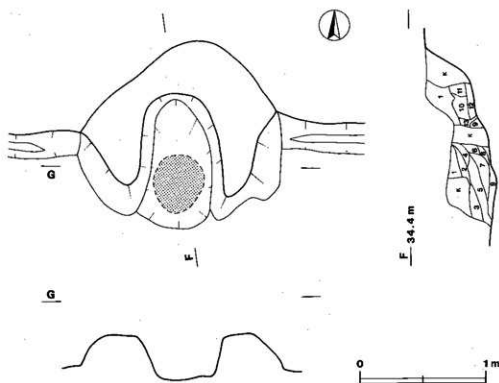
覆土 7層からなる自然堆積である。

土層解説

- 暗褐色 ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量, 焼土・炭化物粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子中量, 粘土ブロック少量, 焼土・炭化物粒子微量
- 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒・炭化物・ローム粒子少量
- 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, 粘土ブロック少量
- 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土・炭化物粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化物少量
- 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化物少量



第9图 第3号住居跡实测图(1)



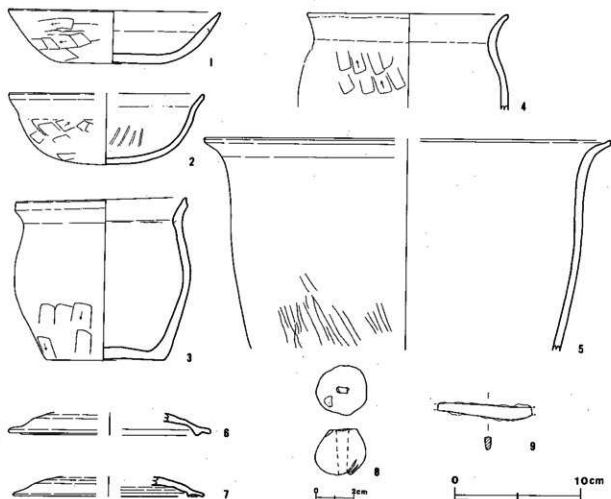
第10図 第3号住居跡実測図(2)

遺物 住居跡全体から、土師器を中心に多量に出土しているがほとんどが破片である。土師器片1,033点、須恵器片74点、土玉1点、刀子1点等が出土している。第11図1の土師器坏は北東部壁際の覆土下層から、2の土師器坏は中央部の覆土下層から、3の土師器甕は北東部の覆土下層から、4の土師器甕は北西部の覆土中層から、5の土師器甕は中央部の覆土上層と中層から出土したものが接合した。6の須恵器蓋は南西部壁際の覆土中層から、7の須恵器蓋は南西部の覆土中層からそれぞれ出土している。また、8の土玉は西壁際の覆土中層から、9の刀子は甕付近の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	首径値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第11図 1	土師器 坏	A 16.8	口縁部一部欠損。底部は丸みをおびた平底。体部は内彎気味に外傾し、	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り後ナデ。底部へラ削り後、ナデ。	長石・雲母・スコリア 橙色 良好	P17 90% 覆土下層 PL23
		B 4.2				
		C 8.5	口縁部に至る。			
2	土師器 坏	A (15.3)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎気味に外傾し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り後ナデ。底部へラ削り後、ナデ。底部・体部内面に磨文。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P18 50% 覆土下層
		B 5.8				
3	土師器 甕	A 13.2	体部一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は軽く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラナデ。体部外面上位ナデ。下位へラ削り後ナデ。底部へラ削り後ナデ。	長石・雲母・スコリア・バミ にぶい赤褐色 普通	P19 70% 覆土下層
		B 13.0				
		C 9.4				
4	土師器 甕	A 15.9	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は軽く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り後ナデ。	長石・スコリア・バミ 明赤褐色 普通	P20 30% 覆土中層
		B (7.7)				
5	土師器 甕	A (32.4)	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎し、口縁部は軽く外反する。口縁部は、一部わずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面上位ナデ。中位へラ磨き。	長石・雲母・スコリア・バミ にぶい黄褐色 普通	P21 10% 覆土中層
		B (16.8)				



第11図 第3号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第11図 6	蓋 須恵器	A(16.0)	天井部及び口縁部片。天井部はドーム状を呈し、外面にわずかな段を持つ。口縁部は水平方向に伸びる。口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	粘土・石英・炭母 外面 灰白色 内面 黒色 普通	P22 10% 覆土中層
		B(1.8)				
7	蓋 須恵器	A(15.2) B(1.6)	天井部及び口縁部片。天井部はドーム状を呈し、口縁部に至る。口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	粘土・石英・炭母 灰白色 普通	P23 5% 覆土中層

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
8	土玉	2.7	2.5	0.6	165	覆土中層	DP3 PL36

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
9	刀子	(7.5)	1.0	0.5	(10.4)	覆土中層	M1 PL39

第4号住居跡 (第12図)

位置 調査区の西部, D5e2区。

重複関係 本跡は, 第5号住居跡に掘り込まれていることから, 第5号住居跡よりも古い。

規模と平面形 長軸3.24m, 短軸2.99mの方形である。

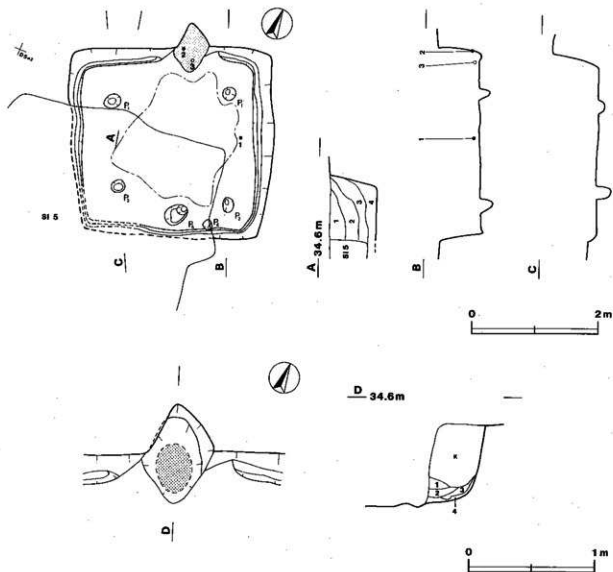
主軸方向 N-21°-W

壁 壁高は65-67cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周するものと思われる。上幅11cm, 下幅6cm, 深さ4cmで, 断面形は逆台形である。

床 平坦で, 中央部は踏み固められている。

ピット 6か所 (P₁~P₆)。P₁~P₄は径18~28cmの不整形円形, 深さ14~25cmで, 配置や規模から支柱穴と思われる。P₅は長径40cm, 短径29cmの不整形楕円形, 深さ23cmで, 出入口施設に伴うピットと思われる。P₆は長径17cm, 短径14cmの不整形楕円形, 深さ43cmで性格は不明である。



第12図 第4号住居跡実測図

竈 北西壁中央部からやや北よりを壁外に40cmほど掘り込み、砂混じりの粘土で構築されているが、遺存状態が悪く、煙道部だけが残っている。火床部は、床面と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は、火床面からは垂直に立ち上がっている。

覆土層解説

- 1 におい赤褐色 粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 4 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量

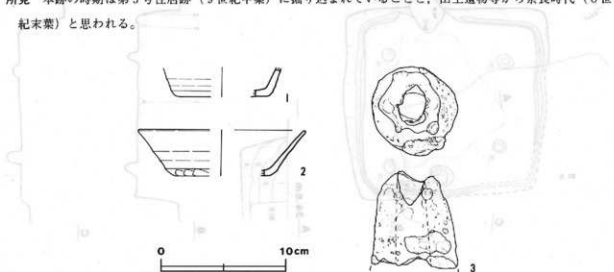
覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック多量、ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 焼土・炭化材・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

遺物 土師器片50点、須恵器片16点、土製羽口1点、鉄滓等が出土している。第5号住居跡に掘り込まれているためか、他の遺構に比べて遺物は少ない。第13図1の須恵器杯は北東壁際の覆土下層から、2の須恵器杯は竈の覆土下層からそれぞれ出土している。3の羽口は竈の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は第5号住居跡（9世紀中葉）に掘り込まれていることと、出土遺物等から奈良時代（8世紀末葉）と思われる。



第13図 第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(m)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・地成	備考
第13図 1	杯 須恵器	A〔2.4〕 B〔7.0〕	底部から体部片。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 灰褐色	P25 5% 覆土下層
2	杯 須恵器	A〔13.4〕 B 3.7 C〔7.8〕	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。	普通 長石・石英・雲母 にぶい黄色	P24 10% 竈覆土下層

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
3	羽口	(7.8)	(7.8)	2.9	(200)	竈覆土下層	DP4 PL37

第5号住居跡 (第14図)

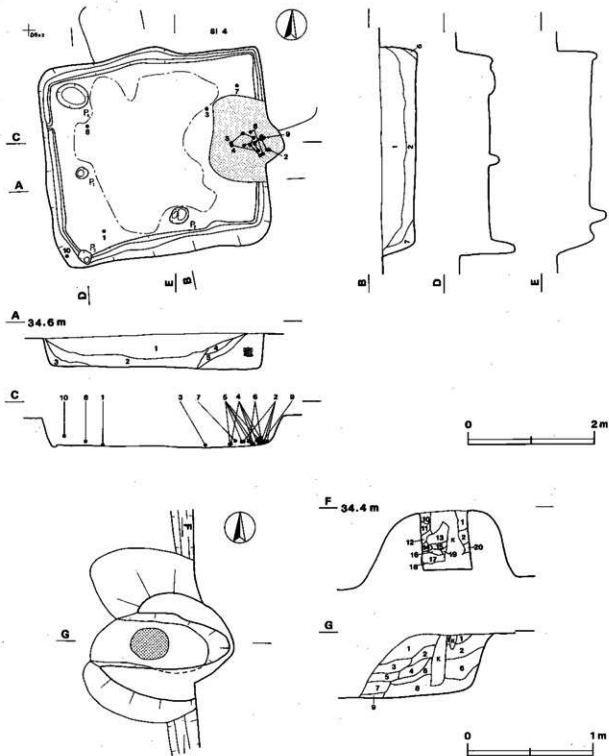
位置 調査区の西部, D5e₂区。

重複関係 本跡は, 第4号住居跡を掘り込んでいることから, 第4号住居跡よりも新しい。

規模と平面形 長軸3.50m, 短軸3.18mの方形である。

主軸方向 N-82°-E

壁 壁高は47~49cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。



第14図 第5号住居跡実測図

壁溝 西壁下の一部を除いて全周する。上幅12cm、下幅9cm、深さ3cmで、断面形は逆台形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 4か所 (P1-P4)。P1は径20cmの不整形円形、深さ16cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

P2-P4は長さ25-42cm、短径20cm-40cmの不整形楕円形、深さ14-16cmで、性格は不明である。

竈 東壁ほぼ中央部を壁外に30cmほど掘り込み、砂混じり粘土で構築される。煙道の天井部が崩落しているのみで、竈の遺存はよい。規模は、焚口部から煙道部まで長さ115cm、最大幅140cmである。火床部はほぼ平らで、掘り窪められた形跡はない。煙道部は、壁外への突出が少なく、火床面から急に立ち上がっている。

■土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、粘土粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粘土粒子少量、炭化物微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量、粘土粒子少量、炭化物微量
- 6 褐色 粘土粒子多量、炭化物少量、焼土粒子微量
- 7 褐色 ローム小ブロック・粘土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化物微量
- 8 暗赤褐色 焼土小ブロック・粘土粒子中量、炭化物微量
- 9 黒色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 10 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、炭化物微量
- 11 暗褐色 粘土粒子中量、炭化物少量
- 12 暗褐色 粘土粒子中量、炭化物少量
- 13 暗褐色 粘土粒子中量、焼土小ブロック・炭化物微量
- 14 黒褐色 粘土粒子中量、炭化物少量、焼土粒子微量
- 15 暗褐色 粘土粒子少量、炭化物微量
- 16 黒褐色 粘土粒子中量、炭化物少量
- 17 暗赤褐色 粘土粒子中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量、炭化物微量
- 18 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量
- 19 暗褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化物微量
- 20 暗褐色 粘土粒子中量、炭化物少量、焼土粒子微量

覆土 各層ともロームをかなり多く含んでおり、また不規則な堆積状況から人為堆積と思われる。

■土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量、焼土・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 4 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック少量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土・炭化粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量

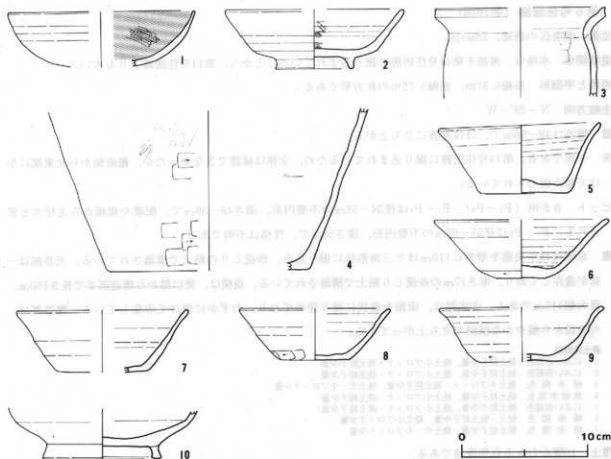
遺物 土師器片255点、須恵器片94点、鉄滓等が出土している。特に、竈内からの出土が多いのが特徴である。

第15図1の土師器環は南西コーナー部床面直上から、2の土師器高台付環、4の土師器甕、5・6・9の須恵器環は、それぞれ竈火床面直上及び覆土下層から出土している。3の土師器甕は竈前面の覆土下層から、7の須恵器環は北東部の覆土下層から、8の須恵器環は北西部の覆土下層から、10の須恵器高台付環は南西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代(9世紀中葉)と思われる。

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第15図 1	環	A(14.8)	底面から口縁部片。丸底。体部は内 壁矢状に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 体部内面へラ磨き。体部内面黒色焼 理。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色	P26 10% 床面
	土師器	B(4.4)				
2	高台付環	A(14.2)	高台部から口縁部片。高台は直線的 に開く。体部は直線的に外傾し、口 縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 底面切り離し後、高台貼り付け。体 部内面へラ磨き。	長石・石英・スクリ 酸色	P27 50% 竈火床面
	土師器	B 4.8				
		D 6.2				
		E 0.9				



第15図 第5号住居跡出土土物実測図

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第15図 3	甕 土師器	A (13.6) B (7.2)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。一部ヘラナデ。外面ナデ。	長石・石英・スクリヤ にぶい赤褐色 普通	P28 5% 覆土下層
4	甕 土師器	B (12.8) C (15.8)	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内面ナデ。体部外面上位ヘラ磨き、下位ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・スクリヤ にぶい褐色 普通	P29 10% 竈火床面
5	坏 須恵器	A 12.8 B 5.7 C 7.2	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部下縁回転ヘラ削り。底部周縁ナデ。	長石・石英・スクリヤ・パミス 灰白色 普通	P30 60% P L23 竈火床面
6	坏 須恵器	A (13.8) B 4.7 C 4.0	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。体部下縁回転ヘラ削り。底部周縁ナデ。	長石・雲母・パミス 灰白色 普通	P31 50% 竈火床面
7	坏 須恵器	A (13.5) B 5.0 C (7.4)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部手持ちヘラ削り。底部周縁ナデ。	長石・石英・パミス 灰黄色 普通	P32 30% 覆土下層
8	坏 須恵器	A (12.0) B 4.1 C 5.6	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。体部下縁手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。	長石・雲母・スクリヤ・パミス 灰白色 普通	P33 30% 覆土下層
9	坏 須恵器	A (13.0) B 4.4 C (7.0)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。体部外面に強い口ロナデ。体部下縁回転ヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P34 30% 竈火床面
10	高台付坏 須恵器	B (3.8) D 9.4 E 1.1	高台部から体部片。高台は外反しながら「ハ」の字状に開き、端部は広がる。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英・スクリヤ 灰黄色 普通	P35 30% 覆土中層

第6号住居跡（第16図）

位置 調査区の西部、D5e4区。

重複関係 本跡は、南部を第14号住居跡に掘り込まれていることから、第14号住居跡よりも古い。

規模と平面形 長軸6.37m、短軸5.72mの長方形である。

主軸方向 N-28°-W

壁 壁高は48-56cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦である。第14号住居跡に掘り込まれているため、全体は確認できなかったが、竈前面から北東部にかけて踏み固められている。

ピット 6か所（P₁～P₆）。P₁～P₄は径34-52cmの不整形円形、深さ48-56cmで、配置や規模から柱穴と思われる。P₅・P₆は径55-65cmの不整形円形、深さ56cmで、性格は不明である。

竈 北壁はほぼ中央部を壁外に110cmほど三角形に掘り込み、砂泥じりの粘土で構築されている。天井部は一部が遺存しており、厚さ17cmの砂泥じり粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部まで長さ150cm、最大幅115cmである。火床部は、床面を皿状に掘り窪めており、わずかに焼けて赤変している。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 にぶい赤褐色 粘土粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 2 にぶい赤褐色 粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土大・中ブロック少量
- 4 暗赤褐色 粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 5 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土・粘土粒子中量、焼土小ブロック少量
- 7 暗赤褐色 粘土粒子中量、焼土中・小ブロック少量

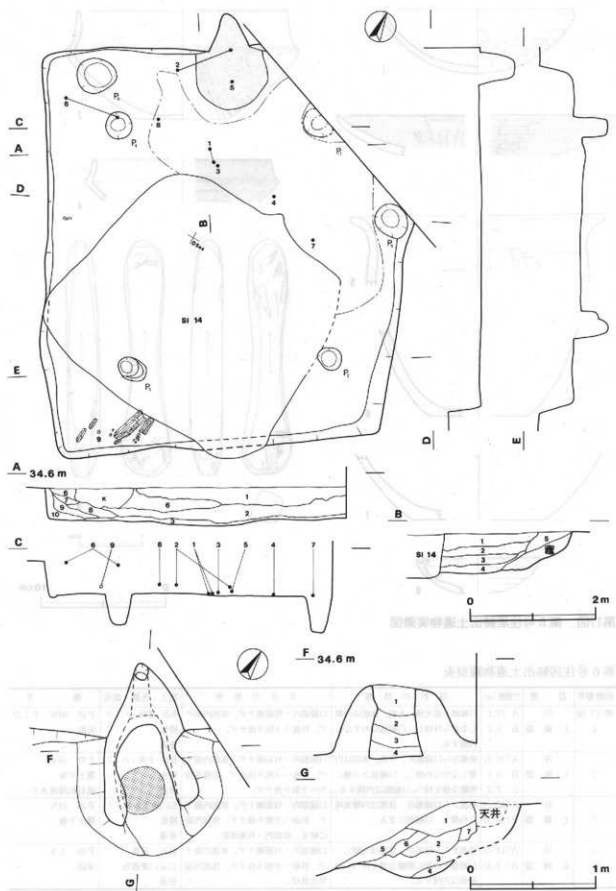
覆土 10層からなる自然堆積である。

土層解説

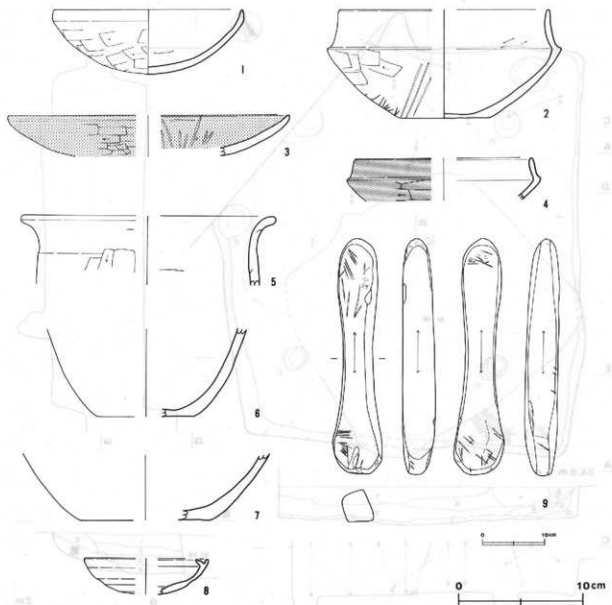
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 9 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 10 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片300点、須恵器片19点、砥石1点、炭化材等が出土している。中央部を第14号住居跡に掘り込まれているため、遺物は北部に集中して出土している。また、南東部コーナー付近から炭化材が出土している。第17図1の土師器環は、竈前面の床面直上から出土している。2の土師器環は、破片が竈内と竈西側の覆土下層から出土したものが接合したものである。3の土師器環は竈前面の覆土下層から、4の土師器環は中央部の床面直上から、5の土師器環は竈内の覆土下層からそれぞれ出土している。6の土師器環は西コーナー部の覆土上層から、7の土師器環は東部の覆土下層から、8の須恵器環は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。9の砥石は、南コーナー部覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（7世紀前半）と思われる。



第16图 第6号住居跡実測图



第17図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表

図取番号	器 種	寸法(m)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考	
第17図 1	土 師 器	A 15.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内磨しながら外傾し、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り後ナデ。	長石・曹母・パミス 褐色 普通	P36 90% P.L23 床面	
		B 5.2					
2	土 師 器	A [16.6]	底部から口縁部片。平底。体部は内磨しながら外傾し、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り後ナデ。底部手持ちへラ削り後ナデ。	長石・石英・パミス 褐色 普通	P37 35% 覆土下層	
		B 8.7					灰石転用痕あり
		C 7.2					
3	土 師 器	A [22.2]	体部から口縁部片。体部は内磨加味に外傾し、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り後ナデ。体部内面に暗文。体部内・外面赤彩。	灰石・石英・スコリ7 褐色 普通	P38 10% 覆土下層	
		B (3.3)					
4	土 師 器	A [14.0]	体部から口縁部片。体部は内磨し、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り後ナデ。体部外面黒色処理。	長石・石英 褐色 普通	P39 5% 床面	
		B (3.4)					

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・流成	備考
第17回 5	甕 土師器	A(20.4) B(5.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し、 口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ デ、外面へウ割り後ナデ。	長石・石英・雲母 にふい橙色 普通	P40 5% 覆土下層
6	甕 土師器	A(7.0) B(7.8)	底部から体部片。平底。体部は内彎 して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P42 10% 覆土上層
7	甕 土師器	B(5.2) C(10.4)	底部から体部片。平底。体部は内彎 して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	長石・石英・ハミス 明褐色 普通	P41 10% 覆土下層
8	坏 須恵器	A(9.8) B(2.9)	底部から体部片。丸底。体部は内彎 しながら外彎し、口縁部との境に突 出した縁を持つ。口縁部は短く内傾 する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石・雲母 灰色 良好	P43 20% 覆土下層

図版番号	器種	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質		
9	甕 石	37.9	8.0	5.1	2163.5	凝灰岩	覆土下層	Q2 P.L.38

第7号住居跡(第18・19図)

位置 調査区の北西部, C4da区。

重複関係 本跡は、第10号住居跡を掘り込んでいることから、第10号住居跡よりも新しい。

規模と平面形 長軸(10.18)m, 短軸(7.20)mの〔長方形〕と思われる。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は66-72cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認した壁下すべてに回る。上幅30cm, 下幅10cm, 深さ6cmで、断面形は逆台形である。

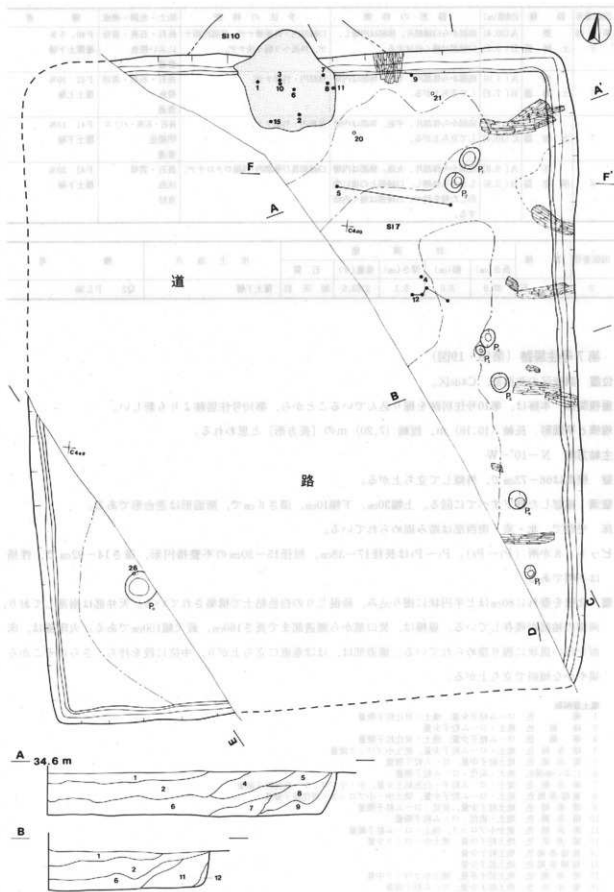
床 平坦で、北・東・南西部は踏み固められている。

ピット 8か所(P1-P8)。P1-P8は長径17-38cm, 短径15-30cmの不整形円形, 深さ14-92cmで、性格は不明である。

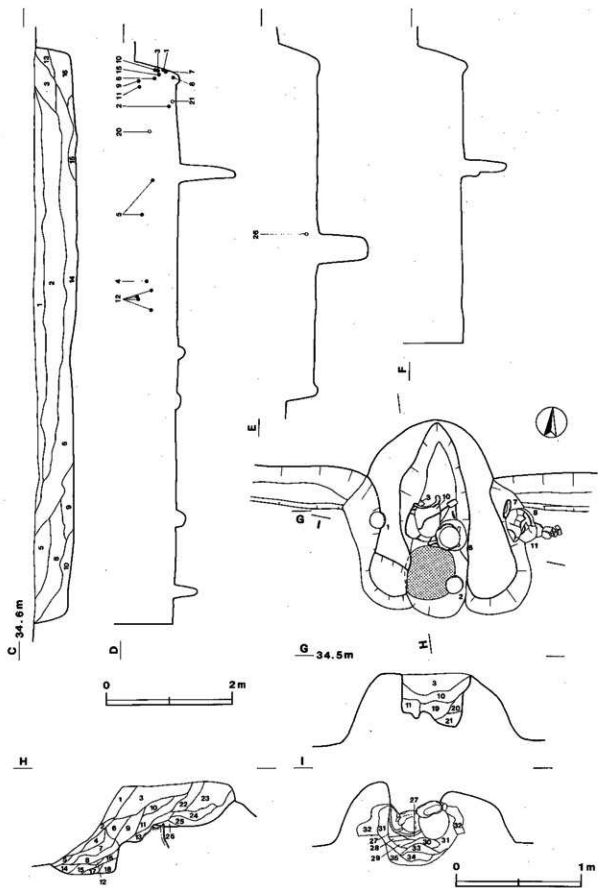
竈 北壁を壁外に80cmほど半円状に掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両側の袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部まで長さ160cm, 最大幅150cmである。火床部は、床面を浅い皿状に掘り窪められている。煙道部は、ほぼ垂直に立ち上がり、中位に段を持ち、さらにそこから緩やかな傾斜で立ち上がる。

甕土層解説

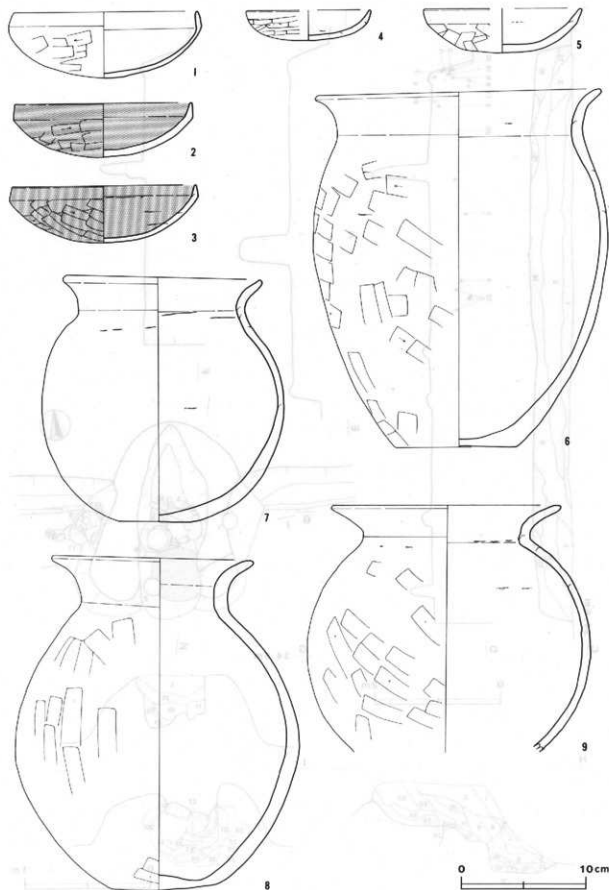
- 1 褐色 色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 色 焼土・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 色 焼土・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 5 暗赤褐色 色 焼土粒子中量, ローム粒子微量
- 6 にふい赤褐色 色 焼土・炭化・ローム粒子微量
- 7 暗赤褐色 色 焼土・ローム粒子・白色粘土少量, 中・小ブロック・炭化粒子微量
- 8 極暗赤褐色 色 焼土・ローム粒子少量, 焼土中・小ブロック・炭化粒子微量
- 9 暗赤褐色 色 焼土粒子少量, 炭化・ローム粒子微量
- 10 暗赤褐色 色 焼土・炭化・ローム粒子微量
- 11 暗赤褐色 色 焼土小ブロック, 焼土・ローム粒子微量
- 12 暗赤灰色 色 焼土粒子中量, 焼土中ブロック少量
- 13 極暗赤褐色 色 焼土粒子少量
- 14 極暗赤褐色 色 焼土粒子少量
- 15 暗赤褐色 色 焼土粒子少量, 焼土小ブロック中量
- 16 暗赤灰色 色 焼土粒子少量, ローム粒子微量
- 17 暗赤灰色 色 焼土粒子中量
- 18 赤褐色 色 焼土小ブロック・焼土粒子多量
- 19 暗赤褐色 色 焼土・炭化・ローム粒子微量



第18图 第7号住居跡实测图(1)

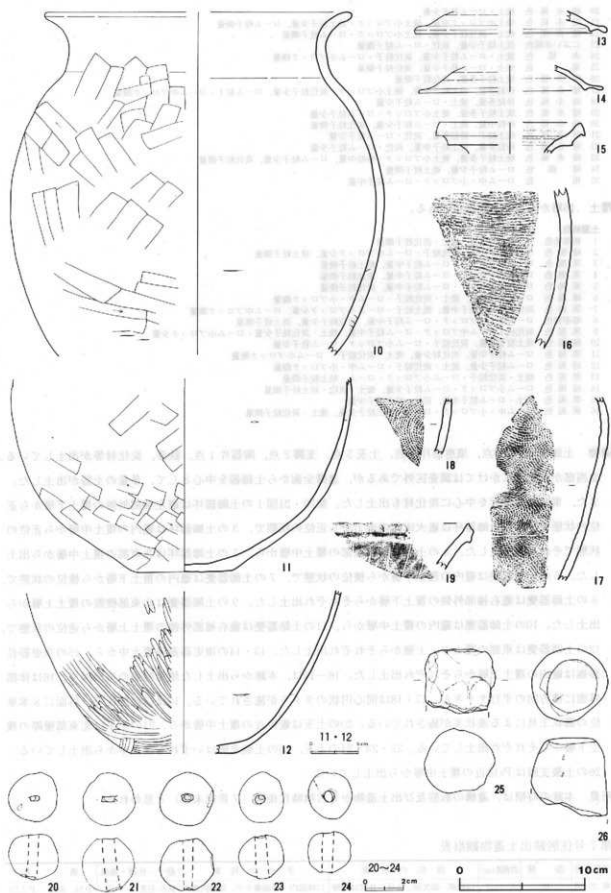


第19图 第7号住居跡実測图(2)



第20图 第7号住居跡出土遺物実測図(1)

淡路国宮城郡新井村新井第 国史院蔵



第21图 第7号住居跡出土遺物実測図(2)

- 20 暗赤褐色 焼土・ローム粒子少量
 21 暗赤褐色 焼土中ブロック中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子微量
 22 暗赤褐色 焼土・炭化粒子少量、焼土小ブロック・ローム粒子微量
 23 にぶい赤褐色 焼土粒子少量、炭化・ローム粒子微量
 24 赤褐色 焼土・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
 25 褐色 焼土・ローム粒子少量、炭化粒子微量
 26 暗赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子微量
 27 暗赤褐色 砂粒多量、焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・ローム中ブロック微量
 28 暗赤褐色 砂粒多量、焼土・ローム粒子少量
 29 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・ローム粒子少量
 30 暗赤褐色 砂粒中量、焼土・ローム粒子少量、炭化粒子微量
 31 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒多量、炭化・ローム粒子少量
 32 暗赤褐色 砂粒多量、焼土粒子中量、炭化・ローム粒子少量
 33 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・砂粒中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
 34 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
 35 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量

覆土 16層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量・焼土・炭化粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量、焼土粒子微量
 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、粘土粒子微量
 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量
 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量
 6 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
 7 黒褐色 炭化・ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
 8 暗赤褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
 9 黒褐色 炭化材・ローム中ブロック・ローム粒子中量、焼土・炭化粒子少量・ローム小ブロック少量
 10 暗褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 11 黒褐色 ローム粒子中量、炭化材少量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
 12 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
 13 黒褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム・粘土粒子微量
 14 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化・粘土粒子微量
 15 黒褐色 焼土・ローム粒子中量、炭化・粘土粒子少量
 16 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム・粘土粒子少量、焼土・炭化粒子微量

遺物 土師器片1,538点、須恵器片99点、土玉5点、支脚2点、陶器片1点、鉄滓、炭化材等が出土している。

北西部から南部にかけては調査区外であるが、遺構全面から土師器を中心として、多量の土器が出土した。

また、東・北壁付近を中心に炭化材も出土した。第20・21図1の土師器坏は竈左袖部外側の覆土下層から正位の状態で、2の土師器坏は竈火床部の直上から正位の状態で、3の土師器坏は竈内の覆土中層から正位の状態でそれぞれ出土した。4の土師器坏は東部の覆土中層から、5の土師器坏は北東部の覆土中層から出土した。6の土師器坏は竈内の覆土中層から横位の状態で、7の土師器坏は竈内の覆土下層から横位の状態で、8の土師器坏は竈右袖部外側の覆土下層からそれぞれ出土した。9の土師器坏は北東部壁際の覆土上層から出土した。10の土師器坏は竈内の覆土中層から、11の土師器坏は竈右袖部外側の覆土上層から逆位の状態で、12の土師器坏は東部の覆土中・上層からそれぞれ出土した。13・14の須恵器蓋は覆土中から、15の須恵器長頸瓶は竈内の覆土上層からそれぞれ出土した。16～19は、本跡から出土した須恵器甕の拓影図で、16は体部外面に横方向の平行タキが、17・18は同心円状のタキが施されている。19は口縁部片で、外面に8本単位の櫛状工具による波状文が施されている。20の土玉は竈付近の覆土中層から、21の土玉は北東部壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。22・23・24の土玉、25の土製支脚はいずれも覆土中から出土している。26の土製支脚はP8付近の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（7世紀末葉）と思われる。

第7号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第20図 1	坏 土 師 器	A 15.7 B 5.4	口縁部一處欠損。丸底。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面へつ削り後ナデ。	灰石・石英・スコリアにぶい褐色 良好	P44 98% PL23 竈覆土下層

図取番号	器種	径測定(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第20図 2	土師器	A 14.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。外面へラ削り後ナデ。体部内・外面黒色処理。	赤石・スコリアにぶい褐色	P45 95% P.L23 覆火床面
		B 4.4				
3	土師器	A 14.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り後ナデ。体部内・外面黒色処理。	長石・雲母・スコリアにぶい褐色	P46 90% P.L23 覆土中層
		B 4.6				
4	土師器	A (10.0)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り後ナデ。	長石・雲母・針状物散色	P47 30% 覆土中層
		B 2.5				
5	土師器	A (12.6)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら外傾し、口縁部との境に鈍い稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り後ナデ。	長石・雲母・スコリアにぶい褐色	P48 30% 覆土中層
		B 3.6				
6	土師器	A 22.5	寛部一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り。	長石・雲母・スコリアにぶい褐色	P49 95% P.L23 覆土中層
		B 28.7				
		C 9.7				
7	土師器	A 15.4	平底。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・雲母・スコリアにぶい褐色	P50 90% P.L23 覆土下層
		B 19.8				
		C 6.1				
8	土師器	A 15.6	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面中位へラ削り。	長石・雲母・スコリアにぶい褐色	P51 50% P.L23 覆土下層
		B 27.3				
		C 8.2				
9	土師器	A 18.1	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面中位へラ削り。	長石・石英・雲母散色	P52 60% P.L24 覆土上層
		B (19.7)				
第21図 10	土師器	A (24.2)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り。	長石・石英・明黄褐色	P53 30% P.L24 覆土上層
		B (27.4)				
11	土師器	B (20.7)	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内面ナデ。外面中位から下位へラ削り。	長石・石英・雲母明赤褐色	P54 30% 覆土上層
		C 11.2				
12	土師器	B (17.4)	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部内面ナデ。外面下位へラ削り。底部へラ削り。	長石・石英・雲母にぶい褐色	P55 30% 覆土中・上層
		C (11.2)				
13	須恵器	A (15.2)	天井部及び口縁部片。天井部はドーム状を呈し、口縁部は水平方向に伸び肥厚する。口縁部内側に短い稜を持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母灰白色	P56 5% 覆土中
		B (1.8)				
14	須恵器	A (14.8)	天井部及び口縁部片。天井部はドーム状を呈し、外面にわずかな稜を持つ。口縁部は水平方向に伸び、内側に短い稜を持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部上位回転へラ削り。	石英・雲母灰白色	P57 5% 覆土中
		B (2.1)				
15	須恵器	A (11.4)	口縁部片。口縁部は外傾し、中位に稜を持つ。口縁部は下方に垂下する。	口縁部内・外面ロクロナデ。	長石灰白色	P58 5% 覆土上層 内・外面に自然釉
		B (2.5)				

図取番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(m)	長さ(m)	孔径(m)	重量(g)		
20	土玉	2.6	2.4	0.5	16.0	覆土中層	DP5 P.L36
21	土玉	2.8	2.8	0.7	21.2	覆土下層	DP6 P.L36
22	土玉	2.8	2.7	0.5	19.7	覆土中	DP7 P.L36
23	土玉	2.7	2.2	0.6	13.7	覆土中	DP8 P.L36
24	土玉	2.4	2.2	0.5	11.3	覆土中	DP9 P.L36
25	土製支脚	5.7	(5.1)	—	(131.3)	覆土中	DP10
26	土製支脚	(6.1)	(6.3)	—	(215.5)	覆土中層	DP134

第8号住居跡 (第22図)

位置 調査区の北西部, B5a区。

重複関係 本跡は, 第3号住居跡の上に床を構築しており, 第3号住居跡よりも新しい。

規模と平面形 長軸3.67m, 短軸3.48mの方形である。

主軸方向 N-5°-E

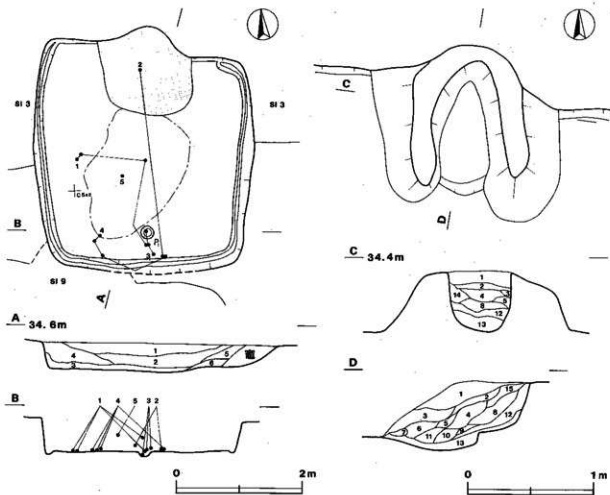
壁 壁高は46~53cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁の西側と東側の一部を除いた壁下で確認されている。上幅18cm, 下幅5cm, 深さ8cmで, 断面形はU字形である。

床 竈前面から中央部にかけて, 踏み固められている。

ピット 1か所 (P₁)。P₁は径13~21cmの不整形円形, 深さ8cmで, 出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 第3号住居跡の床上, 本跡北壁中央部に壁外にわずかに掘り込み, 砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両側の袖部が残存している。規模は, 焚口部から煙道部まで長さ120cm, 最大幅が150cmである。火床部は, 床面を10cmほど掘り窪めている。煙道部は下位に段を持ち, 徐々に角度を増して急に立ち上がっている。



第22図 第8号住居跡実測図

覆土層解説

- 1 暗褐色 砂粒多量、焼土・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 砂粒多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒中量、焼土中・小ブロック・炭化物・炭化・ローム粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック中量、焼土・ローム粒子・砂粒少量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・炭化粒子中量、焼土・ローム粒子・砂粒少量
- 7 暗褐色 焼土粒子多量、炭化粒子・砂粒少量
- 8 暗赤褐色 焼土・ローム粒子少量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・砂粒少量
- 10 暗赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子・砂粒少量、ローム粒子微量
- 11 暗褐色 砂粒多量、焼土粒子中量、炭化・ローム粒子少量
- 12 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 13 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 14 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・ローム粒子・砂粒少量、炭化粒子微量
- 15 暗赤褐色 焼土・ローム粒子少量、炭化粒子微量

覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

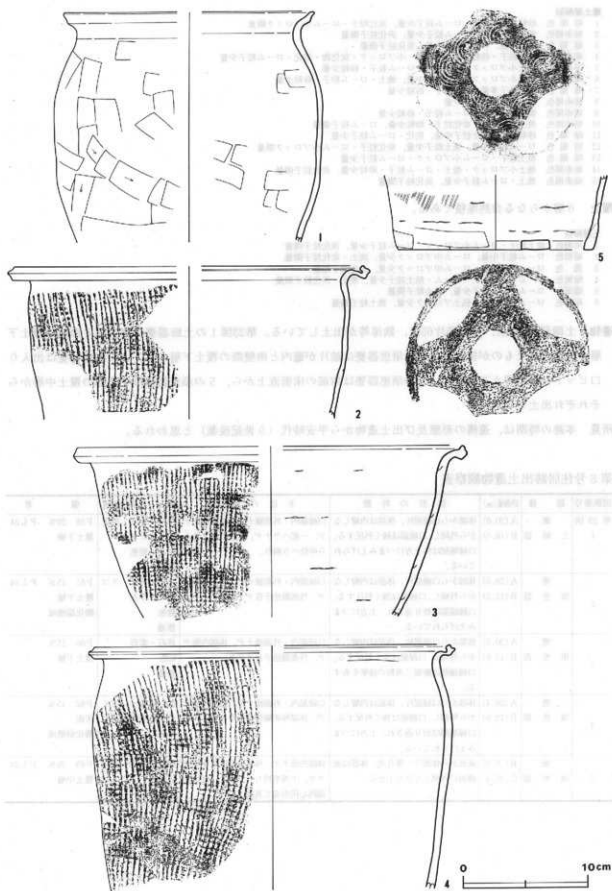
- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、焼土・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片517点、須恵器片65点、鉄滓等が出土している。第23図1の土師器甕は中央部と南部の覆土下層から出土したものが接合し、2の須恵器甕は破片が竈内と南壁際の覆土下層から、3の須恵器甕は出入りロビット付近の覆土下層から、4の須恵器甕は南部の床面直上から、5の須恵器甕は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀後葉）と思われる。

第8号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第23図 1	土師器	A(20.0)	体部から口縁部片。体部は内唇しながら外傾し、口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、一部ヘラナデ。体部外面上位から中位へラ削り。	灰石・石英・雲母・スコリア におい褐色 普通	P59 20% 覆土下層 P L24
		B(18.5)				
2	須恵器	A(28.0)	体部から口縁部片。体部は内唇しながら外傾し、口縁部は強く外反する。口縁端部は折り返され、上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面鬚格子目タタキ。	灰石・雲母・スコリア・小石 褐色 普通	P61 15% 覆土下層 酸化焙焼成
		B(12.2)				
3	須恵器	A(30.8)	体部から口縁部片。体部は内唇しながら外傾し、口縁部は強く外反する。口縁端部は断面三角形の縁帯を有する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面鬚格子目タタキ。	灰石・雲母 灰色 普通	P60 15% 覆土下層
		B(13.6)				
4	須恵器	A(28.4)	体部から口縁部片。体部は内唇しながら外傾し、口縁部は強く外反する。口縁端部は折り返され、上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、体部外面鬚格子目タタキ。	灰石・雲母・スコリア におい赤褐色 普通	P62 15% 床面 酸化焙焼成
		B(19.5)				
5	須恵器	B(6.0)	底部から体部片。多孔式。体部は直線的に外傾して立ち上る。	体部内面ナデ。体部外面中位平行タタキ、下端手持らへラ削り。底部内面同心円の当て具痕。	灰石・石英・雲母 灰黄色 普通	P63 20% 覆土中層 P L24
		C 15.4				



第23图 第8号住居跡出土遺物実測図

第9号住居跡(第24・25図)

位置 調査区の西北部, C5b1区。

重複関係 本跡の上に第8号住居跡が構築されている。また、第12号土坑は本跡を掘り込んでいる。本跡は、両遺構よりも古い。

規模と平面形 長軸6.14m, 短軸6.02mの方形である。

主軸方向 N-11°-E

壁 壁高は56-67cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅25cm, 下幅13cm, 深さ13cmで、断面形は逆台形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 5か所(P1-P5)。P1-P4は径60-75cmの不整形円形、深さ46-66cmで、配置や規模から柱穴穴と思われる。P5は長径50cm, 短径35cmの不整形楕円形、深さ40cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部からやや東よりに付設され、砂混じりの粘土で構築されているが、第8号住居跡に北部を掘り込まれているため遺存状態は悪い。天井部は崩落し、両側の袖部が残存している。火床部は、床面を皿状に掘り窪められている。煙道部は、火床面から緩やかに立ち上がり、中位からはほぼ垂直に立ち上がる。

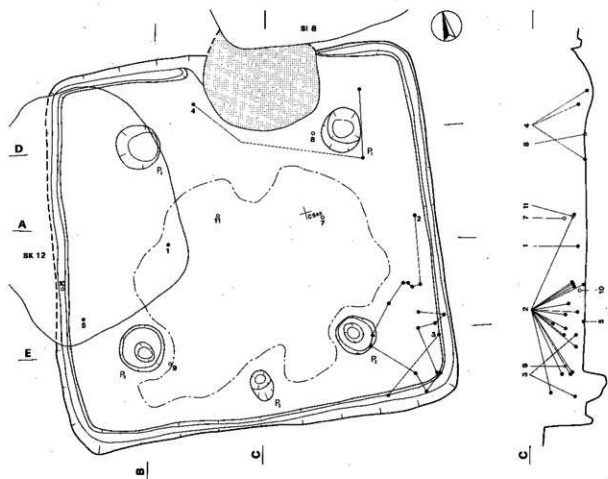
覆土層解説

- 1 にぶい赤褐色 ローム粒子・砂粒少量, 焼土・炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土中ブロック・ローム粒子・砂粒少量, 焼土・炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土・ローム粒子微量
- 6 暗赤褐色 焼土・ローム粒子微量
- 7 暗赤褐色 焼土・ローム粒子微量
- 8 暗赤褐色 炭化粒子少量, 焼土・ローム粒子微量
- 9 暗赤褐色 焼土中ブロック少量, 焼土・炭化・ローム粒子微量
- 10 黒褐色 焼土粒子中量, 焼土中・小ブロック少量, 炭化・ローム粒子微量
- 11 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土中ブロック・炭化粒子微量
- 12 暗褐色 砂粒多量, ローム粒子微量
- 13 黒褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 14 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 15 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 16 黒褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子微量
- 17 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック少量, ローム粒子微量
- 18 暗赤褐色 焼土・ローム粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量
- 19 暗赤褐色 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 20 暗赤褐色 砂粒少量, 焼土中ブロック・焼土・焼土粒子微量
- 21 暗赤褐色 砂粒少量, 焼土・炭化・ローム粒子微量
- 22 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量, 焼土中ブロック中量, 炭化粒子少量, 炭化材微量
- 23 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 24 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 25 暗赤褐色 砂粒多量, 炭化粒子少量, 焼土中・小ブロック微量
- 26 暗赤褐色 砂粒多量, 焼土・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 27 暗赤褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量
- 28 暗赤褐色 炭化・ローム粒子少量
- 29 暗赤褐色 砂粒多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 30 暗赤褐色 焼土・炭化粒子少量
- 31 暗赤褐色 砂粒多量, 焼土・炭化・ローム粒子少量
- 32 暗赤褐色 焼土中・小ブロック・焼土・炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 33 暗赤褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量, ローム粒子微量

覆土 8層からなる自然堆積である。

土層解説

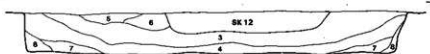
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム大ブロック・ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, 焼土・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子微量
- 7 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 8 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量



A 34.6m



B



D

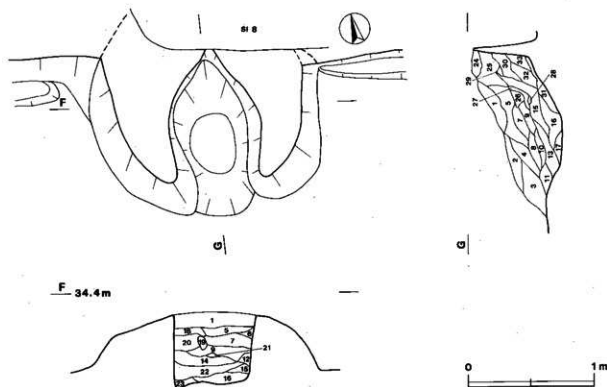


E



0 2m

第24图 第9号住居跡実測図(1)



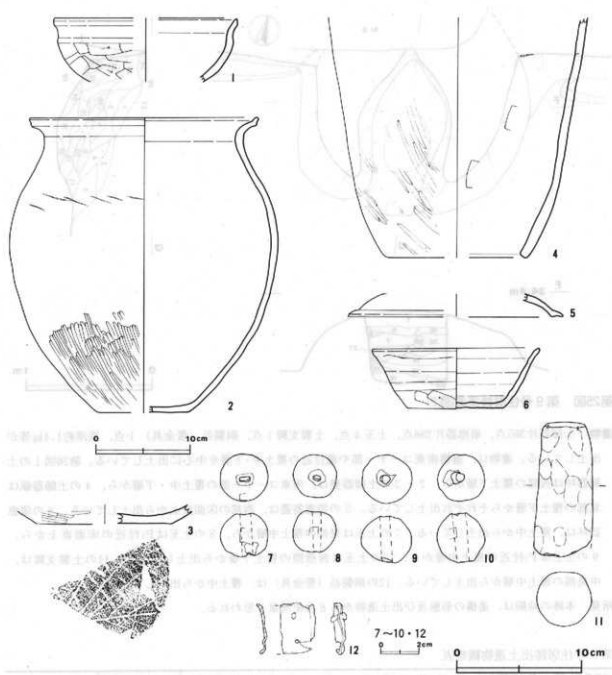
第25図 第9号住居跡実測図(2)

遺物 土師器片385点、須恵器片286点、土玉4点、土製支脚1点、銅製品(帯金具)1点、鉄滓約1.4kg等が出土している。遺物は、遺構南東コーナー部や竈付近の覆土中・下層を中心に出土している。第26図1の土師器坏は西部の覆土下層から、2・3の土師器甕は、南東コーナー部の覆土中・下層から、4の土師器甕は北部の覆土下層からそれぞれ出土している。5の須恵器蓋は、西部の床面直上から出土している。6の須恵器坏は、覆土中から出土している。7の土玉は東部の覆土中層から、8の土玉はP₁付近の床面直上から、9の土玉はP₃付近の覆土中層から、10の土玉は西壁際の覆土下層から出土している。11の土製支脚は、中央部の覆土中層から出土している。12の銅製品(帯金具)は、覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。

第9号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	目録番号(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第26図 1	坏 土師器	A(14.6) B(5.1)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は外反する。体部内面に鈍い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ削り。	灰・石・スリア・バシ にぶい橙色	P65 20% 覆土下層
2	甕 土師器	A 24.0 B 31.3 C(9.7)	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は強く外反する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面上位ナデ、下位ヘラ削り。	灰石・石英・雲母 にぶい黄褐色	P66 30% P.L24 覆土中・下層
3	甕 土師器	B(1.6) C(10.8)	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部下位内面ナデ、外面ヘラ削り。 底部外面木葉痕。	灰石・石英・雲母 にぶい黄褐色	P67 5% 覆土中・下層
4	甕 土師器	B(19.2) C(11.2)	底部から体部片。無底式。体部下位は内彎気味に、上位は直線的に立ち上がる。	体部内面ナデ、一部ヘラ削り後ナデ。 体部外面上位ナデ、下位ヘラ削り。	灰石・石英・雲母・スリア 橙色	P68 30% P.L24 覆土下層



第26図 第9号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第26図 5	蓋 須恵器	A (17.2)	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し、口縁部に至る。口縁部は水平方向に伸び、内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P69 5% 床面
		B (1.8)				
第26図 6	坏 須恵器	A 13.3	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り後ナデ。底部周縁ナデ。	長石・雲母・パミス 灰黄褐色 普通	P64 60% 覆土中
		B 4.9				
		C 7.7				

図取番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第26図7	土玉	2.6	2.4	0.6	15.4	覆土中層	DP11 P.L36
8	土玉	2.3	2.2	0.4	11.6	床面	DP12 P.L36
9	土玉	2.6	2.4	0.5	15.1	覆土中層	DP13 P.L36
10	土玉	2.6	2.6	0.6	15.1	覆土下層	DP14 P.L36
11	土製支脚	4.7	(10.8)	—	(225.4)	覆土中層	DP15

図取番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
12	帯金具	2.7	(1.9)	0.9	(1.2)	覆土中	M2 銅製品(純尾) P.L41

第10号住居跡(第27図)

位置 調査区の北西部, C4cs区。

重複関係 本跡は, 第7号住居跡・第18号土坑に掘り込まれていることから, 両遺構よりも古い。

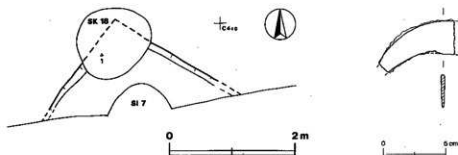
規模と平面形 長軸(1.20)m, 短軸(0.85)mで, 北部を第18号土坑に, 南部を第7号住居跡に掘り込まれているため平面形は不明である。

主軸方向 不明である。

壁 外傾して立ち上がる。

遺物 須恵器片1点, 鉄鏃1点が出土している。第27図1の鉄鏃は, 北部コーナー部中層から出土している。

所見 本跡は, 第7号住居跡・第18号土坑に掘り込まれ, 出土遺物も少なく正確な時期は不明である。



第27図 第10号住居跡・出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表

図取番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第27図1	鉄鏃	(6.0)	2.7	0.4	(13.6)	覆土中層	M3 P.L40

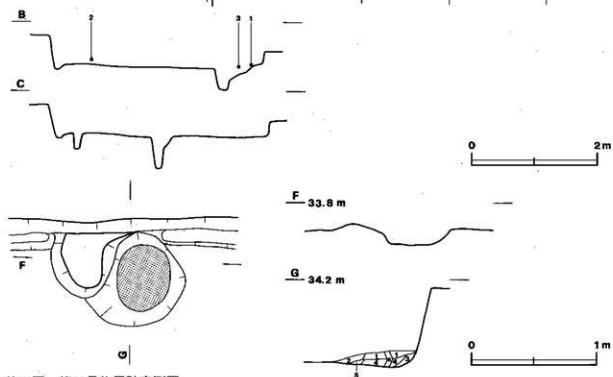
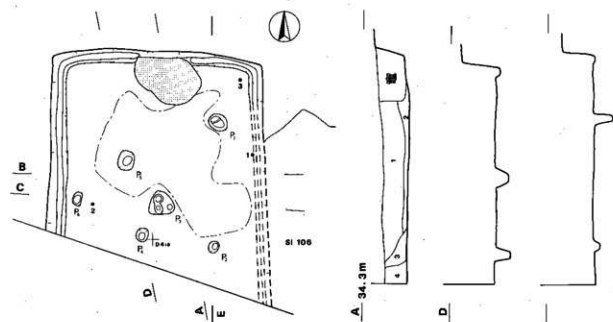
第11号住居跡(第28図)

位置 調査区の西部, D4hs区。

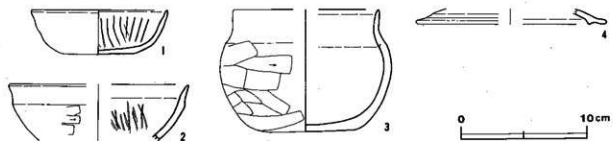
重複関係 本跡は, 第106号住居跡の西部を掘り込んでいることから, 第106号住居跡よりも新しい。

規模と平面形 長軸(3.86)m, 短軸3.37mの〔長方形〕と思われる。

主軸方向 N-3°-E



第28图 第11号住居跡实测图



第29图 第11号住居跡出土遺物实测图

壁 壁高は46~52cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認した全ての壁下に回る。上幅26cm、下幅9cm、深さ10cmで、断面形は逆台形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 6か所 (P1~P6)。P1~P6は長径21~38cm、短径14~38cmの不整形円形、深さ10~50cmで性格は不明である。

竈 北壁は中央部に砂混じりの粘土で構築されているが、遺存状態は極めて悪い。右袖部は、遺存していない。火床部は、床面をわずかに掘り窪めている。煙道部は、火床面からほぼ垂直に立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 ぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 3 ぶい赤褐色 ローム中ブロック中量、焼土粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック中量、炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量

覆土 4層からなるが、第1層はロームブロックを多く含んでおり人為堆積と思われる。第1層以外は自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土・粘土粒子少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量

遺物 土師器片225点、須恵器片11点のほか鉄滓等が出土している。第29図1の土師器坏は、東壁際の床面上から、2の土師器坏は西部の覆土下層から、3の土師器小形甕は北東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。4の須恵器甕は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。

第11号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・炭成	備考
第29図 1	坏 土師器	A 10.8	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面へラ削り線ナデ。底部へラ削り。体部内面に縮文。	石灰・炭母・スコリア 褐色 良好	F70 70% PL24 床面
		B 4.5				
		C 5.9				
2	坏 土師器	A [14.2]	体部から口縁部片。体部は内彎欠隅に外傾し、緩やかな稜を経て、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面へラ削り。体部内面に縮文。	石灰・石灰・スコリア 褐色 良好	F71 10% 覆土下層
		B (4.5)				
3	小形甕 土師器	A [11.6]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾し、わずかな稜を経て、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面へラ削り。	石灰・炭母・スコリア 褐色 普通	F72 60% 覆土下層 二次火熱痕
		B 9.8				
		C 7.5				
4	甕 須恵器	A [15.2]	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し、口縁部に至る。口縁部は水平方向に伸び、内面に短いえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面クロロナデ。	石灰・炭母 灰白色 普通	F74 5% 覆土中
		B (1.3)				

第12号住居跡 (第30図)

位置 調査区の北西部、B5j4区。

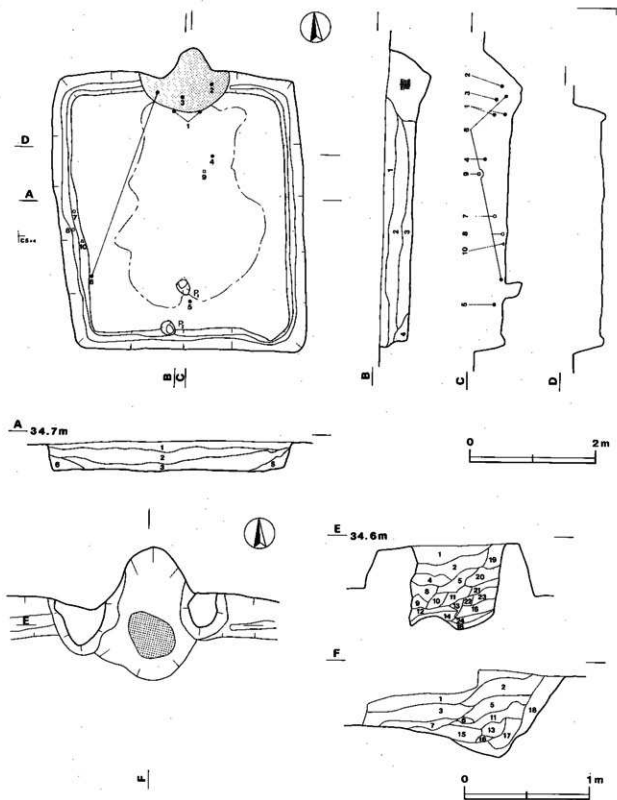
規模と平面形 長軸4.43m、短軸3.96mの方形である。

主軸方向 N-2°-E

壁 壁高は42~45cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅19cm、下幅8cm、深さ7cmで、断面形は逆台形である。

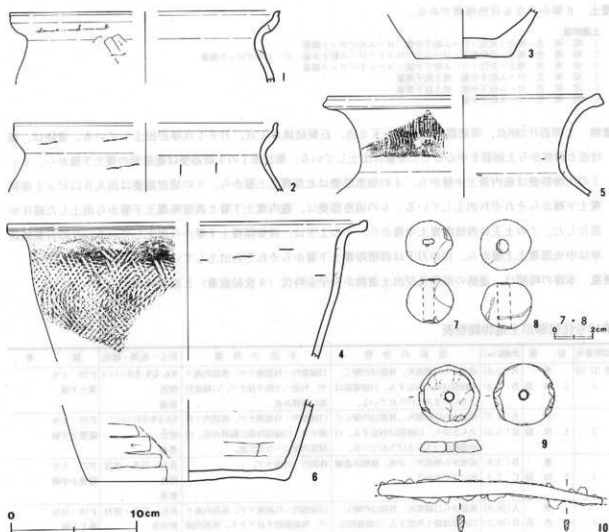
床 平坦で、中央部は踏み固められ跡まりがある。



第30図 第12号住居跡実測図

ピット 2か所 (P₁・P₂)。P₁は長径25cm, 短径18cmの不整楕円形, 深さ約28cmで, 配置から出入口施設に伴うピットと思われる。P₂は長径25cm, 短径20cmの不整楕円形, 深さ26cmで, 性格は不明である。

■ 北壁は中央部を, 壁外に75cmほど掘り込み構築されているが, 粘土等はあまり使われていない。天井部は崩落しており, 両側の袖部が残存している。規模は, 焚口部から煙道部まで長さ210cm, 最大幅280cmである。



第31図 第12号住居跡出土遺物実測図

火床部は床面を25cmほど掘り窪めており、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は、直線的に立ち上がっている。

層土層解説

- | | | |
|----|------|-------------------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子・砂粒少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子・砂粒少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 3 | 黒褐色 | 焼土粒子少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量 |
| 4 | 暗褐色 | 粒多量、焼土・炭化粒子微量 |
| 5 | 黒褐色 | 焼土粒子少量 |
| 6 | 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 7 | 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 8 | 暗赤褐色 | 砂粒多量、焼土粒子・炭化物少量、ローム粒子微量 |
| 9 | 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 10 | 暗赤褐色 | 砂粒多量、焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 11 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子少量 |
| 12 | 暗赤褐色 | 焼土・ローム粒子中量 |
| 13 | 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 14 | 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土小ブロック・炭化粒子少量 |
| 15 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量 |
| 16 | 暗赤褐色 | 砂粒・焼土粒子多量、炭化粒子少量 |
| 17 | 暗赤褐色 | 砂粒・焼土粒子多量、炭化・ローム粒子少量 |
| 18 | 暗赤褐色 | 砂粒多量、焼土・ローム粒子中量 |
| 19 | 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量 |
| 20 | 黒褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、焼土中ブロック・炭化材・炭化粒子微量 |
| 21 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量 |
| 22 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子微量 |
| 23 | 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、砂粒少量 |
| 24 | 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子多量、ローム粒子少量 |

覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	焼土・炭化・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
2	暗褐色	焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
3	暗褐色	焼土・炭化・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
4	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒少量
6	黒褐色	ローム粒子少量

遺物 土師器片288点、須恵器片38点、土玉2点、石製紡錘車1点、刀子1点等が出土している。遺物は、龍付近と西部から土師器を中心として多量に出土している。第31図1の土師器甕は龍前面の覆土下層から、2・3の土師器甕は龍内覆土中層から、4の須恵器甕は北部覆土上層から、5の須恵器甕は出入り口ピット南側覆土下層からそれぞれ出土している。6の須恵器甕は、龍内覆土下層と西壁際覆土下層から出土した破片が接合した。7の土玉は西壁際覆土中層から、8の土玉は、西壁際覆土下層から出土している。9の石製紡錘車は中央部覆土上層から、10の刀子は西壁際覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と思われる。

第12号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第31図 1	土師器	A(21.6)	体部から口縁部片。体部は内増し、口縁部は縦く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面へつ削り後ナデ。口縁部外面に輪積み痕。	長石・石英・雲母・バミス 褐色 普通	P75 5% 覆土下層
		B(5.8)				
2	土師器	A(21.5)	体部から口縁部片。体部は内増して立ち上がり、口縁部は外反する。口縁端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。口縁部外面に輪積み痕。口縁部内面にへら当て痕。	長石・石英・雲母・バミス 褐色 普通	P76 5% 覆土下層
		B(5.5)				
3	土師器	B(3.9)	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P77 5% 覆土中層
		C 7.4				
4	須恵器	A(28.6)	体部から口縁部片。体部は内増し、口縁部は縦く外反する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面縁格子目タタキ。体部内面に輪積み痕。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P78 10% 覆土上層
		B(10.9)				
5	須恵器	A(21.6)	体部から口縁部片。体部は内増し、口縁部は縦く外反する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面上位に縦方向のタタキ。	長石・雲母 灰褐色 不良	P79 5% 覆土下層
		B(8.2)				
6	須恵器	B(6.5)	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。	体部内面ナデ、外面へつ削り。	長石・石英 灰黄色 普通	P80 10% 覆土下層
		C 15.6				

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(mm)	重量(g)		
7	土玉	2.5	2.4	0.6	13.4	覆土中層	DP16 P.L35
8	土玉	2.7	2.4	0.7	17.8	覆土下層	DP17 P.L35

図版番号	器種	計測値				石・質	出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(mm)	重量(g)			
9	石製紡錘車	5.0	0.9	0.7	30.5	粘板岩	覆土上層	Q4 P.L38

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
10	刀子	(17.8)	1.3	0.6	(34.4)	覆土下層	M4

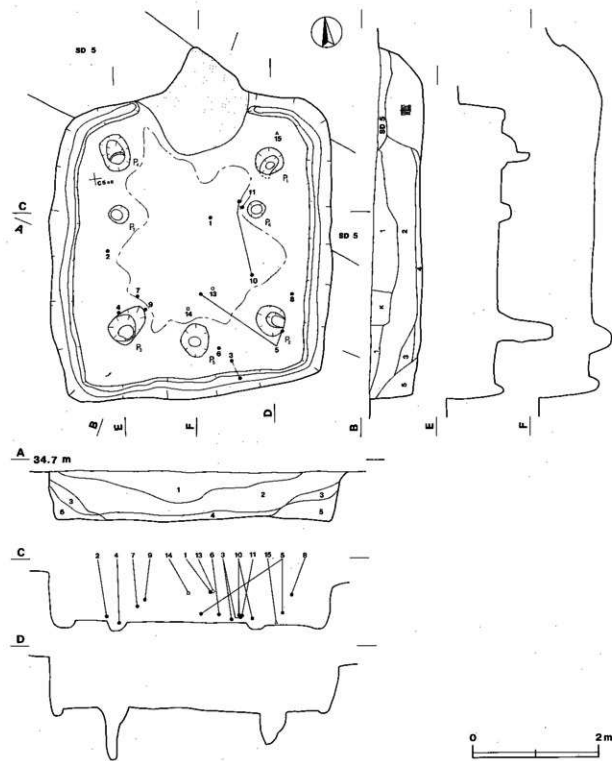
第13号住居跡 (第32・33図)

位置 調査区の北西部, C5a区。

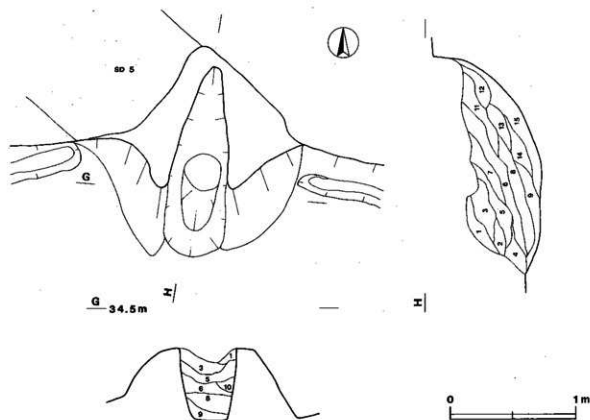
重複関係 本跡は, 北部を第5号溝に掘り込まれていることから, 第5号溝よりも古い。

規模と平面形 長軸4.78m, 短軸4.50mの方形である。

主軸方向 $N-8^{\circ}-E$



第32図 第13号住居跡実測図(1)



第33図 第13号住居跡実測図(2)

壁 壁高は76~80cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅36cm, 下幅11cm, 深さ16cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められ締まりがある。

ピット 7か所(P₁~P₇)。P₁・P₂は径44~49cmの不整形円形, 深さ52~86cm, P₃・P₄は長径58~66cm, 短径42~44cmの不整形円形, 深さ48~90cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₅は長径54cm, 短径45cmの不整形円形, 深さ30cmで出入り口施設に伴うピットと思われる。P₆・P₇は径27~32cm, 深さ10~20cmの不整形円形で配置や規模から補助柱穴と思われる。

竈 北壁中央部を、壁外に80cmほど三角形に掘り込み構築されている。上部を第5号溝に掘り込まれているものの遺存状態はよい。しかし、当遺跡内の他の竈に比べて、粘土等はあまり使われていない。天井部は崩落し、両袖部が残存している。規模は、突口部から煙道部まで長さ170cm, 最大幅170cmである。火床部は、浅く皿状に掘り窪められている。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

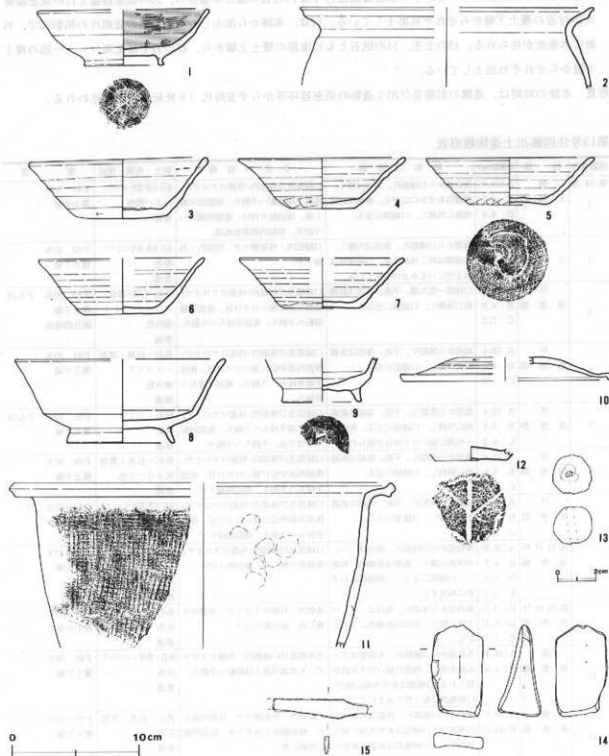
竈土層解説

- 1 褐色 rome 粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 rome 粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 焼土・rome 粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 焼土・rome 粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 rome 粒子少量, 焼土粒子微量
- 6 暗褐色 焼土・rome 粒子少量, 炭化粒子・rome 中ブロック微量
- 7 暗褐色 rome 粒子少量
- 8 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化・rome 粒子少量
- 9 黒褐色 焼土粒子・rome 小ブロック・rome 粒子少量
- 10 暗褐色 焼土・rome 粒子・砂粒少量
- 11 黒褐色 焼土・炭化・rome 粒子微量
- 12 暗褐色 rome 粒子少量, 焼土粒子微量
- 13 暗褐色 焼土・rome 粒子微量
- 14 黒褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・rome 粒子少量
- 15 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・rome 粒子少量

覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化材・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 5 黒暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 6 暗褐色 炭化材・炭化・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム小ブロック微量



第34図 第13号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片912点, 須恵器片319点, 土玉1点, 砥石1点, 刀子1点, 鉄滓等が出土している。遺構全体から土師器・須恵器が多量に出土し, 須恵器には完形品が比較的多い。第34図1の土師器碗は中央部の覆土中層から, 2の土師器甕は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。3の須恵器坏は南壁際, 4の須恵器坏はP₃の北部, 5の須恵器坏は南東部, 6の須恵器坏は南部のいずれも覆土下層から正位の状態出土している。7の須恵器坏はP₃の北部の覆土中層から, 8の須恵器高台付坏は東壁付近の覆土上層から逆位の状態それぞれ出土している。9の須恵器高台付坏はP₃付近の覆土中層から, 10の須恵器蓋と11の須恵器甕はP₃付近の覆土下層からそれぞれ出土している。12は, 本跡から出土した土師器甕の底部片の拓影図で, 外面に木葉痕が見られる。13の土玉, 14の砥石ともに南部の覆土上層から, 15の刀子は北東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物の須恵器坏等から平安時代(9世紀中葉)と思われる。

第13号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	位置(㎡)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第34図 1	土師器 碗	A [13.6] B 4.5 D 6.4 E 0.4	高台部から口縁部片。高台は短く, 縁部はわずかに広がる。体部は内彎気味に外傾し, 口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部外面にヘラ記号。体部内面黒色処理。	長石・石英・スコリア に多い褐色 普通	P81 50% 覆土中層
2	土師器 甕	A [23.2] B (6.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し, 口縁部は緩く外反する。口縁部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・スコリア 緑色 普通	P82 10% 覆土下層
3	須恵器 坏	A 14.1 B 4.9 C 7.2	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し, 口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端回転ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア・バミス 灰褐色 普通	P83 90% P L24 覆土下層 酸化焙焼成
4	須恵器 坏	A 13.4 B 4.1 C 5.0	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾し, 口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア 黄灰色 普通	P84 70% 覆土下層
5	須恵器 坏	A 13.4 B 3.8 C 6.3	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾し, 口縁部に至る。体部内・外面に強いロクロ目が見られる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り後, 手持ちヘラ削り。	長石・バミス 灰色 普通	P85 70% P L24 覆土下層
6	須恵器 坏	A [13.2] B 4.4 C 6.2	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾し, 口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部手持ちヘラ削り。底部回転ナデ。	長石・石英・雲母 灰ナベり色 普通	P86 50% 覆土下層
7	須恵器 坏	A [13.0] B 4.0 C 6.0	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾し, 口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部手持ちヘラ削り。底部回転ナデ。	長石・石英・スコリア に多い黄褐色 普通	P87 40% 覆土中層
8	高台付須恵器 坏	A [16.8] B 6.7 D 8.6 E 1.2	高台部から口縁部片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾し, 口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後, 高台貼り付け。	長石・石英・雲母・バミス 灰黄色 普通	P88 60% 覆土上層
9	高台付須恵器 坏	B (3.5) D [6.2] E 1.1	高台部から体部片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は直線的に立ち上がりが。	体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後, 高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P89 40% 覆土中層
10	須恵器 蓋	A [16.8] B (1.9)	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し, 外面に強いロクロ目が見られる。口縁部は水平方向に伸び, 口縁部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・雲母・スコリア 灰色 普通	P90 20% 覆土下層
11	須恵器 甕	A (30.0) B (13.2)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾し, 口縁部は水平方向に強く外反する。口縁部は断面三角形の縁部を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面銅子目タタキ。体部内面に指痕。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P91 10% 覆土下層

図版番号	器種	計測値					出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第34図13	土玉	2.2	1.9	—	0.4	9.4	覆土上層	D P18 P L36

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
14	砥石	7.3	4.2	1.2	89.6	凝灰岩	覆土上層	Q5

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
15	刀子	(7.6)	1.6	0.5	(11.5)	覆土下層	M5 P L39

第14号住居跡(第35図)

位置 調査区の西部、D5e4区。

重複関係 本跡は、第6号住居跡を掘り込んでいることから、第6号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸4.00m、短軸3.71mの方形である。

主軸方向 N-9°-E

壁 壁高は65~74cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 東壁の一部を除いた壁下を回っている。上幅26cm、下幅10cm、深さ6cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は径20~40cmの不整形円形、深さ18~22cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P5は径27~30cmの不整形円形、深さ46cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部を壁外に20cmほど掘り込み、砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落し、左袖部も上部が遺存していない。規模は、焚口部から煙道部まで110cm、最大幅120cmである。火床部は、床と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は、火床面から直線的に立ち上がっている。

覆土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 2 にぶい赤褐色 焼土粒子少量、ローム小ブロック少量、粘土粒子少量
- 3 にぶい赤褐色 焼土粒子少量、砂質粒子少量
- 4 暗赤褐色 粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 5 藍褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック少量、炭化粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土大ブロック少量

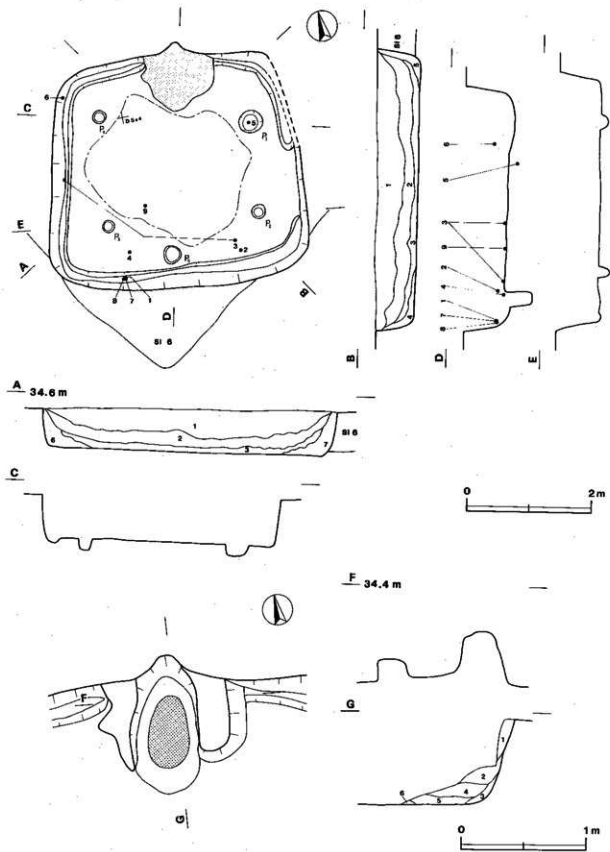
覆土 7層からなる自然堆積である。

土層解説

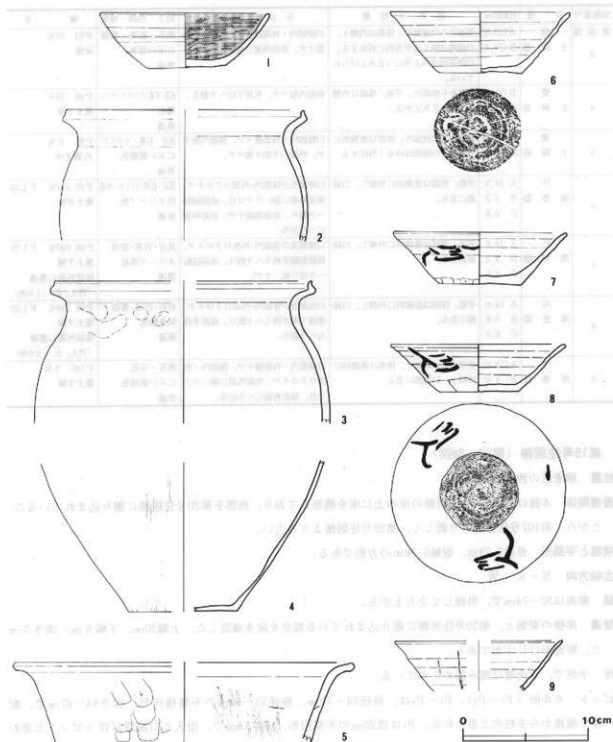
- 1 暗褐色 焼土・炭化粒子少量、ローム中・小ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化材・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム中・小ブロック中量、焼土粒子少量、ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム中・小ブロック中量、焼土粒子少量

遺物 土師器片310点、須恵器片81点、羽口片4点等が出土している。第36図1の土師器環、7の須恵器環、8の須恵器環は南壁際の覆土下層から正位の状態で3枚が重なって出土した。7・8は墨書土器である。9の須恵器環は南西部の覆土下層から、3の土師器甕は、西壁際と南部のいずれも床面直上から出土したものが接合した。2の土師器甕は南東部の覆土下層から、4の土師器甕は南西部の覆土下層から、5の土師器甕はP1内覆土中から出土している。6の須恵器環は北西部コーナー壁際の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代(9世紀中葉)と思われる。



第35图 第14号住居跡実測図



第36図 第14号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第36図 1	土師器	A 13.5	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部及び体部内面へラ磨き。底部外面へラ削り。体部内面黒色処理。	石灰・黄母・スコリア にぶい黄褐色	P92 90% PL24 覆土下層
		B 4.6			普通	
		C 6.3				
2	土師器	A(18.8)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部はゆるく外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面に縦方向のへラ磨き。	石灰・黄母・スコリア 明褐色	P94 5% 覆土下層
		B(10.5)			普通	

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第 36 図	甕 土 師 器	A (20.6) B (11.4)	体部から口縁部片。体部は内傾し、 口縁部は緩く水平方向に外反する。 口縁端部は外上方につまみ上げられて いる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外 面ナデ。体部外面に指頭圧痕。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P93 10% 床面
4	甕 土 師 器	B (11.9) C (8.6)	底部から体部片。平底。体部は内傾 しながら立ち上がる。	体部内面ナデ。外面下位ヘラ磨き。	長石・石英・スクリア 褐色 普通	P96 10% 覆土下層
5	甕 土 師 器	A (26.8) B (6.5)	体部から口縁部片。体部は直線的に 外傾し、口縁部はゆるく外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ デ。外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・スクリア にぶい黄褐色 普通	P95 5% P ₁ 覆土中
6	坏 須 恵 器	A 14.3 B 5.2 C 6.6	平底。体部は直線的に外傾し、口縁 部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。 体部外面に強い口ロナ目。底部回転 ヘラ削り。底部周縁ナデ。底部外面 にヘラ記号。	長石・石英・スクリア・小石 灰オリーブ色 普通	P97 100% P L24 覆土中層
7	坏 須 恵 器	A 13.8 B 4.2 C 6.5	平底。体部は直線的に外傾し、口縁 部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。 体部周縁手持ちヘラ削り。底部回転 ヘラ削り後、ナデ。	長石・石英・雲母 オリーブ黒色 普通	P98 100% P L25 覆土下層 体部外面に墨書 「門」か (1ヶ所)
8	坏 須 恵 器	A 14.0 B 3.8 C 6.3	平底。体部は直線的に外傾し、口縁 部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。 体部下縁手持ちヘラ削り。底部手持 ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P99 100% P L25 覆土下層 体部外面に墨書 「門」か (2ヶ所)
9	坏 須 恵 器	A (13.6) B (4.0)	体部から口縁部片。体部は直線的に 外傾し、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外 面口ロナデ。体部外面に強い口ロ ロナ目。体部外面にヘラ記号。	長石・小石 にぶい黄褐色 普通	P100 5% 覆土下層

第15号住居跡 (第37・38図)

位置 調査区の西部、D5h3区。

重複関係 本跡は、第107号住居跡の床の上に床を構築しており、西部を第20号住居跡に掘り込まれていることから、第107号住居跡より新しく、第20号住居跡よりも古い。

規模と平面形 長軸5.78m、短軸5.76mの方形である。

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は32~74cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南壁の東側と、第20号住居跡に掘り込まれている部分を除き確認した。上幅20cm、下幅6cm、深さ5cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

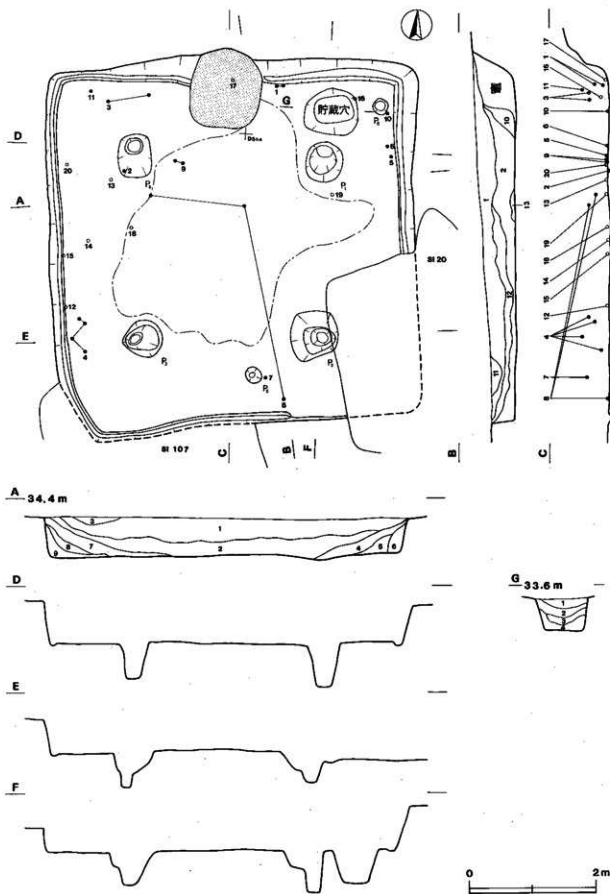
ピット 6か所 (P₁~P₆)。P₁~P₄は、長径54~70cm、短径53~60cmの不整形円形、深さ54~67cmで、配置や規模から支柱柱と思われる。P₅は径25cmの不整形円形、深さ16cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。P₆は径25cmの不整形円形、深さ16cmで性格は不明である。

貯蔵穴 北東コーナーに付設され、長径85cm、短径74cmの不整形円形で、深さは54cm、断面形は逆台形である。

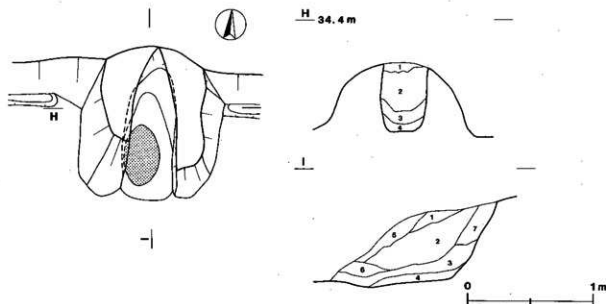
貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子中量

竈 北壁中央部に付設され、砂混じりの白色粘土で構築されている。袖部も、床面に砂混じりの貼り付けて構築している。火床部は、ほとんど掘り込まれていない。煙道部は、壁外への突出が少なく、壁の内側から穏やかに外傾して立ち上がる。



第37图 第15号住居跡実測图(1)



第38図 第15号住居跡実測図(2)

電土層解説

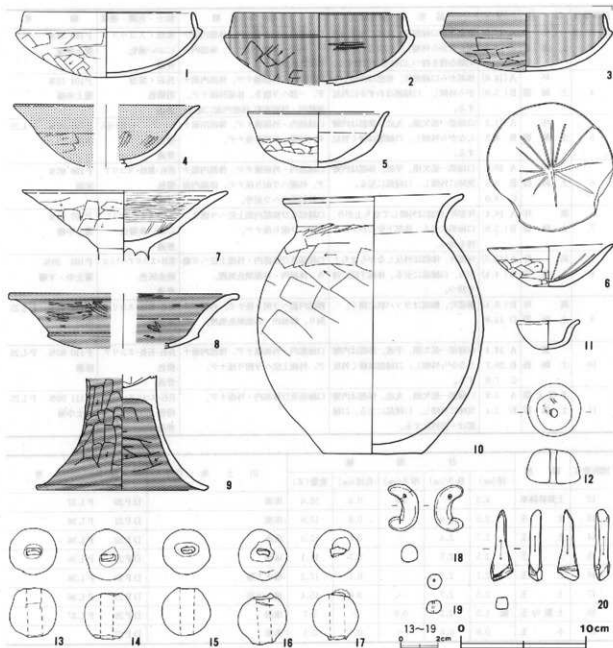
- 1 灰褐色 粘土粒子多量、ローム粒子少量
- 2 灰褐色 ローム・粘土粒子中量、焼土粒子少量
- 3 暗赤褐色 ローム小ブロック・粘土粒子中量、ローム粒子少量
- 4 暗赤褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 5 灰褐色 ローム粒子中量、粘土粒子中量
- 6 におい赤褐色 ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 7 暗褐色 焼土・ローム粒子少量

覆土 13層からなるが、ロームブロックを多く含んでおり、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 7 黒褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 9 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 10 褐色 ローム・粘土粒子中量、炭化粒子少量
- 11 褐色 焼土・炭化・ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 13 黒褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片431点、須恵器片12点、土製紡錘車1点、土玉5点、土製勾玉1点、土製小玉1点、砥石1点が出土している。本跡は、須恵器に比べ土師器が多く出土しているのが特徴である。第39図1の土師器坏は北壁際の覆土下層から、2の土師器坏はP₄の覆土中から、3の土師器坏は北西部の覆土中層から、4の土師器坏は南西部壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。5の土師器坏は東壁際の床面直上から、6の土師器坏は、同じく東壁際の床面直上から横位の状態出土している。7の土師器高坏はP₅付近の覆土中層から、8の土師器高坏は中央部の覆土中層と南部の覆土下層から出土したものが接合した。9の土師器高坏の脚部は北西部の床面直上から正位の状態、10の土師器甕はP₆東部の床面直上から横位の状態、11の土師器手捏土器は北西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。12の土製紡錘車、13-15の土玉、18の土製勾玉は、西部の床面直上から出土している。16の土玉は貯蔵穴付近の覆土下層から、17の土玉は竈内の火床面直上から、19の土製小玉は東部の床面直上からそれぞれ出土している。20の砥石は、西壁際北部の床面直上から出土している。



第39図 第15号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀後半）と思われる。

第15号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第39図 1	坏	A 13.4	体部一部欠損。丸底。体部は内磨しながら外傾し、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面へラ割り後ナデ。	石英・バミス 褐色 普通	P101 90% P.L25 覆土下層
	土師器	B 5.3				
2	坏	A 13.5	底部から口縁部片。丸底。体部は内磨しながら外傾し、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、一部へラ磨き。体部外面へラ割り後ナデ。体部内・外面黒色処理。	石英・スコリア 黒褐色 普通	P102 65% P.L25 P ₁ 覆土中
	土師器	B (5.9)				

図版番号	器 種	寸法(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第 39 図 3	土 師 器	A 12.5	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら外傾し、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り後ナデ。体部内・外面黒色処理。	需母・スコリア にふい褐色 普通	P103 55% 覆土中層
		B 4.7				
4	土 師 器	A (14.8)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。一部へラ磨き。体部外面ナデ。体部内・外面赤影。体部内面に窪文。	長石・需母 明褐色 普通	P104 15% 覆土中層
		B (5.0)				
5	土 師 器	A 11.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り後ナデ。	スコリア・バミス・赤影 褐色 普通	P105 95% P L25 床面
		B 4.5				
6	土 師 器	A 10.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾し、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り後ナデ。体部内面に放射状のへラ記号。	長石・需母・スコリア 褐色 普通	P106 95% 床面
		B 3.5 C 3.0				
7	土 師 器	A 16.4	坏部片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。体部下位にわずかな稜を持つ。	口縁部及び体部内面上位へラ磨き。外面へラ削り後ナデ。	長石・需母・スコリア にふい黄褐色 普通	P107 50% 覆土中層
		B (5.6)				
8	土 師 器	A (18.0)	坏部片。体部は外反しながら立ち上がり、口縁部に至る。体部下位に稜を持つ。	口縁部及び体部内・外面上位へラ磨き。体部内・外面黒色処理。	需母・スコリア・バミス 暗赤灰色 普通	P108 20% 覆土中・下層
		B (4.4) C 7.9				
9	土 師 器	B (9.1)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内面へラ削り後ナデ。外面へラ削り。脚部内・外面黒色処理。	長石・需母・スコリア 黒褐色 普通	P109 40% P L25 床面
		D 13.8				
10	土 師 器	A 14.4	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面上位へラ削り後ナデ。	長石・石莖・スコリア 褐色 普通	P110 80% P L25 床面
		B 20.7 C 7.9				
11	土 師 器	A 4.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎しながら外傾し、口縁部に至る。口縁部は一部外反する。	口縁部及び体部内・外面ナデ。	長石・スコリア・バミス 褐色 普通	P111 90% P L25 覆土中層
		B 2.4				

図版番号	器 種	計 測 値					出 土 地 点	備 考
		径(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
12	土製紡錘車	4.3	—	2.7	0.6	52.6	床面	D P20 P L37
13	土 玉	2.5	2.6	—	0.8	17.6	床面	D P21 P L36
14	土 玉	2.7	2.4	—	0.7	17.3	床面	D P22 P L36
15	土 玉	2.5	2.5	—	0.7	14.1	床面	D P23 P L36
16	土 玉	2.7	2.7	—	0.7	17.2	覆土下層	D P24 P L36
17	土 玉	2.5	2.7	—	0.8	15.4	竈火床面	D P25 P L36
18	土製勾玉	1.5	2.5	0.9	—	2.7	床面	D P26 P L37
19	小 玉	0.8	0.8	—	0.1	0.5	床面	D P27

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
20	砥 石	5.6	1.8	0.9	10.4	凝灰岩	床面	Q6 P L39

第16号住居跡 (第40図)

位置 調査区の西北部、C5e2区。

重複関係 本跡は、第22号土坑を掘り込んでおり、第22号土坑よりも新しい。

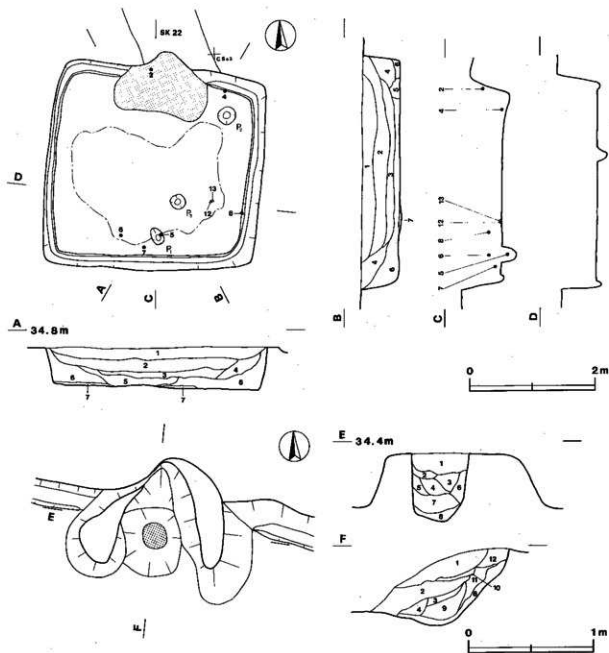
規模と平面形 長軸3.44m、短軸3.24mの方形である。

主軸方向 N-4°-E

壁 壁高は53-64cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅16cm-26cm、下幅4-10cm、深さ7cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。



第40図 第16号住居跡実測図

ピット 3か所 (P1~P3)。P1は長径28cm, 短径18cmの不整楕円形, 深さ26cmで出入り口施設に伴うピットと思われる。P2・P3は径22~26cmの不整形, 深さ7~16cmで性格は不明である。

竈 北壁中央部を壁外に35cmほど掘り込み, 砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両側の袖部が残存している。規模は, 焚口部から煙道部まで長さ100cm, 最大幅120cmである。火床部は, 床面を10cmほど掘り窪めており, わずかに焼けて赤変している。煙道部は, 火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗褐色 砂粒多量, 焼土・炭化粒子少量, ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 砂粒多量, ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 砂粒多量, 焼土・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 焼土・ローム粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量
- 6 暗褐色 砂粒多量, 焼土粒子中量, 焼土中・小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中・小ブロック中量

- 9 暗赤褐色 ローム粒子中量, ローム・炭化粒子少量
- 10 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量, 焼土粒子微量
- 11 暗赤褐色 砂粒少量, 炭化・ローム粒子微量
- 12 暗褐色 砂粒中量, 炭化粒子少量, 焼土・ローム粒子微量

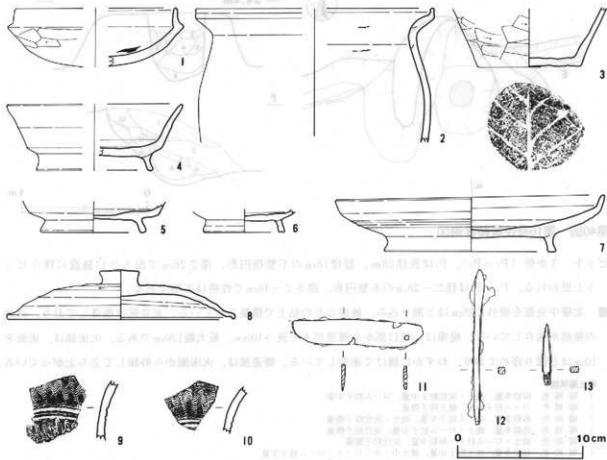
覆土 7層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 7 黒褐色 炭化物少量・ローム粒子少量

遺物 土師器片475点, 須恵器片136点が出土している。第41図1の土師器甕は北部, 3の土師器甕は南部のそれぞれ覆土中から出土している。2の土師器甕は竈内の覆土中層から, 4の須恵器高台付坏は北東部壁際の覆土下層から, 5の須恵器高台付坏は出入りロビット内の覆土中から, 6の須恵器高台付坏は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。7の須恵器盤は南部の覆土下層から逆位の状態で, 8の須恵器蓋は南東部壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。9と10は本跡から出土した須恵器甕の口縁部片の拓影図で, 外面に5本単位の櫛状工具による波状文が施されている。11の手鎌は覆土中から, 12・13の鉄鏃は南東部の床面直上から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から平安時代(9世紀前葉)と思われる。



第41図 第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第41図	土 罎	A(12.7)	底部から口縁部片。丸底。体部は内 斡しながら外傾し、口縁部との境に 明瞭な段を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ デ、外面へう削り後ナデ。	スコリア・バミス・雲母 橙色 良好	P112 25% 覆土中 底部内面にケール付着
		B 4.7				
2	土 罎	A(19.0)	底部から口縁部片。体部は内斡し、 口縁部は強く外反する。口縁端部は 上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外 面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P113 5% 覆土中層
		B(10.7)				
3	土 罎	B(4.7)	底部から体部片。平底。体部は直線的 に立ち上がる。	体部下縁手持ちへう削り。底部外面 木炭痕。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P114 5% 覆土中
		C 8.2				
4	高台付 須恵器	A(13.8)	高台部から口縁部片。高台は、外反し ながら「ハ」の字状に開く。体部 は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。 底部切り離し後、高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P115 45% 覆土下層
		B 5.3				
		D(9.2)				
		E 1.4				
5	高台付 須恵器	B(2.5)	高台部片。高台は「ハ」の字状に開 く。	底部切り離し後、高台貼り付け。	石英・長石・バミス 褐色色 普通	P116 10% P117 10% 覆土中
		D 8.5				
		E 1.1				
6	高台付 須恵器	B(1.8)	高台部片。高台は「ハ」の字状に開 く。	底部回転へう削り後、高台貼り付け。	長石 灰白色 良好	P117 10% 覆土下層
		D 6.6				
		E 1.0				
7	須 恵 器	A 21.4	口縁部一部欠損。高台は、外反しな がら「ハ」の字状に開く。体部は直 線的に立ち上がり、口縁部は外傾す る。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。 底部回転へう削り後、高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P118 90% P L25 覆土下層
		B 4.6				
		D 13.6				
		E 1.2				
8	蓋	A 18.0	天井部から口縁部片。天井部中央に 擬宝珠状のつまみが付く。天井部は ドーム状を呈し、口縁部に至る。口 縁端部は強く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面クロコナ デ。天井部外面上位回転へう削り後 ナデ。	長石・石英 灰色 普通	P119 50% P L25 覆土下層
		B 4.1				
		F 3.1				
		G 1.3				

図版番号	器種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
11	手 線	(10.4)	2.0	0.2	(13.6)	覆土中	M6
12	鉄 線	12.5	0.8	0.5	13.9	床面	M8
13	鉄 線	(4.8)	0.05	0.5	(3.8)	床面	M9 P L40

第17号住居跡 (第42図)

位置 調査区の北西部、C5f2区。

規模と平面形 長軸3.47m、短軸3.27mの方形である。

主軸方向 N-21°-E

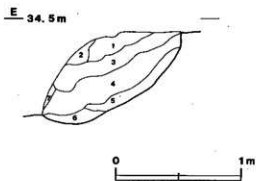
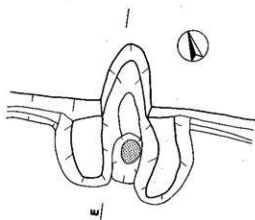
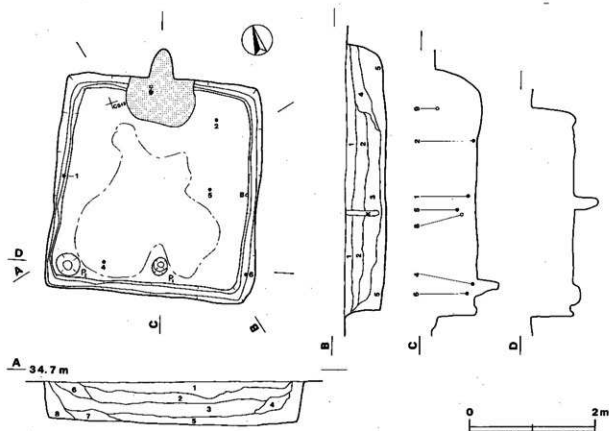
壁 壁高は58~67cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅21cm、下幅11cm、深さ5cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部から南部が踏み固められている。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は長径27cm、短径24cmの不整形円形、深さ39cmで出入り口施設に伴うピットと思われる。P2は径39cmの不整形円形、深さ11cmで、性格は不明である。

竈 北壁中央部を壁外に48cmほど掘り込み、砂泥じり粘土で構築されている。天井部は崩落し、両側の軸部が残存している。規模は、焚口部から煙道部まで長さ110cm、最大幅110cmである。火床部は、床面を浅く皿状に掘り窪められている。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。



第42図 第17号住居跡実測図

覆土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒少量、焼土・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子微量

覆土 8層からなる自然堆積である。

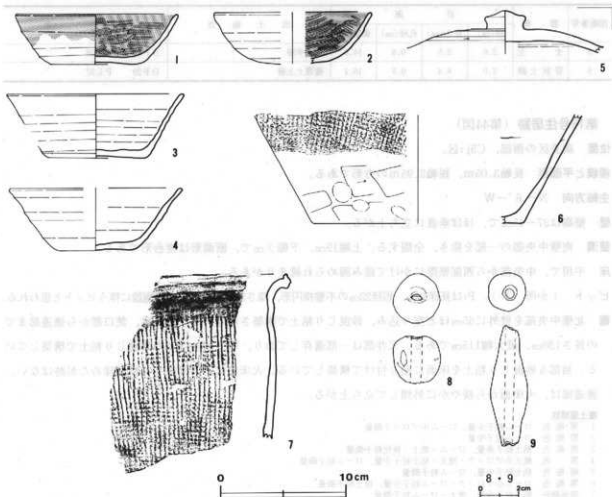
土層解説

- 1 暗褐色 焼土・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量

3	暗褐色	ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック微量
5	褐色	焼土中ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量
6	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
7	暗褐色	ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片380点、須恵器片108点、土玉1点、管状土錘1点、鉄滓等が出土している。第43図1の土師器片は西壁壁溝の覆土下層から逆位の状態で、2の土師器片は北東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。3の須恵器片は北東部の覆土中から、4の須恵器片は南西部の覆土下層から、5の須恵器蓋は東部の覆土中層からそれぞれ出土している。6の須恵器蓋は、南東コーナー部壁溝の覆土下層から出土している。7は、本跡から出土した須恵器蓋の体部片の拓影図で、外面に擬格子目タキが施されている。8の土玉は東壁際の覆土中層から、9の管状土錘は竈内の覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀中葉）と思われる。



第43図 第17号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第43図	環	A 12.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内湾	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	胎土・石英・雲母	P120 98% P L25
1	土師器	B 4.0 C 6.8	気味に外傾し、口縁部に至る。	体部・底部内面へタキ。体部下端回転へタキ。底部回転へタキ後ナデ。体部内・外面黒色処理。	濃い褐色 普通	覆土下層

図版番号	器 種	計測値(m)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第43図	坏 土 師 器	A [12.6] B 4.1 C [5.5]	底部から口縁部片。平底。体部は内 臂突縁に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 体部・底部内面ヘラ磨き。底部ヘラ 削り後ナデ。体部内面黒色処理。	長石・石英・スズリ にふい 良好	P121 20% 覆土下層
3	坏 須 恵 器	A 14.1 B 5.2 C 7.8	体部一部欠損。平底。体部は直線的 に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 底部回転ヘラ削り後ナデ。底部編織 ナデ。体部外面に強いクロロ目。	長石・石英・針状鉱物 灰色 良好	P122 70% 覆土中層
4	坏 須 恵 器	A [13.6] B 5.0 C 6.0	底部から口縁部片。平底。体部は直 線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 底部回転ヘラ削り後ナデ。	長石・針状鉱物 灰色 普通	P123 45% 覆土下層
5	蓋 須 恵 器	B (3.5) F 3.2 G 1.5	天井部片。天井部中央に擬宝珠状の つまみが付く。天井部はドーム状を 呈する。	天井部内・外面ロクロナデ。天井部 外面中位回転ヘラ削り。	長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P124 40% 覆土中層
6	甕 須 恵 器	B (8.7) C [16.6]	底部から体部片。平底。体部は直線的 に外傾する。	体部内面ナデ。一部ヘラナデ。体部 外面中位編織目タタキ。下位手持 ちヘラ削り。体部内面に輪轍み痕。 体部外面に指頭圧痕。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P125 5% 覆土下層

図版番号	器 種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
8	土 玉	2.6	2.5	0.6	14.9	DP28	PL36
9	管状土師	2.0	6.4	0.5	16.1	DP29	PL37

第18号住居跡 (第44図)

位置 調査区の西部、CSj区。

規模と平面形 長軸3.05m、短軸2.95mの方形である。

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は37~45cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南壁中央部の一部を除き、全周する。上幅19cm、下幅3cmで、断面形は逆台形である。

床 平坦で、中央部から西部壁際にかけて踏み固められ締まりがある。

ピット 1か所 (P1)。P1は長径30cm、短径22cmの不整形円形、深さ37cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部を壁外に65cmほど掘り込み、砂混じり粘土で構築されている。規模は、笑口部から煙道部まで

の長さ130cm、最大幅115cmである。天井部は一部遺存しており、厚さ10cmほどの砂混じり粘土で構築している。

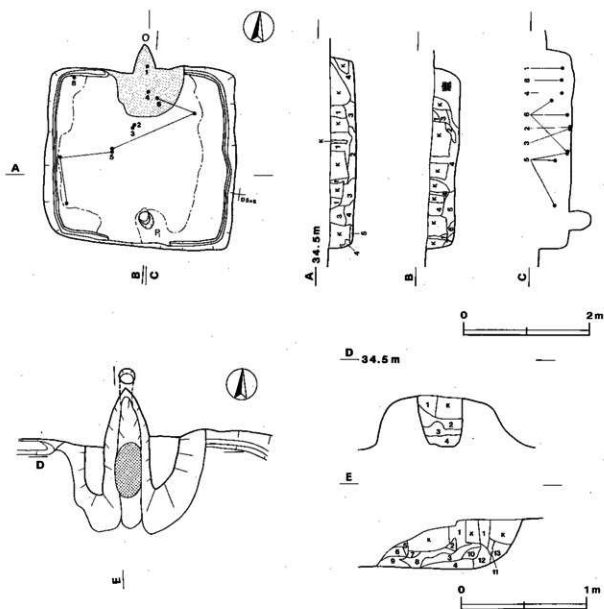
。袖部も砂混じり粘土を床面に貼り付けて構築している。火床部は、ほぼ平らで掘り窪めた形跡はない。

煙道部は、火床面から緩やかに外傾して立ち上がる。

電土層解説

- 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 黒褐色 ローム粒子中量
- 黒褐色 粘土粒子多量、ローム・焼土・炭化粒子微量
- 黒色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒少量、ローム粒子微量
- 暗褐色 粘土粒子中量、ローム粒子微量
- 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 暗赤褐色 粘土粒子少量、焼土・ローム粒子微量
- 暗赤褐色 粘土粒子中量、焼土・ローム粒子微量
- 黒褐色 焼土・ローム・粘土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 褐色 粘土粒子多量
- 褐色 粘土粒子多量、焼土・炭化・ローム粒子微量
- 褐色 粘土粒子多量、炭化材少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 焼土・ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子微量

覆土 7層からなる自然堆積である。



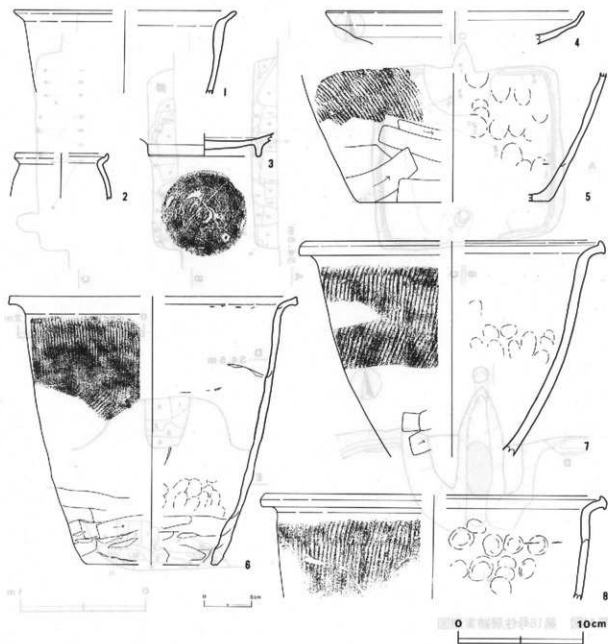
第44図 第18号住居跡実測図

土層解説

- | | | |
|---|-----|-----------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子少量・ローム小ブロック微量 |
| 2 | 暗褐色 | 砂粒多量、ローム粒子少量 |
| 3 | 暗褐色 | 砂粒中量、ローム粒子微量 |
| 4 | 暗褐色 | 砂粒少量、ローム粒子微量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム中・小ブロック・ローム粒子微量 |
| 6 | 暗褐色 | 砂粒中量、ローム粒子微量 |
| 7 | 暗褐色 | 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量 |

遺物 土師器片41点、須恵器片30点が出土している。出土量は、他の遺構に比べて少ない。第45図2の土師器小形甕と3の須恵器盤は竈前面の覆土下層から、4の須恵器盤は竈内の覆土中層からそれぞれ出土している。5の須恵器甕は西部の覆土中・下層から、6の須恵器甕は竈内の覆土中層と北部の覆土下層から出土したものが接合した。7の須恵器甕は、覆土中から出土している。8の須恵器甕は、北西コーナー部の覆土中層から出土している。1の土師器甕は流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀後半と思われる。



第45図 第18号住居跡出土遺物実測図

第18号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第45図 1	変形土師器	A (17.7)	体部から口縁部片。体部は内磨し。口縁部は長く外反する。口縁部の器肉は薄い。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・パミスにふい褐色	P126 5% 覆土中
		B (6.8)				
2	小形変形土師器	A (7.3)	体部から口縁部片。体部は内磨し。口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・明赤褐色	P127 5% 覆土下層
		B (3.6)				
3	甕	B (1.9)	高台部片。高台は短く、真下に伸びる。	底部回転へつ削り後、高台貼り付け。	長石・石英・針状鉱物 灰色	P128 10% 覆土下層
		D 8.8				
		E 0.9				
4	甕	A (20.4)	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。	長石・石英 灰色	P129 5% 覆土中層
		B (2.7)				

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第45図	甕 須恵器	B(10.4) C(15.2)	底縁から体部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内面ナテ、外面上位平行タタキ 下位手持ちヘラ削り。体部内面に指頭圧痕。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P130 10% 覆土中・下層
6	甕 須恵器	A(30.5) B 28.8 C(13.6)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾し、口縁部はゆるく外反する。口縁端部にわずかな稜を持つ。	口縁部内・外歪横ナテ。体部内面上位縦方向のナテ。下位横ナテ。体部外面上位平行タタキ、下位手持ちヘラ削り。体部内面に指頭圧痕。	長石・石英・雲母 褐灰色 普通	P131 20% P L25 覆土中層・覆土下層
		甕 須恵器	A(23.6) B(17.2)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾し、口縁部は「く」の字状に外反する。口縁端部は断面三角形の稜帯を持つ。	口縁部内・外面横ナテ。体部内面ナテ。体部外面上位平行タタキ、下位手持ちヘラ削り。体部内面に指頭圧痕。	長石・石英・雲母 灰色 普通
8	甕 須恵器	A(26.6) B(8.3)	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾し、口縁部は強く外反する。口縁端部は断面三角形の稜帯を持つ。	口縁部内・外面横ナテ。体部内面ナテ。体部外面上位平行タタキ。体部内面に指頭圧痕。	石英・雲母 灰色 普通	P133 10% 覆土中層

第19号住居跡 (第46図)

位置 調査区の西部, C5e7区。

規模と平面形 長軸3.48m, 短軸3.25mの方形である。

主軸方向 N-1°-W

壁 壁高は60-67cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅23cm, 下幅10cm, 深さ7cmで、断面形は逆台形である。

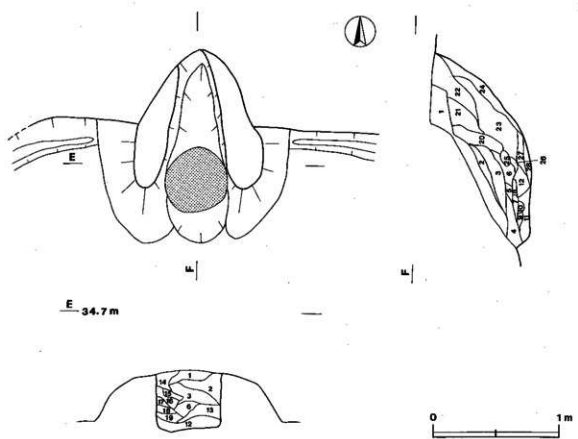
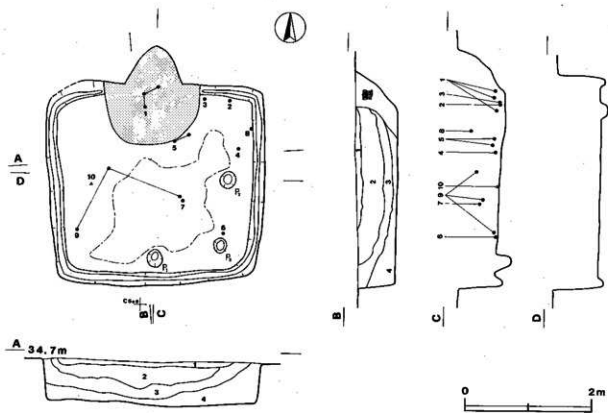
床 中央部から東部にかけて平坦で、踏み固められている。

ピット 3か所(P1-P3)。P1は長径29cm, 短径24cmの不整楕円形, 深さ24cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。P2-P3は長径24-27cm, 短径21-25cmの不整楕円形, 深さ13cm-16cmで、性格は不明である。

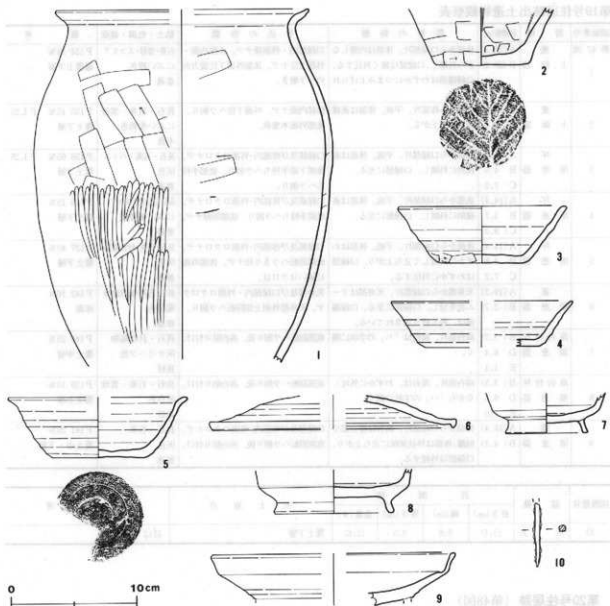
竈 北壁を壁外に60cmほど掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されており遺存状態はよい。天井部は崩落し、両側の袖部が残存している。規模は、笑口部から煙道部まで長さ150cm, 最大幅150cmで、遺跡内の他の竈に比べて大きい。火床部は、床面を浅く皿状に掘り窪められている。煙道部は、緩やかに外傾して立ち上がる。

甕土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・ローム粒子・砂粒少量, ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 砂粒少量, 炭化・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量
- 4 暗褐色 砂粒中量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 5 暗褐色 砂粒多量, 焼土粒子中量, 炭化・ローム粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 7 暗褐色 砂粒多量, ローム粒子少量, 焼土中ブロック微量
- 8 黒褐色 焼土粒子多量, 砂粒少量
- 9 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量, 焼土大ブロック・炭化粒子微量
- 10 暗褐色 砂粒少量, 焼土・炭化・ローム粒子微量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土中・小ブロック・炭化粒子・ローム大ブロック微量
- 12 暗赤褐色 炭化・ローム粒子・砂粒少量, 焼土・炭化粒子微量
- 13 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒少量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 14 暗赤褐色 砂粒多量, 焼土・炭化粒子微量
- 15 暗赤褐色 砂粒多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子微量
- 16 灰褐色 焼土粒子多量, 砂粒中量, 炭化粒子微量
- 17 暗褐色 焼土粒子・砂粒少量
- 18 暗褐色 焼土粒子・砂粒中量, 炭化粒子微量
- 19 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒・粘土ブロック少量
- 20 におい褐色 砂粒多量, 焼土・炭化粒子微量
- 21 灰褐色 砂粒中量・焼土小ブロック・ローム粒子少量
- 22 灰褐色 焼土粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量
- 23 灰赤色 焼土粒子中量, 炭化粒子・砂粒少量
- 24 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, 焼土粒子少量
- 25 におい褐色 焼土粒子・粘土ブロック中量, 炭化粒子微量
- 26 暗赤褐色 焼土粒子中量, 砂粒少量
- 27 におい褐色 焼土粒子多量, ローム小ブロック少量
- 28 におい褐色 ローム小ブロック多量, 焼土粒子少量



第46图 第19号住居跡実測图



第47図 第19号住居跡出土遺物実測図

覆土 ロームブロックを多量に含むことから、4層からなる人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム中ブロック中量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック中量、焼土粒子・ローム大・小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片304点、須恵器片124点、鉄滓等が出土している。遺物は、全体的に出土レベルが高く、比較的東部に集まっている。第47図1の土師器甕は竈内の覆土下層から、2の土師器甕、3の須恵器坏は北東部の覆土下層からそれぞれ出土している。4の須恵器坏は東部の覆土下層から、5の須恵器坏は竈前面の覆土下層から、6の須恵器蓋は南東部の床面直上から、7の須恵器高台付坏は、中央部の覆土中層から、8の須恵器高台付坏は北東部壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。9の須恵器蓋は、中央部の覆土中層と西部の覆土下層から出土したものが接合した。10の鉄釘は、西部の覆土下層から出土した。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と思われる。

第19号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第47図 1	土師器	A(20.2)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は強く外反する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面・外面上位ナデ。体部外面下位縦方向のへう磨き。	石英・雲母・スコリア に多い褐色 普通	P134 15% 覆土下層
		B(28.2)				
2	土師器	B(4.6)	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内面ナデ、外面下位へう磨り。底部外面木炭痕。	長石・石英・雲母 に多い赤褐色 不良	P135 15% P L25 覆土下層
		C(7.4)				
3	坏須恵器	A(13.4)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。体部下端手持ちへう磨り。底部手持ちへう磨り。	長石・石英・珩石 灰色 普通	P136 65% P L25 覆土下層
		B(4.5)				
4	坏須恵器	A(14.4)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。底部手持ちへう磨り。底部周縁ナデ。	長石・石英・珩石 に多い黄褐色 普通	P138 15% 覆土下層
		B(3.7)				
5	坏須恵器	A(14.4)	底部から口縁部片。平底。体部はわずかに内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。底部回転へう磨り後ナデ。体部外面に強いクロコナデ。	長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P137 40% 覆土下層
		B(4.8)				
		C(7.2)				
6	土師器	A(19.2)	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し、口縁部に至る。口縁端部は、短く折り返されている。	天井部及び体部内・外面クロコナデ。天井部外面上位回転へう磨り。	長石・石英・針状鉱物 褐色 普通	P142 10% 床面
		B(2.7)				
7	高台付坏須恵器	B(3.2)	高台部片。高台は「ハ」の字状に開く。	底部回転へう磨り後、高台貼り付け。	長石・針状鉱物 灰オリーブ色 良好	P140 25% 覆土中層
		D(6.4)				
		E(1.1)				
8	高台付坏須恵器	B(3.5)	高台部片。高台は、わずかに外反しながら「ハ」の字状に開く。	底部回転へう磨り後、高台貼り付け。	長石・石英・雲母 灰白色 良好	P139 10% 覆土上層
		D(9.5)				
		E(1.0)				
9	土師器	A(19.4)	体部から口縁部片。高台は機合部で割離。体部は外反気味に立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。底部回転へう磨り後、高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P141 25% 覆土中・下層
		B(4.1)				

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
10	鉄釘	(5.1)	0.8	0.5	(2.8)	覆土下層	M13 P L41

第20号住居跡 (第48図)

位置 調査区の西部、D5h4区。

重複関係 本跡は、第15号住居跡の東部を掘り込んでいることから、第15号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸3.39m、短軸2.81mの長方形である。

主軸方向 N-17°-W

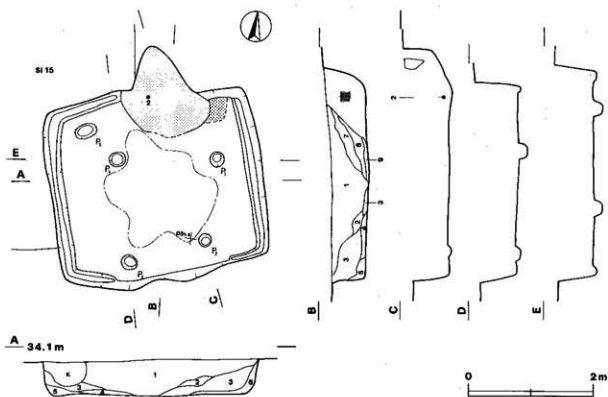
壁 壁高は58~67cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南壁中央部と、北壁東部を除いて全周する。上幅22cm、下幅7cm、深さ6cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

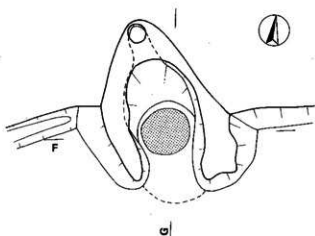
ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は、径24~27cmの不整形円形、深さ6~20cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P5は長径36cm、短径23cmの不整形円形、深さ13cmで性格は不明である。

竈 北壁中央部からやや東寄りの部分を三角形に掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は一部が遺存し、煙出部も検出できた。規模は、焚口部から煙道部までの長さ150cm、最大幅140cmである。火床部は、床面をわずかに掘り窪めている。煙道部は壁外へ大きく突出し、火床面から急に立ち上がっている。



A 34.1m

0 2m



F 34.1m

0 1m

第48図 第20号住居跡実測図

覆土層解説

- | | |
|----------|-----------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |
| 2 にぶい赤褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土・ローム粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量 |
| 5 灰褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子少量 |
| 6 にぶい赤褐色 | 粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量 |
| 7 にぶい赤褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子少量 |

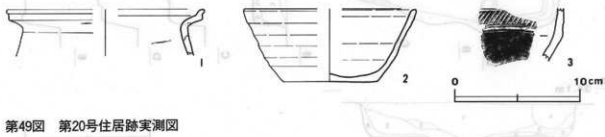
覆土 9層からなる。1～3層までが、ロームブロックを多量に含んでおり人為堆積と思われる。4～9層は、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物・ローム少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック多量, 炭化物・ローム少量, 焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, 炭化物微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土・ローム・粘土粒子少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量, 炭化物微量

遺物 土師器片79点, 須恵器片35点等が出土している。第49図1の土師器甕は北西部の覆土中から, 2の須恵器坏は竈内の覆土下層からそれぞれ出土している。3は, 本跡から出土した須恵器長頸壺の体部片の拓影図で, 上位にヘラ状工具によるきざみ目が見られる。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から平安時代(9世紀前葉)と思われる。



第49図 第20号住居跡実測図

第20号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
第49図 1	甕 土師器	A (15.6)	体部から口縁部片。体部は内押し、口縁部は強く外反する。口縁部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面に輪積み痕。	長石・石英・雲母にふい白色	P143 5% 覆土中	
		B (3.7)					普通
2	坏 須恵器	A (13.6)	底部から口縁部片。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ削り後ナデ。底部周縁ナデ。体部外側に強い口クロ目。	長石・針状鉱物灰オリーブ色	P144 30% 覆土下層	
		B 5.9					普通
		C 7.2					普通

第21号住居跡 (第50図)

位置 調査区の西部, D5e区。

規模と平面形 長軸3.80m, 短軸 (2.28) mの〔方形〕と思われる。

主軸方向 N-113°-E

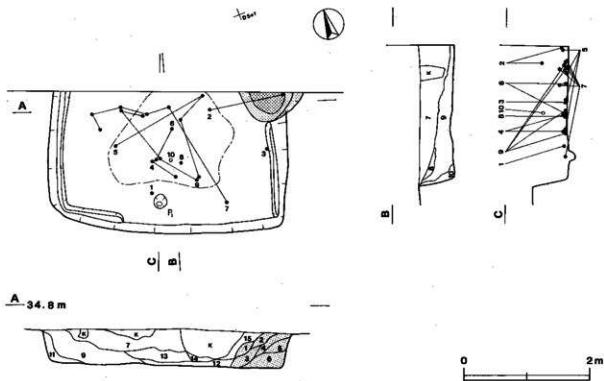
壁 壁高は50~57cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には, 南壁の一部を除いて壁溝が回っている。上幅24cm, 下幅6cmで, 断面形はU字形である。

床 確認された床面は平坦で, 中央部は踏み固められている。

ビット 1か所 (P1)。P1は長径24cm, 短径21cmの不整楕円形, 深さ12cmで性格は不明である。

竈 東壁を壁外に掘り込み, 砂まじり粘土で構築している。北側が調査区外のため, 規模は不明である。遺存状態が悪く, 右袖部に残っていない。火床部は, 床面と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は, 壁の内側から壁外へ急に立ち上がっている。



第50図 第21号住居跡実測図

■土層解説

- 1 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗赤褐色 ローム粒中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 4 にぶい赤褐色 炭化物中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土大・中・小ブロック中量、炭化粒子少量

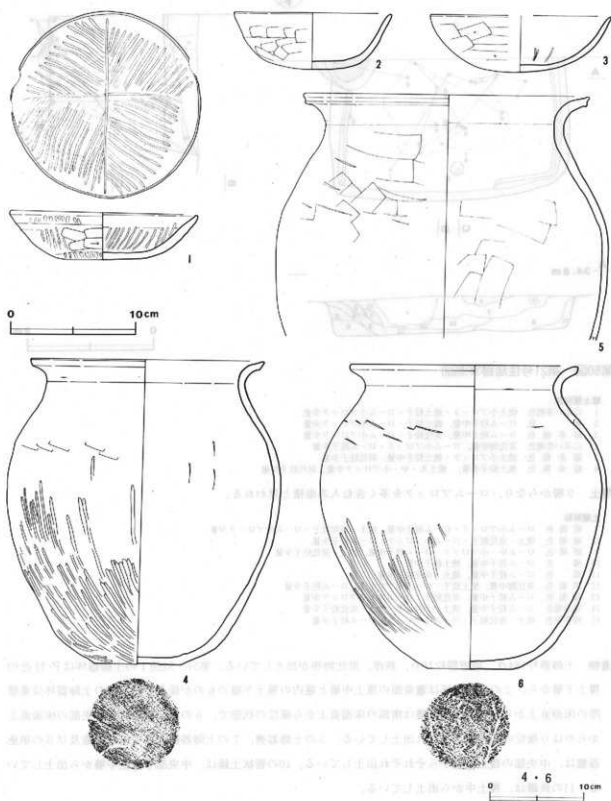
覆土 9層からなり、ロームブロックを多く含む人為堆積と思われる。

■土層解説

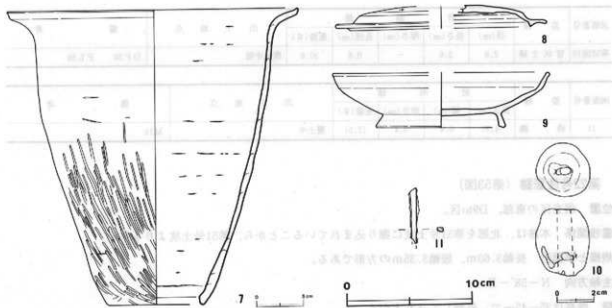
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土・炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 8 暗褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量、焼土・炭化粒子少量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 11 暗褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化粒子少量
- 12 暗褐色 炭化物中量、焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 13 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム中・小ブロック少量
- 14 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量
- 15 暗赤褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片184点、須恵器片19点、鉄滓、炭化物等が出土している。第51・52図1の土師器環はP₁付近の覆土下層から、2の土師器環は竈前面の覆土中層と竈内の覆土下層のものが接合した。3の土師器環は東壁際の床面直上から、4の土師器環は南部の床面直上から横位の状態で、6の土師器環は、中央部の床面直上からやはり横位の状態でそれぞれ出土している。5の土師器環、7の土師器環、8の須恵器蓋及び9の須恵器蓋は、中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。10の管状土鏝は、中央部の覆土中層から出土している。11の鉄鏝は、覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。



第51图 第21号住居跡出土遺物実測図(1)



第52図 第21号住居跡出土遺物実測図(2)

第21号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第51図 1	土師器 上部	A 14.8	口縁部一部欠損。丸みを帯びた平底。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ	石英・スコリア	P145 95% P L26
		B 3.8	体部はほぼ直線的に外傾し、口縁部	ナデ。外面へラ削り後ナデ。底部へラ	灰色	覆土下層
		C 6.8	に至る。口縁端部は上方につまみ上	げら後ナデ。体部・底部内面に暗文。	良好	
2	土師器 坏	A 12.6	底部から口縁部片。丸みを帯びた平	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ	石英・スコリア	P146 60%
		B 4.5	底。体部は内彎気味に外傾し、口縁	ナデ。外面へラ削り後ナデ。底部手持	にぶい橙色	覆土中・覆土下層
3	土師器 坏	A(14.4)	底部から口縁部片。丸底。体部は内	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ	雲母	P147 50%
		B 4.5	彎しながら外傾し、口縁部に至る。	ナデ。外面へラ削り後ナデ。	にぶい橙色	床面
4	土師器 甕	A 24.6	体部一部欠損。平底。体部は内彎し	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ	長石・石英・雲母	P148 95% P L26
		B 32.7	ながら外傾し、口縁部は強く外反す	ナデ。体部外面上位ナデ。中位から下	にぶい橙色	床面
		C 9.3	る。口縁端部は、つまみ上げられて	位へラ磨き。体部外面上位へラ当	普通	体部外面に準付着
5	土師器 甕	A 22.5	体部は内彎し、口縁部は強く外反す	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外	長石・石英・雲母・ピリス	P150 35%
		B(19.5)	る。口縁端部は、外上方につまみ上	面ナデ。一部板状工具によるナデ。	にぶい黄褐色	覆土下層
6	土師器 甕	A 24.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ	長石・石英・雲母	P149 35% P L26
		B 32.5	しながら外傾し、口縁部は強く外反	ナデ。体部外面上位ナデ。下位へラ磨	にぶい黄褐色	床面
		C 9.0	する。口縁端部は、つまみ上げられて	き。底部外面木製痕。	良好	
第52図 7	土師器 飯	A 31.1	口縁部一部欠損。無底式。体部は直	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ	長石・石英・雲母・スコリア	P151 95% P L26
		B 31.6	線的に外傾し、口縁部は強く外反す	ナデ。外面上位ナデ。外面下位へラ磨	にぶい黄褐色	覆土下層
		C 10.2	る。口縁端部は、つまみ上げられて	き。体部内・外面に輪轆み痕。	良好	
8	産須恵	A(16.8)	つまみ欠損。天井部はドーム状を呈	天井部及び口縁部内・外面クロクロナ	石英・雲母・スコリア	P153 10%
		B(1.9)	し、外面に明確な段を持つ。口縁端	デ。天井部外面上位回転へラ削り。	灰白色	覆土下層
9	産須恵	A(17.1)	体部一部欠損。高台は寛く「ハ」の	口縁部及び内・外面クロクロナデ。	長石・石英・針状鉱物	P152 60% P L26
		B 4.5	字状に開く。体部は内彎気味に外傾	底部回転へラ削り後、高台貼り付け	灰黄褐色	覆土下層
		D 10.3	し、口縁部は直線的に外傾する。		普通	
		E 1.1				

図版番号	器 種	計 測 値					出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	長さ (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第52図10	管状土師	2.8	3.6	—	0.8	30.6	覆土中層	DP30 P L36

図版番号	器 種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
11	鉄 鏝	(4.5)	0.4	0.4	(2.5)	覆土中	M14

第22号住居跡 (第53図)

位置 調査区の東部, D9b7区。

重複関係 本跡は, 北部を第51号土坑に掘り込まれていることから, 第51号土坑よりも古い。

規模と平面形 長軸3.60m, 短軸3.35mの方形である。

主軸方向 N-58°-E

壁 壁高は35-45cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁下を除いて全周する。上幅15cm, 下幅5cm, 深さ7cmで, 断面形はU字形である。

床 平坦で, 中央部は踏み固められている。

ピット 2か所 (P₁・P₂)。P₁・P₂は長径30-44cm, 短径15-29cmの不整楕円形, 深さ13-26cmで, 性格は不明である。

貯蔵穴 南コーナー部に付設され, 長径71cm, 短径67cmの不整楕円形である。深さは41cmで, 鉋鉢状に掘られている。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量

竈 北東壁中央からやや南よりを壁外に80cmほど掘り込み, 砂混じりの粘土で構築されているが遺存状態が悪く, 両袖部とも残存していない。火床部は, 床面を浅く皿状に掘り窪められている。煙道部は, 火床面から緩やかな傾斜で外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 焼土・ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 焼土粒子・砂粒少量, 炭化・ローム粒子微量
- 6 暗赤褐色 砂粒多量, 焼土小ブロック中量, 焼土粒子少量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒多量, 焼土小ブロック少量

炉 中央部から西よりに位置し, 長径60cm, 短径52cmの不整楕円形で, 床面を10cm掘り窪めた地床炉である。

炉床は赤変硬化している。

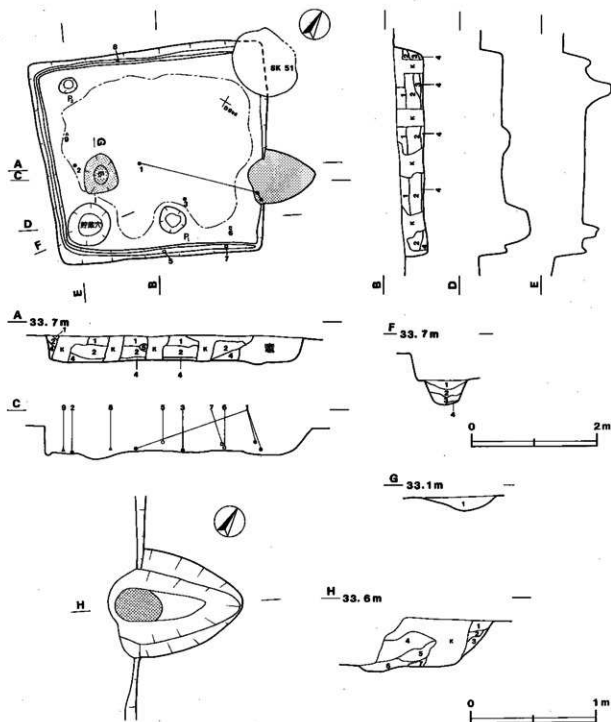
炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量, 焼土中ブロック中量

覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

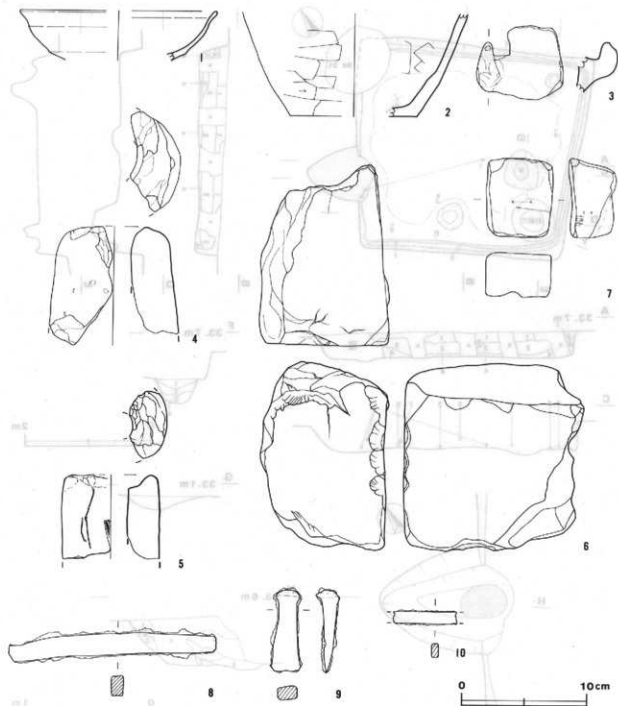
- 1 暗褐色 焼土・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム大ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 黒褐色 炭化・ローム粒子微量



第53図 第22号住居跡実測図

遺物 土師器片182点、須恵器片14点、羽口等が出土している。第54図1の土師器器坏は壺内の覆土下層と中央部の覆土下層から、2の土師器甕は炉西側の床面直上から、3の土師器甌はP1付近の床面直上からそれぞれ出土している。4の羽口は覆土中から、5の羽口は南東壁際の覆土下層から出土している。6の金床石は東コーナー部の覆土下層から、7の砥石は6の金床石近くの東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。8の鉄鋌は北西壁際の覆土下層から、9の釜は西部の床面直上から、10の鉄鋸は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀前葉）と思われる。



第54図 第22号住居跡出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表

国史実業部資料館 図52号

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第54図 1	土師器 環	A [15.6] B (4.0)	体部は内斡しながら外傾し、口縁部は緩く外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・雲母 褐色 普通	P154 20% 甕履上下層・甕上下層
2	土師器 甕	B (8.4) C [10.2]	体部は内斡気味に外傾して立ち上がる。	体部内面ナデ、一部ヘラナデ。体部外面下位手持ちヘラ削り。	長石・石英・スコリア にぶい赤褐色 不良	P155 5% 床面
3	土師器 瓶	B (6.1)	把手、把手は体部外面に取り付けられ、カギの手状を呈する。	体部内・外面及び把手ともにナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P156 5% 床面

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径	重量(g)		
第54図4	羽口	[10.4]	(8.4)	不明	(206.1)	覆土中	DP31 P L37
5	羽口	[7.9]	(6.7)	不明	(83.2)	覆土下層	DP32

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
6	金床石	15.1	10.2	14.4	3327.4	砂岩	覆土下層	Q7
7	砥石	6.3	5.3	3.5	170.4	凝灰岩	覆土下層	Q8

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
8	鉄錠	(16.4)	1.7	1.1	(110.3)	覆土下層	M15 P L41
9	錠	6.6	2.4	1.9	45.5	床面	M16 P L41
10	鉄錠	5.1	1.0	0.8	10.1	覆土中	M17

第23号住居跡(第55図)

位置 調査区の西部, C5hs区。

重複関係 本跡は, 第6号溝を掘り込んでいることから, 第6号溝よりも新しい。

規模と平面形 長軸3.77m, 短軸3.60mの方形である。

主軸方向 N-1°-W

壁 壁高は45-50cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅30cm, 下幅6cm, 深さ7cmで, 断面形はU字形である。

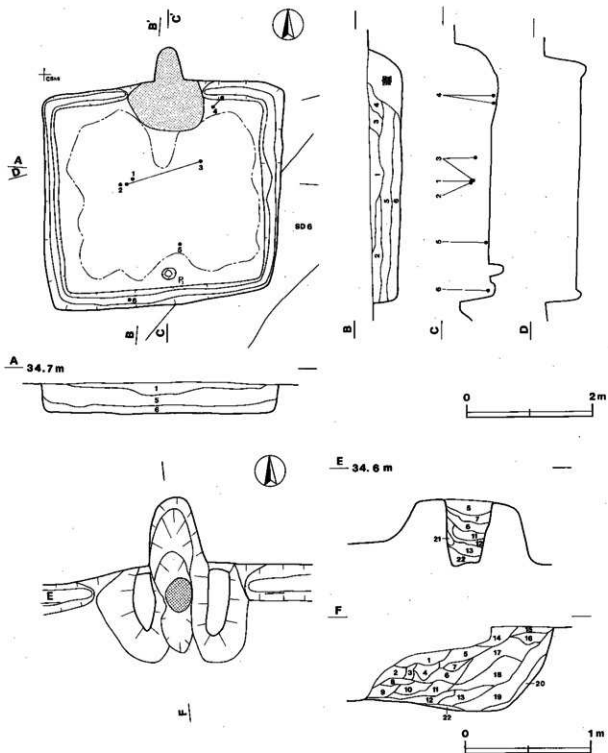
床 平坦で, わずかに踏み固められている。

ピット 1か所(P₁)。P₁は長径22cm, 短径19cmの不整形円形, 深さ23cmで, 配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部を壁外に55cmほど掘り込み, 砂泥じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残っている。規模は, 焚口部から煙道部まで125cm, 最大幅120cmである。火床部は, 床面をわずかに掘り窪めており赤変硬化している。煙道部は, 火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 暗褐色 砂粒中量, ローム粒子少量
- 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量
- 暗褐色 砂粒多量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 暗褐色 砂粒中量, ローム粒子少量
- 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量, 焼土粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量
- 暗褐色 ローム粒子中量, 砂粒少量
- 暗褐色 砂粒多量, ローム粒子
- 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 黒褐色 砂粒多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 暗褐色 焼土粒子中量, 砂粒少量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック微量
- 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 黒褐色 ローム粒子微量, 炭化・粘土粒子微量
- 黒褐色 粘土粒子多量, 炭土・ローム粒子微量
- 黒褐色 ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 黒褐色 粘土粒子多量, ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 黒褐色 粘土多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量
- にじみ褐色 砂粒多量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 暗褐色 砂粒中量, 焼土・炭化粒子少量

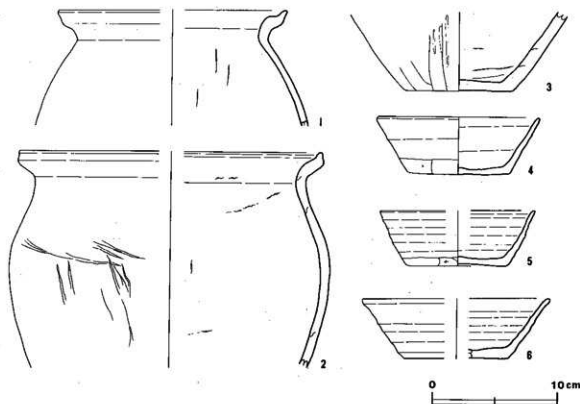


第55図 第23号住居跡実測図

覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-------|---|
| 1 褐色 | ローム粒子中量, ローム中・小ブロック微量, 炭化粒子微量 |
| 2 灰褐色 | ローム粒子中量, ローム中・小ブロック微量 |
| 3 灰褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック微量, 焼土粒子微量 |
| 5 灰褐色 | ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量 |
| 6 褐色 | ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量 |



第56図 第23号住居跡出土土遺物実測図

第23号住居跡出土土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第56図 1	甕 土師器	A [18.2]	体部は内脚し、口縁部は強く外反する。口縁端部は直線的に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	胎土・色調・焼成 長石・石英・コリア にぶい橙色 普通	P 158 5% 覆土中層
		B (9.2)				
2	甕 土師器	A [24.2]	体部は内脚し、口縁部は強く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面に輪轆み成。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 157 15% 覆土中層
		B (17.3)				
3	甕 土師器	B (6.4)	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内面ナデ、外面下位ヘラ磨き。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P 159 5% 覆土中層
		C 8.6				
4	坏 須恵器	A 13.0	口縁部一部欠損。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P 160 80% P L 26 床面
		B 4.5				
		C 8.1				
5	坏 須恵器	A [12.2]	底部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英 灰黄色 良好	P 161 60% P L 26 床面
		B 4.4				
		C 7.8				
6	坏 須恵器	A [14.9]	底部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部ヘラ切り後ナデ。	長石・石英・コリア 普通	P 162 45% P L 26 覆土下層
		B 4.8				
		C (8.3)				

遺物 土師器片145点、須恵器片58点等が出土している。第56図1～3の土師器甕はいずれも中央部の覆土中層から出土している。4の須恵器坏は北壁際東部の床面直上から、5の須恵器坏は南部の床面直上から、6の須恵器坏は南壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と思われる。

第24号住居跡（第57図）

位置 調査区の西部、C5ha区。

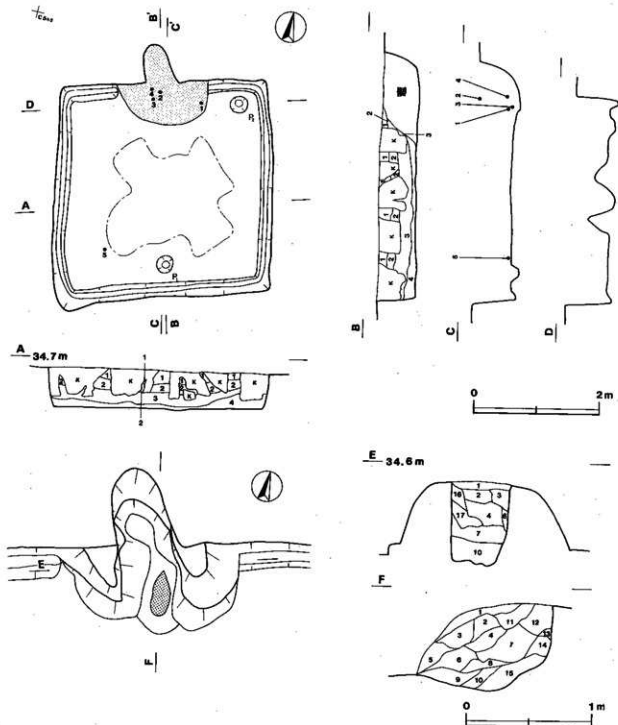
規模と平面形 一辺3.45mの方形である。

主軸方向 N-15°-W

壁 壁高は57-65cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅24cm、下幅27cm、深さ7cmで、断面形は逆台形である。

床 平坦で、わずかに縛まりがある。



第57図 第24号住居跡実測図

ピット 2か所 (P₁・P₂)。P₁は長径29cm、短径25cmの不整楕円形、深さ12cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。P₂は径27cmの不整形円形、深さ12cmで、性格は不明である。

竈 北壁中央部を壁外に63cmほど掘り込み、砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部まで130cm、幅140cmである。火床部は、床面を15cm程掘り窪めている。煙道部は火床面から緩やかに外傾し、中位からはほぼ垂直に立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・炭化・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土大ブロック・焼土・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量、焼土中ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 7 暗褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子・砂粒少量、炭化粒子微量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化・ローム粒子・砂粒少量
- 9 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 10 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子少量
- 11 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 12 暗赤褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 13 暗赤褐色 ローム粒子微量
- 14 暗赤褐色 焼土・ローム粒子少量、焼土中ブロック・炭化粒子微量
- 15 暗赤褐色 焼土大・中ブロック・焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 16 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子少量
- 17 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム中ブロック少量、ローム小ブロック微量

覆土 攪乱を受けているものの、4層からなる自然堆積である。

土層解説

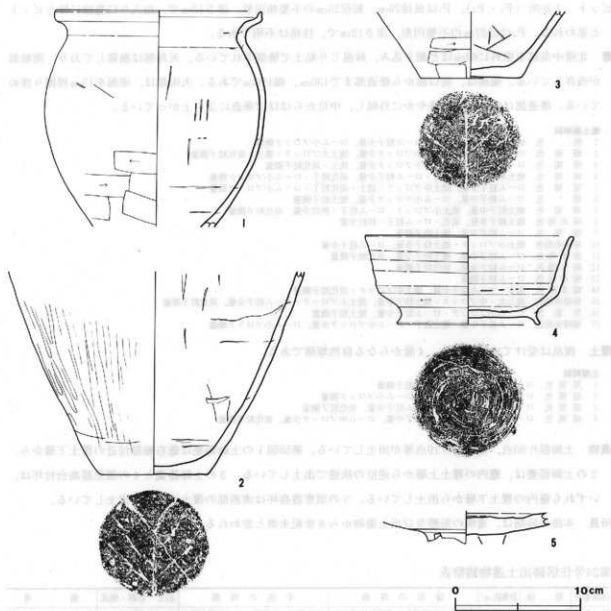
- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片80点、須恵器片19点等が出土している。第58図1の土師器甕は竈右袖部付近の覆土下層から、2の土師器甕は、竈内の覆土上層から逆位の状態で出土している。3の土師器甕と4の須恵器高台付環は、いずれも竈内の覆土下層から出土している。5の須恵器高台は南西部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀末葉と思われる。

第24号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
58 国	1 土師器	A 16.5	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し口縁部は強く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面上位ナデ、下位手持ちヘラ削り。	長石・石英・スコリアに多い褐色	P164 40% 覆土下層
		B (17.4)				
2	土師器	B (16.3)	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	体部内面ナデ、外面下位ヘラ磨き。体部内面に輪積み痕。底部外面木葉痕。	長石・石英・スコリア 明褐色	P165 30% 覆土上層
		C 8.5				
3	土師器	B (5.4)	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内面ナデ、一部ヘラナデ。体部外面手持ちヘラ削り後ナデ。底部外面木葉痕。	長石・石英・雲母 褐色	P166 15% 覆土下層
		C 8.0				
4	高台付環	A 16.4	口縁部一部欠損。高台は短く「ハ」の字状に外反しながら開く。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部ヘラ削り成。高台張り付け。	長石・石英・スコリア 灰白色	P167 95% 覆土下層
		B 7.1				
		D 11.3				
		E 1.3				
5	須恵器	B 2.6	環部・脚部片。環部は緩やかに外傾する。脚部は四方達かし。	環・脚部横ナデ。	長石・石英 浅黄色	P168 10% 覆土下層



第58図 第24号住居跡出土遺物実測図

第25号住居跡 (第59図)

位置 調査区の西部, D5a3区。

重複関係 本跡は, 第27号住居跡の西部を掘り込んでおり, また, 第28号住居跡の床の上に本跡の床を構築していることから両遺構よりも新しい。

規模と平面形 長軸3.70m, 短軸3.42mの方形である。

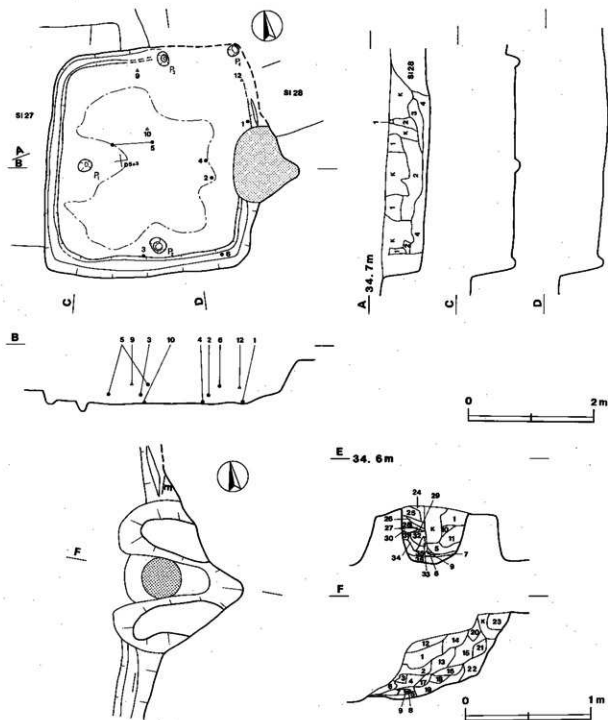
主軸方向 N-103°-E

壁 壁高は65~72cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北東コーナー部壁下を除き全周する。上幅22cm, 下幅13cm, 深さ8cmで, 断面形は逆台形である。

床 平坦で, 中央部は踏み固められ締まりがある。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁は長径24cm, 短径20cmの不整楕円形, 深さ20cmで, 出入り口施設に伴うピットと思われる。P₂~P₄は長径24~28cm, 短径17~22cmの不整楕円形, 深さ19~33cmで性格は不明である。



第59図 第25号住居跡実測図

竈 東壁は中央部を壁外に60cm程掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落し、両側の袖部が残存している。規模は、突口部から煙道部まで長さ95cm、最大幅120cmである。火床部は、床面をわずかに掘り窪めた程度である。煙道部は、火床面から直線的に立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | |
|---|--------|----------------------------|
| 1 | 暗 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量 |
| 2 | にぶい赤褐色 | 粘土粒子多量、焼土・炭化粒子少量、ローム粒子微量 |
| 3 | 暗 褐色 | 粘土粒子多量 |
| 4 | 暗 赤褐色 | 粘土粒子多量、焼土粒子中量、炭化・ローム粒子微量 |
| 5 | 暗 赤灰色 | 焼土・粘土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 6 | 黒 褐色 | 粘土粒子少量、焼土・炭化・ローム粒子微量 |

- 7 暗赤褐色 焼土小ブロック微量
 8 暗赤褐色 焼土・粘土粒子微量
 9 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土粒子微量
 10 暗赤褐色 焼土粒子・炭化材・炭化・粘土粒子少量
 11 暗赤褐色 粘土粒子少量、炭化・ローム粒子微量、焼土粒子微量
 12 暗赤褐色 炭化・ローム・粘土粒子少量
 13 暗赤褐色 炭化・ローム・粘土粒子少量、焼土粒子微量
 14 暗赤褐色 ローム・粘土粒子少量、焼土・炭化粒子微量
 15 暗赤褐色 粘土粒子多量、焼土粒子微量、焼土小ブロック・炭化材・炭化物・炭化粒子・ローム粒子少量
 16 暗赤褐色 焼土・炭化・ローム・粘土粒子少量
 17 暗赤褐色 焼土・ローム粒子少量
 18 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量
 19 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
 20 暗赤褐色 粘土粒子多量、炭化・ローム粒子少量
 21 暗赤褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
 22 暗赤褐色 ローム中ブロック中量、ローム大ブロック少量
 23 暗赤褐色 ローム中・小ブロック・ローム・粘土粒子少量
 24 暗赤褐色 ローム粒子・粘土少量、焼土粒子微量
 25 暗赤褐色 粘土粒子多量、炭化物・炭化・ローム粒子少量
 26 暗赤褐色 焼土・ローム・粘土粒子少量、炭化粒子微量
 27 暗赤褐色 粘土粒子少量、焼土・ローム粒子少量
 28 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化・粘土粒子少量
 29 暗赤褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量
 30 暗赤褐色 粘土粒子多量、炭化・ローム粒子少量
 31 暗赤褐色 焼土粒子多量、粘土粒子少量
 32 暗赤褐色 焼土・粘土粒子少量
 33 暗赤褐色 焼土粒子多量
 34 暗赤褐色 焼土粒子多量、炭化物微量
 35 暗赤褐色 焼土・粘土粒子少量
 36 暗赤褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

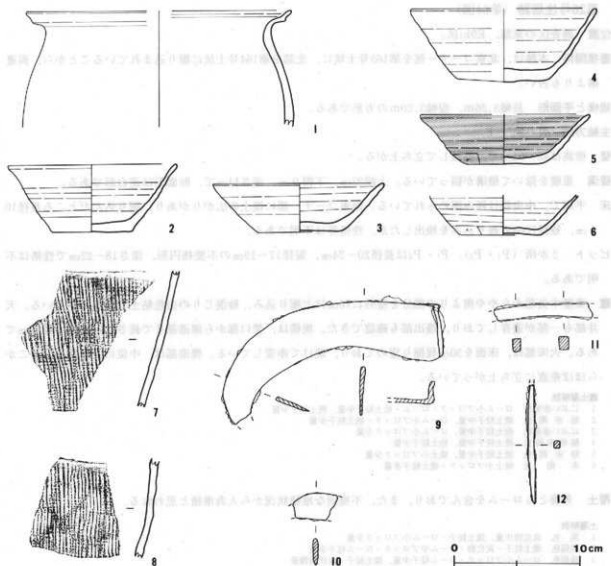
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
 2 褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
 3 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック少量
 4 黒褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片65点、須恵器片36点、鉄製品等が出土している。第60図1の土師器甕は東壁際の覆土下層から、2・4の須恵器坏は東部竪前面の覆土下層から、2は正位の状態で、4は逆位の状態出土している。3の須恵器坏は南壁際の覆土下層から逆位の状態、5の須恵器坏は中央部の覆土中層から出土している。6の須恵器坏は、南東コーナー部壁際の覆土中層から出土している。7・8は、本跡から出土した須恵器甕の体部片の拓影図で、外面に縦格子目タタキが施されている。9の鉄鏝は北壁際の覆土中層から、10の鉄鏝は中央部の床面直上からそれぞれ出土している。11の鉄鏝は覆土中から、12の鉄釘は北東部壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀中葉）と思われる。

第25号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第60図	甕	A(21.0)	体部から口縁部片。体部は内巻し、	口縁部内・外面線ナデ。体部内・外	長石・石英・ノミス	P169 5%
1	土師器	B(9.4)	口縁部は強く外巻する。口縁部は外上方つまみ上げられている。	面ナデ。	灰白色	覆土下層
2	坏	A 13.5	体部は直線的に外巻し、口縁部はわずかに外巻する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。底部周縁ナデ。	長石・石英・赤鉄粉・小礫	P170 100% P L27
	須恵器	B 5.4			灰黄色	覆土下層
		C 6.4			良好	
3	坏	A 13.6	口縁部一部欠損。体部は直線的に外巻し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母	P171 90% P L27
	須恵器	B 3.8			灰白色	覆土下層
		C 6.8			普通	底部外面に二次火焼痕
4	坏	A(14.8)	底縁から口縁部片。体部は直線的に	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・赤鉄粉・小礫	P172 45%
	須恵器	B 5.9	外巻し、口縁部に至る。	体部外面に強いロクロ目。底部回転ヘラ削り。底部周縁ナデ。	灰白色	覆土下層
		C 7.1			良好	



第60図 第25号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第60図 5	坏 須恵器	A (13.4)	底部から口縁部片。体部は直線的に外傾し、口縁部は緩く外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。体部内・外面黒色処理。	長石・石英・雲母 暗灰黄色 普通	P 173 45% 覆土中層
		B 4.0				
		C 5.8				
6	坏 須恵器	B (3.2)	底部から体部片。体部は内彎気味に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端回転ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母・ハイス 灰黄色 普通	P 174 80% 覆土中層
		C 6.4				

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
9	鉄 鎌	(17.9)	4.5	0.4	(92.6)	覆土中層	M19 P L 40
10	鉄 鎌	(6.0)	2.3	0.5	(5.4)	床面	M20 P L 40
11	鉄 釘	7.8	1.2	0.8	31.4	覆土中	M21
12	鉄 釘	(9.5)	0.6	0.6	(6.9)	覆土中層	M22 P L 41

第26号住居跡（第61図）

位置 調査区の東部、E9h区。

重複関係 本跡は、北東コーナー部を第163号土坑に、北部を第164号土坑に掘り込まれていることから、両遺構よりも古い。

規模と平面形 長軸3.36m、短軸3.20mの方形である。

主軸方向 N-85°-E

壁 壁高は48-52cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁を除いて壁溝が回っている。上幅22cm、下幅9cm、深さ11cmで、断面形は逆台形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。南東コーナー部に焼土の広がりがあり、掘り込んだところ長径105cm、短径70cmの掘り込みを検出したが、性格等は不明である。

ピット 2か所（P₁・P₂）。P₁・P₂は長径20-24cm、短径17-19cmの不整楕円形、深さ18-22cmで性格は不明である。

竈 東壁中央部からやや南よりの部分を壁外に70cmほど掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部も一部が遺存しており、煙道部も確認できた。規模は、焚口部から煙道部まで長さ130cm、最大幅95cmである。火床部は、床面を30cm程掘り窪めており、焼けて赤変している。煙道部は、中位に段を持ち、そこからほぼ垂直に立ち上がっている。

覆土層解説

- 1 ぶい赤褐色 ローム小ブロック・ローム・粘土粒子中量、焼土粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 3 ぶい赤褐色 焼土粒子中量、ローム小ブロック少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量、粘土粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量
- 6 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量

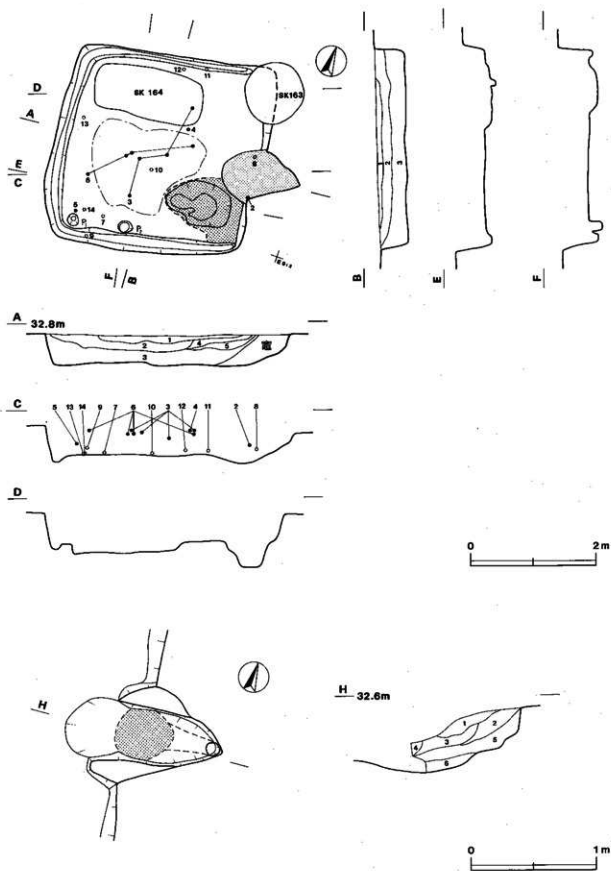
覆土 各層ともロームを含んでおり、また、不規則な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

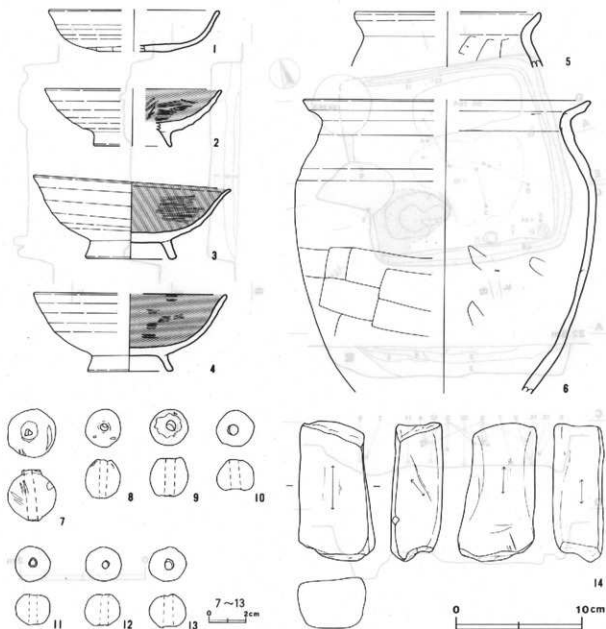
- 1 黒色 炭化物中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化物・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化材微量
- 4 暗褐色 炭化材・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 焼土粒子・炭化物少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片370点、須恵器片37点、土玉7点、砥石1点の他、鉄滓が88.5kg出土している。鉄滓が一つの住居跡からこれほど多量に検出されたのは、本跡を廃棄する際に投棄された可能性が高い。第62図1の土師器坏は、覆土中から出土している。2の土師器高台付坏は竈右袖部付近の覆土中層から、3・4の土師器碗は中央部の覆土上層から出土している。5の土師器亮は南西コーナー部の覆土中層から出土し、6の土師器亮は中央部と南西部の覆土上層から出土したものが接合した。7の土玉は南部の覆土下層から、8の土玉は竈左袖部付近の覆土中層から、9の土玉は南西コーナー部壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。10の土玉は中央部の覆土下層から、11の土玉は北壁際の覆土下層から、12の土玉は北壁際の中央部覆土下層から、13の土玉は西部の床面直上からそれぞれ出土している。14の砥石は、南西コーナー部の床面直上から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀中葉）と思われる。



第61图 第26号住居跡実測图



第62図 第26号住居跡出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 62 図 1	土 師 器	A [13.4]	底部から口縁部片。平底。体部は内 彎しながら外傾し。口縁部はわずかに 外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナテ。 体部下端手持ちヘラ削り。	長石・雲母 棕色 普通	P644 15% 覆土中
		B 3.4				
		C [5.8]				
2	土 師 器	A [14.0]	高台部から口縁部片。高台は「ハ」 の字状に外反する。高台端部は器内 が深い。	口縁部及び体部内・外面口クロナテ。 体部内面ヘラ磨き。底部切り離し後、 高台貼り付け。体部内面黒色処理。	雲母 にぶい棕色 普通	P175 15% 覆土中層
		B 4.6				
		D [6.2]				
		E 1.2				
3	土 師 器	A 15.6	高台部から口縁部片。高台は「ハ」 の字状に開く。	口縁部及び体部内・外面口クロナテ。 底部切り離し後、高台貼り付け。体 部内面ヘラ磨き。体部内面黒色処理。	長石・石英・雲母 ・スコリア にぶい棕色 普通	P645 75% P L27 覆土上層
		B 6.5				
		D 7.1				
		E 1.5				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 62 図 4	土 師 器	A [15.2]	高台部から口縁部片。高台は「ハ」の字状に開く。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後、高台貼り付け。体部内面へラ磨き。体部内面黒色処理。	長石・石英・雲母 にふい黄褐色 普通	P 646 50% 覆土上層
		B 6.2				
		D 6.7				
		E 1.3				
5	土 師 器	A [14.6]	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は緩やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラナデ、外面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P 176 5% 覆土中層
		B [4.3]				
6	土 師 器	A [22.4]	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面下位横方向のへラ削り。	長石・スコリア にふい褐色 普通	P 647 20% 覆土上層
		B 23.5				

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
7	土 玉	2.6	2.8	0.4	15.5	覆土下層	DP 33 P L 36
8	土 玉	2.0	2.1	0.4	7.6	覆土中層	DP 34
9	土 玉	2.1	2.1	0.5	8.6	覆土下層	DP 35
10	土 玉	2.1	1.7	0.6	5.8	覆土下層	DP 36
11	土 玉	1.9	1.6	0.4	5.7	覆土下層	DP 37
12	土 玉	1.9	1.6	0.4	5.8	覆土下層	DP 38
13	土 玉	2.0	1.8	0.5	5.1	床面	DP 39

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
14	砥 石	11.1	6.1	4.1	457.3	凝灰岩	床面	Q9 P L 39

第27号住居跡 (第63図)

位置 調査区の西部、C5j₂区。

重複関係 本跡は、東部を第25号住居跡に掘り込まれていることから、第25号住居跡よりも古い。

規模と平面形 長軸3.52m、短軸3.25mの方形である。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は54cm-56cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 第25号住居跡に掘り込まれている部分と、北壁東部壁下を除いて全周する。上幅33cm、下幅10cm、深さ6cmで、断面形は逆台形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められ締まりがある。

ピット 1か所 (P₁)。P₁は長径25cm、短径20cmの不整楕円形、深さ22cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部を壁外に50cmほど掘り込み、砂混じり粘土で構築されているが攪乱を受け遺存状態は悪い。天井部は崩落しており、両側の椽部が残存している。規模は、突口部から煙道部まで長さ110cm、幅100cmである。火床部は、床面が10cmほど掘り窪められている。煙道部は、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

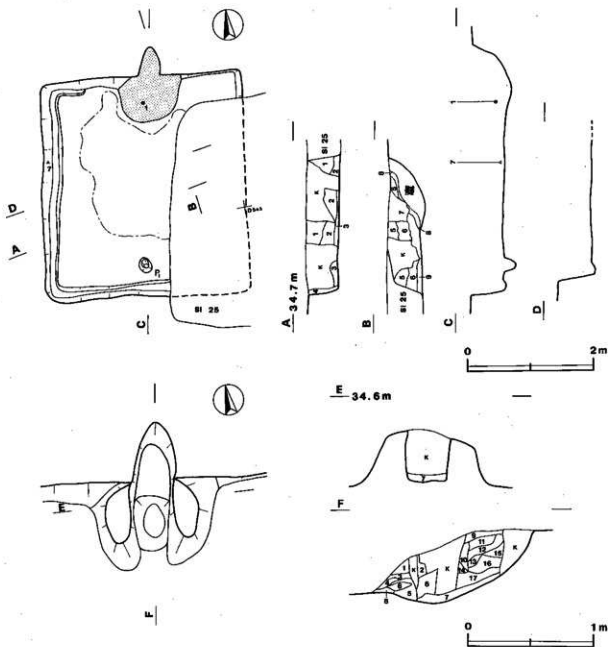
- 1 暗赤褐色 ローム、焼土粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子少量
- 3 暗赤褐色 灰化・粘土粒子少量、焼土・ローム粒子微量
- 4 暗赤褐色 ローム・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 5 淡褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量、炭化材微量
- 6 暗赤褐色 粘土多量、焼土粒子微量
- 7 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 8 暗赤褐色 粘土粒子少量、炭化粒子微量、焼土・ローム粒子微量
- 9 暗赤褐色 焼土・ローム粒子微量

- 10 暗赤褐色 焼土・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 11 暗赤褐色 焼土・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 12 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 13 にぶい赤褐色 焼土多量、焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 14 暗赤褐色 砂粒多量、焼土・ローム粒子少量
- 15 暗赤褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 16 暗赤褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 17 暗赤褐色 焼土・ローム粒子少量

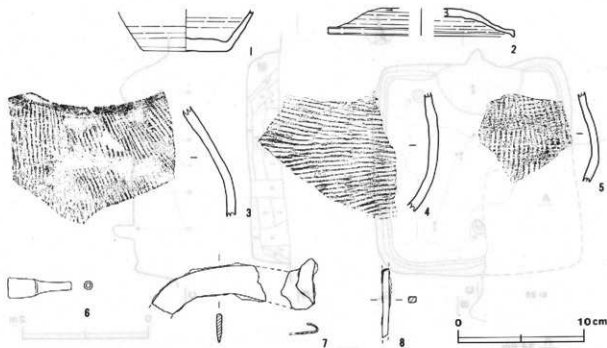
覆土 9層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 8 暗褐色 焼土・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 9 褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量



第63図 第27号住居跡実測図



第64図 第27号住居出土遺物跡実測図

第27号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第64図 1	須恵器 坏	B (3.4)	底部から体部片。体部は内層気味に外層して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部手持へラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P177 30% 電覆土中層
	須恵器 壺	C 6.8				
2	須恵器 壺	A (14.8)	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し、口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転へラ削り。	長石・石英・パミス 灰黄色 普通	P178 20% 電覆土中
	須恵器 坏	B (2.2)				

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	煙管	5.2	(1.7)	—	(5.2)	覆土中	M23 吸口径0.7cm PL41
7	鉄鎌	(9.7)+0.0	3.2	0.4	(29.5)	床面	M24 PL40
8	鉄釘	(5.5)	0.6	0.4	(4.6)	電覆土中	M26

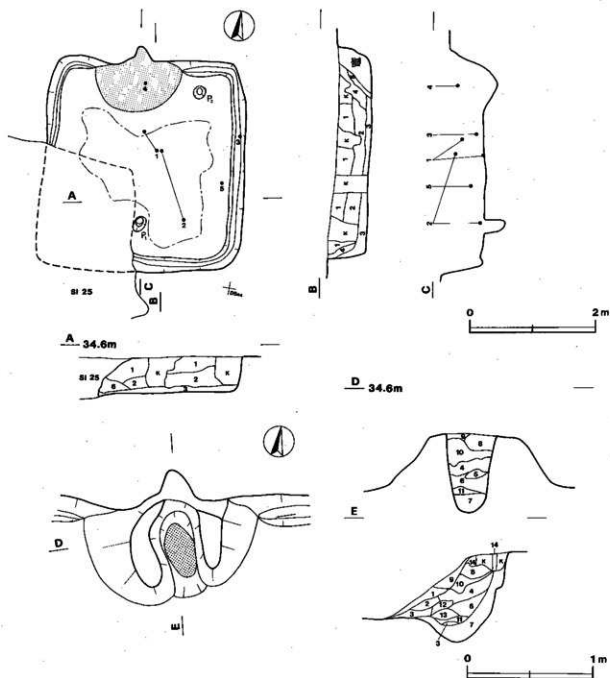
遺物 土師器片152点、須恵器片78点、鉄製品等が出土している。第64図1の須恵器坏は竈内の覆土中層から、2の須恵器壺と8の鉄釘は竈内の覆土中から出土している。3・4・5は本跡から出土した須恵器壺の体部片の拓影図で、3と5は外面の擬格子タタキ、4は横方向の平行タタキが施されている。6の煙管は覆土中から、7の鉄鎌は西壁際床面直上から出土している。8の鉄鎌は電覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、第25号住居跡に掘り込まれていることと出土遺物等から平安時代（9世紀前葉）と思われる。

第28号住居跡（第65図）

位置 調査区の西部、C5j区。

重複関係 本跡の床上に第25号住居跡の床を構築していることから、本跡は第25号住居跡よりも古い。



第65図 第28号住居跡実測図

規模と平面形 長軸3.42m, 短軸3.20mの方形である。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は62-68cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には, 第25号住居跡に掘り込まれている部分を除いて壁溝が回っている。上幅23cm, 下幅12cm, 深さ5cmで, 断面形はU字形である。

床 平坦で, 中央部は踏み固められ雑まりがある。

ピット 2か所 (P₁・P₂)。P₁は長径25cm, 短径18cmの不整楕円形, 深さ35cmで, 配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P₂は長径21cm, 短径18cmの不整楕円形, 深さ19cmで, 性格は不明である。

竈 北壁中央部を壁外に50cmほど掘り込み、砂混じり粘土で構築している。天井部は崩落しており、両側の袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部まで長さ105cm、最大幅140cmである。火床部は、床面から10cmほど皿状に掘り窪めている。煙道部は中位にわずかな段を持ち、火床面からはほぼ垂直に立ち上がっている。

覆土層解説

- 1 暗赤褐色 粘土粒子中量、焼土・炭化・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 粘土粒子少量、ローム・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 粘土粒子少量、ローム・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 粘土粒子少量、炭化・ローム粒子微量
- 5 黒褐色 粘土粒子少量、炭化・ローム粒子微量
- 6 黒褐色 焼土粒子中量、粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 7 暗赤褐色 焼土・ローム・粘土粒子中量、ローム粒子微量
- 8 暗赤褐色 焼土・炭化・ローム粒子微量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 10 暗赤褐色 粘土粒中量、焼土・炭化・ローム粒子微量
- 11 暗赤褐色 粘土粒子少量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 12 暗褐色 粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 13 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 14 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

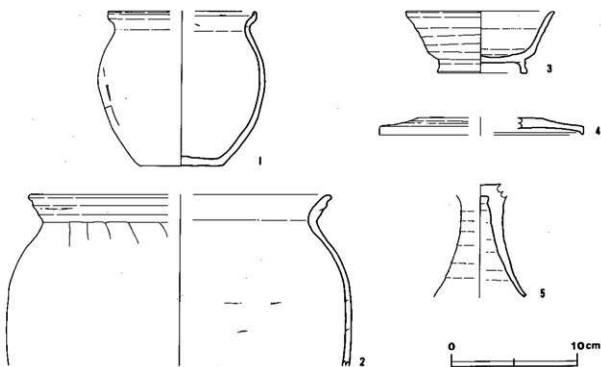
覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック中量、砂粒少量、焼土・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・粘土小ブロック・砂粒少量、焼土粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片180点、須恵器片90点、炭化材、鉄滓等が出土している。第66図1の土師器甕は中央部の覆土中層と下層から、2の土師器甕は東部の覆土中層と下層から出土したものが接合した。3の須恵器高台付坏は、東壁際の覆土中層から逆位の状態で出土している。4の須恵器蓋は竈内の覆土中層から、5の須恵器高坏の脚部は東部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と思われる。



第66図 第28号住居跡出土遺物実測図

第28号住居跡出土遺物観察表

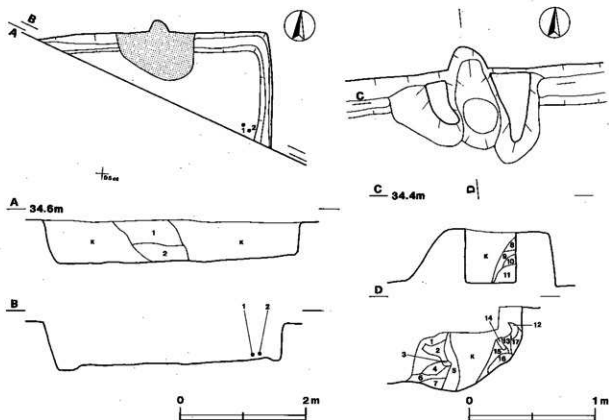
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・成成	備考
第66図 1	小形 土師器	A 11.8 B 12.4 C 6.6	底面から口縁部片。平底。体部は内 彎しながら外傾し、口縁部は環く外 反する。口縁端部は上方につまみ上 げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外 面ナデ。	長石 にふい赤褐色 普通	P 179 65% P L 27 覆土中・下層
2	寛 土師器	A (23.8) B (13.7)	体部から口縁部片。体部は内彎し、 口縁部は「く」の字状に外反する。 口縁端部外側に棒状工具による凹線 が施る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ デ。外面上位ヘラナデ。下位ナデ。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P 180 10% 覆土中・下層
3	高台付 須恵器	A 11.7 B 5.0 D 7.1 E 1.1	口縁部一部欠損。高台は器内が厚く 「ハ」の字状に開く。体部は直線的 に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 体部外面に強いロクロ目。底部切り 離した後、高台貼り付け。	長石・石英・バミス にふい褐色 オリブ灰色 良好	P 181 90% P L 27 覆土中層
4	蓋 須恵器	A 16.2 B 1.4	天井部から口縁部片。天井部はドーム 状を呈し、口縁部に至る。口縁端 部は短く折り返されている。	口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P 182 5% 覆土中層
5	高 須恵器	B (7.4)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内・外面横ナデ。	長石・石英・針状産物 灰色 普通	P 183 25% 覆土中層

第29号住居跡 (第67図)

位置 調査区の西部、D5c区。

規模と平面形 長軸 (3.55) m, 短軸 (1.80) mで、南部が調査区外のため平面形は不明である。

主軸方向 N-7°-W



第67図 第29号住居跡実測図

壁 壁高は52~72cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には、全周する。上幅21cm、下幅6cm、深さ7cmで、断面形は逆台形である。

床 平坦である。全体に攪乱を受けているため、床の硬化面は捉えられなかった。

竈 北壁を壁外に20cmほど掘り込み構築されているが、攪乱を受け遺存状態は悪い。天井部は崩落しており、
両側の袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部まで長さ80cm、最大幅120cmである。火床部は、浅く
皿状に掘り窪められている。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がり、徐々に角度を増してほぼ垂
直に立ち上がっている。

覆土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 粘土粒子少量、炭化・ローム粒子微量
- 3 暗赤褐色 粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 粘土粒子中量、焼土・炭化・ローム粒子微量
- 5 暗褐色 砂粒中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 6 黒褐色 砂粒少量、焼土・ローム粒子少量
- 7 黒褐色 砂粒少量、ローム小ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 8 黒褐色 砂粒少量、ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
- 9 暗褐色 砂粒少量、焼土・ローム粒子微量
- 10 暗赤褐色 焼土中ブロック少量、焼土・炭化・ローム粒子微量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 12 黒褐色 砂粒中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 13 明褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 14 黒褐色 ローム粒子・砂粒少量、焼土粒子微量
- 15 暗赤褐色 砂粒中量、ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 16 暗赤褐色 砂粒中量、焼土中ブロック少量、ローム粒子微量
- 17 黒褐色 砂粒少量、ローム粒子微量

覆土 各層ともロームブロックを含んでおり、人為堆積である。

土層解説

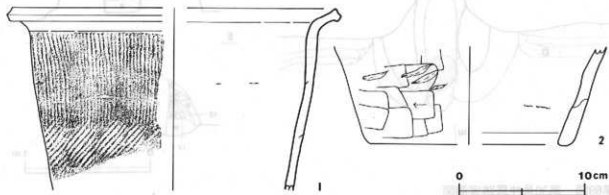
- 1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子・ローム大ブロック微量

遺物 大部分が調査区外になっているため、出土遺物も少ない。土師器片16点、須恵器片14点等が出土している。
第68図1の須恵器甕と2の須恵器甗は、東壁際の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と思われる。

第29号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第68図 1	甕	A(25.9) B(14.5)	体部から口縁部片。体部は内磨し、 口縁部は縁く外反する。口縁部は 断面三角形の縁帯を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ デ。体部外面上位縦方向の平行タキ キ、中位斜め方向の平行タキキ。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P184 5% 覆土下層
2	甗	B(7.9) C(16.0)	底部から体部片。多孔式。体部は直 線的に外傾して立ち上がる。	体部内面ナデ、外面ヘラ削り。	長石・石英・雲母・スズ 灰黄色 普通	P185 5% 覆土下層



第68図 第29号住居跡出土遺物実測図

第30号住居跡 (第69図)

位置 調査区の西部, D5bs区。

規模と平面形 長軸3.60m, 短軸3.58mの方形である。

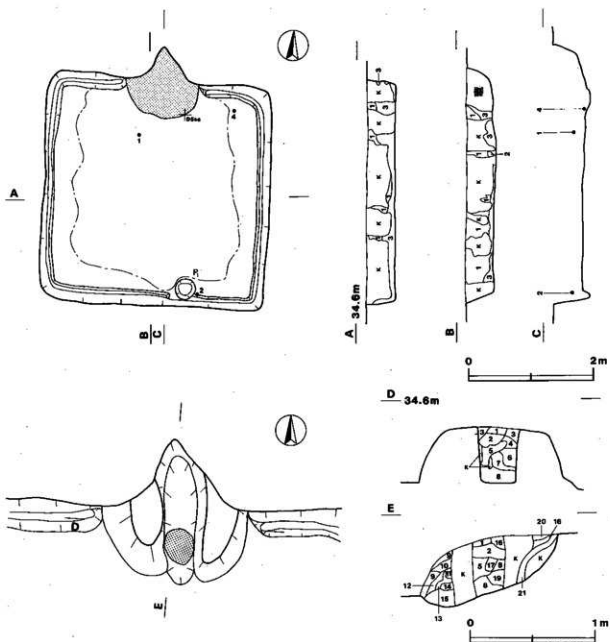
主軸方向 N-2°-W

壁 壁高は45~47cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 はば全周する。上幅25cm, 下幅6cm, 深さ12cmで, 断面形はU字形である。

床 平坦で, 中央部は踏み固められ非常に締まりがある。

ピット 1か所 (P₁)。P₁は径32cmの不整形形, 深さ8cmで, 配置や規模から出入り口施設に伴うピットと思われる。



第69図 第30号住居跡実測図

■ 北壁中央部を壁外に55cm程三角形に掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されているが、掘乱を受け遺存状態はよくない。天井部は崩落しており、両側の袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さ120cm、最大幅115cmである。火床部は、床面を10cm程掘り窪めており、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

■ 土層解説

1	暗赤褐色	砂粒中量、ローム粒子微量
2	暗赤褐色	砂粒少量、焼土・ローム粒子微量
3	暗赤褐色	砂粒少量、焼土・ローム粒子微量
4	黒褐色	砂粒少量、焼土・ローム粒子微量
5	黒褐色	炭化・ローム粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子・砂粒少量、焼土・炭化粒子微量
7	黒褐色	砂粒中量、ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
8	黒褐色	ローム粒子中量、砂粒少量、焼土・炭化粒子微量
9	黒褐色	炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
10	暗赤褐色	砂粒多量・焼土粒子少量、炭化・ローム粒子微量
11	暗赤褐色	焼土・ローム粒子微量
12	暗赤褐色	砂粒多量、焼土粒子中量
13	にぶい赤褐色	砂粒多量
14	赤褐色	砂粒多量
15	にぶい赤褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
16	暗褐色	粘土粒子中量、焼土・炭化・ローム粒子微量
17	暗赤褐色	焼土・炭化・ローム粒子微量
18	暗褐色	焼土小ブロック少量、焼土・炭化・ローム粒子微量
19	暗赤褐色	焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化・ローム粒子微量
20	暗褐色	粘土粒子多量、焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子微量
21	暗赤褐色	粘土粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量

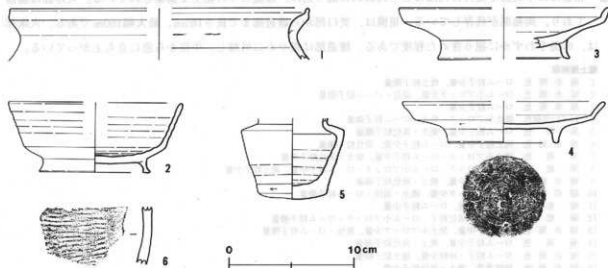
■ 覆土 各層ともロームブロックを含んでおり、人為堆積と思われる。

■ 土層解説

1	暗褐色	ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム大ブロック微量
2	暗赤褐色	砂粒多量
3	暗褐色	ローム大・中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量

■ 遺物 土師器片72点、須恵器片76点等が出土している。第70図1の土師器甕は北部竈前面の覆土中層から、2の須恵器高台付坏は、南壁際P1付近の覆土中層からそれぞれ出土している。4の須恵器盤は、北東コーナ一部の床面直上から正位の状態出土している。3の須恵器盤と5の須恵器短頸壶は、覆土中から出土している。6は、本跡から出土した須恵器甕の体部片の拓影図で、外面に横方向の平行タキが施されている。

■ 所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と思われる。



第70図 第30号住居跡出土遺物実測図

第30号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第 70 図	高 土 師 器	A (23.8) B (4.1)	体部から口縁部片。体部は内傾し、口縁部は緩く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	灰石・石英・針状鉱物 に多い橙色 普通	P 188 5 % 覆土中層
2	高 台 付 環 須 恵 器	A (19.8) B 5.6 D 8.8 E 1.1	高台部から口縁部片。高台は短く、外反しながら「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラ削り後ナデ。底部切り離し後、高台貼り付け。	灰石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P 187 40 % P L 27 覆土中層
3	盤 須 恵 器	A (16.6) B 4.1 D (10.6) E 1.5	高台部から口縁部片。高台は高めで真下に伸び、端部は広がる。体部は外傾し、口縁部は直線的に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後、高台貼り付け。	灰石・石英 灰色 普通	P 189 20 % 覆土中
4	盤 須 恵 器	A (16.0) B 3.3 D 8.6 E 1.1	高台部から口縁部片。高台は高めで真下に伸びる。体部は緩く外傾し、口縁部は直線的に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	灰石・石英・雲母 ・バミス 褐灰色 普通	P 188 60 % 床面
5	短 頸 壺 須 恵 器	B (6.5) C 5.4	底部から体部片。丸みを帯びた平底。体部は直線的に外傾しながら立ち上がる。上位に最大径を有し、強く内傾する。口縁部は直立する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部下溝回転ヘラ削り。体部下溝回転ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	灰石・石英・針状鉱物 灰黄色 普通	P 190 50 % 覆土中

第31号住居跡 (第71図)

位置 調査区の西部、C5j₆区。

規模と平面形 長軸4.05m、短軸3.90mの方形である。

主軸方向 N-9°-E

壁 壁高は38~48cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北壁と東壁、西壁の一部を除き全周する。上幅19cm、下幅6cm、深さ6cmで、断面形は逆台形である。

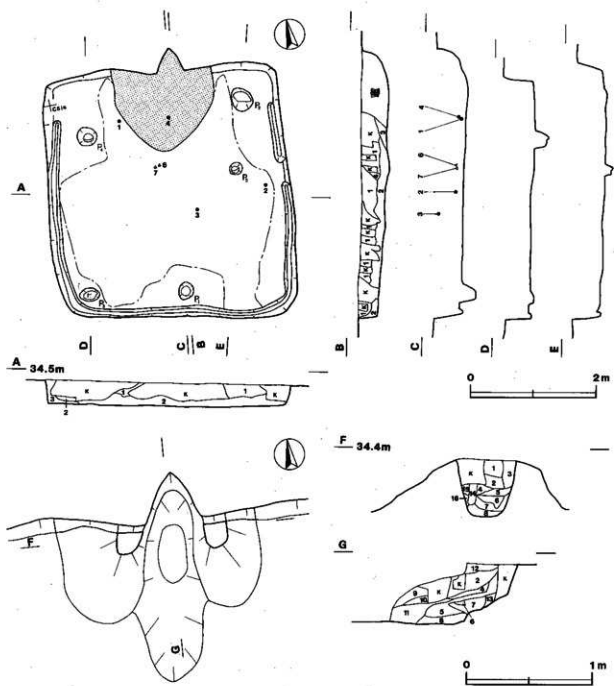
床 平坦で、中央部は踏み固められ跡まりがある。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁は長径37cm、短径24cmの不整楕円形、深さ30cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。P₂~P₅は長径23~40cm、短径21~33cmの不整楕円形、深さ6~23cmで、性格は不明である。

竈 北壁ほぼ中央部を壁外に76cmほど三角形に掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部まで長さ165cm、最大幅160cmである。火床部は、床面をわずかに掘り窪めた程度である。煙道部は緩やかに外傾し、中位から急に立ち上がっている。

甌土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗赤褐色 ローム小ブロック少量、炭化・ローム粒子微量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子少量
- 4 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土・ローム粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 7 黒褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 8 黒褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 9 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 10 暗赤褐色 焼土小ブロック少量、焼土・炭化・ローム粒子微量
- 11 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量
- 12 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 13 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化・ローム粒子微量
- 14 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 15 暗赤褐色 ローム粒子・砂粒少量、焼土粒子微量
- 16 暗赤褐色 砂粒多量、焼土・炭化粒子少量



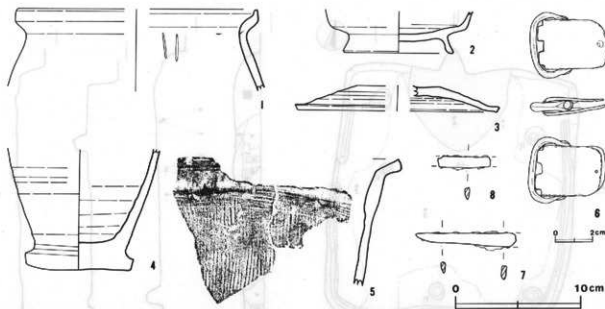
第71図 第31号住居跡実測図

覆土 各層ともロームブロックを含んでおり、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 4 褐色 砂粒多量、炭化粒子微量

遺物 土師器片152点、須恵器片48点、銅製品、鉄製品等が、遺構北部の覆土下層を中心に出土している。第72図1の土師器甕は竈左袖部付近の覆土下層から、2の須恵器高台付坏は東壁付近の覆土下層からそれぞれ出土している。3の須恵器壺は中央部の覆土上層から、4の須恵器控鉢は竈内の覆土下層から正位の状態それぞれ出土している。5は、本跡から出土した須恵器甕の体部片の拓影図で、外面に菱格子タタキが施され



第72図 第31号住居跡出土遺物実測図

ている。6の銅製の帯金具(絞具)と7の刀子は、中央部の覆土下層から出土している。8の刀子は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代(9世紀前葉)と思われる。

第31号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第72図 1	土師器	A [19.2]	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリアにぶい橙色	P191 5% 覆土下層
		B (6.7)	口縁部は上方にまみ上げられている。		普通	
2	高台付 須恵器	B (3.5)	高台部から体部片。高台は高めで「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面クロコナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石・針状鉱物 灰オリブ色	P192 10% 覆土下層
		D 8.6			普通	
		E 1.5			普通	
3	蓋 須恵器	A [16.2]	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し、口縁部は水平方向に伸びる。口縁部はわずかに肥厚する。	天井部及び口縁部内・外面クロコナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英 灰色	P193 40% 覆土上層
		B (2.0)			普通	
4	捏鉢 須恵器	B (9.7)	底部から体部片。底部は厚い円盤状の平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面クロコナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英 灰色	P194 35% P L27 覆土下層
		C 8.4			普通	

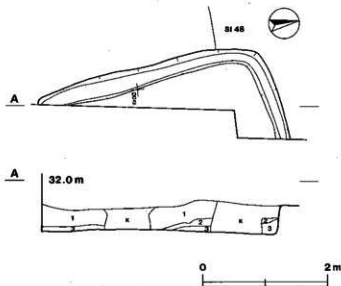
図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	帯金具	4.1	3.6	1.0	18.8	覆土下層	M27 P L41
7	刀子	8.0	1.1	0.4	6.1	覆土下層	M28 P L39
8	刀子	4.2	0.9	0.4	2.5	覆土中	M29 P L39

第32号住居跡(第73図)

位置 調査区の東部、Dof区。

重複関係 本跡は第48号住居跡の南部を掘り込んでおり、第48号住居跡よりも新しい。

規模と平面形 長軸(3.55)m、短軸(1.70)mの〔長方形〕と思われる。



第73図 第32号住居跡実測図

主軸方向 [N-80°-E]

壁 壁高は46cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には、全周する。上幅30cm、下幅16cmである。

床 平坦であるが攪乱を受けており、硬化面は捉えられなかった。

覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

所見 本跡は床面や壁溝等が検出されたことから、竪穴住居跡であると判断したが、出土遺物がなく正確な時期を限定するのは難しい。しかし、9世紀末葉の第48号住居跡を掘り込んでいることから9世紀末葉以降のものであると思われる。

第33号住居跡 (第74図)

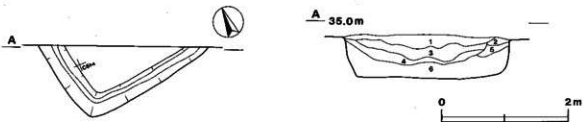
位置 調査区の西部、C6h区。

規模と平面形 長軸 (2.10) m、短軸 (1.35) mで、南西部の一部を残しほとんどが調査区外のため平面形は不明である。

主軸方向 [N-86°-E]

壁 壁高は47-62cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には、壁溝が回っている。上幅33cm、下幅7cmである。



第74図 第33号住居跡実測図

床 平坦で、踏み固められた部分は見られなかった。

覆土 6層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 炭化・ローム粒子微量
- 6 暗褐色 ローム中・小ブロック中量、ローム粒子少量

遺物 土師器片40点、須恵器片3点が、覆土中から遺構全体に散在した状態で出土している。

所見 本跡は、時期を決定できる遺物がなく時期不明である。

第34号住居跡（第75図）

位置 調査区の西部、D6c区。

重複関係 本跡は、北部を第48号土坑に掘り込まれていることから第48号土坑よりも古い。

規模と平面形 長軸3.27m、短軸3.25mの方形である。

主軸方向 N-56°-E

壁 壁高は20~24cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南東壁下及び南東コーナー部を除いて全周する。上幅25cm、下幅6cm、深さ5cmで、断面形は逆台形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められ締まりがある。

ピット 4か所（P₁~P₄）。P₁は長径50cm、短径40cmの不整楕円形、深さ20cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。P₂・P₄は長径45~55cm、短径36~41cmの不整楕円形、深さ12~15cm、P₃は径44cmの不整円形、深さ22cmで性格は不明である。

竈 南東壁やや南側を壁外に80cmほど三角形に掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており、袖部もほとんど残存していない。規模は、焚口部から煙道部までの長さ110cm、最大幅100cmである。火床部は、床面を29cmほど掘り窪めている。煙道部は、火床面から緩やかに外傾して立ち上がる。

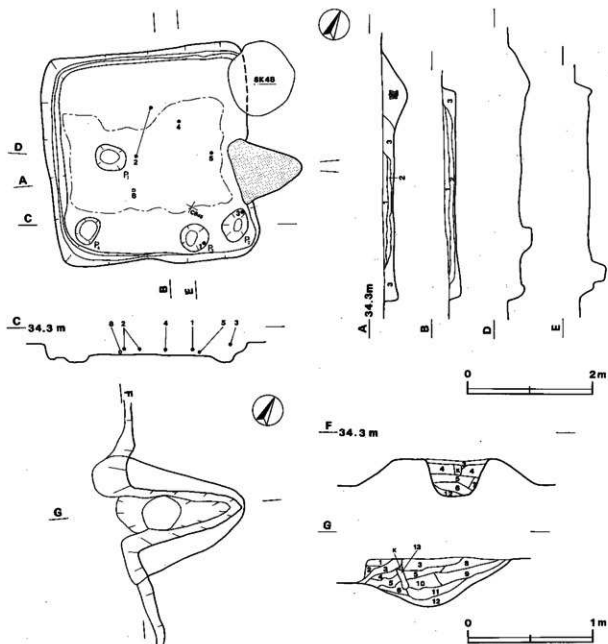
覆土層解説

- 1 黒褐色 ローム・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 3 暗褐色 粘土粒子中量、ローム粒子微量
- 4 暗褐色 粘土粒子中量、焼土・ローム粒子微量
- 5 暗褐色 粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 6 暗褐色 粘土粒子少量、焼土・炭化・ローム粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子微量
- 8 灰褐色 焼土・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 9 暗褐色 焼土・ローム・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 10 にぶい赤褐色 焼土粒子多量、粘土粒子少量、炭化・ローム粒子微量
- 11 赤褐色 焼土粒子多量、粘土粒子中量、炭化粒子少量
- 12 赤褐色 焼土・粘土粒子少量、炭化・ローム粒子微量
- 13 暗褐色 ローム粒子中量、焼土・粘土粒子少量、炭化粒子微量

覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

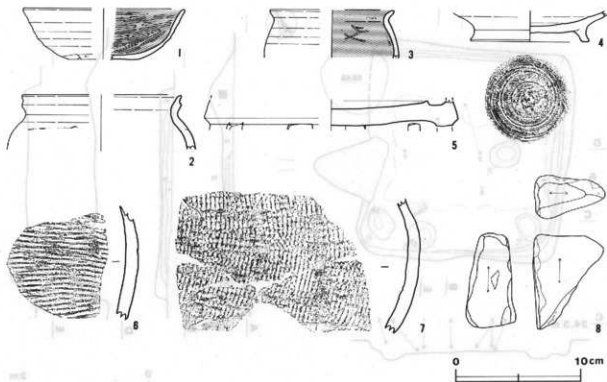
- 1 黒褐色 焼土・炭化・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、焼土・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 炭化・ローム粒子少量、焼土粒子微量



第75図 第34号住居跡実測図

遺物 土師器片105点、須恵器片18点の他、鉄滓300g等が、竈付近の覆土中層を中心に出土している。第76図1の土師器坏はP₂付近の覆土中層から、2の土師器甕は中央部の覆土中層から、3の土師器小形甕はP₂付近の覆土上層からそれぞれ出土している。4の須恵器盤は北部の覆土中層からそれぞれ出土している。5の須恵器円面硯は、竈前面の覆土下層から出土している。6と7は、本跡から出土した須恵器甕の体部片の拓影図で、6は外面に横方向の平行タキが、7は擬格子タキが施されている。8の砥石は南部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀中葉）と思われる。



第76図 第34号住居跡出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表

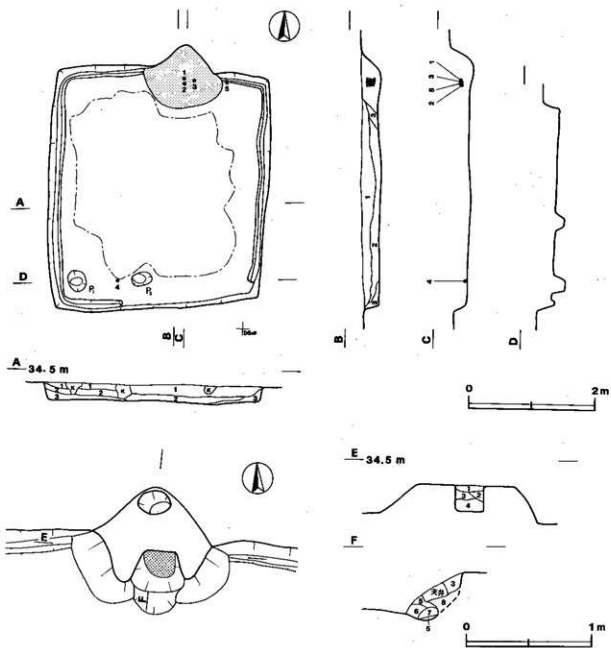
図取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徵	手法の特徵	胎土・色調・焼成	備考
第76図 1	坏 土器	A [12.8]	底部から体部片。体部は内彎気味に外反し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。体部内面へラ磨き。体部内面黒色処理。	長石・赤母・スコリアにぶい黄褐色	P197 35% 覆土中層
		B 4.1 C [5.4]				
2	甕 土器	A [12.6]	体部から口縁部片。体部は内彎し、頸部は急に外反し、口縁縁部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・スコリア 普通	P195 5% 覆土中層
		B (4.5)				
3	小形 土器	A [9.8]	体部から口縁部片。体部は内彎し、頸部は急に外反する。	口縁部及び体部内・外面ナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	P196 5% 覆土上層 体部内面に煤付着
		B (3.3)				
4	盤 須恵器	B (2.5)	高台部片。高台は短く「ハ」の字状に外反しながら開く。	底部切り離した後、高台貼り付け。	長石・赤母・スコリア 暗灰黄色 普通	P198 30% 覆土中層
		D 9.4				
		E 1.3				
5	円面 須恵器	B (2.6)	碗部片。碗部は縁と海が明確で、縁の周囲に低い内堤。碗部外縁部に一条の突帯。脚部に長方形の造かしが十ヶ所あると思われる。	碗面へラナデ。造かし部へラ切り。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P199 15% 覆土下層

図取番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
8	甌	7.6	5.6	3.1	127.8	凝灰岩	覆土下層	Q11

第35号住居跡 (第77図)

位置 調査区の中央部, C6j区。

規模と平面形 長軸3.90m, 短軸3.50mの長方形である。



第77図 第35号住居跡実測図

主軸方向 N-1°-E

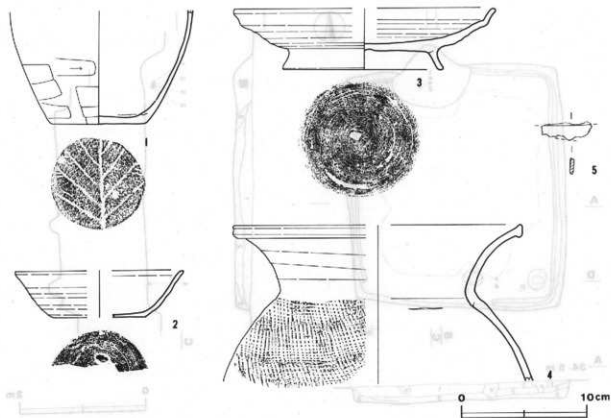
壁 壁高は21-25cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南壁の一部を除いて全周する。上幅20cm、下幅6cm、深さ4cmで、断面形は逆台形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められ跡まりがある。

ピット 2か所 (P₁・P₂)。P₁は長径35cm、短径25cmの不整楕円形、深さ23cmで柱穴と思われる。P₂は長径33cm、短径21cmの不整楕円形、深さ17cmで、配置や規模から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁やや東側を壁外に40cmほど掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部、袖部ともに遺存状態はよく、煙出部も検出できた。天井部も厚さ10cmほどの砂混じり粘土で構築されている。規模は、焚口部から煙道部までの長さ100cm、最大幅130cmである。火床部は、床面を浅く掘り窪めており、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は、火床面から急に立ち上がっている。



第78図 第35号住居跡出土遺物実測図

■覆土層解説

- 1 明褐色 砂粒中量、焼土・炭化・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 炭化・ローム粒子・砂粒少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 砂粒少量、焼土・炭化・ローム粒子微量
- 5 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化・ローム粒子微量
- 6 赤褐色 焼土粒子少量、炭化・ローム粒子微量
- 7 赤褐色 焼土・ローム粒子微量
- 8 雑褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子少量

覆土 3層からなる自然堆積である。

■土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片87点、須恵器片18点の他、鉄滓が覆土中から50g出土している。遺物は、竈内と竈付近の覆土中層を中心に出土している。第78図1の土師器甕は、竈内の覆土中層から出土している。2の須恵器坏は、1と同じ層位から出土しているが流れ込みと思われる。3の須恵器甕も、竈内の覆土中層から逆位の状態で出土している。4の須恵器甕は、南西部の覆土下層から、5の刀子は竈右袖部付近の覆土中層から出土している。所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（8世紀後葉）と思われる。

第35号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第78図	甕	H(9.2)	底部から体部片。平底。体部は内層しながら外積する。体部の器内は薄い。	体部内面ナデ。体部外面中位ナデ、体部下端手持ちへツ削り。底部外面木炭焼。	長石・石英・雲母にぶい褐色	P200 40% P L27 竈覆土中層
1	土師器	C 7.6			普通	

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第 78 図 2	坏 須 恵 器	A (13.4)	底部から口縁部片。平底。体部は内 彎気味に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 底部回転へう削り。底部刷線ナデ。	長石・石英 灰色 普通	P201 35% P L27 覆土中層
		B 3.7				
		C (7.4)				
3	盤 須 恵 器	A (20.7)	高台部から口縁部片。高台は高めで 外反しながら「ハ」の字状に開く。 体部は直線的に外傾し、口縁部は外 反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 体部外面に強いロクロ目。底部回転 へう削り後、高台貼り付け。	長石・石英 黄灰色 普通	P202 60% P L27 覆土中層
		B 5.0				
		D 12.7				
		E 1.5				
4	壺 須 恵 器	A (23.0)	体部から口縁部片。体部は内彎し、 口縁部は外反する。口縁部は断面 三角形の縁帯を持つ。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 体部外面刷格子タタキ。	長石・石英・雲母 灰色 良好	P203 10% P L27 覆土下層
		B (12.6)				

図版番号	器 種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(K)		
5	刀 子	(4.0)	(1.2)	0.4	(32.0)	覆土中層	M32

第36号住居跡 (第79図)

位置 調査区の中央部、D6c区。

規模と平面形 長軸3.50m、短軸3.25mの方形である。

主軸方向 N-40°-E

壁 壁高は10~15cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北東壁の一部を除いて回っている。上幅16cm、下幅4cm、深さ10cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 2か所 (P₁・P₂)。P₁は、長径78cm、短径54cmの不整形円形、深さ22cmで、配置や規模から柱穴と思われる。P₂は径24cmの不整形円形、深さ12cmで出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北東壁中央部からやや南側を壁外に70cmほど掘り込み、砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さ170cm、最大幅100cmである。火床部は、火熱を受けている部分が3か所検出された。煙道部は、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

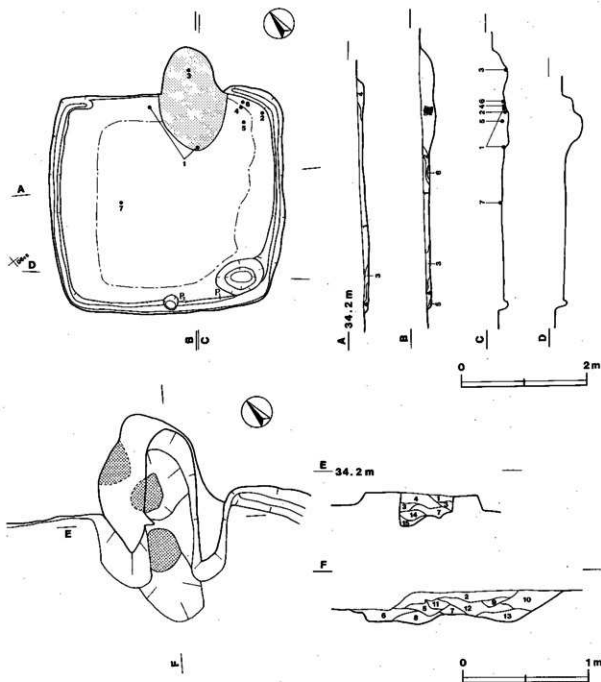
覆土層解説

- 1 褐色 砂粒少量、焼土・ローム粒子微量
- 2 褐色 砂粒中量、焼土・炭化・ローム粒子少量
- 3 褐色 砂粒多量、焼土・炭化・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 砂粒中量、焼土粒子少量、炭化・ローム粒子微量
- 5 暗褐色 焼土粒子少量、炭化・ローム粒子少量
- 6 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量
- 7 暗赤褐色 ローム小ブロック中量、焼土・ローム粒子少量
- 8 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化・ローム粒子微量
- 9 褐色 砂粒中量、焼土・炭化・ローム粒子微量
- 10 暗褐色 焼土粒子・砂粒少量、炭化・ローム粒子微量
- 11 暗褐色 焼土粒子少量、炭化・ローム粒子微量
- 12 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量、炭化・ローム粒子微量
- 13 暗褐色 焼土・ローム粒子中量、焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
- 14 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 15 褐色 ローム粒子中量、炭化物少量、焼土・炭化粒子微量

覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

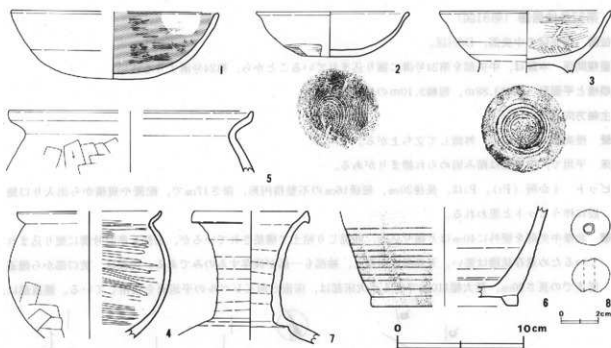
- 1 黒褐色 炭化・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・砂粒少量、炭化・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土・炭化・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 6 黒褐色 焼土・炭化・ローム粒子微量



第79図 第36号住居跡実測図

遺物 東コーナー部を中心に土師器片35点、須恵器片12点が出土している。第80図1の土師器環は竈付近の床面直上から、2の土師器環、4の土師器小形甕、6の須恵器長頸瓶は東コーナー部の床面直上から出土している。3の土師器椀は竈の火床面直上から逆位の状態で、5の土師器甕は東コーナー部の覆土下層から、7の須恵器長頸瓶は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。8の土玉は、竈の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。



第80図 第36号住居跡出土遺物実測図

第36号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	目録順(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第80図 1	土 師 器	A (13.6)	底部から口縁部片。丸みを帯びた平底。体部は内彎しながら外傾し、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ磨き、外面ナデ。体部内面黒色処理。底部手持ちへラ削り後、ナデ。普通	長石・雲母・スコリアにふい褐色	P 204 40% 床面
		B 5.4				
2	土 師 器	A 12.1	口縁部一部欠損。丸みを帯びた平底。体部は内彎しながら外傾し、口縁端部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	長石・スコリアにふい黄褐色	P 205 60% P L 27 床面
		B 3.7				
		C 4.7				
3	土 師 器	A 13.7	高台部一部欠損。高台は短く直線的に開く。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は直線的に開く。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ磨き、外面ナデ。底部切り離し後、高台貼り付け。	石英・パミス 褐色	P 206 85% P L 28 竈火床面
		E (0.9)				
4	小形 甕 土 師 器	A (11.4)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ磨き。体部外面上位ナデ、下位へラ削り。	長石・雲母・パミス 灰黄褐色	P 207 40% P L 27 床面
		B (10.1)				
5	甕 土 師 器	A (19.4)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は短く外反する。口縁端部は外上方つまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面へラ削り後ナデ。	長石・雲母・スコリア 褐色	P 208 5% 覆土下層
		B (4.9)				
6	長頸 甕 須 恵 器	B (8.4)	高台部から体部片。平底。高台は短く、直線的に開く。体部は内彎欠味に外傾する。	体部内・外面口クロナデ。体部外面に口クロ目。底部切り離し後、高台貼り付け。	長石・石英 灰黄色	P 209 10% P L 28 床面
		D (11.6)				
7	長頸 甕 須 恵 器	A (9.1)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は外反して立ち上がる。口縁端部は折り返され、縁帯を形成している。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。	長石・スコリア 黄灰色	P 210 20% P L 28 覆土下層
		B (10.5)				

図版番号	器種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
8	土 玉	2.0	1.7	0.6	5.9	覆土中	DP 40

第37号住居跡（第81図）

位置 調査区の中央部，D6c区。

重複関係 本跡は，中央部を第24号溝に掘り込まれていることから，第24号溝よりも古い。

規模と平面形 長軸3.88m，短軸3.10mの長方形である。

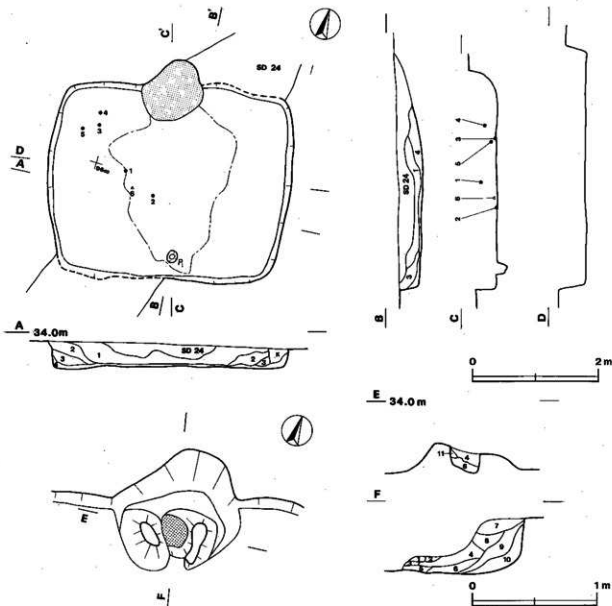
主軸方向 N-14°-W

壁 壁高は33-34cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，中央部は踏み固められ跡まりがある。

ピット 1か所（P₁）。P₁は，長径20cm，短径16cmの不整楕円形，深さ17cmで，配置や規模から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部を壁外に40cmほど掘り込み，砂混じり粘土で構築されているが，上部を第24号溝に掘り込まれているため遺存状態は悪い。天井部は崩落し，袖部も一部が残存するのみである。規模は，焚口部から煙道部までの長さ90cm，最大幅110cmである。火床部は，床面と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は，



第81図 第37号住居跡実測図

火床面からはほぼ垂直に立ち上がっている。

覆土層解説

- 1 褐色 砂粒中量、炭化・ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 砂粒中量、焼土粒子少量、炭化・ローム粒子微量
- 3 褐色 砂粒中量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
- 4 褐色 焼土小ブロック・焼土・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子少量
- 7 黒褐色 炭化・ローム粒子少量
- 8 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 9 黒褐色 ローム粒子中量
- 10 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 11 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量

覆土 4層からなる自然堆積と思われる。

土層解説

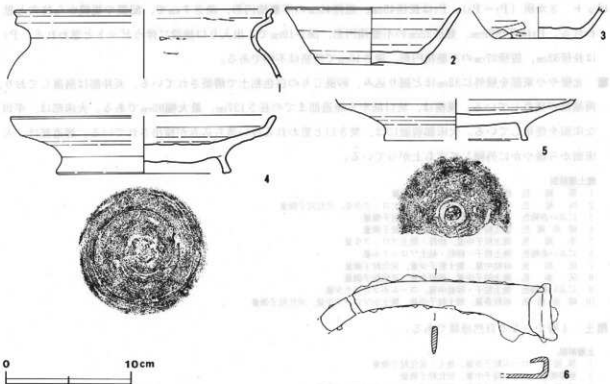
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・ローム粒子微量

遺物 土師器片83点、須恵器片61点の他、鉄滓150g等が出土している。第82図1の土師器甕は中央部の覆土中層から、2の須恵器坏は中央部の床面直上から正位の状態、3の須恵器坏は北西コーナー部の床面直上からそれぞれ出土している。4の須恵器盤は北西コーナー部の覆土中層から正位の状態、5の須恵器盤は北西コーナー部の覆土下層から逆位の状態で出土している。6の鉄鎌は、中央部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土物から8世紀後葉と思われる。

第37号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第82図 1	甕 土師器	A(20.3) B(5.5)	体部から口縁部片。体部は内埴し、口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英・雲母・パミス に多い褐色 普通	P211 5% 覆土中層



第82図 第37号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 82 図 2	須恵器	A 14.0	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底面回転へつ削り後ナデ。底部回転ナデ。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P 212 80% P L 28 床面
		B 4.5				
		C 8.0				
3	須恵器	B (2.5)	底部から体部片。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへつ削り。底部手持ちへつ削り。	長石・石英・パミス 灰色 普通	P 213 15% 床面
		C 6.8				
4	須恵器	A (21.3)	高台部から口縁部片。高台は高めで「ハ」の字状に開く。体部は外傾し、口縁部は直線的に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転へつ削り後、高台貼り付け。	長石・石英・雲母・パミス 灰色 普通	P 214 70% P L 28 覆土中層
		B 4.6				
		D 13.8				
		E 1.5				
5	須恵器	B (3.4)	高台部から体部片。高台は外反気味に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へつ削り後、高台貼り付け。	長石・石英・パミス 灰色 普通	P 215 20% 覆土下層
		D [11.4]				
		E 0.9				

図版番号	器種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
6	鉄 鏝	図4(位)用	4.4	0.4	(69.9)	覆土下層	M34 P L 40

第38号住居跡 (第83図)

位置 調査区の中央部、C7fs区。

規模と平面形 長軸3.91m、短軸3.73mの方形である。

主軸方向 N-1°-E

壁 壁高は35~48cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南壁の一部を除いて全周する。上幅19cm、下幅5cm、深さ5cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁は長径45cm、短径40cmの不整楕円形、深さ7cmで、配置や規模から柱穴と思われる。P₂は長径29cm、短径22cmの不整楕円形、深さ19cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。P₃は長径32cm、短径27cmの不整楕円形、深さ16cmで性格は不明である。

竈 北壁やや東部を壁外に32cmほど掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さ127cm、最大幅95cmである。火床部は、平坦な床面を使用している。火床部前面には、焚き口と思われる浅い落ち込みが検出されている。煙道部は、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

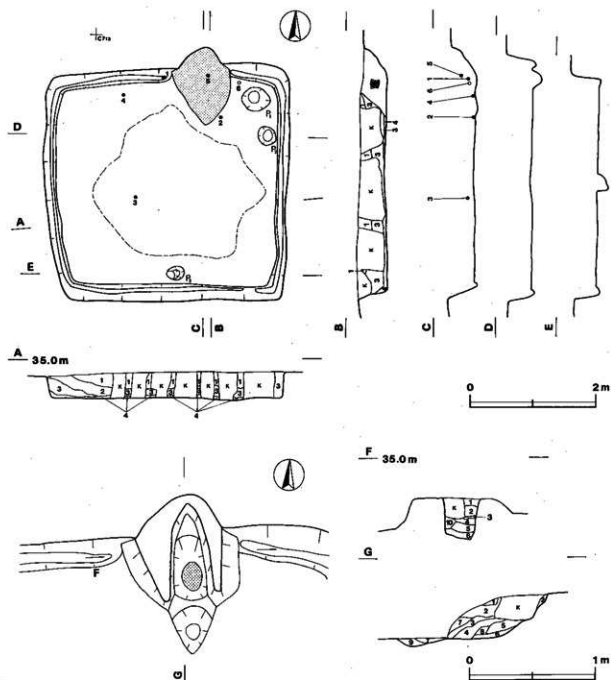
甕土層解説

- 黒褐色 焼土・ローム粒子・砂粒微量
- 灰褐色 砂粒中量、焼土粒子・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- にぶい赤褐色 焼土粒子・砂粒中量、炭化粒子微量
- 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量
- 赤褐色 焼土粒子中量、砂粒・粘土ブロック少量
- にぶい赤褐色 焼土粒子・砂粒・粘土ブロック少量
- 灰褐色 砂粒中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 灰赤色 焼土粒子中量、砂粒少量、炭化粒子微量
- にぶい赤褐色 焼土粒子・砂粒中量、ローム小ブロック少量
- 暗赤褐色 砂粒多量、焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化粒子微量

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

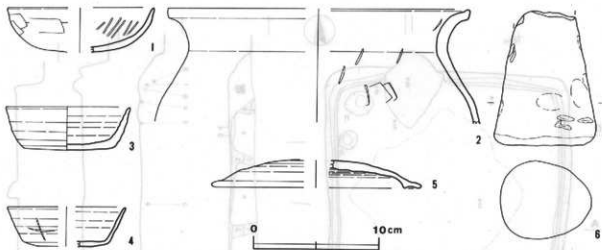
- 黒褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量



第83図 第38号住居跡実測図

遺物 土師器片82点、須恵器片28点、支脚1点の他、鉄滓が少量出土している。第84図1の土師器坏は北壁際竈袖部付近の覆土下層から、2の土師器甕は竈前面の覆土下層から出土している。3の須恵器坏は、中央部の覆土下層から、4の須恵器坏は北部の覆土下層から、5の須恵器蓋は竈内の覆土中層からそれぞれ出土している。6の土製支脚は竈袖部付近の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。



第84図 第38号住居跡出土遺物実測図

第38号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)		器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
		径	高さ				
第 84 図 1	土 脚 器	A (11.7)		底部から口縁部片。丸底。体部は内 彎しながら立ち上がり、口縁部はほ ぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ デ、外部ヘナデ。底部手持 ちヘナデ。体部内面に略 文。	長石・スコリア 褐色 普通	P216 20% 覆土下層
		B (3.6)					
2	土 脚 器	A (24.0)		体部から口縁部片。体部は内彎し、 口縁部は緩く外反する。口縁部はほ ぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ デ、一部ヘナデ。体部外面ナデ。 体部内面にヘナデ。	長石・石英・パミス 普通	P217 10% 覆土下層
		B (9.2)					
3	土 須 恵 器	A 9.9		底部から体部片。平底。体部は直線 的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 体部外面に深いロクロ目。底部手持 ちヘナゲり。	長石・石英・パミス 褐色 普通	P218 75% P L28 覆土下層
		B 3.5					
		C 7.2					
4	土 須 恵 器	A (9.4)		底部から体部片。平底。体部は直線 的に外傾し、口縁部に至る。口縁部 は器内が薄い。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 底部手持ちヘナゲり。底部間縁ナデ。 体部外面にヘナゲり。	長石・石英・パミス 灰白色 普通	P219 40% 覆土下層
		B 3.2					
		C (6.8)					
5	土 須 恵 器	A (16.8)		天井部から口縁部片。天井部はド ーム状を呈し、口縁部に至る。口縁部 内面に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナ デ。天井部外面上位回転ヘナゲり。	石英・骨粉・スコリア 褐色 普通	P220 15% 覆土中層
		B (2.7)					
図版番号	器種	計 測 値			出 土 地 点	備 考	
		径(cm)	長さ(cm)	重量(g)			
6	土製支脚	8.2	(10.9)	(532.4)	覆土下層	D P41	

第39号住居跡 (第85図)

位置 調査区の中央部、C7区。

規模と平面形 長軸2.97m、短軸2.29mの長方形である。

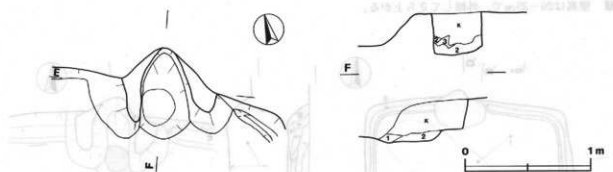
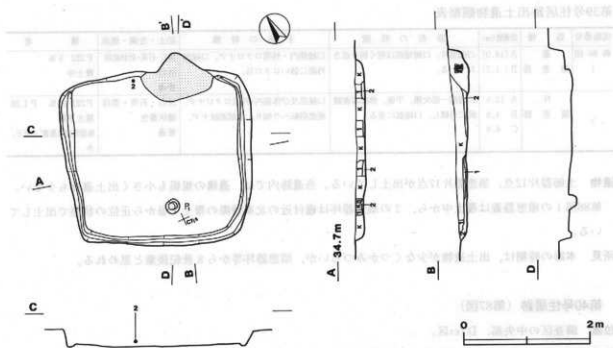
主軸方向 N-22°-E

壁 壁高は20~23cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北東壁の一部を除いて壁溝が回っている。上幅22cm、下幅6cm、深さ5cmで、断面形は逆台形である。

床 平坦で、全体的に軟らかく締まりがない。

ピット 1か所(P1)。P1は径23cmの不整形円形、深さ12cmで、配置や規模から出入り口施設に伴うピットと思われる。



第85図 第39号住居跡実測図

竈 遺構全体が攪乱を受けており、遺存状態はよくない。竈は、北東壁中央部からやや東部よりを壁外に56cmほど掘り込み、砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、笑口部から煙道部までの長さ70cm、最大幅100cmである。火床部は、床面を浅く皿状に掘り窪めているが、上部は攪乱を受けている。煙道部も攪乱を受け、立ち上がりの様子は確認できなかった。

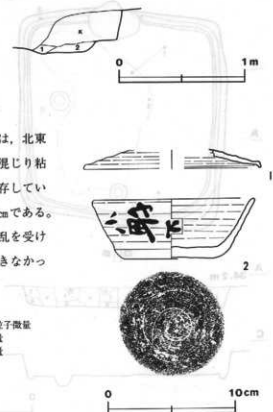
竈土層解説

- 1 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 極暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック少量、炭化・ローム粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、炭化・ローム粒子微量

覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量



第86図 第39号住居跡出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第86図 1	蓋	A 14.0	口縁部片。口縁端部は短く折り返さ	口縁部内・外面ロクロナデ。口縁部	灰石・石英・針状炭素	P 222 5% 覆土中
	須恵器	B (1.5)	れている。	外面に強いロクロ目。	灰色 普通	
2	坏	A 12.6	口縁部一部欠損。平底。体部は直線	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	灰石・石英・雲母	P 221 95% P L 28
	須恵器	B 4.8	的に外傾し、口縁部に至る。	底部回転へう削り。底部周縁ナデ。	暗灰黄色	覆土下層
	C 6.9				普通	体部外面に遺書「小野」か

遺物 土師器片12点、須恵器片17点が出土している。当遺跡内では、遺構の規模も小さく出土遺物も少ない。

第86図1の須恵器蓋は覆土中から、2の須恵器坏は竈付近の北東壁際の覆土下層から正位の状態で出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物が少なくつかみづらいが、須恵器坏等から8世紀後葉と思われる。

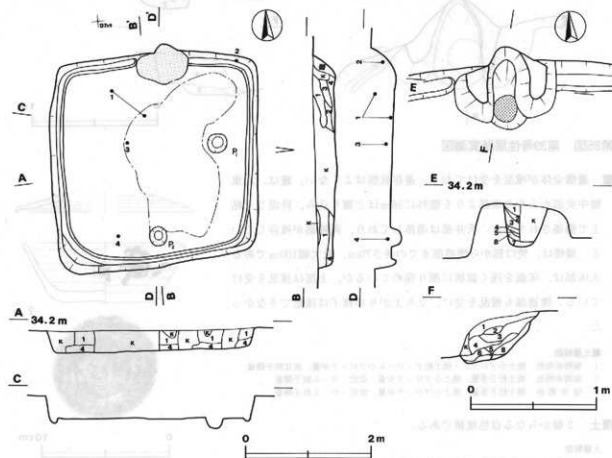
第40号住居跡（第87図）

位置 調査区の中央部、D7cs区。

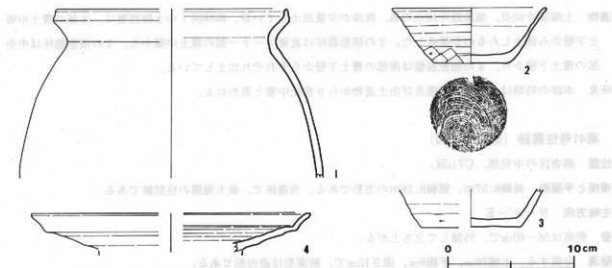
規模と平面形 長軸3.42m、短軸3.30mの方形である。

主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は26~35cmで、外傾して立ち上がる。



第87図 第40号住居跡実測図



第88図 第40号住居跡出土遺物実測図

第40号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第 88 図 1	壺 土器	A (18.4)	体部から口縁部片。体部は内壁し、口縁部は外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・スコリアにふいば色 普通	P 223 15% 覆土中・下層
		B (13.5)				
2	坏 須恵器	A 12.4	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。体部下端手持ちヘウ削り。底部回転糸切り。	長石・石英 黄灰色 普通	P 224 70% P L 28 覆土中層
		B 4.5				
		C 6.0				
3	坏 須恵器	B (3.1)	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面クロコナデ。体部外面下端回転ヘウ削り。底部手持ちヘウ削り調整。	長石・石英 灰青緑色 普通	P 225 10% 覆土下層
		C 8.0				
4	壺 須恵器	A [22.2]	体部から口縁部片。体部は外傾し、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。	長石・石英・バミス 灰黄色 良好	P 226 20% 覆土下層
		B (3.1)				

壁溝 全周する。上幅16cm、下幅6cm、深さ7cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、東部は踏み固められ締まりがある。

ピット 2か所 (P₁・P₂)。P₁は径30cmの不整形円形、深さ18cmで、配置や規模から柱穴と思われる。P₂は長径30cm、短径27cmの不整形円形、深さ18cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部を壁外に25cmほど掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、笑口部から煙道部までの長さ65cm、最大幅75cmである。火床部は、床面を浅く掘り窪めており赤変硬化している。煙道部は、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

■土層解説

- 暗赤褐色 砂粒少量、焼土・ローム粒子微量
- 暗赤褐色 砂粒中量、焼土粒子微量
- 暗赤褐色 砂粒中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化材微量
- 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化・ローム粒子微量
- 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子微量
- 暗赤褐色 焼土・ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量

覆土 4層からなる自然堆積である。

■土層解説

- 暗褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量

遺物 土師器片68点、須恵器片18点の他、鉄滓が少量出土している。第88図1の土師器片は、北部の覆土中層と下層から出土したものが接合した。2の須恵器片は北東コーナー部の覆土中層から、3の須恵器片は中央部の覆土下層から、4の須恵器片は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から9世紀中葉と思われる。

第41号住居跡（第89・90図）

位置 調査区の中央部、C7js区。

規模と平面形 長軸8.57m、短軸8.26mの方形である。当遺跡で、最大規模の住居跡である。

主軸方向 N-8°-E

壁 壁高は36-60cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅26cm、下幅9cm、深さ12cmで、断面形は逆台形である。

床 平坦で中央部は踏み固められているが、竈の前面から北東部にかけて軟らかく締まりがない部分が認められた。掘り込んで堆積物を調べたところ、土師片・焼土ブロック・炭化粒子等が少量に確認された。以上のことから、この部分は竈使用に伴う灰置き場として使用された場所と思われる。他に、西壁から中央部に向かって、上幅20cm、下幅7cm、深さ7cm、長さ100cm程で、断面形はU字形の溝が4条構築されている。

ピット 12か所（P1-P12）。P1-P4は、長径110-167cm、短径76-107cmの不整楕円形、深さ54-77cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P5は長径36cm、短径34cmの不整楕円形、深さ25cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。P6-P7は長径74-92cm、短径67-70cmの不整楕円形、深さ51-63cmで性格は不明である。P8-P11は、長径27-54cm、短径21-40cmの不整楕円形、深さ9-40cmで性格等は不明。P12は長径200cm、短径130cmの不整楕円形、深さ34cmで竈使用に伴う灰置き場用ピットと思われる。

P12土層解説

不規則な堆積状況を示し、覆土中に焼土ブロック・炭化粒子・土師片等を少量に含んでいることから、人為堆積と思われる。

- 1 褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土大ブロック微量
- 2 灰褐色 焼土粒子中量、焼土中・小ブロック・炭化・ローム粒子少量、焼土大ブロック・炭化物微量
- 3 褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量、焼土中ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量、焼土大ブロック・炭化粒子微量
- 5 にぶい赤褐色 焼土・ローム粒子少量、焼土大・中ブロック・炭化粒子微量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土大ブロック・炭化物微量
- 7 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・ローム粒子少量、焼土中ブロック微量
- 8 暗赤褐色 焼土・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・ローム大・小ブロック微量

竈 北壁中央部を壁外に53cmほど掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さ120cm、最大幅140cmである。火床部は床面を浅く皿状に掘り窪めており、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 褐色 砂粒中量、焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム中ブロック少量、焼土・炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量
- 4 黒褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化・ローム粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
- 6 暗赤褐色 砂粒多量、焼土中ブロック・焼土小ブロック中量、焼土粒子少量
- 7 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 8 赤褐色 砂粒多量、ローム粒子微量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量

覆土 8層からなる自然堆積である。

土層解説

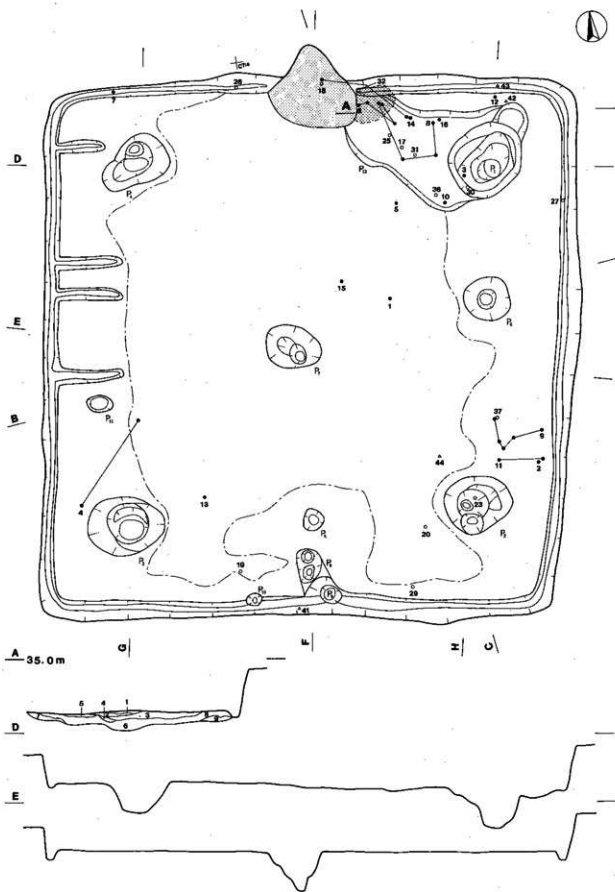
- 1 黒褐色 焼土・炭化・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量
- 8 暗褐色 粘土粒子多量、焼土小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片919点、須恵器片166点、土玉6点、管状土鍾16点、土製支脚2点、刀子1点、鉄鏝1点、不明銅製品1点、飾金具1、鉄滓3kg、炭化材等が出土している。また、P₁₂の覆土中から、土師器を中心とする土器や土製品が50点ほど出土している。第91・92・93図1の土師器坏は東部の覆土下層から出土している。2～9は土師器甕である。2は東壁南部の床面直上から、3はP₁の覆土中から、4は南西部の覆土下層から、5は北東部の床面直上からそれぞれ出土している。6は竈付近の床面直上とP₁₂の覆土中ものが接合した。7は北西部壁溝の覆土下層から、8はP₁₂の覆土中から、9は東部の床面直上から出土している。10～13は須恵器坏である。10はP₁₂の覆土中から、11は南東部の床面直上から、12は北東部壁際の覆土下層から、13は南西部の床面直上からそれぞれ出土している。14の須恵器蓋は竈内の覆土下層とP₁₂の覆土中から出土したものが接合した。15の須恵器甕は中央部の覆土下層から、16の須恵器甕はP₁₂の覆土中からそれぞれ出土している。19～24の土玉及び25～40の管状土鍾は、遺構全体に散在した状態で出土している。その中で25・31・32の管状土鍾は、P₁₂の覆土中から出土している。17の土製支脚はP₁₂の覆土中から、18の土製支脚は竈内の覆土中から出土している。41の不明銅製品は南部壁溝の覆土下層から、42の飾金具と43の刀子は北東部壁際の覆土下層から、44の鉄鏝は南東部の床面直上からそれぞれ出土している。

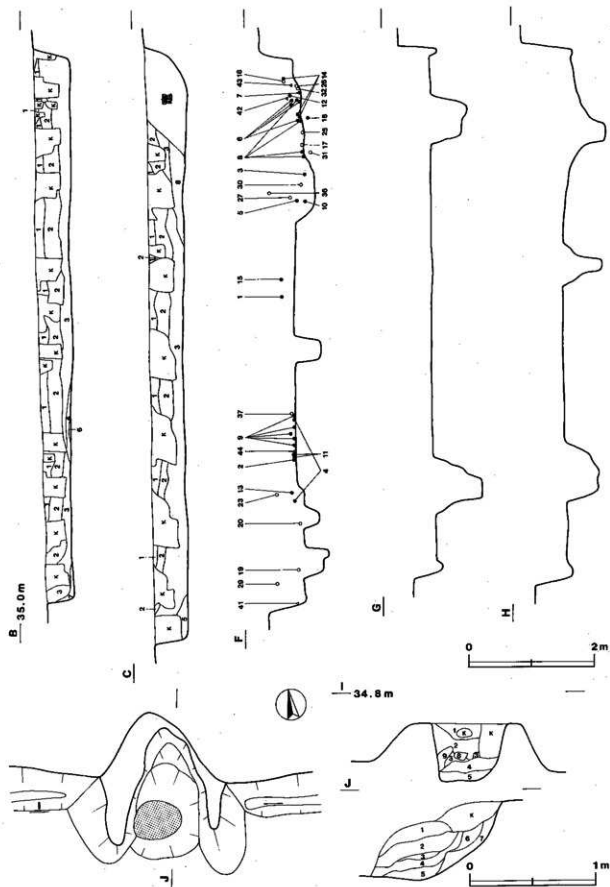
所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。

第41号住居跡出土遺物観察表

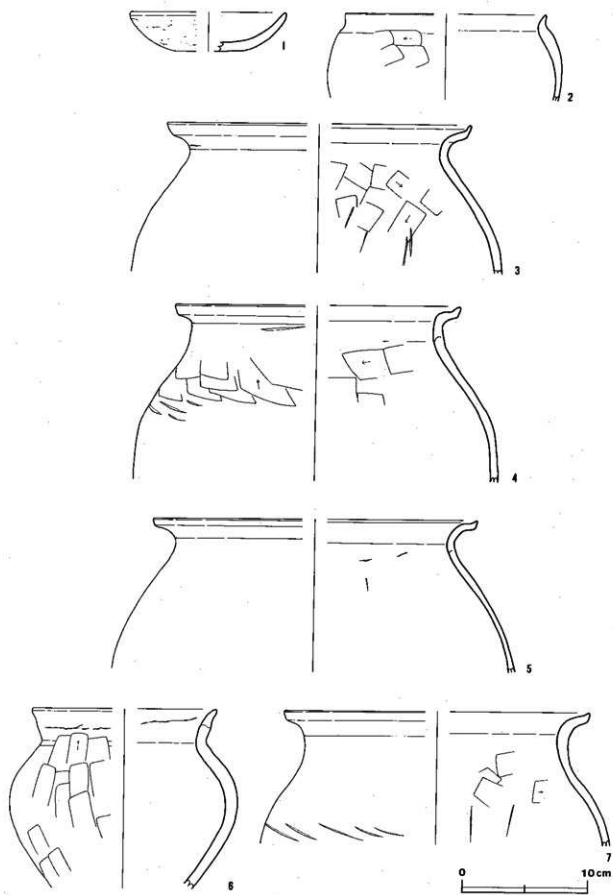
図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第91図 1	土師器 坏	A(12.4)	底部から体部片。平底。体部は内彎しなが外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面ナデ、外面へラ磨き。底部内・外面ナデ。	雲母・スコリア・バリスにぶい黄褐色	P227 20% 覆土下層
		B(3.2)			普通	
		C(5.4)				
2	土師器 甕	A(15.0)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部へラ削り後ナデ。	長石・石英・赤 普通	P235 5% 床面
		B(6.9)				
3	土師器 甕	A(24.4)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は短く外反する。口縁端部は、わずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。体部内面へラナデ、外面ナデ。体部内面に縦方向の沈線。	長石・石英・スコリアにぶい橙褐色 普通	P230 10% P ₁ 覆土中
		B(11.9)				
4	土師器 甕	A(22.8)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は急に外反する。口縁端部は、外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。体部内面ナデ、外面へラ削り後ナデ。体部外面にへラ痕。	長石・石英・雲母にぶい橙褐色 普通	P228 25% 覆土下層
		B(14.0)				
5	土師器 甕	A(26.0)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は外反する。口縁端部は、わずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面に輪痕み痕。	長石・石英・雲母・スコリアにぶい黄褐色 普通	P229 15% 床面
		B(12.2)				
第92図 6	土師器 甕	A(14.6)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ナデ。体部内面ナデ、外面へラ削り後ナデ。体部内・外面に輪痕み痕。	石英・スコリアにぶい赤褐色 普通	P234 20% 床面・P ₁₂ 覆土中
		B(14.5)				
7	土師器 甕	A(24.4)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は外反する。口縁端部は、わずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面ナデ。体部内面ナデ、一部へラナデ。体部外面ナデ。体部内・外面に斜位の沈線。	長石・石英・雲母・スコリアにぶい橙褐色 普通	P231 10% 覆土下層
		B(10.6)				



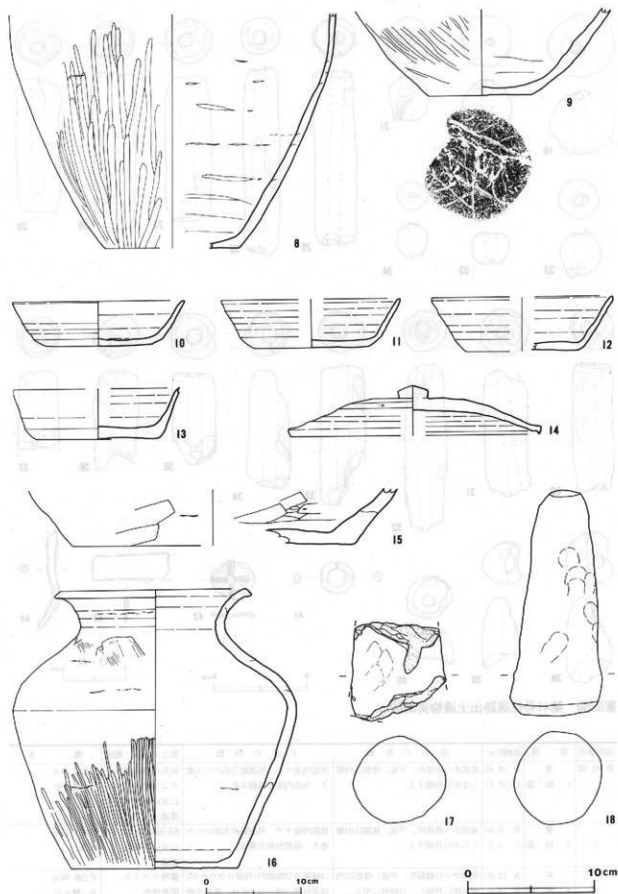
第89图 第41号住居跡实测图(1)



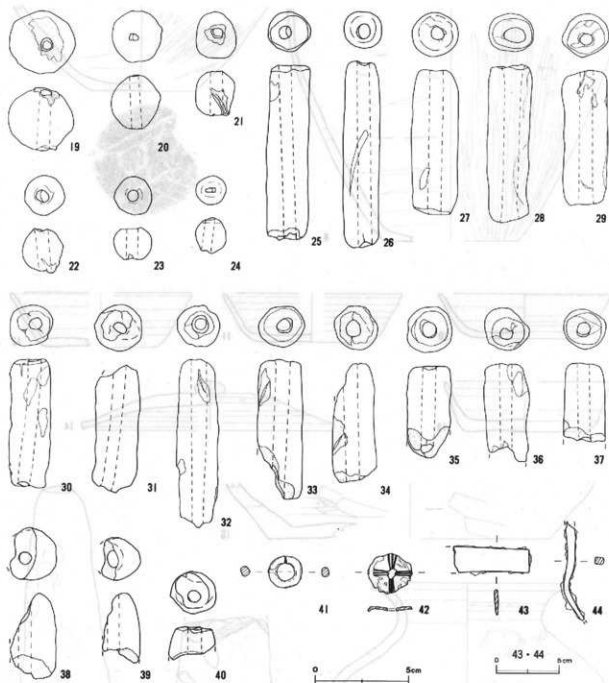
第90图 第41号住居跡实测图(2)



第91图 第41号住居跡出土遺物実測図(1)



第92图 第41号住居跡出土遺物実測図(2)



第93図 第41号住居跡出土遺物実測図(3)

図版番号	器種	許直径(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 92 図 8	甕 土 脚	B (18.8) C (10.6)	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら外傾する。	体部内面ナデ、外面縦方向のヘラ磨き。体部内面に輪積み痕。	長石・石英・雲母 スコリア・バミス に多い褐色 普通	P 232 20% P ₁₂ 覆土中
9	甕 土 脚	B (6.9) C 8.2	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら外傾する。	体部内面ナデ、外面斜め方向のヘラ磨き。底部外面木葉痕。	長石・雲母・スコリア に多い黄褐色 普通	P 233 15% 断面
10	坏 土 脚 器	A 13.8 B 3.6 C 8.6	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部手持ちヘラ削り。	雲母・バミス 明黄褐色 普通	P 236 50% P ₁₂ 覆土中

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第92図 11	坏 須恵器	A〔14.2〕	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端回転ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	灰石・石英・雲母 灰白色 良好	P237 25% 床面
		B 3.9 C 9.0				
12	坏 須恵器	A〔14.4〕	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	灰石・石英・雲母 橙色 普通	P238 30% P L28 覆土下層
		B 4.3 C〔9.0〕				
13	坏 須恵器	A〔13.3〕	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラ削り後、ナデ。底部周縁ナデ。	井沢鉱物・スコリア 灰色 普通	P239 40% 床面
		B 4.0 C 9.4				
14	蓋 須恵器	A〔20.2〕	天井部から口縁部片。天井部中央に擬宝珠状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し、口縁部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部上位回転ヘラ削り。	灰石・石英・雲母 灰色 良好	P240 50% P L28 覆土7層・P ₁ 覆土中
		B 3.0 F 2.4 G 1.3				
15	裏 須恵器	B〔4.5〕 C〔22.2〕	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。底部ナデ。	雲母・スコリア・パリス 灰色 普通	P242 5% 覆土下層
16	裏 須恵器	A 19.7 B 29.7 C 17.6	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎外傾に外傾し、体部上位に最大径を有する。口縁部は緩く外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位旋方内のヘラ磨き。底部外面手持ちヘラ削り。	灰石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P241 95% P L28 P ₁ 覆土中

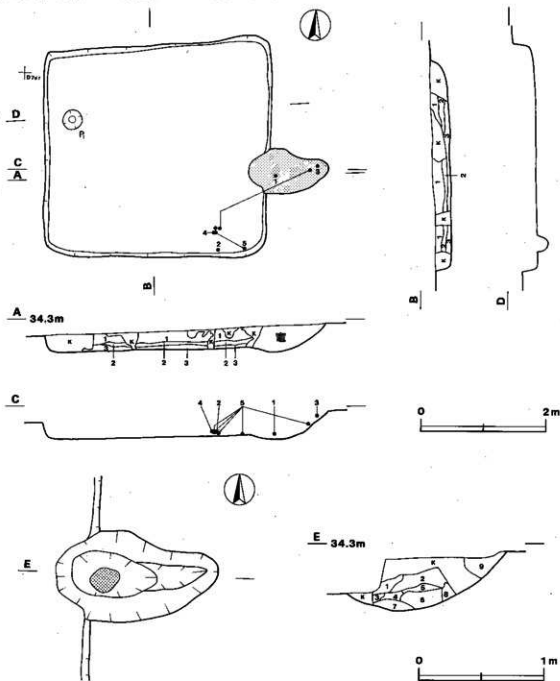
図版番号	器種	計 測 値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
17	土製支脚	(7.5)	(7.7)	—	(378.4)	P ₁₂ 覆土中	DP64
18	土製支脚	7.4	17.9	—	721.3	窟内覆土中	DP65 P L37
第93図19	土 玉	3.6	3.4	0.6	37.1	床面	DP42 P L36
20	土 玉	2.6	2.8	0.4	18.0	床面	DP43 P L36
21	土 玉	2.5	2.4	0.7	11.1	覆土中	DP44 P L36
22	土 玉	2.2	2.3	0.6	7.9	覆土中	DP45
23	土 玉	2.0	1.7	0.6	5.8	覆土上層	DP46
24	土 玉	1.6	1.9	0.5	4.1	覆土中	DP47
25	管状土鉢	2.3	9.3	0.6	55.1	P ₁₂ 覆土中	DP48 P L37
26	管状土鉢	2.0	9.8	0.7	38.8	床面	DP49 P L37
27	管状土鉢	2.5	7.7	0.6	53.2	覆土下層	DP50 P L37
28	管状土鉢	2.4	8.4	1.0	41.2	覆土中	DP51 P L37
29	管状土鉢	2.5	7.1	0.7	47.0	覆土上層	DP52 P L37
30	管状土鉢	2.2	6.9	0.7	37.3	床面	DP53 P L37
31	管状土鉢	2.5	6.8	0.7	41.2	P ₁₂ 覆土中	DP55 P L37
32	管状土鉢	2.3	9.0	0.8	30.3	P ₁₂ 覆土中	DP54 P L37
33	管状土鉢	2.4	7.4	0.8	38.8	覆土中	DP56 P L37
34	管状土鉢	2.3	6.3	0.7	30.6	覆土中	DP57 P L37
35	管状土鉢	2.4	(5.0)	0.7	(28.3)	覆土中	DP58 P L37
36	管状土鉢	2.4	(5.2)	0.6	(25.7)	覆土上層	DP59 P L37
37	管状土鉢	2.2	4.1	0.6	20.7	覆土下層	DP60 P L37
38	管状土鉢	2.8	(4.6)	0.7	(22.3)	覆土中	DP61 P L37
39	管状土鉢	2.3	(3.8)	0.6	(10.9)	覆土中	DP62
40	管状土鉢	2.5	(1.8)	0.7	(7.9)	覆土中	DP63

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第93図41	不明銅製品	(径) 1.9	—	0.5	4.2	覆土下層	M38
42	銅金具	(径) 2.4	—	0.3	(1.5)	覆土下層	M39 銅製(表面に黒錆が塗られている) PL6
43	刀子	(6.1)	2.1	0.3	(10.8)	覆土下層	M36
44	鉄鏝	(7.9)	0.7	0.6	(9.2)	床面	M37

第42号住居跡 (第94図)

位置 調査区の中央部, D7d区。

規模と平面形 長軸3.60m, 短軸3.43mの方形である。



第94図 第42号住居跡実測図

主軸方向 N-89°-E

壁 壁高は24-26cmで、外傾して立ち上がる。
床 平坦で、踏み固めた部分は見られない。
ピット 1か所 (P₁)。P₁は径31cmの不正円形、深さ26cmで、配置や規模から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 東壁中央部からやや南よりを壁外に1m程掘り込み、砂泥じり粘土で構築されているが、攪乱を受け遺存状態はよくない。天井部は崩落しており、袖部も残存していない。規模は、焚口部から煙道部までの長さは130cm、最大幅75cmである。火床部は、床面を10cmほど掘り留めている。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 黒褐色 粘土粒子中量、焼土・炭化・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗赤褐色 粘土粒子少量、焼土・ローム粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土・粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化・ローム粒子微量
- 5 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 6 暗暗赤褐色 焼土・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 7 暗赤褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 8 黒褐色 焼土・粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 9 暗赤褐色 粘土粒子中量、焼土・炭化・ローム粒子少量

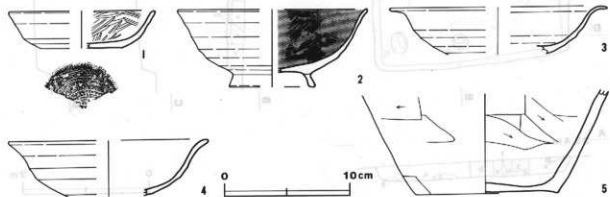
覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量

第42号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第95図 1	土師器 環	A(11.6)	底部から口縁部片。平底。体部は内脚尖味に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。底部回転糸切り。	石英・パミス 褐色 普通	P244 15% 甕内覆土下層
		B 3.0 C(6.6)				
2	土師器 椀	A(35.4)	高台部から口縁部片。高台は短く直線的に開く。体部は内脚しなから外傾し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。底部切り離し後、高台貼り付け。体部内面黒色処理。	長石・雲母・スコリア・パミス にぶい褐色 普通	P245 50% 覆土下層
		B 6.2				
		D 6.8				
		E 1.0				
3	土師器 椀	A(17.5)	体部片。体部は内脚ししながら外傾し、口縁部は強く外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。	雲母・スコリア・パミス 黒褐色 普通	P246 15% 甕覆土下層
		B(3.7)				
4	土師器 椀	A(16.0)	体部片。体部は内脚ししながら外傾し、口縁部は強く外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。	雲母・スコリア・パミス にぶい赤褐色 普通	P247 10% 甕覆土下層
		B(4.5)				
5	夷器 須臾器	B(8.0)	底部から体部片。体部は直線的に外傾する。	体部内面ナデ。一部へラナデ。体部外面へラ磨り。	石英・スコリア 明赤褐色 普通	P248 10% 甕覆土下層
		C 11.5				



第95図 第42号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片47点、須恵器片8点が、竈内と東コーナー部の覆土下層を中心に出土している。第95図1の土師器坏は竈内の覆土下層から、2の土師器碗は南東コーナー部の覆土下層から、3・4の土師器碗は竈内の覆土下層からそれぞれ出土している。5の土師器甕は、竈内の覆土下層と南東コーナー部の覆土下層から出土したものが接合した。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀中葉）と思われる。

第43号住居跡（第96図）

位置 調査区の西部、E6b区。

重複関係 本跡は、北部を第17号溝に掘り込まれていることから、第17号溝よりも古い。

規模と平面形 長軸（2.72）m、短軸3.15mの〔長方形〕と思われる。

主軸方向〔N-8°-E〕

壁 壁高は18~25cmで、外傾して立ち上がる。

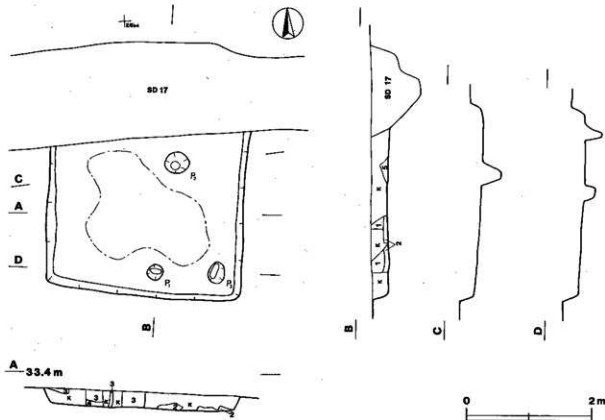
床 東側に傾斜しており、検出した床面の中央部は踏み固められ締まりがある。

ピット 3か所（P₁~P₃）。P₁は径25cmの不整形円形、深さ19cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P₂・P₃は長径40~45cm、短径25~34cmの不整形楕円形、深さ25~30cmで性格は不明である。

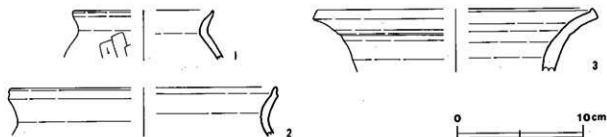
覆土 攪乱を受けているものの、5層からなる自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック少量



第96図 第43号住居跡実測図



第97図 第43号住居跡出土遺物実測図

第43号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第97図 1	小形土師器	A(11.2) B(4.0)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面へラ割り後ナデ。	雲母・パミス 灰褐色 普通	P250 5% 覆土中
2	甕 土師器	A(21.2) B(3.9)	口縁部片。口縁部は緩く外反し、口縁部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 明赤褐色 普通	P249 5% 覆土中
3	甕 須恵器	A(21.8) B(6.4)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は緩く外反する。口縁部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石・パミス 灰色 普通	P251 5% 覆土中

遺物 土師器片180点、須恵器片25点等が出土しているが、遺構全体が攪乱を受けておりほとんどが覆土中からの出土である。第97図1の土師器小形甕と2の土師器甕、3の須恵器甕はいずれも覆土中から出土している。
 所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀後半）と思われる。

第45号住居跡（第98図）

位置 調査区の中央部、C8i2区。

規模と平面形 長軸3.75m、短軸3.30mの長方形である。

主軸方向 N-23°-W

壁 壁高は40-45cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅20cm、下幅8cm、深さ7cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部から東部にかけて踏み固められている。

ピット 1か所（P1）。P1は長径36cm、短径32cmの不整形円形、深さ25cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部からやや北東よりを壁外に36cmほど掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。遺存状態は良い。天井部、袖部とも残存しており、煙出部も検出した。規模は、焚口部から煙道部までの長さ95cm、最大幅96cmである。天井部は、厚さ11cmの粘土で構築されている。火床部は、床面を10cmほど皿状に掘り留めており、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がり、徐々に角度を増してほぼ垂直に立ち上がっている。

竈土層解説

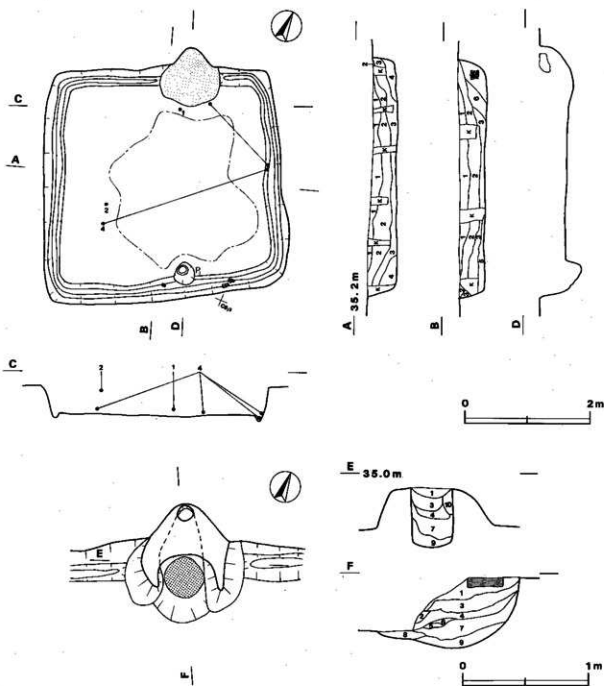
- 1 褐色 砂粒少量、焼土・炭化・ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化・ローム粒子微量
- 3 褐色 砂粒中量、ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 4 褐色 砂粒多量、炭化粒子少量、焼土・ローム粒子微量
- 5 暗赤褐色 砂粒多量、焼土粒子中量、炭化・ローム粒子微量
- 6 暗赤褐色 砂粒少量、焼土・炭化・ローム粒子微量

- 7 におい赤褐色 焼土・ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 8 暗赤褐色 焼土・炭化・ローム粒子微量
- 9 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 10 褐色 砂粒多量, 焼土・炭化・ローム粒子微量

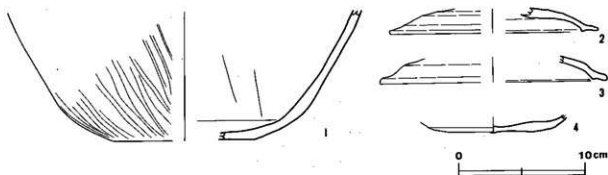
覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・粘土粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 焼土・炭化・ローム・粘土粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 6 灰褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量



第98図 第45号住居跡実測図



第99図 第45号住居跡出土遺物実測図

第45号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第99図 1	甕 土師器	B(10.3) C(11.4)	底部から体部片。平底。体部は内傾しなが外傾する。	体部内面ナデ、外面ヘラ磨き。底部木葉痕。	灰石・石英・スコリア・バミス にぶい橙黄色 普通	P252 10% 覆土下層
2	蓋 須恵器	A(16.6) B(2.0)	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し、口縁部は水平方向に伸びる。口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位部転へラ削り。	灰石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P254 10% 覆土上層
3	蓋 須恵器	A(18.0) B(2.0)	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し、口縁部は水平方向に伸びる。口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	灰石・石英・雲母・バミス 淡黄色 普通	P255 5% 覆土中
4	坏 須恵器	B(1.4) C 6.7	底部片。平底。	底部内面ナデ、外面回転へラ削り。	灰石・石英・雲母 灰白色 普通	P253 45% 覆土下層

遺物 土師器片150点、須恵器片36点の他、P₁付近に炭化材が少量検出された。第99図1の土師器甕は竈前面の覆土下層から、4の須恵器高台付坏は竈前面、北東壁際と南西部の覆土下層から出土したものが接合した。

2の須恵器蓋は西部の覆土上層から、3の須恵器蓋は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、3の須恵器高台付坏等から8世紀前葉と思われる。

第46号住居跡(第100・101区)

位置 調査区の中央部、D8c4区。

重複関係 本跡は北部を第9号溝に掘り込まれていることから、第9号溝よりも古い。

規模と平面形 長軸6.38m、短軸5.65mの長方形である。

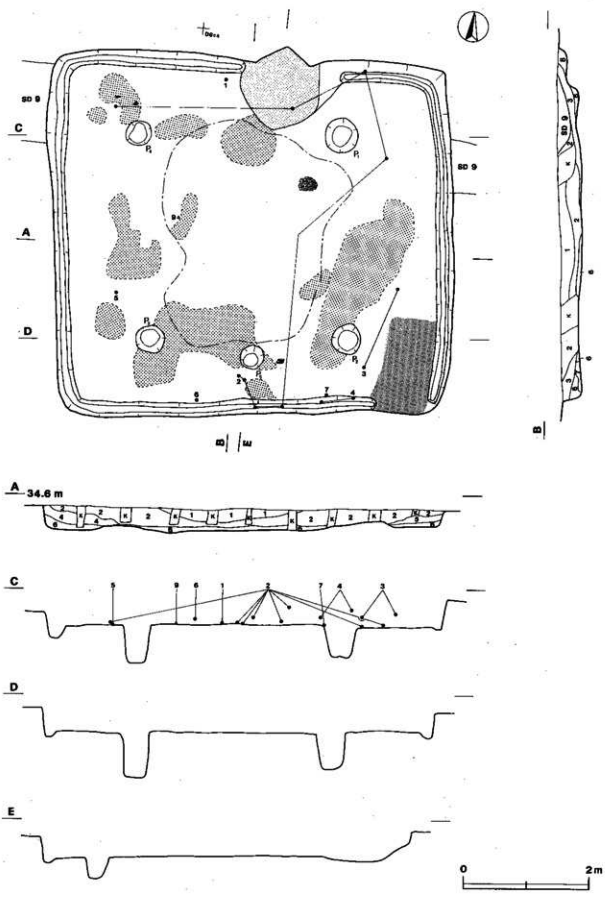
主軸方向 N-4°-W

壁 壁高は32~40cmで、外傾して立ち上がる。

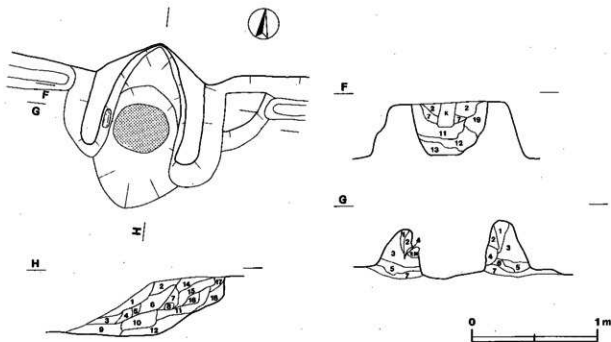
壁溝 南東コーナー部を除き、全周する。上幅20cm、下幅9cm、深さ9cmで、断面形は逆台形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁~P₄は径40~52cmの不整形円形、深さ50~71cmで、配置や規模から支柱穴と思われる。P₅は径46cmの不整形円形、深さ31cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。



第100图 第46号住居跡実測図(1)



第101図 第46号住居跡実測図(2)

竈 北壁中央部からやや東よりを壁外に29cmほど掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は、崩落しており、両側の袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部まで長さ135cm、最大幅127cmである。火床部は床面をわずかに掘り窪めており、レンガ状に赤変硬化し、かなり長期にわたって使われたものと思われる。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がり、中位からはほぼ垂直に立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|---------|--------------------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 砂粒多量、焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 暗赤色 | 砂粒中量、焼土粒子少量、炭化・ローム粒子微量 |
| 3 暗赤色 | 砂粒多量、焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 砂粒多量、焼土粒子少量 |
| 5 暗赤褐色 | 砂粒多量、焼土粒子少量 |
| 6 暗褐色 | 砂粒多量、焼土中・小ブロック・焼土粒子少量 |
| 7 暗赤褐色 | 焼土粒子・砂粒少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 8 暗赤褐色 | 砂粒多量 |
| 9 褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 10 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土中・小ブロック少量 |
| 11 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子微量 |
| 12 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土中ブロック少量 |
| 13 褐色 | ローム粒子中量、焼土小ブロック微量 |
| 14 褐色 | 砂粒多量、ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量 |
| 15 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、焼土小ブロック・ローム粒子微量 |
| 16 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子微量 |
| 17 褐色 | ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量 |
| 18 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 19 暗赤褐色 | 砂粒多量、焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子微量 |

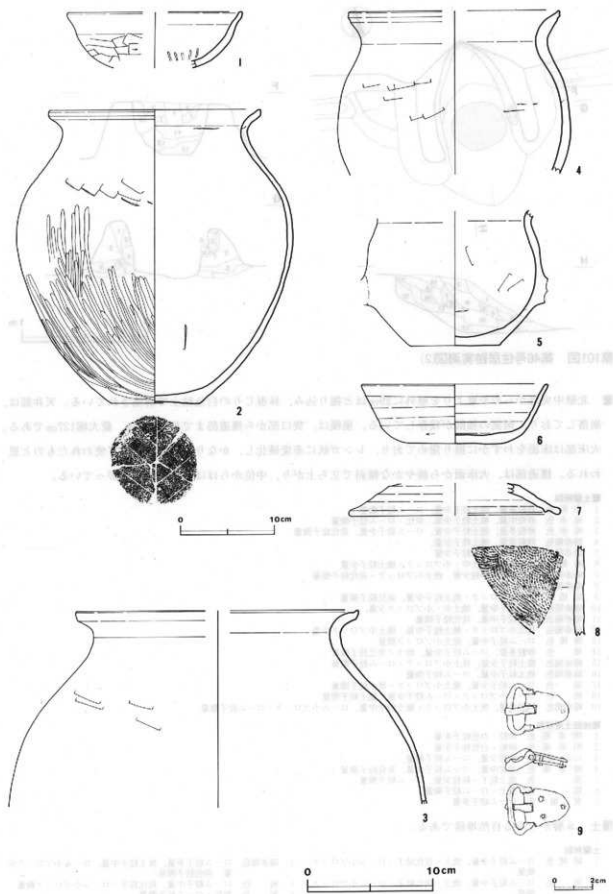
竈袖部土層解説

- | | |
|----------|---------------------|
| 1 明赤褐色 | 砂粒・白色粒子少量 |
| 2 明赤褐色 | 砂粒・白色粒子少量 |
| 3 にぶい黄褐色 | 砂粒少量、ローム粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 砂粒中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 褐色 | 焼土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量 |
| 6 褐色 | 焼土・ローム粒子微量 |
| 7 黄褐色 | ローム粒子多量 |

覆土 8層からなる自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---|--------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 4 暗赤褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・砂粒少量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 6 褐色 | 炭化・ローム粒子微量 |
| | | 7 褐色 | 砂粒多量、焼土粒子微量 |
| | | 8 赤褐色 | 砂粒少量、焼土・炭化粒子微量 |



第102图 第46号住居跡出土遺物実測図

第46号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(㎝)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第102図	1 土師器 環	A(13.8) B(4.5)	体部から口縁部片。体部は内彎しながらか外傾し、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ削り後ナデ。体部内面に縮文。	長石・雲母・スコリア 褐色 良好	P256 20% 覆土下層
2	土師器 甕	A 22.4 B 31.5 C 9.4	口縁部一部欠損。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面上位ナデ。下位腹方向のヘラ削き。体部外面上位にヘラ当てで痕。底部外面木葉痕。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P257 75% P L29 覆土下層
3	土師器 甕	A(22.6) B(15.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面上位にヘラ当てで痕。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P258 15% 覆土中層
4	土師器 甕	A(16.8) B(13.3)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁部外側に2本の沈線が通る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面上位にヘラ当てで痕。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P259 25% 覆土中層
5	土師器 甕	B(10.8) C 7.2	底部から体部片。体部外面中位に把手痕。体部は内彎しながら外傾する。	体部内面ナデ。外面刷毛のため調整不明。体部内面にヘラ当てで痕。底部手持ちヘラ削り。	石英・パミス 灰黄色 普通	P260 60% 床面
6	須恵器 環	A 14.8 B 4.7 C 7.8	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母・パミス 灰黄色 良好	P261 85% P L29 覆土下層
7	須恵器 蓋	A(16.8) B(2.6)	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し、口縁部に至る。口縁部内側に思いかえりを持つ。	天井部および口縁部内・外面クロコナデ。	石英・パミス・雲母 にぶい黄褐色 普通	P262 10% 床面

図版番号	器種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(㎝)	幅(㎝)	厚さ(㎝)	重量(㍑)		
9	帯金具	3.4	2.7	0.8	9.1	床面	M40 銅製品(鋭具) P L41

遺物 土師器片240点、須恵器片14点、銅製品(帯金具)等が出土している。土師器を中心に遺構全体の覆土下層及び中層から出土している。第102図1の土師器環は甕左袖部前面の覆土下層から、2の土師器甕は北部覆土下層と南部壁際の覆土下層から出土したものが接合した。3の土師器甕は南東部の覆土中層から、4の土師器甕は南東部壁際の覆土中層から、5の土師器甕は南西部の床面直上からそれぞれ出土している。6の須恵器環は南部壁際の覆土下層から、7の須恵器蓋は南東部壁際の床面直上から出土している。8は、本跡から出土した須恵器甕の体部片の拓影図で、外面に同心円状のタタキが見られる。9の帯金具(鋭具)は、西部の床面直上から出土している。

所見 本跡は床面全面に焼土を検出し、また少量の炭化材も確認した。焼失家屋の可能性もある。本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。

第47号住居跡(第103図)

位置 調査区の東部、D9e区。

規模と平面形 長軸4.70m、短軸4.50mの方形である。

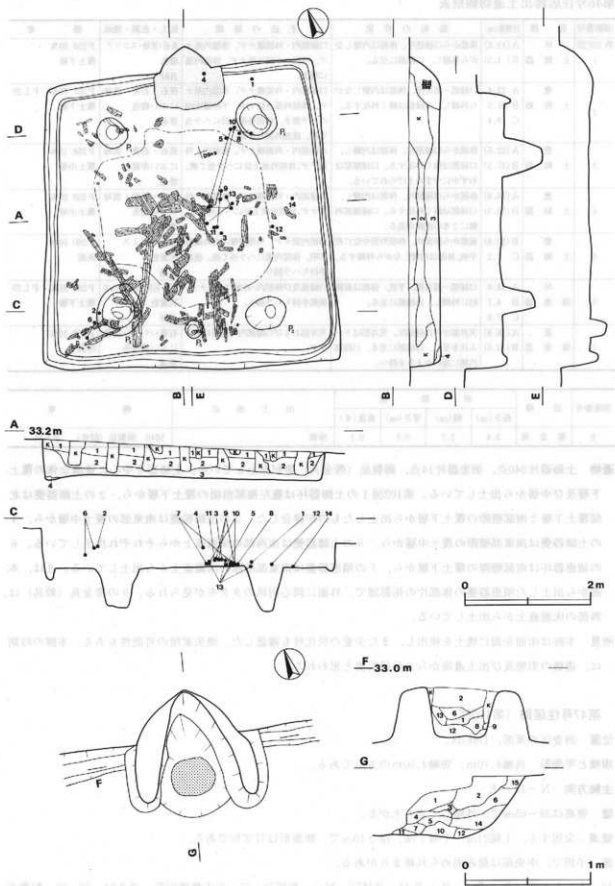
主軸方向 N-17°-E

壁 壁高は38-65cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅21cm、下幅7cm、深さ10cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められ締まりがある。

ピット 5か所(P1-P5)。P1-P4は、長径50-85cm、短径33-70cmの不整形円形、深さ54-72cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P5は径27cmの不整形円形、深さ29cmで、出入り施設に伴うピットと思われる。



第103图 第47号住居跡实测图

■ 北壁中央部を壁外に80cmほど掘り込み、砂混じり粘土で構築されている。天井部は、崩落しており両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さ105cm、最大幅115cmである。火床部は、床面をわずかに掘り窪めており、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は、火床面から外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
- 2 褐色 砂粒多量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 3 褐色 砂粒中量、焼土・炭化・ローム粒子微量
- 4 褐色 焼土小ブロック・焼土・ローム粒子微量
- 5 褐色 砂粒中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 焼土粒子・砂粒少量、炭化・ローム粒子微量
- 7 褐色 焼土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量
- 8 赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・砂粒少量、焼土小ブロック微量
- 9 暗褐色 焼土粒子・砂粒少量、焼土小ブロック・ローム粒子微量
- 10 赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、砂粒少量
- 11 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 12 暗褐色 焼土・ローム粒子少量
- 13 暗赤褐色 砂粒中量、焼土中・小ブロック・焼土粒子少量
- 14 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、砂粒少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 15 褐色 焼土・ローム粒子微量

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

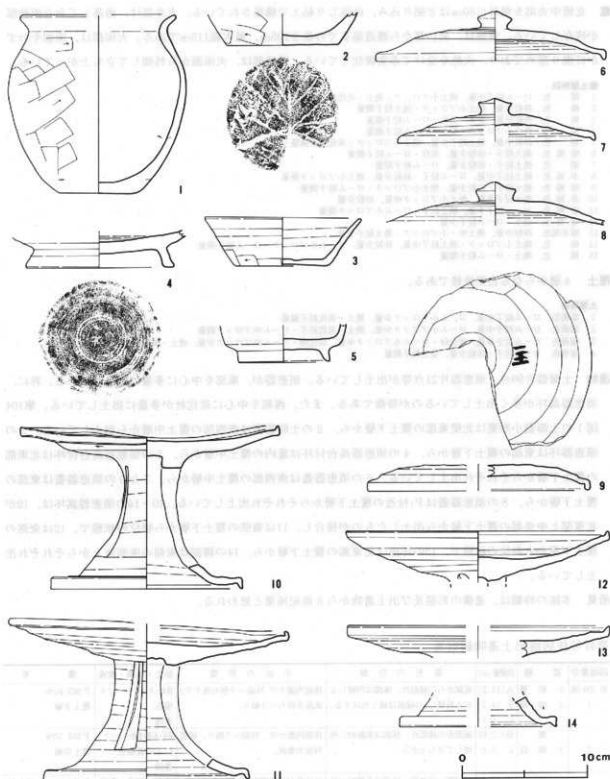
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量、炭化材・ローム小ブロック中量、炭化物・ローム中ブロック少量、焼土・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片90点、須恵器片21点等が出土している。須恵器が、東部を中心に多量に出土している。特に、須恵器高坏が多く出土しているのが特徴である。また、西部を中心に炭化材が多量に出土している。第104図1の土師器小形甕は北壁東部の覆土下層から、2の土師器甕は南西部の覆土中層から出土している。3の須恵器坏は東部の覆土下層から、4の須恵器高台付坏は竈内の覆土中層から、5の須恵器高台付坏は北東部の覆土下層からそれぞれ出土している。6の須恵器甕は南西部の覆土中層から、7と9の須恵器甕は東部の覆土下層から、8の須恵器甕はP1付近の覆土下層からそれぞれ出土している。10-14の須恵器高坏は、10が北東部と中央部の覆土下層から出土したものが接合し、11は東部の覆土下層から横位の状態で、12は東部の覆土下層から斜位の状態で、13の坏部は北東部の覆土下層から、14の脚部は東部の床面直上からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀後半と思われる。

第47号住居跡出土遺物観察表

国家番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第104図	1 土 師 器	A 12.2	底部から口縁部片。体部は内壁しな がら外傾し、口縁部は緩く外反する。	体部内面ナデ、外面ヘラ削り後ナデ。 底部手持ちヘラ削り。	雲母・スクリア・バミス 褐色 普通	P263 60% 覆土下層
		B 14.3				
		C 6.1				
2	土 師 器	B (2.6)	底部から体部片。体部は直線的に外 傾して立ち上がる。	体部内面ナデ、外面ヘラ削り。底部 外面木炭痕。	長石・石英・スクリア 灰白・黄褐色 普通	P264 50% 覆土中層
		C 9.0				
3	坏	A 12.4	口縁部一部欠損。体部は直線的に外 傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 体部内・外面に強いロクロ目。体部 下縁手持ちヘラ削り。底部ヘラ切り 後、手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P265 95% P L29 覆土下層
		B 3.8				
		C 7.5				
4	高 台 付 坏	B (3.0)	高台部片。高台は高めで、「ハ」の字 状に開く。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英 緑灰色 普通	P266 20% 覆土中層
		D 11.7				
		E 1.6				
5	高 台 付 坏	B (3.0)	高台部片。高台は短く真下に伸びる。	底部回転ヘラ切り後、ナデ。	長石・石英 灰色 普通	P267 20% 覆土下層
		D 7.4				
		E 1.6				



第104図 第47号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第104図	鏡	A 18.4	口縁部一部欠損。天井部中央に扉宝	天井部及び口縁部内・外面クロナ	長石・石英	P268 95% P.L29
6	須恵器	B 4.0	球状のつまみが付く。天井部はドーム	子。天井部外面上位回転ヘリ削り。	灰色	覆土中層
		F 2.8	状を呈し、口縁部に至る。口縁部		普通	
		G 1.4	部は短く折り返されている。			

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第104図 7	壺	A (15.8)	天井部から口縁部片、天井部中央に擬定球状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し、口縁部に至る。口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P269 60% P L29 覆土下層
	須恵器	B 3.5				
	F 2.7 G 1.3					
8	壺	B (3.5)	天井部中央に擬定球状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈する。	天井部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P270 50% 覆土下層
	須恵器	F 3.1				
	G 1.5					
9	壺	A (17.6)	天井部から口縁部片、つまみ欠損。天井部はドーム状を呈する。口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	石英・雲母 浅灰色 普通	P271 40% P L29 覆土下層 天井部外面に磨削・止歩
	須恵器	B (2.1)				
10	高須恵器	A 20.5	坏部及び脚部一部欠損。脚部はラッパ状に開き、二方に透かしが入る。坏部の口縁端部は上方に、脚部の口縁端部は下方に短く折り返されている。	坏部及び脚部内・外面ロクロナデ。坏部外面下位回転ヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P272 85% P L29 覆土下層
	須恵器	B 13.0				
	D 15.2					
	E 10.5					
11	高須恵器	A (22.4)	脚部から口縁部片。脚部はラッパ状に開き、三方に透かしが入る。坏部の口縁端部は上方に、脚部の口縁端部は下方に短く折り返されている。	坏部及び脚部内・外面ロクロナデ。坏部外面下位回転ヘラ削り。	長石・石英 黄灰色 普通	P273 75% P L29 覆土下層
	須恵器	B 13.0				
	D 16.4					
	E 9.6					
12	高須恵器	A 20.9	坏部、体部は内彎気味に外傾し、口縁端部は上方に短く折り返されている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部外面下位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 良好	P274 40% 覆土下層
	須恵器	B (4.3)				
13	高須恵器	A (20.8)	坏部、体部は内彎気味に外傾し、口縁端部は上方に短く折り返されている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面下位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰オリーブ色 普通	P275 15% 覆土下層
	須恵器	B (2.6)				
14	高須恵器	B (2.3)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。脚部口縁端部は、下方に短く折り返されている。	脚部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 灰白色 良好	P276 5% 床面
	須恵器	D (12.6)				

第48号住居跡 (第105図)

位置 調査区の東部，D01区。

重複関係 本跡は、南東部を第32号住居跡に掘り込まれていることから、第32号住居跡よりも古い。また、竈の一部が調査区外になっている。

規模と平面形 長軸3.80m、短軸3.56mの方形である。

主軸方向 N-85°-E

壁 壁高は22~33cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には、東壁の一部を除いて壁溝が回っている。上幅30cm、下幅15cm、深さ10cmで、断面形は逆台形である。

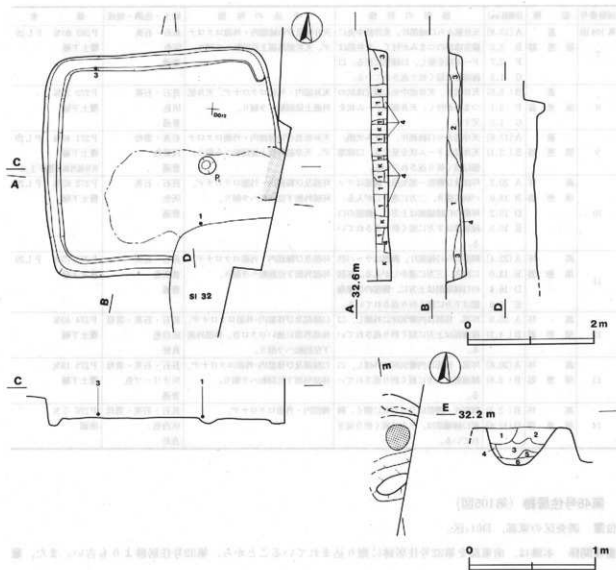
床 平坦で、南東部が踏み固められている。

ピット 1か所 (P₁)。P₁は径28cmの不整形円形、深さ10cmで、性格は不明である。

竈 竈東部が調査区外のため全体は調査できなかった。東壁中央部からやや南よりに付設され、砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落し、両袖部が残存している。火床部は、床面をわずかに皿状に掘り窪められている。煙道部は、調査区外のため確認できなかった。

竈土層解説

- 黒褐色 砂粒多量、炭化・ローム粒子微量
- 黒褐色 砂粒中量、焼土・炭化・ローム粒子微量
- 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒多量、炭化・ローム粒子中量
- 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒多量、炭化・ローム粒子微量
- 暗赤褐色 砂粒多量、焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量

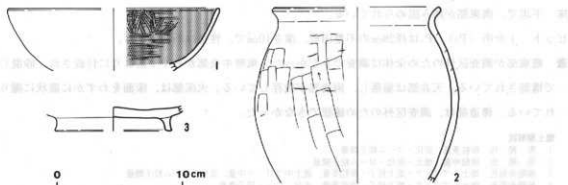


第105図 第48号住居跡実測図

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 3 茶褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 炭化・ローム粒子微量



第106図 第48号住居跡出土遺物実測図

第48号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第106図 1	土師器 坏	A(16.8) B(5.0)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部に至る。	体部内面へう磨き。体部外側ナデ。体部内面黒色処理。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P277 10% 覆土下層
2	土師器 甕	A(13.2) B(14.1)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面へう磨き後ナデ。	長石 灰色 普通	P278 30% P L29 覆土中
3	高台付坏 須恵器	B 1.9 D(8.4) E 1.1	高台部片。高台は短く「ハ」の字状に開く。	底部回転へう磨き後、高台貼り付け。	長石 灰色 普通	P279 5% 覆土下層

遺物 土師器片36点、須恵器片10点等が出土している。本遺構は、当遺跡の他の遺構と比べ出土遺物は少ない。

第106図1の土師器坏は南東部の覆土下層から、2の土師器甕は覆土中から、3の須恵器高台付坏は北壁西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀末葉）と思われる。

第49号住居跡（第107・108図）

位置 調査区の東部，E0a1区。

重複関係 本跡は、第50号住居跡に南東コーナー部を掘り込まれていることから、第50号住居跡よりも古い。

規模と平面形 長軸6.42m、短軸6.20mの方形である。

主軸方向 N-11°-W

壁 壁高は42～50cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅19cm、下幅7cm、深さ10cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 6か所（P1～P6）。P1～P4は、長径80～105cm、短径70～85cmの不整楕円形、深さ52～67cmで配置や規模から支柱穴と思われる。P5は長径80cm、短径57cmの不整楕円形、深さ45cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。P6は長径37cm、短径46cmの不整楕円形で性格は不明である。

竈 北壁中央部を壁外に30cmほど掘り込み、砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落し、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さ140cm、最大幅170cmである。火床部は、床面をわずかに掘り窪めた程度である。煙道部は、火床面からほぼ垂直に立ち上がっている。

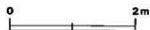
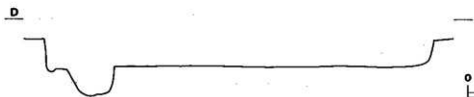
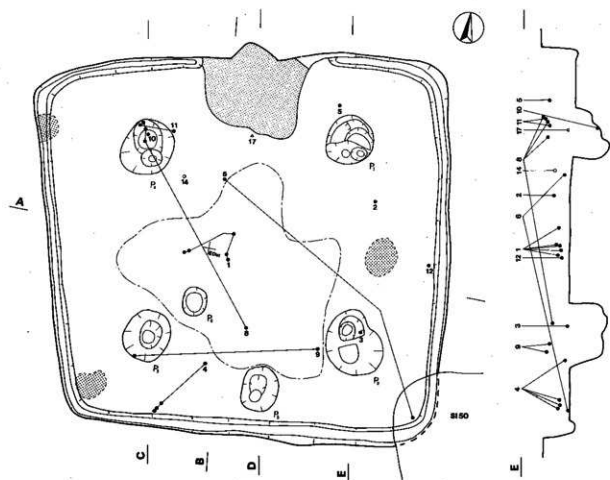
竈土層解説

- 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック・粘土粒子少量
- 極暗赤褐色 焼土・炭化粒子少量
- 暗褐色 粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量
- 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量

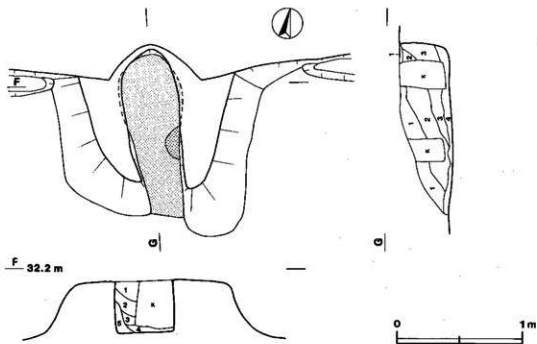
覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土・炭化・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・ローム中ブロック少量、炭化粒子微量
- 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子少量



第107图 第49号住居跡実測图(1)



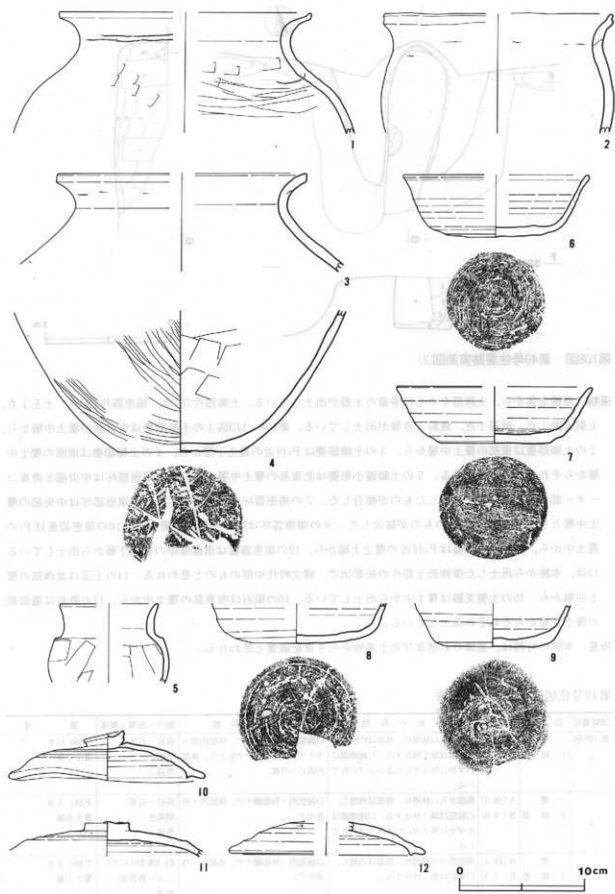
第108図 第49号住居跡実測図(2)

遺物 遺構全体から、土師器を中心に多量の土器が出土している。土師器片761点、須恵器片130点、土玉1点、土製支脚1点、砥石1点、鉄釘1点等が出土している。第109・110図1の土師器甕は中央部の覆土中層から、2の土師器甕は東部の覆土中層から、3の土師器甕はP₂付近の覆土下層から、4の土師器甕は南部の覆土中層からそれぞれ出土している。5の土師器小形甕は北東部の覆土中層から、6の須恵器坏は中央部と南東コーナー部の覆土下層から出土したものが接合した。7の須恵器坏は覆土中から、8の須恵器坏は中央部の覆土中層とP₂付近の覆土上層のものが接合した。9の須恵器坏は南部の覆土中層から、10の須恵器蓋はP₂の覆土中から、11の須恵器蓋はP₂付近の覆土上層から、12の須恵器蓋は東部壁際の覆土下層から出土している。13は、本跡から出土した深鉢形土器片の拓影図で、縄文時代中期のものと思われる。14の土玉は北西部の覆土中層から、15の土製支脚は覆土中から出土している。16の砥石は南東部の覆土中から、17の鉄釘は竈前面の覆土下層からそれぞれ出土している。

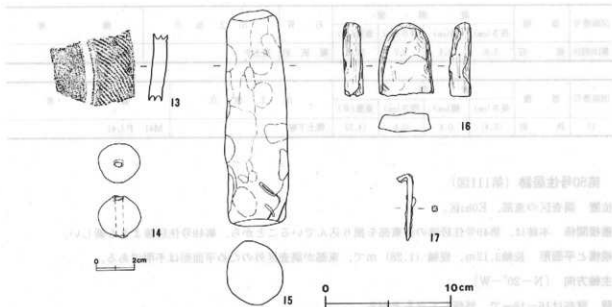
所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。

第49号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(m)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第109図 1	甕 土 師 器	A (20.0)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁部はわずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へクナデ、外面へラナデ後ナデ。体部内面にへウ痕。	長石・石英 明褐色 普通	P280 15% 覆土中層
		B (9.7)				
2	甕 土 師 器	A (18.0)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁部はわずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英 明褐色 普通	P281 5% 覆土中層
		B (9.6)				
3	甕 土 師 器	A (19.8)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スクリット にぶい黄褐色 普通	P282 5% 覆土下層
		B (7.9)				



第109図 第49号住居跡出土遺物実測図(1)



第110図 第49号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第109図 4	甕 土 師器	B (11.4)	底部から体部片。体部は内彎しなが ら外傾する。	体部内面ナデ、外面腹方向のヘラ削 り。底部外面木葉痕。	長石・石英・雲母 暗褐色 普通	P 283 15% 覆土中層
		C 9.8				
5	小形 土 師器	A (7.7)	体部から口縁部片。体部は内彎し、 頸部に段を持つ。口縁部は長く、緩 やかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外 面ヘラ削り後ナデ。	石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P 284 5% 覆土中層
		B (6.3)				
6	坏 須恵器	A (14.8)	底部から口縁部片。平底。体部は直 線的に外傾し、口縁部はわずかに外 反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰赤色 良好	P 285 70% P L 30 覆土下層
		C 7.9				
7	坏 須恵器	A (15.6)	底部から口縁部片。平底。体部は内 彎気味に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 底部手持ちヘラ削り。	長石・雲母・スコリア 灰黄色 普通	P 286 60% 覆土中
		C 9.2				
8	坏 須恵器	B (3.2)	底部から体部片。体部は直線的に外 傾する。	体部内・外面ロクロナデ。底部手持 ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 淡黄色 良好	P 287 50% 覆土上・中層
		C 9.7				
9	坏 須恵器	B (3.4)	底部から体部片。体部は直線的に外 傾する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘ ラ削り後ナデ。	長石・石英・雲母 浅黄色 普通	P 288 50% 覆土中層
		C 9.5				
10	蓋 須恵器	A 15.6	天井部から口縁部片。天井部中央に ボタン状のつまみが付く。天井部は ドーム状を呈し、口縁部に至る。天 井部内側に短く、するどいかえりを持 つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナ デ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P 289 60% P L 30 P ₁ 覆土中
		B 4.3				
		F 3.1				
		G 0.6				
11	蓋 須恵器	B (2.8)	天井部片。ボタン状のつまみが付く。	天井部内・外面ロクロナデ。天井部 外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 良好	P 290 30% 覆土上層
		F 3.5				
		G 0.7				
12	蓋 須恵器	A (15.7)	天井部から口縁部片。天井部はド ーム状を呈し、口縁部に至る。口縁部 内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナ デ。天井部外面に強いロクロ目。天井 部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英 灰白色 普通	P 291 20% 覆土下層
		B (2.6)				

図版番号	器種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第110図14	土 玉	2.2	2.2	0.4	9.1	覆土中層	DP 66
15	土製支脚	5.1	17.4	-	525.0	覆土中	DP 67 P L 37

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第110図16	砥石	5.9	4.4	1.7	59.0	凝灰岩	覆土中	Q12

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
17	鉄釘	(5.4)	0.4	0.4	(4.5)	覆土下層	M41 P.L41

第50号住居跡(第111図)

位置 調査区の東部, E0b₂区。

重複関係 本跡は, 第49号住居跡の南東部を掘り込んでいることから, 第49号住居跡よりも新しい。

規模と平面形 長軸3.12m, 短軸(1.28)mで, 東部が調査区外のため平面形は不明である。

主軸方向 [N-20°-W]

壁 壁高は16~18cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦であるが, 踏み固められた部分は検出できなかった。

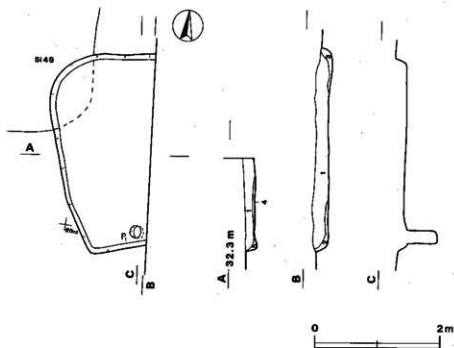
ピット 1か所(P₁)。P₁は長径20cm, 短径17cmの不整楕円形, 深さ45cmで, 性格は不明である。

覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化材・炭化粒子・ローム小ブロック少量・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

遺物 土師器片20点, 須恵器片3点の他, 覆土中から鉄滓が90g出土している。東部が調査区外であり出土物は少なく, ほとんどが破片である。



第111図 第50号住居跡実測図

所見 本跡は、時期を決定できる遺物はないが、第49号住居跡（8世紀前葉）を掘り込んでいることから、8世紀前葉以降の堅穴住居跡と思われる。

第51号住居跡（第112図）

位置 調査区の東部，E0g₂区。

規模と平面形 長軸（1.70）m，短軸（0.96）mで，西部を残しほとんどが調査区外のため，平面形は不明である。

主軸方向 [N-23°-W]

壁 壁高は46-48cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，踏み固められた部分は検出できなかった。

覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗 色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
- 2 暗 色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子微量

遺物 土師器片7点，須恵器片1点の他，鉄滓50gが覆土中から出土している。

所見 本跡は，時期を決定できる遺物がなく時期は不明である。

第52号住居跡（第112図）

位置 調査区の東部，E0h₂区。

重複関係 本跡は，西部を第11号溝に掘り込まれていることから，第11号溝よりも古い。

規模と平面形 長軸2.98m，短軸2.92mの方形である。

主軸方向 N-89°-E

壁 壁高は16-62cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁の一部と北東コーナー部，東壁北部を除いて全周する。上幅20-30cm，下幅6-9cm，深さ5cmで，断面形は逆台形である。

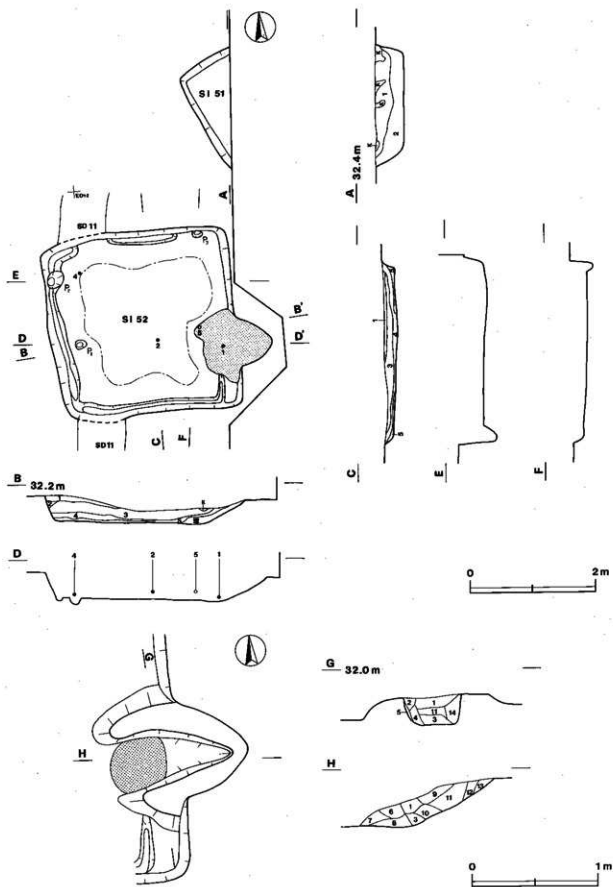
床 平坦で，中央部は踏み固められ締まりがある。

ピット 3か所（P₁-P₃）。P₁は長径19cm，短径15cmの不整楕円形，深さ10cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P₂・P₃は長径17-30cm，短径11-15cmの不整楕円形，深さ10-22cmで，性格は不明である。

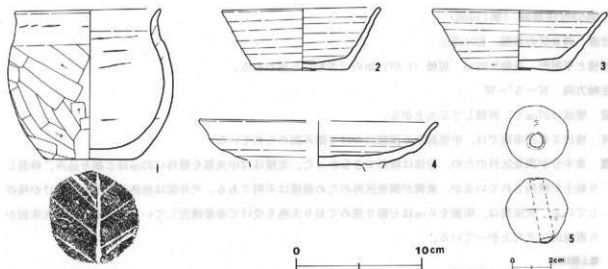
竈 東壁中央部からやや南よりを壁外に55cmほど掘り込み，砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落し，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ110cm，最大幅105cmである。火床部は，床面をわずかに掘り窪めた程度である。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

覆土層解説

- 1 暗 赤 褐色 焼土・ローム粒子少量
- 2 暗 赤 褐色 焼土・ローム粒子中量
- 3 にいれ赤褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量
- 4 暗 褐色 焼土粒子多量，ローム粒子中量
- 5 暗 赤 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子微量
- 6 暗 赤 褐色 焼土粒子中量，ローム粒子少量
- 7 暗 赤 褐色 ローム・粘土粒子中量，焼土粒子少量
- 8 暗 赤 褐色 焼土・ローム粒子少量
- 9 暗 赤 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 10 暗 赤 褐色 焼土小ブロック多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
- 11 暗 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量，焼土中ブロック・粘土粒子少量
- 12 にいれ赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 13 暗 褐色 焼土・ローム粒子少量
- 14 暗 赤 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量



第112图 第51·52号住居跡実測图



第113図 第52号住居跡出土遺物実測図

第52号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第113図 1	小形変 土師器	A 11.6	口縁部一部欠損。体部は内傾しながら外傾し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り後ナデ。底部外面木葉痕。	長石・石英・雲母 P292 95% 覆土下層 普通	P L30
		B 12.0				
		C 7.0				
2	須恵器 坏	A 12.6	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。体部外面に強いロクロ目。底部回転へラ削り後ナデ。底部回転後ナデ。	長石・石英・針状炭素 P293 98% 覆土下層 普通	P L30
		B 5.0				
		C 7.4				
3	須恵器 坏	A 13.8	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端回転へラ削り。底部回転へラ削り後ナデ。	長石・石英・雲母 P294 70% 覆土中 普通	P L30
		B 4.7				
		C 7.0				
4	須恵器 盤	A (18.8)	底部から口縁部片。高台部欠損。体部は内傾気味に外傾し、口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。	長石・石英 P295 15% 覆土下層 普通	P L30
		B (3.6)				

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
5	土玉	3.3	3.4	0.7	32.6	覆土下層	D P68 P L36

覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

- 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量、炭化粒子微量
- 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

遺物 土師器片68点、須恵器片11点の他、鉄滓200gが覆土中から出土している。第113図1の土師器小形変は竈内の覆土下層から横位の状態で、2の須恵器坏は中央部の覆土下層から正位の状態で出土している。3の須恵器坏は覆土中から、4の須恵器盤は北西部の覆土下層から出土している。5の土玉は、竈付近の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から平安時代（9世紀前半）と思われる。

第53号住居跡 (第114図)

位置 調査区の東部, E012区。

規模と平面形 長軸3.92m, 短軸 (1.67) mの〔方形〕と思われる。

主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は27cmで, 外傾して立ち上がる。

床 検出された床面では, 中央部から西部にかけて踏み固められている。

竈 東半分が調査区外のため, 全体は検出できなかった。北壁ほぼ中央部を壁外に23cmほど掘り込み, 砂混じり粘土で構築されているが, 東側が調査区外のため規模は不明である。天井部は崩落し, 左袖部だけが残存している。火床部は, 床面を6cmほど掘り窪めており火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は, 火床面から直線的に立ち上がっている。

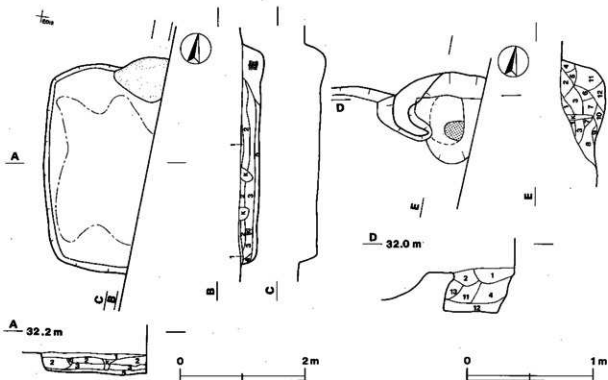
覆土層解説

- | | | |
|----|--------|-------------------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量 |
| 3 | 褐色 | 焼土小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・砂粒少量 |
| 4 | 暗赤褐色 | 焼土中ブロック中量, 焼土・ローム粒子少量 |
| 5 | 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 6 | にぶい赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・砂粒少量 |
| 7 | 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・砂粒少量 |
| 8 | 暗赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・砂粒中量, ローム粒子少量 |
| 9 | 暗赤褐色 | 焼土・ローム粒子少量 |
| 10 | にぶい赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量 |
| 11 | 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 12 | 褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 |
| 13 | にぶい赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量 |

覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

- | | | |
|---|-----|-----------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量 |
| 4 | 褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 5 | 褐色 | ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量 |



第114図 第53号住居跡実測図

遺物 土師器片19点、須恵器片2点、砥石1点が、遺構全体に散乱した状態で出土している。ほとんどが破片である。第115図1の砥石は、覆土中から出土している。

所見 本跡は、時期を決定できる遺物がなく時期不明である。



第115図 第53号住居跡出土遺物実測図

第53号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第115図1	砥石	5.9	3.1	1.5	38.7	凝灰岩	覆土中	Q13

第54号住居跡 (第116・117図)

位置 調査区の東部, E9j0区。

重複関係 本跡は、第55号住居跡の床上に床を構築し、さらに第11号溝が両遺構を掘り込んでいることから、

第55号住居跡より新しく、第11号溝よりも古い。また本跡は、第50・102号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸(3.35)m、短軸3.20mの〔長方形〕と思われる。

主軸方向 N-82°-E

壁 壁高は8~47cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には全周する。上幅23cm、下幅4cm、深さ10cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、全体的に軟らかく締まりがない。

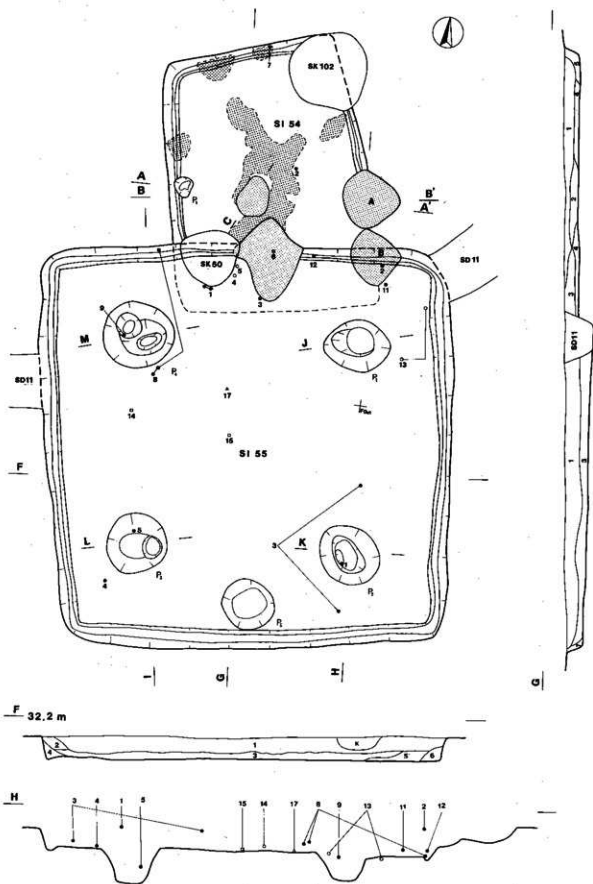
ピット 1か所(P1)。P1は長径33cm、短径27cmの不整形円形、深さ20cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 2基検出されている。竈Aは、東壁中央部からやや南よりの部分を壁外に55cmほど掘り込み、砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部もほとんどが残存していない。規模は、焚口部から煙道部までの長さ90cm、最大幅91cmである。火床部は、床面をわずかに掘り窪めた程度であるが、レンガ状に赤変硬化しており、かなり長期にわたって使われたものと思われる。煙道部は、火床面から緩やかに立ち上がっている。

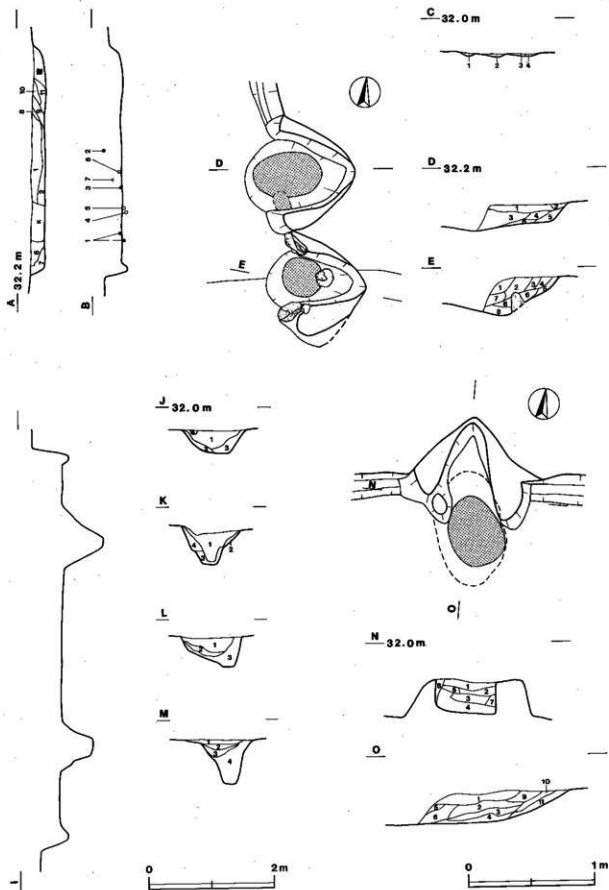
竈A土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 灰土・炭化粒子少量、ローム小ブロック少量
- 3 暗赤褐色 灰土粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 濃い赤褐色 粘土粒子中量、ローム粒子少量
- 5 濃い赤褐色 灰土粒子少量、ローム粒子中量
- 6 暗赤褐色 ローム粒子多量、灰土粒子少量

竈Bは、東壁中央部からやや1mほど南よりの部分を壁外に40cmほど掘り込み、砂混じり粘土で構築されている。中央部から粘土塊が検出され、赤変しており支脚に利用された可能性もある。天井部は崩落しており、両袖部もほとんどが残存していない。袖部から、補強材に使われたと思われる雲母片岩が出土している。規模は、焚口部から煙道部までの長さ90cm、最大幅91cmである。火床部は、床面を11cmほど掘り窪めている。煙道部は、火床面から外傾して立ち上がっている。



第116图 第54・55住居跡実測图(1)



第117图 第54·55住居跡実測図(2)

竪口土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・焼土小ブロック・砂粒少量
- 2 暗褐色 粘土粒子中量、炭化・ローム粒子少量
- 3 にぶい赤褐色 炭化・粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 4 黒褐色 炭化粒子少量
- 5 にぶい赤褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 6 極暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック少量
- 7 極暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、砂粒少量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量

炉 中央部から南よりに位置し、長径65cm、短径45cmの楕円形で、床面を20cmほど掘り窪めた地床炉である。

炉床は、火熱を受けて赤変している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 2 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量
- 3 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量

覆土 11層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム大ブロック少量、ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 焼土・ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 4 黒褐色 焼土・炭化粒子少量、炭化材・ローム粒子微量
- 5 暗褐色 焼土・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 6 暗褐色 焼土・炭化・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 黒褐色 焼土・炭化・ローム・粘土粒子少量
- 8 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子・砂粒中量
- 9 暗褐色 焼土粒子中量、炭化・ローム粒子・砂粒少量
- 10 暗褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化・ローム粒子少量
- 11 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子・砂粒少量

遺物 土師器片186点、須恵器片34点、羽口2点、金床石1点、刀子1点の他、覆土中から鉄滓が出土している。

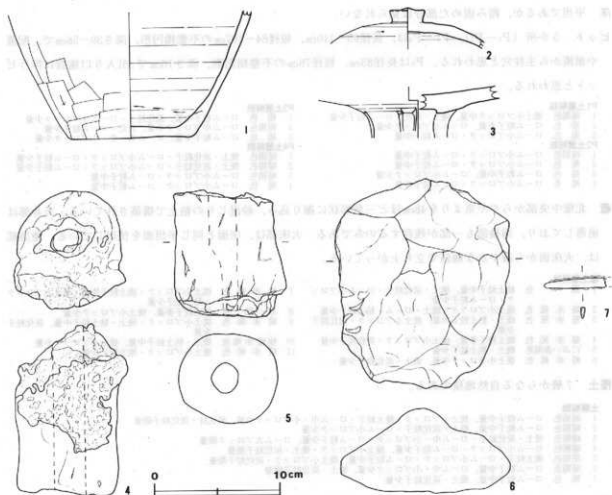
第118図1の土師器片は南西部の覆土下層から、2の須恵器片は中央部の覆土上層から、3の須恵器高坏は南部の床面直上からそれぞれ出土している。4・5の羽口は南西部の床面直上から、6の金床石は南部の床面直上から、7の刀子は北壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。2の須恵器片、7の刀子を除いては、床面直上か覆土下層からの出土である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀前半）と思われる。

第54号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第118図 1	土師器	B (10.2)	底部から体部片。体部は内側気味に外傾する。	体部内面ナデ、外面ヘラ削り後ナデ。底部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P299 25% 覆土下層
		C 9.8				
2	須恵器	B (3.6)	天井部片。鑑定珠状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈する。	天井部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P300 15% 覆土上層
		F 2.7				
		G 1.4				
3	高須恵器	B (4.2)	坏部および脚部片。四方透かしか、	坏部及び脚部ロクロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P302 5% 床面

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
4	羽口	(9.0)	14.1	2.5	(815)	床面	D P 69 P L 37
5	羽口	8.9	(10.3)	10.3	(620)	床面	D P 70



第118図 第54号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第118図6	金床石	16.7	13.9	6.8	1669.7	砂岩	床面	Q14

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
7	刀子	(5.0)	0.8	0.3	(2.2)	覆土中層	M42

第55号住居跡 (第116・117区)

位置 調査区の東部, E9j区。

重複関係 本跡上に第54号住居跡が構築されており, また, 両遺構を第11号溝が掘り込んでいることから, 本跡は第54号住居跡や第11号溝よりも古い。

規模と平面形 一辺6.48mの方形である。

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は29-51cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅28cm, 下幅9cm, 深さ7cmで, 断面形は逆台形である。

床 平坦であるが、踏み固めた部分は見られない。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は、長径95~110cm、短径84~107cmの不整形円形、深さ39~56cmで、配置や規模から支柱穴と思われる。P5は長径83cm、短径76cmの不整形円形、深さ16cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

P1土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック中量、焼土・炭化・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

P2土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

P3土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック中量、炭化・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム大・中・小ブロック少量

P4土層解説

- 1 暗褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

竈 北壁中央部からやや東よりを48cmほど三角形状に掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部も一部が残存するのみである。火床部は、床面と同じ平坦面を使用している。竈道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

覆土層解説

- 1 褐色 粘土粒子中量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・ローム・粘土粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土・粘土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 5 に近い赤褐色 焼土・粘土粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック中量、焼土・炭化粒子少量
- 7 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土大ブロック・粘土粒子少量
- 8 赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック少量
- 9 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量
- 10 暗赤褐色 焼土・粘土粒子中量、焼土小ブロック少量
- 11 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量

覆土 7層からなる自然堆積である。

土層解説

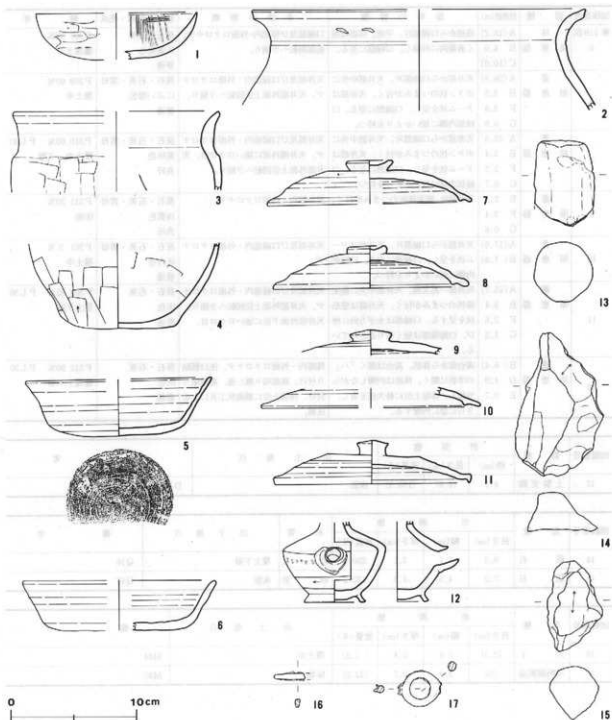
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中・小ブロック少量、炭化材・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量、焼土・炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化粒子少量

遺物 土師器片942点、須恵器片56点が竈付近と北部の覆土下層を中心に出土している。第119図1の土師器片はP2付近の覆土上層から、2の土師器片は北部の覆土上層から、3の土師器片は南東コーナー部の覆土中下層から、4の土師器片は南西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。5の須恵器片はP3の覆土中から、6の須恵器片は竈の覆土中から出土している。7の須恵器片は覆土中から出土している。8の須恵器片は、P4付近の覆土中層と北壁際西部の覆土下層から出土したものが接合した。9の須恵器片はP4直上から、10の須恵器片は覆土中から出土している。11の須恵器片は北東コーナー部の覆土下層から逆位の状態で、12の須恵器片は竈の覆土下層から正位の状態出土している。13の土製支脚は北東壁際の床面直上から出土している。14の砥石は西部の覆土下層から、15の砥石は中央部の床面直上からそれぞれ出土している。16の刀子は覆土中から、17の不明銅製品は中央部の床面直上からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺物の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。

第55号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・構成	備考
第119図 1	土師器 環	A(13.0)	体部から口縁部片。体部は内彎しなから外傾し、口縁部に至る。	口縁部内面横方向のヘラ磨き、外面横ナデ。体部内面ナデ後、ヘラ磨き。体部外面ヘラ磨り接ナデ。	石英 褐色 良好	P303 10% 覆土上層
		B(3.7)				
2	土師器 甕	A(26.6)	体部は内彎し、口縁部は緩く外反する。口縁部は、わずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。胴部外面に輪痕み痕。	長石・石英・雲母 明赤褐色 良好	P298 5% 覆土上層
		B(8.1)				
3	土師器 甕	A(16.4)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は直線的に外傾した後、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ磨り接ナデ。	石英・雲母 褐色 普通	P304 5% 覆土中・下層
		B(6.4)				



第119図 第55号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第119図 4	甕 土師器	B (6.7) C 8.2	底部から体部片。体部は内輪しながら外傾する。	体部内面ナデ、外面へテ削り後ナデ。 底部手持ちへテ削り後ナデ。	長石・石英・雲母 オリーブ黒色 普通	P305 30% 覆土下層
5	坏 須恵器	A (14.8) B 4.5 C 9.2	底部から口縁部片。丸みをおびた平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 底部回転へテ削り。	長石・雲母・スコリア・ハリス オリーブ黄色 普通	P306 50% P ₂ 覆土中

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第 119 図 6	須 恵 器	A (15.2)	底部から口縁部片。平底。体部は短く直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・石英 灰黄褐色 普通	P 307 35% 覆土中
		B 4.0				
		C (10.0)				
7	須 恵 器	A (20.3)	天井部から口縁部片。天井部中央にボタン状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し、口縁部に至る。口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P 309 60% 覆土中
		B 3.5				
		F 3.8				
		G 0.8				
8	須 恵 器	A 15.6	天井部から口縁部片。天井部中央にボタン状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し、口縁部に至る。口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面に強いロクロ目。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 黄灰色 良好	P 310 60% P L30 覆土中・下層
		B 3.4				
		F 3.2				
		G 0.7				
		蓋				
9	須 恵 器	F 3.4				
		G 0.8				
10	須 恵 器	A (17.6)	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し、口縁部に至る。口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P 301 5% 覆土中
		B (1.6)				
11	須 恵 器	A (15.7)	天井部一部欠損。天井部中央に覆宝珠状のつまみが付く。天井部は壺形状を呈する。口縁部は水平方向に伸び、口縁部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。天井部外面下位に強いロクロ目。	長石・石英 灰色 普通	P 308 85% P L30 覆土下層
		B 3.4				
		F 2.5				
		G 1.2				
12	須 恵 器	B (6.4)	高台部から体部。高台は短く「ハ」の字状に開く。体部は内傾しながら外傾し、体部上位に最大径を有し、さらに急に内傾する。	体部内・外面ロクロナデ。注口部貼り付け。底部切り離し後、高台貼り付け。体部上位に磨曲状工具による圧痕。	長石・石英 灰色 普通	P 312 90% P L30 覆土下層
		D 4.9				
		E 0.7				

図版番号	器 種	計 測 値			出 土 地 点	備 考
		径(cm)	長さ(cm)	重量(g)		
13	土製支脚	4.9	(6.8)	(150.9)	床面	DP71

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
14	砥 石	9.3	7.1	3.1	250.8	砂 岩	覆土下層	Q16
15	砥 石	7.2	4.5	4.3	122.2	砂 岩	床面	Q17

図版番号	器 種	計 測 値				出 土 地 点	備 考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
16	刀 子	(2.5)	0.6	0.4	(1.2)		覆土中	M44
17	不明磨製品	(3.5)	2.9	0.7	(12.0)		床面	M45

第56号住居跡 (第120図)

位置 調査区の東部、E9c2区。

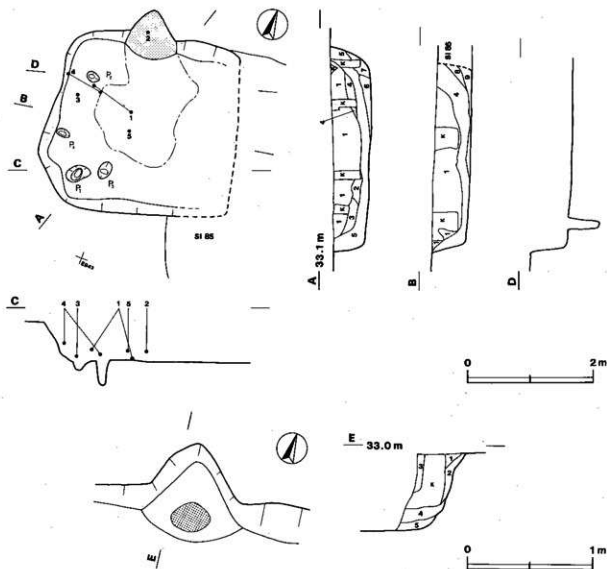
重複関係 本跡は、第85号住居跡の西部を掘り込んでいることから第85号住居跡よりも新しい。

規模と平面形 長軸2.93m、短軸〔2.87〕mの〔方形〕と思われる。

主軸方向 N-14°-W

壁 壁高は50~56cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央部から竈前面にかけて踏み固められ締まりがある。



第120図 第56号住居跡実測図

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁~P₄は長径23~40cm、短径12~24cmの不整形円形、深さ14~50cmで、性格は不明である。

竈 北壁中央部を壁外に83cmほど掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落し、袖部も残存していない。規模は、焚口部から煙道部までの長さ77cm、最大幅80cmである。火床部は、床面と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は、火床面から急に外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

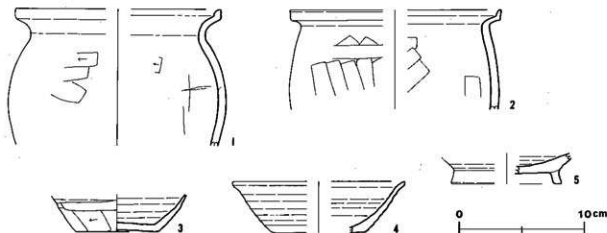
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土・ローム・粘土粒子少量、炭化物微量
- 5 極暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量

覆土 9層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化物微量
- 2 褐色 ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

- 5 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 6 黒褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化材・炭化粒子・ローム粒子少量
 7 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
 8 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
 9 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土・ローム粒子少量



第121図 第56号住居跡出土遺物実測図

第56号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	器高(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・構成	備考
第121図 1	土師器	A(16.4)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。一部ヘラナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。体部内面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P313 15% 覆土下層・床面
		B(10.9)				
2	土師器	A(17.0)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P314 10% 覆土下層
		B(7.9)				
3	小形土師器	B(3.0)	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部内面ナデ、外面下指手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P315 10% 覆土下層
		C(6.5)				
4	須恵器	A(13.8)	底部から口縁部片。平底。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。体部外面に強い口ロナ目。底部外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P316 20% 覆土中・下層 酸化焙焼成
		B(4.1) C(7.4)				
5	高台付須恵器	A(15.8)	高台部片。高台は「ハ」の字状に開く。	底部回転ヘラ削り後、高台削り付け。	長石・針状鉱物 灰オリーブ色 普通	P317 5% 覆土下層
		B(4.1) C(9.4)				

遺物 土師器片63点、須恵器片37点の他、覆土中から鉄滓が300g出土している。第121図1の土師器Aは、中央部の床面直上と西部の覆土下層から出土したものが接合した。2の土師器Bは窟内の覆土下層から横位の状態で、3の土師器Cは西部の覆土下層から出土している。4の須恵器Aは、西部の覆土下層と西壁際の覆土中層から出土したものが接合した。5の須恵器高台付Aは、中央部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺物の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀中葉）と思われる。

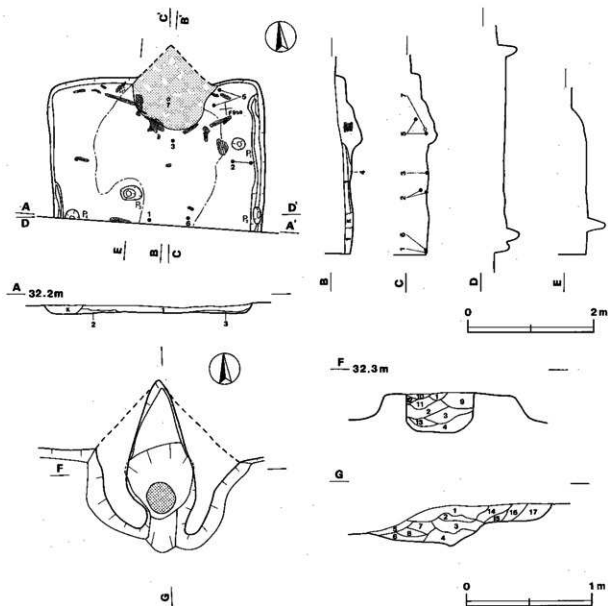
第57号住居跡（第122図）

位置 調査区の東部、F9b区。

規模と平面形 長軸(2.33)m、短軸3.42mの〔方形〕と思われる。

主軸方向 N-8°-E

壁 壁高は16~20cmで、外傾して立ち上がる。



第122図 第57号住居跡実測図

壁溝 東壁と西壁の南部に検出した。上幅20cm、下幅10cm、深さ5cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、竈前面から中央部にかけて踏み固められている。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁~P₄は、長径21~32cmの不整形円形、短径13~23cmで、性格等は不明である。

竈 北壁中央部からやや東よりを壁外に55cmほど三角形に掘り込み、砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落し、両袖部は残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さ136cm、最大幅130cmである。火床部は、床面を5cmほど掘り窪めている。煙道部は火床面から外傾し、中位に平坦面を持ち、そこからほぼ垂直に立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子少量
- 2 に近い赤褐色 ローム粒子少量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・炭化粒子中量

- 5 暗赤褐色 焼土・粘土粒子中量、焼土小ブロック・炭化材少量
 6 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
 7 暗赤褐色 焼土大ブロック多量、焼土粒子・炭化材中量
 8 におい赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
 9 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
 10 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
 11 極暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
 12 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
 13 暗赤褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
 14 極暗赤褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
 15 暗赤褐色 炭化材多量、焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
 16 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量
 17 におい赤褐色 焼土・炭化粒子少量

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化材・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 2 黒褐色 炭化材・炭化粒子少量、焼土・ローム粒子少量
 3 黒褐色 炭化材多量、炭化粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 4 黒褐色 炭化材・炭化粒子中量、焼土・ローム粒子少量

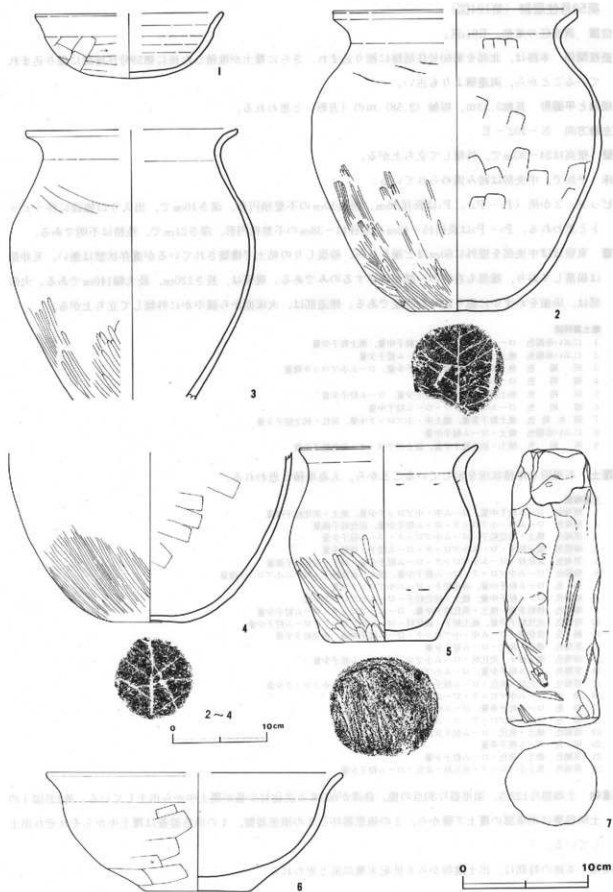
遺物 土師器片172点、須恵器片10点の他、炭化材、少量の鉄滓が出土している。炭化材は、大部分が竈周囲の床面から、鉄滓は覆土中から検出されている。第123図1の土師器坏は中央部の床面直上から、2の土師器甕は東部の覆土中層と覆土下層から出土したものが接合した。3の土師器甕は竈前面の覆土下層から、4の土師器鉢は竈の覆土中から、5の土師器甕は竈右袖部付近の覆土上層と下層から出土したものが接合した。6の土師器鉢は、中央部の床面直上から出土している。7の土製支脚は、竈内の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（7世紀末葉）と思われる。

第57号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
第123図 1	土師器 坏	A(14.8)	底部から口縁部片。丸みをおびた平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に定る。口縁部はわずかに外反する。	体部内面ナデ、外面ヘラ削り後ナデ。底即手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 におい橙褐色 普通	P318 40% 床面	
		B 5.2					
2	土師器 甕	A 25.7	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は緩く外反する。口縁部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ後ナデ。体部外面上位ナデ、下位縦方向のヘラ磨き。底部外面木葉状。	長石・石英・雲母 におい赤褐色 普通	P319 50% P.L30 覆土中・下層	
		B 32.3					
		C 9.7					
3	土師器 甕	A(22.6)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面上位ナデ、下位縦方向のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 におい黄褐色 普通	P320 30% 覆土下層	
		B(28.8)					
4	土師器 鉢	B(18.1)	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら外傾する。	体部内面ナデ、外面縦方向のヘラ磨き。底部外面木葉状。	長石・石英・雲母 におい赤褐色 普通	P321 25% 竈覆土中	
		C 8.2					
5	土師器 甕	A(14.1)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、体部上位に最大径を有する。口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面上位ナデ、下位ヘラ磨き。底即手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P322 60% 覆土上・下層	
		B 15.6					
		C 8.8					
6	土師器 鉢	A(23.4)	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ削り後ナデ。底即手持ちヘラ削り。	長石・石英・スロリア におい橙褐色 普通	P323 20% 床面	
		B 9.5 C 8.3					

図版番号	器種	計測値			出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	重量(g)		
7	土製支脚	7.4	22.4	1300.0	竈内覆土下層	D P72 P.L37



第123図 第57号住居跡出土遺物実測図

第58号住居跡（第124図）

位置 調査区の東部，E9₁₀区。

重複関係 本跡は，北部を第60号住居跡に掘り込まれ，さらに覆土が堆積した後に第59号住居跡に掘り込まれていることから，両遺構よりも古い。

規模と平面形 長軸3.33m，短軸（2.58）mの〔方形〕と思われる。

主軸方向 N-102°-E

壁 壁高は24-30cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット 3か所（P₁-P₃）。P₁は長径26cm，短径10cmの不整楕円形，深さ10cmで，出入り口施設に伴うピットと思われる。P₂・P₃は長径15-42cm，短径14-38cmの不整楕円形，深さ21cmで，性格は不明である。

竈 東壁はほぼ中央部を壁外に60cmほど掘り込み，砂混じりの粘土で構築されているが遺存状態は悪い。天井部は崩落しており，袖部も右側の一部が残存するのみである。規模は，長さ120cm，最大幅140cmである。火床部は，床面をわずかに掘り窪めた程度である。煙道部は，火床面から緩やかに外傾して立ち上がる。

竈土層解説

- 1 におい赤褐色 ローム小ブロック・粘土粒子中量，焼土粒子少量
- 2 におい赤褐色 焼土・粘土粒子中量，ローム粒子少量
- 3 灰褐色 粘土粒子中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 灰褐色 粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子多量，焼土中・小ブロック中量，炭化・粘土粒子少量
- 8 におい赤褐色 焼土・ローム粒子中量
- 9 灰褐色 焼土・粘土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量

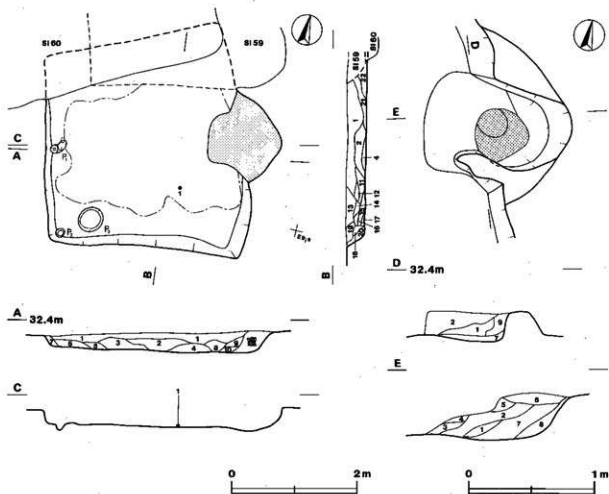
覆土 不規則な堆積状況を示していることから，人為堆積と思われる。

土層解説

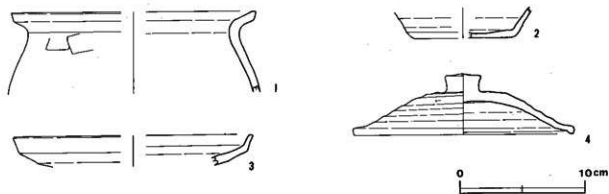
- 1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量，焼土・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 3 黒褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒少量
- 5 黒褐色 炭化材・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 7 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 9 暗褐色 砂粒多量，焼土・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 暗褐色 炭化粒子中量，焼土粒子・炭化材・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 11 褐色 炭化材・ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子少量
- 12 黒褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量
- 13 暗褐色 焼土粒子・炭化材・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 14 黒褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
- 15 黒褐色 炭化材・炭化・ローム粒子中量，焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 16 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量
- 17 褐色 ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
- 18 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量
- 19 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量
- 20 褐色 ローム粒子多量
- 21 黒褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量
- 22 黒褐色 焼土小ブロック・炭化材・炭化・ローム粒子少量

遺物 土師器片122点，須恵器片30点の他，鉄滓が800gと炭化材少量が覆土中から出土している。第125図1の土師器甕は南東部の覆土下層から，2の須恵器杯と3の須恵器盤，4の須恵器蓋は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から8世紀末葉以前と思われる。



第124图 第58号住居跡実測图



第125图 第58号住居跡出土遺物実測图

第58号住居跡出土遺物観察表

図版番号	部 種	計測値(m)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
前125図 1	壺 土 器	A (19.6) B (6.5)	体部から口縁部片。体部は内傾し、口縁部は急に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面ナデ、一部ヘラナデ。	石英・スコリア 灰色 普通	P 324 5% 覆土下層
2	坏 須 恵 器	B (2.5) C (7.8)	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P 325 15% 覆土中
3	壺 須 恵 器	A (19.2) B (2.4)	体部から口縁部片。体部は内傾しながら外傾し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P 326 10% 覆土中
4	壺 須 恵 器	A 17.7 B 4.9 F 3.0 G 1.4	天井部から口縁部片。天井部中央に擬宝珠状のつまみが付く。天井部は笠形状を呈し、口縁部に至る。口縁部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面に強いロクロ目。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・針状鉱物 灰色 灰黄色 普通	P 327 60% P L 30 覆土中

第59号住居跡 (第126図)

位置 調査区の東部, E9is区。

重複関係 本跡は、第58号住居跡及び第60号住居跡の床上に床を構築していることから両遺構よりも新しい。

規模と平面形 長軸 (3.66) m, 短軸 (2.16) mで、西部が第60号住居跡に掘り込まれているため、平面形は不明である。

主軸方向 N-97°-E

壁 壁高は30cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央部から南部にかけて踏み固められている。

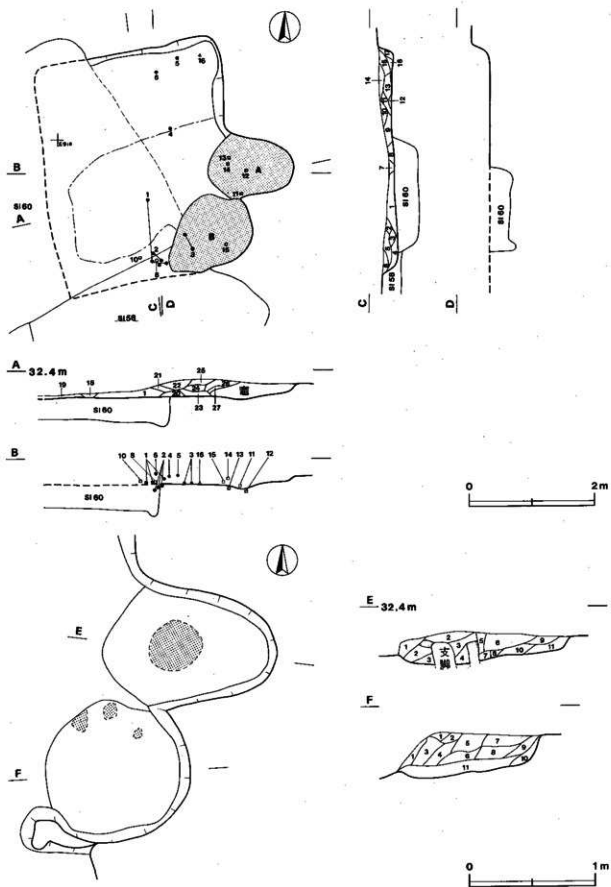
ピット 検出できなかった。

竈 2基検出されている。竈Aは、東壁ほぼ中央部を壁外に125cmほど掘り込み、砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落し、袖部も残存していない。中央部に土製支脚と、補強材に使用したと思われる石が検出されている。規模は、長さ140cm, 最大幅100cmである。火床部は、床面を皿状に掘り窪めている。煙道部は、火床面から外傾して立ち上がっている。

竈A土層解説

- 1 灰 褐色 砂粒中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・砂粒少量
- 3 黒 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 4 暗 赤 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 5 暗 赤 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 6 暗暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 7 にべい赤褐色 ローム大ブロック多量, 焼土粒子少量
- 8 暗 赤 褐色 ローム粒子少量
- 9 暗 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 10 暗 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 11 黒 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

竈Bは、東壁からやや南よりを壁外に73cmほど掘り込み、砂混じり粘土で構築されている。天井部は崩落し、袖部も右側の一部のみ残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さ115cm, 最大幅130cmである。火床部は、床面をわずかに掘り窪めており、赤変硬化している。



第126图 第59号住居跡実測图

■土層解説

- 1 灰 褐色 砂粒多量、ローム粒子少量
- 2 にびい赤褐色 焼土粒子中量、砂粒中量
- 3 灰 褐色 ローム粒子・砂粒少量
- 4 暗赤褐色 ローム粒子中量
- 5 灰 褐色 砂粒多量
- 6 暗赤褐色 ローム粒子少量
- 7 暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量
- 9 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 にびい赤褐色 ローム小ブロック中量、焼土・ローム粒子少量
- 11 黒褐色 炭化材・炭化粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック微量

覆土 不規則な堆積状況を示していることから、27層からなる人為堆積と思われる。

■土層解説

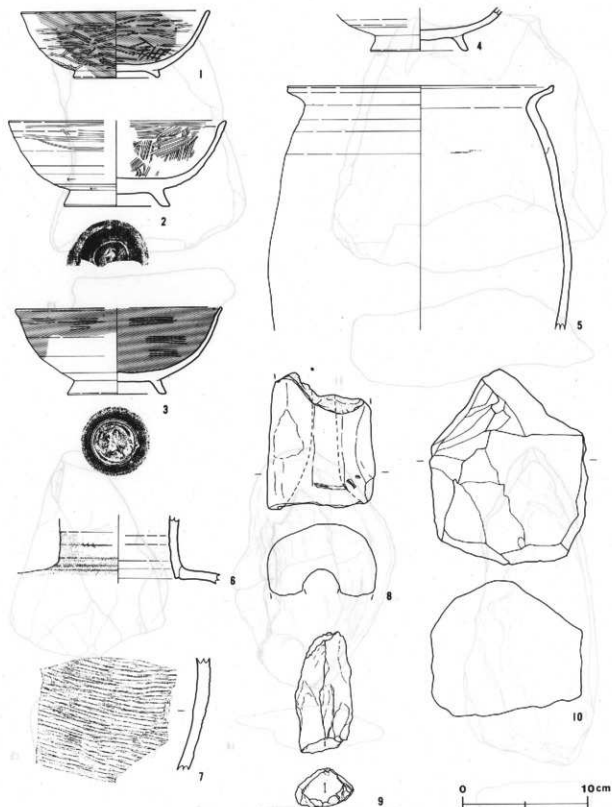
- 1 暗褐色 焼土・炭化粒子・砂粒中量、ローム粒子少量
- 2 暗褐色 砂粒中量、焼土・炭化・ローム粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子・ローム小ブロック中量、炭化・ローム粒子・砂粒少量、焼土小ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、炭化材・炭化・ローム粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 6 暗赤褐色 焼土・炭化粒子少量
- 7 黒褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化材・炭化・ローム粒子少量
- 9 黒褐色 炭化材中量、焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子少量
- 10 黒褐色 焼土・炭化粒子少量
- 11 黒褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 12 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 13 黒褐色 炭化粒子中量、焼土粒子・炭化材・ローム粒子少量
- 14 暗褐色 炭化材・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 15 暗褐色 焼土粒子・炭化材・炭化・ローム粒子少量
- 16 暗褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 17 褐色 ローム粒子中量
- 18 黒褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム粒子少量
- 19 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量
- 20 暗赤褐色 炭化材中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 21 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 22 黒褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 23 暗赤褐色 焼土粒子多量、砂粒中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 24 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒中量、焼土中ブロック・炭化・ローム粒子少量
- 25 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 26 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 27 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量

遺物 土師器片200点、須恵器片24点、灰釉陶器等が出土している。遺構北部・南部の下層を中心に出土している。また、竈A覆土下層から雲母片岩が4点出土している。第127・128図1・2の土師器碗は南部の覆土下層から、3の土師器碗は竈Bの覆土下層から、4の土師器碗は北部の覆土上層からそれぞれ出土している。5の土師器碗は北壁際の下層から出土している。6の灰釉陶器長頸瓶は北部の覆土上層から出土している。7は、本跡から出土した須恵器碗の体部片の拓影図で、外面に横方向の平行タタキが施されている。8の羽口と10の金床石は南部の覆土下層から、9の砥石は竈の覆土中からそれぞれ出土している。11~14の石は、竈Aの覆土下層及び上層から出土している。15の石は、竈B内の覆土下層から、16の鉄鉋は北東コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から平安時代（10世紀中葉）と思われる。

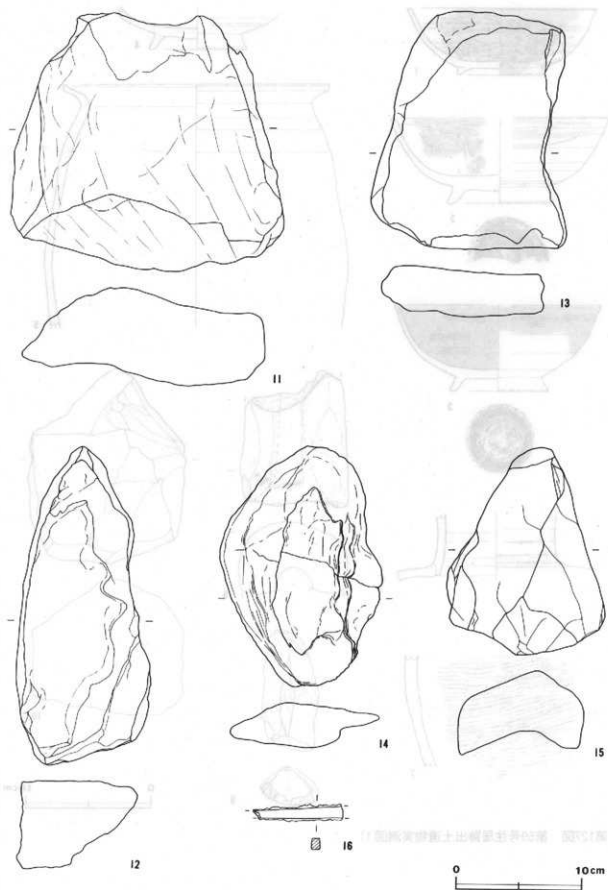
第59号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第127図	土師器	A 15.0	口縁部一部欠損。高台は短く「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら外傾し、口縁部に至る。	体部内・外面へラ磨き。底部回転軸切り後、高台貼り付け。体部内・外面黒色処理。	長石・スコリア 褐色 良好	P329 90% P.L30 覆土下層
		B 5.4				
		D 6.8				
		E 0.6				
2	土師器	A [17.4]	高台部から口縁部片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら外傾し、口縁部に至る。	体部内・外面黒色処理。体部内面縦方向のへラ磨き、外面上位置方向のへラ磨き。底部切り離し後、高台貼り付け。	長石・雲母・スコリア 淡黄褐色 普通	P330 45% 覆土下層
		B 6.9				
		D 8.4				
		E 1.4				



第127图 第59号住居跡出土遺物実測図(1)

127号住居跡出土遺物実測図(1)



第128圖 第59号住居跡出土遺物實測圖(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第127図 3	甕 土師器	A (16.4)	高台部から口縁部片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら外傾し、口縁部に直る。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面・外面上位横方向のヘラ書き。底部へラ切り後、高台貼り付け。体部内面・外面上位黒色処理。	石英・スコリア ・バミス 明赤褐色 普通	P331 35% 甕B覆土下層
		B 6.9				
		D 7.9				
		E 1.1				
4	甕 土師器	A 11.2	高台部から体部片。高台は外反しながら「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後、高台貼り付け。	石英・スコリア 普通	P332 10% 覆土上層
		B (3.5)				
		D 7.8				
5	甕 土師器	A 21.2	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は横く外反する。口縁端部は短く、外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英・雲母・スコリア ・バミス 褐色 普通	P333 35% P.L30 覆土上層
		B (19.6)				
6	長頸 須恵器	B (5.4)	体部から頸部片。体部は内彎し、頸部はほぼ垂直に立ち上がる。	頸部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石 (外)灰色 (内)黄灰色 良好	P682 10% 覆土上層

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
8	羽 口	8.8	(10.9)	不明	(362.3)	覆土下層	D P73

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
9	紙 石	9.7	4.6	3.2	175.5	凝灰岩	甕覆土中	Q18
10	金 床石	15.5	12.5	10.8	2500.0	砂	覆土下層	Q19 P.L39
第129図11	石	20.7	21.7	7.9	3900.0	砂	甕A覆土下層	Q20
12	石	25.6	10.7	7.1	2250.0	砂	甕A覆土下層	Q21
13	石	19.2	15.8	4.0	2100.0	砂	甕A覆土下層	Q22
14	石	19.1	12.9	3.6	750.0	砂	甕A覆土上層	Q23
15	石	16.5	12.7	6.7	1550.0	砂	甕B覆土下層	Q24

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
16	鉄 鏝	(7.2)	1.3	0.7	(22.4)	覆土下層	M46

第60号住居跡 (第129図)

位置 調査区の東部、E9i区。

重複関係 本跡は、第58号住居跡の北部を掘り込んでおり、また、本跡の床の上に第59号住居跡の床が構築されていることから第58号住居跡より新しく、第59号住居跡よりも古い。

規模と平面形 長軸3.88m、短軸3.85mの方形である。

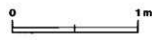
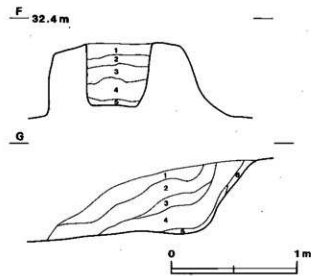
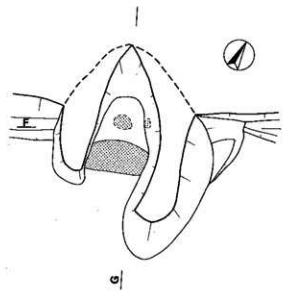
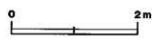
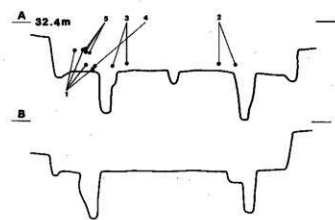
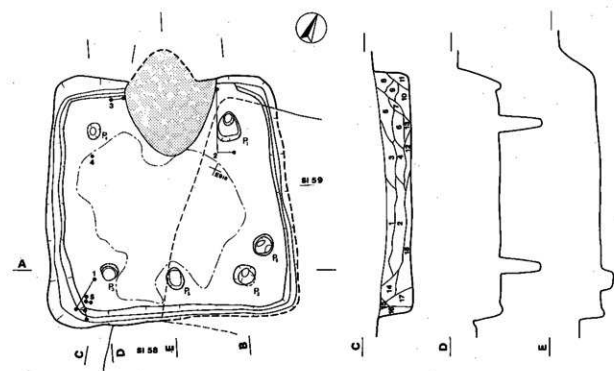
主軸方向 N-27°-W

壁 壁高は30-62cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 竈右袖部外側壁下の一部を除いて全周する。上幅26cm、下幅10cm、深さ10cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 6か所 (P1~P6)。P1~P4は、長径25-45cm、短径21-36cmの不整楕円形、深さ55-75cmで配置や規模から主柱穴と思われる。P5は長径36cm、短径25cmの不整楕円形、深さ20cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。P6は、長径35cm、短径33cmの不整楕円形で性格は不明である。



第129图 第60号住居跡実測图

竈 北西壁中央部を壁外に50cmほど掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落し、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さ103cm、最大幅128cmである。火床部は、床面とはほぼ同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は、火床面から外傾して立ち上がっている。

■土層解説

- 1 1 ぶい 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化・粘土粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化・ローム・粘土粒子少量
- 4 灰褐色 粘土粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土・粘土粒子中量、焼土小ブロック少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量

覆土 ロームブロックを多量に含む層があり、また、不規則な堆積状況を示していることから、18層からなる人為堆積と思われる。

■土層解説

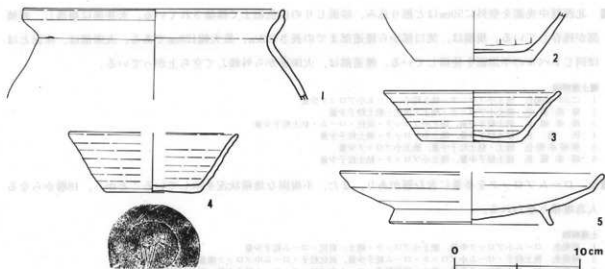
- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量、炭化材微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土・炭化・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック中量、焼土小ブロック・炭化・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム中・小ブロック中量、焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子・砂粒中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 9 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 黒褐色 焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 11 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 12 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量
- 13 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 14 暗褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 15 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 16 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 17 暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土・炭化・ローム粒子少量
- 18 暗褐色 焼土粒子・炭化材・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 南コーナー部の中・下層を中心に土師器片199点、須恵器片63点が出土している。第130図1の土師器壺は、南コーナー部の覆土中層と下層から出土したものが接した。2の土師器壺は北コーナー部の覆土下層から、3の須恵器坏は竈左袖部の覆土下層から、4の須恵器坏は西部の覆土下層から、5の須恵器壺は南コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、床面近くに焼土・炭化粒子等を多量に含む層があることから焼失家屋と思われる。また、各層がブロック状の堆積状況を示していることから、焼失後人為的に埋め戻されたものと思われる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀末葉と思われる。

第60号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第130図 1	壺 土 師 器	A 20.9	体部から口縁部片。作部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 褐色	P334 5% 覆土中・下層
		B (7.2)				
2	壺 土 師 器	B (4.0)	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に外傾する。	体部内面ナデ、一部ヘラナデ。体部外面剝離のため不明。底部外面木葉焼。	長石・石英・雲母 によい黄褐色	P335 5% 覆土下層
		C 9.4				
3	坏 須 恵 器	A 14.1	口縁部一部欠損。平底。体部は外反気味に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内・外面に強いロクロ目。底部糸切り後ナデ。	石英・雲母・スコリア 灰褐色	P336 80% P L31 覆土下層
		B 4.1 C 7.9				
4	坏 須 恵 器	A (13.4)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に坐る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラ切り後ナデ。	長石・石英・針状鉱物 灰白色	P337 25% 覆土下層
		B 4.8 C 7.4				



第130図 第60号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第130図	甕	A 21.0	高台部から口縁部片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は外傾し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後、高台貼り付け。	灰石・石英・雲母・スコリアに多い黄褐色	P338 40% 覆土中層
5	須恵器	B 4.2 D 12.8 E 1.2			良好	

第61号住居跡 (第131図)

位置 調査区の東部、F 9as区。

規模と平面形 長軸2.46m、短軸2.34mの方形である。

主軸方向 N-27°-W

壁 壁高は58-66cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅約27cm、下幅約9cm、深さ約5cmで、断面形は逆台形である。

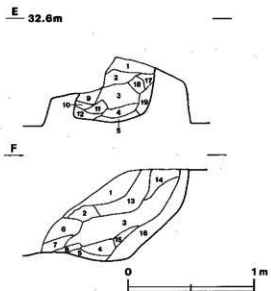
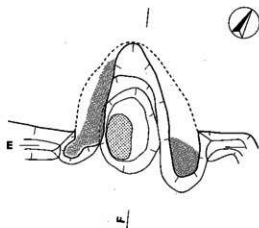
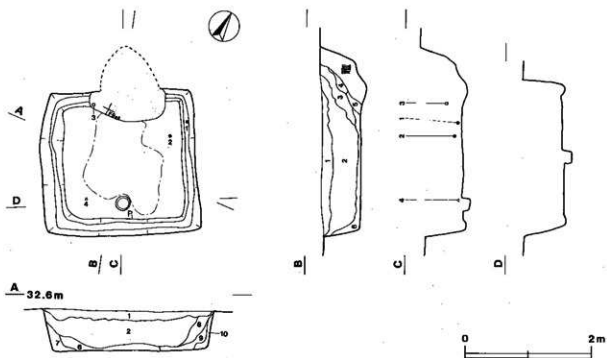
床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 1か所 (P₁)。P₁は径20cmの不整形、深さ14cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北西壁は中央部を壁外に70cmほど掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、笑口部から煙道部までの長さ103cm、最大幅120cmである。火床部は、床面に10cmほど皿状に掘り窪めている。煙道部は火床面から緩やかに外傾し、中位からは急に立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 灰 褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 灰褐色 粘土粒子多量、焼土粒子中量、ローム粒子少量
- 4 暗灰色 灰多量、焼土粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・ローム粒子少量
- 6 にぶい赤褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、焼土小ブロック少量
- 8 暗灰色 粘土粒子多量、焼土・ローム粒子少量
- 10 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・粘土粒子中量
- 11 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量
- 12 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子中量
- 13 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化・粘土粒子少量
- 14 暗赤褐色 粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック少量
- 15 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量
- 16 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量
- 17 灰褐色 焼土・粘土粒子中量
- 18 にぶい赤褐色 焼土・粘土粒子中量、焼土小ブロック少量
- 19 にぶい赤褐色 焼土・粘土粒子多量、焼土小ブロック中量

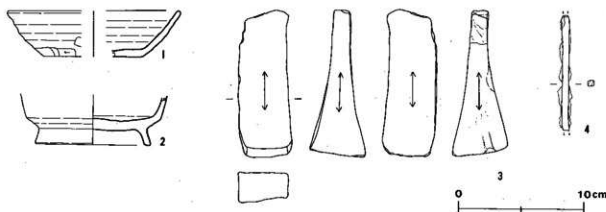


第131図 第61号住居跡実測図

覆土 不規則な堆積状況を示していることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック多量、ローム中ブロック・ローム粒子中量、焼土・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 粘土ブロック多量、ローム小ブロック中量、洗土粒子・炭化材・炭化・ローム粒子少量
- 4 極暗赤褐色 砂粒中量、焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗赤褐色 砂粒中量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 黒褐色 粘土ブロック多量、炭化・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 8 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 9 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 黒色 ローム粒子中量



第132図 第61号住居跡出土遺物実測図

第61号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第132図 1	須恵器 坏	A (13.6)	底部から口縁部片。平底。体部は内 彎突縁に外傾し、口縁部に歪る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 体部外面に強いロクロ目。体部下端 手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削 り。	長石・石英 灰色 普通	P339 15% 覆土下層
	B	3.2				
	C	(8.0)				
2	高台付 坏	B (4.0)	高台部から体部片。高台は「ハ」の 字状に開く。高台端部は広がる。体 部は直線的に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転 ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英・雲母 灰白色 良好	P340 15% 覆土下層
	D	9.2				
	E	1.4				

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
3	砥石	11.7	4.4	2.5	205.5	凝灰岩	覆土中層	Q25 P L38

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	鉄鏝	(9.2)	0.6	0.4	(7.1)	覆土下層	M46

遺物 土師器片29点、須恵器片22点の他、少量の鉄滓が出土している。第132図1の須恵器坏は北東壁際の覆土下層から、2の須恵器高台付坏は北東部の覆土下層からそれぞれ出土している。3の砥石は竈付近の覆土中層から、4の鉄鏝は南西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺物の形態及び出土遺物から8世紀後葉と思われる。

第62号住居跡 (第133図)

位置 調査区の東部、E9j4区。

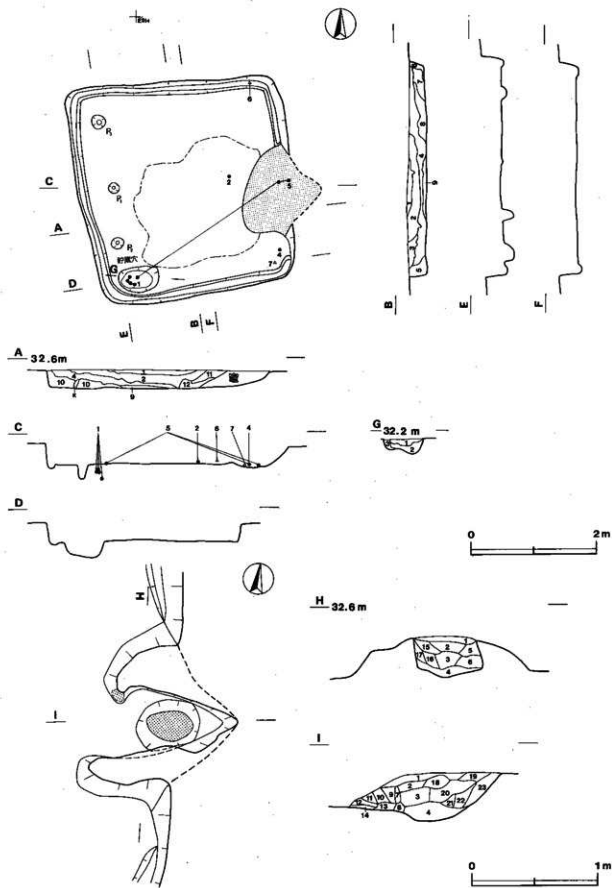
規模と平面形 長軸3.50m、短軸3.45mの方形である。

主軸方向 N-82°-E

壁 壁高は28~34cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南東コーナー壁下の一部を除いて壁溝が回っている。上幅19cm、下幅10cm、深さ5cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部から南部にかけて踏み固められている。



第133图 第62号住居跡実測図

ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁は径26cmの不整形円形、深さ23cmで出入り口施設に伴うピットと思われる。P₂

・P₃は長軸21~24cm、短軸18~23cmの不整形楕円形、深さ9~20cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 南西コーナーに付設され、長径55cm、短径40cmの楕円形で、深さは27cmである。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 炭化材中量、炭化・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

竈 西壁中央部からやや南よりを壁外に50cmほど三角形に掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており、同袖部が残存している。規模は、笑口部から煙道部までの長さ125cm、最大幅145cmである。火床部は、床面を10cmほど皿状に掘り窪めている。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 灰褐色 粘土粒子中量、炭化粒子少量
- 3 にぶい赤褐色 焼土・粘土粒子中量、炭化物・炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、炭化・粘土粒子少量
- 5 灰褐色 粘土粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 灰赤色 粘土粒子多量、焼土粒子中量、焼土小ブロック少量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子多量、粘土粒子中量、焼土小ブロック少量
- 8 赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 9 灰褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量
- 10 にぶい赤褐色 焼土・粘土粒子中量、炭化粒子少量
- 11 灰褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子中量
- 12 灰褐色 焼土・粘土粒子少量
- 13 赤褐色 炭化・粘土粒子中量、焼土粒子・炭化物少量
- 14 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム・粘土粒子中量
- 15 暗赤褐色 焼土・ローム・粘土粒子少量
- 16 暗赤褐色 粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 17 暗赤褐色 焼土・ローム・粘土粒子少量
- 18 灰褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量
- 19 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量
- 20 にぶい赤褐色 焼土・粘土粒子中量、焼土小ブロック少量
- 21 赤褐色 焼土大ブロック多量、粘土粒子少量
- 22 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量
- 23 にぶい赤褐色 焼土・粘土粒子中量

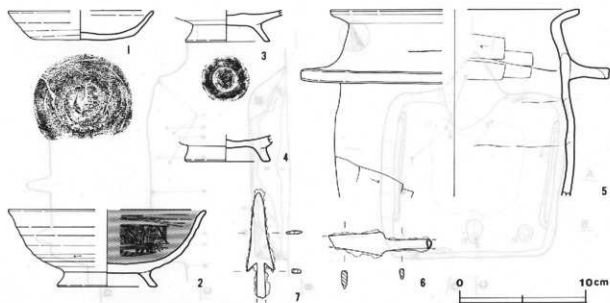
覆土 各層ともロームブロックを含み、人為堆積であると思われる。また、覆土中から焼土粒子・炭化粒子が検出され焼失家屋の可能性もある。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 炭化材・炭化粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量、焼土・炭化粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 8 黒褐色 炭化粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 9 黒褐色 焼土・炭化・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 黒褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量、炭化材微量
- 11 黒褐色 炭化粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 12 黒褐色 砂粒中量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片142点、須恵器片14点の他、鉄滓等が出土している。第134図1の土師器皿は、貯蔵穴の覆土中から出土している。2の土師器碗は竈前面の床面直上から、3の土師器碗は覆土中から、4の土師器碗は南東コーナー部の床面直上からそれぞれ出土している。5の羽釜は、竈の覆土中と貯蔵穴上の床面から出土したものが接合した。6の刀子は北東コーナー壁際の覆土下層から、7の鉄鎌は南東コーナー部の床面直上から出土している。

所見 本跡の時期は、遺物の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀中葉）と思われる。



第134図 第62号住居跡出土遺物実測図

第62号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第134図 1	土師器	A〔9.6〕	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転ヘラ切り後ナデ。	灰石・雲母 褐色 普通	P341 80% 貯蔵穴覆土中
		B 2.4				
		C 8.3				
2	土師器	A〔15.8〕	高台部から口縁部片。高台は外反気味に「ハ」の字状に開く。体部は内彎しなから外傾し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面に強いロクロ目。体部内面へラ磨き。内面全体黒色処理。底部切り離し後、高台貼り付け。	雲母 明黄褐色 普通	P342 45% P L31 床面
		B 6.2				
		D 1.3				
		E 7.8				
		B〔2.6〕				
3	土師器	A〔2.6〕	高台部片。高台は外反しながら「ハ」の字状に開く。	底部切り離し後、高台貼り付け。	灰石・石英・雲母 褐色 普通	P343 15% 覆土中
		D 1.6				
		E 6.7				
4	土師器	B〔2.2〕	高台部片。高台は「ハ」の字状に開く。	底部切り離し後、高台貼り付け。	E:雲母・スコリア・バリス に多い褐色 良好	P344 15% 床面
		D 6.6				
		E 1.2				
5	土師器	A〔19.8〕	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。体部上位に幅32mm、厚さ13mmの突帯が回る。	口縁部内・外面横ナデ。突帯貼り付け。体部内面ナデ、一部ヘラナデ。体部外面上位ナデ、下位へラ削り後ナデ。	雲母・スコリア 浅黄褐色 良好	P345 5% P L31 覆土中・床面
		B〔15.0〕				

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
6	刀子	8.3	1.9	0.7	9.4	覆土下積	M49 P L39
7	鉄鏃	8.7	2.3	0.5	(11.2)	床面	M50 P L40

第63号住居跡 (第135図)

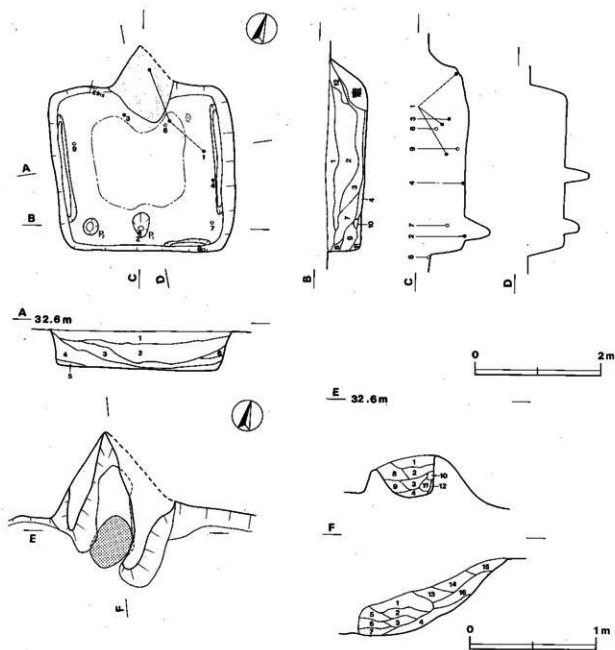
位置 調査区の東部、E9is区。

規模と平面形 長軸2.92m、短軸2.70mの方形である。

主軸方向 N-18°-W

壁 壁高は48-56cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁、西壁、南壁の一部で検出された。上幅13cm、下幅6cmである。



第135図 第63号住居跡実測図

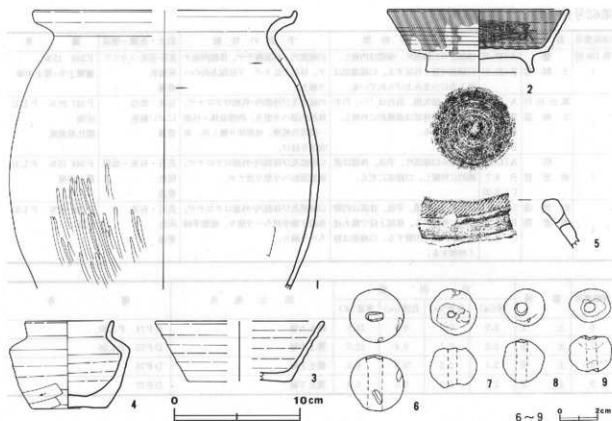
床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 2か所 (P₁・P₂)。P₁は長径30cm、短径15cmの不整形円形、深さ41cmで、配置や規模から出入り口施設に伴うピットと思われる。P₂は長径18cm、短径15cm、深さ25cmの不整形円形で性格は不明である。

竈 北壁中央部を壁外に63cmほど三角形に掘り込み、砂泥じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、笑口部から煙道部までの長さ147cm、最大幅97cmである。火床部は、床面を掘り窪めておらずそのまま使用している。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗褐色 粘土粒子中量、焼土・炭化・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 粘土粒子中量、焼土・ローム粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化・粘土粒子少量
- 5 灰褐色 粘土粒子多量、焼土・炭化・ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、粘土粒子微量



第136図 第63号住居跡出土遺物実測図

- 7 暗褐色 粘土粒子中量, 焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 粘土粒子中量, 焼土・炭化・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 9 暗赤褐色 粘土粒子中量, 焼土・炭化・ローム粒子少量
- 10 暗赤褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量
- 11 暗赤褐色 粘土粒子多量, 焼土・ローム粒子少量
- 12 暗褐色 焼土・炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 13 灰褐色 粘土粒子多量, 炭化・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 14 黒褐色 粘土粒子中量, 焼土・ローム粒子少量
- 15 赤褐色 焼土・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量
- 16 極暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土中ブロック中量, 焼土粒子少量

覆土 12層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化物微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量
- 8 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 10 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 12 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 砂粒微量

遺物 土師器片75点, 須恵器片28点の他, 少量の鉄滓が出土している。第136図1の土師器甕は, 甕の覆土中と北東部の覆土中層から出土したものが接合した。2の土師器高台付坏は, P₁上の床面から斜位の状態出土している。3の須恵器坏は甕前面の覆土中層から, 4の須恵器短頸甕は東壁際の床面直上から横位の状態とそれぞれ出土している。5は, 本跡から出土した縄文土器の深鉢片の拓影図で, 縄文時代後期のものであると思われる。6の土玉は甕前面の覆土上層から, 7の土玉は南東コーナー部の覆土中層から, 8の土玉は南壁下東部の壁溝上から, 9の土玉は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

第63号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第136図	土師器	A (20.3)	体部から口縁部片。体部は内傾し、	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ	長石・石英・スコリア 灰褐色 普通	P346 15% 被覆土中・覆土中層
		B (22.5)	口縁部は強く外反する。口縁部は外上方につまみ上げられている。	デ。外面上位ナデ、下位段方向のへり磨き。		
2	高台付土師器	A (14.5)	口縁部一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部は裏面的に外傾し、	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面へう磨き。内面全体・外面一部黒色処理。底部切り離し後、高台貼り付け。	石英・雲母 にぶい褐色 普通	P347 95% P L31 床面 酸化略焼成
		B 5.2	口縁部に至る。			
		D 8.6				
		E 1.5				
3	坏須恵器	A (13.6)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転へう磨り後ナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P348 15% P L31 覆土中層
		B 4.7				
		C [8.2]				
4	短頸須恵器	A 9.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内傾気味に外傾する。体部上位で最大径を有し、強く内彎する。口縁部は短く外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへう磨り。底部手持ちへう磨り。	長石・石英 普通	P349 90% P L31 床面
		B 7.1				
		C 6.0				

図版番号	器種	計 測 値				出土地点	備 考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
6	土 玉	2.9	2.9	0.9	23.5	覆土上層	D P74 P L36
7	土 玉	2.5	2.1	0.4	12.0	覆土中層	D P75 P L36
8	土 玉	2.1	2.3	0.6	8.8	覆土下層	D P76
9	土 玉	2.1	1.9	0.5	6.8	覆土下層	D P77

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前半）と思われる。

第64号住居跡（第138図）

位置 調査区の東部，E9g2区。

規模と平面形 長軸2.72m，短軸2.71mの方形である。

重複関係 本跡は北西コーナー部を第162・166号土坑に掘り込まれており，第162・166号土坑よりも古い。

主軸方向 N-9°-E

壁 壁高は68-72cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，中央部は踏み固められている。

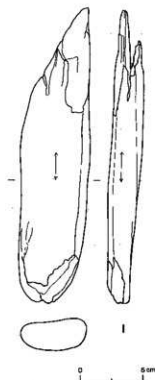
ピット 2か所（P1・P2）。P1は長径20cm，短径18cm，深さ17cmの不整楕円形で出入口施設に伴うピットと思われる。P2は長径19cm，短径17cm，深さ28cmの不整楕円形で，性格は不明である。

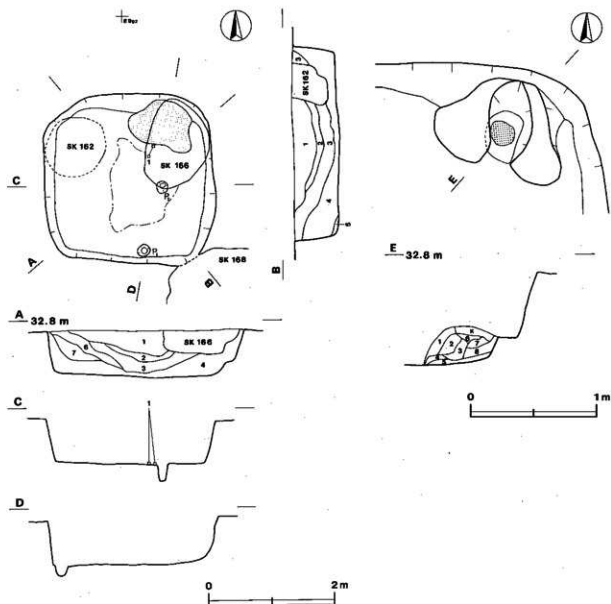
竈 北壁中央部より東側の壁内に，構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ74cm，最大幅140cmである。火床部は，床面をそのまま使用している。煙道部は，火床面から急に立ち上がっている。

土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量，焼土粒子微量
- 2 赤褐色 焼土・炭化物・ローム粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子少量，粘土粒子中量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 5 暗褐色 焼土粒子少量，炭化物少量
- 6 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量，焼土粒子微量
- 7 暗赤褐色 焼土・ローム粒子少量，炭化物・粘土粒子微量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子中量，粘土粒子少量，炭化物微量

第137図 第64号住居跡出土遺物実測図





第138図 第64号住居跡実測図

覆土 7層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量
- 5 褐色 ローム粒子中量
- 6 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量

遺物 本跡は出土遺物が少なく、また破片が多い。土師器片51点、須恵器片1点等が出土している。第137図

1の砥石は、竈前面の床面直上から出土している。

所見 本跡は、時期を決定できる遺物がなく時期不明である。

第64号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第137図1	砥石	23.5	5.5	2.6	423.7	凝灰岩	床面	Q26

第65号住居跡 (第139図)

位置 調査区の南部, E7j区。

重複関係 本跡は, 第2号鍛冶工房跡の北東部を掘り込んでおり, 第2号鍛冶工房跡よりも新しい。

規模と平面形 長軸3.23m, 短軸3.07mの方形である。

主軸方向 N-11°-W

壁 壁高は45~55cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅24cm, 下幅8cm, 深さ8cmで, 断面形は逆台形である。

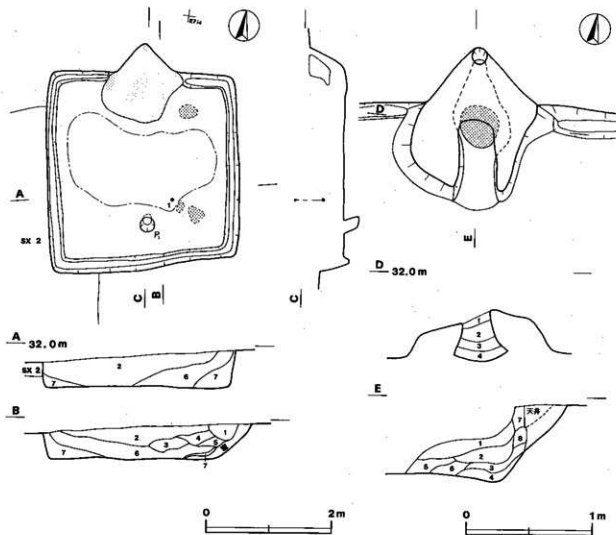
床 平坦で, 東部から西部にかけて踏み固められている。

ピット 1か所 (P1)。P1は, 径24cmの不整形円形, 深さ24cmで, 出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部を壁外に45cmほど三角形に掘り込み, 砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部や煙道部等の遺存状態はよい。規模は, 突口部から煙道部までの長さ130cm, 最大幅120cmである。火床部は, 床面をわずかに掘り窪めた程度である。煙道部は, 火床面から直線的に外傾して立ち上がっている。

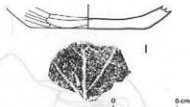
竈土層解説

- 1 灰褐色 粘土粒子多量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 2 にぶい赤褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量
- 3 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量



第139図 第65号住居跡実測図

- 5 にぶい赤褐色 ローム小ブロック中量、焼土・炭化粒子・ローム中ブロック少量
 6 暗赤褐色 焼土粒子・ローム小ブロック、焼土小ブロック少量、粘土粒子少量
 7 灰褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量
 8 にぶい赤褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量



第140図 第65号住居跡
出土遺物実測図

覆土 7層からなり、不規則な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土・炭化・ローム小ブロック・ローム粒子少量
 2 暗褐色 ローム中・小ブロック中量、炭化・ローム粒子少量
 3 褐色 炭化粒子少量、ローム小ブロック微量
 4 暗褐色 炭化・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
 5 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
 6 暗褐色 炭化・ローム大・中・小ブロック・ローム粒子少量
 7 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量

第65号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第140図	甕	B(1.9)	体部から口縁部片。平底。体部は内	体部内面ナデ、外面ヘラ磨き。底部	長石・石英・雲母 にぶい褐色	P350 5%
1	土師器	C 9.2	匂気味に外相する。	外面木製痕。	普通	覆土上層

遺物 土師器片54点、須恵器片11点の他、甕付近の覆土第1層から鉄滓が7.5kg出土している。第140図1の土師器甕は、南東部の覆土上層から出土している。また、東部床面の3か所から砂混じり粘土の固まりが検出されたが、性格等は不明である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。甕付近の覆土第1層から鉄滓が多量に出土しているのは、本跡廃絶後に投棄された可能性もある。

第66号住居跡(第141図)

位置 調査区の東部、E9ii区。

規模と平面形 長軸4.04m、短軸3.58mの長方形である。

主軸方向 N-30°-W

壁 壁高は64-73cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には、東コーナー部を除いて壁溝が回っている。上幅43cm、下幅11cm、深さ9cmで、断面形はU字形である。

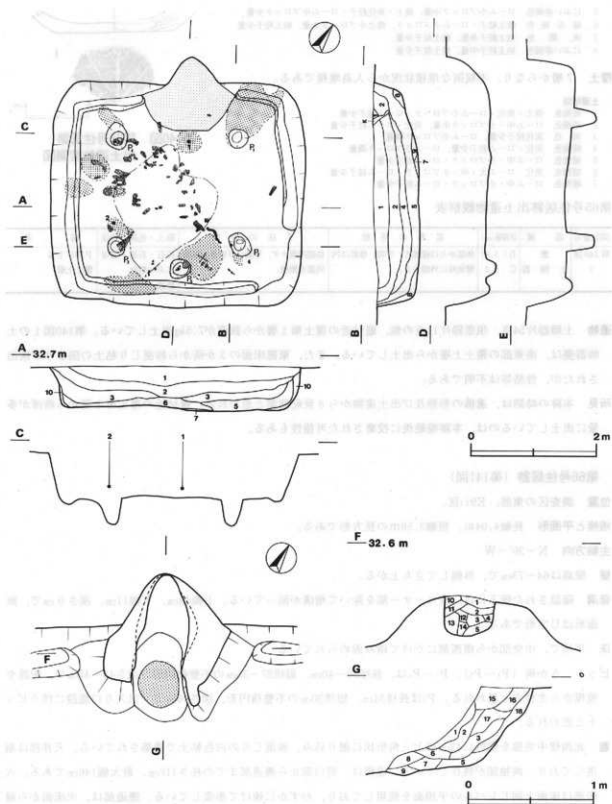
床 平坦で、中央部から南西部にかけて踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は、長径30~40cm、短径27~35cmの不整楕円形、深さ43~47cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P5は長径34cm、短径30cmの不整楕円形、深さ16cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北西壁中央部を壁外に42cmほど三角形に掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さ118cm、最大幅146cmである。火床部は床面と同じレベルの平坦面を使用しており、わずかに焼けて赤変している。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

覆土層解説

- 1 にぶい赤褐色 粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土・ローム粒子少量
 2 灰褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量
 3 黒褐色 焼土・粘土粒子少量
 4 暗赤褐色 焼土粒子中量
 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量
 6 灰褐色 粘土粒子多量、焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量



第141図 第66号住居跡実測図

		遺跡発掘土壌土質調査 表14			
層	色	土質	炭化	粘土	ローム
7	暗赤褐色	焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、炭化粒子少量			
8	灰褐色	焼土・粘土粒子中量、焼土小ブロック少量			
9	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化・粘土粒子少量			
10	褐色	焼土・ローム・粘土粒子少量			
11	灰褐色	粘土粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子少量			
12	暗暗赤褐色	焼土粒子多量、焼土小ブロック少量			
13	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量、粘土粒子少量			
14	暗赤褐色	焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量			
15	暗赤褐色	焼土・炭化・ローム・粘土粒子少量			
16	灰褐色	粘土粒子多量、焼土・炭化粒子少量			
17	にぶい赤褐色	炭化・粘土粒子中量、焼土粒子・炭化物少量			
18	黒褐色	炭化粒子中量、焼土粒子・ローム中ブロック・粘土粒子少量			

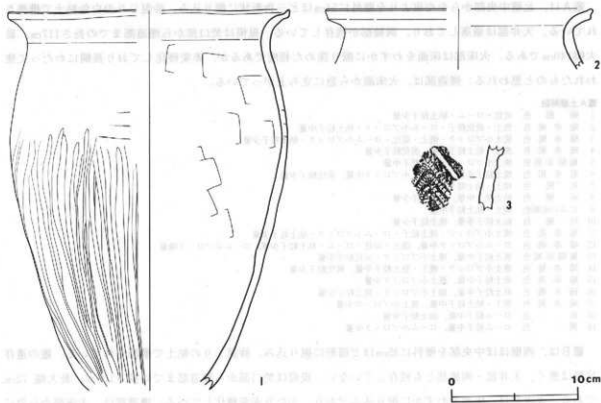
覆土 10層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化粒子微量
- 6 褐色 炭化物・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量
- 9 黒褐色 焼土・炭化・ローム粒子・砂粒少量
- 10 褐色 ローム粒子多量、焼土・炭化粒子微量

遺物 土師器片119点、須恵器片29点、鉄滓等が出土している。また、炭化材及び焼土が床面に貼り付くように検出されたことから焼失家屋の可能性が高い。第142図1の土師器甕は竈前面の覆土下層から、2の土師器甕は南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。3は本跡から出土した縄文土器の深鉢片の拓影図で、縄文時代中期のものと思われる。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と思われる。



第142図 第66号住居跡出土遺物実測図

第66号 住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第142図	甕 土師器	A(22.5) B(30.4)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾し、口縁部は緩く外反する。口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ナデ、体部中位から下位縦方向のヘリ磨き。	灰石・石英・雲母 褐色 普通	P351 30% P.L.31 覆土下層
2	甕 土師器	A(21.2) B(4.8)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	雲母 にぶい黄褐色 普通	P352 5% 覆土下層

第67号住居跡(第143図)

位置 調査区の東部, E8区。

規模と平面形 長軸4.30m, 短軸3.93mの方形である。

主軸方向 N-16°-W

壁 壁高は68~70cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には、西壁の一部を除いて壁溝が回っている。上幅30cm, 下幅11cm, 深さ16cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部から東部にかけて踏み固められている。

ピット 2か所(P₁・P₂)。P₁は長径50cm, 短径40cm, の不整形円形, 深さ30cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。P₂は長径37cm, 短径27cm, 深さ23cmの不整形円形で性格は不明である。

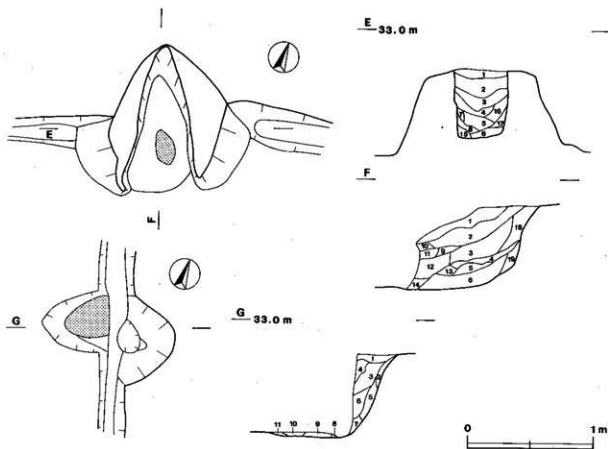
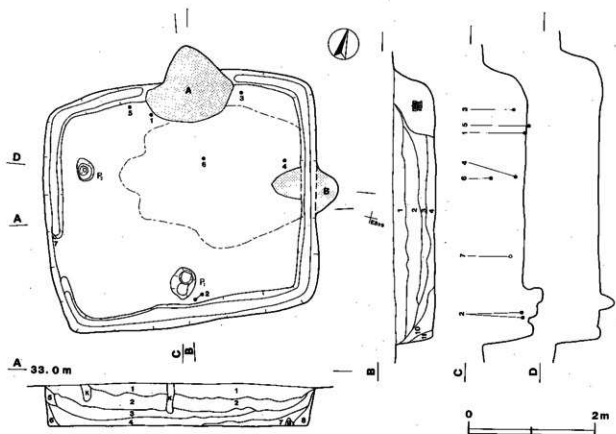
竈 2基検出されている。竈Bは火床部が壁溝に壊されていることから、竈Aより古いと思われる。

竈Aは、北壁中央部からやや東よりを壁外に54cmほど三角形に掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は焚口部から煙道部までの長さ117cm, 最大幅140cmである。火床部は床面をわずかに掘り窪めた程度であるが、赤変硬化しており長期にわたって使われたものと思われる。煙道部は、火床面から急に立ち上がっている。

■A土層解説

- 1 暗褐色 炭化・ローム・粘土粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・粘土粒子中量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土・粘土粒子中量、炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・炭化粒子中量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子少量、焼土中・小ブロック中量、炭化粒子少量
- 7 灰褐色 焼土・粘土粒子中量
- 8 灰褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量
- 9 にぶい赤褐色 焼土・粘土粒子中量
- 10 灰褐色 粘土粒子少量、焼土粒子少量
- 11 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 12 暗赤褐色 ローム小ブロック中量、焼土・炭化・ローム・粘土粒子少量、ローム中ブロック微量
- 13 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 14 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子中量、炭化粒子少量
- 15 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量
- 16 暗赤褐色 粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 17 暗赤褐色 焼土・粘土粒子中量、焼土小ブロック少量
- 18 褐色 ローム中量、焼土粒子少量
- 19 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

竈Bは、西壁ほぼ中央部を壁外に35cmほど扇形に掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。竈の遺存状態は悪く、天井部・両袖部とも残存していない。規模は焚口部から煙道部までの長さ105cm, 最大幅72cmである。火床部は、床面をわずかに掘り込んでおり、かなり赤変硬化している。煙道部は、火床部から急に立ち上がっている。



第143图 第67号住居跡実測図

覆土層解説

- | | |
|----------|-------------------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土・ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 5 灰褐色 | 粘土粒子多量, 焼土・ローム粒子少量 |
| 6 にぶい赤褐色 | ローム小ブロック・粘土粒子中量, 焼土・ローム粒子少量 |
| 7 灰褐色 | ローム小ブロック・ローム・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量 |
| 8 にぶい赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 9 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子多量, 炭化粒子少量 |
| 10 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 炭化・粘土粒子少量 |
| 11 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量 |

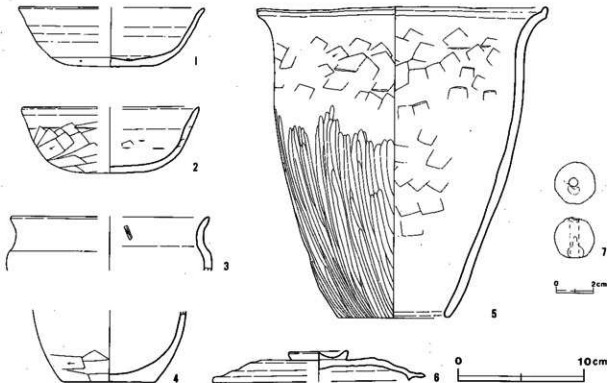
覆土 不規則な堆積状況を示していることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- | | |
|--------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土・炭化粒子・ローム中ブロック少量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量 |
| 7 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土・炭化粒子少量 |
| 8 褐色 | ローム粒子中量, 焼土・炭化粒子少量 |
| 9 灰褐色 | 粘土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 10 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 11 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物 竈付近を中心に土師器片176点, 須恵器片30点の他, 鉄滓が少量出土している。第144図1の土師器坏は竈A左袖部前面の床面直上から正位の状態, 2の土師器坏は南壁際の覆土下層から, 3の土師器坏は, 竈A右袖部前面の覆土下層からそれぞれ出土している。4の土師器坏は竈B付近の覆土下層から, 5の土師器坏は, 竈A左袖部付近の床面直上から横位の状態ですべて出土している。6の須恵器坏は中央部の覆土上層から, 7の土玉は西壁際の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期(7世紀末葉)と思われる。



第144図 第67号住居跡出土遺物実測図

第67号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・旋成	備考
第144図 1	土 罎	A (14.8)	底部から口縁部片。丸みをおびた平底。体部は内彎気味に外傾し、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。底部回転ヘラ削り。	石英・雲母 普通	P353 65% 床面
		B 4.7				
		C 9.8				
2	土 罎	A (14.0)	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面ヘラ削り後ナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P354 40% 覆土下層
		B 5.2				
		C 5.2				
3	土 罎	A (15.8)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面割離のため不明。体部内面ヘラ当て直。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P355 5% 覆土下層 体部内面に蓮付着
		B (4.3)				
4	土 罎	B (5.7)	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら外傾する。	体部内面ナデ。外面割離のため不明。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア・バミス にぶい橙色 普通	P356 10% 覆土下層
		C 7.2				
5	土 罎	A 23.2	口縁部及び体部一部欠損。無底式。体部は内彎気味に外傾し、口縁部は緩く外反する。口縁部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ後ナデ。体部外面ナデ。中位から下位縦方向のヘラ磨き。体部内面に輪痕み痕。体部外面上位にヘラ当て痕。	長石・石英・バミス にぶい黄褐色 普通	P357 90% P.L31 床面
		B 24.8				
		C 8.8				
6	須 恵 器	A (17.1)	天井部から口縁部片。ボタン状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し、口縁部は水平方向に伸び、内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面クロコナデ。天井部外面に強いクロコナ目。	石英・雲母 にぶい黄褐色 良好	P358 10% 覆土上層
		B 2.4				
		F 4.6 G 0.7				

図版番号	器種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
7	土 玉	2.2	2.1	0.5	9.6	覆土下層	D P 78 P L 36

第68号住居跡 (第145図)

位置 調査区の東部, E8h区。

規模と平面形 長軸3.45m, 短軸3.17mの方形である。

主軸方向 N-12°-E

壁 壁高は60-68cmで, 東壁はほぼ垂直に立ち上がり, 西壁は外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には, 東壁の掘り込み部分を除いて壁溝が回っている。上幅30cm, 下幅12cm, 深さ9cmで, 断面形は逆台形である。

床 平坦で, 全体的に軟らかく締まりがない。

ピット 3か所 (P1~P3)。P1~P3は長径21~35cm, 短径15~31cmの不整円形で性格は不明である。

竈 北壁中央部からやや西よりを壁外に33cmほど三角形に掘り込み, 砂泥じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 左軸部だけが残存している。規模は, 突口部から煙道部までの長さ90cm, 最大幅130cmである。火床部は床面をそのまま使用しており, わずかに焼けて赤変している。煙道部は, 火床面から急に立ち上がっている。

竈土層解説

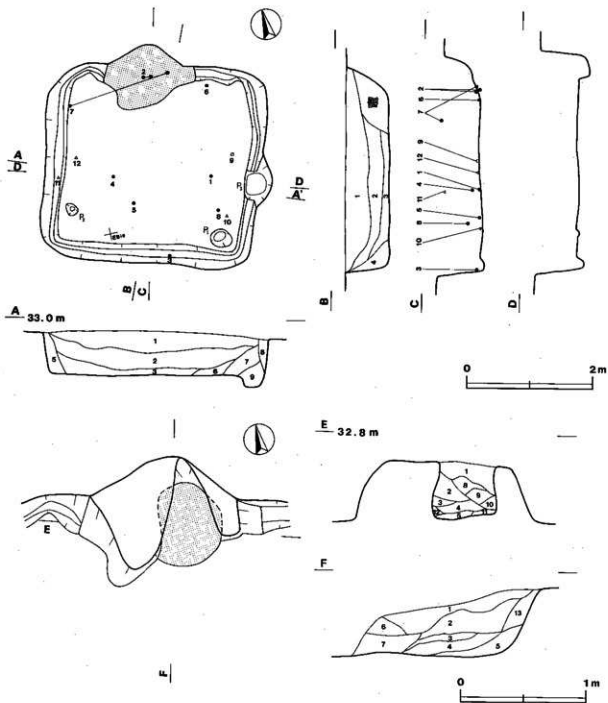
- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 灰褐色 粘土粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化粒子少量
- 6 灰褐色 ローム・軟土粒子中量, 焼土粒子少量
- 7 暗褐色 焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 灰褐色 焼土・粘土粒子中量, 炭化・ローム粒子少量

- 9 にぶい赤褐色 焼土・粘土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 10 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量
- 11 暗褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 12 暗褐色 焼土粒子中量、粘土粒子少量、炭化物微量
- 13 暗赤褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量

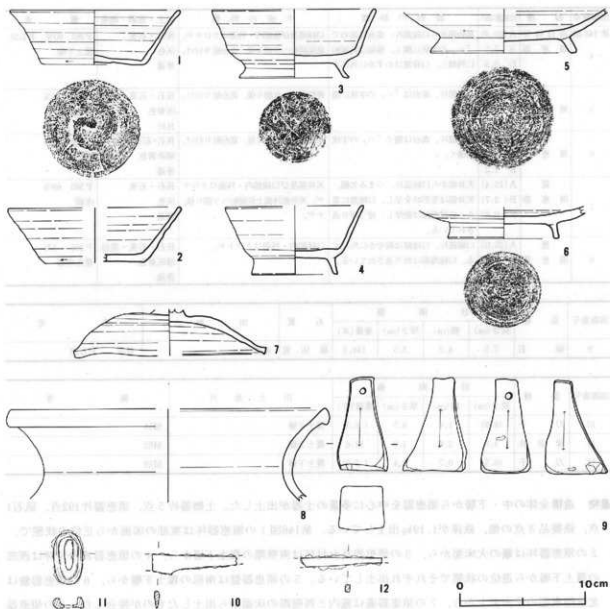
覆土 9層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック中量、焼土・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム中・小ブロック中量、焼土・炭化・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
- 9 暗褐色 ローム中ブロック中量、焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量



第145図 第68号住居跡実測図



第146図 第68号住居跡出土遺物実測図

第68号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第146図 1	須恵器	A 13.5	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部ヘラ削り後、手持ちヘラ削り。	長石・石英・針状炭素 灰黄色 普通	P359 70% PL31 床面
		B 4.5				
		C 8.0				
2	須恵器	A (13.8)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 におい橙色 普通	P360 40% 篝火床面 酸化腐蝕成
		B 4.4				
		C (7.9)				
3	高台付須恵器	A (13.0)	高台部から口縁部片。高台は外反しなから「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台削り付け。底部外面にヘラ記号。	長石・石英 灰色 普通	P361 50% 覆土下層
		B 5.5				
		D 8.8				
		E 1.1				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第146図 4	高台付 須恵器	A [10.9]	高台部から口縁部片。高台は高めで「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかに反折する。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。底部回転へつ削り後、高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P362 60% 覆土下層
		B 5.5				
		D 6.9				
		E 1.3				
		B (3.6)				
5	盤 須恵器	B (3.6)	高台部片。高台は「ハ」の字状に開く。	底部回転へつ削り後、高台貼り付け。	長石・石英・雲母 灰黄色 良好	P363 30% 覆土下層
		D 11.7				
		E 1.4				
6	盤 須恵器	B (2.6)	高台部片。高台は短く「ハ」の字状に開く。	底部回転へつ削り後、高台貼り付け。	長石・石英・パミス 暗灰黄色 普通	P364 30% 床面
		D 8.8				
		E 1.2				
		A [15.4]				
7	蓋 須恵器	B (3.7)	天井部から口縁部片。つまみ欠損。天井部は笠形状を呈し、口縁部に至る。口縁端部は肥厚し、短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面クロコナデ。天井部外面上位回転へつ削り後、ナデ。	長石・石英 灰色 普通	P365 60% 床面
		F (0.6)				
		A (25.0)				
8	甕 須恵器	B (7.3)	口縁部片。口縁部は緩やかに外反折する。口縁端部は折り返されている。	口縁部内・外面クロコナデ。	長石・石英・雲母 暗灰黄色 普通	P366 5% 覆土中層

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
9	砥石	7.5	4.2	3.5	144.3	凝灰岩	床面	Q27 P.L.38

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
10	刀子	(6.9)	1.4	0.5	(6.3)	覆土下層	M51
11	縁金具	4.5	2.6	1.0	12.6	覆土上層	M52
12	刀子	(6.5)	0.7	0.4	(5.6)	覆土下層	M53

遺物 遺構全体の中・下層から須恵器を中心に多量の土器が出土した。土師器片5点、須恵器片192点、砥石1点、鉄製品3点の他、鉄滓が1.19kg出土している。第146図1の須恵器杯は東部の床面から正位の状態、2の須恵器杯は竈の大床面から、3の須恵器高台付杯は南壁際の覆土下層から、4の須恵器高台付杯は西部の覆土下層から逆位の状態それぞれ出土している。5の須恵器盤は南部の覆土下層から、6の須恵器盤は北壁際東部の床面直上から、7の須恵器蓋は竈内と西壁際の床面から出土したものが接合した。8の須恵器甕は南東部の覆土中層から、9の砥石は東部の床面直上からそれぞれ出土している。10の刀子は南東部の覆土下層から、11の縁金具は西壁際の覆土上層から、12の刀子は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀末葉と思われる。

第69号住居跡(第147図)

位置 調査区の東部、E8g区。

重複関係 本跡は、北部を第70号住居跡を掘り込んでいることから、第70号住居跡よりも新しい。

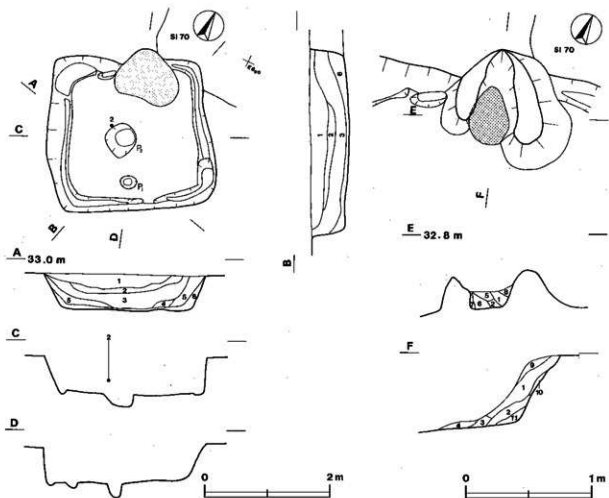
規模と平面形 長軸2.58m、短軸2.52mの方形である。

主軸方向 N-18°-W

壁 壁高は53~57cmで、西壁は外傾するものの、東壁はほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には、南東壁の一部を除いて壁溝が回っている。北西コーナー部、南東コーナー部は他に比べ深く掘り込まれている。上幅25cm、下幅10cm、深さ5cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、全体的に軟らかい。



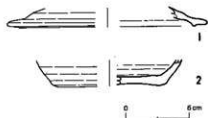
第147図 第69号住居跡実測図

ピット 2か所 (P₁・P₂)。P₁は、長径26cm、短径21cmの不整楕円形、深さ10cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。P₂は長径55cm、短径50cmの不整楕円形、深さ20cmで性格は不明である。

竈 北西壁中央部からやや東よりを壁外に27cmほど掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さ77cm、最大幅103cmである。火床部は、床面をそのまま使用している。煙道部は、火床部から直線的に立ち上がっている。火床部に砂混じり粘土の固まりがあり、その上に藁片がのせられていた。これは外面が焼けて赤変しており、支脚として使用された可能性がある。

竈土層解説

- | | | |
|----|--------|----------------------------------|
| 1 | 暗赤褐色 | 焼土大ブロック多量、焼土粒子中量 |
| 2 | にぶい赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量 |
| 3 | 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子中量、炭化粒子少量 |
| 4 | 灰褐色 | 粘土粒子中量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量 |
| 5 | にぶい赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化・粘土粒子少量 |
| 6 | 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土・炭化・粘土粒子中量、ローム小ブロック少量 |
| 7 | にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土・ローム小ブロック・粘土粒子少量 |
| 8 | 暗赤褐色 | 焼土・ローム粒子少量 |
| 9 | 灰褐色 | ローム・粘土粒子中量、焼土粒子少量 |
| 10 | 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子少量 |
| 11 | 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子少量 |



第148図 第69号住居跡出土遺物実測図

覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量

遺物 竈内と竈付近の中層を中心として、土師器片30点、須恵器片5点、鉄滓が少量出土している。第148図

1の須恵器壺は、覆土中から出土している。2の須恵器坏は、P₂付近の覆土中層から出土している。

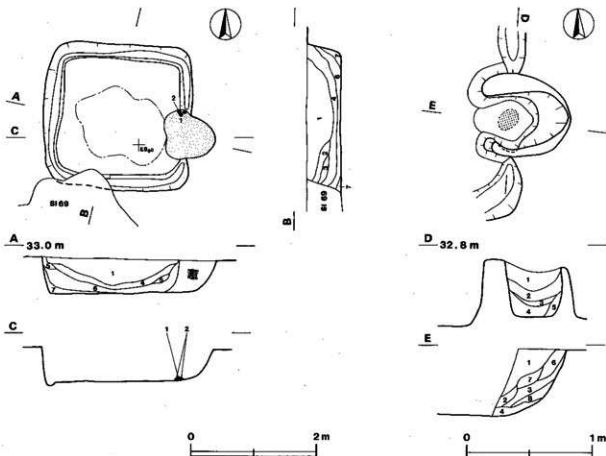
所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。

第69号住居跡出土遺物観察表

図版番号	部 種	尺寸(m)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第148図 1	壺	A(15.8)	口縁部片。口縁部内側に短いかえりを持つ。	口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P368 5% 覆土中
	須恵器	B(1.5)				
2	坏	B(2.1)	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石 灰色 普通	P367 10% 覆土中層
	須恵器	C(8.8)				

第70号住居跡 (第149図)

位置 調査区の東部、E8f₃区。



第149図 第70号住居跡実測図

重複関係 本跡は、第69号住居跡の北部に掘り込まれていることから、第69号住居跡よりも古い。
規模と平面形 長軸2.38m、短軸2.37mの方形である。

主軸方向 N-95°-E

壁 壁高は56-58cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅21cm、下幅8cm、深さ6cmで、断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦で、中央部は踏み固められている。

竈 東壁中央部からやや南よりを壁外に38cmほど半円状に掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は焚口部から煙道部までの長さ78cm、最大幅80cmである。火床部は、床面と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は、火床面から急に立ち上がっている。本跡にも第69号住居跡と同じように、火床部に砂混じり粘土の固まりがあり、その上に薬片がのせられている。これも、竈の支脚として使用された可能性がある。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 2 にぶい赤褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 焼土・ローム粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック中量、粘土粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子中量、炭化粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量、焼土・ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 7 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量

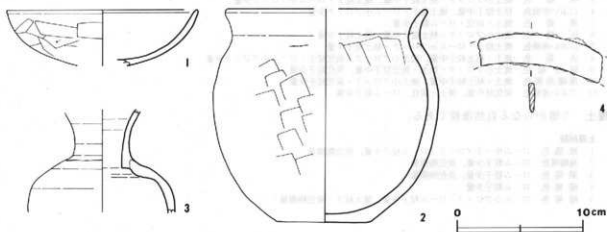
覆土 7層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 5 黒褐色 焼土・ローム粒子少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量

遺物 土師器片44点、須恵器片2点の他、鉄製品が出土している。第150図1の土師器杯、2の土師器壺はともに竈左袖部付近の床面直上から出土している。3の須恵器長頸瓶、4の鉄鎌は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（7世紀前葉）と思われる。



第150図 第70号住居跡出土遺物実測図

第70号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第150図 1	土師器 坏	A 15.1	体部から口縁部片。体部は内彎しなが ら外傾し、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部内側 に一条の沈線が走る。体部内面ナデ、 外面へう削り後ナデ。	灰石・石英・雲母 明褐色 普通	P369 65% PL31 覆輪部内
		B (4.4)				
2	土師器 壺	A (15.8)	底部から口縁部片。平底。体部は内 彎しながら外傾し、口縁部は縦く外 反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ デ、外面へう削り後ナデ。底部手持 ちへう削り。	灰石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P370 50% 覆輪部内
		B 17.2 C 7.5				
3	長頸須 壺	B (8.1)	体部から口縁部片。体部は内彎し、 口縁部は外反しながら立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口コナデ。	小礫 灰白色 良好	P371 10% PL31 覆土中

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	鉄線	(10.1)	2.5	0.5	(24.6)	覆土中	M54

第71号住居跡 (第151図)

位置 調査区の東部、E8e区。

規模と平面形 長軸3.53m, 短軸3.30mの方形である。

主軸方向 N-29°-W

壁 壁高は60~71cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅25cm, 下幅12cm, 深さ18cmで、断面形は逆台形である。

床 平坦で、竈前面から南部にかけて踏み固められている。

ピット 1か所 (P1)。P1は長径44cm, 短径17cmの不整形円形、深さ29cmで、性格は不明である。

竈 北西壁中央部からやや北よりを壁外に57cmほど三角形に掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さ115cm, 最大幅120cmである。火床部は床面と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は、火床面から直線的に立ち上がっている。

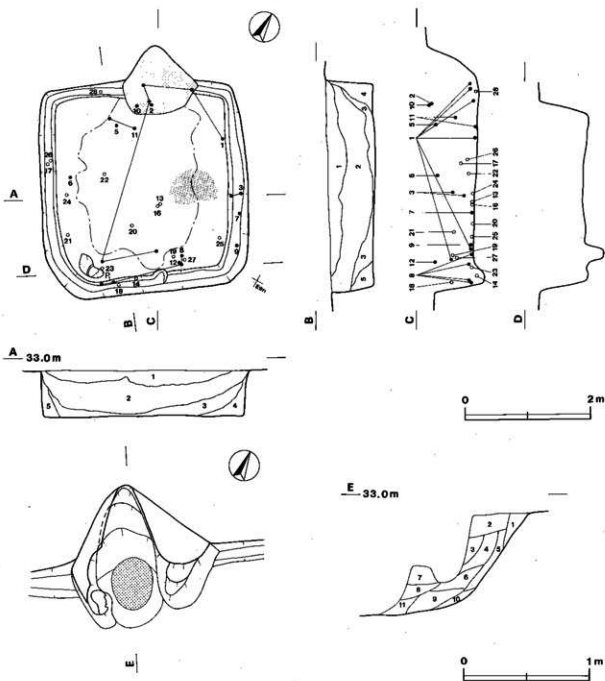
覆土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム中ブロック・ローム・粘土粒子中量、焼土・炭化粒子少量
- 3 灰褐色 焼土小ブロック・粘土粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 4 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 5 黄褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量
- 6 灰褐色 焼土小ブロック・粘土粒子中量、焼土粒子少量
- 7 にぶい赤褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 8 灰褐色 焼土・粘土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 9 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子中量、炭化粒子少量
- 10 暗赤褐色 焼土・粘土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 11 にぶい赤褐色 炭化材中量、焼土・炭化・ローム粒子少量

覆土 5層からなる自然堆積である。

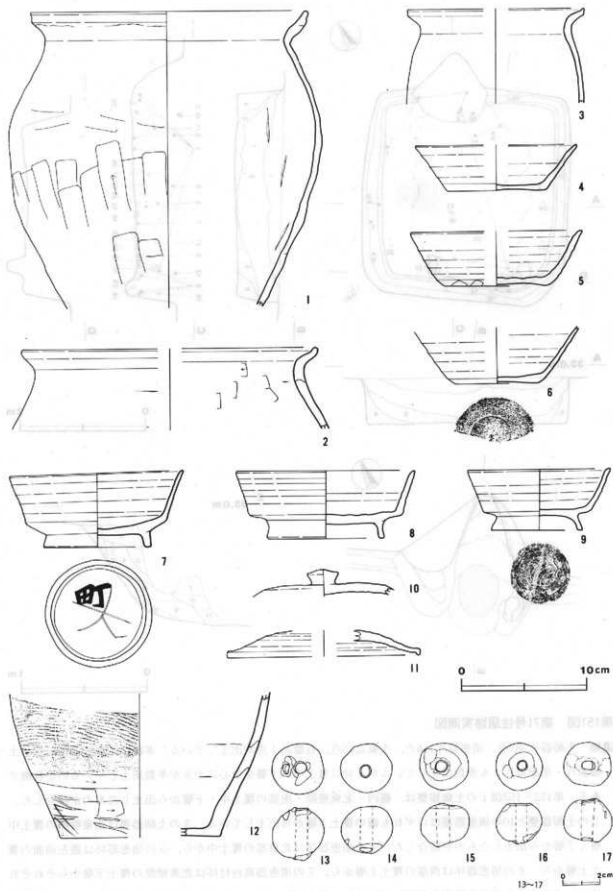
土層解説

- 1 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量

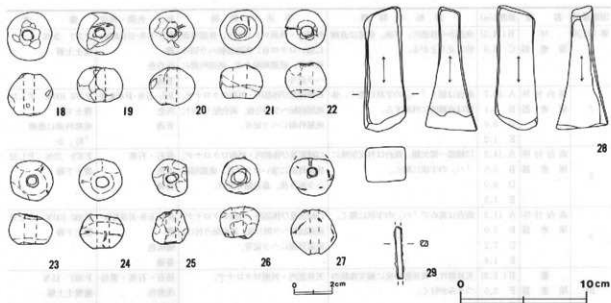


第151図 第71号住居跡実測図

遺物 土師器片382点、須恵器片116点、土製品15点、石製品1点が出土している。本跡は、他の遺構に比べ土師器片・須恵器片とも多数出土しているが、特に覆土中・下層を中心に土玉が多数出土しているのが特徴である。第152・153図1の土師器甕は、竈内・北東壁際・南部の覆土中・下層から出土したものが接合した。2の土師器甕と10の須恵器蓋はいずれも竈の覆土上層から出土している。3の土師器甕は北東壁際の覆土中層と下層から出土したものが接合した。4の須恵器坏は北東部の覆土中から、5の須恵器坏は竈左前面の覆土上層から、6の須恵器坏は西部の覆土上層から、7の須恵器高台付坏は北東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。8の須恵器高台付坏は南東壁際の覆土下層から、9の須恵器高台付坏は東コーナー部の覆土下層から正位の状態で出土している。11の須恵器蓋は竈左袖部前面の覆土中層と下層から出土したものが接



第152图 第71号住居跡出土遺物実測図(1)



第153図 第71号住居跡出土遺物実測図(2)

合し、12の須恵器甕は南東部の覆土上層から出土している。13・16・20の土玉は中央部からやや南寄りの床面直上から、22の土玉は中央部からやや西寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。14の土玉は南東壁際の覆土中から、18の土玉は同じく南東壁際の覆土中層から、19・27の土玉は南東部の覆土中層から、25の土玉は東コーナー部の床面直上からそれぞれ出土している。17・26の土玉は南西壁際の覆土下層から、21の土玉は南西部の覆土中層から、24の土玉は同じく南西部の床面直上からそれぞれ出土している。23の土玉は、P1付近の床面直上から出土している。28の砥石は、北西壁際の床面直上から出土している。15の土玉と29の鉄鏝は覆土中から出土している。また、本跡東部の床面から厚さ15cmほどの、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を含んだ粘土の固まりが検出されたが、性格等は不明である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀後葉と思われる。

第71号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	片割数(枚)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第152図 1	甕	A 22.1	体部から口縁部片。体部は内厚し、口縁部は軽く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面上位ナデ。外面下位へラ削り後ナデ。体部内面・外面上位へラ直で直。	長石・石英・雲母にふい赤褐色 普通	P 372 50% 覆土中・下層
	土師器	B (24.0)				
2	甕	A (23.6)	体部から口縁部片。体部は内厚し、口縁部は軽く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面上位へラナデ、中位ナデ。体部外面ナデ。	長石・石英・雲母にふい灰色 普通	P 373 5% 覆土上層
	土師器	B (6.7)				
3	甕	A (14.0)	体部から口縁部片。体部は内厚し、口縁部は軽く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面斜縁。	長石・石英 明赤褐色 普通	P 374 10% 覆土中・下層
	土師器	B (7.6)				
4	坏 須恵器	A (12.7)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外厚し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部へラ切り後ナデ。底部周縁ナデ。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P 375 50% 覆土中
		B 3.7				
		C 7.8				
5	坏 須恵器	A (13.6)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外厚し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。体部下端手持ちへラ削り。体部内・外面に強い口クロ目。底部手持ちへラ削り。	長石 灰色 普通	P 376 25% 覆土上層
		B 4.3				
		C 8.4				

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第152図 6	環 須恵器	B(4.5) C 6.6	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部回転へう切り後ナデ。底部周縁ナデ。底部外面にへう記号。	長石・石英・針状鉱物 緑 灰白色 普通	P377 20% 覆土上層
7	高台付環 須恵器	A 13.7 B 6.1 D 8.6 E 1.2	高台は短く「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転へう削り後、高台貼り付け。底部外面にへう記号。	長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P378 100% P.L31 覆土下層 底部外面に墨書「町」か
8	高台付環 須恵器	A 14.2 B 5.5 D 9.0 E 1.5	口縁部一部欠損。高台は外反気味に「ハ」の字状に開く。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部回転へう削り後、高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P379 70% P.L32 覆土下層
9	高台付環 須恵器	A 11.3 B 5.0 D 7.2 E 1.4	高台は高めで「ハ」の字状に開く。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転へう削り後、高台貼り付け。底部外面にへう記号。	長石・石英・針状鉱物 緑 褐灰色 普通	P380 100% P.L32 覆土下層
10	蓋 須恵器	B(2.3) F 2.5 G 1.3	天井部片。天井部中央に窪み状のつまみが付く。	天井部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 浅黄色 良好	P381 15% 覆土上層
11	蓋 須恵器	A(15.4) B(2.1)	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し、口縁部に至る。口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面中位回転へう削り。	長石・石英・針状鉱物 オリーブ灰色 普通	P382 15% 覆土中・下層
12	壺 須恵器	B(11.5) C(12.6)	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面ナデ。体部外面中位横方向の平行タキ。下踵手持ちへう削り。体部外面にへう当て痕。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P383 10% 覆土上層 酸化焙焼成 体部外面に砥石貼用痕

図版番号	器 種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
13	土 玉	2.8	2.9	0.8	19.0	床面	DP79 P.L36
14	土 玉	2.7	2.5	0.7	14.9	覆土下層	DP80 P.L36
15	土 玉	2.6	2.3	0.7	12.8	覆土中	DP81 P.L36
16	土 玉	2.5	2.2	0.6	10.1	床面	DP82 P.L36
17	土 玉	2.6	2.3	0.7	11.1	覆土下層	DP83 P.L36
第153図18	土 玉	2.4	2.3	0.5	9.3	覆土中層	DP84 P.L36
19	土 玉	2.4	1.9	0.5	9.3	覆土中層	DP85 P.L36
20	土 玉	2.4	2.1	0.5	9.8	床面	DP86 P.L36
21	土 玉	2.3	1.8	0.7	8.8	覆土中層	DP87
22	土 玉	2.2	1.9	0.7	7.2	覆土下層	DP88
23	土 玉	2.3	1.7	0.6	7.4	床面	DP89
24	土 玉	2.3	1.7	0.7	7.2	床面	DP90
25	土 玉	1.8	1.8	0.7	5.5	床面	DP91
26	土 玉	2.0	1.7	0.9	5.3	覆土下層	DP92
27	土 玉	2.3	2.4	0.5	9.5	覆土中層	DP93

図版番号	器 種	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
28	砥 石	10.1	3.4	2.8	132.5	凝 灰 岩	床面	Q29 P.L38

図版番号	器 種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
29	鉄 線	4.2	0.4	0.4	3.3	覆土中	M55

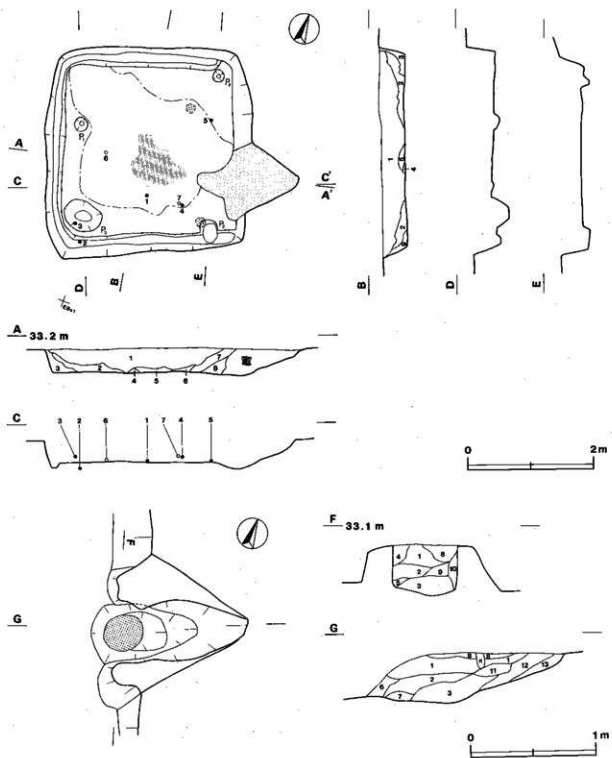
第72号住居跡 (第154図)

位置 調査区の東部, E9d₁区。

規模と平面形 長軸3.32m, 短軸3.25mの方形である。

主軸方向 N-69°-E

壁 壁高は35-45cmで, 外傾して立ち上がる。



第154図 第72号住居跡実測図

壁溝 確認された壁下には、北東壁を除いて壁溝が回っている。上幅15cm、下幅9cm、深さ9cmで、断面形は逆台形である。

床 平坦で、寝前前から北西部にかけて踏み固められている。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁は径11cmの不整形円形、深さ10cmで、配置や規模から出入り口施設に伴うピットと思われる。P₂~P₄は長径21~62cm、短径18~46cm、深さ11~24cmの不整形円形で性格は不明である。

竪 北東壁中央部からやや南よりを壁外に81cmほど三角形に掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さ126cm、最大幅110cmである。火床部は、床面を11cmほど掘り窪めている。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竪土層解説

- 1 暗褐色 色 ローム粒子中量、焼土・ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 2 暗褐色 色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量
- 3 暗赤褐色 色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量
- 4 灰褐色 色 粘土粒子中量、焼土粒子少量
- 5 暗暗赤褐色 色 粘土粒子中量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 色 焼土・炭化・ローム粒子少量
- 7 暗赤褐色 色 ローム小ブロック中量、焼土・炭化・ローム粒子少量
- 8 暗赤褐色 色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 9 暗暗赤褐色 色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム小ブロック少量
- 10 暗赤褐色 色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化・粘土粒子少量
- 11 暗赤褐色 色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 12 暗赤褐色 色 焼土中ブロック・焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 13 におい赤褐色 色 焼土小ブロック・焼土粒子少量

覆土 各層ともロームブロック等を多く含み、また不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

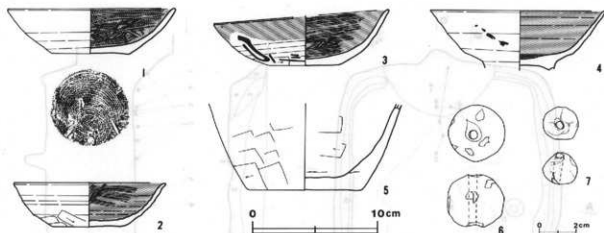
土層解説

- 1 暗褐色 色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 5 灰褐色 色 粘土粒子多量、ローム粒子少量
- 6 黒褐色 色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 色 焼土・ローム・粘土粒子少量
- 8 褐色 色 炭化・ローム粒子少量、粘土粒子微量
- 9 褐色 色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

第72号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第155図	土 師 器	A 13.6	口縁部一部欠損。平底。体部は内脣しながら外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナテ。内面全体へラ磨き後、黒色処理。底部回転糸切り。	長石・雲母 におい褐色	P384 96% P.L32 覆土下層
		B 3.8				
		C 6.3				
2	坏 土 師 器	A 12.2	底部から口縁部片。平底。体部は内脣しながら外傾し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナテ。体部下端手持ちへラ削り。内面全体へラ磨き後、黒色処理。底部手持ちへラ削り。	長石・石英・雲母 褐色	P385 65% 覆土下層
		B 3.5				
		C 5.8				
3	坏 土 師 器	A [14.0]	底部から口縁部片。平底。体部は内脣しながら外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナテ。体部内面へラ磨き。体部内・外面黒色処理。体部下端手持ちへラ削り。底部手持ちへラ削り。	長石・雲母・スコリア におい褐色	P386 50% 覆土下層 体部外面に墨書「三」か
		B 4.4				
		C 5.7				
4	粥 土 師 器	A [14.0]	口縁部一部及び高台部欠損。体部は内脣気味に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナテ。内面全体へラ磨き後、黒色処理。底部切り難し後、高台削り付け。	長石・雲母 におい赤褐色	P387 90% 覆土下層
		B (4.8)				
		E (0.6)				
5	甕 土 師 器	B (7.0)	底部から体部片。平底。体部は内脣気味に外傾する。	体部内面へラナテ後ナテ、外面下端手持ちへラ削り。体部内面に輪模様。	長石・石英・雲母 褐色	P388 20% 床面
		C 9.0				

図版番号	器種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
6	土 玉	3.0	2.2	0.5	22.6	床面	DP94 P.L36
7	土 玉	1.9	1.7	0.5	4.5	覆土下層	DP95



第155図 第72号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片102点，須恵器片18点，土製品2点の他，鉄滓が1.1kg出土している。第155図1の土師器杯は南部の覆土下層から正位の状態，2の土師器杯は南西コーナー部の壁溝覆土下層から，3の土師器杯はP₃上の覆土下層から正位の状態で出土している。4の土師器碗は南東部の覆土下層から正位の状態，5の土師器甕は北東部の床面直上から出土している。6の土玉は西部の床面直上から，7の土玉は南東部の覆土下層からそれぞれ出土している。また，第71号住居跡と同じようにほぼ中央部の床面上からロームブロックを含む厚さ12cmほどの粘土の固まりが，北部と南東部から焼土の固まりが2か所検出されているが，性格は不明である。所見 本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀後半）と思われる。

第73号住居跡（第156図）

位置 調査区の東部，E8c区。

規模と平面形 長軸3.76m，短軸3.64mの方形である。

主軸方向 N-34°-W

壁 壁高は50-65cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。

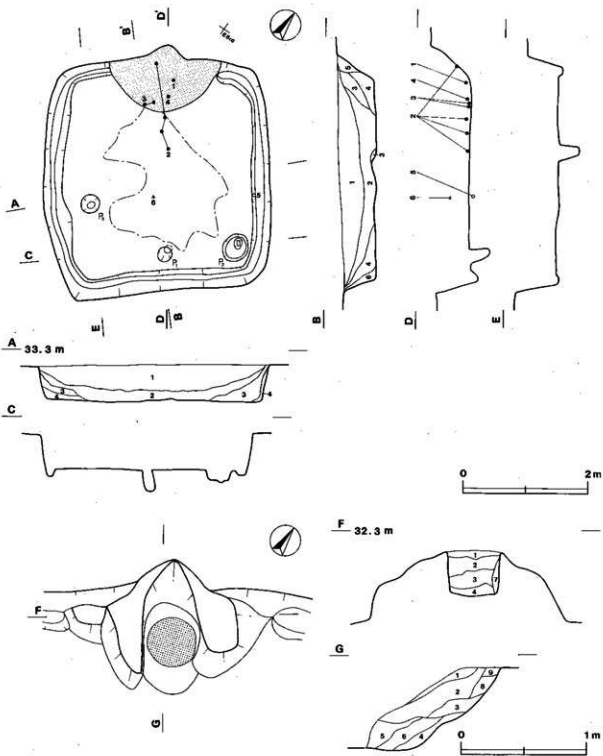
床 平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット 3か所（P₁-P₃）。P₁は長径24cm，短径22cmの不整楕円形，深さ33cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P₂は長径47cm，短径30cm，深さ20cmの不整楕円形，P₃は径30cmの不整円形，深さ33cmでP₂・P₃とも性格は不明である。

竈 北西壁中央部を壁外に23cmほど三角形に掘り込み，砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，焚口部から煙道部までの長さ107cm，最大幅165cmである。火床部は，床面とほぼ同じレベルの平坦面を使用しており赤変硬化している。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 粘土粒子中量，炭化・ローム粒子少量
- 2 灰褐色 粘土粒子多量，炭化・ローム粒子少量
- 3 暗赤褐色 ローム・粘土粒子中量，炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土・粘土粒子中量
- 5 黒褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 6 暗赤褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子少量
- 7 暗赤褐色 焼土・粘土粒子中量，焼土小ブロック少量
- 8 にぶい赤褐色 焼土・ローム粒子少量
- 9 にぶい赤褐色 ローム・粘土粒子中量，焼土粒子少量

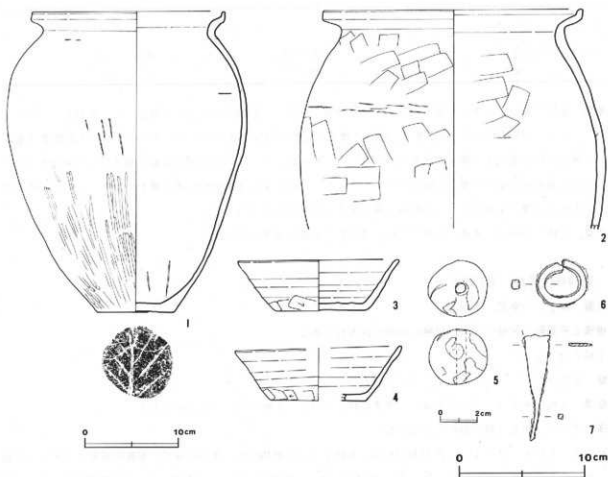


第156図 73号住居跡実測図

覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- | | | |
|---|-----|---------------------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒少量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム・粘土粒子・砂粒少量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 5 | 暗褐色 | 砂粒・粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック微量 |
| 6 | 暗褐色 | ローム粒少量、炭化粒子・ローム大・小ブロック微量 |



第157図 第73号住居跡出土遺物実測図

第73号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
157 図 1	甕 土 師 器	A 20.5	体部一部欠損。平底。体部は内傾しながら外傾し、口縁部は外反する。口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面上位ナデ、下位ヘラ磨き。体部内面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P389 95% P.L.32 甕履上下層	
		B 32.2					
		C 8.3					
2	甕 土 師 器	A 20.7 B (17.6)	体部から口縁部片。体部は内傾し、口縁部は強く外反する。口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面上位にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい灰色 普通	P390 35% 甕履上中・下層	
3	坏 須 恵 器	A 13.0	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ切り後、手持ちヘラ削り。底部周縁ナデ。	長石・石英 暗灰黄色 普通	P391 95% P.L.32 床面	
		B 4.0					
		C 7.4					
4	坏 須 恵 器	A 13.2	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に深いロクロ目。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P392 50% P.L.32 甕履土下層	
		B 4.4					
		C 7.8					
図版番号	器種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
5	土 玉	長さ(cm)	幅(cm)	孔径	重量(g)	覆土下層	DP96 P.L.36
		3.2	3.0	0.5	23.9		

図版番号	器 種	計 測 値				出 土 地 点	備 考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第157図6	不明鉄製品	4.0	3.7	0.7	16.7	覆土中層	M56	PL41
7	鉄 鏝	(8.4)	2.1	0.4	(7.3)	覆土中	M57	PL40

遺物 竈内と竈付近の覆土下層を中心にして土師器片187点, 須恵器片107点, 土製品1点, 鉄製品が2点出土している。第157図1の土師器甕は, 竈内の覆土下層から横位の状態で出土している。2の土師器甕は竈内の覆土中層と竈前面の覆土下層から出土したものが接合した。3の須恵器坏は竈左袖部付近の床面直上から, 4の須恵器坏は竈内の覆土下層から出土している。5の土玉は北東壁下壁溝の覆土中から, 6の不明鉄製品は中央部の覆土中層から, 7の鉄鏝は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から8世紀後半と思われる。

第74号住居跡 (第158図)

位置 調査区の東部, E8a7区。

規模と平面形 長軸4.90m, 短軸3.63mの長方形である。

主軸方向 N-15°-E

壁 壁高は20~31cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北西・北東コーナー部を除いて壁溝が回っている。上幅11cm, 下幅3cmである。

床 平坦で, 南北に踏み固められている。

ピット 8か所 (P1~P8)。P1は長径65cm, 短径50cmの不整楕円形, 深さ67cmで, 配置や規模から出入り口施設に伴うピットと思われる。P2~P6は長径18~29cm, 短径13~26cm, 深さ38~66cmの不整楕円形で柱穴と思われる。P7・P8は長径20~23cm, 短径18~20cmの不整楕円形, 深さ16~27cmで性格は不明である。

竈 北壁中央部からやや東よりを壁外に50cmほど三角形に掘り込み, 砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 笑口部から煙道部までの長さ156cm, 最大幅122cmである。火床部は, 床面とほとんど同じレベルの平坦面を使用し, わずかに赤変している。煙道部は, 火床面からほぼ垂直に立ち上がっている。また, 竈前面に竈から流れ出したと思われる焼土を検出した。

覆土層解説

- 1 黒褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム大ブロック多量
- 5 暗赤褐色 焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量
- 8 にぶい赤褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量
- 9 にぶい赤褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量
- 10 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 11 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 12 黒褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量

覆土 覆土の大部分を1層が占める。各層ともロームブロックを含み, 人為的に埋め戻した可能性が高い。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量, 焼土・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 4 褐色 ローム大・小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量

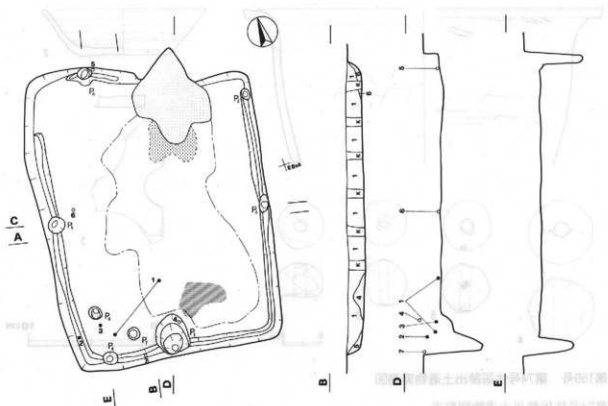
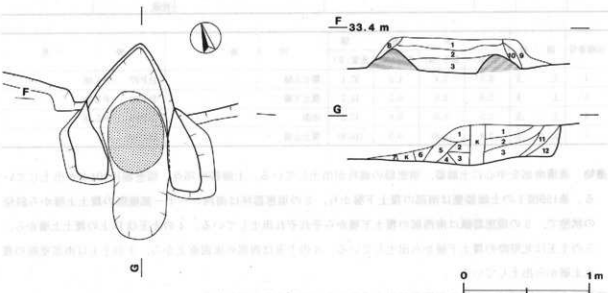
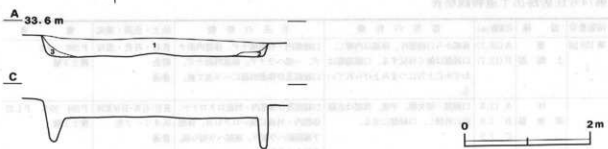
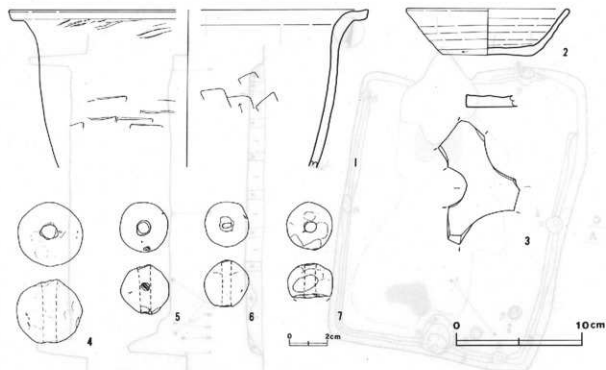


图 D 土坑出土陶器
图 A 居住区平面图



第158图 第74号居跡実測图



第159号 第74号住居跡出土遺物実測図

第74号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第159号 1	土師器 甕	A (28.7) B (12.7)	体部から口縁部片。体部は内磨し、口縁部は強く外反する。口縁端部はわずかに上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、一部ヘラナデ。体部外面ナデ。口縁部及び体部外面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P393 5% 覆土下層
2	須恵器 坏	A 13.0 B 3.9 C 7.2	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内・外面に強いロクロ目。体部下層回転ヘラ削り。底部ヘラ切り痕、手持ちヘラ削り。	長石・石英・針状鉱物 灰ナリり色 普通	P394 95% P L32 覆土上層
3	須恵器 瓶	B (1.1)	底部片。多孔式。	底部内・外面ナデ。底部内面に指頭圧痕。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P395 5% 覆土下層

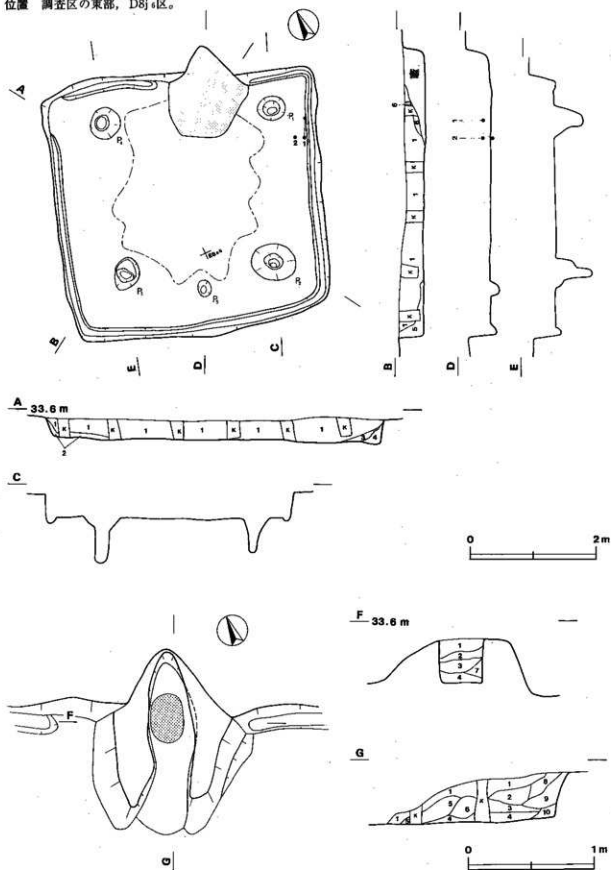
図版番号	器種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
4	土 玉	3.5	3.4	1.0	37.1	覆土上層	D P97 P L36
5	土 玉	2.6	2.6	0.7	12.7	覆土下層	D P98 P L36
6	上 玉	2.5	2.5	0.6	13.2	床面	D P99 P L36
7	上 玉	2.4	(1.8)	0.5	(10.9)	覆土上層	D P100

遺物 遺構南部を中心に土師器、須恵器の破片が出土している。土師器片76点、須恵器片104点が出土している。第159図1の土師器甕は南部の覆土下層から、2の須恵器坏は南西コーナー部壁際の覆土上層から斜位の状態で、3の須恵器瓶は南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。4の土玉はP1上の覆土上層から、5の土玉は北壁際の覆土下層から出土している。6の土玉は西部の床面直上から、7の土玉は南部壁際の覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀後半と思われる。

第75号住居跡 (第160図)

位置 調査区の東部, D8j区。



第160図 第75号住居跡実測図

規模と平面形 長軸4.29m, 短軸4.22mの方形である。

主軸方向 N-26°-E

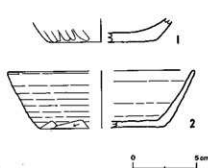
壁 壁高は32~43cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には、北西コーナー部と竈左袖部付近を除いて壁溝が回っている。上幅24cm, 下幅6cm, 深さ10cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は、長径70cm, 短径45cmの不整楕円形、深さ46~73cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₅は長径26cm, 短径21cmの不整楕円形、深さ14cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部からやや東よりを壁外に48cmほど三角形に掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、笑口部から煙道部までの長さ120cm, 最大幅148cmである。火床部は、床面とほぼ同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は、火床面から急に立ち上がっている。



覆土層解説

- 1 にぶい赤褐色 粘土粒子中量・焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量
- 3 黒褐色 焼土粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック少量
- 5 灰褐色 粘土粒子多量, 焼土粒子少量
- 6 暗赤褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量
- 7 極暗赤褐色 焼土・粘土粒子中量, 焼土小ブロック少量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 9 黒褐色 焼土・ローム粒子少量
- 10 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

第161図 第75号住居跡出土遺物実測図

覆土 覆土の大部分を1層が占め、ロームブロックを含み人為的に強め戻されたと思われる。

土層解説

- 1 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量, 焼土・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土粒子少量

第75号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(m)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第161図 1	土師器	B [1.9]	体部から底部片。平底。	体部内面刺彫。体部外面縦方向のへら磨き。底部外面水磨痕。	灰石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P396 5% 床面・覆土中層
		C 8.4				
2	須恵器	A [14.7]	底部から口縁部片。平底。体部は内 脚突みに外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。 体部外面に強い口ロナ目。体部外面 下縁手持ちへら磨り。底部へら切り 後、ナデ。	灰石・石英 灰白色 普通	P397 10% 覆土中層
		B 4.5				
		C [9.8]				

遺物 土師器片77点, 須恵器片104点, 鉄滓少量が出土しているが、全体的に破片が多い。第161図1の土師器
甕は西壁際北部の床面と覆土中層から出土したものが接合した。2の須恵器坏は西部の覆土中層から出土
している。

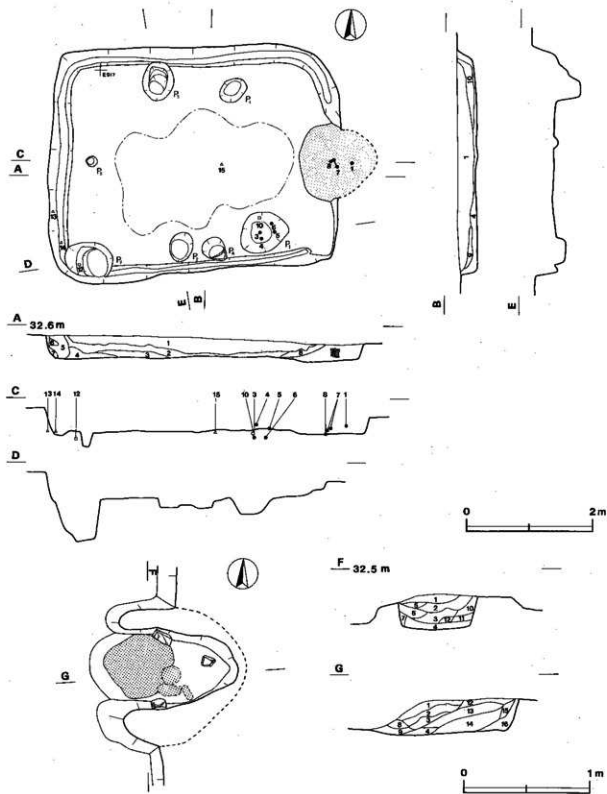
所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から奈良時代(8世紀中葉)と思われる。

第76号住居跡 (第162図)

位置 調査区の東部, E9f7区。

規模と平面形 長軸4.60m, 短軸3.64mの長方形である。

主軸方向 N-89°-E



第162図 第76号住居跡実測図

壁 壁高は15~40cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁の南部を除いて壁溝が回っている。上幅27cm、下幅6cm、深さ10cmで、断面形は逆台形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。東部を中心に床面に凹凸が見られた。

ピット 7か所 (P₁~P₇)。P₁~P₄は、長径45~76cm、短径35~65cmの不整楕円形、深さ17~35cmで、配置や

規模から主柱穴と思われる。P₅は径18cmの不整円形、深さ22cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

P₆・P₇は長径44~77cm、短径33~54cm、深さ26~66cmの不整楕円形で性格は不明である。

竈 北壁中央部を壁外に62cmほど掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、笑口部から煙道部までの長さ126cm、最大幅124cmである。火床部は、床面をわずかに掘り窪めた平坦面を使用している。煙道部は、火床面から直線的に外傾して立ち上がっている。また、竈内から雲母片岩が3片出土している。その内2片は、袖部内側に貼り付くように出土している。これは、竈の補強材として使用された可能性がある。

■土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土・粘土粒子少量
- 2 暗赤褐色 粘土粒子多量、焼土・炭化粒子中量
- 3 にぶい赤褐色 焼土・粘土粒子中量、焼土小ブロック少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量
- 5 にぶい赤褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量
- 6 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量
- 7 暗褐色 粘土粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 8 暗赤褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子・炭化材・炭化粒子少量
- 10 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、粘土粒子少量
- 11 暗赤褐色 焼土・粘土粒子中量、焼土小ブロック少量
- 12 暗赤褐色 焼土大ブロック多量、焼土粒子中量
- 13 暗赤褐色 粘土粒子中量、焼土・炭化粒子少量
- 14 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 15 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量
- 16 にぶい赤褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量

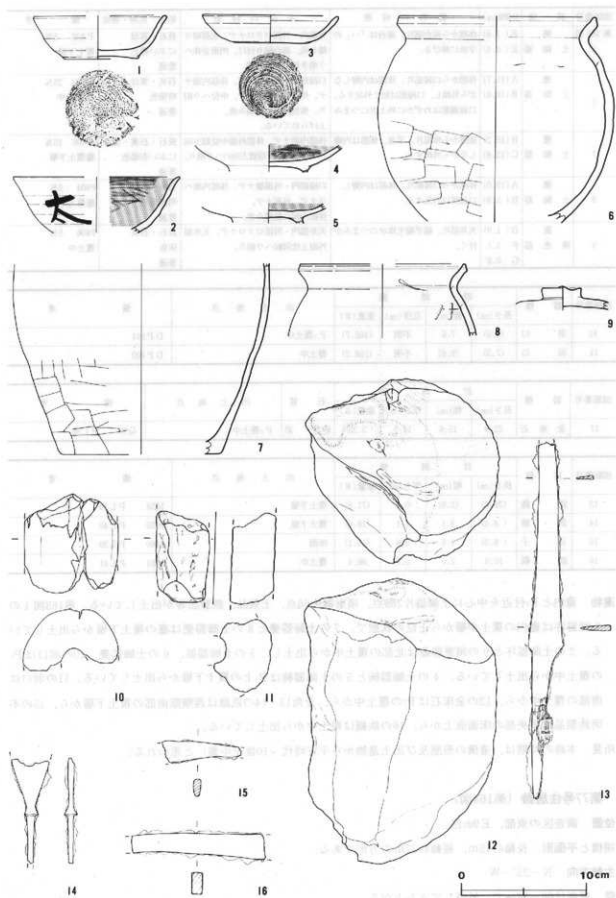
覆土 各層ともロームブロック等を含み、また不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

■土層解説

- 1 暗褐色 炭化物中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック中量、ローム粒子少量
- 3 黒褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量
- 8 暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム・粘土粒子少量
- 9 黒褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量

第76号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	新器種(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第183図	1 土師器	A (10.5)	底部から口縁部片。平底。体部は内	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 底部回転糸切り。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P388 55% 覆土中層
		B 3.5	彎しながら外傾し、口縁部はわずかに			
		C 6.1	外反する。			
2	土師器	A (13.2)	体部から口縁部片。体部は内彎気味	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 体部内面へラ磨き後、黒色処理。	雲母 にぶい橙色 良好	P389 10% P.L32 覆土中 体部外面に遺書「大」か
		B (4.5)	に外傾し、口縁部はわずかに外反する。			
3	土師器	A 10.9	平底。体部は内彎気味に外傾し、口	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 底部回転糸切り。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P400 100% P.L32 P ₁ 覆土中
		B 2.2	縁部に至る。			
		C 5.7				
4	土師器	B (2.2)	体部から高台部片。高台は短く真下	体部内・外面ロクロナデ。底部切り 磨き後、高台貼り付け。内面全体へ ラ磨き後、黒色処理。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P401 10% 覆土下層
		E (0.5)	に伸びる。			



第163图 第76号出土文物实测图

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第163図 5	甕 土師器	B(1.6) E(0.4)	体部から高台部片。高台は「ハ」の字状に伸びる。	体部内・外面ロクロナデ。底部切り推し後、高台貼り付け。内面全体ヘラ磨き後、黒色処理。	長石・雲母 にふい黄色 普通	F402 5% 覆土下層
6	甕 土師器	A(15.7) B(16.6)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は短く外反する。口縁増部はわずかに外上方につまみ	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面上位ナデ、中位ヘラ削り。体部内面に輪積み肌。	長石・雲母 暗褐色 普通	F403 25% P ₁ 覆土中
7	甕 土師器	B(15.2) C(12.8)	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら外傾する。	体部内面ナデ。体部外面中位縦方向のヘラ削り、下端横方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母 にふい赤褐色 普通	F405 15% 甕覆土下層
8	甕 土師器	A(13.0) B(5.9)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ、外面ナデ。体部内面に輪積み肌。	石英・雲母 明赤褐色 普通	F404 5% 甕覆土下層
9	須恵器	B(1.9) F 3.1 G 0.9	天井部片。扁平圓宝珠状のつまみが付く。	天井部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	F406 5% 覆土中

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
10	羽口	(8.0)	7.6	不明	(165.7)	P ₁ 覆土中	DP101
11	羽口	(7.3)	(9.6)	不明	(158.2)	覆土中	DP102

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			Q30	PL39
12	金床石	22.9	15.6	14.9	5.25	砂岩	P ₁ 覆土中	Q30	PL39

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		M58	PL39
13	鉄鍔	(28.4)	(2.9)	0.4	(71.8)	覆土下層	M58	PL39
14	鉄鍔	(8.4)	3.1	1.1	(19.6)	覆土下層	M59	PL40
15	刀子	(6.3)	1.8	0.6	(15.1)	床面	M60	PL39
16	鉄鍔	10.6	2.0	0.9	86.4	覆土中	M61	PL41

遺物 竈内とP₁付近を中心に土師器片289点、須恵器片66点、土製品、鉄製品等が出土している。第163図1の土師器坏は竈内の覆土中層から正位の状態で、7の土師器甕と8の土師器甕は竈の覆土下層から出土している。2の土師器坏と9の須恵器蓋は北部の覆土中から出土し、3の土師器皿、6の土師器甕、10の羽口はP₁の覆土中から出土している。4の土師器碗と5の土師器碗はP₁上の覆土下層から出土している。11の羽口は南部の覆土中から、12の金床石はP₂の覆土中から、全角13・14の鉄鍔は西壁際南部の覆土下層から、15の不明鉄製品は中央部の床面直上から、16の鉄鍔は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代(10世紀中葉)と思われる。

第77号住居跡(第164図)

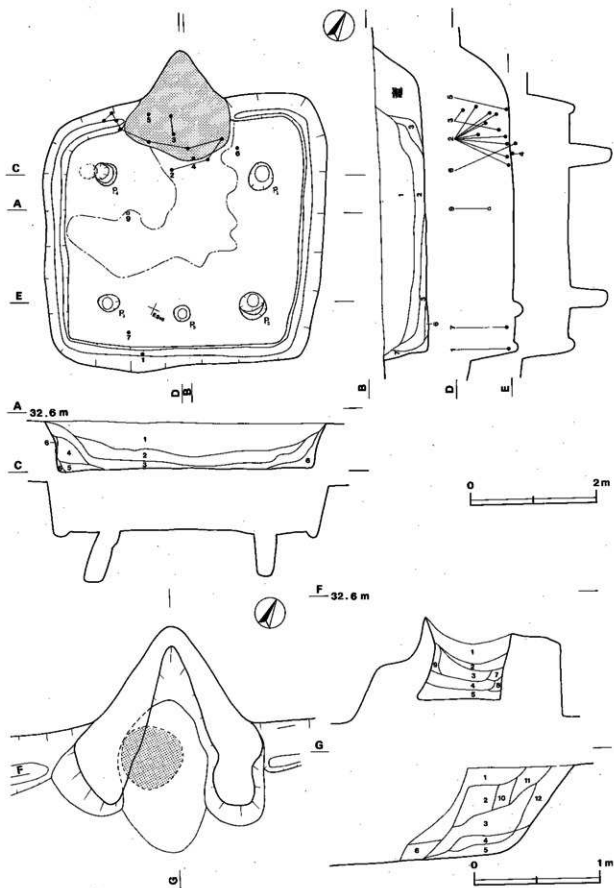
位置 調査区の東部、E9d区。

規模と平面形 長軸4.45m、短軸4.32mの方形である。

主軸方向 N-25°-W

壁 壁高は66-84cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅36cm、下幅10cm、深さ10cmで、断面形はU字形である。



第164图 第77号住居跡実測图

床 平坦で、竈前面から西部にかけて踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は、長径35~45cm、短径30~42cmの不整形円形、深さ58~80cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P5は径27cmの不整形円形、深さ15cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。本跡の主柱穴は他の遺構に比べ、掘り込みが深いのが特徴である。また、P4は中央に内傾するように掘り込まれていた。

竈 北西壁中央部を壁外に80cmほど三角形に掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は、崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さ180cm、最大幅170cmである。火床部は、床面と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗褐色 rome小ブロック中量、焼土・rome粒子少量
- 2 におい赤褐色 焼土・rome粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土・炭化粒子・rome小ブロック・rome粒子少量、rome中ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土中量、焼土小ブロック・炭化・粘土粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量
- 6 におい赤褐色 焼土粒子・rome小ブロック・rome粒子少量
- 7 灰褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量
- 8 灰褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量
- 9 におい赤褐色 焼土粒子・rome小ブロック・rome粒子少量、炭化粒子微量
- 10 におい赤褐色 焼土粒子・rome小ブロック・rome・粘土粒子少量
- 11 灰褐色 粘土粒子多量、焼土・rome粒子微量
- 12 灰褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

覆土 各層ともromeブロックを含んでおり、また、不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

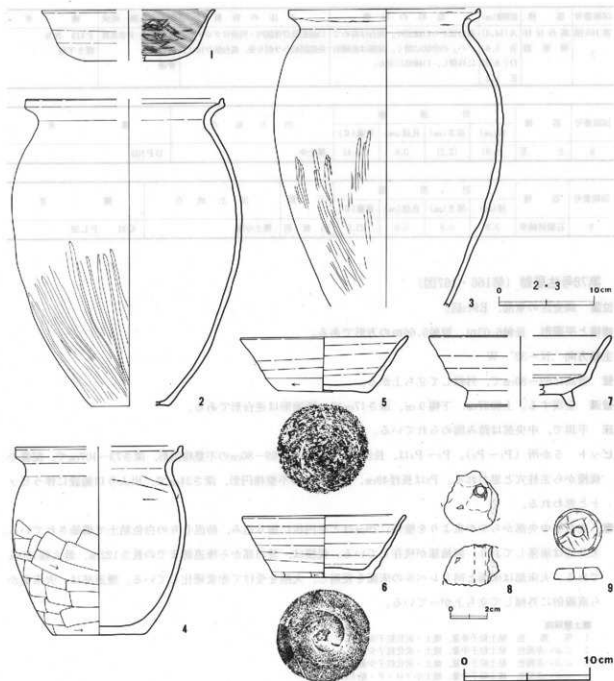
- 1 暗褐色 焼土・rome粒子少量、rome小ブロック中量
- 2 黒褐色 rome小ブロック中量、焼土・rome・粘土粒子少量
- 3 黒褐色 焼土粒子・rome小ブロック・rome粒子少量、炭化材微量
- 4 暗褐色 rome小ブロック中量、焼土・rome粒子少量
- 5 暗褐色 rome小ブロック中量、焼土・rome粒子少量、炭化材微量
- 6 暗褐色 rome粒子中量、焼土粒子微量
- 7 暗褐色 rome粒子中量

遺物 土師器片558点、須恵器片154点、土製品1点、石製品1点等が、竈付近を中心にして多量に出土している。第165図1の土師器高台付坏は南部壁際の覆土下層から、2の土師器甕は竈前面と竈左袖部付近の覆土中・下層から出土したものが接合した。3の土師器甕は、竈の覆土上層と下層から出土したものが接合した。4の土師器甕は竈前面の床面直上から正位の状態、5の須恵器坏は竈の覆土下層から横位の状態で出土している。6の須恵器坏は竈右袖部前面の床面直上から正位の状態、7の須恵器高台付坏は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。8の土玉は覆土中から、9の石製紡錘車は西部の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代(9世紀前葉)と思われる。

第77号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考	
第165図 1	高台付坏 土師器	A(14.0)	底縁から口縁部片。高台部欠損。体部は急傾的に外傾し、口縁部はわずかに外反する。口縁部の器内は薄い。	口縁部及び体部内・外面ロケロナデ。内面全体へラ磨き後、黒色処理。	長石・石英・スコリア におい褐色 普通	P407 25% 覆土下層	
		B 4.1					
		C(7.0)					
2	甕 土師器	A(21.0)	底部一部欠損。平底。体部は内彎し、口縁部は短く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面へラ磨き。下位腹方内のへラ磨き。	長石・石英・炭母 におい褐色 普通	P408 80% PL32 竈覆土中・下層	
		B 32.9					
		C 8.3					
3	甕 土師器	A 20.3	底部欠損。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は短く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面へラ磨き。下位腹方内のへラ磨き。	長石・石英・炭母 赤褐色 普通	P409 70% 竈覆土中・下層	
		B(31.9)					



第165図第77号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	許測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第165図 4	小形土師器	A 13.4 B 14.9 C 7.4	体部一部欠損。平底。体部は内厚しながら外傾し、口縁部は緩く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面磨ナデ。体部外面上位ナデ、下位ヘラ削り。底部外面木製。体部内面にヘラ当て痕。	長石・石英にふい橙色 普通	P410 65% PL32 床面
	坏	A 13.2 B 4.1 C 7.3	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P411 90% PL32 甕覆土下層
	坏	A 13.0 B 5.1 C 7.6	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後ナデ。	長石・石英 灰色 普通	P412 90% PL32 床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第165図	高台付環須恵器	A 14.4 B 5.6 D (8.8) E 1.2	高台部から口縁部片。高台は高めで「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロケロナデ。底部回転へく割り殺。高台貼り付け。	灰土・石英・片状炭素 灰色 普通	P 413 20% 覆土下層

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
8	土玉	(3.0)	(2.2)	0.6	(13.4)	覆土中	DP103

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
9	石製紡錘車	3.9	0.9	0.9	23.5	粘板岩	覆土中層	Q31 P.L.38

第78号住居跡 (第166・167図)

位置 調査区の東部, E9cs区。

規模と平面形 長軸6.03m, 短軸5.66mの方形である。

主軸方向 N-32°-W

壁 壁高は69~89cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅27cm, 下幅9cm, 深さ17cmで、断面形は逆台形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は、長径77~91cm, 短径69~80cmの不整楕円形, 深さ73~107cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P5は長径49cm, 短径43cmの不整楕円形, 深さ31cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北西壁中央部からやや東よりを壁外に29cmほど半円状に掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さ122cm, 最大幅120cmである。火床部は床面と同じレベルの床面を使用し、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は、火床面から直線的に外傾して立ち上がっている。

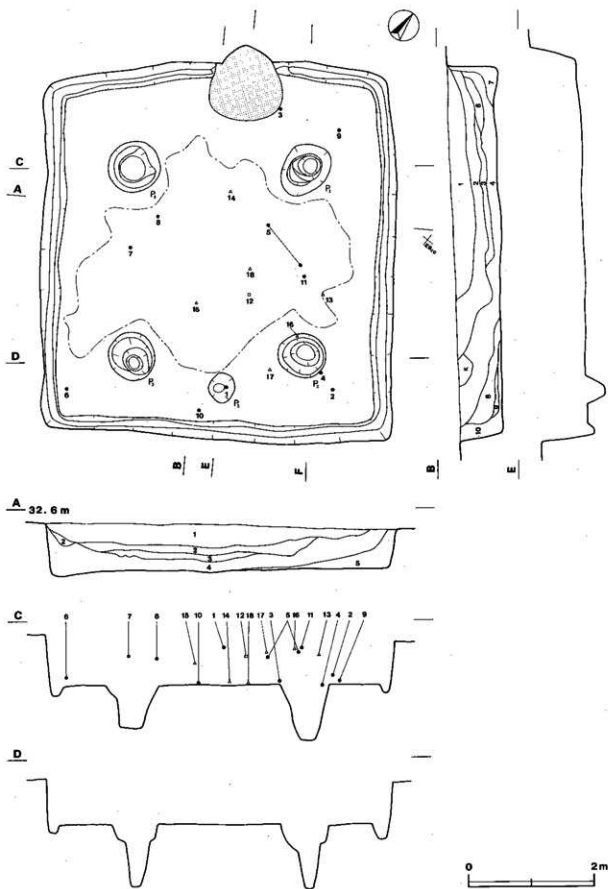
竈土層解説

- 1 灰褐色 粘土粒子多量, 焼土・炭化粒子少量
- 2 ぶい赤褐色 粘土粒子中量, 焼土・炭化粒子少量
- 3 ぶい赤褐色 粘土粒子中量, 焼土・炭化粒子少量
- 4 ぶい赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量
- 5 灰褐色 粘土粒子多量, 焼土大ブロック中量, 炭化粒子少量
- 6 暗褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子中量, 炭化・粘土粒子少量
- 7 灰褐色 粘土粒子多量, 焼土中ブロック・炭化粒子少量
- 8 ぶい赤褐色 炭化・粘土粒子中量, 焼土粒子少量
- 9 ぶい赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量

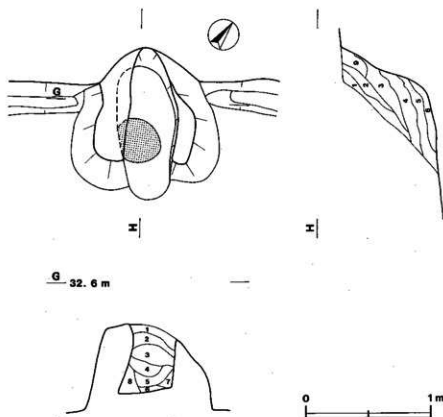
覆土 10層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化物・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化物・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 焼土粒子中量, 炭化物・ローム・粘土粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化材微量
- 6 暗褐色 焼土・ローム・粘土粒子少量, 炭化材微量
- 7 暗褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子・炭化物・ローム粒子微量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土・ローム粒子少量, 炭化材微量
- 9 暗褐色 ローム・粘土粒子少量
- 10 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量



第166图 第78号住居跡実測图(1)



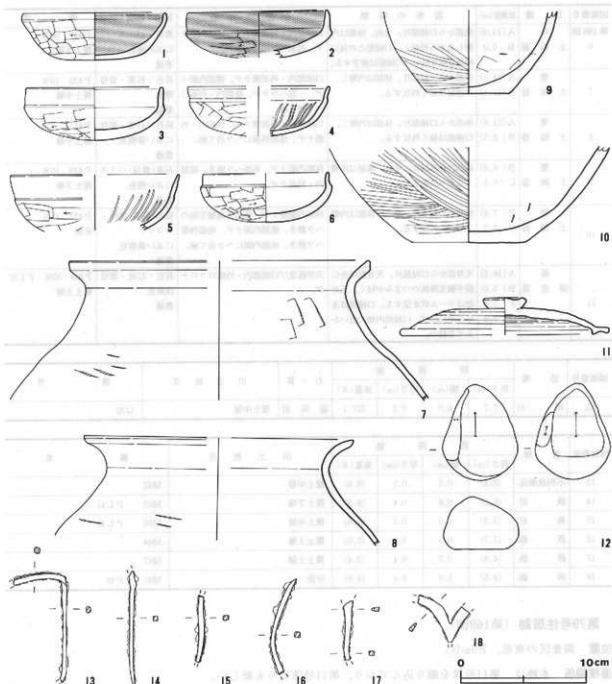
第167図 第78号住居跡実測図(2)

遺物 土師器を中心に、遺構全体の覆土各層から多量の土器が出土している。土師器片1,432点、須恵器片39点、鉄製品6点、石製品1点が出土している。第168図1の土師器坏はP₅上の覆土中層から、2の土師器坏は東コーナー部の覆土下層から、3の土師器坏は甕右袖部前面の覆土下層からいずれも正位の状態出土している。4の土師器坏はP₂付近の覆土下層から逆位の状態、5の土師器坏は中央部の覆土中層から出土した破片が接合した。6の土師器坏は南コーナー部の覆土下層から正位の状態、7・8の土師器甕は西部の覆土中層から、9の土師器甕はP₅付近の床面直上からそれぞれ出土している。10の土師器甕は南東壁際の床面直上から、11の須恵器蓋は東部の覆土上層から出土している。12の砥石は中央部の覆土中層から、13の不明鉄製品は東部の覆土中層から、14の鉄釘は中央部の覆土下層から。15の鉄釘は同じく中央部の覆土中層から、16の鉄鏝と17の鉄鏝はP₂付近の覆土上層からそれぞれ出土している。18の鉄鏝は中央部の床面直上から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（7世紀後葉）と思われる。

第78号住居跡出土遺物観察表

図取番号	器種	器高(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第168図 1	土師器 坏	A 11.4	口縁部一部欠損。丸みをおびた平底。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面へラ削り後ナデ。内面全体黒色処理。	長石・石英・雲母	P414 95% 覆土中層
		B 3.8	体部は内嚢気味に外傾し、口縁部は内傾する。		赤褐色	
		C 6.0			普通	
2	土師器 坏	A 11.1	底面一部欠損。丸成。体部は内嚢しながら外傾し、口縁部との境に明瞭な段を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面へラ削り後ナデ。内・外面黒色処理。	雲母 灰褐色	P415 85% P.L.82 覆土下層
		B (3.8)			普通	



第168図 第78号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第168図 3	坏 土師器	A 11.0	底部から口縁部片。丸底。体部は内 彎しながら外傾し、口縁部との境に 明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ デ、外面ヘラ削り後ナデ。	石英・雲母・スコリア 棕色 普通	P416 55% PL32 覆土下層
		B 4.2				
4	坏 土師器	A (11.2)	底部から口縁部片。丸底。体部は内 彎しながら外傾し、口縁部との境に 明瞭な稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ デ、外面ヘラ削り後ナデ。内面全体 に施文。	石英・雲母 棕色 普通	P417 45% 覆土下層
		B (4.0)				
5	坏 土師器	A (13.6)	体部から口縁部片。体部は内彎し、 口縁部との境にわずかな稜を持つ。 口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ デ、外面ヘラ削り後ナデ。体部内面 に施文。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P418 25% 覆土中層
		B (4.5)				

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第168図 6	坏 土師器	A [10.0] B 4.0	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら外傾し、口縁部との境に明瞭な段を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面へラ開り接ナデ。	雲母・パミスにぶい褐色	P419 50% 覆土下層
7	甕 土師器	A [24.0] B (11.1)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、一部へラナデ。体部内・外面にへラ当て痕。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P420 10% 覆土中層
8	甕 土師器	A [21.6] B (8.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P421 5% 覆土中層
9	甕 土師器	B (6.6) C 6.6	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら外傾する。	体部内面ナデ、外面へラ磨き。底部内・外面ナデ。	石英・雲母・パミス にぶい褐色 普通	P423 15% 覆土下層
10	甕 土師器	B (7.6) C 9.2	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら外傾する。	体部内面横ナデ、体部外面縦方向のへラ磨き。底部内面ナデ、底部外面へラ磨き。底部内面にへラ当て痕。	長石・石英・雲母・ スコリア にぶい黄褐色 普通	P422 15% 床面
11	甕 須恵器	A [16.8] B (3.0) F 3.5 G 0.9	天井部から口縁部片。天井部中央に扁平環宝珠状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈する。口縁部は水平方向に伸び、口縁部内側に窪みかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面クロコナデ。	長石・石英・雲母 浅黄色 普通	P424 50% P.L32 覆土上層

図版番号	器種	計測値				石・質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
12	砥石	7.7	6.0	4.2	227.1	凝灰岩	覆土中層	Q32

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
13	不明け鉄製品	(8.8)	0.5	0.5	(8.6)	覆土中層	M62
14	鉄釘	(9.2)	0.6	0.4	(6.3)	覆土下層	M63 P.L41
15	鉄釘	(5.3)	0.5	0.5	(4.0)	覆土中層	M66 P.L41
16	鉄線	(7.7)	0.5	0.4	(5.0)	覆土上層	M64
17	鉄線	(4.8)	0.7	0.4	(2.4)	覆土上層	M67
18	鉄線	(4.5)	1.0	0.4	(4.8)	床面	M65 P40

第79号住居跡 (第169図)

位置 調査区の東部、E9as区。

重複関係 本跡は、第11号溝を掘り込んでおり、第11号溝よりも新しい。

規模と平面形 長軸3.66m、短軸3.30mの方形である。

主軸方向 N-61°-E

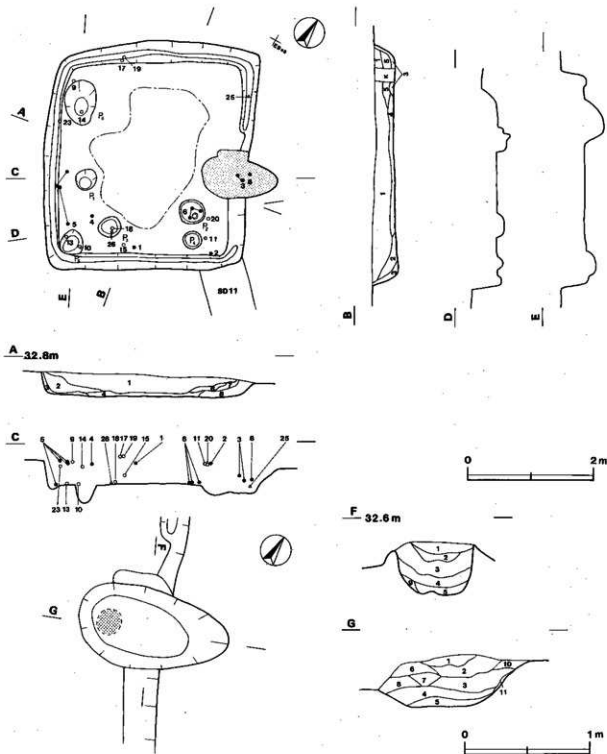
壁 壁高は36~45cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には、北東壁の南部と左軸部付近を除いて壁溝が回っている。上幅27cm、下幅7cm、

深さ6cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 6か所(P₁~P₆)。P₁は長径35cm、短径32cmの不整楕円形、深さ32cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P₂~P₆は長径30~72cm、短径28~51cm、深さ8~31cmの不整楕円形で性格は不明である。



第169図 第79号住居跡実測図

竈 北東壁はほぼ中央部を壁外に50cmほど掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており、袖部も一部が残存するのみである。規模は、突口部から煙道部までの長さ122cm、最大幅 76cmである。火床部は床面を15cmほど掘り窪め、突口部は一段低くなっている。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

覆土層解説

- 1 黒 褐色 焼土・ローム粒子少量
- 2 黒 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 3 暗 赤褐色 焼土粒子少量, ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量
- 4 暗 赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量
- 5 極暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 6 黒 褐色 焼土粒子少量, 粘土粒子少量
- 7 灰 褐色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量
- 8 黒 褐色 焼土・粘土粒子少量
- 9 暗 赤褐色 粘土粒子中量, 焼土・ローム粒子少量
- 10 暗 赤褐色 焼土・ローム粒子中量, 焼土・ローム小ブロック少量
- 11 ぶい赤褐色 焼土粒子・ローム小ブロック中量

覆土 8層からなる自然堆積である。

土層解説

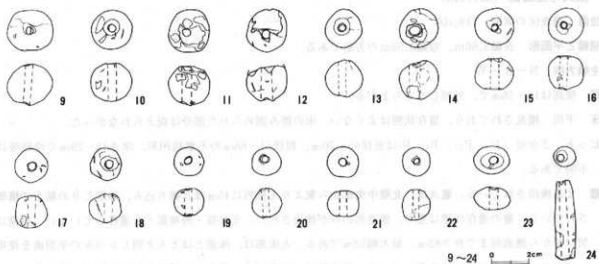
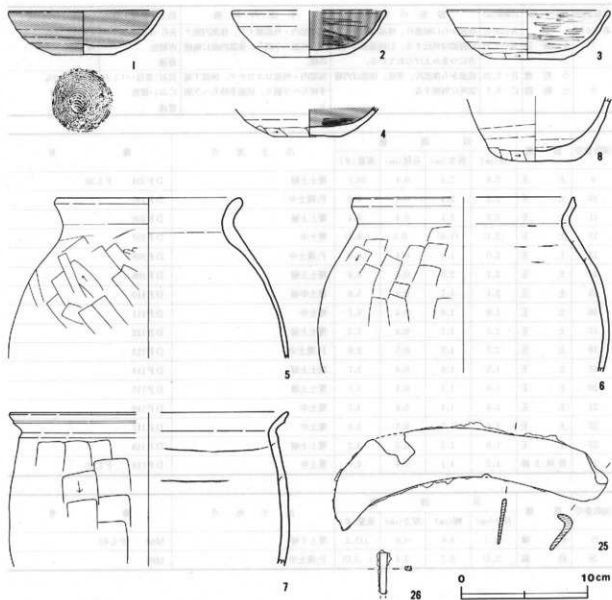
- 1 極暗褐色 焼土・ローム粒子少量
- 2 暗 褐色 炭化物少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量, 炭化材微量
- 4 極暗褐色 粘土粒子少量, ローム粒子微量
- 5 黒 褐色 ローム小ブロック少量, ローム・粘土粒子微量
- 6 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム・粘土粒子微量
- 7 極暗褐色 焼土・ローム・粘土粒子少量
- 8 暗 褐色 粘土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片225点, 須恵器片26点, 土製品16点, 鉄製品2点, 鉄滓250gが出土している。本跡の遺物は, 他に比べて竈内及び柱穴内から多く出土していることと, 土玉が多く出土しているのが特徴である。第170図1の土師器片は南東壁際の覆土層から, 2の土師器片は東コーナー壁際の覆土層から, 3の土師器片と8の土師器片はいずれも竈内の覆土層から出土している。4の土師器片は南部の覆土層から, 5の土師器片は南西壁際の覆土層と下層から出土したものが接合した。6の土師器片はP₂内の覆土中から, 7の土師器片は覆土中から出土している。9・14の土玉はP₅付近の覆土層から, 10・13の土玉はP₅の覆土中から, 11の土玉はP₄付近の覆土層からそれぞれ出土している。15の土玉は南東壁の際覆土層中から, 17・19の土玉は北西壁際の覆土層から, 18の土玉と26の鉄鍬はP₂の覆土中からそれぞれ出土している。20の土玉はP₂付近の覆土層から, 23の土玉は南西壁際の覆土層から, 25の鉄鍬は北東壁際北部の覆土下層から出土している。12・16・21・22の土玉と24の管状土鍬はいずれも覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から平安時代(10世紀中葉)と思われる。

第79号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第170図 1	土師器 環	A 12.3	底部から口縁部片。平底。体部は内	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母	P425 05% PL32 覆土層
		B 3.6	彎しながら外傾し, 口縁部に至る。	底部回転糸切り。内・外面黒色処理。	にぶい褐色	
		C 4.8			普通	
2	土師器 環	A [12.0]	底部から口縁部片。平底。体部は内	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母	P426 60% 覆土層
		B 3.8	彎しながら外傾し, 口縁部に至る。	内面全体へう磨き後黒色処理。底部	黄褐色	
		C 6.2		外面はナデ。	普通	
3	土師器 環	A 12.8	底部から口縁部片。平底。体部は内	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	雲母・バミス	P427 45% 敷覆土層
		B 4.0	彎しながら外傾し, 口縁部に至る。	体部外面下層回転糸切り。内面全	褐色	
		C 5.6		体へう磨き。底部外面はナデ。	普通	
4	土師器 環	B (2.4)	底部から体部片。平底。体部は内	体部内・外面ロクロナデ。内面全体	長石・石英・雲母・	P428 30% 覆土層
		C 5.5	彎しながら外傾する。	へう磨き後, 黒色処理。体部外面下	スコリア	
				層手持ちへう削り。底部手持ちへう	褐色	
5	土師器 環	A 14.8	体部から口縁部片。体部は内彎し,	口縁部内・外面横ナデ。体部内面削	雲母・スコリア	P429 20% 覆土上・下層
		B (12.7)	口縁部は緩く外反する。	層。体部外面へう削り。	にぶい褐色	
					普通	
6	土師器 環	A [17.6]	体部から口縁部片。体部は内彎し,	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ	長石・スコリア・バミス	P430 25% P ₂ 覆土中
		B (13.9)	口縁部は外反する。	デ。外面へう削り。	にぶい黄褐色	
					普通	



第170图 第79号出土文物实测图

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第170図 7	裏土鉢器	A(22.0) B(12.2)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は外反する。口縁部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面へう削り。体部内面に輪状みね。	長石・雲母・スコリア 赤褐色 普通	P431 15% 覆土中
8	小形 上鉢器	B(5.2) C 6.5	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に外傾する。	体部内・外面クロナデ。体部下端手持ちへう削り。底部手持ちへう削り。	長石・雲母・バミス にふい褐色 普通	P432 10% 覆土中層

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
9	土玉	2.4	2.2	0.4	10.1	覆土上層	DP104 PL36
10	土玉	2.2	2.1	0.4	8.6	P ₃ 覆土中	DP105
11	土玉	2.2	2.1	0.4	8.1	覆土上層	DP106
12	土玉	(2.1)	(1.9)	0.5	(8.0)	覆土中	DP107
13	土玉	2.0	1.9	0.4	6.9	P ₃ 覆土中	DP108
14	土玉	2.1	2.0	0.6	6.9	覆土上層	DP109
15	土玉	2.1	1.7	0.4	5.8	覆土中層	DP110
16	土玉	1.9	1.8	0.4	5.7	覆土中	DP111
17	土玉	1.7	1.7	0.4	5.3	覆土上層	DP112
18	土玉	1.7	1.5	0.5	3.9	P ₃ 覆土中	DP113
19	土玉	1.5	1.6	0.4	3.7	覆土上層	DP114
20	土玉	1.6	1.5	0.4	3.7	覆土上層	DP115
21	土玉	1.6	1.4	0.4	3.7	覆土中	DP116
22	土玉	1.6	1.5	0.5	3.6	覆土中	DP117
23	土玉	1.9	1.3	0.5	3.2	覆土上層	DP118
24	管状土埴	1.2	4.1	0.4	4.6	覆土中	DP119 PL37

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
25	鉄鎌	21.7	4.6	0.6	115.2	覆土下層	M68 PL40
26	鉄鎌	(3.5)	0.7	0.4	(3.0)	P ₃ 覆土中	M69

第80号住居跡(第171図)

位置 調査区の東部、D9ja区。

規模と平面形 長軸3.66m, 短軸3.56mの方形である。

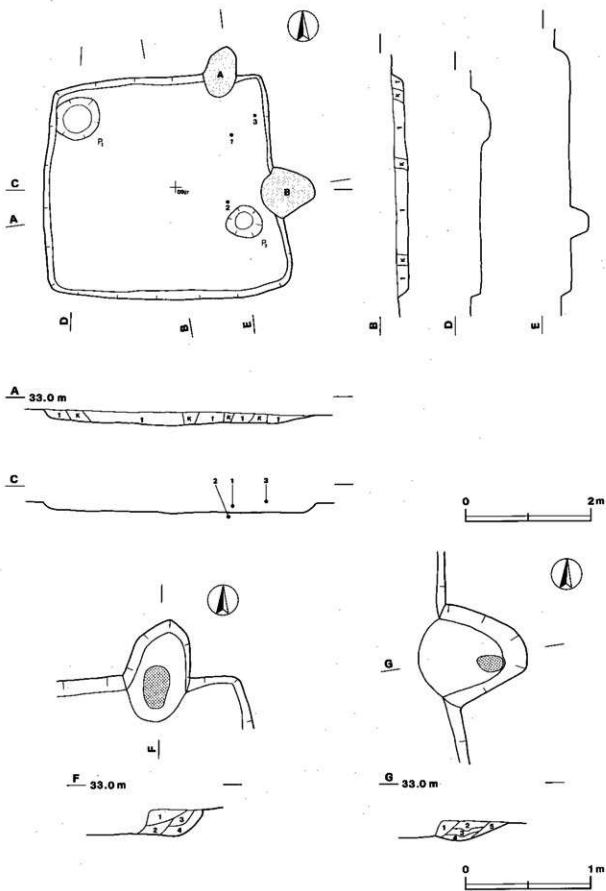
主軸方向 N-3°-W

壁 壁高は10-18cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦。攪乱されており、遺存状態はよくない。床の踏み固められた部分は捉えられなかった。

ピット 2か所(P₁・P₂)。P₁・P₂は長径65-70cm, 短径51-66cmの不整形円形, 深さ15-29cmで性格等は不明である。

竈 2基検出されている。竈Aは、北壁中央部から東よりを壁外に45cmほど掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。竈の遺存状態は悪く、煙道部のみが検出された。天井部・両袖部とも遺存していない。規模は、焚口部から煙道部まで長さ82cm, 最大幅52cmである。火床部は、床面とほとんど同じレベルの平坦面を使用しており、わずかに焼けて赤変している。煙道部は、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。



第171图 第80号住居跡実測图

■竈A土層解説

- 1 ぶい赤褐色 焼土・粘土粒子中量、ローム小ブロック少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土・ローム小ブロック少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、焼土・炭化粒子微量

竈Bは、東壁中央部からやや南よりを壁外に59cmほど掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。規模は長さ87cm、最大幅83cmである。竈A同様遺存状態は悪く、天井部・両袖部とも遺存していない。火床部は、床面と同じレベルの平坦面を使用しており、わずかに焼けて赤変している。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

■竈B土層解説

- 1 灰褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子微量

■覆土 耕作による攪乱を受けているが、1層からなる自然堆積である。

■土層解説

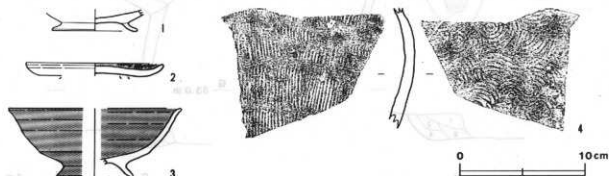
- 1 暗褐色 ローム中ブロック中量、ローム粒子少量

■遺物 土師器片105点、須恵器片11点、鉄滓80gが出土している。遺構全体に攪乱を受けているため破片が多く、遺物の遺存状態は悪い。第172図1土師器高台付皿は北東部の覆土中層から、2の土師器高台付皿は東部の床面直上から、3の土師器椀は東壁際北部の覆土上層からそれぞれ出土している。4は、本跡から出土した須恵器甕の体部片の拓影図で、外面に縦方向の平行タキ、内面に同心円状の当て具痕が見られる。

■所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（11世紀前半）と思われる。

第80号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
第172図 1	高台付皿	B(1.8)	高台部片。高台は短く外反し、端部は広がる。	底部切り離し後、高台貼り付け。	長石・雲母 ぶい赤褐色	P433 5% 覆土中層	
	土師器	D 6.8 E 0.7			普通		
2	高台付皿	A 10.8	高台部及び口縁部一部欠損。	底部切り離し後、高台貼り付け。内面全体へタキ後、黒色処理。	雲母・スコリア・赤鉄鉱 ぶい褐色	P434 50% 床面	
	土師器	B(1.0)			普通		
3	椀	A(13.7)	高台部から口縁部片。高台は「ハ」の字状に外反する。体部は内彎しなから外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 黒色	P435 25% 覆土上層	
	土師器	B 5.5		内・外面黒色処理。	普通		
		D(6.0)					
		E 1.1					



第172図 第80号住居跡出土遺物実測図

第81号住居跡 (第173図)

位置 調査区の南部, E8g区。

規模と平面形 長軸3.27m, 短軸(2.54)mの〔方形〕と思われる。

主軸方向 N-7°-W

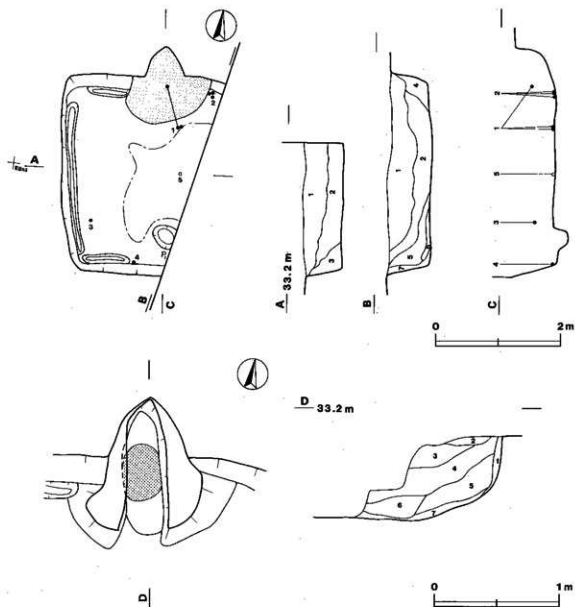
壁 壁高は40-74cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には, 西壁と北壁及び南壁の西側に壁溝が検出された。

床 平坦で, 中央部は踏み固められている。

ピット 1か所 (P₁)。P₁は長径(35)cm, 短径(36)cmの不整楕円形, 深さ24cmで, 配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部を壁外に50cmほど三角形に掘り込み, 砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 焚口部から煙道部までの長さ110cm, 最大幅130cmである。火床部は, 床面をわずかに掘り窪めている。煙道部は, 火床面からはほぼ垂直に立ち上がっている。



第173図 第81号住居跡実測図

覆土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土・粘土粒子少量
- 4 暗赤褐色 粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化・粘土粒子少量
- 7 暗暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量

覆土 7層からなる自然堆積である。

土層解説

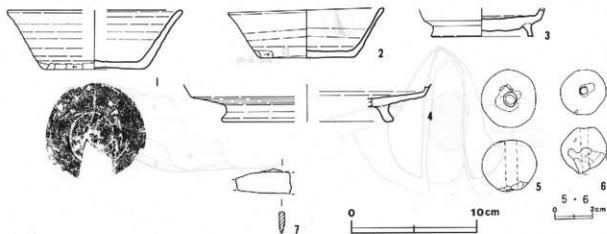
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量

遺物 土師器片63点、須恵器片28点、土製品2点、鉄製品1点の他、鉄滓が少量出土している。第174図1の須恵器坏は、窠内の覆土中層と窠前面の床面直上から出土したものが接合した。2の須恵器坏は窠右袖部外側の床面直上から、3の須恵器高台付坏は西南部の覆土中層から、4の須恵器盤は南壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。5の土玉は中央部の床面直上から、6の土玉と7の鉄録は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀後葉と思われる。

第81号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法表(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第174図 1	須恵器 坏	A (14.0)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部ヘラ切り後、ナデ。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P436 55% 床面・覆土中層
		B 4.7				
		C 8.0				
2	須恵器 坏	A 12.6	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母・シリカ 淡黄色 普通	P437 66% 床面
		B 3.9				
		C 7.6				
3	高台付坏 須恵器	B (2.3)	高台部片。高台は短く「ハ」の字状に開く。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英・針状鉱物 灰色 普通	P438 30% 覆土中層
		D 8.2				
		E 1.0				
4	盤 須恵器	B (3.0)	高台部片。高台は短く、外反しながら「ハ」の字状に開く。	底部切り直し後、高台貼り付け。	長石・石英・針状鉱物 ネリープ色 普通	P439 15% 覆土下層
		D (13.6)				
		E 1.3				



第174図 第81号住居跡出土遺物実測図

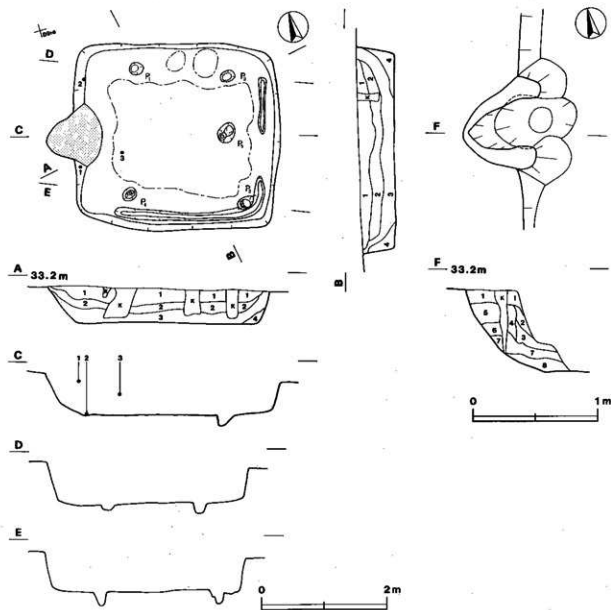
図版番号	器種	計測値				出土地点	備考	
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第174図5	土玉	2.9	2.7	0.6	24.8	床面	D P120	P L36
6	土玉	2.5	2.5	0.4	12.9	覆土中	D P121	P L36

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
7	鉄釵	(4.5)	1.8	0.5	(9.1)	覆土中	M70	

第82号住居跡(第175図)

位置 調査区の東部, D9h区。

規模と平面形 長軸3.24m, 短軸3.0mの方形である。



第175図 第82号住居跡実測図

主軸方向 N-68°-W

壁 壁高は42~64cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南壁と東壁の一部から検出した。上幅15cm、下幅6cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。また、北壁際の2か所にも硬化面が検出された。

ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁~P₄は長径23~29cm、短径17~20cmの不整楕円形、深さ10~24cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P₅は長径34cm、短径25cmの不整楕円形、深さ17cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 西壁中央部のやや南側を壁外に45cmほど三角形に掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さ90cm、最大幅103cmである。火床部は、床面をわずかに掘り窪めている。煙道部は火床面から緩やかに外傾し、中位からは急に立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗褐色 炭化・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 砂粒中量、焼土・炭化・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 砂粒中量、ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 砂粒多量、焼土小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 砂粒中量、ローム粒子中量、焼土・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化粒子微量
- 7 暗赤褐色 焼土・ローム粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒中量、焼土小ブロック少量

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

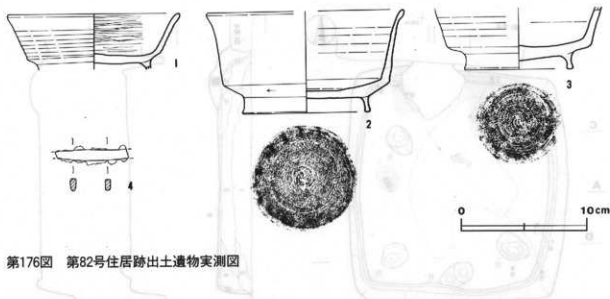
遺物 土師器片239点、須恵器片56点の他、鉄製品が出土している。第176図1の土師器高台付坏は竈左袖部付近の覆土上層から正位の状態で、2の須恵器高台付坏は西壁際北部の床面直上から、3の須恵器高台付坏は西部の覆土中層からそれぞれ出土している。4の刀子は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代(9世紀前葉)と思われる。

第82号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第176図 1	高台付坏 土師器	A 13.7	高台部一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾し、口縁部に歪る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。内面全体へタ磨き。体部外面に強いロクロ目。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P440 90% 覆土上層
		B (4.0)				
		E (0.5)				
2	高台付坏 須恵器	A (15.7)	高台部から口縁部片。高台は短く真下に伸びる。体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面に強いロクロ目。底部回転へタ磨り後、高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P441 65% 床面
		B 8.3				
		D 10.2				
		E 1.3				
3	高台付坏 須恵器	B (5.0)	高台部から体部片。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へタ磨り後、高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P442 50% 覆土中層
		D 8.6				
		E 1.5				

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
4	刀子	(5.9)	0.9	0.5	(7.4)	覆土中	M71



第176図 第82号住居跡出土遺物実測図

第83号住居跡 (第177図)

位置 調査区の東部, D9h7区。

重複関係 本跡は, 北部を第84号住居跡に掘り込まれていることから, 第84号住居跡よりも古い。

規模と平面形 長軸3.73m, 短軸3.52mの方形である。

主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は50-64cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅30cm, 下幅7cm, 深さ5cmで, 断面形はU字形である。

床 平坦で, 中央部は踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は, 長径40~55cm, 短径35~37cmの不整楕円形, 深さ49~67cmで, 配儀や規模から主柱穴と思われる。P5は長径60cm, 短径34cmの不整楕円形, 深さ31cmで, 出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部からやや東よりを壁外に掘り込み, 砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 最大幅110cmであるが, 第84号住居跡に掘り込まれているため, 焚き口部から煙道部までの長さは不明である。火床部は, 床面を14cmほど皿状に掘り窪めており, 火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は, 火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

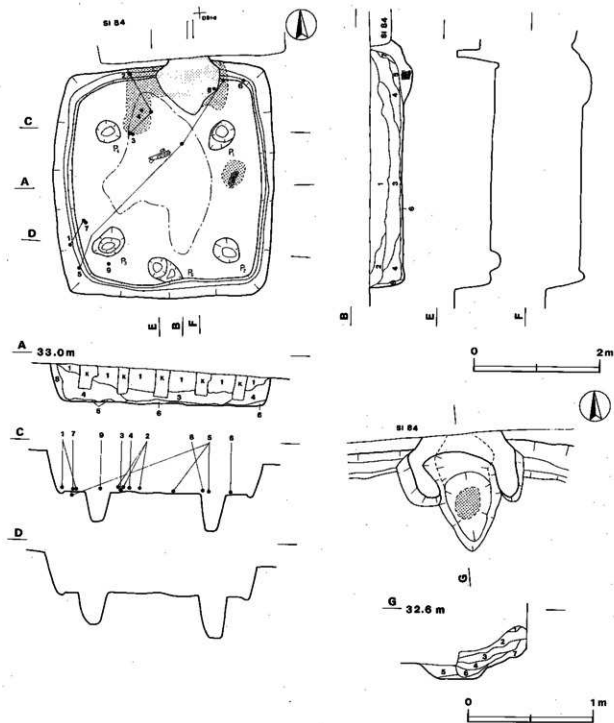
■土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・砂粒少量, 焼土粒子微量
- 2 灰褐色 砂粒多量, 焼土小ブロック少量, ローム粒子微量
- 3 暗褐色 焼土中ブロック中量, 焼土大・小ブロック・焼土・炭化粒子・砂粒少量
- 4 暗褐色 焼土・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 焼土中ブロック・ローム粒子少量, 焼土大ブロック・焼土粒子微量
- 6 暗赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 7 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量

覆土 8層からなる自然堆積である。

■土層解説

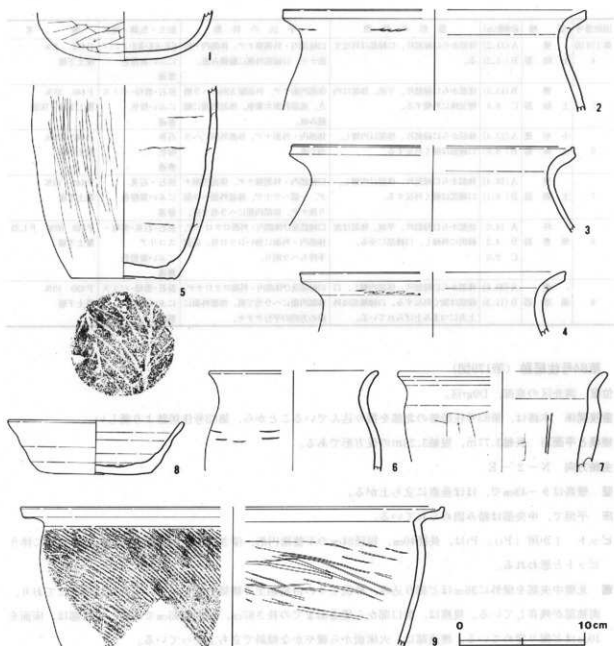
- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子・砂粒少量
- 6 暗褐色 焼土中ブロック少量, ローム粒子微量
- 7 暗褐色 砂粒多量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量



第177図 第83号住居跡実測図

遺物 土師器片126点、須恵器片26点が遺構北部と南西コーナー部を中心に覆土下層から出土している。また、炭化材が2か所床面に貼り付くようにして出土している。第178図1の土師器坏は南西部壁際の覆土下層から、2・3の土師器甕は北部の覆土下層から出土している。4の土師器甕は北部の覆土下層から、5の土師器甕は北部の覆土下層と南西コーナー部壁際の床面直上から出土したものが接合した。6の土師器小形甕は北東コーナー部の覆土下層から、7の土師器甕は南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。8の須恵器坏は竈右袖部付近の覆土下層から、9の須恵器甕は、P₃付近の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀後半と思われる。



第178図 第83号住居跡出土遺物実測図

第83号住居跡出土遺物観察表

図取番号	器種	寸法(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第178図 1	坏 土器	B(3.9)	底部から口縁部片。丸底。体部は内 壁しながら外傾し、口縁部は直立す る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ デ。外面へツ削り。	長石・石英・スコリア にぶい褐色 普通	P443 25% 覆土下層
2	美 土器	A(24.0) B(8.1)	体部から口縁部片。口縁部は緩く外 反する。口縁端部はわずかにつまみ 上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外 面ナデ。口縁部外面に輪襷み痕。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P444 15% 覆土下層
3	美 土器	A(22.2) B(6.9)	体部から口縁部片。口縁部は緩く外 反する。口縁端部はわずかにつまみ 上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外 面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P445 10% 覆土下層

図版番号	器 種	寸法(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第178図 4	甕 土 師 器	A (21.2) B (5.2)	体部から口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。口縁部外面に輪積み痕。	長石・石英・スコリア にぶい黄褐色 普通	P452 5% 覆土下層
5	甕 土 師 器	B (15.5) C 8.4	底部から口縁部片。平底。体部は内彎し、彎角略に外反する。	体部内面ナデ、外面縦方向のヘラ磨き。底部外面木炭痕。体部内面に輪積み痕。	長石・雲母・パミス にぶい褐色 普通	P446 35% 覆土下層・床面
6	小形甕 土 師 器	A (13.4) B (8.0)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。	体部内・外面ナデ。体部外面にヘラ当て痕。	石英 褐色 普通	P447 20% 覆土下層
7	甕 土 師 器	A (16.4) B (8.1)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、一部ヘラナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。体部内面にヘラ当て痕。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P448 15% 覆土下層
8	坏 須 恵 器	A 14.0 B 4.2 C 9.0	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外反し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内・外面に強いロクロ目。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい黄褐色 普通	P449 60% P.L.33 覆土下層
9	甕 須 恵 器	A (33.6) B (11.3)	体部から口縁部片。体部内彎し、口縁部は強く外反する。口縁部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面にヘラ当て痕。体部外面に斜め方向の平行タタキ。	長石・雲母・パミス にぶい黄色 普通	P450 10% 覆土下層

第84号住居跡 (第179図)

位置 調査区の東部、D9g区。

重複関係 本跡は、第83号住居跡の北部を掘り込んでいることから、第83号住居跡より新しい。

規模と平面形 長軸3.77m、短軸3.23mの長方形である。

主軸方向 N-2°-E

壁 壁高は9~43cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 1か所 (P1)。P1は、長径40cm、短径24cmの不整楕円形、深さ22cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部を壁外に36cmほど掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両拍部が残存している。規模は、笑口部から煙道部までの長さ87cm、最大幅95cmである。火床部は、床面に10cmほど掘り窪めている。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

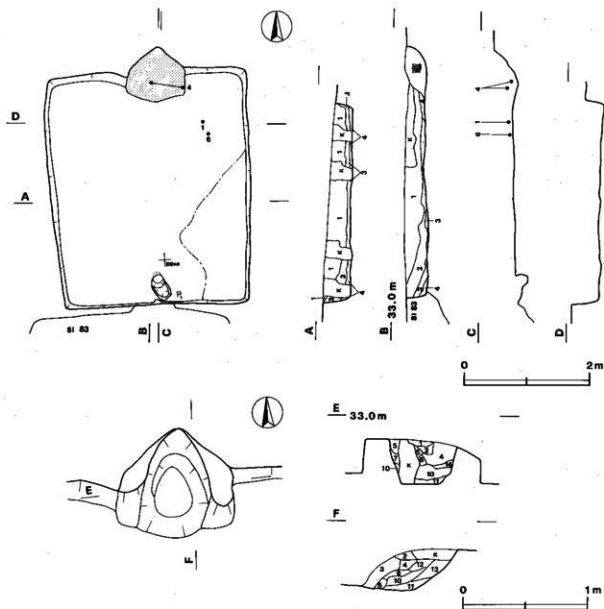
甕土層解説

- 1 褐色 焼土・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 焼土・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子・砂粒少量、焼土小ブロック微量
- 4 暗褐色 砂粒多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土・ローム粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土中・小ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化・ローム粒子・砂粒少量
- 10 暗赤褐色 焼土小ブロック中量、焼土大ブロック・焼土・炭化・ローム粒子少量
- 11 にぶい褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 12 暗赤褐色 砂粒中量、焼土・ローム粒子少量
- 13 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 14 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・砂粒中量、炭化粒子少量

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量



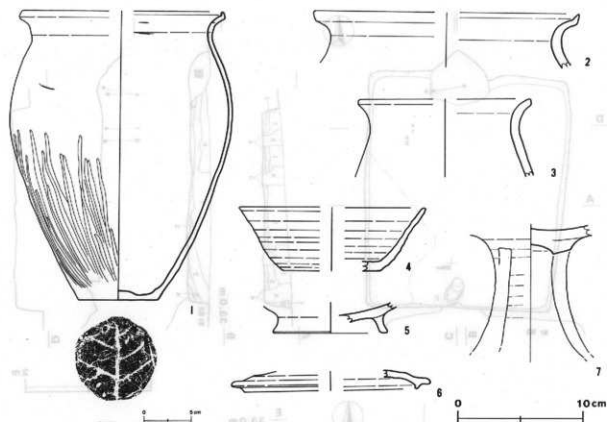
第179図 第84号住居跡実測図

遺物 土師器片126点，須恵器片61点が出土しているが，破片が多い。第180図1の土師器甕と6の須恵器蓋は北東部の覆土下層から，4の須恵器坏は竈内の覆土下層からそれぞれ出土している。2の土師器甕，3の土師器小型甕，5の須恵器高台付坏，7の須恵器高坏は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀末葉と思われる。

第84号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第180図 1	甕 土師器	A (20.6)	底部から口縁部片。平底。体部は内 壁しながら外傾し，口縁部は強く外 反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上 位ナデ，下位壁方向のヘラ書き。底 部外面木葉焼。	長石・石英・スコリア 灰色 普通	P451 50% PL33 覆土下層
		B 31.0 C 8.6				
2	甕 土師器	A (21.2)	口縁部片。口縁部は強く外反する。 口縁端部は外上方につまみ上げられ ている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 に白い褐色 普通	P453 5% 覆土中
		B (4.4)				



第180図 第84号住居跡出土遺物実測図

国取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第180図 3	小形 土師器	A [13.7] B (6.2)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は縦く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	需母・スコリアにぶい赤褐色 普通	P454 5% 覆土中
4	坏 須恵器	A [15.0] B 5.1 C [7.1]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内・外面に強いロクロ目。底部手持ちへう張り。	長石・石英・針状鉱物 灰白色 普通	P455 15% 電覆土下層
5	高台付 須恵器	B (2.5) D 9.0 E 1.4	高台部片。高台は外反しながら「ハ」の字状に開く。	底部切り離し後、高台貼り付け。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P456 5% 覆土中
6	蓋 須恵器	A [16.0] B (1.6)	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し、口縁部に至る。口縁部内側に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P457 5% 覆土下層
7	高坏 須恵器	B [10.7]	脚部片。脚部はラッパ状に開き、三方に遺かしが入る。	脚部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P458 15% P.L.33 覆土中

第85号住居跡 (第181図)

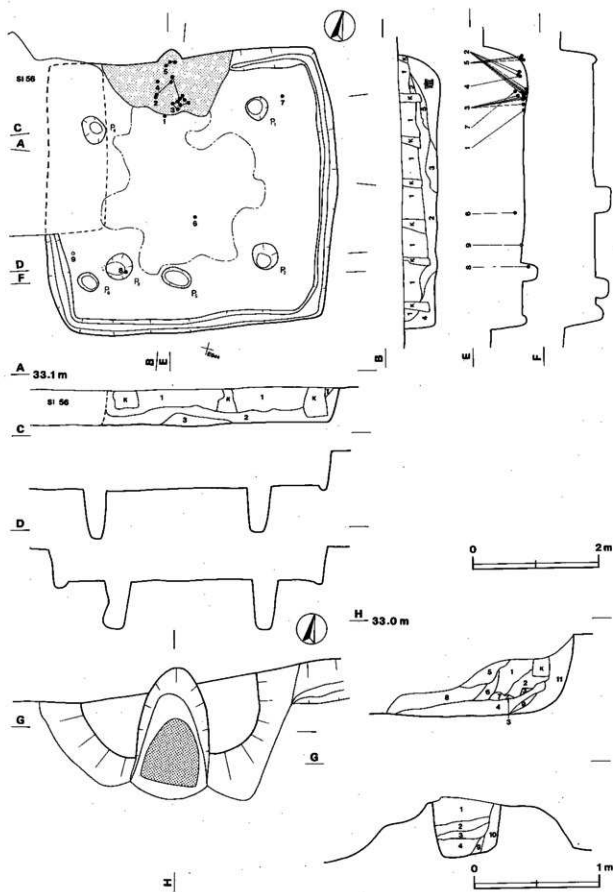
位置 調査区の東部、E9ca区。

重複関係 本跡は、西部を第56号住居跡に掘り込まれていることから、第56号住居跡よりも古い。

規模と平面形 長軸4.52m、短軸4.20mの方形である。

主軸方向 N-13°-W

壁 壁高は51-60cmで、外傾して立ち上がる。



第181图 第85号住居跡実測图

壁溝 確認された壁下には、第56号住居跡に掘り込まれている部分を除いて壁溝が回っている。上幅22cm、下幅9cm、深さ9cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、竜前前から中央部にかけて踏み固められている。

ピット 6か所 (P1-P6)。P1-P4は、長径35-45cm、短径34-39cmの不整楕円形、深さ71-80cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P5は長径48cm、短径30cmの不整楕円形、深さ25cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。P6は長径34cm、短径27cmの不整楕円形、深さ20cmで、性格は不明である。

竈 北壁中央部を壁外に15cmほど半円状に掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、笑口部から煙道部までの長さ104cm、最大幅210cmである。火床部は、床面を6cmほど掘り窪めている。煙道部は、火床面から急に立ち上がっている。

覆土層解説

- 1 灰褐色 粘土粒子多量、ローム中・小ブロック少量
- 2 にぶい赤褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量
- 3 にぶい赤褐色 流土中ブロック・焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化物少量
- 4 暗赤褐色 流土粒子多量、流土中・小ブロック中量、炭化粒子少量
- 5 灰褐色 粘土粒子多量、ローム小ブロック少量
- 6 にぶい赤褐色 粘土粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 8 灰褐色 粘土粒子多量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック少量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子多量、粘土粒子中量、炭化物・ローム粒子微量
- 10 暗赤褐色 焼土・粘土粒子多量、ローム粒子少量
- 11 赤褐色 ローム粒中量、粘土粒子少量、焼土粒子微量

覆土 各層ともロームブロックを多く含み、また不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。3・5層は竈材あるいは竈の覆土の流出物と思われる。

土層解説

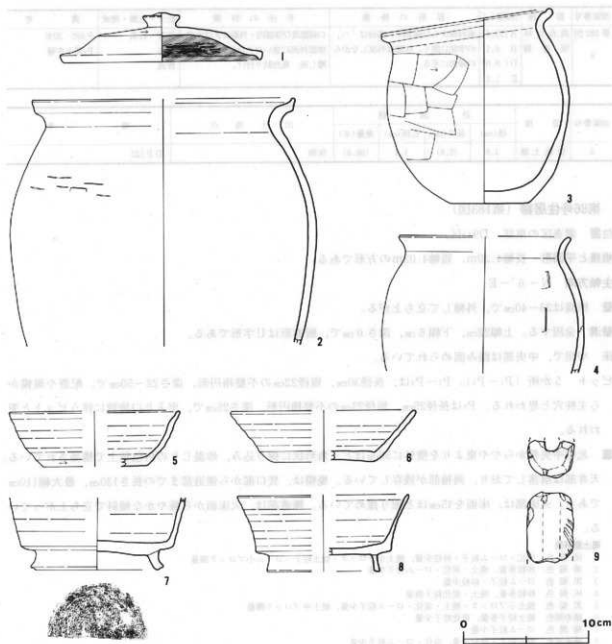
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化材・炭化粒子・ローム中ブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒中量、焼土・炭化粒子少量
- 3 灰褐色 ローム・粘土粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 4 灰褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土・炭化粒子少量
- 5 灰褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片138点、須恵器片45点、土製品1点、鉄滓360gが出土している。特に、竈内から多く出土している点が特徴的である。第182図1の土師器蓋は竈前面の床面直上から正位の状態で、2の土師器壺・3と4の土師器小形壺・5の須恵器環はいずれも竈内の覆土下層から出土している。6の須恵器環は中央部の覆土下層から、7の須恵器高台付杯は北東コーナー部の覆土下層から、8須恵器高台付杯はP5の覆土中から、9の管状土罐は南西部の床面直上からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀末葉と思われる。

第85号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第182図 1	土師器	A 16.2	口縁部一部欠損。天井部中央に脚室	天井部及び口縁部内・外面口クロシ ア。天井部外面上位部へラ削り。 内面全体へラ磨き後、黒色処理。	長石・石英・スコリア にぶい黄褐色 普通	P459 95% P.L33 床面
		B 4.0	球状のつまみが付く。天井部は笠形			
		F 3.0 G 1.1	状を呈し外面中に段を持つ。口縁部は水平方向に伸び、口縁端部は短く折り返されている。			
2	土師器	A (21.0)	体部から口縁部片。体部は内厚し、	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面上位にへラ削り後、	長石・石英・雲母・スコリア 褐色 普通	P460 25% 覆土下層
		B (19.8)	口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。			
3	小形土師器	A 13.5	口縁部一部欠損。平底。体部は内厚し	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ デ、外面へラ削り後ナデ。	長石・石英・スコリア 褐色 普通	P461 85% P.L33 覆土下層
		B 15.7	しながら外傾し、口縁部は強く外反			
		C 6.2	する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。			



第182図 第85号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第182図 4	小形土師器	A(13.6)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面にヘラ刮て直。	長石・石英・雲母 明赤褐色	P462 15% 電覆土下層
		B(10.9)			普通	
5	坏須恵器	A(13.4)	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア	P463 10% 電覆土下層
		B 4.4			灰白色	
		C[8.2]			良好	
6	坏須恵器	A(14.6)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端回転ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア	P464 10% 覆土中層
		B 4.1			灰黄色	
		C[8.0]			普通	
7	高台付坏須恵器	B 6.1	高台部から体部片。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英	P466 20% 覆土下層
		D 9.0			灰色	
		E 1.3			普通	

図取番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第182図 8	高台付環	A 13.6	高台部から口縁部片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は外反しながら口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部切り離し後、高台貼り付け。	灰石・石英 灰色 普通	P465 20% P3覆土中層
	須恵器	B 6.1				
		D(9.0)				
		E 1.3				

図取番号	器 種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
9	管状土鉢	3.8	(5.6)	1.4	(66.8)	床面	D P122

第86号住居跡(第183図)

位置 調査区の東部、D9is区。

規模と平面形 長軸4.20m、短軸4.02mの方形である。

主軸方向 N-6°-E

壁 壁高は23~40cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅22cm、下幅6cm、深さ6cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は、長径30cm、短径22cmの不整楕円形、深さ22~50cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P5は長径25cm、短径23cmの不整楕円形、深さ25cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

甕 北壁中央部からやや東よりを壁外に53cmほど三角形に掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さ130cm、最大幅110cmである。火床部は、床面を15cmほど掘り窪めている。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

甕土層解説

- 1 暗褐色 炭化・ローム粒子・砂粒少量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 砂粒多量、焼土・炭化・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・砂粒少量
- 4 灰褐色 砂粒多量、焼土・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子少量、焼土中ブロック微量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒中量、炭化・ローム粒子少量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 10 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量
- 11 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子微量

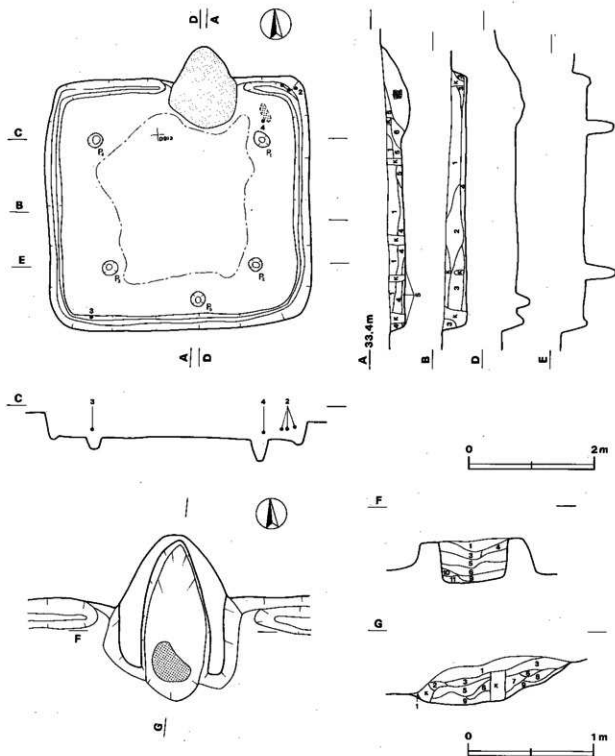
覆土 各層ともロームブロック等を含んでおり、また不規則な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土中ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 炭化・ローム粒子・砂粒少量、焼土中ブロック・焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量
- 6 灰褐色 砂粒多量、焼土・炭化・ローム粒子少量、焼土中ブロック微量

遺物 土師器片316点、須恵器片7点が甕付近と南西コーナー部を中心に出土しているが、ほとんどが破片である。第184図1の土師器甕は、覆土中から出土している。2の土師器甕は北東コーナー壁際の覆土中層から、3の土師器甕は南西コーナー壁際の覆土中層から、4の須恵器環は北東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

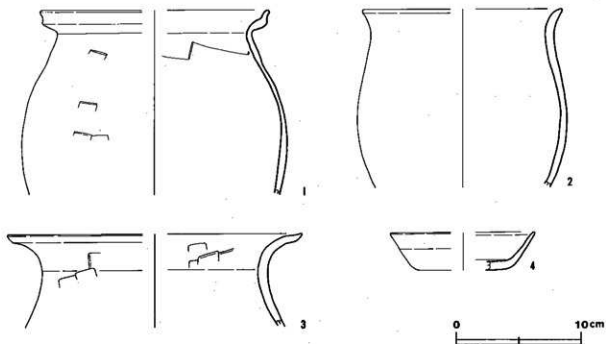
所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀後半と思われる。



第183図 第86号住居跡実測図

第86号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第184図 1	甕 土師器	A (18.2) B (14.8)	体部から口縁部片。体部は内舞し。 口縁部は強く外反する。口縁端部は 外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナア。体部内・外 面ナア、一部ヘラナア。体部内・外 面にヘラ当て痕。	長石・石灰 褐色 普通	P467 20% 覆土中層



第184図 第86号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第184図 2	甕 土師器	A(16.0) B(14.2)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英にふい黄褐色 普通	P468 20% 覆土中層
3	甕 土師器	A(23.4) B(7.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ、一部ヘラナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母にふい褐色 普通	P469 5% 覆土中層
4	坏 須恵器	A(11.4) B 3.0 C(7.6)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外彎し、口縁部に至る。口縁部の器肉は薄い。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。	長石 灰黄色 普通	P470 10% 覆土下層

第87号住居跡（第185図）

位置 調査区の東部、D9f3区。

規模と平面形 長軸5.46m、短軸5.44mの方形である。

主軸方向 N-6°-E

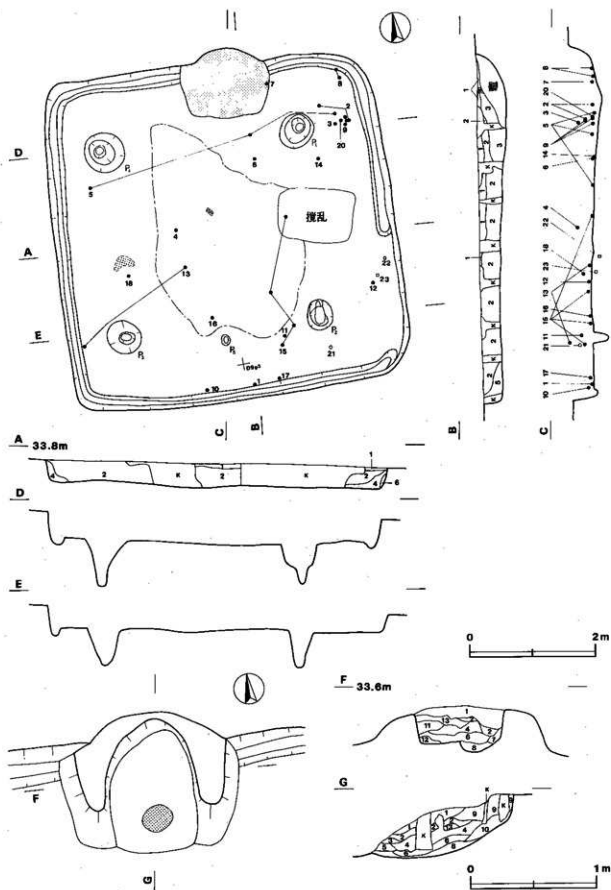
壁 壁高は25~43cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には、東壁南部を除いて壁溝が回っている。上幅26cm、下幅11cm、深さ11cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は、長径49~66cm、短径40~63cmの不整楕円形、深さ58~80cmで、配置や規模から支柱穴と思われる。P5は長径17cm、短径14cmの不整楕円形、深さ26cmで、性格は不明である。

竈 北壁ほぼ中央部を壁外に22cmほど掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されているが、他の住居跡の竈に比べて壁外への掘り込みが少ないのが特徴である。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、笑口部から煙道部までの長さ112cm、最大幅142cmである。火床部は、床面をわずかに掘り窪めている。煙道部は、火床面から急に立ち上がっている。



第185图 第87号住居跡実測图

覆土層解説

- 1 暗褐色 砂粒多量, 焼土・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 褐色 砂粒多量, 焼土大・小ブロック・焼土粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・砂粒多量, 焼土粒子中量, 焼土中ブロック・炭化・ローム粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム中・小ブロック少量
- 7 褐色 砂粒多量, 焼土粒子少量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 9 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量, 焼土粒子微量
- 10 暗褐色 砂粒中量, 焼土・炭化粒子少量
- 11 暗褐色 焼土粒子・砂粒少量, 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 12 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物微量
- 13 暗赤褐色 砂粒中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化・ローム粒子微量

覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

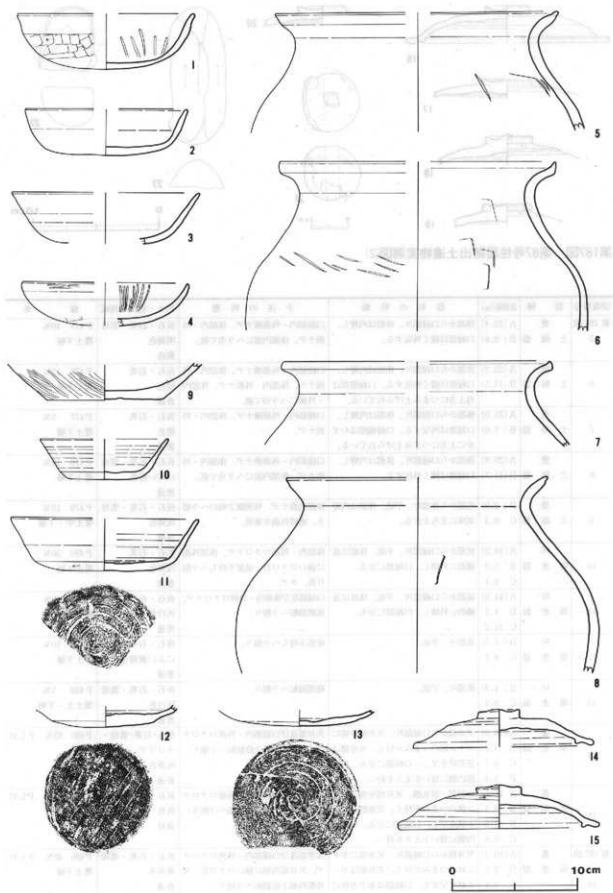
- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土・炭化粒子少量
- 3 褐色 砂粒中量, 焼土小ブロック・焼土・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土・炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量

遺物 土師器片430点, 須恵器片63点, 土製品1点, 石製品2点, 鉄滓100gが出土している。遺構全体に散在した状態で出土しているが, 特に, 須恵器蓋が多数出土している。第186図1の土師器坯は南壁際の床面直上から, 2の土師器坯は北東コーナー部の覆土中層と覆土下層から出土したものが接合し, 3の土師器坯も北東コーナー部の覆土中層から出土している。4の土師器坯は中央部の覆土中層から, 5の土師器坯は北東部と北西部の覆土下層から出土したものが接合している。6の土師器坯は北部の覆土下層から, 7の土師器坯は竈石袖部付近の覆土下層から, 8の土師器坯は北東コーナー部の覆土下層, 9の土師器坯は北東部の覆土中層と覆土下層から出土したものが接合している。10の須恵器坯は南部壁際の覆土下層から, 11の須恵器坯は南部の覆土中層から, 12の須恵器坯は南東部の覆土下層からそれぞれ出土している。13の須恵器坯は中央部の覆土下層と西壁際の覆土上層から出土したものが接合した。14の須恵器蓋はP1付近の床面直上から, 15の須恵器蓋は中央部と南部の覆土下層から, 16の須恵器蓋は南部の覆土下層から, 17の須恵器蓋は南壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。18の須恵器蓋は西部の覆土下層から, 19の須恵器蓋は覆土中から, 20の須恵器蓋は北東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。21の土玉はP2付近の覆土中層から, 22・23の砥石は南東部の床面直上からそれぞれ出土している。

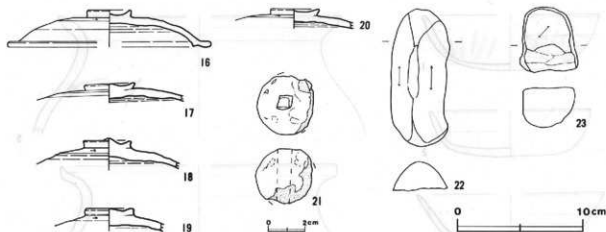
所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。

第87号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徵	手法の特徵	胎土・色調・焼成	備考
第186図 1	坯	A(14.0)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎しながら外傾し, 口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へタ削り後ナデ。体部・底部内面に暗文。	石英・スコリア・燻褐色	P471 45% 床面
	土師器	B 4.5			普通	
2	坯	A(12.8)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎気味に外傾する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	雲母 橙黄色	P472 40% 覆土中・下層
	土師器	B 3.8			良好	
3	坯	A(15.0)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し, 口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちへタ削り。	長石・石英・雲母 浅黄色	P473 10% 覆土中層
	須恵器	B(4.1)			普通	
4	坯	A(13.2)	底部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面に暗文。	長石・スコリア 橙黄色	P474 20% 覆土中層
	土師器	B(3.4)			普通	



第186図 第87号住居跡出土遺物実測図(1)



第187図 第87号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼域	備考
第186図 5	甕 土師器	A(22.4) B(9.6)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 明褐色 普通	P475 10% 覆土下層
6	甕 土師器	A(22.2) B(13.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は緩く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内・外面ナデ。体部内・外面にヘラ当て痕。	長石・石英 褐色 普通	P476 15% 覆土下層
7	甕 土師器	A(21.0) B(7.0)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は外反する。口縁端部はわずかに上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英 褐色 普通	P477 5% 覆土下層
8	甕 土師器	A(20.8) B(15.7)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P478 10% 覆土下層
9	甕 土師器	B(2.9) C 9.3	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内面ナデ、外面縦方向のヘラ置き。底部外面木炭痕。	長石・石英・赤母 灰褐色 普通	P479 10% 覆土中・下層
10	坏 須恵器	A(10.2) B 5.0 C 5.4	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部手持ちヘラ削り後、ナデ。	長石・石英 浅黄色 普通	P480 30% 覆土下層
11	坏 須恵器	A(14.8) B 4.2 C 11.2	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P481 20% 覆土中層
12	坏 須恵器	B(1.7) C 8.2	底部片。平底。	底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 にふい黄褐色 普通	P482 10% 覆土下層
13	坏 須恵器	B(1.3) C 9.0	底部片。平底。	底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P483 5% 覆土上・下層
14	蓋 須恵器	A(14.6) B 3.0 G 0.7 F 3.4	天井部から口縁部片。天井部中央にボタン状のつまみが付く。天井部は笠形状を呈し、口縁部に至る。口縁部内面に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母・ スコリア 灰黄色 普通	P485 65% P.L33 床面
15	蓋 須恵器	A 16.1 B 3.5 F 3.6 G 0.8	口縁部一部欠損。天井部中央にボタン状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し、口縁部に至る。口縁部内面に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰色 良好	P484 70% P.L33 覆土下層
第187図 16	蓋 須恵器	A(16.2) B 3.0 F 3.4 G 0.6	天井部から口縁部片。天井部にボタン状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈する。口縁部は水平方向に伸び、口縁部内面に短いかえりを持つ。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面に強いロクロ目。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P486 40% P.L33 覆土下層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第187図 17	蓋	B(1.6)	天井部片。ボタン状のつまみが付く。 天井部はドーム状を呈する。	天井部内・外面ロクロナデ。天井部 外面上位回転ヘラ削り。	粘土・石英・雲母 灰白色 良好	P487 30% 覆土下層
	須恵器	F 4.1 G 0.5				
	蓋	B(2.5) F 3.9 G 0.8				
18	蓋	B(1.8)	天井部片。ボタン状のつまみが付く。 天井部はドーム状を呈する。	天井部内・外面ロクロナデ。天井部 外面上位回転ヘラ削り。	粘土・石英・雲母 灰青リブ色 普通	P488 15% 覆土下層
	須恵器	F 3.9 G 0.5				
	蓋	B(1.8) F 3.9 G 0.5				
19	蓋	B(1.6)	天井部片。ボタン状のつまみが付く。 天井部はドーム状を呈する。	天井部内・外面ロクロナデ。天井部 外面上位回転ヘラ削り。	粘土・石英・雲母 灰白色 普通	P489 15% 覆土中層
	須恵器	F 3.9 G 0.5				
	蓋	B(1.6) F 3.9 G 0.5				
20	蓋	B(1.6)	天井部片。ボタン状のつまみが付く。 天井部はドーム状を呈する。	天井部内・外面ロクロナデ。天井部 外面上位回転ヘラ削り。	粘土・石英・雲母 灰白色 普通	P490 10% 覆土下層
	須恵器	F 3.9 G 0.5				
	蓋	B(1.6) F 3.9 G 0.5				

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考	
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
21	土玉	3.1	2.9	0.7	23.2	覆土中層	DP123	PL36

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
22	紙石	11.2	4.6	2.3	147.8	凝灰岩	床面	Q33	
23	紙石	5.3	4.6	3.2	99.0	凝灰岩	床面	Q34	

第88号住居跡(第188図)

位置 調査区の東部, D8go区。

規模と平面形 長軸4.57m, 短軸4.18mの方形である。

主軸方向 N-9°-E

壁 壁高は14~39cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅19cm, 下幅8cm, 深さ8cmで, 断面形はU字形である。

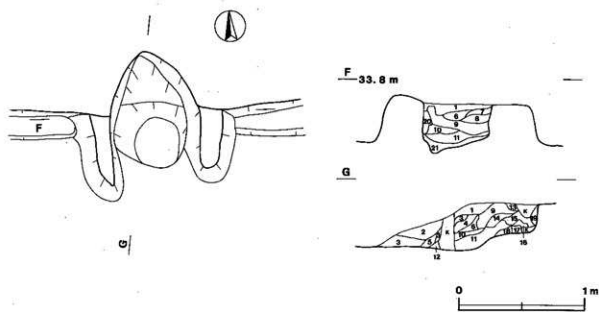
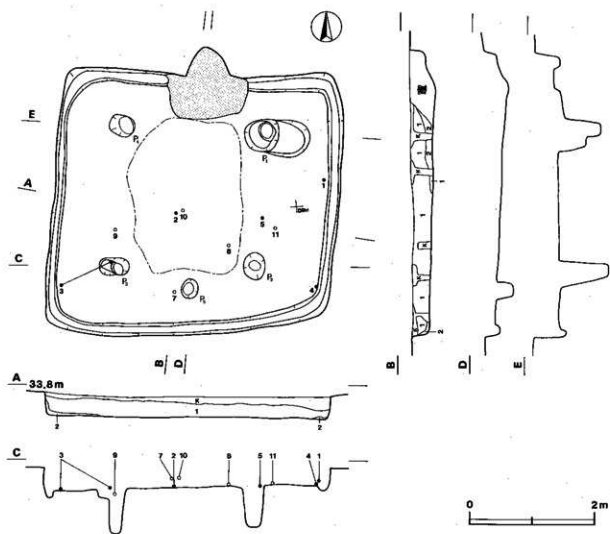
床 平坦で, 中央部は踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は, 長径105cm, 短径41cmの不整楕円形, 深さ62~76cmで, 配置や規模から主柱穴と思われる。P5は長径30cm, 短径25cmの不整楕円形, 深さ26cmで, 出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部を壁外に50cmほど三角形に掘り込み, 砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 焚口部から煙道部までの長さ92cm, 最大幅130cmである。火床部は, 床面をわずかに掘り窪めている。煙道部は火床面から緩やかに外傾し, 中位からはほぼ垂直に立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 褐色 炭化・ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 砂粒多量, 焼土・炭化粒子微量
- 4 褐色 砂粒中量, 焼土・炭化粒子微量
- 5 褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・砂粒少量, 炭化・ローム粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 7 褐色 砂粒中量, 焼土・炭化粒子微量
- 8 褐色 砂粒中量, 焼土・炭化・ローム粒子微量
- 9 褐色 砂粒多量, 焼土・炭化粒子微量
- 10 褐色 焼土・炭化・ローム粒子微量
- 11 暗褐色 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量
- 12 暗褐色 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量



第188图 第88号住居跡実測图

- 13 褐色 焼土粒子中量、焼土中ブロック・炭化・ローム粒子少量
 14 褐色 砂粒多量、焼土・炭化・ローム粒子微量
 15 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化・ローム粒子少量
 16 褐色 ローム粒子多量
 17 暗褐色 焼土・ローム粒子微量
 18 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
 19 褐色 砂粒多量、炭化・ローム粒子微量
 20 赤褐色 砂粒多量、焼土粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
 21 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量、ローム小ブロック微量

美濃陶器土出層別分析結果

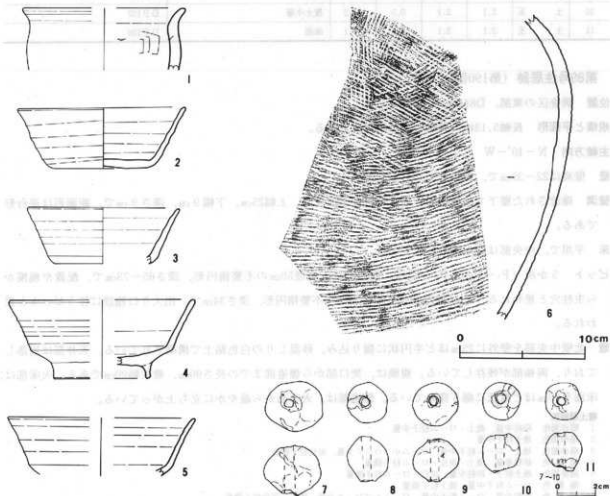
覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土・炭化粒子微量
 2 褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化粒子微量

遺物 土師器片94点、須恵器片78点、土製品5点等が出土している。第189図1の土師器小形甕は東壁際の覆土下層から、2の須恵器坏は中央部の床面直上から正位の状態で、3の須恵器坏はP₃上の覆土下層と南西部壁際の床面直上から出土したものが接合した。4の須恵器高台付坏は南東部壁際の床面直上から、5の須恵器高台付坏は東部の床面直上からそれぞれ出土している。6は、本跡から出土した須恵器甕の体部片の拓影図で、外面上位に縦あるいは斜め、中位から下位にかけては横方向のタタキが施されている。7の土玉はP₃付近の覆土中層から、8の土玉はP₃付近の床面直上から、9の土玉は西部の床面直上からそれぞれ出土している。10の土玉は中央部の覆土中層から、11の土玉は東部の床面直上から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と思われる。



第189図 第88号住居跡出土遺物実測図

第88号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第189図 1	小形土師器	A(3.0) B(4.9)	体部から口縁部片。体部は内傾し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面滑ナデ。体部内面ナデ、一部ヘラナデ。体部外面ナデ。体部内面に輪模み痕。	長石・石英・雲母 に濃い褐色 普通	P491 15% 覆土下層
2	坏須恵器	A 13.4 B 4.9 C 7.9	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部ヘラ切り後、ナデ。底部周縁ナデ。	長石・石英・針状炭素 灰色 普通	P492 85% P.L.33 床面
3	坏須恵器	A 12.0 B 4.5 C 7.6	体部片。体部は直線的に外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P493 35% P.L.33 覆土下層・床面
4	高台付坏須恵器	A(4.8) B 6.3 D(7.8) E 1.4	高合部から口縁部片。高台は真下に伸びる。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部切り難し後、高台貼り付け。	長石 灰色 普通	P494 30% P.L.33 床面
5	高台付坏須恵器	A(5.0) B(4.6)	体部片。体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかに外反する。	体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P495 20% 床面

図版番号	器 種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
7	土 玉	3.1	2.7	0.7	19.0	覆土中層	DP124 P.L.36
8	土 玉	2.1	2.4	0.6	10.7	床面	DP125 P.L.36
9	土 玉	2.4	2.3	0.5	10.9	床面	DP126 P.L.36
10	土 玉	2.1	2.1	0.5	8.2	覆土中層	DP127
11	土 玉	2.1	2.1	0.5	7.1	床面	DP128

第89号住居跡 (第190図)

位置 調査区の東部、D8t区。

規模と平面形 長軸5.13m、短軸5.05mの方形である。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は22~39cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下では西壁の一部を除いて全周する。上幅25cm、下幅9cm、深さ9cmで、断面形は逆台形である。

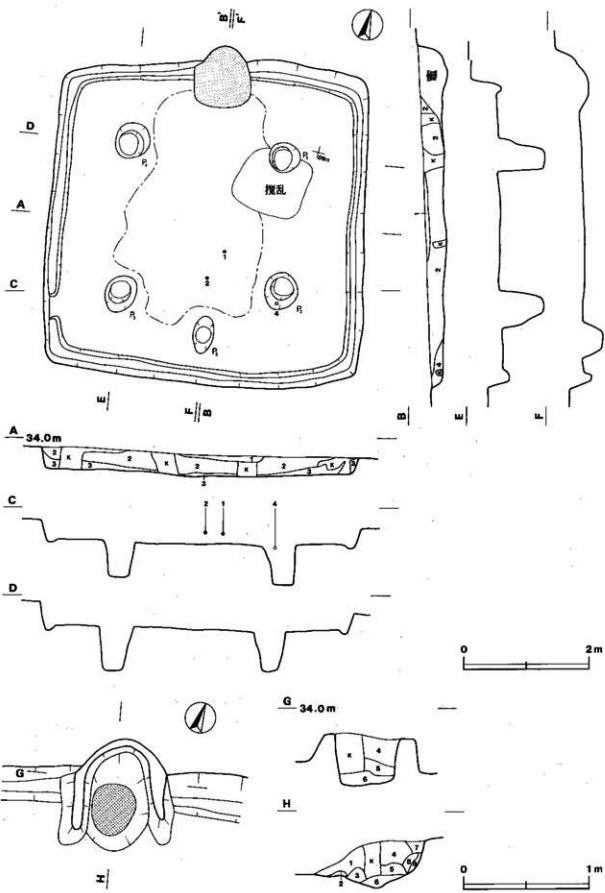
床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は、長径60cm、短径50cmの不整楕円形、深さ65~73cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P5は長径60cm、短径34cmの不整楕円形、深さ34cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

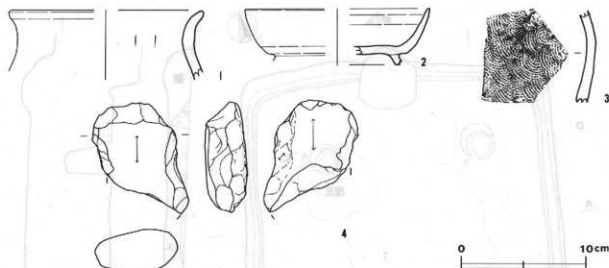
竈 北壁中央部を壁外に25cmほど半円状に掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、突口部から煙道部までの長さ90cm、最大幅90cmである。火床部は、床面を10cmほど皿状に掘り窪めている。煙道部は、火床面から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 砂粒中量、焼土・ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量
- 3 暗赤褐色 焼土・ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 砂粒多量、焼土・炭化・ローム粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子・砂粒少量、炭化・ローム粒子微量
- 6 暗 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 7 暗 褐色 砂粒少量、ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子微量
- 8 暗 褐色 ローム小ブロック・砂粒少量、焼土・炭化・ローム粒子微量
- 9 暗 褐色 焼土・炭化・ローム粒子微量



第190图 第89号住居跡実測图



第191図 第89号住居跡出土遺物実測図

第89号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第191図 1	土師器 甕	A [15.2]	体部から口縁部片。体部は内増し、 口縁部は縁く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内部内・外 面ナデ。	長石 にぶい黄褐色 普通	P496 5% 覆土中層
		B (5.6)				
2	高台付環 須恵器	A [14.8]	高台部から口縁部片。高台は短く 「ハ」の字状に開く。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 底部回転へつ削り後、高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P497 10% 覆土中層
		B 4.4				
		E 0.8				

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
4	砥石	(8.9)	7.7	3.5	(262.7)	凝灰岩	覆土下層	Q35

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- 暗褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 褐色 ローム粒子少量、ローム中・小ブロック微量
- 褐色 ローム粒子・砂粒少量、ローム小ブロック微量

遺物 出土遺物は少なく、また破片が多い。土師器片47点、須恵器片4点の他、石製品が1点出土している。

第191図1の土師器甕と2の須恵器高台付環は、ともに南部の覆土中層から出土している。3は、本跡から出土した須恵器甕の体部片の拓影図で、外面に同心円状のタキが施されている。4の砥石は、P₂上の覆土下層から出土している。

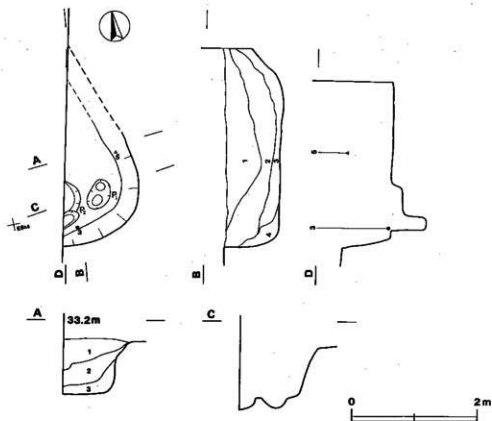
所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。

第90号住居跡 (第192図)

位置 調査区の東部、E8g区。

規模と平面形 長軸 (2.08) m、短軸 (1.45) mであるが、南東部の一部を残しほとんどが調査区外のため、平面形は不明である。

主軸方向 N-31°-W



第192図 第90号住居跡実測図

壁 壁高は79cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。東壁の北部は覆乱のため、検出できなかった。

床 平坦であるが、踏み固めた部分は見られない。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1・P2は、長径50~76cm、短径(25)~33cmの不整形円形、深さ16~(20)cmで性格は不明である。

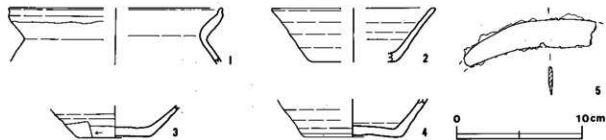
覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量

遺物 土師器片126点、須恵器片107点の他、鉄滓が少量出土している。第193図1の土師器寛・2の須恵器坏・4の須恵器坏はともに覆土中から出土している。3の須恵器坏は南壁際の覆土下層から、5の鉄鎌は東壁際の覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代(9世紀中葉)と思われる。



第193図 第90号住居跡出土遺物実測図

第90号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第193国 1	甕 土 罎 器	A (17.0)	体部から口縁部片。体部は内傾し、口縁部は緩く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外側ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P498 5% 覆土中
		B (4.5)				
2	坏 須 恵 器	A (13.0)	体部片。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面に強いロクロ目。	長石・雲母 灰黄褐色 普通	P499 10% 覆土中
		B 4.2				
		C (6.8)				
3	坏 須 恵 器	B (2.5)	底部から体部片。平底。体部は内傾し、外側に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・スコリア にぶい黄褐色 普通	P500 20% 覆土下層 酸化腐蝕成
		C 5.8				
4	坏 須 恵 器	B (3.0)	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。底部ヘラ削り後ナデ。底部周縁ナデ。	長石・石英・雲母 浅黄色 普通	P501 10% 覆土中
		C 7.6				

図版番号	器種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
5	鉄 鎌	10.8	2.2	0.3	21.5	覆土上層	M72 P.L40

第91号住居跡 (第194図)

位置 調査区の南部, E8f3区。

規模と平面形 長軸4.82m, 短軸4.74mの方形である。

主軸方向 N-3°-E

壁 壁高は55~67cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅28cm, 下幅11cm, 深さ5cmで、断面形はU字形である。

床 平坦で、竈前面から南部にかけて踏み固められている。

ピット 6か所 (P1~P6)。P1~P4は、長径30~51cm, 短径26~40cmの不整形円形, 深さ23~75cmで、配置や

規模から主柱穴と思われる。P5は径20cmの不整形円形, 深さ10cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

P6は長径34cm, 短径28cm, 深さ10cmの不整形円形で性格は不明である。

竈 北壁中央部を壁外に40cmほど半円状に掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、突口部から煙道部までの長さ150cm, 最大幅155cmである。火床部は、床面とほとんど同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は、火床面から直線的に外傾して立ち上がっている。

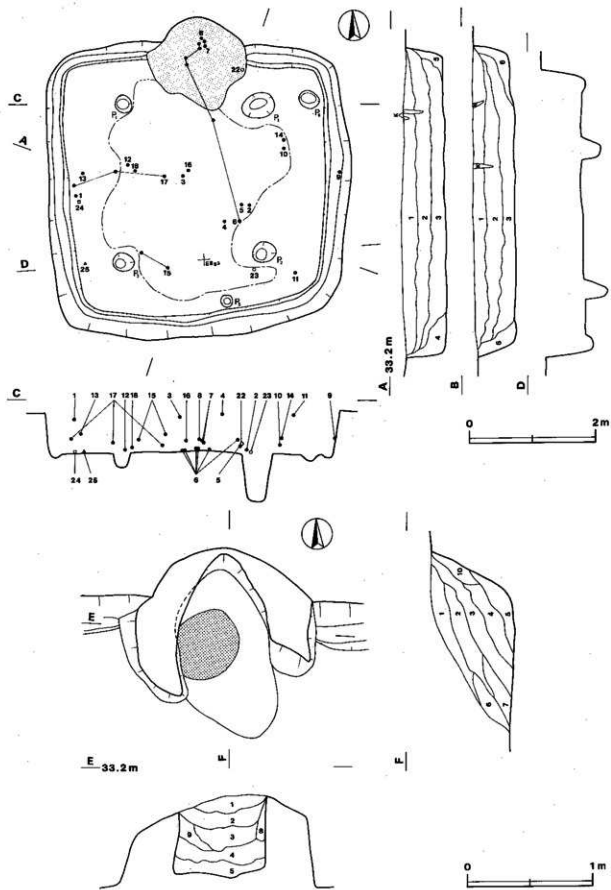
甕土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 にぶい赤褐色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化・粘土粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 6 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 7 灰褐色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 8 にぶい赤褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 9 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 10 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム小ブロック少量

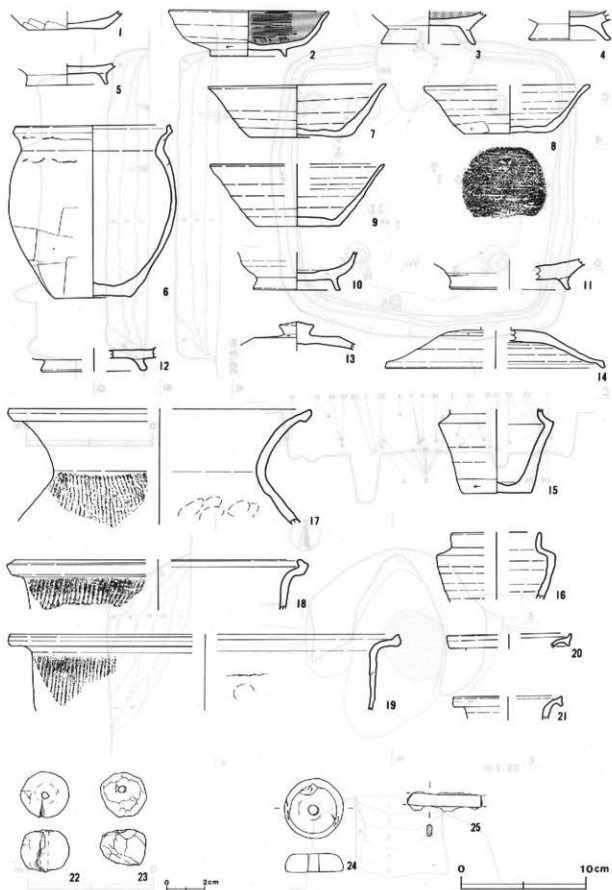
覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量 | 5 褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック中量, 焼土・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量 | 6 暗褐色 | 焼土・ローム粒子少量 |



第194图 第91号住居跡実測图



第195图 第91号住居跡出土遺物実測図

国史館編纂部 1978 303473

第91号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
第196図	1	坏 土師器	B(1.5) C 6.0	底部から体部片。体部は内彎しながら立ち上がる。	体部下端手持ちへが削り。	長石・石英・雲母・スコリア 棕色 普通	P502 15% 覆土上層
2	高台付 土師器	A 12.8 B 9.7 D 6.0 E 0.5	口縁部一部欠損。高台は短く「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら外傾し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面へう磨き。内面全体黒色処理。底部切り離した後、高台貼り付け。	長石・石英・スコリア にぶい黄褐色 普通	P503 70% P L33 覆土下層	
3	高台付 土師器	B(2.7) D(7.3) E 1.4	高台部片。高台は高めで「ハ」の字状に開く。	底部内面黒色処理。底部切り離した後高台貼り付け。	長石・雲母・スコリア 針状鉱物 にぶい褐色 普通	P504 20% 覆土上層	
4	高台付 土師器	B(2.4) D 6.6 E 1.4	高台部片。高台は高めで外反気味に開く。	底部内面黒色処理。底部切り離した後高台貼り付け。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P505 15% 覆土上層	
5	高台付 土師器	B(1.7) D 6.6 E 0.8	高台部片。高台は短く外反気味に開く。	底部切り離した後、高台貼り付け。	長石・石英・スコリア 棕色 普通	P506 15% 覆土下層	
6	小形 土師器	A 12.4 B 13.7 C 6.0	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は強く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面磨ナデ。体部内面ナデ。体部外面上位ナデ。体部下端手持ちへが削り。体部外面上位に輪轆み痕。底部外面に木葉痕。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P507 50% 甕床面・覆土下層	
7	坏 須恵器	A 14.3 B 4.3 C 7.9	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いクロ目。	長石・石英 灰色 普通	P508 90% P L33 甕覆土下層	
8	坏 須恵器	A(13.0) B 3.9 C 6.9	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへが削り。底部外面手持ちへが削り。	長石・石英・雲母 黄灰色 良好	P509 55% 甕覆土下層	
9	坏 須恵器	A(13.8) B 5.0 C 6.6	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転へが削り後、ナデ。	長石・石英 灰青色 普通	P510 50% 覆土中層	
10	高台付 須恵器	B(3.1) D 7.0 E 1.0	高台部から体部片。高台は短く外反気味に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へが削り後、高台貼り付け。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P511 20% 覆土下層	
11	高台付 須恵器	B(2.5) D(9.4) E 1.1	高台部片。高台は短く外反気味である。	底部内・外面ロクロナデ。底部回転へが削り後、高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P512 15% 覆土上層	
12	高台付 須恵器	B(1.9) D(8.2) E 1.0	高台部片。高台は短く「ハ」の字状に開く。	底部内・外面ロクロナデ。底部回転へが削り後、高台貼り付け。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P513 5% 覆土下層	
13	蓋 須恵器	B(2.3) F 2.8 G 1.0	天井部片。中央に顕宝珠状のつまみが付く。	天井部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転へが削り。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P514 10% 覆土中層	
14	蓋 須恵器	A(17.6) B(3.0)	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し、口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転へが削り。	長石・石英 灰色 普通	P515 15% 覆土中層	
15	短頸 須恵器	B(6.7) C 5.6	底部から体部片。平底。体部は外反気味に立ち上がり。体部上位で最大径を有し、内反する。口縁部は外反する。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転へが削り。底部手持ちへが削り。	長石・石英 灰色 普通	P516 40% 覆土中層	
16	短頸 須恵器	A(7.0) B(5.4)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾し、体部上位で最大径を有し口縁部はわずかに外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 黄灰色 普通	P517 20% 覆土下層	
17	蓋 須恵器	A(24.0) B(9.2)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁端部は折り返され、縁帯を形成している。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面縦方向の平行タタキ。体部内面に指痕圧痕。	長石・石英・雲母・スコリア・バラス 灰オリーブ色 普通	P518 10% 覆土中・下層	

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・成成	備考
第195図 18	須恵器	A(22.6) B(4.1)	体部から口縁部片。体部は内脣し、口縁部は強く外反する。口縁端部は強く、内上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。口縁部の一部及び体部外面に平行タキ。	長石・石英 灰色 普通	P519 5% 覆土下層
19	須恵器	A(30.9) B(6.1)	体部から口縁部片。体部は内脣し、口縁部は強く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に平行タキ。体部内面に指頭瓦張。	長石・雲母 褐灰色 普通	P520 5% 覆土中
20	長頸須恵器	A(9.9) B(1.2)	口縁部片。口縁端部は断面三角形の縁帯を持つ。	口縁部内・外面ロクロナデ。	長石 黒褐色 普通	P521 5% 覆土中
21	長頸須恵器 灰輪陶器	A(8.6) B(2.2)	口縁部片。口縁端部は断面三角形の縁帯を持つ。	口縁部内・外面ロクロナデ。	長石 黒褐色 普通	P522 5% 覆土中 黒径14号窯式

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
22	土玉	2.6	2.3	0.4	11.9	覆土下層	DP129
23	土玉	2.4	1.9	0.5	10.3	覆土下層	DP130

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
24	石製紡錘車	4.8	1.4	0.8	54.0	チャート	床面	Q36 PL38

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
25	刀子	(5.8)	0.9	0.4	14.5	床面	M73 PL39

遺物 土師器片512点、須恵器片392点、土製品2点、石製紡錘車1点、刀子1点が出土している。第195図1の土師器坏は西部の覆土上層から、2の土師器高台付坏は東部の覆土下層から逆位の状態、3・4の土師器高台付坏は中央部の覆土上層から、5の土師器高台付坏は東部の覆土下層からそれぞれ出土している。6の土師器小形甕は、甕の覆土下層と甕前面の床面直上及び東部の覆土下層から出土したものが接合した。7・8の須恵器坏は甕の覆土下層からいずれも正位の状態、9の須恵器坏は東壁際の覆土中層から横位の状態で出土している。10の須恵器高台付坏は東部の覆土下層から、11の須恵器高台付坏は南東コーナー部の覆土上層から、12の須恵器高台付坏と18の須恵器甕は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。13の須恵器蓋は西部の覆土中層から、14の須恵器蓋は東部の覆土中層から、15の須恵器短頸壺は南西部の覆土中層から、16の須恵器短頸壺は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。17の須恵器甕は西部の中層と下層から出土した破片が接合した。19の須恵器甕・20の須恵器長頸瓶・21の灰輪陶器長頸瓶はいずれも覆土中から出土している。22の土玉は甕付近の覆土下層から、23の土玉はP₂付近の覆土下層から、24の石製紡錘車は西部の床面直上から、25の刀子は南西部の床面直上からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代(9世紀中葉)と思われる。

第92号住居跡(第196図)

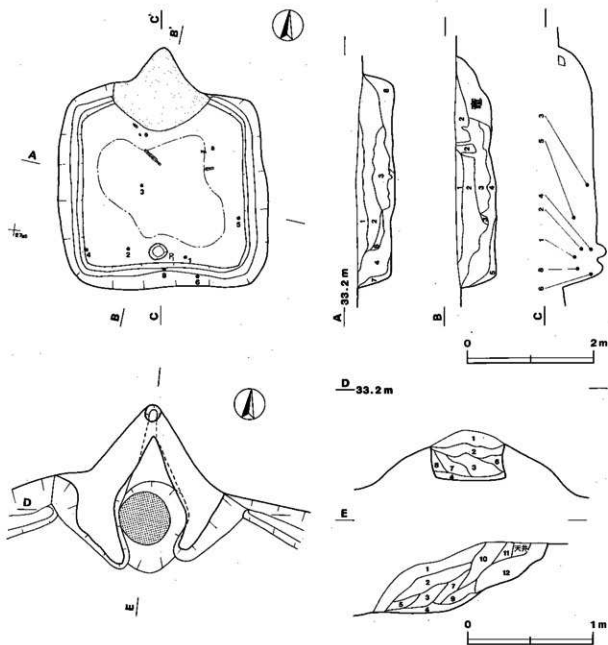
位置 調査区の南部、E7f₀区。

規模と平面形 長軸3.31m、短軸3.11mの方形である。

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は45-52cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅40cm、下幅10cm、深さ9cmで、断面形はU字形である。



第196図 第92号住居跡実測図

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 1か所 (P₁)。P₁は、長径30cm、短径25cm不整形円形、深さ17cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 遺存状態は良好で、煙出し部も検出された。北壁中央部を壁外に65cmほど三角形に掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は、北部と両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さは135cm、最大幅150cmである。火床部は、床面をわずかに掘り窪めている。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 2 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 4 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量

- 5 にぶい赤褐色 焼土・炭化・ローム小ブロック少量
 6 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
 7 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量
 8 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量
 9 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム中ブロック・粘土粒子少量
 10 にぶい赤褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量
 11 灰褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量
 12 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量

覆土 攪乱を受け不規則な堆積状況を示すが、8層からなる自然堆積と思われる。

土層解説

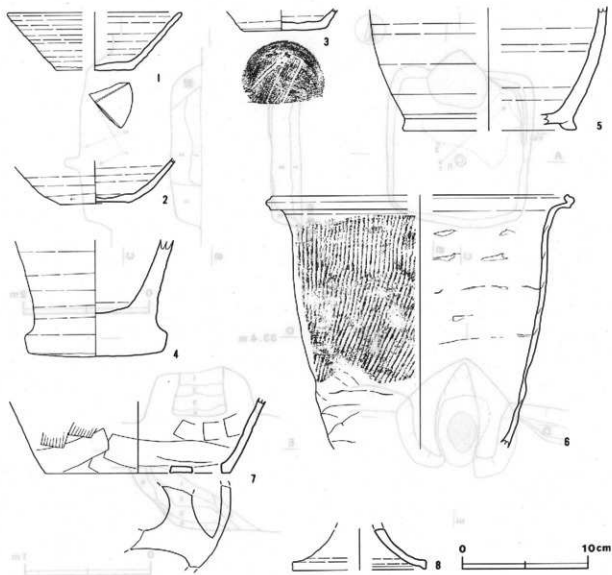
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量
 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化材・ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
 4 暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
 5 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
 6 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量
 7 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
 8 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量

遺物 土師器片179点、須恵器片107点、鉄葬700gが出土している。土師器を中心に覆土中・下層から出土しており、また、炭化材が北部の床面に貼り付くように少量出土している。第197図1・2の須恵器坏は南部の覆土中層から、3の須恵器坏は中央部の覆土下層から、4の須恵器捏鉢は南西コーナー部壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。5の須恵器長頸瓶は南東壁際の覆土中層から、6の須恵器甌は南部壁際の覆土下層から、7の須恵器甌は覆土中から、8の須恵器高坏は南部壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀後葉）と思われる。

第92号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第197図 1	坏 須恵器	A(13.8)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転へう削り。底部周縁ナデ。	長石・石英 黄灰色 普通	P523 15% 覆土中層
		B 4.6				
		C 6.1				
2	坏 須恵器	B(3.4)	底部から体部片。平底。体部は内傾気味に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端回転へう削り。底部手持ちへう削り。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P524 50% 覆土中層 酸化焙焼成
		C 5.4				
3	坏 須恵器	B(1.7)	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちへう削り。底部外面へう削り。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P525 10% 覆土下層
		C 6.5				
4	捏鉢 須恵器	B(1.7)	底部から体部片。底部は厚い円盤状の平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P526 40% PL33 覆土下層
		C 6.5				
5	長頸瓶 須恵器	B(9.9)	高台部から体部片。高台は短く外反気味に開く。体部は内傾しながら立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後、高台貼り付け。	長石 灰色 普通	P527 5% 覆土中層
		D(18.8)				
		E 1.0				
6	甌 須恵器	A(23.5)	体部から口縁部片。体部は内傾気味に外傾し、口縁部は強く外反する。口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。体部外面に縦方向の平行タタキ。体部内面に輪積み痕。体部外面下に指線圧痕。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P528 10% 覆土下層
		B(20.3)				
7	甌 須恵器	B(6.0)	底部から体部片。多孔式。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ体部外面に平行タタキ。体部外面下位手持ちへう削り。	長石・雲母 灰黄色 普通	P529 5% PL33 覆土中
		C 14.7				
8	高坏 須恵器	B(3.3)	脚部片。脚部はラッパ状に開き、底部で下方につまみ出されている。	脚部内・外面ロクロナデ。脚部外面に沈線が回る。	長石・石英 灰色 普通	P530 5% 覆土中層
		D(10.6)				



第197図 第92号住居跡出土遺物実測図

第93号住居跡 (第198図)

位置 調査区の南部, E7co区。

規模と平面形 長軸2.52m, 短軸2.32mの方形である。

主軸方向 N-2°-E

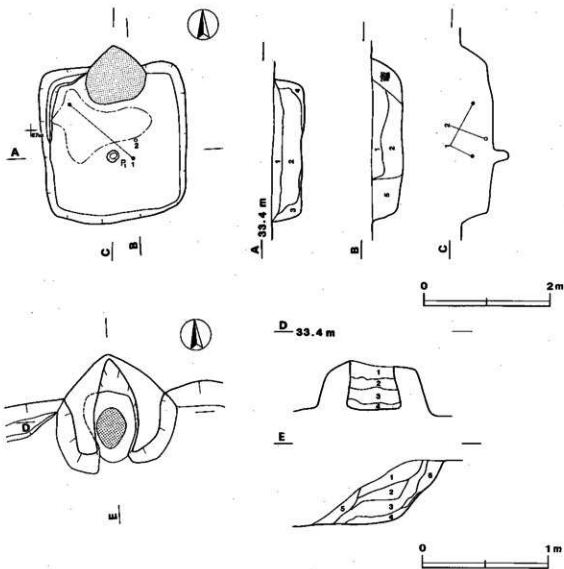
壁 壁高は27~48cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北西コーナー部に検出された。上幅33cm, 下幅6cm, 深さ10cmで, 断面形はU字形である。

床 平坦で, 竈前面から北西部にかけて踏み固められている。

ピット 1か所 (Pi)。Piは, 長径20cm, 短径16cmの不整楕円形, 深さ25cmで, 性格は不明である。

竈 北壁中央部を壁外に30cmほど三角形に掘り込み, 砂泥じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 焚口部から煙道部までの長さ85cm, 最大幅95cmである。火床部は, 床面と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は, 火床面から直線的に外傾して立ち上がっている。



第198図 第93号住居跡実測図

覆土層解説

- | | |
|--|---------------------------------------|
| 1 にぶい褐色 焼土・炭化・ローム小ブロック少量 | 4 極暗赤褐色 炭化・粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量 | 5 褐色 ローム小ブロック中量、焼土・炭化・ローム粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子中量、炭化材・炭化粒子・ローム小ブロック少量 | 6 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック・粘土粒子少量 |

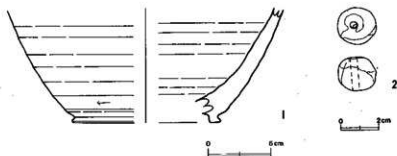
覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

- | |
|--|
| 1 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 ローム粒子中量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 |
| 5 明褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量 |

遺物 遺物は少なく、土師器片18点と須恵器片2点、土製品1点、鉄滓2.2kgが出土している。第199図1の須恵器長頸瓶は北西部と中央部の覆土中層から出土したものが接合した。2の土玉は、中央部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀後葉と思われる。



第199図 第93号住居跡出土遺物実測図

第93号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考	
第199図 1	長頸瓶 須恵器	B(9.2) D(11.8) E 0.6	高台部から体部片。高台は短く外反 気味に開く。	体部内・外壁口ロナデ。体部下端 回転へつ削り。底部切り離し後、高 台貼り付け。	粘土・石英 灰色 普通	P531 10% 覆土中層	
図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
2	土玉	径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
		2.0	1.8	0.4	7.0	覆土下層	DP131

第94号住居跡 (第200図)

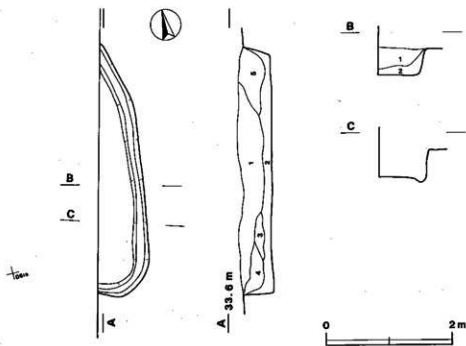
位置 調査区の南部, D6ha区。

規模と平面形 長軸 (3.93) m, 短軸 (0.79) mで, 遺構の西部が調査区外のため, 平面形は不明である。

主軸方向 N-19°-E

壁 壁高は45cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には, 壁溝が回っている。上幅22cm, 下幅11cm, 深さ6cmで, 断面形はU字形である。



第200図 第94号住居跡実測図



第201図 第94号住居跡出土遺物実測図

第94号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第201図 1	土師器	A(25.6) B(3.4)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は緩く外反する。口縁端部はわずかにつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナア。	長石・石英・雲母にふい褐色 普通	P532 5% 覆土中

床 平坦であるが、踏み固めた部分は検出できなかった。

覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 焼土・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 遺構のほとんどが調査区外のため、遺物は少なく土師器片1点の他、鉄滓が少量出土しているのみである。第201図1の土師器片は、覆土中から出土している。

所見 本跡は時期を決定できる遺物がなく、時期不明である。

第95号住居跡（第202・203図）

位置 調査区の中央部、D8c1区。

重複関係 本跡は、北部を第9号溝に、南部を第23号溝に掘り込まれていることから、両遺構よりも古い。

規模と平面形 長軸8.20m、短軸5.70mの長方形である。

長軸方向 N-29°-E

壁 壁高は23~65cmで、北東壁・南西壁は外傾し、それ以外の壁はほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北東壁の一部を除いて壁溝が回っている。上幅11~35cm、下幅6~15cm、深さ5cm前後で、断面形はU字形である。

床 平坦で、炉、補助柱穴付近を除いて踏み固められている。

ピット 19か所（P1~P19）。P1~P15は、長径30~55cm、短径25~42cmの不整楕円形、深さ21~95cmで、壁際に設置され補助柱穴、P16~P18は長径19~22cm、短径17~31cmの不整楕円形、深さ13~26cmで、やはり補助柱穴と思われる。

炉 本跡からは2か所で炉が検出された。

炉A 中央部からやや北東よりに位置し、径150cm前後の不整形形で、床面を60cmほど掘り窪めている。

炉A土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・砂多量、焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子多量
- 3 明褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 5 黒褐色 炭化材・炭化・ローム粒子中量、焼土粒子微量

炉B 炉Aよりもさらに北東よりに位置し、長径98cm、短径90cmの不整楕円形で、床面を15cmほど掘り窪めた。北側に粘土の高まりが見られた。炉床は焼けて赤変硬化している。

炉B土層解説

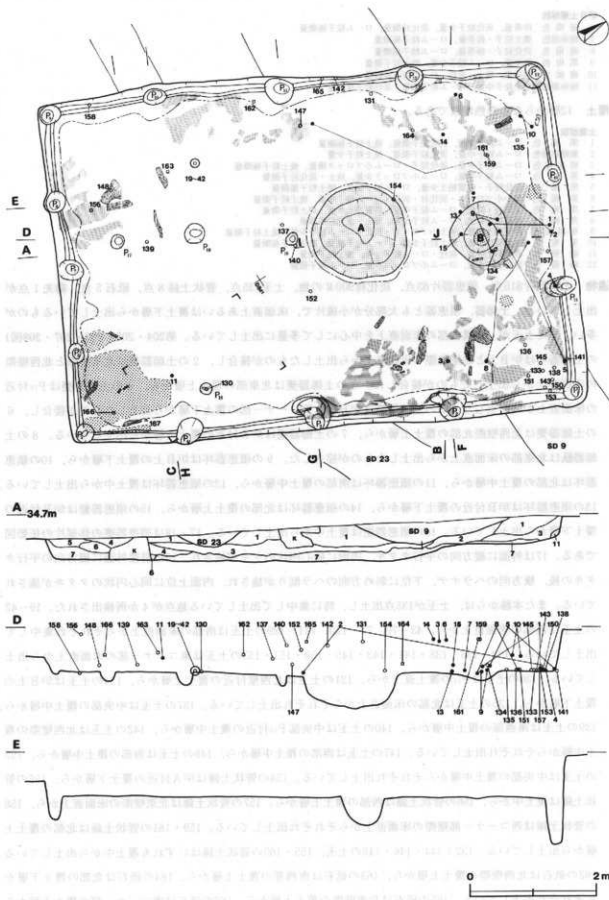
- 6 暗褐色 砂多量、炭化粒子少量、炭化材微量、ローム粒子極微量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子・砂多量、ローム粒子極微量
- 8 暗褐色 炭化粒子・砂多量、ローム粒子極微量
- 9 黒褐色 砂中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 10 暗褐色 砂少量、焼土・炭化・ローム粒子極微量
- 11 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子微量、炭化粒子極微量

覆土 12層からなる自然堆積である。

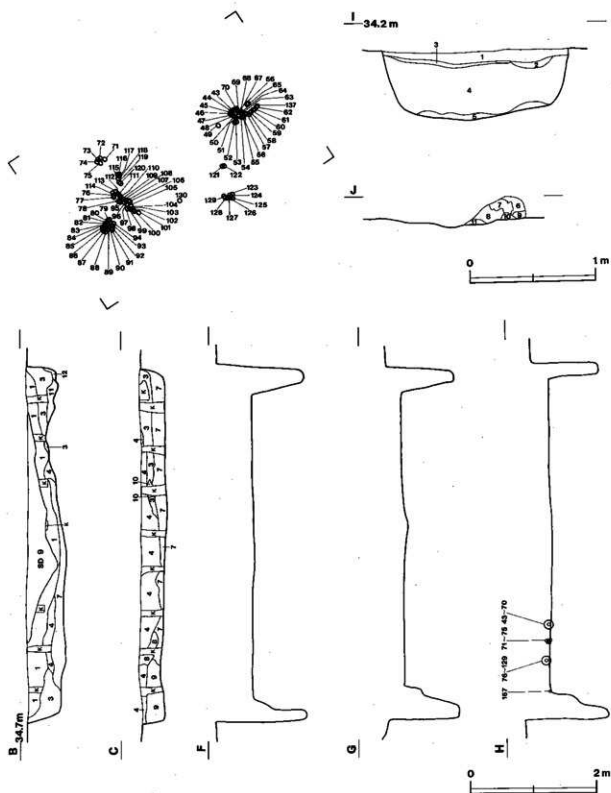
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量、焼土粒子極微量
- 2 暗褐色ローム ローム粒子中量、炭化粒子微量、焼土粒子少量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子極微量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 炭化粒子・砂質粘土少量、ローム粒子少量、焼土粒子極微量
- 6 黒褐色 焼土小ブロック・炭化材・炭化・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 7 黒褐色 炭化材・炭化・ローム粒子中量、砂質粘土少量、焼土粒子微量
- 8 黒褐色 砂質粘土中量、ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 9 暗褐色 砂質粘土中量、焼土小ブロック・炭化・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 10 黒褐色 砂質粘土多量、焼土粒子少量、ローム粒子微量、炭化粒子極微量
- 11 暗褐色 砂質粘土中量、炭化・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 12 暗褐色 砂質粘土中量、ローム小ブロック少量、ローム粒子微量

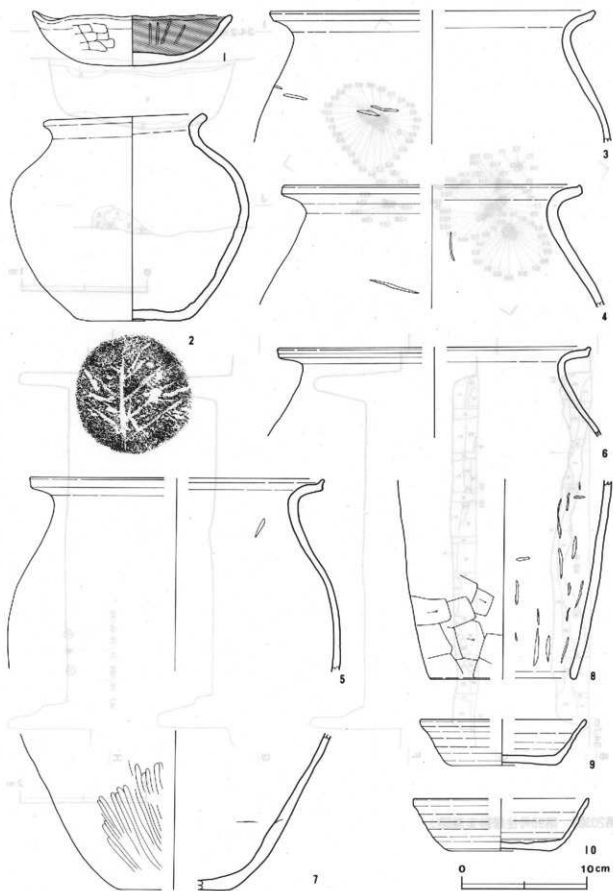
遺物 土師器片815点、須恵器片83点、炭化材900gの他、土玉135点、管状土鍾8点、砥石5点、鋤先1点が出土している。土師器、須恵器とも大部分が小破片で、床面直上あるいは覆土下層から出土しているものが多い。また土玉が、遺構南部の床面直上を中心にして多量に出土している。第204・205・206・207・208図1の土師器坏は炉B上と北東壁際の床面直上から出土したものが接合し、2の土師器甕は北東壁際と北西壁際の床面直上から出土したものが接合した。3の土師器甕は北東部の覆土上層から、4の土師器甕はP16付近の床面直上から出土した。5の土師器甕は炉B上と東コーナー部の覆土下層から出土したものが接合し、6の土師器甕は北西壁際北部の覆土上層から、7の土師器甕は炉B付近の覆土下層から出土している。8の土師器甕は北東部の床面直上から出土したものが接合した。9の須恵器坏は炉B上の覆土下層から、10の須恵器坏は北部の覆土中層から、11の須恵器坏は南部の覆土中層から、12の須恵器坏は覆土中から出土している。13の須恵器坏は炉B付近の覆土下層から、14の須恵器坏は北部の覆土上層から、15の須恵器甕は炉B付近の覆土下層から出土している。16の須恵器甕は覆土中から出土している。17・18は須恵器甕の体部片の拓影図である。17は外面に縦方向の平行タキ、内面に同心円状のタキが施され、18は肩部外面に縦方向の平行タキの後、横方向のヘラナデ、下位に斜め方向のヘラ削りが施され、内面上位に同心円状のタキが施されている。また本誌からは、土玉が135点出土し、特に集中して出土している地点が4か所検出された。19-42の土玉は西部の床面直上から、43-70、71-120、121-129の土玉は南部の床面直上からそれぞれ集中して出土している。133・136・138・141・143・145・150・151・153の土玉は東コーナー部の床面直上から出土している。130の土玉はP16の覆土直上から、131の土玉は北西壁付近の覆土上層から、134の土玉は炉B上の覆土下層から、135の土玉は北部の床面直上からそれぞれ出土している。137の土玉は中央部の覆土中層から、139の土玉は南西部の覆土中層から、140の土玉は中央部P16付近の覆土中層から、142の土玉は北西壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。147の土玉は西部の覆土中層から、148の土玉は西部の覆土中層から、152の土玉は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。154の管状土鍾は炉A付近の覆土下層から、155の管状土鍾は覆土中から、156の管状土鍾は西部の覆土上層から、157の管状土鍾は北東壁際の床面直上から、158の管状土鍾は西コーナー部壁際の床面直上からそれぞれ出土している。159・161の管状土鍾は北部の覆土上層から出土している。132・144・146・149の土玉、155・160の管状土鍾はいずれも覆土中から出土している。162の砥石は北西壁際の覆土上層から、163の砥石は南西部の覆土上層から、164の砥石は北部の覆土下層からそれぞれ出土している。165の砥石は北西壁際の覆土上層から、166の砥石は南コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。167の鋤先は南コーナー部の床面直上から出土している。



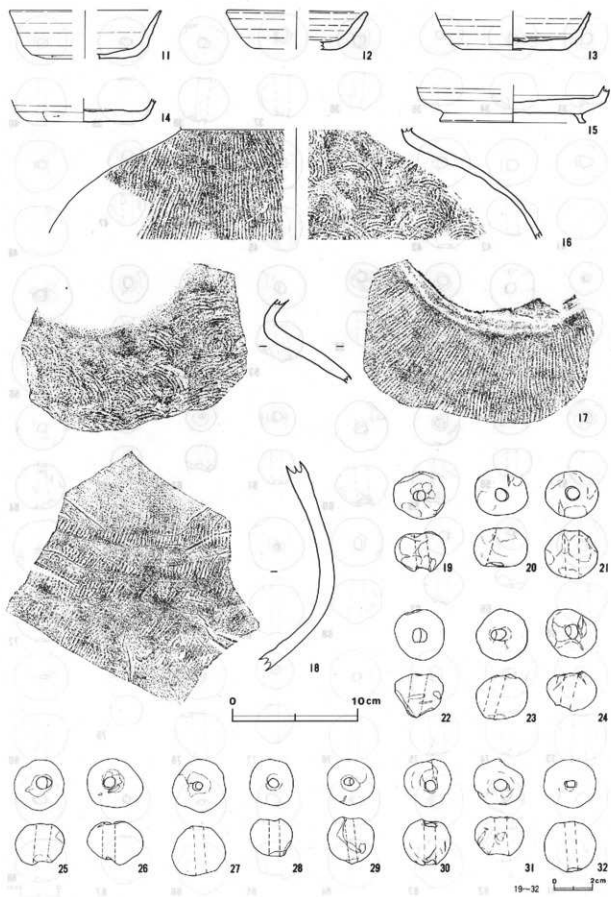
第202図 第95号住居跡実測図(1)



第203图 第95号住居跡実測图(2)

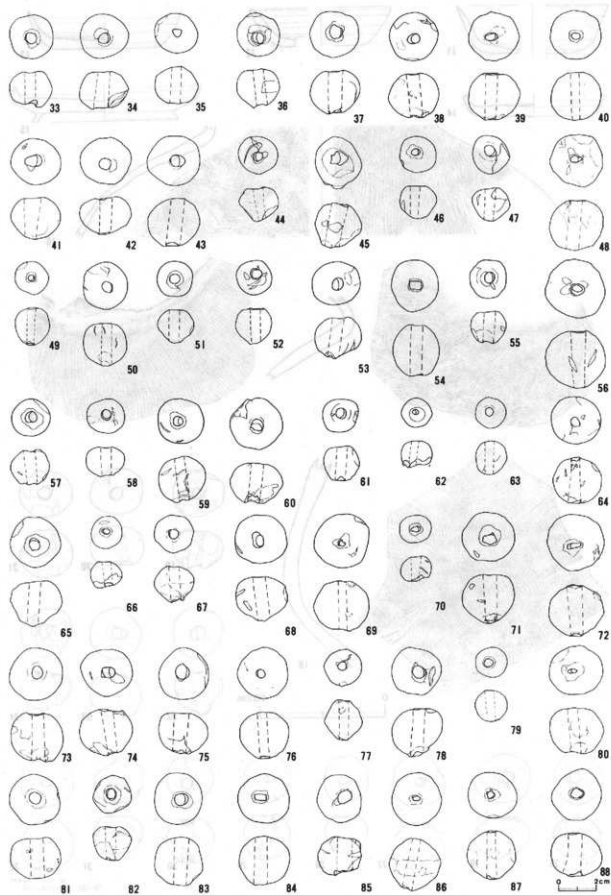


第204图 第95号住居跡出土遺物実測図(1)



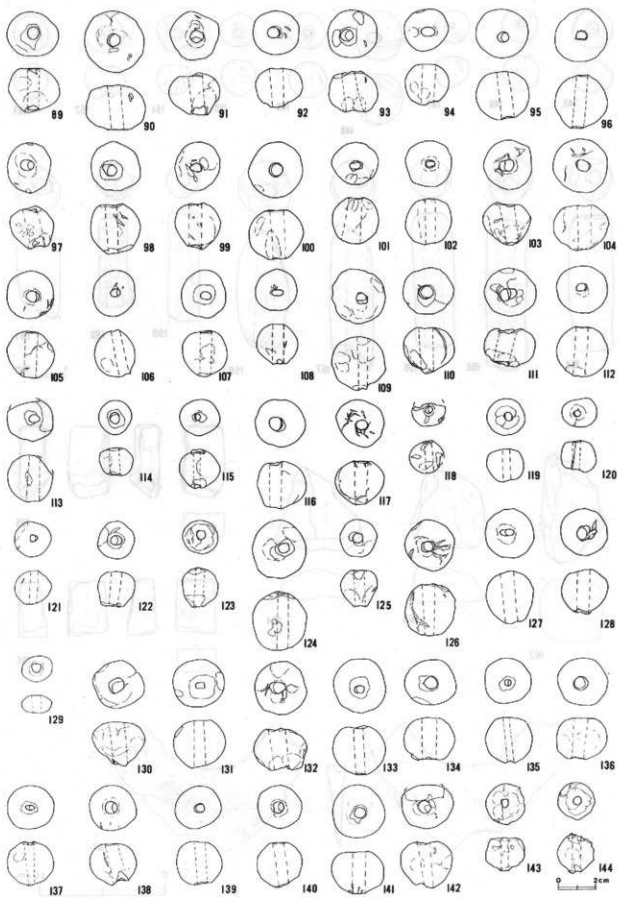
第205图 第95号住居跡出土遺物実測図(2)

〔新石器時代出土遺物実測図集〕 1955年

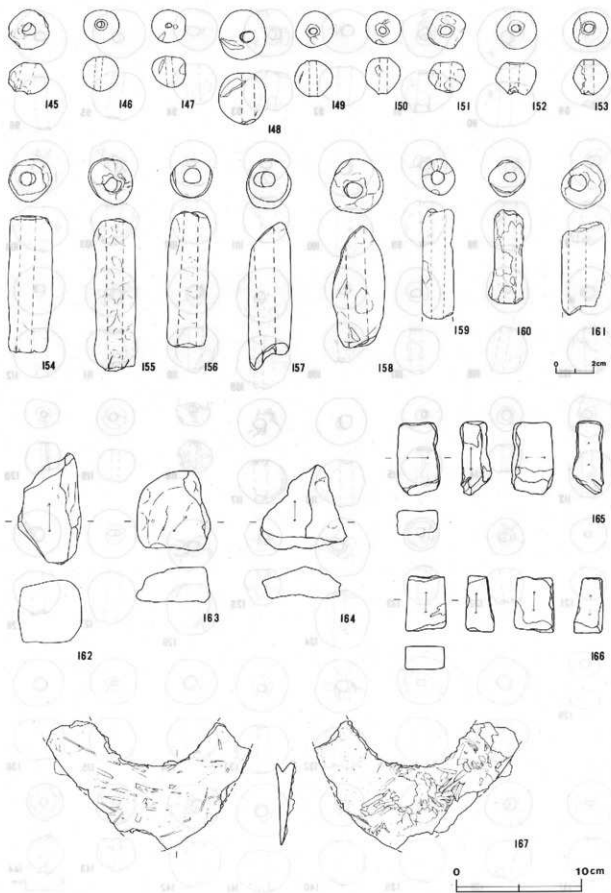


第206图 第95号住居跡出土遺物実測図(3)

(国史館東京) 出土資料研究 第206号



第207图 第95号住居跡出土遺物実測図(4)



第208图 第95号住居跡出土遺物実測図(5)

国史館蔵 東京国立博物館蔵 平成25年度 第702号

第95号住居跡出土遺物観察表

図記番号	器種	計量値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第204図	1	壊 土師器 A 16.0 B 4.5	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎気味に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面へラ削り後ナデ。底部手持ちへラ削り。体部内面へラ磨き後、黒色処理。体部内面に暗文。	長石・雲母 棕色 普通	P 659 60% 床面
		2	壊 土師器 A 12.7 B 16.6 C 9.0	体部一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾し、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英 灰色 普通
3	1	壊 土師器 A (25.8) B (10.6)	底部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面上位にへラ当てて。	長石・石英・雲母・スコリア・バミス にぶい橙黄色 普通	P 661 10% 覆土上層
		4	壊 土師器 A (23.5) B (9.8)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁端部はわずかに上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内・外面上位にへラ当てて。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通
5	1	壊 土師器 A (23.4) B 15.5	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面上位にへラ当てて。	長石・石英・雲母 にぶい橙黄色 普通	P 663 10% 覆土下層
		6	壊 土師器 A (24.2) B (7.2)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙黄色 普通
7	1	壊 土師器 B (12.6) C (8.6)	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に外傾する。	体部内面ナデ、外面縦方向のへラ磨き。	長石・石英・雲母 にぶい橙黄色 普通	P 665 10% 覆土下層
		8	壊 土師器 B (16.0) C (11.4)	底部から体部片。体部は内彎気味に外傾する。	体部内面ナデ、外面下位へラ削り。体部内面にへラ当てて。	長石・石英・雲母・スコリア 棕色 普通
9	1	壊 須恵器 A (13.1) B 3.7 C 8.8	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちへラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 良好	P 667 60% 覆土下層
		10	壊 須恵器 A (14.0) B 4.2 C 8.6	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。体部外縁に強いロクロ目。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちへラ削り。	長石・石英 橙黄色 普通
第205図	11	壊 須恵器 A (12.2) B 3.9 C (6.4)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。	長石・石英 普通	P 669 25% 覆土中層
		12	壊 須恵器 A (11.1) B 3.1 C (6.2)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り。	長石・雲母・バミス にぶい黄白色 良好
13	1	壊 須恵器 B (3.2) C 8.6	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちへラ削り。	長石・石英・雲母 にぶい橙黄色 普通	P 671 60% 覆土下層
		14	壊 須恵器 B (1.9) C 9.2	底部から体部片。平底。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。底部手持ちへラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 良好
15	1	壊 須恵器 B (3.0) D 11.3 E 0.8	高台部から体部片。高台は短く「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P 673 45% 覆土下層 酸化焰焼成
		16	壊 須恵器 B (9.0)	体部片。体部は内彎する。	体部外面縦方向の平行タタキ。体部内面に同心円状の当て具痕。	長石・石英 灰色 普通

図版番号	器 種	計 測 値				出 土 地 点	備 考	
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第205図19	土 玉	2.7	2.1	0.6	11.4	床面	DP244	
	土 玉	2.8	2.1	1.0	16.2	床面	DP192 P L36	
	21 土 玉	2.8	2.6	0.8	14.9	床面	DP214 P L36	
	22 土 玉	2.7	2.3	0.8	12.4	床面	DP242 P L36	
	23 土 玉	2.7	2.4	0.7	13.6	床面	DP196 P L36	
	24 土 玉	2.6	2.0	0.5	8.9	床面	DP234	
	25 土 玉	2.6	2.2	0.6	13.6	床面	DP202	
	26 土 玉	2.9	2.3	0.6	15.2	床面	DP201 P L36	
	27 土 玉	2.8	2.9	0.6	18.4	床面	DP169 P L36	
	28 土 玉	2.4	1.9	0.5	11.7	床面	DP237 P L36	
	29 土 玉	2.5	2.5	0.5	14.4	床面	DP209 P L36	
	30 土 玉	2.5	2.4	0.6	12.7	床面	DP249	
	31 土 玉	2.6	2.1	1.1	9.8	床面	DP247	
	32 土 玉	2.7	2.7	0.6	17.7	床面	DP179 P L36	
	第206図33	土 玉	2.3	1.9	0.6	9.9	床面	DP238 P L36
		34 土 玉	2.6	2.0	0.6	11.4	床面	DP240 P L36
		35 土 玉	2.3	2.0	0.5	8.9	床面	DP233
		36 土 玉	2.3	2.1	0.6	9.7	床面	DP239 P L36
		37 土 玉	2.5	2.5	0.7	17.5	床面	DP182 P L36
		38 土 玉	2.6	2.4	0.7	13.4	床面	DP199 P L36
		39 土 玉	2.7	2.5	0.6	14.7	床面	DP198
		40 土 玉	2.7	2.6	0.4	17.1	床面	DP191 P L36
		41 土 玉	2.6	2.3	0.9	12.9	床面	DP222 P L36
		42 土 玉	2.7	2.0	0.6	12.4	床面	DP216 P L36
		43 土 玉	2.9	2.5	0.7	17.8	床面	DP165 P L36
		44 土 玉	2.1	1.9	0.6	6.2	床面	DP255
		45 土 玉	2.8	2.4	0.8	12.0	床面	DP243 P L36
		46 土 玉	2.0	1.8	0.5	6.1	床面	DP268
		47 土 玉	1.9	1.8	0.6	6.6	床面	DP267
		48 土 玉	2.8	2.7	0.6	20.2	床面	DP160 P L36
		49 土 玉	1.9	2.0	0.4	5.7	床面	DP278
		50 土 玉	2.3	2.3	0.6	13.1	床面	DP204 P L36
51 土 玉		2.0	1.8	0.6	5.9	床面	DP266	
52 土 玉		1.9	1.9	0.6	7.2	床面	DP263	
53 土 玉		2.5	2.2	0.6	11.8	床面	DP221 P L36	
54 土 玉		2.7	2.7	0.6	17.6	床面	DP163 P L36	
55 土 玉		2.7	2.8	0.7	6.5	床面	DP264	
56 土 玉		3.1	3.0	0.8	0.8	床面	DP155 P L36	
57 土 玉		2.1	1.9	0.6	6.8	床面	DP271	
58 土 玉		2.0	1.5	0.6	6.3	床面	DP270	
59 土 玉		2.4	2.5	0.5	13.8	床面	DP210 P L36	
60 土 玉		2.8	2.2	0.7	13.7	床面	DP219 P L36	
61 土 玉		1.9	1.8	0.5	7.0	床面	DP266	
62 土 玉		1.7	1.5	0.4	4.0	床面	DP276	
63 土 玉		1.7	1.7	0.5	4.0	床面	DP279	
64 土 玉		2.6	2.5	0.5	15.5	床面	DP203	
65 土 玉		2.7	2.4	0.6	15.0	床面	DP187 P L36	
66 土 玉	1.8	(1.4)	0.5	3.8	床面	DP274		
67 土 玉	2.1	1.9	0.5	6.7	床面	DP258		
68 土 玉	2.8	2.4	0.6	14.7	床面	DP174 P L36		
69 土 玉	2.9	2.9	0.4	20.2	床面	DP166 P L36		

图版序号	器 种	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第206图70	土 玉	1.7	1.4	0.5	3.1	床面	DP273
71	土 玉	2.8	2.6	0.8	17.1	床面	DP188 P L36
72	土 玉	3.0	2.8	0.8	20.5	床面	DP167 P L36
73	土 玉	2.8	2.7	0.6	19.3	床面	DP161 P L36
74	土 玉	2.7	2.5	0.7	16.6	床面	DP200 P L36
75	土 玉	2.6	2.2	0.8	15.0	床面	DP183 P L36
76	土 玉	2.7	2.6	1.0	17.1	床面	DP193 P L36
77	土 玉	2.0	2.2	0.5	7.0	床面	DP257
78	土 玉	2.7	2.6	0.7	17.7	床面	DP185 P L36
79	土 玉	1.7	1.7	0.5	4.2	床面	DP275
80	土 玉	2.9	2.5	0.5	17.4	床面	DP175
81	土 玉	2.7	2.2	0.6	15.5	床面	DP184 P L36
82	土 玉	2.1	1.8	0.6	7.0	床面	DP251
83	土 玉	2.6	2.3	0.6	14.9	床面	DP181 P L36
84	土 玉	2.7	2.6	0.7	17.2	床面	DP171 P L36
85	土 玉	2.6	2.1	0.9	9.4	床面	DP245
86	土 玉	2.8	2.8	0.6	17.2	床面	DP178 P L36
87	土 玉	2.5	2.6	0.5	14.7	床面	DP211 P L36
88	土 玉	2.7	2.3	1.0	15.1	床面	DP194 P L36
第207图89	土 玉	2.7	2.4	0.6	13.3	床面	DP229 P L36
90	土 玉	3.3	2.4	0.7	24.0	床面	DP154 P L36
91	土 玉	2.6	2.3	0.7	13.3	床面	DP218 P L36
92	土 玉	2.5	2.2	0.7	11.3	床面	DP232 P L36
93	土 玉	2.6	2.2	0.7	13.2	床面	DP208 P L36
94	土 玉	2.3	2.2	0.7	11.8	床面	DP224 P L36
95	土 玉	2.8	2.6	0.7	17.4	床面	DP173 P L36
96	土 玉	2.8	2.9	0.6	19.0	床面	DP157 P L36
97	土 玉	2.7	2.3	0.8	10.4	床面	DP235 P L36
98	土 玉	2.7	2.7	0.8	17.1	床面	DP189 P L36
99	土 玉	2.6	2.5	0.6	13.1	床面	DP246 P L36
100	土 玉	2.9	2.7	0.7	21.3	床面	DP158 P L36
101	土 玉	2.5	2.4	1.0	12.9	床面	DP213 P L36
102	土 玉	2.5	2.4	0.5	13.2	床面	DP215 P L36
103	土 玉	2.6	2.3	0.8	14.0	床面	DP217 P L36
104	土 玉	2.9	2.4	0.7	18.9	床面	DP159 P L36
105	土 玉	2.5	2.5	0.7	14.5	床面	DP205 P L36
106	土 玉	2.2	2.5	0.6	14.4	床面	DP225 P L36
107	土 玉	2.5	2.5	0.6	13.8	床面	DP230 P L36
108	土 玉	2.2	2.1	0.6	10.1	床面	DP223 P L36
109	土 玉	2.9	2.9	0.5	20.6	床面	DP168 P L36
110	土 玉	2.7	2.5	0.8	13.7	床面	DP206 P L36
111	土 玉	2.8	2.1	0.9	12.2	床面	DP220 P L36
112	土 玉	2.7	2.6	0.6	16.5	床面	DP180 P L36
113	土 玉	2.4	2.5	0.6	12.3	床面	DP236
114	土 玉	1.8	1.5	0.5	4.0	床面	DP280
115	土 玉	2.2	2.1	0.4	7.0	床面	DP254

図版番号	器 種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
龍207図116	土 玉	2.7	2.5	0.7	15.9	床面	DP190 P L36
117	土 玉	2.6	2.3	0.7	12.8	床面	DP248
118	土 玉	1.8	(1.6)	0.4	2.7	床面	DP233
119	土 玉	2.0	1.8	0.4	7.8	床面	DP269 P L36
120	土 玉	1.9	(1.7)	0.4	4.0	床面	DP277
121	土 玉	2.0	1.8	0.4	5.6	床面	DP281
122	土 玉	2.0	1.8	0.6	6.2	床面	DP282
123	土 玉	1.9	2.1	0.5	6.5	床面	DP253
124	土 玉	3.1	3.1	0.6	26.4	床面	DP156 P L36
125	土 玉	2.0	1.9	0.5	6.9	床面	DP252
126	土 玉	2.7	2.7	0.7	16.8	床面	DP197 P L36
127	土 玉	2.6	2.8	0.7	16.6	床面	DP170 P L36
128	土 玉	2.5	2.4	0.7	13.8	床面	DP177 P L36
129	土 玉	1.6	1.0	0.6	2.0	床面	DP272
130	土 玉	2.8	2.3	0.8	12.5	床面	DP241 P L36
131	土 玉	2.7	2.6	0.6	15.9	覆土上層	DP172
132	土 玉	2.9	2.2	0.9	14.1	覆土中	DP176
133	土 玉	2.9	2.6	0.5	19.0	床面	DP186
134	土 玉	2.8	2.3	0.8	13.0	覆土下層	DP196
135	土 玉	2.4	2.4	0.4	13.8	床面	DP207
136	土 玉	2.6	2.6	0.7	14.1	床面	DP212
137	土 玉	2.4	2.3	0.5	11.5	覆土中層	DP226
138	土 玉	2.5	2.2	0.8	10.3	床面	DP227
139	土 玉	2.4	2.3	0.5	11.2	覆土中層	DP228
140	土 玉	2.4	2.4	0.6	11.5	覆土中層	DP231
141	土 玉	2.8	2.3	0.7	18.1	床面	DP162
142	土 玉	2.8	2.5	0.7	13.5	覆土中層	DP250
143	土 玉	2.2	1.8	0.4	7.2	床面	DP256
144	土 玉	2.0	2.1	0.4	6.3	覆土中	DP259
龍208図145	土 玉	2.2	1.7	0.7	6.5	床面	DP260
146	土 玉	1.9	1.9	0.4	6.7	覆土中	DP261
147	土 玉	1.8	1.7	0.4	5.5	覆土中層	DP262
148	土 玉	1.9	1.7	0.6	6.5	覆土中層	DP264 P L36
149	土 玉	2.0	1.9	0.4	7.2	覆土中	DP265
150	土 玉	1.8	1.9	0.4	6.6	床面	DP268
151	土 玉	2.0	1.6	0.6	5.4	床面	DP284
152	土 玉	2.2	1.8	0.5	6.8	覆土中層	DP285
153	土 玉	1.9	1.9	0.7	6.0	床面	DP287
154	管状土鏝	2.3	7.3	0.8	46.9	覆土下層	DP289 P L37
155	管状土鏝	2.5	8.1	1.0	51.7	覆土中	DP290 P L37
156	管状土鏝	2.3	7.2	1.0	40.4	覆土上層	DP291 P L37
157	管状土鏝	2.4	(7.8)	1.0	47.5	床面	DP292 P L37
158	管状土鏝	2.8	6.4	1.0	44.5	床面	DP293 P L37
159	管状土鏝	1.9	(5.8)	0.8	(17.6)	覆土上層	DP294 P L37
160	管状土鏝	1.9	(5.0)	0.7	(13.9)	覆土中	DP295 P L37
161	管状土鏝	2.5	(4.9)	1.0	(18.4)	覆土上層	DP296 P L37

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第209回162	紙石	8.9	5.1	4.9	274.4	安山岩	覆土上層	Q43
163	紙石	6.4	5.8	2.9	148.8	石英斑岩	覆土上層	Q44
164	紙石	(6.8)	(6.9)	2.5	(97.5)	安山岩	覆土下層	Q45
165	紙石	5.9	2.5	2.0	70.8	安山岩	覆土上層	Q46
166	紙石	4.5	3.2	1.9	49.4	凝灰岩	覆土上層	Q47

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
167	銅先	(10.2)	16.4	0.7	(380.3)	床面	M86

所見 本跡の出土遺物としては、土玉が多量に出土したこと以外特徴は見当たらないが、当遺跡内の他の堅穴住居跡に比べて、遺構の構造に特異な点が多い。まず竈がないこと、中央部からやや北東よりに炉が2か所検出されたこと、壁際に補助柱穴があること、また壁際から壁材と思われる粘土塊が崩落した状態で検出されたことなどである。この粘土塊は壁の補強材であったと思われる。これらの事実だけで本遺構の性格を限定することは難しいが、単なる住居跡ではなくそれ以外の何らかの目的のためにつくられた可能性が高い。

本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀後葉と思われる。

第96号住居跡 (第209図)

位置 調査区の南部、E7h区。

規模と平面形 長軸4.17m、短軸3.75mの長方形である。

主軸方向 N-7°-W

壁 壁高は66~74cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅23cm、下幅7cm、深さ5cmで、断面形は逆台形である。

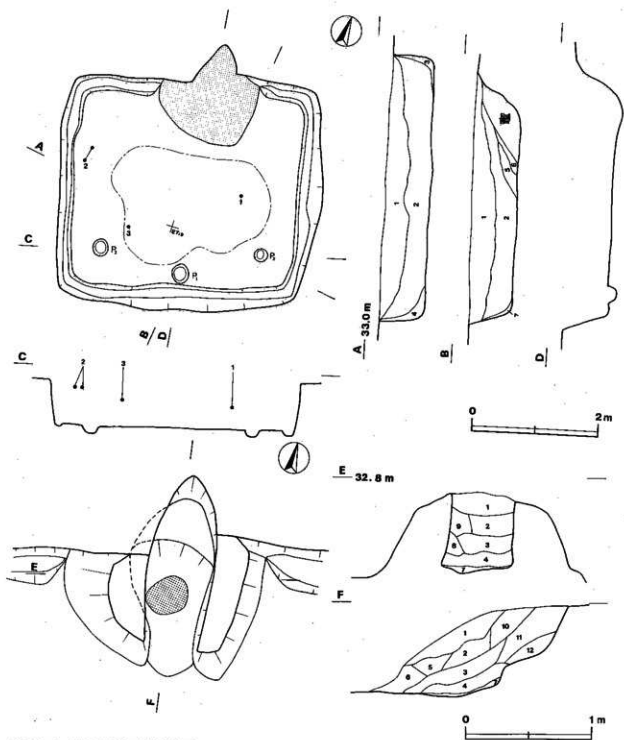
床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 3か所(P₁-P₃)。P₁は長径32cm、短径26cmの不整形円形、深さ14cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。P₂・P₃は長径21~28cm、短径22~24cmの不整形円形、深さ11~13cmで柱穴と思われる。

竈 北壁中央部を壁外に55cmほど三角形に掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口から煙道部までの長さ160cm、最大幅157cmである。火床部は、床面を10cmほど皿状に掘り窪めており、わずかに焼けて赤変している。煙道部は、火床面から急に立ち上がっている。

覆土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 粘土粒子中量、焼土・炭化物少量
- 3 暗赤褐色 焼土・粘土粒子中量、炭化物少量
- 4 暗赤褐色 焼土・粘土粒子中量、炭化物少量
- 5 暗赤褐色 ローム・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 6 暗赤褐色 粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 7 暗赤褐色 焼土中ブロック中量
- 8 に近い赤褐色 粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 9 灰褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量
- 10 灰褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量
- 11 に近い赤褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量
- 12 に近い赤褐色 焼土・ローム粒子少量

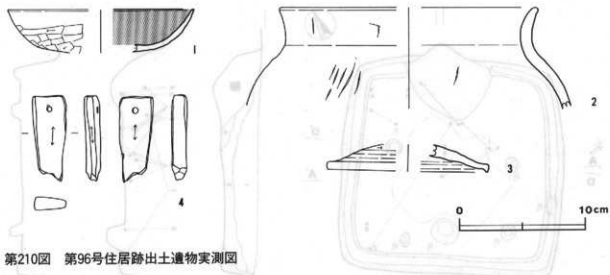


第209図 第96号住居跡実測図

覆土 7層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土・炭化粒子・ローム大・中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量
- 7 暗赤褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量



第210図 第96号住居跡出土遺物実測図

第96号住居跡出土遺物観察表

図取番号	器種	計測値(cm)		器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考		
		長さ	幅						
第210図 1	土師器 B	A [14.8]	底部から体部片。丸底。体部は内彎しながら外傾し、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面へう削り接ナデ。体部内面黒色処理。	雲母・スコリア 暗灰色 普通	P533 10% 覆土中層			
		B (3.5)							
2	土師器 B	A [20.4]	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は緩く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。口縁部及び体部内・外面にへう当て痕。	長石・石英にふい橙色 普通	P534 10% 覆土上層			
		B (8.1)							
3	須恵器 B	A [12.8]	天井部から口縁部片。天井部はドーム状を呈し、口縁部に至る。口縁端部は緩く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面クロクロナデ。天井部外面上位照転へう削り。	長石 灰色 普通	P535 5% 覆土中層			
		B 2.2							
図取番号	器種	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
4	紙石	6.9	2.7	1.2	0.4	36.7	凝灰岩	覆土中	Q37 P.L38

遺物 土師器片93点、須恵器片13点、石製品1点が出土しているが破片が多く、また覆土中・上層から出土しているものが多い。第210図1の土師器片は東部の覆土中層から、2の土師器片は西部の覆土上層から、3の須恵器片は南西部の覆土中層から、4の紙石は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀後葉と思われる。

第97号住居跡 (第211図)

位置 調査区の南部、E7e区。

規模と平面形 長軸3.52m、短軸3.43mの方形である。

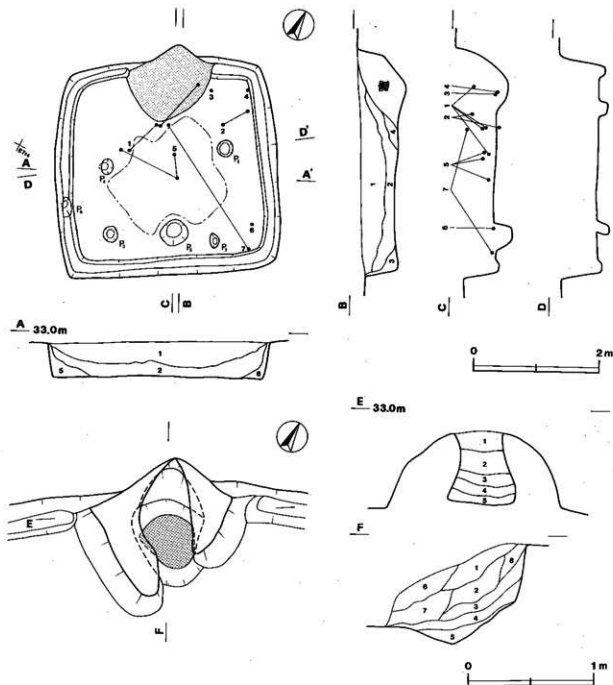
主軸方向 N-30°-W

壁 壁高は50-62cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅30cm、下幅14cm、深さ6cmで、断面形は逆台形である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は、長径24~26cm、短径15~25cmの不整形円形、深さ7~20cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。P5は長径45cm、短径42cmの不整形円形、深さ28cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

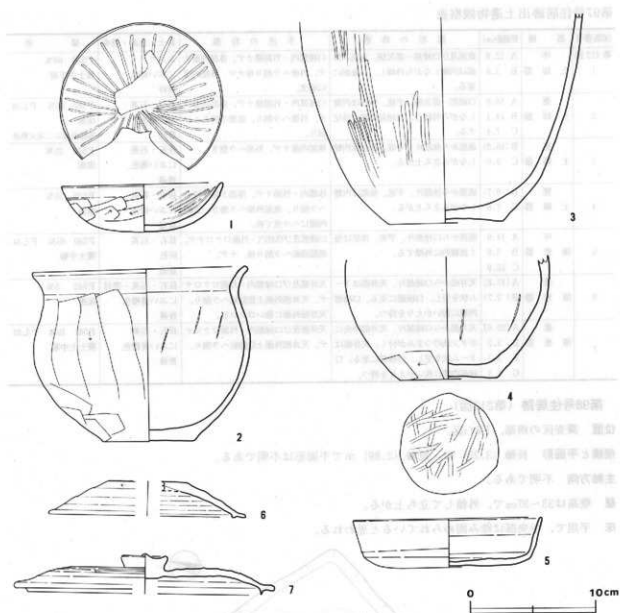


第211図 第97号住居跡実測図

竈 北西壁中央部を壁外に21cmほど三角形に掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、突口部から煙道部までの長さ102cm、最大幅140cmである。火床部は、床面を17cmほど掘り窪めている。煙道部は、火床面から急に立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 ぶい赤褐色 粘土粒子中量、焼土・ローム小ブロック少量
- 2 灰 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、粘土粒子少量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量
- 5 暗褐色 焼土・炭化粒子中量、焼土小ブロック少量
- 6 灰 褐色 焼土・炭化・ローム・粘土粒子少量
- 7 ぶい赤褐色 焼土・炭化・ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 8 ぶい赤褐色 焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量



第212図 第97号住居跡出土遺物実測図

覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化材・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム大ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 粘土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片136点、須恵器片4点の他、鉄滓が450g出土している。第212図1の土師器坏は、室内の覆土中層と竈前面の覆土下層から出土したものが接合した。2の土師器甕は北東部の床面直上と覆土中層から出土したものが接合し、3の土師器甕は座右袖部付近の床面直上からそれぞれ出土している。4の土師器甕は北部コーナー壁際の床面直上から、5の須恵器坏は中央部の覆土下層から出土した破片が接合した。6の須恵器蓋は東コーナー部の床面直上から、7の須恵器蓋は竈前面の覆土上層と東コーナー部の覆土下層から出土したものが接合した。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。

第97号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(m)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第212図	坏	A 12.9	底部及び口縁部一部欠損。丸底。体	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ	スコリア	P536 60%
1	土師器	B 3.8	部は内彎しながら外傾し、口縁部に	ナデ。外面ヘラ削り後ナデ。体部内面	にぶい橙色	覆土中下層
			至る。	に増文。	良好	
2	要	A 16.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ	長石・石英	P537 85% P.L34
	土師器	B 14.1	しながら外傾し、口縁部は緩く外反	ナデ。外面ヘラ削り。底部手持ヘラ	明赤褐色	床面
		C 7.4	する。	削り。	普通	体部外面に二次火熱痕
3	要	B (16.5)	底部から体部片。平底。体部は内彎	体部内面ナデ。外面ヘラ削き。	長石・石英	P538 25%
	土師器	C 9.0	しながら立ち上がる。		にぶい褐色	床面
					普通	
4	要	B (9.7)	底部から体部片。平底。体部は内彎	体部内・外面ナデ。体部下端手持	長石・石英	P539 35%
	土師器	C 7.8	しながら立ち上がる。	ヘラ削り。底部外面ヘラ削き。体部	にぶい橙色	床面
				内面にヘラ当て痕。	普通	
5	坏	A 14.9	底部から口縁部片。平底。体部は短	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英	P540 85% P.L34
須恵器	B 3.9	く直線的に外傾する。	底部回転ヘラ削り後、ナデ。	灰色	普通	覆土中層
	C 12.9					
6	蓋	A (15.8)	天井部から口縁部片。天井部はド	天井部及び口縁部内・外面ロクロナ	長石・石英・炭母	P542 5%
須恵器	B (2.7)	ーム状を呈し、口縁部に至る。口縁部	内側に短いかえりを持つ。	ナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	にぶい黄褐色	床面
				天井部外面に強いロクロ目。	普通	
7	蓋	A (20.6)	天井部から口縁部片。天井部中央に	天井部及び口縁部内・外面ロクロナ	長石・石英	P541 10% P.L31
須恵器	B 3.2	ボタン状のつまみが付く。天井部は	ドーム状を呈し、口縁部に至る。口	ナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	にぶい黄褐色	覆土上中層
	F 3.7				普通	
	G 1.4		縁部内側に長いかえりを持つ。			

第98号住居跡 (第213図)

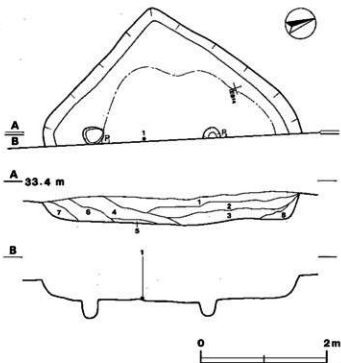
位置 調査区の南部, E8f区。

規模と平面形 長軸 (3.25) m, 短軸 (2.89) mで平面形は不明である。

主軸方向 不明である。

壁 壁高は33~37cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央部は踏み固められていると思われる。



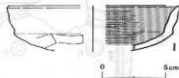
第213図 第98号住居跡実測図

ピット 2か所 (P₁・P₂)。P₁・P₂は、長径(17)~33cm、短径28~29cm不整形円形、深さ23~39cmで、性格は不明である。

覆土 8層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土・炭化・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 焼土・炭化・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量
- 8 暗褐色 ローム粒子少量



第214図 第98号住居跡
出土遺物実測図

第98号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	許容値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第214図 1	杯 土師器	A [13.5] B (3.6)	底部から体部片。丸底。体部は内埋して立ち上がり、口縁部との境に明確な線を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。内面全体へラ磨き後、黒色処理。体部外面手持ちへラ磨り。	長石・雲母 灰黄色 普通	P543 5% 床面

遺物 出土遺物は少なく土師器片1点のみである。第214図1の土師器杯は、中央部の床面直上から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期(6世紀後葉)と思われる。

第99号住居跡(第215図)

位置 調査区の南部、E7h区。

規模と平面形 長軸2.48m、短軸2.18mの長方形である。

主軸方向 N-9°-W

壁 壁高は57~63cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅25cm、下幅6cm、深さ6cmで、断面形はU字形である。

床 平坦であるが、踏み固めた部分は見られない。

ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁~P₂は、長径23~28cm、短径15~27cmの不整形円形、深さ5~14cmで、配置や規模から支柱穴と思われる。P₃は長径27cm、短径19cmの不整形円形、深さ15cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

竈 北壁中央部を壁外に50cmほど三角形に掘り込み、砂泥じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さ95cm、最大幅97cmである。火床部は、床面とはほぼ同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は、火床面から急に立ち上がっている。

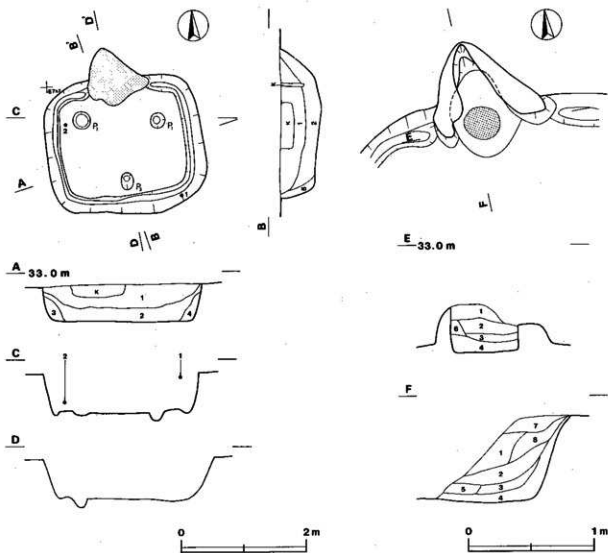
土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量
- 6 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子少量

覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量



第215図 第99号住居跡実測図

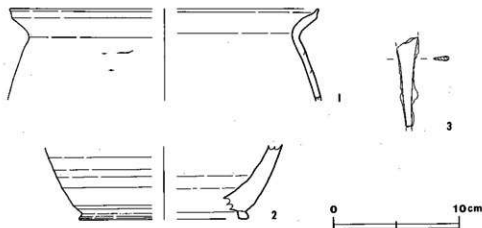
遺物 出土遺物は少なく、土師器片26点、須恵器片7点の他、鉄製品1点のみである。第216図1の土師器甕は南東コーナー部壁際の覆土上層から、2の須恵器長頸瓶は北西部の覆土下層から、3の鉄鏃は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と思われる。

第99号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第216図 1	土師器 甕	A (24.6)	体部から口縁部外。体部は内押し、口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面に輪模み痕。	長石・石英・雲母にぶい橙褐色 普通	P544 5% 覆土上層
		B (7.1)				
2	長頸瓶 須恵器	B (5.9)	高台部から体部片。高台は短く外反気味に開く。体部は内押し気味に立ち上がる。	体部内・外面クロナデ。体部下端回転へくすり。底部切り離し後、高台貼り付け。	長石・石英 灰白色 普通	P545 5% 覆土下層
		D (13.6)				
		E 0.5				

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
3	鉄鏃	(7.1)	1.7	0.4	(11.9)	覆土中	M74 P.L40



第216図 第99号住居跡出土遺物実測図

第100号住居跡 (第217・218図)

位置 調査区の南部, E7bc区。

重複関係 本跡は, 北西部を第13号溝に掘り込まれていることから, 第13号溝よりも古い。

規模と平面形 東部は調査区外のため, 長軸6.36m, 短軸(5.44)mの〔長方形〕と思われる。

主軸方向 N-3°-W

壁 壁高は60~78cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には, 全周する。上幅24cm, 下幅9cm, 深さ10cmで, 断面形はU字形である。

床 平坦で, 中央部は踏み固められている。

ピット 8か所(P₁~P₈)。P₁~P₃は, 長径65~77cm, 短径54~76cmの不整楕円形, 深さ56~61cmで, 配置や規模から支柱穴と思われる。P₄~P₇は長径20~35cm, 短径18~26cmの不整楕円形, 深さ30~32cmで, 配置から壁柱穴と思われる。P₈は長径117cm, 短径74cmの不整楕円形, 深さ18cmの不整楕円形で, 性格は不明である。

竈 北壁中央部を壁外に62cmほど三角形に掘り込み, 砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 焚口部から煙道部までの長さ120cm, 最大幅175cmである。火床部は, 床面をわずかに掘り盛めている。煙道部は, 火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

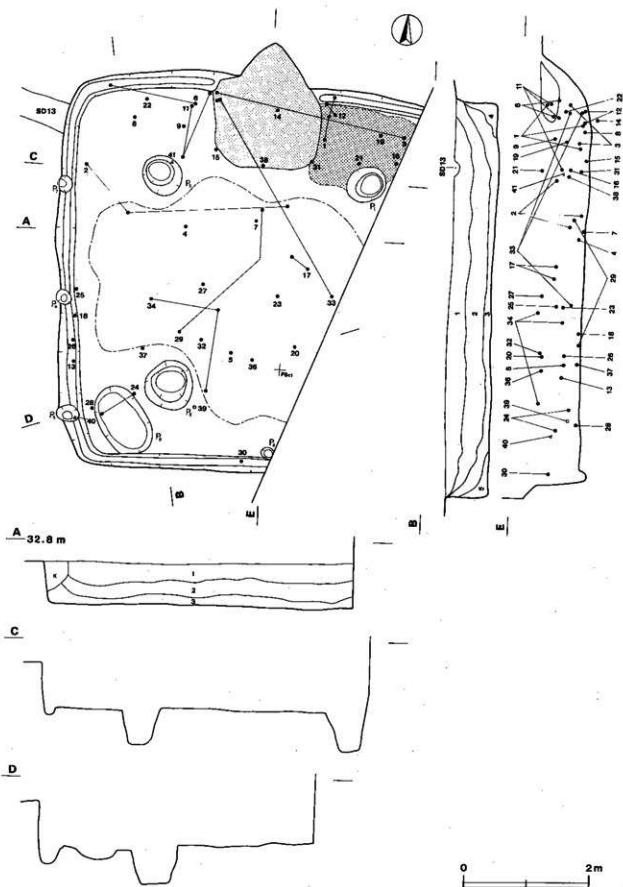
覆土層解説

- 1 灰 褐色 粘土粒子多量, 炭土粒子少量
- 2 灰 褐色 炭土・粘土粒子多量
- 3 にぶい赤褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・粘土粒子中量, 焼土粒子少量
- 4 にぶい赤褐色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・粘土粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子中量
- 7 灰 褐色 粘土粒子多量, ローム小ブロック少量
- 8 にぶい赤褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 10 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 炭化粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 11 灰 褐色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 12 にぶい赤褐色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量
- 13 にぶい赤褐色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 14 暗赤褐色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 15 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量

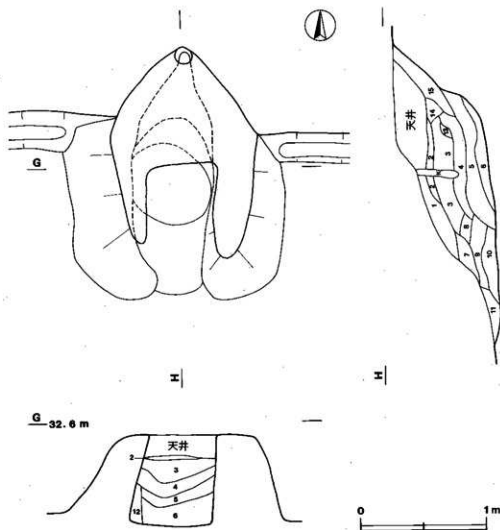
覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土・炭化・ローム中ブロック少量 | 3 暗褐色 | 焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量 | 4 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| | | 5 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |



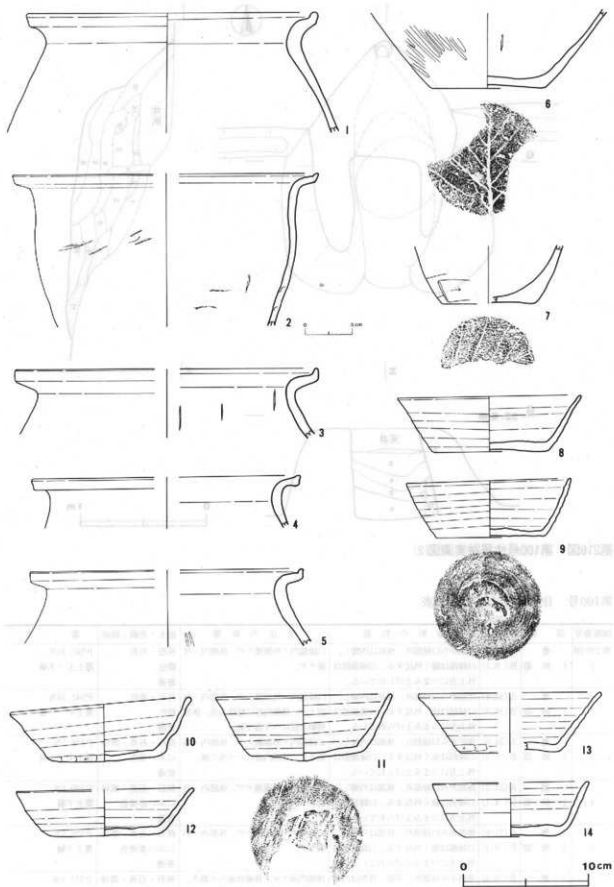
第217图 第100号住居跡実測图(1)



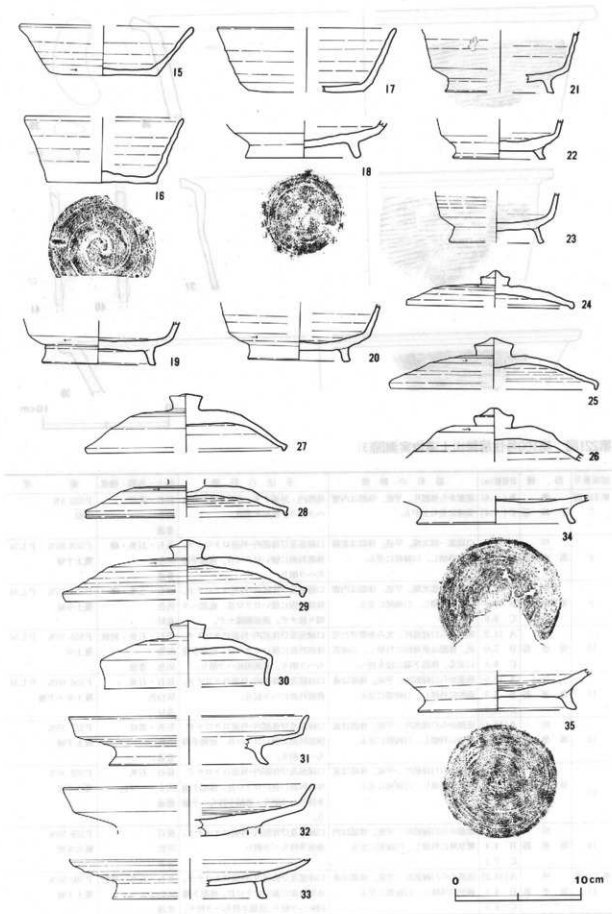
第218図 第100号住居跡実測図(2)

第100号 住居跡出土遺物観察表

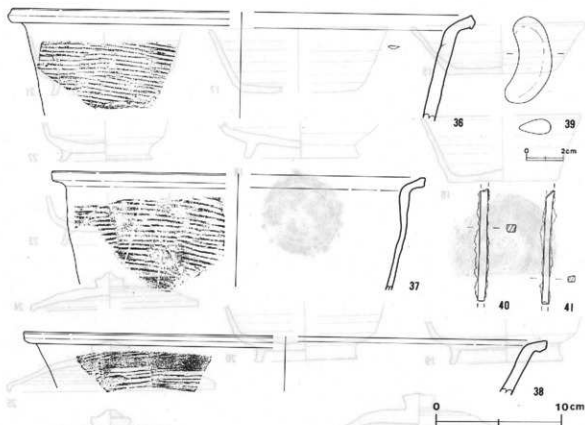
国版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第219国 1	土師器 甕	A 23.1 B (9.7)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 黄褐色 普通	P546 10% 覆土上・下層
2	土師器 甕	A (32.4) B (16.3)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面に輪積み痕。体部外面上位にヘラ当て痕。	長石・雲母 黄褐色 普通	P547 10% 覆土中・下層
3	土師器 甕	A (24.0) B (5.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P548 5% 覆土中・下層
4	土師器 甕	A (21.2) B (4.1)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P549 5% 覆土下層
5	土師器 甕	A (21.6) B (6.2)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P550 5% 覆土下層
6	土師器 鉢	B (6.2) C 9.0	底部から体部片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内面ナデ。体部外面ヘラ磨き。体部及び内面にヘラ当て痕。底部外面水磨痕。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P551 5% 覆土中層



第219图 第100号住居跡出土遺物実測図(1)



第220图 第100号住居跡出土遺物実測图(2)



第219図 第100号住居跡出土遺物実測図(3)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・発色	備考
第219図 7	甕	B(4.6)	底部から体部片。平底。体部は内彎的	体部内・外面ナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部木葉状。	長石・雲母 褐色 普通	P552 5% 床面
	土師器	C(7.4)	気味に立ち上がる。			
	坏	A 13.0	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部手持ちへラ削り。	長石・石英・糠 灰色 普通	P553 85% P.L34 覆土下層
8	坏	A 14.8	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部へ切り後ナデ。底部周縁ナデ。	長石・石英・糠 灰色 良好	P554 75% P.L34 覆土中層
	須恵器	B 4.4				
	坏	C 9.5				
9	坏	A 13.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部手持ちへラ削り。	長石・石英・糠 灰色 良好	P555 55% P.L34 覆土中
	坏	A 14.2	底部から口縁部片。丸みを帯びた平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。体部下端に段を持つ。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部手持ちへラ削り。底部周縁へラ削り。	長石・石英・針状 褐色 普通	P556 60% P.L34 覆土中・下層
	須恵器	B 5.0				
10	坏	A 14.0	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部外面にへラ記号。	長石・石英 灰白色 良好	P557 55% 覆土下層
	須恵器	B 5.3				
	坏	C 8.9				
11	坏	A(14.1)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部手持ちへラ削り。	石英・雲母 灰色 普通	P558 30% 覆土中層
	須恵器	B 3.7				
	坏	C 9.1				
12	坏	A(14.6)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端手持ちへラ削り。底部手持ちへラ削り。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P559 50% 竈火床面
	須恵器	B 4.8				
	坏	C(5.8)				
13	坏	A(12.4)	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端回転へラ削り。底部手持ちへラ削り。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P560 55% 覆土下層
	須恵器	B 4.4				
	坏	C 7.2				
第220図 15	坏	A(13.9)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。体部下端回転へラ削り。底部手持ちへラ削り。	長石・石英・雲母 灰色 普通	
	須恵器	B 4.0				
	坏	C 8.5				

図版番号	器 種	計測値(cm)	形 状 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
前 220 図 16	坏 須 恵 器	A [12.6]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P 561 25% 覆土下層
		B 5.3				
		C 8.8				
17	坏 須 恵 器	A [14.2]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部内・外面ナデ。	長石 灰黄色 普通	P 562 20% 覆土中層
		B 5.2				
		C [9.2]				
18	高台付坏 須 恵 器	B (3.0)	高台部片。高台は短く「ハ」の字状に開く。	底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英・雲母 ・バミス 灰色 普通	P 563 50% 覆土下層
		D 9.3				
		E 1.3				
19	高台付坏 須 恵 器	B (3.5)	高台部から体部片。高台は外反気味に真下に伸びる。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石 灰色 普通	P 564 50% 覆土中層
		D 9.0				
		E 1.4				
20	高台付坏 須 恵 器	B (4.7)	高台部から体部片。高台は短く外反気味に開く。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P 565 25% 覆土上層
		D 8.2				
		E 1.2				
21	高台付坏 須 恵 器	B (5.0)	高台部から体部片。高台は外反しながらか開く。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石・針状鉱物 灰色 普通	P 566 15% 覆土上層 体部外面に鉄錆付着
		D [8.7]				
		E 1.1				
22	高台付坏 須 恵 器	B (3.2)	高台部から体部片。高台は外反しながらか開く。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石 灰色 良好	P 567 20% 覆土中層
		D 7.4				
		E 1.1				
23	高台付坏 須 恵 器	B (4.0)	高台部から口縁部片。高台は高めで直線的に開く。体部は直線的に立ち上がる。全体に質は薄い。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英・雲母 灰白色 良好	P 568 10% 覆土中層
		D [7.6]				
		E 1.3				
24	蓋 須 恵 器	A [13.4]	天井部から口縁部片。天井部中央に擬宝珠状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し、口縁部に至る。口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P 578 30% 覆土中・下層
		B 2.9				
		F 2.3 G 1.2				
25	蓋 須 恵 器	A [16.6]	天井部から口縁部片。天井部中央に擬宝珠状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し、口縁部に至る。口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石 灰色 普通	P 579 25% P L34 覆土中層
		B 4.1				
		F 3.2 G 1.5				
26	蓋 須 恵 器	B (4.3)	天井部片。天井部中央に擬宝珠状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し、外面にわずかな段を持つ。	天井部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄色 良好	P 580 60% 覆土中層
		F 3.2				
		G 1.6				
27	蓋 須 恵 器	A [16.2]	天井部から口縁部片。天井部中央に擬宝珠状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し、口縁部に至る。口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。	長石 灰色 普通	P 575 50% P L34 覆土上層
		B 4.6				
		F 2.6 G 1.3				
28	蓋 須 恵 器	A [16.2]	天井部から口縁部片。つまみ欠損。天井部はドーム状を呈し、口縁部に至る。口縁端部は外反気味に折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。天井部外面下位に強いロクロ目。	長石・石英・針状 鉱物 灰色 普通	P 576 50% 覆土下層
		B (2.9)				
29	蓋 須 恵 器	A [19.7]	天井部から口縁部片。天井部中央に擬宝珠状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し、口縁部に至る。口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。天井部外面上位回転ヘラ削り。天井部外面下位に強いロクロ目。	長石・石英 灰色 普通	P 574 70% P L34 覆土下層
		B 4.7				
		F 2.9 G 1.4				
30	蓋 須 恵 器	A [13.2]	天井部から口縁部片。天井部中央に擬宝珠状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し、口縁部は内傾する。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナデ。	長石 地灰色 普通	P 577 35% P L34 覆土中層
		B 5.4				
		F 2.9 G 1.4				
31	蓋 須 恵 器	A [19.2]	高台部から口縁部片。高台は外反しながら開く。体部は外傾し、口縁部は外反気味に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部切り履し後、高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P 570 10% 覆土下層
		B 4.9				
		D [12.8] E 1.4				
32	蓋 須 恵 器	A [20.0]	高台部欠損。体部は外傾し、口縁部は直線的に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石 灰色 普通	P 569 30% 覆土上層
		B (4.1)				

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第220図 33	甕 須恵器	B (3.2) D (12.4) E 1.3	高台部から体部片。高台は高めで外反しながら開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へう削り後、高台貼り付け。	長石・石英・雲母 灰ネオリープ色 普通	P572 30% 覆土下層 底部外面に磁粒埋込みあり
		B (2.2) D 12.6 E 1.2	高台部から体部片。高台は外反しながら開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へう削り後、高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P573 25% 覆土下層
35	甕 須恵器	B (3.2) D 12.7 E 1.7	高台部から体部片。高台は高めで外反しながら開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へう削り後、高台貼り付け。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P571 50% 覆土中層
		A (36.8) B (8.5)	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾し、口縁部は強く外反する。口縁端部は断面三角形の縁帯を持つ。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面横方向の平行タタキ。	長石・パミス 灰色 普通	P581 5% 覆土上層
37	甕 須恵器	A (29.8) B (9.0)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾し、口縁部は強く外反する。口縁端部はわずかに肥厚する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面横方向の平行タタキ。	雲母 灰色 普通	P582 5% 覆土下層
		A (41.8) B (4.5)	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾し、口縁部は強く外反する。口縁端部は断面三角形の縁帯を持つ。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面横方向の平行タタキ。	長石・石英・雲母 灰白色 良好	P583 5% 覆土中層

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
39	石製模造品	4.6	2.5	0.8	12.4	安山岩	覆土下層	Q38

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
40	鉄線	(9.0)	0.7	0.7	(18.0)	覆土中層	M75 P L41
41	鉄線	(9.0)	0.6	0.6	(11.4)	覆土中層	M76

遺物 遺構全体に散在した状態で、土師器片840点、須恵器片556点、石製模造品1点、鉄製品2点、鉄滓15.15kgが出土している。他の遺構に比べ遺物量は多い。第219・220・221図1の土師器甕は甕右袖部付近の覆土上・下層から、12の須恵器杯は甕右袖部付近の覆土下層から、2の土師器甕は北西部の覆土中・下層と甕前面の覆土下層から出土したものが接合した。3の土師器甕は甕左袖部付近の覆土中層と北西部の覆土下層から、4の土師器甕は中央部の覆土下層から、5の土師器甕は南部の覆土下層から、6の土師器甕は北西部壁際の覆土中層から、9の須恵器杯・22の須恵器高台付杯は北西部の覆土中層からそれぞれ出土している。7の土師器甕は中央部の床面直上から、8の須恵器杯は北西部の覆土下層から、10の須恵器杯は覆土中から出土している。11の須恵器杯は甕左袖部付近の覆土上層と中層から出土したものが接合した。13の須恵器杯は南西部壁際の覆土中層から、14の須恵器杯は甕内の火床面直上から、15の須恵器杯は甕左袖部前面の覆土下層からそれぞれ出土している。16の須恵器杯は北東部の覆土下層から、17の須恵器杯は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。18の須恵器高台付杯は西部壁際の覆土下層から、19の須恵器高台付杯は北東部の覆土中層から、20の須恵器高台付杯は南部の覆土上層から、21の須恵器高台付杯はP1付近の覆土上層から、23の須恵器高台付杯は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。24の須恵器蓋はPa付近の覆土中・下層から出土したものが接合し、25・26の須恵器蓋は西部壁際の覆土中層から出土している。27の須恵器蓋は中央部の覆土上層から、28の須恵器蓋はPa付近の覆土下層から、29の須恵器蓋は北部と南西部の覆土下層から出土したものが接合し、30の須恵器蓋は南部壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。31の須恵器蓋は甕右袖部付近の覆土下層から、32の須恵器蓋は南部の覆土上層から、33の須恵器蓋は甕左袖部付近の覆土中・下層と東部の覆土下層から出土したものが接合し、34の須恵器蓋は中央部の覆土下層・南部の覆土中層・西部の覆土上層から出土したものが接合した。35の須恵器蓋は覆土中から、36の須恵器蓋は南部の覆土上層から、

37の須恵器甕は南西部の覆土下層から、38の須恵器甕は壺付近の覆土中層からそれぞれ出土している。39の石製模造品はP₂付近の覆土下層から、40の鉄鏝はP₅付近の覆土中層から、41の鉄鏝はP₃上の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀後半と思われる。

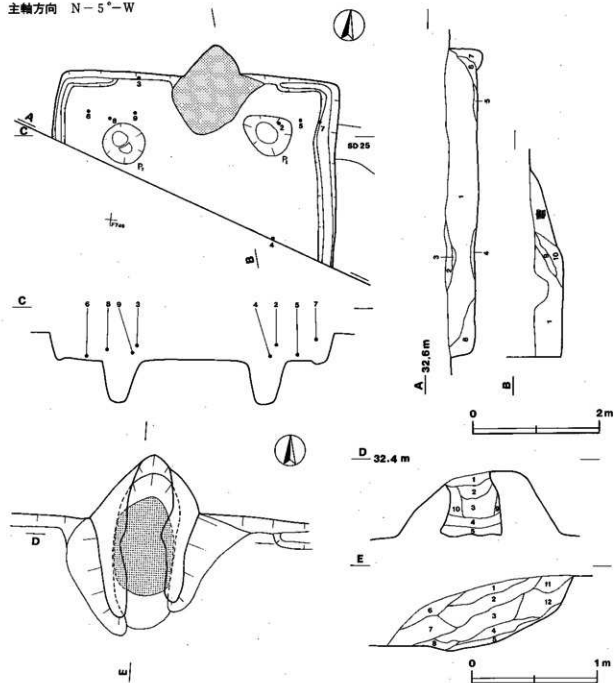
第101号住居跡 (第222区)

位置 調査区の南部、F7c区。

重複関係 本跡は、東部を第25号溝に掘り込まれていることから、第25号溝よりも古い。

規模と平面形 長軸4.5m、短軸(2.60)mの、[長方形]と思われる。

主軸方向 N-5°-W



第222区 第101号住居跡実測図

壁 壁高は45~65cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には、北壁の一部を除いて壁溝が回っている。上幅30cm、下幅14cm、深さ5cmで、断面形はU字形である。

床 平坦であるが、踏み固めた部分は捉えられなかった。

ピット 2か所(P₁・P₂)。P₁・P₂は、長径65~80cm、短径58~62cmの不整形円形、深さ54~69cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。

竈 北壁中央部を壁外に50cmほど三角形に掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さ140cm、最大幅145cmである。火床部は、床面をわずかに掘り窪めており、焼けて赤変している。煙道部は、火床面から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 にぶい赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土・炭化粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック・炭化粒子中量、炭化材少量
- 5 暗褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、炭化粒子少量
- 6 灰褐色 粘土粒子多量、ローム粒子少量
- 7 にぶい赤褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 9 にぶい赤褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 にぶい赤褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 11 灰褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量
- 12 にぶい赤褐色 ローム小ブロック中量、焼土・粘土粒子少量

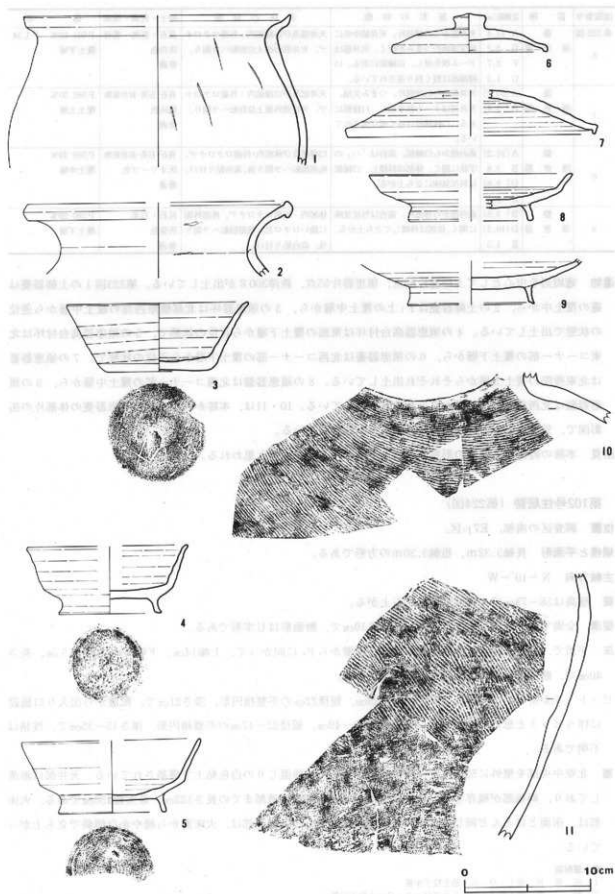
覆土 各層ともロームブロックを含んでおり、また、不自然な堆積状況から10層からなる人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 焼土・炭化・ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 9 褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 灰褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量

第101号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第223図 1	土 甕	A (21.4)	体部は内傾し、口縁部は強く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面にへら当て痕。	石英・雲母にぶい褐色 普通	F584 10% 覆土中層
	土 甕	B (12.2)				
2	土 甕	A (20.8)	体部は内傾し、口縁部は強く外反する。口縁端部は断面三角形の縁帯を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母にぶい黄褐色 普通	F585 5% 覆土中層
	土 甕	B (6.0)				
3	坏	A 14.5	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面クロコナテ。体部外面に強いクロコ目。底部回転へら削り後、ナデ。	長石・石英・針状炭化物 浅黄色 良好	F586 8% P L34 覆土中層 底部外面にへら記号
	須 恵 器	B 5.5				
	須 恵 器	C 8.1				
4	高台付坏	A (12.7)	高台部から口縁部片。高台は外反気味に開く。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面クロコナテ。底部回転へら削り後、高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	F587 5% 覆土下層
	高台付坏	B 5.4				
	須 恵 器	D 8.2				
	須 恵 器	E 1.2				
5	高台付坏	A (14.2)	高台部から口縁部片。高台は高めで「ハ」の字状に開く。	口縁部及び体部内・外面クロコナテ。底部回転へら削り後、高台貼り付け。	長石・石英 灰黄色 良好	F588 30% 覆土下層 底部外面にへら記号
	須 恵 器	B 5.8				
	須 恵 器	D 8.6				
	須 恵 器	E 1.4				



第223图 第101号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第223図 6	蓋 須 恵 器	A 12.4	天井部から口縁部片。天井部中央に 匱室球状のつまみが付く。天井部は ドーム状を呈し、口縁部に至る。口 縁部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナ デ。天井部外面上位回転へラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P591 60% P L34 覆土下層
		B 3.2				
		F 2.7				
		G 1.2				
7	蓋 須 恵 器	A (20.2)	天井部から口縁部片。つまみ欠損。 天井部はドーム状を呈し、口縁部に 至る。口縁部は短く折り返されて いる。	天井部及び口縁部内・外面ロクロナ デ。天井部外面上位回転へラ削り。	長石・石英・針状鉱物 陶灰色 普通	P592 30% 覆土上層
		B (3.6)				
8	蓋 須 恵 器	A [16.2]	高台部から口縁部。高台は「ハ」の 字状に開く。体部は外傾し、口縁部 は外反気味に立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 底部回転へラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英・針状鉱物 灰オリーブ色 普通	P589 30% 覆土中層
		B 3.8				
		D [9.8]				
		E 1.3				
9	蓋 須 恵 器	B (3.5)	高台部から体部片。高台は外反気味 に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面 に強いロクロ目。底部回転へラ削り 後、高台貼り付け。	長石・石英 灰黄色 普通	P590 20% 覆土下層
		D [10.2]				
		E 1.5				

遺物 竈周辺を中心として土師器片83点、須恵器片55点、鉄滓300gが出土している。第223図1の土師器甕は竈の覆土中から、2の土師器甕はP1上の覆土中層から、3の須恵器杯は北東壁際西部の覆土中層から逆位の状態で出土している。4の須恵器高台付坏は東部の覆土下層から正位の状態で、5の須恵器高台付坏は北東コーナー部の覆土下層から、6の須恵器蓋は北西コーナー部の覆土下層から正位の状態で、7の須恵器蓋は北東壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。8の須恵器蓋は北西コーナー部の覆土中層から、9の須恵器蓋は北西部の覆土下層からそれぞれ出土している。10・11は、本跡から出土した須恵器甕の体部片の拓影図で、外面に縦あるいは横の平行タタキが施されている。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀後葉と思われる。

第102号住居跡 (第224図)

位置 調査区の南部、E7j区。

規模と平面形 長軸3.32m、短軸3.30mの方形である。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は58~73cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅27cm、下幅15cm、深さ10cmで、断面形はU字形である。

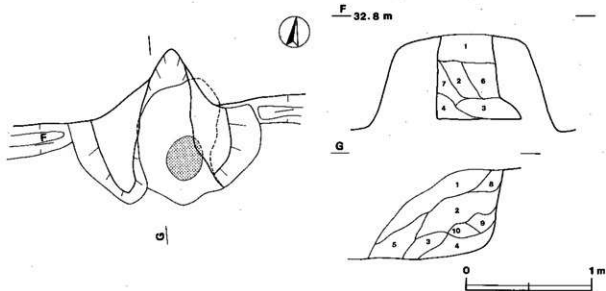
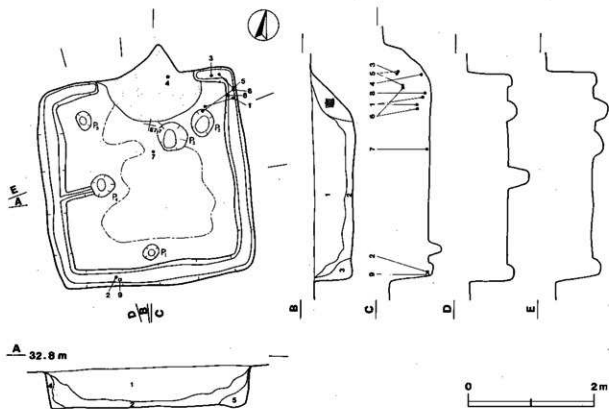
床 平坦で、中央部は踏み固められている。西壁からP4に向かって、上幅14cm、下幅3cm、深さ5cm、長さ40cmで、断面形はU字形の溝が構築されている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1は、長径26cm、短径22cmの不整形円形、深さ21cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P2~P5は長径30~49cm、短径22~47cmの不整形円形、深さ15~35cmで、性格は不明である。

竈 北壁中央部を壁外に52cmほど三角形に掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さ122cm、最大幅150cmである。火床部は、床面とほとんど同じレベルの床面を使用している。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

覆土層解説

- 1 灰褐色 焼土・ローム・粘土粒子少量
- 2 陶褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量
- 4 極暗赤褐色 焼土粒子中量



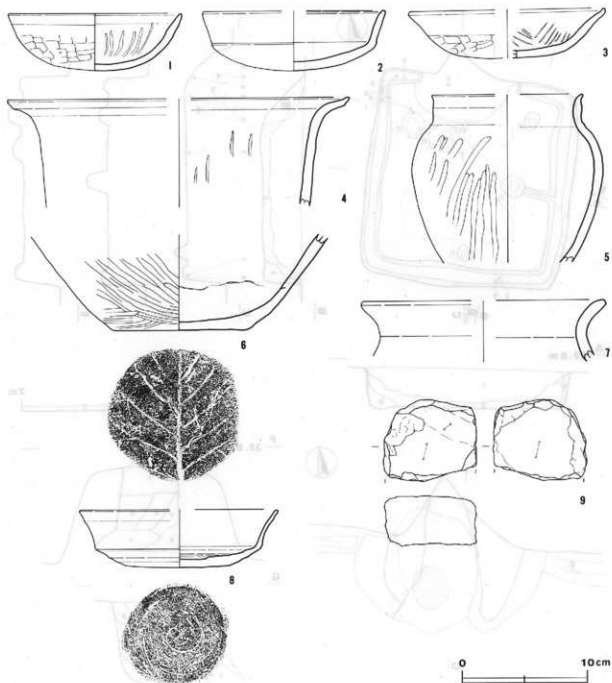
第224図 第102号住居跡実測図

- 5 暗 褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量
- 7 にぶい赤褐色 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 8 暗 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 9 にぶい赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 10 暗 赤 褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量

覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子少量
- 3 暗 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 5 陶 色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量



第225図 第102号住居跡出土遺物実測図

第102号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・産成	備考
第225図 1	土器 碗	A 13.8	底部から口縁部片。丸底。体部は内傾しながら外傾し、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り後ナデ。体部内面に暗文。	スコリア・雲母にふい灰色に暗文。	P593 70% 覆上下層
		B 4.6				
2	土器 碗	A (14.4)	底部から口縁部片。丸底。体部は内傾気味に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリアにふい黄褐色に暗文。	P594 50% 覆上下層 土器
		B 4.8				
3	土器 碗	A (15.4)	底部から口縁部片。丸みを帯びた平底。体部は内傾気味に外傾し、口縁部はわずかに内反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面手持ちへラ削り。底部手持ちへラ削り。体部内面に暗文。	スコリア・雲母にふい灰色に暗文。	P595 40% 覆土上層
		B (3.8)				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第225図 4	甕 土師器	A(27.2) B(8.7)	体部から口縁部片。体部は内唇外側に外傾し、口縁部は横く外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面にへら当て痕。	灰石・石英・雲母 褐色 普通	P596 5% 甕覆土下層
5	小形甕 土師器	A(12.0) B(13.5)	体部から口縁部片。体部は内唇しながら外傾し、口縁部は直立する。口縁端部はわずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面へら磨き。	灰石・雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P599 20% 覆土上層
6	甕 土師器	B(7.7) C 10.8	底部から体部片。平底。体部は内唇しながら立ち上がる。	体部内面ナデ、外面へら磨き。体部内面に輪横み痕。底部外面木葉痕。	灰石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P598 15% 覆土中・下層
7	甕 土師器	A(19.4) B(4.9)	体部から口縁部片。体部は内唇し、口縁部は横く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P597 5% 覆土下層
8	坏 須恵器	A(15.2) B 4.7 C 8.3	底部から口縁部片。平底。体部は外反気味に外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転へら削り。	灰石・石英・雲母 灰白色 良好	P600 60% 覆土下層

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
9	紙石	(6.4)	7.4	4.0	(226.9)	凝灰岩	床面	Q30

遺物 遺構の北東コーナー部を中心に土師器片101点、須恵器片15点、鉄滓600gが出土している。第225図1の土師器坏は、北東コーナー部と北東壁際の覆土下層から出土したものが接合した。2の土師器坏は南部壁溝の覆土下層から逆位の状態、3の土師器坏は北東コーナー壁際の覆土上層から、4の土師器甕は竈内の覆土下層からそれぞれ出土している。5の土師器小形甕は北東コーナー壁際の覆土上層から、6の土師器甕はP₂付近の覆土下層と北東コーナー壁際の覆土中層から出土したものが接合した。7の土師器甕は中央部の覆土下層から、8の須恵器坏は同じく北東コーナー壁際の覆土下層から出土している。9の紙石は、南部壁際の床面直上から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀と思われる。

第103号住居跡(第226図)

位置 調査区の南部、E7js区。

規模と平面形 長軸3.47m、短軸3.44mの方形である。

主軸方向 N-92°-E

壁 壁高は7~17cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅21cm、下幅9cm、深さ8cmで、断面形はU字形である。

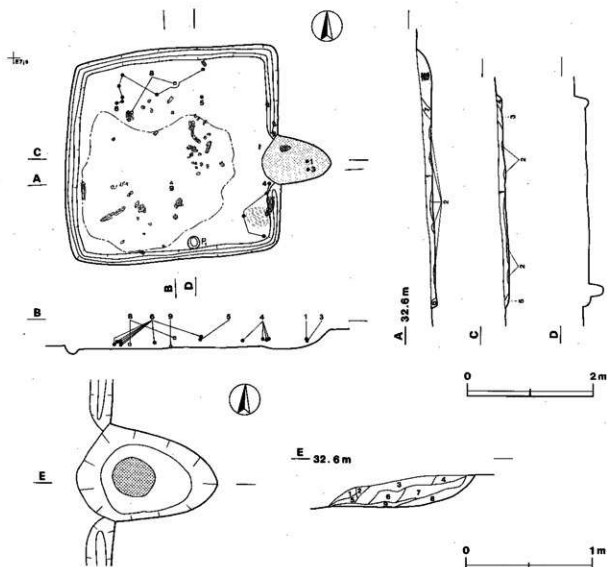
床 平坦で、中央部から南西部にかけて踏み固められている。

ピット 1か所(P₁)。P₁は、径20cmの不整形円形、深さ22cmで、性格は不明である。

竈 東壁中央部からやや南よりを壁外に85cmほど三角形に掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部・両袖部とも遺存していない。規模は、焚口部から煙道部までの長さ112cm、最大幅75cmである。火床部は、床面をわずかに掘り窪めて使用している。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

覆土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量



第226図 第103号住居跡実測図

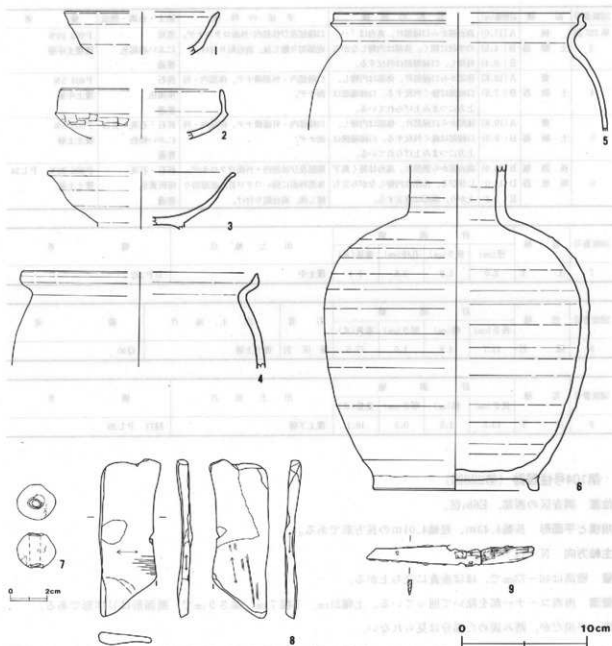
- | | | |
|---|--------|---------------------------|
| 3 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量 |
| 4 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土中・小ブロック・炭化粒子少量 |
| 5 | 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子少量 |
| 6 | 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土中・小ブロック中量、炭化粒子少量 |
| 7 | 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土中・小ブロック・炭化粒子中量 |
| 8 | にぶい赤褐色 | 焼土・炭化粒子少量 |
| 9 | 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量 |

覆土 7層からなる自然堆積である。

土層解説

- | | | |
|---|-----|-------------------------|
| 1 | 黒褐色 | 炭化粒子多量、焼土・ローム粒子少量、炭化材微量 |
| 2 | 暗褐色 | 炭化・ローム粒子中量 |
| 3 | 黒褐色 | 炭化・ローム粒子少量 |
| 4 | 暗褐色 | 炭化粒子中量、ローム粒子少量 |
| 5 | 黒褐色 | 炭化・ローム粒子少量 |
| 6 | 暗褐色 | 炭化粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 7 | 黒褐色 | 焼土・炭化・ローム粒子少量 |

遺物 土師器片60点、須恵器片9点、土製品1点、石製品1点、鉄製品1点、鉄滓700gが出土している。遺物は、竈内とその周辺、西部を中心に出土している。また、遺構全体に炭化材が検出されたことから、焼失家屋の可能性が高い。第227図1の土師器坏と3の土師器高台付坏は竈内の覆土中層から、2の土師器坏は覆土中から、4の土師器甕は南東部の覆土中層からそれぞれ出土している。5の土師器甕と6の須恵器長頸瓶は



第227図 第103号住居跡出土遺物実測図

北部の覆土上層から出土している。7の土玉は覆土中から、8の砥石は北部の覆土上層から、9の刀子は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代（10世紀前半）と思われる。

第103号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第227図	坏	A(12.4)	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾し、口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英 ぶい橙色	P601 25% 覆土中層
1	土師器	B(3.5)			普通	
2	坏	A(12.6)	底部から口縁部片。丸底。体部は内傾しながら外傾し、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り残ナデ。	長石・雲母 未褐色	P602 5% 覆土中
	土師器	B(4.0)			普通	

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第227図 3	陶土師器	A [15.0] B (4.5) E (0.4)	高台部から口縁部片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎しながら外傾し、口縁端部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部切り離し後、高台貼り付け。	雲母にぶい赤褐色 普通	P 603 10% 覆土中層
4	陶土師器	A (18.8) B (7.6)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石 黒褐色 普通	P 604 5% 覆土中層
5	陶土師器	A (19.8) B (9.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母にぶい褐色 普通	P 605 5% 覆土上層
6	長須須恵器	B (26.0) D 13.0 E 1.2	高台部から頸部片。高台は短く真下に伸びる。体部は内彎しながら立ち上がり、頸部は直立する。	頸部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部切り離し後、高台貼り付け。	長石・石英 暗灰黄色 普通	P 606 20% P L 34 覆土上層

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
7	土玉	2.0	1.9	0.6	5.1	覆土中	DP 132

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
8	砥石	12.7	4.9	1.0	77.5	凝灰岩	覆土上層	Q40

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
9	刀子	13.5	1.5	0.3	16.1	覆土下層	M77 P L 39

第104号住居跡(第228図)

位置 調査区の西部、E6b区。

規模と平面形 長軸4.43m、短軸4.01mの長方形である。

主軸方向 N-14°-W

壁 壁高は46~73cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南西コーナー部を除いて回っている。上幅21cm、下幅7cm、深さ9cmで、断面形はU字形である。

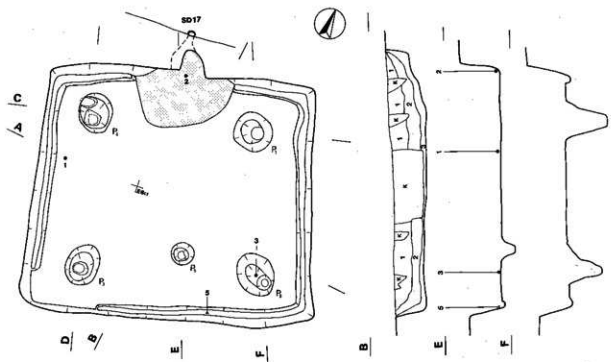
床 平坦だが、踏み固めた部分は見られない。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は、長径54~74cm、短径51~62cmの不整形円形、深さ48~65cmで、配置や規模から支柱穴と思われる。P5は径36cmの不整形円形、深さ24cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

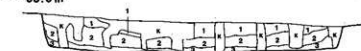
竈 北壁中央部を壁外に70cmほどに掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さ155cm、最大幅160cmである。火床部は、床面と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は、火床面から直線的に外傾して立ち上がっている。

覆土層解説

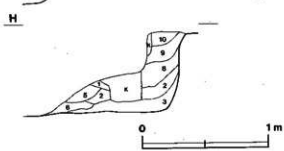
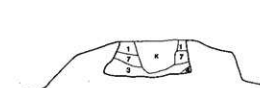
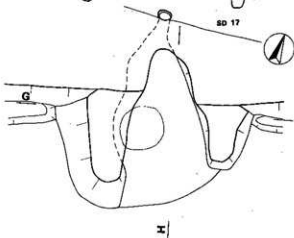
- 1 暗赤褐色 焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子中量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量。焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 4 にぶい赤褐色 粘土粒子中量。焼土粒子少量
- 5 暗赤褐色 粘土・焼土粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量
- 7 暗赤褐色 焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 灰褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子中量
- 9 にぶい赤褐色 焼土・ローム・粘土粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子中量。ローム小ブロック少量



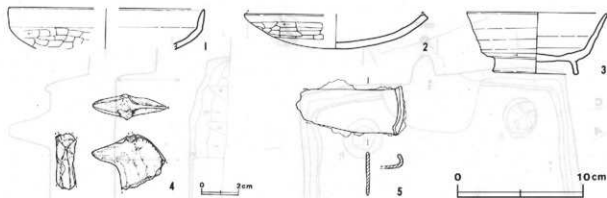
A 33.6 m



G 33.4 m



第228图 第104号住居跡实测图



第229図 第104号住居跡出土遺物実測図

第104号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第229図 1	土師器	A(15.6) B(3.3)	体部から口縁部片。体部は内傾しながら外傾し、口縁部は直線的に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ削り後ナデ。	長石・雲母 褐色 普通	P607 5% 覆土下層
2	土師器	B(2.9)	底部から体部片。丸底、口縁部欠損。体部は内傾しながら外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面ヘラ削り後ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P608 30% 覆土下層
3	高台付 須恵器	A 11.2 B 5.0 C 6.9 E 1.1	口縁部一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部外面に強いロクロ目。底部翻転ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P609 95% P L34 P ₂ 覆土中

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)		
4	土製模造品	(3.9)	(1.7)	(2.9)	(7.3)	覆土中	D P133

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
5	鉄	(8.7)	4.0	1.3	(33.4)	覆土下層	M78 P L40

覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

- 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土・炭化粒子少量
- 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量、焼土・炭化粒子・ローム大ブロック少量
- 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片37点、須恵器片20点の他、土製品1点、鉄製品1点が出土している。第229図1の土師器片は北西部の覆土下層から、2の土師器片は竈内の覆土下層から、3の須恵器高台付坯はP₂の覆土中からそれぞれ出土している。4の土製模造品は竈の覆土中から、5の鉄鎌は南部壁際の覆土下層から出土している。

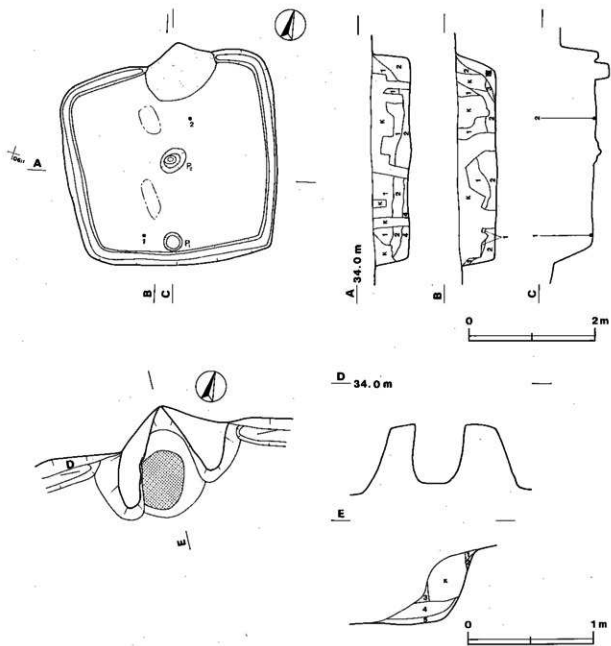
所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（6世紀後半）と思われる。

第105号住居跡（第230図）

位置 調査区の西部、D6h1区。

規模と平面形 長軸3.38m、短軸3.22mの方形である。

図面資料 図面資料



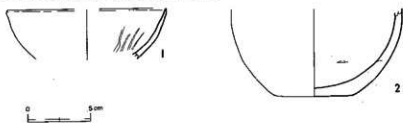
第230図 第105号住居跡実測図

主軸方向 N-22°-W

壁 壁高は53~58cmで、外傾してほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅22cm、下幅9cm、深さ7cmで、断面形は逆台形である。

床 平坦で、北西部と南部の2か所で硬化面を検出した。



第231図 第105号住居跡出土遺物実測図

ピット 2か所 (P₁・P₂)。P₁は、径30cmの不整形円形、深さ23cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P₂は長径45cm、短径34cmの不整形円形、深さ11cmで、性格は不明である。

竈 北西壁中央部からやや北側を壁外に26cmほど三角形に掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さ85cm、最大幅 120cmである。火床部は、床面と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は、火床面から直線的に立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土・ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土・ローム粒子
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、焼土中ブロック少量
- 5 極暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、焼土中ブロック・焼土粒子少量

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量

遺物 出土遺物は少なく、また破片が多い。土師器片43点、須恵器片10点が出土している。第231図1の土師器片は南部覆土下層から、2の土師器片は竈前面の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と思われる。

第105号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第231図 1	土師器	A (2.7)	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部内面に暗文。	針状鉱物 褐色	P610 20% 覆土下層
		B (4.0)			普通	
2	土師器	B (7.0)	底部から体部片。体部は内彎しながら外傾する。	体部内・外面ナデ。	長石・石英・スクリア 棕色	P611 20% 覆土下層
		C 6.2			普通	

第106号住居跡 (第232図)

位置 調査区の西部、D4h区。

重複関係 本跡は、西部を第11号住居跡に掘り込まれていることから、第11号住居跡よりも古い。

規模と平面形 長軸 (3.52) m、短軸 (2.15) mの〔長方形〕と思われる。

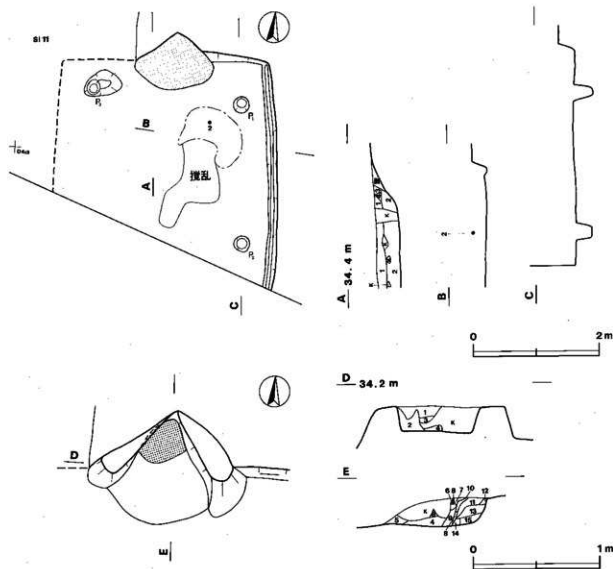
主軸方向 N-0°

壁 壁高は20-26cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には、北壁を除いて壁溝が回っている。上幅16cm、下幅4cm、深さ4cmで、断面形は逆台形である。

床 平坦で、北東部が踏み固められている。

ピット 3か所 (P₁~P₃)。南西部は調査区外のため、ピットは検出できなかった。P₁~P₂は、長径25-57cm、短径24-40cmの不整形円形、深さ24-30cmで、配置や規模から主柱穴と思われる。

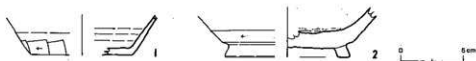


第332図 第106号住居跡実測図

竈 北壁は中央部を壁外に45cmほど三角形に掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さ90cm、最大幅127cmである。火床部は、床面をわずかに掘り窪めて使用している。煙道部は、火床面から急に立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | |
|----|--------|---------------------------|
| 1 | 黒褐色 | 焼土・ローム小ブロック少量、炭化物微量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子中量、焼土・粘土粒子少量 |
| 3 | 暗褐色 | 焼土粒子・ローム小ブロック・粘土粒子少量 |
| 4 | 暗褐色 | 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック少量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム小ブロック中量、焼土・粘土粒子少量 |
| 6 | 赤褐色 | 粘土粒子多量 |
| 7 | 暗赤褐色 | 粘土粒子多量、炭化物微量 |
| 8 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化物少量 |
| 9 | にぶい赤褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子少量 |
| 10 | にぶい赤褐色 | 粘土粒子多量、ローム粒子中量 |
| 11 | にぶい赤褐色 | 粘土粒子多量、焼土小ブロック・焼土粒子中量 |
| 12 | にぶい赤褐色 | 粘土粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量、炭化物微量 |
| 13 | 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、粘土粒子少量、炭化物微量 |
| 14 | 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子中量、炭化物少量 |
| 15 | にぶい赤褐色 | 粘土粒子多量、焼土粒子中量、炭化物少量 |
| 16 | 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子中量、炭化物少量 |
| 17 | にぶい褐色 | 粘土粒子多量、焼土粒子中量 |



第233図 第106号住居跡出土遺物実測図

第106号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第233図 1	須恵器 環	B(3.2) C(8.0)	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナガ。体部下端手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P73 5% 覆土中
2	須恵器 長頸瓶	B(4.0) D(10.0) E 1.0	高台部から体部片。高台は「ハ」の字状に開く。体部は内彎角状に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナガ。底縁面削り後、高台貼り付け。	長石 浅黄色 普通	P612 5% 覆土上層

覆土 各層ともロームブロック等を多く含み、また不自然な堆積状況から4層からなる人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物微量
- 3 褐色 焼土・ローム小ブロック・ローム粒子少量、粘土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・粘土粒子微量

遺物 出土遺物は少なく、また破片が多い。土師器片30点、須恵器片2点が出土している。第233図1の須恵器環は覆土中から出土している。2の須恵器長頸瓶は北東部の覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は第11号住居跡を掘りこんでいることや、出土遺物等から8世紀前葉以降と思われる。

第107号住居跡(第234図)

位置 調査区の西部、D513区。

重複関係 本跡は、第15号住居跡の南西部を掘り込んでおり、第15号住居跡よりも新しい。

規模と平面形 長軸3.72m、短軸3.27mの長方形である。

主軸方向 N-16°-W

壁 壁高は28-33cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 確認された壁下には、西壁の一部を除いて壁溝が回っている。上幅25cm、下幅10cm、深さ8cmで、断面形はU字形である。

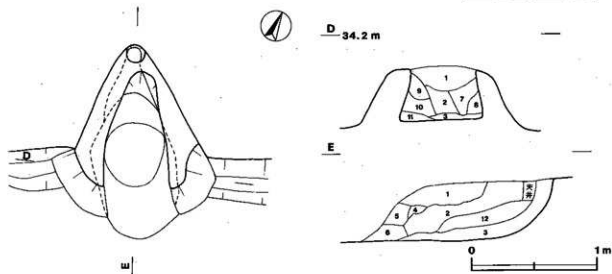
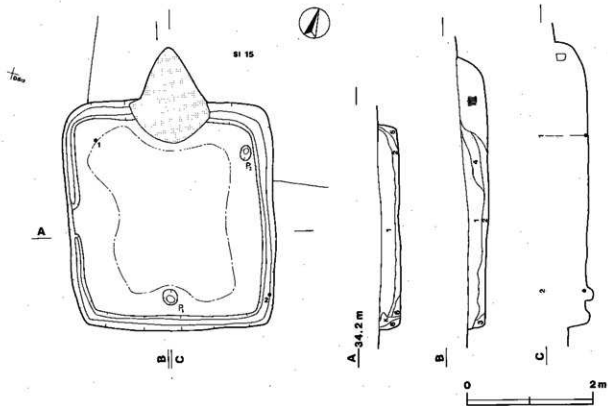
床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ビット 2か所(P1・P2)。P1は、長径25cm、短径22cmの不整形円形、深さ11cmで、配置から出入り口施設に伴うビットと思われる。P2は長径25cm、短径16cmの不整形円形、深さ13cmで、性格は不明である。

竈 北壁中央部を壁外に85cmほど三角形に掘り込み、砂混じりの白色粘土で構築されている。遺存状態は良好で、天井部北側に運出し部も検出できた。両袖部も残存している。規模は、焚口部から煙道部までの長さは155cm、最大幅130cmである。火床部は、床面と同じレベルの床面を使用している。煙道部は、火床面から緩やかに外傾し、中位からはほぼ垂直に立ち上がっている。

覆土層解説

- 1 褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 に近い赤褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 4 灰褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量
- 5 に近い赤褐色 焼土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 に近い赤褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量



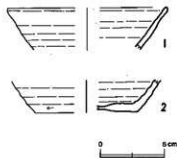
第234図 第107号住居跡実測図

- 7 にぶい赤褐色 焼土・粘土粒子中量、焼土小ブロック少量
- 8 暗赤褐色 焼土・粘土粒子中量、焼土小ブロック少量
- 9 にぶい赤褐色 焼土・ローム・粘土粒子少量
- 10 灰褐色 粘土粒子多量、焼土粒子中量、焼土小ブロック少量
- 11 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量
- 12 暗赤褐色 粘土粒子多量、焼土粒子中量、焼土小ブロック少量

覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土中ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量
- 6 褐色 ローム粒子中量



第235図 第107号住居跡出土遺物実測図

第107号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	絵土・色調・焼成	備考
第235図 1	坏 須恵器	A(12.6) B(3.3)	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ワロクロナテ。	長石・石英・雲母 灰オリーブ色 普通	P613 5% 床面
2	坏 須恵器	B(2.6) C(8.0)	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ワロクロナテ。体部内・外面に強いワロク目。体部下端回転ヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 ぶい黄褐色 普通	P614 5% 覆土下層

遺物 土師器片49点, 須恵器片8点が出土している。第235図1の須恵器坏は北西部の床面直上から, 2の須恵器坏は南東コーナー部壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は第15号住居跡を掘り込んでいることや, 出土遺物等から奈良時代(8世紀中葉)と思われる。

表2 木工台遺跡住居跡一覧表

住居跡 番号	位置	主(長)軸 方向	平面形	縦横(m) (長軸×短軸)	壁高	床面	内部施設			仰・電 覆土	出土遺物	備考 (重複関係)	
							主柱	脇柱	ピロ				
1	B4g	N-4°-E	方形	4.48 × 4.29	20~50	平坦	4	1	1	覆1 人為	土師器片421, 須恵器片167, 文土1, 磁石1, 鉄鏝3.5kg	本跡→50-1, 2, 3	
2	B4j	N-70°-E	長方形	5.98 × 4.33	17~34	平坦	1			仰1 自然	土師器片360, 須恵器片26		
3	B5j	N-2°-E	方形	6.53 × 6.10	55~58	平坦	4		1	覆1 自然	土師器片1033, 須恵器片74, 土玉1, 刀子1	本跡→51-6	
4	B5e	N-21°-W	方形	3.24 × 2.99	65~67	平坦	4	1	1	覆1 自然	土師器片50, 須恵器片16, 羽口1, 鉄鏝100g	本跡→51-5	
5	B5e	N-82°-E	方形	3.50 × 3.18	47~49	平坦			3	1	覆1 人為	土師器片255, 須恵器片94, 鉄鏝	SI-4→本跡
6	B5e	N-28°-W	長方形	6.37 × 5.72	48~56	平坦	4	2		覆1 自然	土師器片300, 須恵器片19, 磁石1	本跡→51-14	
7	C4d	N-10°-E	(長方形)	(10.18) × (7.20)	66~72	平坦			8	覆1 自然	土師器片1538, 須恵器片99, 陶器片1, 土玉5, 文土1, 鉄鏝200g	SI-10→本跡	
8	B5j	N-5°-E	方形	3.67 × 3.48	48~53	平坦			1	覆1 自然	土師器片517, 須恵器片65, 鉄鏝200g	SI-2→本跡	
9	CSj	N-11°-E	方形	6.14 × 6.02	56~67	平坦	4		1	覆1 自然	土師器片285, 須恵器片286, 文土1, 土玉4, 陶器片(燗土)1, 鉄鏝1.4kg	本跡→51-8, SE-12	
10	C4e	—	不明	(1.20) × (0.85)	—	—	—	—	—	不明	須恵器片1, 鉄鏝1	本跡→51-7, SE-18	
11	B4h	N-3°-E	(長方形)	(3.80) × 3.37	46~52	平坦		6		覆1 自然	土師器片225, 須恵器片11, 鉄鏝140g	SI-106→本跡	
12	CSj	N-2°-E	方形	4.43 × 3.96	42~45	平坦		1	1	覆1 自然	土師器片288, 須恵器片28, 土玉2, 石製鉄鏝1, 刀子1		
13	B5e	N-8°-E	方形	4.78 × 4.50	76~80	平坦	4	2	1	覆1 自然	土師器片512, 須恵器片1919, 土玉1, 磁石1, 刀子1, 鉄鏝500g	本跡→50-5	
14	B5e	N-9°-E	方形	4.00 × 3.71	65~74	平坦	4		1	覆1 自然	土師器片210, 須恵器片81, 羽口片4	SI-6→本跡	
15	B5h	N-6°-W	方形	5.78 × 5.76	32~74	平坦	4	1	1	1	覆1 人為	土師器片431, 須恵器片17, 土製鉄鏝1, 土玉5, 土製刀子1, 土製小玉1, 磁石1	SI-107→本跡→SI-20
16	CSj	N-4°-E	方形	3.44 × 3.24	53~64	平坦		2	1	覆1 自然	土師器片475, 須恵器片136, 手掘り, 鉄鏝2	SE-22→本跡	
17	CSj	N-21°-E	方形	3.47 × 3.27	58~67	平坦	1		1	覆1 自然	土師器片280, 須恵器片108, 土玉1, 管状土鏝1, 鉄鏝150g		
18	CSj	N-6°-W	方形	3.05 × 2.95	37~45	平坦			1	覆1 自然	土師器片41, 須恵器片30		
19	CSj	N-1°-W	方形	3.48 × 3.25	60~67	平坦		2	1	覆1 人為	土師器片204, 須恵器片134, 鉄削り, 鉄鏝150g		
20	B5h	N-17°-W	長方形	3.35 × 2.81	58~67	平坦	4	1		覆1 自然	土師器片79, 須恵器片35	SI-15→本跡	
21	B5e	N-113°-E	(方形)	3.80 × (2.28)	50~57	平坦			1	覆1 人為	土師器片184, 須恵器片19, 鉄鏝1, 鉄鏝40g		
22	D9b	N-58°-E	方形	3.60 × 3.35	35~45	平坦	1	2		仰1 自然	土師器片182, 須恵器片14, 羽口1, 鉄鏝21, 磁石1, 鉄鏝2, 磁石1	本跡→51-51	
23	CSj	N-1°-W	方形	3.77 × 3.60	45~50	平坦			1	覆1 自然	土師器片145, 須恵器片58	SE-6→本跡	
24	CSj	N-15°-W	方形	3.45 × 3.45	57~65	平坦		1	1	覆1 自然	土師器片30, 須恵器片19		
25	B5a	N-103°-E	方形	3.70 × 3.43	66~72	平坦		3	1	覆1 自然	土師器片65, 須恵器片36, 鉄鏝2, 鉄鏝1, 刀子1	SI-27, SI-28→本跡	
26	E9h	N-85°-E	方形	3.36 × 3.20	48~52	平坦		2		覆1 人為	土師器片370, 須恵器片27, 土玉7, 磁石1, 鉄鏝18.5g	本跡→5E-163, SE-164	
27	CSj	N-10°-E	方形	3.52 × 3.25	54~56	平坦		1	1	仰1 人為	土師器片112, 須恵器片78, 鉄鏝1, 鉄削り1, 管状土鏝1	本跡→51-25	
28	CSj	N-10°-W	方形	3.42 × 3.20	62~68	平坦		1	1	覆1 自然	土師器片180, 須恵器片90, 鉄鏝10g	本跡→51-25	
29	B5e	N-7°-W	不明	(3.55) × (1.80)	52~72	平坦				覆1 人為	土師器片16, 須恵器片14		

住居跡 番号	位置	主(長)軸 方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設			印-覆土	出土遺物	備考 (重複関係)		
							主柱穴	副柱穴	土					
30	D5b	N-2°-W	方形	3.60×3.58	45-47	平垣			1	覆1	人為	土師器片72, 須恵器片76		
31	C5f	N-9°-E	方形	4.05×3.90	38-48	平垣		4	1	覆1	人為	土師器片152, 須恵器片48, 刀子2, 鉄製品(骨金具)		
32	D0f	N-80°-E [長方形]	方形	(3.55)×(1.70)	46	平垣					—	自然	SI-48→本跡	
33	O6h	N-86°-E	不明	(2.10)×(1.35)	47-62	平垣					—	人為	土師器片40, 須恵器片3	
34	D6c	N-56°-E	方形	3.27×3.25	20-24	平垣		3	1	覆1	自然	土師器片125, 須恵器片18, 内覆層1, 灰石1, 鉄滓300g	本跡→SI-48	
35	O5j	N-1°-E	長方形	3.90×3.50	21-25	平垣		1	1	覆1	自然	土師器片87, 須恵器片18, 刀子1, 鉄滓50g		
36	D6c	N-40°-E	方形	3.50×3.25	10-15	平垣		1	1	覆1	自然	土師器片35, 須恵器片13, 土玉1		
37	D6c	N-14°-W	長方形	3.88×3.10	33-34	平垣			1	覆1	自然	土師器片83, 須恵器片61, 鉄滓1, 鉄滓150g	本跡→SP-24	
38	C7f	N-1°-E	方形	3.01×3.73	35-48	平垣		2	1	覆1	自然	土師器片82, 須恵器片28, 支脚1, 鉄滓50g		
39	C7i	N-22°-E	長方形	2.97×2.29	20-23	平垣			1	覆1	自然	土師器片12, 須恵器片17		
40	D7c	N-5°-E	方形	3.42×3.30	26-35	平垣		1	1	覆1	自然	土師器片68, 須恵器片18, 鉄滓90g		
41	C7j	N-8°-E	方形	8.57×8.26	36-60	平垣	4	7	1	覆1	自然	土師器片240, 須恵器片165, 土玉1, 支脚1, 灰石2, 不明鉄製品1, 骨金具1, 刀子1, 鉄製品2		
42	D7d	N-89°-E	方形	3.60×3.43	24-26	平垣		1	1	覆1	自然	土師器片47, 須恵器片6, 不明鉄製品1, 鉄滓3kg		
43	E5b	(N-8°-E) [長方形]	方形	(2.72)×(3.15)	18-25	—		3			—	自然	土師器片180, 須恵器片25	本跡→SP-17
45	O8i	N-23°-W	長方形	3.75×3.30	40-45	平垣			1	覆1	自然	土師器片150, 須恵器片36		
46	D8c	N-4°-W	長方形	6.38×5.65	32-40	平垣	4		1	覆1	自然	土師器片240, 須恵器片14, 須恵器片(骨金具)	本跡→SP-9	
47	D9e	N-17°-E	方形	4.70×4.30	38-65	平垣	4		1	覆1	自然	土師器片90, 須恵器片23		
48	D0f	N-85°-E	方形	3.80×3.56	22-33	平垣		1	1	覆1	自然	土師器片36, 須恵器片10	本跡→SI-33	
49	D0n	N-11°-W	方形	6.42×6.20	42-50	平垣	4	1	1	覆1	自然	土師器片761, 須恵器片130, 土玉1, 支脚1, 灰石1, 鉄滓1	本跡→SI-50	
50	S0z	(N-20°-W)	不明	3.12×(1.26)	16-18	平垣		1	1	—	—	自然	土師器片20, 須恵器片3, 鉄滓50g	本跡→本跡
51	E0z	(N-23°-W)	不明	(1.70)×(0.96)	46-48	平垣					—	自然	土師器片7, 須恵器片1, 鉄滓50g	
52	E0k	N-89°-E	方形	2.98×2.92	16-62	平垣		2	1	覆1	自然	土師器片68, 須恵器片11, 土玉1, 鉄滓200g	本跡→SP-11	
53	E0i	N-5°-W	[方形]	3.29×(1.67)	27	平垣			1	覆1	自然	土師器片19, 須恵器片2, 灰石1		
54	E9j	N-82°-E [長方形]	方形	(3.33)×3.20	8-47	平垣		1	1	初覆2	自然	土師器片186, 須恵器片34, 口口2, 金灰石1, 刀子1, 鉄滓1kg	SI-55→本跡→SP-11	
55	E9j	N-6°-W	方形	6.48×6.48	29-51	平垣	4		1	覆1	自然	土師器片342, 須恵器片54, 支脚1, 灰石2, 刀子1, 不明鉄製品1	本跡→SI-54→SP-11	
56	D9c	N-14°-W	方形	2.93×(2.87)	50-56	平垣		4		覆1	自然	土師器片63, 須恵器片37, 鉄滓300g	SI-55→本跡	
57	F9a	N-8°-E [方形]	方形	(2.33)×3.42	16-20	平垣		4		覆1	自然	土師器片172, 須恵器片10, 支脚1, 鉄滓10g		
58	E9i	N-102°-E [方形]	方形	3.33×(2.58)	24-30	平垣		2	1	覆1	人為	土師器片122, 須恵器片30, 鉄滓800g	本跡→SI-60→SI-59	
59	E9i	N-97°-E	不明	(3.66)×(2.16)	30	平垣					覆2	人為	土師器片200, 須恵器片24, 灰輪磨1, 口口1, 灰石1, 灰皮1, 鉄製品1	SI-58, SI-60→本跡
60	E9i	N-27°-W	方形	3.88×3.85	30-62	平垣	4	1	1	覆1	人為	土師器片199, 須恵器片63	SI-58→本跡→SI-59	
61	F9a	N-27°-W	方形	2.46×2.34	58-66	平垣		1	1	覆1	人為	土師器片29, 須恵器片22, 灰石1, 鉄製品1, 鉄滓10g		
62	E9j	N-82°-E	方形	3.50×3.45	28-34	平垣	1	1	2	覆1	人為	土師器片142, 須恵器片14, 口口1, 刀子1, 鉄滓1, 鉄製品1, 鉄滓1		
63	E9i	N-18°-W	方形	2.92×2.70	48-56	平垣		1	1	覆1	自然	土師器片75, 須恵器片29, 土玉4, 縄土土器片1		
64	E9z	N-9°-E	方形	2.72×2.71	68-72	平垣		1	1	覆1	自然	土師器片51, 須恵器片1, 灰石1	本跡→SI-162-166	
65	E7j	N-11°-W	方形	3.23×3.07	45-55	平垣		1	1	覆1	人為	土師器片54, 須恵器片11, 鉄滓7.5kg	SI-2→本跡	
66	E9i	N-30°-W	長方形	4.04×3.58	64-73	平垣	4		1	覆1	自然	土師器片119, 須恵器片29, 鉄滓300g, 縄土土器片1		
67	D8h	N-16°-W	方形	4.30×3.93	68-70	平垣		1	1	覆2	人為	土師器片176, 須恵器片30, 土玉1, 鉄滓50g		
68	S0h	N-12°-E	方形	3.45×3.17	60-68	平垣		3		覆1	自然	土師器片5, 須恵器片182, 灰石1, 刀子2, 鉄製品1, 鉄滓1, 鉄滓1		
69	F9z	N-18°-W	方形	2.58×2.52	53-57	平垣		1	1	覆1	自然	土師器片30, 須恵器片5, 鉄滓50g	SI-70→本跡	
70	E8f	N-95°-E	方形	2.38×2.37	56-58	平垣				覆1	自然	土師器片44, 須恵器片2, 鉄製品1	本跡→SI-69	
71	E8e	N-29°-W	方形	3.53×3.30	60-71	平垣		1		覆1	自然	土師器片282, 須恵器片116, 土玉18, 灰石1, 鉄製品1		
72	F9d	N-69°-E	方形	3.32×3.25	35-45	平垣		3	1	覆1	人為	土師器片102, 須恵器片18, 土玉2, 鉄滓1, 鉄滓1		
73	E8c	N-34°-W	方形	3.76×3.64	50-65	平垣		2	1	覆1	自然	土師器片197, 須恵器片107, 土玉1, 灰石1, 不明鉄製品1		
74	E8a	N-15°-E	長方形	4.99×3.63	20-31	平垣		7	1	覆1	人為	土師器片76, 須恵器片104, 土玉4		
75	D8j	N-26°-E	方形	4.29×4.22	32-43	平垣	4		1	覆1	人為	土師器片77, 須恵器片104, 鉄滓100g		
76	E9f	N-80°-E	長方形	4.60×3.64	15-40	平垣	4	2	1	覆1	人為	土師器片289, 須恵器片66, 口口2, 金灰石1, 鉄製品2, 刀子1, 鉄製品1		

住居跡 番号	主(長)軸 位置 方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設			炉・竈	覆土	出土遺物	備考 (重複関係)
						主柱穴	石礎	土入口				
77	E9d1	N-25°-W	方形 4.45 × 4.32	66-84	平坦	4		1	竈1	人為	土師器片508, 須恵器片194, 土玉1, 石製磨盤1	
78	E9e1	N-32°-W	方形 6.03 × 5.66	69-89	平坦	4		1	竈1	自然	土師器片1432, 須恵器片20, 磁石1, 鉄鍔3, 鉄釘1, 不明鉄製品1	
79	E9a1	N-61°-E	方形 3.66 × 3.30	36-45	平坦			5	竈1	自然	土師器片225, 須恵器片26, 土玉15, 磁石1, 鉄鍔1, 鉄釘1, 鉄釘20g	SB-11→本跡
80	D911	N-3°-W	方形 3.66 × 3.56	10-18	平坦			2	竈2	自然	土師器片105, 須恵器片11, 鉄釘20g	
81	E8e1	N-7°-W	[方形] 3.27 × (2.54)	40-74	平坦			1	竈1	自然	土師器片63, 須恵器片28, 土玉2, 鉄鍔1, 鉄釘40g	
82	D9b1	N-68°-W	方形 3.24 × 3.00	42-64	平坦	4		1	竈1	自然	土師器片239, 須恵器片56, 刀子1	
83	D9b1	N-5°-E	方形 3.73 × 3.52	50-64	平坦	4		1	竈1	自然	土師器片126, 須恵器片26	本跡→SI-84
84	D9g1	N-2°-E	長方形 3.77 × 3.23	9-43	平坦			1	竈1	自然	土師器片126, 須恵器片61, 鉄釘50g	SI-83→本跡
85	E9c1	N-13°-W	方形 4.52 × 4.20	51-90	平坦	4	1	1	竈1	人為	土師器片138, 須恵器片45, 磁石1, 鉄釘360g	本跡→SI-56
86	D911	N-6°-E	方形 4.20 × 4.02	23-40	平坦	4		1	竈1	人為	土師器片316, 須恵器片7, 鉄釘50g	
87	D911	N-6°-E	方形 5.48 × 5.44	25-43	平坦	4	1	1	竈1	自然	土師器片430, 須恵器片63, 土玉1, 磁石7, 鉄釘100g	
88	D9a1	N-9°-E	方形 4.57 × 4.18	14-39	平坦	4		1	竈1	自然	土師器片94, 須恵器片78, 土玉5	
89	D9f1	N-10°-W	方形 5.13 × 5.05	22-39	平坦	4		1	竈1	自然	土師器片47, 須恵器片4, 磁石1	
90	E8a1	N-31°-W	不明 (2.00) × (1.45)	79	平坦			2	-	自然	土師器片136, 須恵器片107, 鉄鍔1, 鉄釘200g	
91	E811	N-3°-E	方形 4.82 × 4.74	55-67	平坦	4	1	1	竈1	自然	土師器片512, 須恵器片202, 土玉2, 石製磨盤1, 刀子1, 尺角銅釘1	
92	E71a	N-6°-W	方形 3.31 × 3.11	45-52	平坦			1	竈1	自然	土師器片179, 須恵器片107, 鉄釘700g	
93	E7c1	N-2°-E	方形 2.52 × 2.32	27-48	平坦			1	竈1	自然	土師器片18, 須恵器片2, 土玉1, 鉄釘2.24g	
94	D6b1	N-19°-E	不明 (3.93) × (0.79)	45	平坦			-	自然	土師器片1		
95	D6c1	N-29°-E	長方形 8.20 × 5.70	23-65	平坦		19	炉2	自然	土師器片815, 須恵器片63, 土玉135, 磁石1, 鉄釘5, 磨石1	本跡→SP-9, SP-23	
96	E71a	N-7°-W	長方形 4.17 × 3.75	66-74	平坦		2	1	竈1	自然	土師器片91, 須恵器片13, 磁石1, 鉄釘700g	
97	E71a	N-30°-W	方形 3.52 × 3.43	50-62	平坦	4		1	竈1	自然	土師器片136, 須恵器片4, 鉄釘450g	
98	E811	-	不明 (3.25) × (2.89)	33-37	平坦			2	-	自然	土師器片1	
99	E711	N-9°-W	長方形 2.48 × 2.18	57-63	平坦	2		1	竈1	自然	土師器片26, 須恵器片7, 鉄鍔1	
100	E7a1	N-3°-W	[長方形] 6.36 × (5.44)	60-78	平坦	3	5	竈1	自然	土師器片848, 須恵器片506, 石製磨盤1, 鉄鍔2, 鉄釘5, 15g	本跡→SP-13	
101	F7c1	N-5°-W	[長方形] 4.50 × (2.60)	45-65	平坦	2		1	竈1	人為	土師器片63, 須恵器片55, 鉄釘300g	本跡→SP-25
102	E711	N-10°-W	方形 3.32 × 3.30	58-73	平坦			4	竈1	自然	土師器片101, 須恵器片15, 磁石1, 鉄釘600g	
103	E711	N-92°-E	方形 3.47 × 3.44	7-17	平坦			1	竈1	自然	土師器片66, 須恵器片9, 土玉1, 磁石1, 刀子1, 鉄釘700g	
104	E8b1	N-14°-W	長方形 4.43 × 4.01	46-73	平坦	4		1	竈1	自然	土師器片37, 須恵器片20, 土製磨盤1, 鉄鍔1	
105	D611	N-22°-W	方形 3.38 × 3.22	53-58	平坦			1	竈1	自然	土師器片43, 須恵器片10	
106	D4b1	N-0°	[長方形] (3.52) × (2.15)	20-26	平坦	3			竈1	人為	土師器片30, 須恵器片2	本跡→SI-11
107	D511	N-16°-W	長方形 3.72 × 3.27	28-33	平坦	1		1	竈1	自然	土師器片49, 須恵器片8	SI-15→本跡

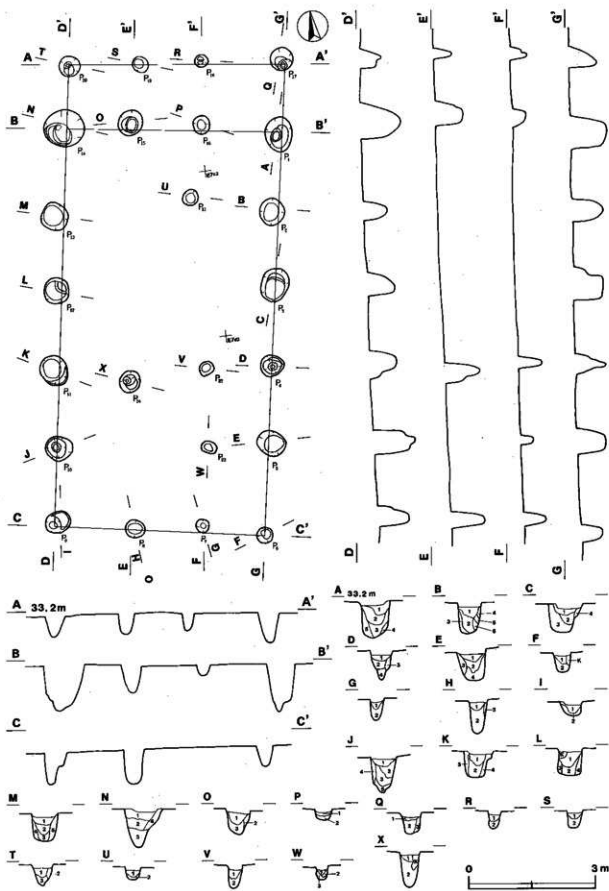
2 掘立柱建物跡

調査区の南部で掘立柱建物跡1棟を検出した。出土遺物が少なく、時期を限定することはできなかった。以下、特徴や出土遺物について記載する。

第1号掘立柱建物跡(第236図)

位置 調査区の南部, B7c1区。

規模 3間×5間の南北棟の側柱建物跡で, 桁行方向はN-10°-Eを示す。規模は桁行6.45m, 梁行3.36mで, 北側に1間の庇と思われる柱穴がある。また, 内側に柱穴を4か所検出したが性格等は不明である。柱間寸法は桁行が1.17-1.45m, 梁行が0.99-1.27mである。柱穴掘り方は, 長径22-60cm, 短径21-59cmの不整楕円形, 深さ18-66cmである。柱痕や柱抜き取り痕は検出できなかった。



第236图 第1号掘立柱建物跡実測图

覆土 6層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子中量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器破片6点、瓦片5点、管状土鍾1点が出土しているが、いずれも確認面からである。

所見 古墳時代後期の土師器の破片3点と、平安時代（9世紀末から10世紀初め）の内面黒色処理された土師器の破片が2点出土しているが、いずれも確認面からの出土で、時期を限定するのは難しい。

3 溝

当遺跡からは溝30条を検出した。時期を限定するための資料が乏しく、性格等についても不明な点が多い。

特徴のある第1・4・6・9・11・14・17・18・24・30・31号溝については文章で解説し、それ以外は一覧表で記載する。

第1号溝（遺構全体図・第237図）

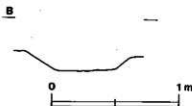
位置 調査区の西北部、B4ds～B4hs区。

重複関係 本跡は第1号住居跡を掘り込んでおり、第1号住居跡よりも新しい。

規模と形状 西北部が調査区域外に延びているため検出部分は（18.0）mである。上幅0.38～1.00m、下幅0.12～0.50m、深さ0.10～0.23mで、断面は逆台形である。

方向 B4ds区から南西（N-43°-E）に直線的に延びる。

覆土 7層からなり、ロームブロック等を含んでいることから、人為堆積と思われる。



土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子微量、ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 炭化・ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量、ローム粒子少量

第237図 第1号溝実測図

遺物 土師器片1点が出土している。

所見 本跡は出土遺物が少なく時期を限定することは難しいが、第1号住居跡（9世紀前葉）を掘り込んでいることから9世紀前葉以降のものと思われる。

第4号溝（遺構全体図・第238図）

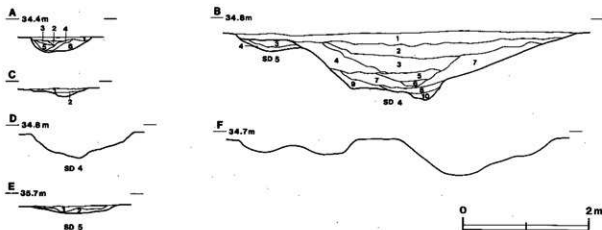
位置 調査区の西北部、B4ds～D6as区。

重複関係 本跡は第19号土坑、第5号溝を掘り込んでおり、両遺構よりも新しい。

規模と形状 西北部が調査区域外に延びているため検出部分は（125.0）mである。上幅0.70～4.50m、下幅0.10～0.70m、深さ0.07～1.20mで、断面はU字形である。

方向 D7a区から北西（N-57°-W）にほぼ直線的に延びる。

覆土 A断面は6層、B断面は10層、C断面は2層に分層され、自然堆積と思われる。



第238図 第4・5号溝実測図

土層解説

A断面土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 6 褐色 ローム粒子少量

B断面土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック中量、ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム大・小ブロック微量
- 7 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 9 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック微量
- 10 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

C断面土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子微量

遺物 土師器片35点、須恵器片34点、土製支脚片1点の他、内耳鍋3点、鉄滓340gが覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から中世のものと思われる。

第5号溝（遺構全体図・第238図）

位置 調査区の北西部B5i4～C6ge区。

重複関係 本跡は第4号溝と並行しており、中央部で重複している。重複している部分は、第4号溝に掘り込まれており、第4号溝よりも古い。また、本跡は第13号住居跡を掘り込んでいるため、第13号住居跡よりも新しい。

規模と平面形 全長は62.5mである。上幅0.60～2.00m、下幅0.20～1.30m、深さ0.20mで、断面はU字形で、底面に凹凸がある。

方向 C6hs区から北西（N-57°-W）にはば直線的に延びる。

覆土 4層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム中・小ブロック少量

遺物 土師器片46点、須恵器片10点が覆土中から出土しているが、小破片が多い。

所見 時期を限定できる遺物はないが、本跡が第13号住居跡（9世紀中葉）を掘り込んでいるため、9世紀中葉以降のものと思われる。

第6号溝 (遺構全体図・第239図)

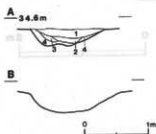
位置 調査区の北西部C5cs～西部D4hs区。

重複関係 本跡は第92・97・99号土坑に掘り込まれており、これらよりも古い。

規模と平面形 全長は69.0mである。上幅0.50～1.80m、下幅0.12～0.60m、深さ0.30～0.45mで、断面はU字形である。

方向 D4hs区から北東(N-40°-E)にはほぼ直線的に延びる。

覆土 4層からなり、ロームブロック等を含んでいることから人為堆積と思われる。



土層解説

- | | | |
|---|-----|-----------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム中・小ブロック少量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 4 | 褐色 | ローム粒子多量, ローム大ブロック微量 |

遺物 土師器片43点, 須恵器片33点が, 覆土中から出土している。

所見 時期を限定できる遺物がなく, 時期不明である。

第239図 第6号溝実測図

第9号溝 (遺構全体図・第240図)

位置 調査区の東部D7a1～D0c2区。

重複関係 本跡は第46号住居跡及び第95号住居跡を掘り込んでおり, また第54号土坑に掘り込まれていることから, 第46号住居跡及び第95号住居跡よりも新しく, 第54号土坑よりも古い。

規模と形状 東部が調査区域外に延びているため検出部分は126.0mである。上幅0.80～1.56m、下幅0.20～0.64m、深さ0.16～0.36mで、断面はU字形である。

方向 D7b1区からはほぼ真西(N-90°-E)に(126.0)m直線的に延びている。

覆土 A断面は2層, B断面は6層に分層された。

土層解説

A断面土層解説

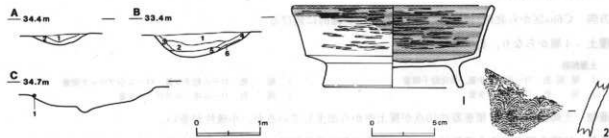
- | | | |
|---|-----|------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子微量, 炭化粒子極微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |

B断面土層解説

- | | | |
|---|-----|--------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 3 | 黒褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量 |
| 4 | 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 6 | 褐色 | ローム粒子多量 |

遺物 土師器片90点, 須恵器片32点の他, 鉄滓1.89kgが覆土中から出土している。第240図1の土師器高台付杯は東部の覆土下層から出土している。2は須恵器長頸瓶の拓影図で, 外面に5本単位の梯状工具による波状文が施されている。

所見 本跡の時期は, 第46号住居跡及び第9号工房跡を掘り込んでいることから, 両遺構よりも新しく8世紀前葉以降と思われる。



第240図 第9号溝・出土遺物実測図

第9号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・施成	備考
第240図	高台付杯	A 15.9	口縁部一部欠損。高台は「ハ」の字状に開く。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き後、黒色処理。体部外面ヘラ磨き後、一部黒色処理。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石・スコリアにぶい黄褐色 普通	P 641 70% P L 34 覆土下層
1	土師器	B 6.6 D 11.1 E 2.0				

第11号溝（遺構全体図・第241図）

位置 調査区の東部E9a₉～F9b₈区。

重複関係 本跡は第52・79号住居跡に掘り込まれており、第53・57・58号住居跡を掘り込んでことから、第52・79号住居跡よりも古く、第53・57・58号住居跡よりも新しい。

規模と平面形 南部が調査区域外に延びているため検出部分は(56.40)mである。上幅0.74～1.22m、下幅0.22～0.48m、深さ0.22～0.46mで、断面はU字形である。

方向 本跡はE9a₉区から南東方向に延び、E0h₂区で南西に曲がり、F9b₈区（調査区外）に向かってほぼ直線的に伸びる。

覆土 A断面は4層、B断面は3層に分層された。

A断面土層解説

- 1 褐色 焼土・炭化・ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 炭化・ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

B断面土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片207点、須恵器片292点、鉄滓80gが、覆土中から出土している。

所見 遺物はいずれも覆土中からの出土であり、時期を限定するものはないが、住居跡との重複関係から、7世紀末から9世紀前葉のものと考えられる。

第14号溝（遺構全体図・第242図）

位置 調査区の東部E8d₆～E8i₇区。

規模と平面形 南部が調査区域外に延びているため検出部分は(20.00)mである。上幅0.50～1.20m、下幅0.18～0.60m、深さ0.12～0.15mで、断面は逆台形である。

方向 E8i₇区から北西(N-20°-W)に、ほぼ直線的に延びている。

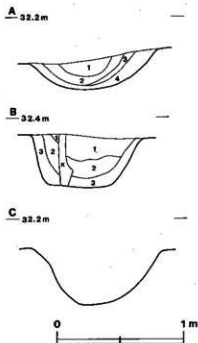
覆土 2層からなり、人為堆積と思われる。

土層解説

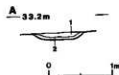
- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子多量

遺物 土師器片3点が出土している。

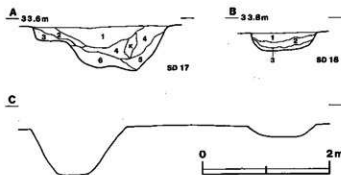
所見 時期を限定できる遺物がなく、時期不明である。



第241図 第11号溝実測図



第242図
第14号溝実測図



第243号 第17・18号溝実測図

土層解説

- | | |
|-------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 6 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |

遺物 土師器片5点, 須恵器片9点が, 覆土中から出土している。

所見 本跡はE6b区からほぼ真西に向かって, 第18号溝と平行するように延びている。時期を限定する遺物がなく, 時期不明である。

第18号溝 (遺構全体図・第243図)

位置 調査区の西部E5a区～E6a区。

規模と平面形 西部が調査区域外に延びているため検出部分は(39.6)mである。上幅0.50～1.20m, 下幅0.20～0.80m, 深さ0.10～0.30で, 断面はU字形である。

方向 E6a区から西(N-90°-W)に, 直線的に延びる。

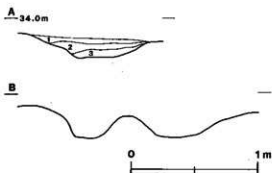
覆土 3層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 |

遺物 土師器片12点, 須恵器片5点が, 覆土中から出土している。

所見 本跡はE6a区からほぼ真西に向かって, 第17号溝と並行するように延びている。時期を限定する遺物がなく, 時期不明である。



第244号 第24号溝実測図

第17号溝 (遺構全体図・第243図)

位置 調査区の西部E5b区～E6b区。

重複関係 本跡は第43号住居跡を掘り込み, また第93号土坑に掘り込まれていることから, 第43号住居跡よりも新しく, 第93号土坑よりも古い。

規模と平面形 西部が調査区域外に延びているため検出部分は(42.2)mである。上幅0.85～2.30m, 下幅0.20～0.90m, 深さ0.75～1.40mで, 断面は逆台形である。

方向 E6b区から西(N-90°-W)に, 直線的に延びる。

覆土 6層からなり, 人為堆積である。

第24号溝 (遺構全体図・第244図)

位置 調査区の中央部D7b1区～D6f3区。

重複関係 本跡は第37号住居跡を掘り込んでおり, 第37号住居跡よりも新しい。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているため検出部分は(20.0)mである。上幅0.90～1.65m, 下幅0.25～0.92m, 深さ0.05～0.25mである。

方向 D7b1区から南(N-20°-E)に直線的に伸びている。

覆土 3層からなり、自然堆積である。

実証的考古学 第12巻

土層解説	土層の色	土層の構成	土層の厚さ	土層の深さ	土層の位置
1	暗褐色	ローム粒子極少量	0.15	0.15	0.15
2	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量	0.15	0.30	0.30
3	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量	0.15	0.45	0.45

遺物 土師器片8点、須恵器片2点が出土している。

所見 本跡は出土遺物が少なく時期を限定するのは難しいが、第37号住居跡（8世紀後葉）を掘り込んでいることから8世紀後葉以降のものである。

第30号溝（遺構全体図・第245図）

位置 調査区の西部E5as～E5a7区。

規模と平面形 西部が調査区域外に延びているため検出部分は（6.1m）である。

上幅0.35～0.60m、下幅0.15～0.35m、深さ0.10mで、断面はU字形である。

方向 E6as区から西（N-85°-E）に直線的に伸びている。

覆土 2層からなり、自然堆積である。

A 33.6m



第245図 第30号溝実測図

土層解説	土層の色	土層の構成	土層の厚さ	土層の深さ	土層の位置
1	暗褐色	ローム小ブロック少量	0.15	0.15	0.15
2	褐色	ローム粒子中量	0.15	0.30	0.30

遺物 出土していない。

所見 出土遺物がなく、時期は不明である。

第31号溝（遺構全体図・第246図）

位置 調査区の西部D4bs～D5d2区。

規模と形状 西部が調査区外に延びているため検出部分は（14.6m）である。上幅1.60～1.80m、下幅0.20～0.50m、深さ0.65mで、断面はU字形である。

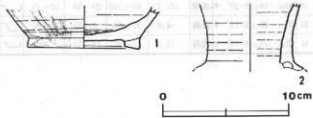
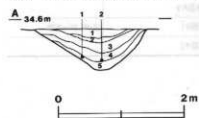
方向 D5d2区から北西方向（N-62°-W）に直線的に伸びている。

覆土 5層からなり、自然堆積である。

土層解説	土層の色	土層の構成	土層の厚さ	土層の深さ	土層の位置
1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	0.15	0.15	0.15
2	黒褐色	ローム粒子少量	0.15	0.30	0.30
3	黒褐色	炭化・ローム粒子少量	0.15	0.45	0.45
4	黒褐色	炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量	0.15	0.60	0.60
5	暗褐色	ローム粒子少量	0.15	0.75	0.75

遺物 土師器片109点、須恵器片54点が出土している。第246図1の灰軸陶器短頸壺は東部の覆土下層から、2の灰軸陶器長頸瓶は覆土中から出土している。

所見 本跡の出土遺物は小破片が多く、時期を限定するのは難しい。



第246図 第31号溝・出土遺物実測図

第31号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第246図 1	短頸壺 灰輪陶器	B(3.4)	高台部から体部片。体部は内彎気味に外傾する。高台は短く「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。体部内・外面に施釉。高台取り付け。	精良 灰白色 良好	P643 10% 覆土下層 黒登90号壺式
		D 8.8 E 0.9				
2	長頸壺 灰輪陶器	B(5.4)	体部から断片。頸部は外反する。	体部及び頸部内・外面ロクロナデ。頸部内・外面に施釉。	精良 灰白色 良好	P683 5% 覆土中 黒登90号壺式

表3 木工台遺跡溝一覽表

溝番号	位置	方向	形状	規模			断面	底面	覆土	出土遺物	備考
				確認長(m)	上幅(cm)	下幅(cm)					
1	B44e-B44z	N-43°-E	直線	(18.0)	38-100	12-50	10-23	平垣	人為	土師器片1	SI-1→本跡
2	B44e-B44z	N-38°-E	直線	10.5	32-109	10-22	6-8	平垣	自然	土師器片10, 須恵器片8	SI-1→本跡
3	B44e-B44z	N-32°-E	直線	(19.8)	36-130	18-52	6-26	平垣	人為	土師器片2, 須恵器片3	本跡→SI-1
4	B44e-B44z	N-57°-W	直線	(125.0)	70-450	10-70	7-120	平垣	自然	土師器片35, 須恵器片34, 内耳輪土製支脚, 鉄釘34kg	SI-19, SI-5→本跡
5	B514-C64p	N-86°-W	直線	62.5	60-200	20-130	20	西凸	自然	土師器片46, 須恵器片10	SI-13→本跡→SI-4
6	C519-D43q	N-60°-E	直線	69.0	50-180	12-60	30-45	平垣	人為	土師器片43, 須恵器片33	本跡→SI-07, 99→SI-92
7	C519-C51a	N-22°-E	直線	21.2	20-103	10-50	18-22	平垣	自然		本跡→SI-35
8	C611-C519	N-12°-E	直線	11.3	60-80	10-20	18-20	平垣	自然		
9	D741-D02z	N-90°-E	直線	(126.0)	80-156	20-64	16-36	西凸	人為	土師器片90, 須恵器片32, 鉄釘1.8kg	SI-46, 95→本跡→SI-54
10	D911-D09z	N-86°-W	直線	29.3	62-78	20-46	14	平垣	自然	土師器片6, 須恵器片4	
11	E919-E02z	N-17°-W	曲線	(56.4)	74-122	22-48	22-46	平垣	人為	土師器片207, 須恵器片202, 鉄釘80g	SI-53, 57, 59→本跡→SI-52, 79
	E02z-F91a	N-69°-E									
12	D816-E24z	N-73°-W	直線	22.7	94-160	30-70	12-34	平垣	人為	土師器片11, 須恵器片5, 鉄釘100g, 銅製品(燧石?)2	
13	F717-FR3a	N-77°-W	直線	(16.0)	25-60	10-28	10	平垣	自然	土師器片1, 須恵器片1, 鉄釘100g	SI-100→本跡
14	B84e-E817	N-20°-W	直線	(20.0)	50-120	18-60	12-15	平垣	人為	土師器片3	
15	D716-E74a	N-9°-E	直線	14.2	38-88	12-50	12-14	平垣	自然	土師器片100	
16	D713-E74a	N-12°-W	直線	16.1	18-52	18-20	14	平垣	自然		本跡→SI-15
17	E516-E516	N-90°-W	直線	(42.2)	85-230	20-90	75-140	平垣	人為	土師器片5, 須恵器片9	SI-43→本跡→SI-93
18	E516-E516	N-90°-W	直線	(39.6)	50-120	20-80	10-30	平垣	自然	土師器片12, 須恵器片5	
19	D919-D08z	N-87°-W	直線	14.0	40-136	14-70	18	平垣	自然	須恵器片1	本跡→SI-95
20	D719-D619	N-20°-E	直線	(20.0)	90-165	25-92	5-25	西凸	自然	土師器片8, 須恵器片17	SI-37→本跡
25	F719-F719	N-58°-W	直線	(7.2)	58-72	16-42	16	平垣	自然	土師器片25, 須恵器片2	
26	D610-F719	N-67°-W	直線	(12.0)	(2.36)	(2.10)	20-32	平垣	人為		
27	E715-E715	N-76°-E	直線	11.8	30-48	12-26	10	平垣	自然	須恵器片1	
28	E711-E711	N-77°-E	直線	(9.0)	38-62	14-32	22	平垣	自然		
29	E516-E516	N-85°-E	直線	5.4	40-60	15-35	15	平垣	自然		
30	E516-E516	N-85°-E	直線	(6.1)	35-60	15-35	10	平垣	自然		
31	B419-D54z	N-62°-W	直線	(14.6)	160-180	20-50	65	平垣	自然	土師器片109, 須恵器片54, 灰輪陶器2	
32	B419-D43q	N-20°-W	直線	(21.7)	60-110	20-50	10-15	平垣	自然	土師器片51, 須恵器片9	
33	D511-D511	N-19°-W	直線	(4.6)	27-60	9-25	35-37	平垣	自然	土師器片2, 須恵器片1	SI-90, 96→本跡
34	D514-D514	N-75°-E	直線	(3.5)	33-75	14-23	24	平垣	自然	土師器片4, 須恵器片2	

4 土坑

調査区全体から155基の土坑を確認した。ここでは時期が推定できるもの、特徴的なものについては文章で解説し、それ以外は一覧表で記載する。

第12号土坑 (第247図)

位置 調査区の北西部, C5a1区。

重複関係 本跡は第9号住居跡を掘り込んでおり, 第9号住居跡よりも新しい。

規模と平面形 長径3.78m, 短径3.12mの不整形円形で, 深さ72cmである。

長径方向 N-8°-E

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

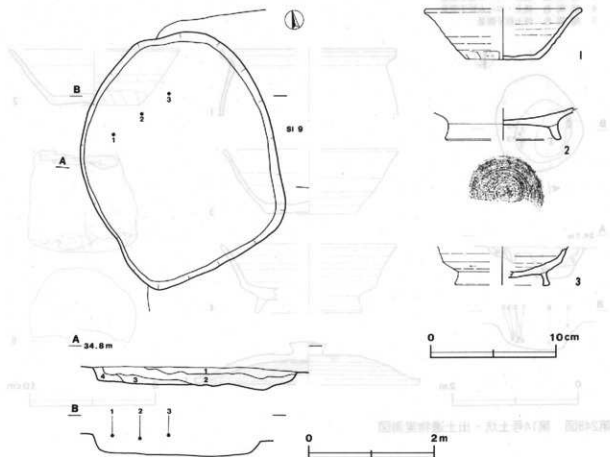
覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・炭化粒子微量

遺物 土師器片28点, 須恵器片23点が出土している。第247図1の須恵器杯, 2・3の須恵器高台付杯はともに北部の覆土上層から出土している。

所見 本跡は第9号住居跡(8世紀前葉)を掘り込んでおり, 8世紀前葉以降のものである。



第247図 第12号土坑・出土遺物実測図

第12号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第247回 1	須恵器 環	A 12.2 B 4.0 C 5.6	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。体部内・外面に強いロクロ目。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ削り。	灰石・石英・雲母・スコリアにぶい褐色 良好	P615 40% 覆土上層
2	高台付須恵器 環	B (2.5) D (9.0) E 1.3	高台部から体部片。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石・雲母 灰色 普通	P616 20% 覆土上層
3	高台付須恵器 環	B (3.1) D (7.4) E 1.1	高台部から体部片。体部は直線的に外傾する。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P617 20% 覆土上層

第14号土坑 (第248回)

位置 調査区の西北部, C4bs区。

規模と平面形 長径1.50m, 短径1.35mの不整楕円形で、深さ41cmである。

長径方向 N-41°-E

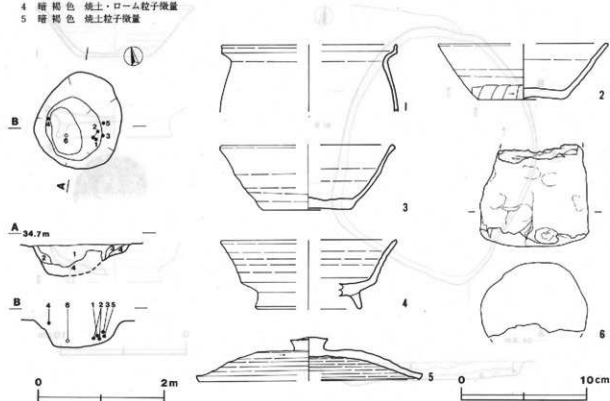
壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 5層からなり、不自然な堆積状況から、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量, 炭化・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 焼土・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 焼土・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 焼土・ローム粒子微量
- 5 暗褐色 焼土粒子微量



第248回 第14号土坑・出土遺物実測図

第14号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第248図 1	土師器	A[14.0]	体部から口縁部片。体部は内傾し、口縁部は強く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・燧石・スコリア 明赤褐色 普通	P 618 20% 覆土下層
		B(5.4)				
2	須恵器	A[13.4]	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。体部下端手持ちヘリ削り。底部回転ヘリ削り。	長石・石英 灰褐色 普通	P 619 60% P L35 覆土下層
		B 4.5				
		C 7.1				
3	須恵器	A[13.7]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。底部手持ちヘリ削り。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P 620 40% 覆土下層
		B 5.1				
		C 7.0				
4	高台付須恵器	A[14.0]	高台部から口縁部片。高台部は短く「ハ」の字状に開く。体部は外反し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面クロコナデ。底部切り離し後、高台貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P 621 30% 覆土下層
		B 5.6				
		D[8.4]				
		E 0.8				
5	須恵器	A[18.2]	天井部から口縁部片。天井部中央にボタン状のつまみが付く。天井部はドーム状を呈し、口縁部に至る。口縁端部は短く折り返されている。	天井部及び口縁部内・外面クロコナデ。天井部外面上位回転ヘリ削り。	長石・石英 灰色 普通	P 622 50% P L34 覆土下層
		B 3.5				
		F 3.0				
		G 1.0				

図版番号	器種	計測値			出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	重量(g)		
6	土製支脚	8.8	(8.3)	(387.1)	覆土下層	DP135

遺物 土師器片70点、須恵器片59点が覆土下層を中心に出土している。第248図1の土師器甕、2・3の須恵器坏、5の須恵器蓋はいずれも東部の覆土下層から出土している。4の須恵器高台付坏は西部の覆土下層から出土している。6の土製支脚は中央部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から平安時代（9世紀前半）と思われる。

第16号土坑（第249図）

位置 調査区の西北部、B4is区。

規模と平面形 径0.85m前後の不整形円で、深さ30cmである。

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片2点、須恵器片1点が出土している。第249図1の須恵器坏は西部の覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から8世紀末葉と思われる。



第249図 第16号土坑・出土遺物実測図

第16号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第249図	須恵器	A 7.8 B 3.7 C 6.0	口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナテ。底部回転ヘラ切り後ナテ。	灰石・石英・炭母 灰黄色 良好	P 623 80% 覆土上層

第45号土坑 (第250図)

位置 調査区の北西部, C6区区。

規模と平面形 長径3.10m, 短径2.44mの不整楕円形で、深さ66cmである。

長軸方向 N-45°-W

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

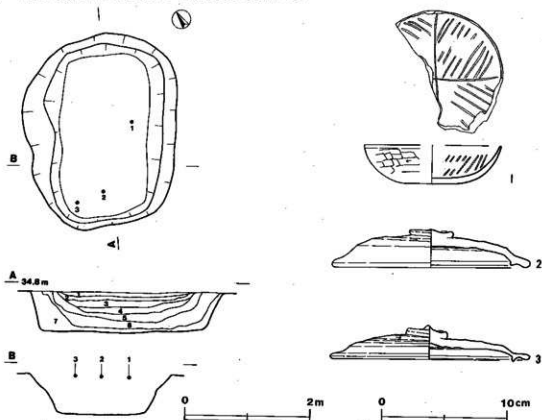
覆土 7層からなり、水平堆積をしていることから、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化・ローム粒子少量, 炭化物・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化材・炭化物中量, 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 黒色 炭化・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量, 炭化材微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片4点, 須恵器片2点が出土している。第250図1の土師器片は東部から, 2・3の須恵器片は西部から, いずれも覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から7世紀末葉と思われる。



第250図 第45号土坑・出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第250図 1	土師器 坏	A 11.0	底部から口縁部。平底。体部は内	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナ	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P 625 50% 覆土上層
		B 3.1	勢気味に外傾し、口縁部に至る。	デ。外面ヘラ削り。体部内面に縦文。		
		C 4.4				
2	須恵器 蓋	A 15.5	天井部から口縁部内。天井部外面に	天井部及び口縁部内・外面ロクロナ	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P 626 90% 覆土上層
		B 3.0	ボタン状のつまみが付く。天井部は	デ。天井部外面上位回転ヘラ削り。		
		F 3.5	ドーム状を呈し、口縁部に至る。口			
		G 0.6	縁部内側に短いかえりを持つ。			
3	須恵器 蓋	A 16.0	天井部から口縁部内。天井部外面に	天井部及び口縁部内・外面ロクロナ	長石・石英・雲母 ・スコリア にぶい黄褐色 普通	P 627 80% 覆土上層
		B 2.7	ボタン状のつまみが付く。天井部は	デ。天井部外面上位回転ヘラ削り。		
		F 3.4	ドーム状を呈し、口縁部に至る。口			
		G 1.1	縁部内側に短いかえりを持つ。			

第48号土坑 (第251図)

位置 調査区の西部, D6c区。

重複関係 本跡は第34号住居跡を掘り込んでいることから, 第34号住居跡よりも新しい。

規模と平面形 長径1.17m, 短径(0.81)mの不整楕円形で, 深さ40cmである。(断面図参照) 出土物2種

長径方向 N-31°-W

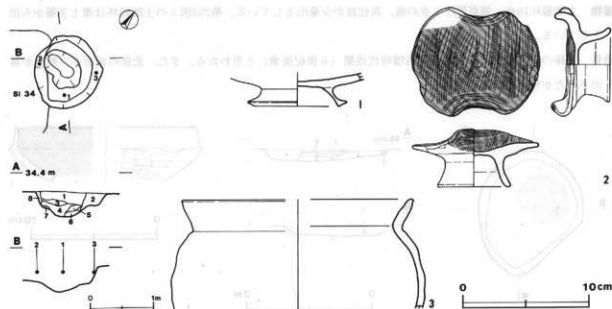
壁面 外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

覆土 8層からなり, 不自然な堆積状況から, 人為堆積と思われる。

土層解説

- 暗褐色 炭化・ローム粒子少量
- 暗褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 暗褐色 炭化・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 暗褐色 炭化材・炭化物・炭化・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 褐色 炭化・ローム粒子少量
- 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量



第251図 第48号土坑・出土遺物実測図

第48号土坑出土遺物観察表

高台付土師器土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第251図 1	高台付 土師器	B 2.7	高台部片。高台は「ハ」の字状に開き、端部は水平方向につまみ出されている。	底部切り離し後、高台貼り付け。	赤母 にぶい褐色 普通	P 628 20% 覆土上層
		D 8.0				
		E 1.5				
2	耳 土師器	A 10.1	口縁部一部欠損。高台は高く「ハ」の字状に開く。口縁部は向かい合う2か所が内側に折り返されている。	体部内面へラ磨き後、黒色処理。底部切り離し後、高台貼り付け。	長石・石英・赤母 褐色 普通	P 629 95% 覆土上層
		B 4.6				
		D 5.8				
		E 2.3				
3	甕 土師器	A [18.2]	体部から口縁部片。体部は内押し、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・赤母 暗灰黄色 普通	P 630 20% 覆土上層
		B (8.7)				

遺物 土師器片4点、須恵器片1点が出土している。第251図1の土師器高台付杯は南壁際、2の土師器耳皿は西壁際、3の土師器甕は北東部の、いずれも覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から10世紀中葉と思われる。

第53号土坑 (第252図)

位置 調査区の東部、C8j7区。

規模と平面形 長径2.0m、短径1.67mの不整形円形で、深さ20cmである。

長径方向 N-6°-E

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

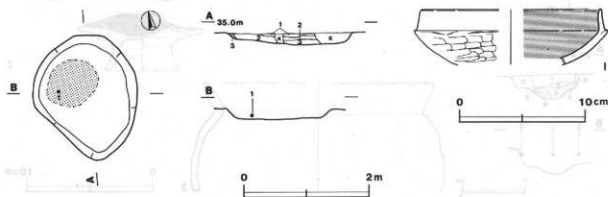
覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量
- 3 褐色 焼土・ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片16点、須恵器片1点の他、炭化材が少量出土している。第252図1の土師器杯は覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から古墳時代後期(6世紀後葉)と思われる。また、北部の底面から焼土が検出されたが性格等は不明である。



第252図 第53号土坑・出土遺物実測図

第53号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第252図 1	土師器	A(14.2) B(4.4)	体部から口縁部片。丸底。体部は内 穿しながら外傾し、口縁部との境に 明確な線を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面焼ナデ。体部内面ナ デ。外面へウ削り後ナデ。体部内面 黒色処理。	雲母・スコリア 橙色 普通	P632 30% 覆土下層

第54号土坑 (第253図)

位置 調査区の東部, D9c1区。

重複関係 本跡は第9号溝を掘り込んでおり, 第9号溝よりも新しい。

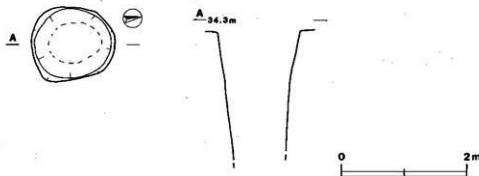
規模と平面形 長径1.36m, 短径1.16mの不整楕円形である。なお, 下位になるにしたがって径が小さくなり, 掘り込みが不可能なため, 確認面から2mまでしか調査できなかった。

長径方向 N-7°-E

壁面 外傾して立ち上がる。

遺物 土師器片5点が出土したが, 破片である。その他, 馬歯が検出された。

所見 本跡の時期は, 限定できる遺物がなく, 不明である。また, 本跡の覆土上層から馬歯が検出されたが, 土坑の性格を示唆するものであるかどうか不明である。



第253図 第54号土坑実測図

第99号土坑 (第254図)

位置 調査区の西部, D4f6区。

重複関係 本跡は第6号溝を掘り込んでおり, また第92号土坑に掘り込まれていることから, 第6号溝よりも新しく, 第92号土坑よりも古い。

規模と平面形 長径(2.74)m, 短径1.38mの〔長方形〕で, 深さ28cmである。

長径方向 N-12°-W

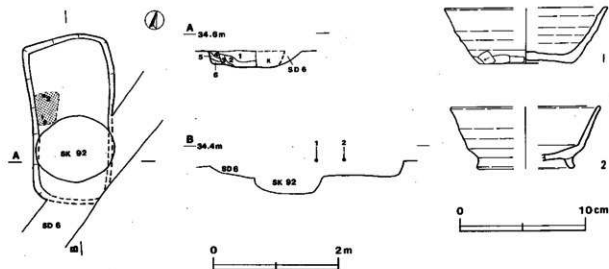
壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 6層からなり, 不自然な堆積状況から, 人為堆積と思われる。

土層解説

- 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・砂質粘土少量, 炭化物微量
- 暗赤褐色 焼土粒子中量, 砂質粘土・焼土小ブロック・灰少量, 炭化物微量
- 暗赤褐色 焼土粒子・ローム小ブロック少量, 炭化物微量
- 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 暗赤褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量



第254図 第99号土坑・出土遺物実測図

第99号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第254図 1	須恵器 環	A (12.8)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。体部外面に強いロクロ目。体部下端手持ちへら削り。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転へら切り後ナデ。	灰石・石英 灰色 普通	P633 50% 覆土上層
		B 4.5				
		C 7.4				
2	高台付須恵器 環	A (11.8)	高台部から口縁部片。高台は短めで「ㄱ」の字状に開く。体部は直線的に外傾する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部切り懸し後、高台貼り付け。	灰石・雲母 暗灰黄色 良好	P634 20% 覆土上層
		B 5.0				
		D (7.5)				
		E 1.0				

遺物 土師器片130点、須恵器片51点の他、炭化材が少量出土している。第254図1の須恵器環、2の須恵器高台付環はともに覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と思われる。西部から焼土が検出されたが性格等は不明である。

第102号土坑（第255図）

位置 調査区の東部、E9io区。

重複関係 本跡は第54号住居跡を掘り込んでおり、第54号住居跡よりも新しい。

規模と平面形 径1.32m前後の不整形円形で、深さ36cmである。

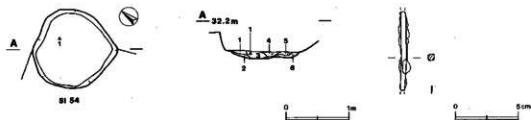
壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

覆土 焼土・炭化粒子、ロームブロックを含んでおり、また不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

- 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 暗褐色 ローム大・小ブロック中量、炭化・ローム粒子少量
- 暗褐色 炭化材中量、炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量



第255図 第102号土坑・出土遺物実測図

第102号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第255図1	鉄 鏝	(6.3)	0.4	0.5	(11.0)	覆土下層	M79

遺物 土師器片4点、須恵器片1点の他、鉄製品が1点が出土している。第255図1の鉄鏝は北部の覆土下層から出土している。

所見 本跡は、時期を限定できる遺物がなく不明である。

第132号土坑 (第256図)

位置 調査区の東部、E8e区。

規模と平面形 長径1.10m、短径0.90mの不整形円形で、深さ10cmである。

長径方向 N-21°-W

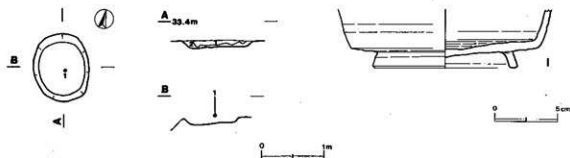
壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 極暗褐色 炭化物・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子中量



第256図 第132号土坑・出土遺物実測図

第132号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第256図 1	高台付 埴 須 恵 器	B (4.7) D 11.4 E 1.3	高台部から体部片。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り調整後、高台貼り付け。	長石・石英 黄灰色 普通	P 636 40% 覆土上層

遺物 須恵器片1点が出土している。第256図1の須恵器高台付坏は中央部の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀前葉と思われる。

第134号土坑 (第257図)

位置 調査区の北西部, E9dz区。

規模と平面形 長径1.84m, 短径1.44mの不整形円形で、深さ48cmである。

長径方向 N-3°-E

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

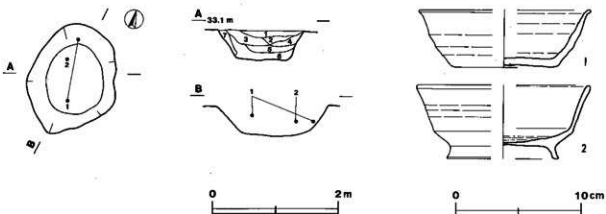
覆土 焼土粒子・炭化物・ローム粒子等を含んでおり、また不自然な堆積状況から人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 焼土・炭化・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・炭化物・砂質粘土少量、ローム粒子微量
- 4 黒褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子微量
- 5 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・砂質粘土少量、炭化物・ローム粒子微量
- 6 黒褐色 焼土粒子少量、炭化物微量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片59点, 須恵器片35点の他, 鉄滓50点が出土している。第257図1の須恵器坏, 2の須恵器高台付坏はともに覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から平安時代(9世紀前葉)と思われる。



第257図 第134号土坑・出土遺物実測図

第134号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第257図 1	須恵器	A [13.6]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎気味に外傾し、口縁部に至る。口縁端部は短く反折する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転へう切り後ナデ。	長石・石英 灰青褐色 普通	P684 40% 覆土中層
		B 4.6				
		C 8.6				
2	高台付坏	A [13.8]	高台部から口縁部片。高台は短めで「ハ」の字状に開く。体部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転へう前調整後、高台貼り付け。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P685 40% 覆土中層
	須恵器	B 5.9				
		D [8.8]				
		E 1.0				

第135号土坑 (第258図)

位置 調査区の東部, E9e₁区。

規模と平面形 径0.74mの不整形円で、深さ25cmである。

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

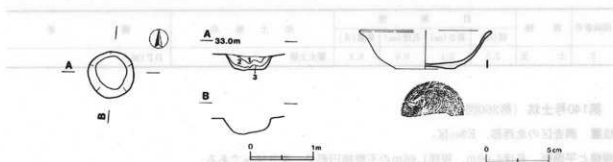
覆土 3層からなり、焼土粒子・炭化物・ロームブロック等を含み、また不自然な堆積状況から、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子中量, 炭化物少量
- 2 黒褐色 焼土粒子中量, 炭化物少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量

遺物 土師器片61点が出土しているが、破片が多い。第258図1の土師器坏は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から平安時代(10世紀前葉)と思われる。



第258図 第135号土坑・出土遺物実測図

第135号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備	考
第258図 1	土師器 坏	A 10.4	底部から口縁部片。平底。体部は内	口縁部内・外面磨ナデ。体部内・外	長石・雲母・スコリア に多い黄褐色 普通	P637 40%	覆土中
		B 3.0	腎尖状に外傾し、口縁部に至る。口	面ナデ。底部回転糸切り。			
		C 4.6	縁端部わずかに外反する。				

第137号土坑 (第259図)

位置 調査区の西北部, E9e₂区。

規模と平面形 長径0.80m, 短径0.68mの不整形楕円形で、深さ39cmである。

長径方向 N-2°-W

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 凹凸がある。

覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒色 炭化物少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量, 炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量

遺物 土師器片1点が出土している。第259図1の土師器坏, 2の土玉はともに覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀後葉と思われる。



第259図 第137号土坑・出土遺物実測図

第137号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第259図 1	坏 土器	A 14.0 B 4.1 C 6.7	底部から口縁部片。平底。体部は内 壁気味に外傾し、口縁部に歪る。	口縁部及び体部内・外周ロコナデ。 体部下端手持ちへう削り。底部手持 ちへう削り。体部内面へう磨き後、 黒色処理。	粘土・色調・焼成 長石・石英 にふいば色 普通	P 638 60% 覆土上層

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(K)		
2	土玉	2.3	2.1	0.6	8.3	覆土上層	D P 136

第140号土坑 (第260図)

位置 調査区の北西部, E9es区。

規模と平面形 長径2.00m, 短径1.66mの不整楕円形で、深さ58cmである。

長径方向 N-14°-E

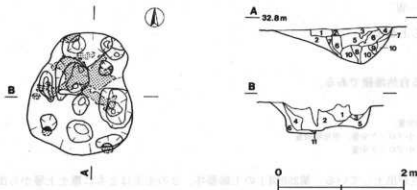
壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

覆土 11層からなり、不規則な堆積状況から、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化物少量, 焼土小ブロック微量
- 2 暗褐色 炭化物少量
- 3 暗赤褐色 焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
- 4 極暗褐色 焼土粒子少量, 炭化物微量
- 5 赤褐色 ローム粒子少量
- 6 赤褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 8 褐色 焼土・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子少量, 炭化・ローム粒子微量
- 10 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 11 暗赤褐色 焼土・炭化・ローム粒子微量



第260図 第140号土坑実測図

遺物 出土していない。

所見 本跡内から焼土が多量に検出されたが、性格等は不明である。本跡は出土遺物がなく、時期不明である。

第165号土坑（第261図）

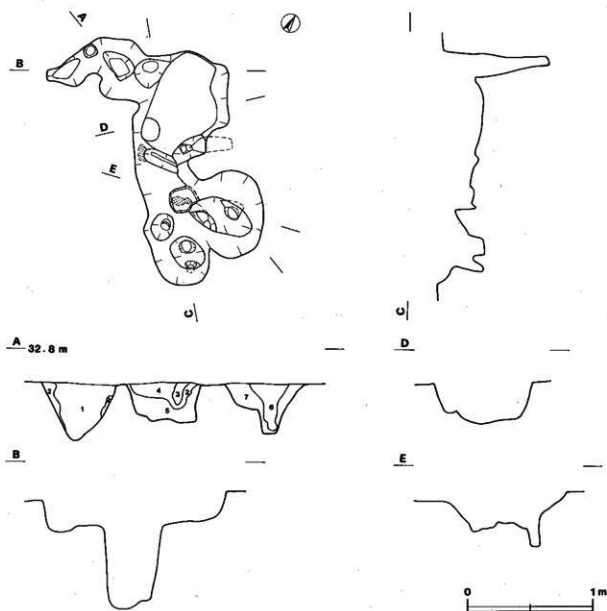
位置 調査区の東部，E9h₂区。

規模と平面形 長径2.10m，短径0.44mの不定形，深さ90cmである。

長径方向 N-66°-W

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 凹凸がある。



第261図 第165号土坑実測図

覆土 7層からなり、不自然な堆積状況から、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗赤褐色 炭化物中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化物中量、ローム小ブロック・砂質粘土少量
- 4 褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 6 暗褐色 炭化物・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 7 褐色 ローム中ブロック多量、ローム粒子中量

遺物 土師器片1点の他、鉄滓3.5kgが出土している。

所見 本跡の時期は、限定できる遺物がなく不明である。

第166号土坑 (第262図)

位置 調査区の東部、E9g2区。

重複関係 本跡は第64号住居跡を掘り込んでおり、第64号住居跡よりも新しい。

規模と平面形 長径1.42m、短径 [0.98] mの [楕円形]、深さ38cmである。

長径方向 N-14°-E

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

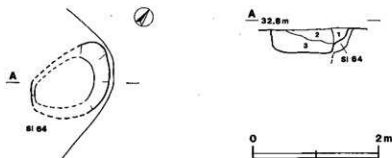
覆土 3層からなり、不自然な堆積状況から、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒色 砂質粘土中量、焼土粒子・炭化物少量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック少量
- 3 黒色 鉄滓多量、炭化物中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量

遺物 鉄滓9.7kgが出土している。

所見 本跡は覆土中から鉄滓が多量 (9.7kg) に出土している。付近に鍛冶工房跡があり、それに関連する遺物の可能性もある。本跡の時期は、限定できる遺物がなく不明である。



第262図 第166号土坑実測図

第167号土坑 (第263図)

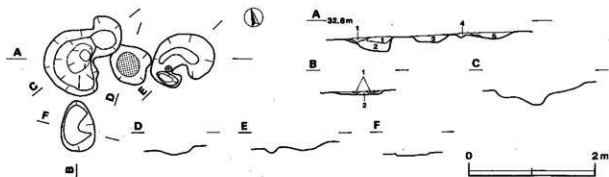
位置 調査区の南部、E7hs区。

規模と平面形 長径2.72m、短径1.94mの不定形、深さ23cmである。

長径方向 N-74°-W

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 凹凸がある。



第263図 第167号土坑実測図

覆土 5層からなり、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子等を含む不自然な堆積状況から、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 暗褐色 鉄滓中量、焼土・炭化・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 3 赤褐色 焼土粒子多量・砂中量
- 4 明褐色 ローム粒子多量、焼土小ブロック少量
- 5 褐色 炭化・ローム粒子中量、焼土粒子少量

遺物 鉄滓4.5kgが出土している。

所見 本跡は平面形が不定形であり、また遺物も出土していないが、中央部から焼土が検出され、さらに遺構全体から鉄滓が4.5kg出土しているところから、第166号土坑と同じように鍛冶工房跡に関連する遺構の可能性がある。本跡の時期は、出土遺物がなく不明である。

第168号土坑（第264図）

位置 調査区の東部、E9hz区。

重複関係 本跡は第64号住居跡を掘り込んでおり、第64号住居跡よりも新しい。

規模と平面形 長径1.74m、短径1.24mの楕円形、深さ52cmである。

長径方向 N-52°-E

壁面 外傾して立ち上がる。

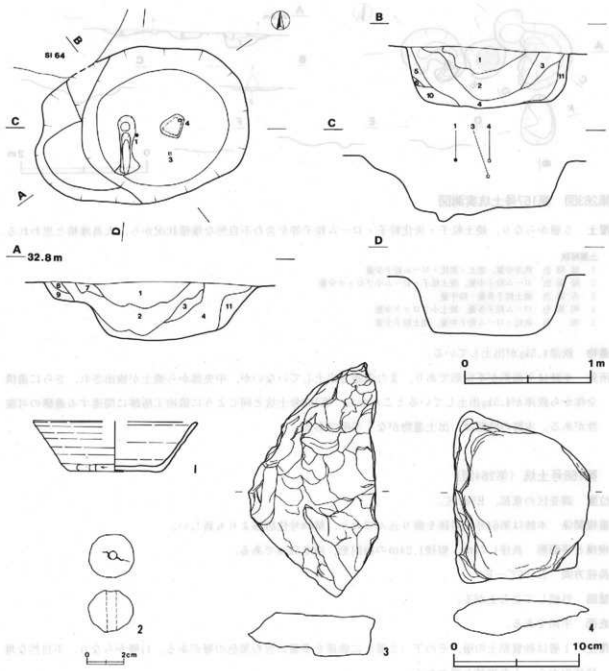
底面 平坦である。

覆土 1層は砂質粘土の層、その下（2層）に鉄滓を多量に含む黒色の層がある。11層からなり、不自然な堆積状況から、人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 灰褐色 砂質粘土多量、焼土粒子・炭化物微量
- 2 黒褐色 砂質粘土中量、焼土粒子少量、鉄滓を含む
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物・ローム小ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 7 赤褐色 砂質粘土中量、炭化物微量
- 8 黒色 炭化物・ローム粒子少量
- 9 黒色 炭化物少量・焼土粒子微量
- 10 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 11 褐色 ローム粒子中量

遺物 土師器片90点、須恵器片13点、雲母片岩等6点、鉄滓10.2kg、炭化材等が出土している。第264図1の須恵器環は中央部の覆土上層から、2の土玉は覆土中から、3・4の石は中央部の覆土上層から出土している。



第264図 第168号土坑・出土遺物実測図

第168号土坑出土遺物観察表

図取番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
							径(cm)
第264図 1	環 須恵器	A 13.0	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面クロナダ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り後ナダ。	長石・石英 黄灰色 普通	P648 50% 覆土上層	
		B 4.0					
		C 7.4					
2	土玉	2.4	2.2	0.5	10.3	覆土中	DP140

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第264図3	石	(18.7)	(10.4)	3.2	(838.9)	雲母片岩	覆土上層	Q41
4	石	(13.8)	(10.9)	2.9	(506.4)	雲母片岩	覆土上層	Q42

所見 本跡は1層が砂質粘土の層、2層が鉄滓を含む黒色の層、3層以下も焼土や炭化物を含んでいる。また鉄滓も多量に出土していることから、鍛冶工房跡に関連する遺構の可能性が高い。本跡の時期は、出土遺物等から8世紀代のものと思われる。

表4 木工台遺跡土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 重複関係 新旧関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(m)					
1	B5a8	N-18°-E	楕円形	1.85×1.22	22	外傾	平坦	自然		
2	C4a7	N-4°-E	[楕円形]	1.67×(1.07)	30	外傾	平坦	自然	須惠器片10	本跡→SK-13
3	C4a8		円形	1.04×1.02	30	外傾	平坦	自然	土師器片6, 須惠器片10	
4	C4a9	N-18°-E	楕円形	1.20×1.03	46	外傾	平坦	自然	土師器片52, 須惠器片2, 土製品1	
5	A4j0	N-38°-E	楕円形	0.73×0.61	30	外傾	平坦	人為		
6	B4a8	N-65°-W	楕円形	1.42×0.60	14	外傾	平坦	自然	土師器片1, 須惠器片2	
7	B4a8		円形	0.93×0.92	26	外傾	平坦	自然	土師器片5, 須惠器片1	
8	B4a8		円形	0.82×0.81	22	外傾	平坦	自然	土師器片6, 須惠器片2	
9	B4i4		円形	1.19×1.08	33	外傾	平坦	自然	土師器片9	
10	B4a8	N-78°-W	楕円形	2.08×1.32	28	外傾	平坦	自然	土師器片30, 須惠器片8	
11	B4j0	N-68°-W	楕円形	3.00×1.36	27	外傾	凹凸	人為	土師器片30, 須惠器片22	
12	C5j1	N-8°-E	楕円形	3.78×3.12	72	緩斜	平坦	自然	土師器片28, 須惠器片23	S1-9→本跡
13	C4a7	N-33°-W	楕円形	1.96×1.37	38	外傾	平坦	自然	土師器片111, 須惠器片37, 土製品1	SK-2→本跡
14	C4a8	N-41°-E	楕円形	1.50×1.35	41	緩斜	平坦	人為	土師器片70, 須惠器片59, 土製支脚1	
15	C4a9		円形	1.04×0.97	50	外傾	凹凸	自然	土師器片9, 須惠器片1	
16	B4i8		円形	0.87×0.80	30	外傾	平坦	自然	土師器片2, 須惠器片1	
17	B4j9		円形	0.60×0.60	34	外傾	凹凸	自然		
18	C4a9	N-49°-E	[楕円形]	1.27×(1.10)	42	外傾	皿状	自然	土師器片2	S1-10→本跡
19	D6a0	N-8°-E	[楕円形]	5.36×1.60	8	外傾	平坦	自然		本跡→SD-4
20	B4i0		円形	0.93×0.85	30	外傾	平坦	自然		
21	B4a9		円形	0.95×0.86	27	外傾	平坦	自然		
22	C5a2	N-16°-W	[楕円形]	(2.30)×1.05	18	外傾	平坦	自然	土師器片8	本跡→S1-16
23	C5a5	N-56°-E	不定形	1.23×0.67	22	外傾	平坦	人為	土師器片3	
24	C5c5		円形	0.83×0.76	12	外傾	平坦	自然		
25	C5c5	N-34°-E	楕円形	1.01×0.73	62	外傾	平坦	人為	土師器片10, 須惠器片1	
26	C5a6	N-77°-W	楕円形	2.12×1.20	18	外傾	平坦	自然		
27	C5a7	N-69°-E	楕円形	1.29×1.08	20	外傾	平坦	自然	土師器片3, 須惠器片1	
28	C5c5		円形	1.05×0.97	18	外傾	平坦	自然	土師器片7, 須惠器片1	
29	C5i5	N-49°-E	楕円形	1.33×1.08	20	外傾	皿状	自然	土師器片1, 須惠器片1	
30	C5i4	N-2°-W	楕円形	1.22×1.08	72	外傾	平坦	人為		
31	C5i4	N-74°-W	楕円形	1.00×0.87	25	外傾	平坦	人為	土師器片4	
32	C5i4	N-79°-E	楕円形	1.83×1.34	18	外傾	平坦	自然		
33	D6a7	N-38°-W	楕円形	1.75×0.86	44	外傾	皿状	自然		
34	B5a5		円形	0.67×0.66	20	外傾	皿状	自然	土師器片1, 須惠器片1	
35	C5a8	N-62°-W	楕円形	1.07×0.53	13	外傾	皿状	自然	土師器片9	SD-7→本跡

土坑 番号	位置	長径方向	平面形	規		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 重複関係 新旧関係(古→新)
				直径×厚径(m)	深さ(cm)					
38	C5 ₀₁	N-64°-W	楕円形	1.07×0.86	24	外傾	平坦	自然	土師器片5, 須惠器片11	
39	C5 ₀₂		円形	1.19×1.05	28	外傾	平坦	自然	土師器片13, 須惠器片9	
40	O6 ₀₁	N-77°-W	楕円形	1.41×0.99	40	外傾	平坦	自然		
41	O6 ₀₁	N-22°-W	楕円形	0.89×0.79	23	外傾	屈状	自然		
42	O6 ₀₂		円形	0.98×0.98	52	外傾	平坦	自然		
43	B4 ₁₇	N-32°-E	楕円形	1.08×0.98	44	外傾	屈状	自然	土師器片8, 須惠器片3	
44	B6 ₀₁	N-38°-W	楕円形	0.74×0.65	11	外傾	屈状	自然		
45	C9 ₀₃	N-45°-W	楕円形	3.10×2.44	66	緩斜	平坦	人為	土師器片4, 須惠器片2	
46	O6 ₀₁	N-58°-E	楕円形	2.00×0.97	46	外傾	屈状	自然		
47	C7 ₀₁	N-39°-W	楕円形	1.71×0.78	32	外傾	屈状	自然		
48	C6 ₀₁	N-31°-W	[楕円形]	1.17×(0.81)	40	外傾	屈状	人為	土師器片4, 須惠器片1	S1-34→本跡
49	C7 ₁₁	N-40°-W	楕円形	1.71×0.78	32	外傾	屈状	自然		
50	B9 ₁₀		円形	0.88×0.88	36	外傾	平坦	自然	土師器片1	S1-55→S1-54→本跡
51	B9 ₀₁		円形	1.18×0.94	96	外傾	平坦	自然	土師器片6, 須惠器片2	S1-22→本跡
53	C9 ₁₇	N-6°-E	楕円形	2.00×1.67	20	緩斜	平坦	自然	土師器片16, 須惠器片1	
54	B6 ₀₁	N-7°-E	楕円形	1.38×1.16	(200)	外傾	不明	不明	土師器片5, 馬歯	S9-9→本跡
55	D9 ₀₁	N-76°-W	不定形	1.88×1.14	36	外傾	屈状	人為		
56	B6 ₀₇	N-3°-W	楕円形	1.48×0.78	36	外傾	平坦	自然		
59	B6 ₁₀	N-83°-W	楕円形	0.96×0.60	30	外傾	平坦	自然		
60	B6 ₀₁	N-2°-E	楕円形	0.98×0.82	34	外傾	屈状	自然		
62	B6 ₀₁		円形	0.65×0.58	56	外傾	西凸	自然		
63	E7 ₀₁		円形	0.84×0.74	17	外傾	西凸	自然		
64	E7 ₀₁		円形	0.82×0.80	20	外傾	屈状	自然		
65	E8 ₀₁	N-12°-E	楕円形	1.46×1.04	26	外傾	屈状	自然		
66	E8 ₀₂		円形	0.93×0.84	20	外傾	屈状	自然		
67	E8 ₀₄		円形	0.76×0.68	13	外傾	屈状	自然		
68	E8 ₀₁		円形	1.00×0.86	20	外傾	屈状	自然		
69	E8 ₀₁	N-62°-W	楕円形	0.90×0.64	64	外傾	屈状	人為		
70	E8 ₀₁		円形	1.00×1.06	20	外傾	平坦	自然		
71	E8 ₀₁	N-5°-E	楕円形	1.58×0.96	44	外傾	西凸	自然		
72	E7 ₁₀	N-37°-E	楕円形	0.94×0.73	30	外傾	屈状	自然		
73	E7 ₀₁		円形	0.74×0.73	20	外傾	屈状	自然		
74	E7 ₀₁	N-6°-E	楕円形	0.68×0.57	89	外傾	平坦	人為		
75	E8 ₀₁	N-22°-W	楕円形	1.60×1.04	60	外傾	平坦	人為	土師器片1	
76	E8 ₀₂		円形	1.33×1.27	33	外傾	屈状	人為		
78	E7 ₁₄	N-68°-W	楕円形	1.60×0.99	25	外傾	平坦	人為		
79	E7 ₀₁		円形	0.76×0.68	25	外傾	屈状	自然		
80	E7 ₁₅	N-3°-E	楕円形	1.22×0.91	20	外傾	屈状	自然		
81	F7 ₀₁		円形	0.49×0.49	40	外傾	平坦	自然		S1-101→S1-25→本跡
82	E7 ₀₁	N-81°-E	楕円形	1.00×0.80	15	外傾	屈状	自然		
83	E7 ₀₁	N-83°-W	楕円形	1.00×0.80	13	外傾	平坦	自然		
84	B6 ₀₁	N-49°-E	[楕円形]	(2.93)×0.93	72	外傾	凹凸	人為		
85	B6 ₀₁	N-25°-E	楕円形	3.34×0.55	34	外傾	屈状	自然		
86	B6 ₀₁	N-63°-W	楕円形	0.91×0.66	12	外傾	屈状	自然		
87	B6 ₀₁	N-19°-W	楕円形	0.80×0.64	22	外傾	平坦	自然		
90	B6 ₁₁	N-16°-W	[楕円形]	(1.23)×(0.66)	60	外傾	西凸	自然		本跡→S1-33
91	B4 ₀₁	N-12°-W	楕円形	1.01×0.70	18	外傾	平坦	人為	土師器片1, 須惠器片2	

土坑 番号	位置	長徑方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備 考 重複関係 新旧關係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
92	D4-00	N-75°-E	楕円形	1.26×1.06	26	外傾	凹状	自然	土師器片8, 須惠器片3	SD-6→SK-99→本誌
93	E5-00	N-80°-E	長方形	2.39×2.24	174	垂直	平垣	人為	土師器片13, 須惠器片2	SD-17→本誌
94	D5-07	N-26°-W	[楕円形]	(1.34)×(0.51)	52	外傾	凹凸	自然		
95	D5-04	N-78°-E	楕円形	1.13×0.84	60	外傾	平垣	人為	土師器片1, 須惠器片11	
96	D5-11	N-9°-W	[長方形]	2.26×(1.16)	45	外傾	凹凸	自然	土師器片34, 須惠器片2	本誌→SD-33
97	D5-01		円形	1.58×1.42	39	外傾	凹状	人為	土師器片43, 須惠器片8	SD-6→本誌
98	D4-00		円形	1.09×1.03	18	外傾	凹状	自然		
99	D4-00	N-12°-W	[長方形]	(2.74)×1.38	28	緩斜	平垣	人為	土師器片130, 須惠器片51, 炭化材	SD-6→本誌→SK-92
100	D4-00		円形	0.85×0.85	25	外傾	凹状	自然		
101	D0-01	N-38°-E	楕円形	1.44×1.07	31	外傾	平垣	人為	須惠器片4	
102	E9-10		円形	1.37×1.27	36	緩斜	凹状	人為	土師器片4, 須惠器片1, 鉄鏝1	SI-54→本誌
103	E9-19		円形	1.71×1.00	30	外傾	凹状	人為	土師器片3, 須惠器片4	
104	E9-19	N-9°-E	楕円形	1.29×1.11	43	外傾	平垣	自然	土師器片5, 須惠器片1, 鉄滓20g	
105	E9-18	N-50°-E	楕円形	1.45×1.15	22	外傾	平垣	自然		
106	E9-16		円形	1.15×1.09	25	外傾	平垣	自然		
107	E9-15	N-35°-W	[楕円形]	(1.38)×0.85	76	外傾	平垣	人為	土師器片1	
108	E9-09		円形	1.07×0.99	27	外傾	凹状	自然	土師器片3	
109	E9-09		円形	1.50×1.30	48	垂直	平垣	人為	土師器片12, 須惠器片6, 鉄滓30g	
110	E9-07		円形	1.31×1.31	45	外傾	凹状	人為	土師器片3	
111	E9-06	N-75°-W	楕円形	1.55×1.34	48	外傾	凹状	人為		
112	E9-06	N-47°-W	楕円形	1.23×1.16	43	外傾	凹状	自然	土師器片7	
113	E9-06	N-58°-E	楕円形	1.50×1.40	20	外傾	平垣	自然	土師器片1	
114	E9-05		円形	0.80×0.80	50	外傾	凹凸	自然		
115	E9-05	N-28°-W	楕円形	1.18×1.05	45	外傾	凹状	自然	土師器片2, 須惠器片6	
116	E9-05	N-10°-E	楕円形	1.18×1.03	33	外傾	平垣	自然		
117	E9-04	N-51°-W	楕円形	1.05×0.80	18	外傾	平垣	自然		
118	E9-15	N-77°-W	楕円形	2.00×1.55	90	外傾	凹凸	自然	土師器片4, 須惠器片1	
119	E9-05	N-2°-E	楕円形	1.38×1.01	55	外傾	凹凸	自然		
120	E9-04		円形	0.90×0.90	55	外傾	凹凸	自然		
121	E9-14	N-12°-W	楕円形	1.80×1.06	30	外傾	平垣	自然	土師器片1	
122	E9-13	N-67°-W	楕円形	1.72×0.98	26	外傾	凹状	自然		
123	E9-12	N-87°-W	楕円形	1.36×0.71	86	外傾	凹状	自然		
124	E9-05		円形	0.45×0.44	33	外傾	平垣	人為		
125	E8-10	N-59°-W	楕円形	0.68×0.59	28	外傾	平垣	自然		
126	E8-17		円形	1.05×0.97	26	外傾	凹状	人為		
127	E8-07		円形	0.86×0.81	17	外傾	平垣	自然		
128	E8-07	N-54°-E	楕円形	0.57×0.47	20	外傾	平垣	自然		
129	E8-05	N-79°-E	楕円形	4.85×3.35	184	外傾	凹凸	自然	土師器片52, 須惠器片27	
130	E8-17		円形	1.19×0.96	17	外傾	平垣	自然	土師器片1	
131	D8-18	N-76°-W	楕円形	1.52×1.35	32	外傾	平垣	自然		
132	E8-06	N-21°-W	楕円形	1.10×0.90	10	緩斜	平垣	自然	須惠器片1	
133	D8-07	N-26°-W	楕円形	0.95×0.86	28	外傾	凹凸	人為		
134	E8-02	N-3°-E	楕円形	1.84×1.44	48	緩斜	平垣	人為	土師器片59, 須惠器片35, 鉄滓50g	
135	E9-01		円形	0.74×0.74	25	緩斜	平垣	人為	土師器片61	
136	E9-12	N-10°-E	楕円形	1.16×0.96	40	外傾	平垣	自然		
137	E9-07	N-2°-W	楕円形	0.80×0.68	39	外傾	凹凸	自然	土師器片1, 土王1	

土坑 番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 重複関係(古一新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
138	E9a	N-68°-E	楕円形	1.08×0.62	55	外傾	凹凸	人為	土師器片3	
139	E9a		円形	1.10×1.06	55	外傾	平坦	自然	土師器片4, 鉄滓80g	
140	E9c	N-14°-E	楕円形	2.00×1.68	58	雜斜	雜状	人為		
141	E9b		円形	0.96×0.92	32	外傾	凹凸	自然		
142	E9b	N-86°-E	楕円形	1.42×1.00	55	外傾	平坦	人為	土師器片16, 須惠器片2, 鉄滓10g	
143	E9b	N-24°-E	楕円形	1.41×1.11	64	外傾	平坦	人為		
144	E9b	N-79°-W	楕円形	0.94×0.76	16	外傾	平坦	人為	土師器片1	
145	E9a		円形	0.70×0.69	20	外傾	平坦	自然		
146	E9a		円形	0.58×0.53	32	外傾	雜状	自然	土師器片3	
147	E9a		円形	0.57×0.55	20	外傾	雜状	自然	鉄滓30g	
148	E9c	N-47°-W	楕円形	1.23×1.02	50	外傾	凹凸	自然		
149	E9b	N-10°-E	楕円形	0.93×0.83	33	外傾	平坦	自然		
150	E9a	N-17°-W	楕円形	1.25×1.10	40	外傾	平坦	自然		
152	E9b	N-52°-W	楕円形	1.16×0.94	70	外傾	平坦	人為	土師器片14, 須惠器片3, 鉄滓20g	
153	E9b		円形	0.38×0.38	56	外傾	雜状	人為		
154	E9b	N-72°-W	楕円形	0.83×0.76	38	外傾	平坦	人為	土師器片3	
155	E9a		円形	1.17×1.11	45	外傾	雜状	人為		
156	E9a	N-81°-E	楕円形	1.12×0.95	73	外傾	平坦	人為	土師器片7	
157	E9a	N-47°-E	楕円形	1.93×1.10	50	外傾	凹凸	人為		
158	E9a	N-1°-W	[楕円形]	[1.10]×0.90	46	外傾	凹凸	自然		本跡→SK-159
159	E9a	N-10°-W	[楕円形]	[1.02]×0.92	30	外傾	平坦	自然		SK-158→本跡
160	E9a	N-78°-E	楕円形	0.99×0.82	55	外傾	平坦	人為	鉄滓60g	
161	E9b	N-80°-W	楕円形	1.64×1.53	64	外傾	平坦	人為		
162	E9a	N-50°-E	楕円形	1.04×0.94	58	外傾	平坦	自然		S1-64→本跡
163	E9a	N-3°-W	楕円形	1.00×0.95	81	外傾	雜状	人為	土師器片14, 須惠器片2	S1-26→本跡
164	E9a	N-81°-E	長方形	1.82×0.82	18	外傾	凹凸	自然	土師器片3	S1-26→本跡
165	E9a	N-66°-W	不定形	2.10×0.44	90	外傾	凹凸	人為	土師器片1, 鉄滓3.5kg	
166	E9a	N-14°-E	[楕円形]	1.42×[0.98]	38	外傾	平坦	人為	鉄滓9.7kg	S1-64→本跡
167	E7c	N-74°-W	不定形	2.72×1.94	23	雜斜	凹凸	人為	鉄滓4.5kg	
168	E9c	N-52°-E	楕円形	1.74×1.24	52	外傾	平坦	人為	土師器片90, 須惠器片13, 石6, 鉄滓10.2kg, 土玉1	S1-64→本跡

5 鍛冶工房跡

当遺跡からは調査区の東部、南部で2基の鍛冶工房跡が検出されている。

第1号鍛冶工房跡(第265図)

位置 調査区の東部, E9a区。

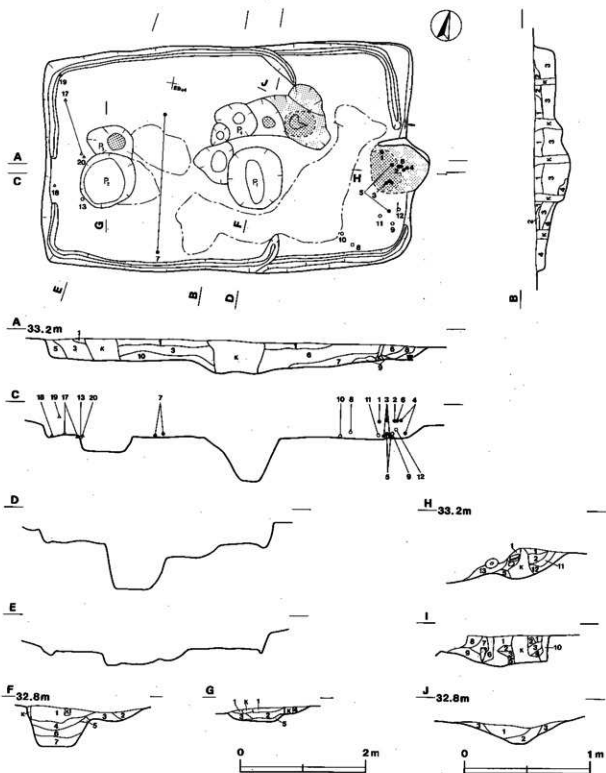
規模と平面形 長軸5.25m, 短軸3.60mの長方形である。

主軸方向 N-79°-E

壁 壁高は12~30cmで, 外傾して立ち上がる。

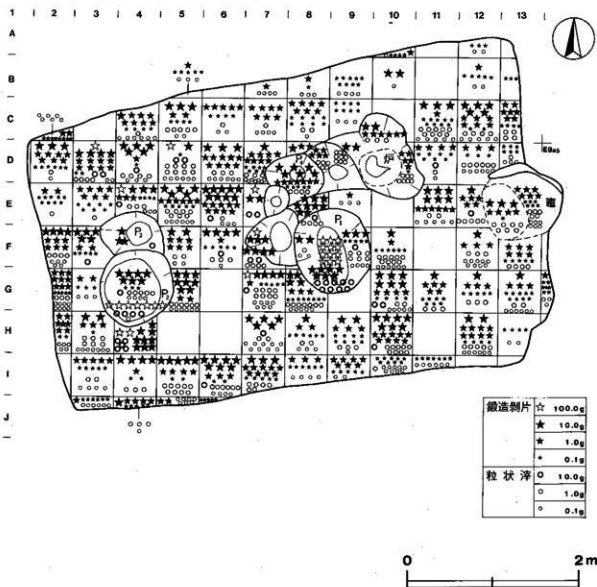
壁溝 確認された壁下には, 西壁の一部を除いて壁溝が回っている。上幅14~24cm, 下幅4~9cm, 深さ6cmで, 断面形はU字形である。

床 平坦で, 南部から竈前面にかけて, P₂・P₃の東側が踏み固められている。また北壁, 南壁から中央部に向かって, 長さ40~60cm, 上幅20cm, 下幅5cm, 深さ5cmの掘り込みが2か所検出された。



第265図 第1号鍛冶工房跡実測図

ピット 4 か所 (P₁ ~ P₄)。P₁ は長径100cm, 短径88cmの不整楕円形, 深さ75cm, P₂ は長径95cm, 短径85cmの不整楕円形, 深さ23cm, P₃ は長径76cm, 短径 (45) cmの不整楕円形, 深さ18cm, P₄ は長径 (70) cm, 短径 (60) cmの不整楕円形, 深さ28cmで、いずれも本跡に関わるピットと思われる。



第266图 第1号鍛冶工房跡鍛造制片・粒状滓出土分布图

表6 鍛造制片・粒状滓出土土状况

单位(g)

区	鍛造制片	粒状滓	区	鍛造制片	粒状滓	区	鍛造制片	粒状滓	区	鍛造制片	粒状滓	区	鍛造制片	粒状滓
A10	1.4	0.1	C6	5.4	1.2	D12	3.3	6.6	F5	26.0	2.2	G12	13.5	3.0
11	—	—	7	7.0	1.4	13	0.6	1.3	6	0.6	1.3	13	13.9	2.6
12	0.3	0.2	8	7.8	2.1	E1	—	—	7	—	—	14	1.7	0.3
B1	—	—	9	0.8	0.3	2	2.9	1.0	8	20.0	1.2	H1	—	—
2	—	—	11	31.9	9.5	3	7.7	1.0	9	30.5	16.4	2	8.2	0.5
4	—	—	12	56.2	4.5	4	133.4	13.3	10	11.6	9.6	3	23.1	6.7
5	1.5	0.3	13	7.4	4.0	5	58.6	7.6	12	13.0	3.9	4	290.0	50.0
6	—	—	D2	37.6	1.1	6	99.0	11.3	13	6.5	4.0	7	50.0	12.9
7	1.0	0.4	3	148.2	24.2	7	120.0	20.0	G1	—	—	8	12.6	2.3
8	1.1	0.3	4	51.1	14.3	8	90.0	14.0	2	9.5	3.8	9	23.8	3.1
9	0.9	0.4	5	110.1	28.6	9	1.0	0.3	3	2.3	0.3	10	79.0	19.0
10	2.0	0.1	6	39.0	3.6	11	66.0	2.5	4	73.0	15.4	12	28.4	5.6
12	1.5	0.2	7	18.7	3.7	12	15.0	15.0	5	82.0	6.6	13	0.4	0.2
13	0.3	—	8	17.0	5.0	13	6.6	5.6	7	41.5	18.7	I1	—	—
C2	2.8	0.6	9	20.0	9.0	F2	46.0	4.5	8	43.8	7.5	3	9.5	2.4
4	17.4	1.6	10	5.1	7.0	3	52.5	10.0	10	64.4	22.5	4	41.2	3.0
5	32.4	5.2	11	4.7	11.1	4	30.0	10.0	11	15.7	3.0	5	54.2	9.0

P1土層解説

- 1 藍暗褐色 ローム小ブロック中量、焼土・ローム粒子少量、焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 藍暗褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量、炭化粒子極微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 5 藍暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 6 藍暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 7 暗赤褐色 焼土・ローム粒子少量、炭化粒子微量

P2土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量、焼土・炭化粒子極微量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量、炭化粒子極微量
- 3 黒褐色 焼土小ブロック・焼土・ローム粒子微量、炭化粒子極微量
- 4 藍暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 5 藍暗褐色 焼土・炭化粒子少量、ローム粒子微量

竈 東壁中央部からやや南寄りを壁外に25cmほど半円状に掘り込み、砂混じりの粘土で構築されている。天井部は崩落しており、袖部も左袖部の一部が残存するのみである。規模は、焚口部から煙道部までの長さ94cm、最大幅86cmである。火床部は床面とほぼ同じレベルの床面を使用し、赤変している。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土・炭化粒子・山砂少量
- 2 灰褐色 山砂多量、焼土・炭化粒子少量
- 3 藍暗褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量
- 4 褐色 山砂多量、焼土・炭化粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 6 暗褐色 山砂多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 7 暗褐色 山砂多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 8 黒褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 9 黒褐色 山砂多量、焼土大・中・小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子少量
- 10 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 11 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子少量
- 12 褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 13 黒褐色 炭化物・炭化粒子少量、焼土粒子微量

炉 中央から北東寄りに位置し、長径120cm、短径90cmの楕円形で、床面を30cm掘り窪めている。断面形は逆台形である。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 炭化・ローム粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量

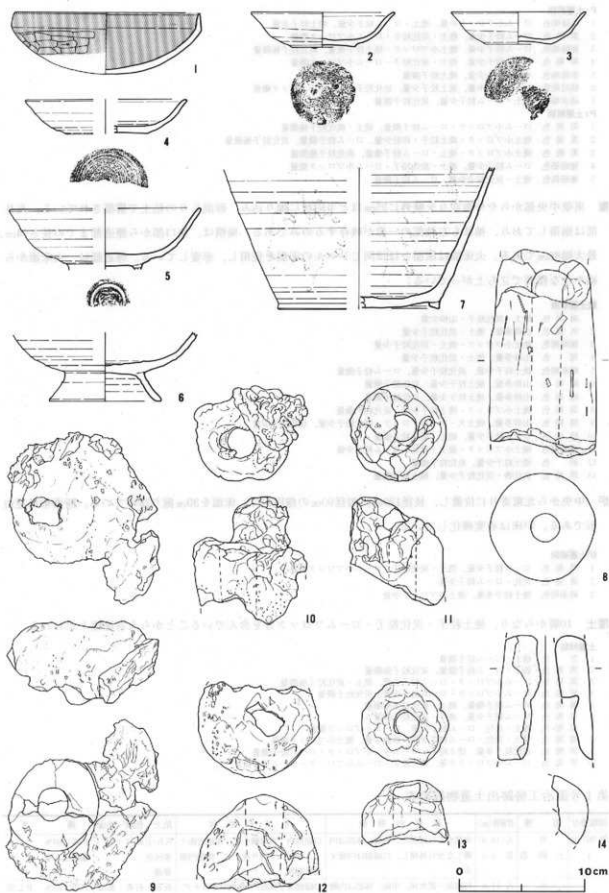
覆土 10層からなり、焼土粒子・炭化粒子・ロームブロック等を含んでいることから人為堆積と思われる。

土層解説

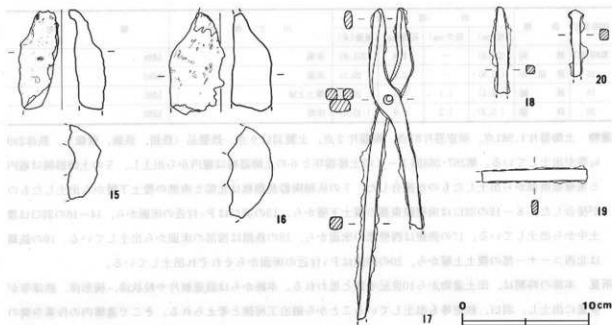
- 1 黒色 焼土・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 焼土・ローム粒子微量、炭化粒子極微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子極微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子微量、焼土・炭化粒子極微量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 8 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子少量・砂粒少量、焼土小ブロック微量
- 9 黒褐色 炭化粒子多量、焼土粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
- 10 黒褐色 ローム中ブロック少量、焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量

第1号鍛冶工房跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第267図 1	土師器	A 14.8	底部から口縁部片。丸底。体部は内斡しながら外傾し、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面縦ナデ。体部内面ナデ、外面へラ削り後ナデ。体部内面黒色処理。	灰石・石英・スコリア	P651 60% 竈覆土上層
		B 5.0				
2	土師器	A 11.6	口縁部一部欠損。平底。体部は内斡気味に外傾し、口縁部に平なる。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	灰石・石英・雲母	P650 95% P L35 竈覆土上層
		B 2.8				
		C 5.2				



第267图 第1号銀冶工房跡出土遺物実測図(1)



第268図 第1号鍛冶工房跡出土遺物実測図(2)

図取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第267図 3	土師器 環	A 10.8	底部から口縁部片。平底。体部は内 彎気味に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 底部回転余切り。	長石・石英 にふい黄褐色 普通	P 652 70% P L 35 表覆土下層
		B 2.7				
		C 5.3				
4	土師器 環	A (12.8)	底部から口縁部片。平底。体部は内 彎気味に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 底部回転余切り。	長石・石英 褐色 普通	P 653 20% 表覆土上・下層
		B 2.8				
		C (6.3)				
5	土師器 椀	A (15.2)	高台部から口縁部片。高台部下端欠 損。体部は内彎しながら外傾し、口 縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。 高台貼り付け。	長石・石英 褐色 普通	P 654 60% 表覆土下層
		B (4.9)				
		E (0.5)				
6	土師器 椀	B (5.5)	高台部から口縁部片。体部は内彎し ながら外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。高台貼り 付け。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P 655 70% 表覆土上層
		D 8.8				
		E 2.1				
7	長頸瓶 灰釉陶器	B (11.3)	高台部から体部片。高台は短く真下 に伸びる。	体部内・外面ロクロナデ。高台貼り 付け。体部内・外面に施釉。	精良 灰黄色 普通	P 656 20% 覆土下層 黒笹14号燻式
		D (12.8)				
		E (0.5)				

図取番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
8	羽口	8.4	(16.6)	2.5	(980.0)	覆土下層	DP 141
9	羽口	7.6	(6.6)	2.5	(545.0)	覆土下層	DP 142 P L 38
10	羽口	9.1	(10.2)	3.0	(375.0)	覆土下層	DP 143 P L 38
11	羽口	7.6	(8.6)	2.1	(330.0)	覆土下層	DP 144 P L 38
12	羽口	9.7	(7.8)	3.0	(325.0)	覆土下層	DP 145 P L 38
13	羽口	6.9	(5.3)	2.1	(146.3)	床面	DP 146 P L 38
14	羽口	7.6	(10.1)	(1.8)	(218.0)	覆土中	DP 147
第268図15	羽口	[7.0]	(8.0)	(2.2)	(90.1)	覆土中	DP 150
16	羽口	8.2	(7.9)	(2.2)	(165.3)	覆土中	DP 148

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第268図17	鉄附	(24.9)	—	1.8	(201.8)	床面	M84
18	鉄鉗か	(6.9)	—	0.7	(29.2)	床面	M83
19	鉄網	(8.4)	1.1	0.5	(20.4)	覆土上層	M85
20	鉄鏝	(5.3)	1.2	0.9	(15.0)	床面	M88

遺物 土師器片1,981点, 須恵器片81点, 陶器片2点, 土製羽口9点, 鉄製品(鉄鉗, 鉄鏝, 鉄網), 鉄滓299kg等が出土している。第267・268図1-4の土師器坏と6の土師器碗は壺内から出土し, 5の土師器碗は壺内と東壁際南部から出土したものが接合した。7の灰釉陶器長頸瓶は北部と南部の覆土下層から出土したものが接合した。8-12の羽口は南壁際東部の覆土下層から, 13の羽口はP₂付近の床面から, 14-16の羽口は覆土中から出土している。17の鉄鉗は西壁際の床面から, 18の鉄鉗は西部の床面から出土している。19の鉄網は北西コーナー部の覆土上層から, 20の鉄鏝はP₂付近の床面からそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から10世紀中業と思われる。本跡からは鍛造刺片や粒状滓, 塊形滓, 鉄滓等が多量に出土し, 羽口, 鉄鉗等も出土していることから鍛冶工房跡と考えられる。そこで遺構内の作業空間の配置を明らかにするために覆土を50cm方眼で分割して取り上げ, 洗浄したのち鍛造刺片と粒状滓について重さを計測した(第266図)。その結果, 鍛造刺片が多く出土しているのはP₁, P₂, H4区, F7区, D3区等であった。粒状滓が多く出土しているのはP₁, H4区, F7区, D5区であった。これらから, P₁とP₂付近に金床があったと考えられる。P₁・P₂・P₄内から鍛造刺片や粒状滓が多量に出土しているのは, 投棄されたものと思われる。また, 本跡内から金床石から検出されなかったのは, 本工房を廃棄する際に持ち去ったものと思われる。さらに, 本跡内の覆土中からは全体で299kgの鉄滓が出土している。これはやはり本工房を廃棄する際に投棄された可能性が高い。

第2号鍛冶工房跡(第269図)

位置 調査区の南部, E7j区。

重複関係 本跡は, 北東部を第65号住居跡に掘り込まれていることから, 第65号住居跡よりも古い。

規模と平面形 長軸7.21m, 短軸4.47mの長方形である。

主軸方向 N-19°-W

壁 壁高は15cmで, 外傾して立ち上がる。

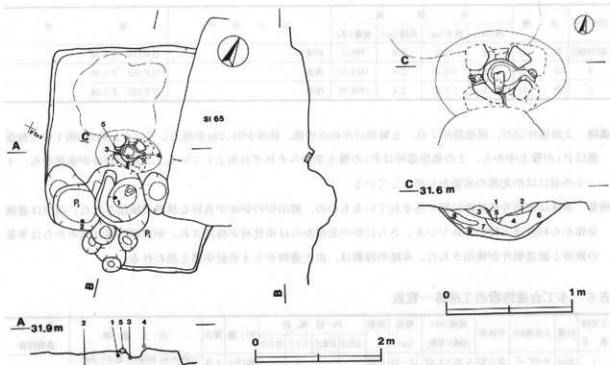
床 踏み固めた部分は見られない。

ピット 2か所(P₁・P₂)。P₁は長径120cm, 短径85cmの不整楕円形, 深さ45cm, P₂は径75cm前後の不整円形, 深さ20cmでいずれも鍛冶工房に関わるピットと思われる。

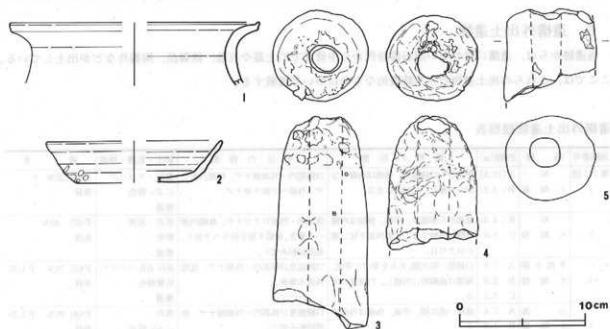
炉 ほぼ中央部に位置し, 長径64cm, 短径51cmの楕円形で, 床面を23cm掘り窪めている。炉壁は砂混じり粘土で構築され, 四方に窪みがあり, 4点の羽口を差し込めるような構造であった。炉内や炉の周囲から羽口が5点ほど出土しているが, これ以外にも遺構全体から羽口の破片が多く出土している。検出された状況や鍛造刺片, 鉄滓, 羽口等が多量に出土していることから, 鍛冶炉と思われる。

土層解説

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 褐灰色 火熱を受けた砂質粘土層 | 6 灰褐色 ローム混じりの砂質粘土層 |
| 2 暗赤褐色 赤化した砂質粘土層 | 7 暗赤褐色 赤化した砂質粘土層 |
| 3 暗赤褐色 赤化した砂質粘土層 | 8 暗赤褐色 弱赤化した砂質粘土層 |
| 4 暗赤褐色 赤化した砂質粘土層 | 9 明褐色 礫化したローム層 |
| 5 暗赤褐色 赤化した砂質粘土層 | |



第269図 第2号鍛冶工房跡実測図



第270図 第2号鍛冶工房跡出土遺物実測図

第2号鍛冶工房跡出土遺物観察表

図取番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第270図 1	甕 土師器	A(19.9)	体部から口縁部片。体部は内湾し、口縁部は強く外反する。口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	灰石・石灰・骨・スコリアに多い褐色 普通	P 657 5% P ₁ 覆土中
		B(5.0)				
2	坏 須恵器	A(14.0)	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ロケロナデ。底部手持ちへラ削り。	灰石 黄灰色 普通	P 658 40% P ₂ 覆土中 体部内・外面に鉄錆
		B 3.3				
		C(9.0)				

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	長さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第270図3	羽口	7.6	17.2	2.6	760.0	炉床	D P 151 P L 38
4	羽口	7.5	(10.7)	2.6	(415.0)	床面	D P 152 P L 38
5	羽口	7.1	(7.4)	2.4	(258.0)	床面	D P 153 P L 38

遺物 土師器片52点、須恵器片7点、土製羽口片40点の他、鉄滓が91.2kgが出土している。第270図1の土師器甕はP₁の覆土中から、2の須恵器坏はP₂の覆土中からそれぞれ出土している。3の羽口は炉床面から、4・5の羽口は炉北部の床面から出土している。

所見 本跡は第65号住居跡に掘り込まれているものの、鍛冶炉の炉床が良好な状態で検出された。羽口は遺構全体から40点ほど検出されている。さらに炉の北部からは炭化材が検出され、炉南部の掘り込みからは多量の鉄滓と鍛造剥片が検出された。本跡の時期は、出土遺物から8世紀中葉と思われる。

表6 木工台遺跡鍛冶工房跡一覧表

工跡番号	位置	主(奥)棟方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設				炉・甕土	出土遺物	備考 重複関係
							主柱穴	貯蔵穴	ピット	出入口			
1	E9 ₄₄	N-79°-E	長方形	5.25×3.60	12~30	平垣			4		甕1炉1	人瓦 土師器片30点、須恵器片41点、羽口片9点、鉄滓2点、炭化1点、炭屑1点、鉄滓20kg	
2	E7 ₁₅	N-19°-W	長方形	7.21×4.47	15	平垣			2		炉1	人瓦 土師器片32点、須恵器片7点、羽口片4点、鉄滓91.2kg	本跡→S1-65

6 遺構外出土遺物

当遺跡からは、遺構に伴わない旧石器時代から中世までの土器や石器、鉄製品、陶器片などが出土している。ここでは、これらの出土遺物のうち特徴的なものについて掲載する。

遺構外出土遺物観察表

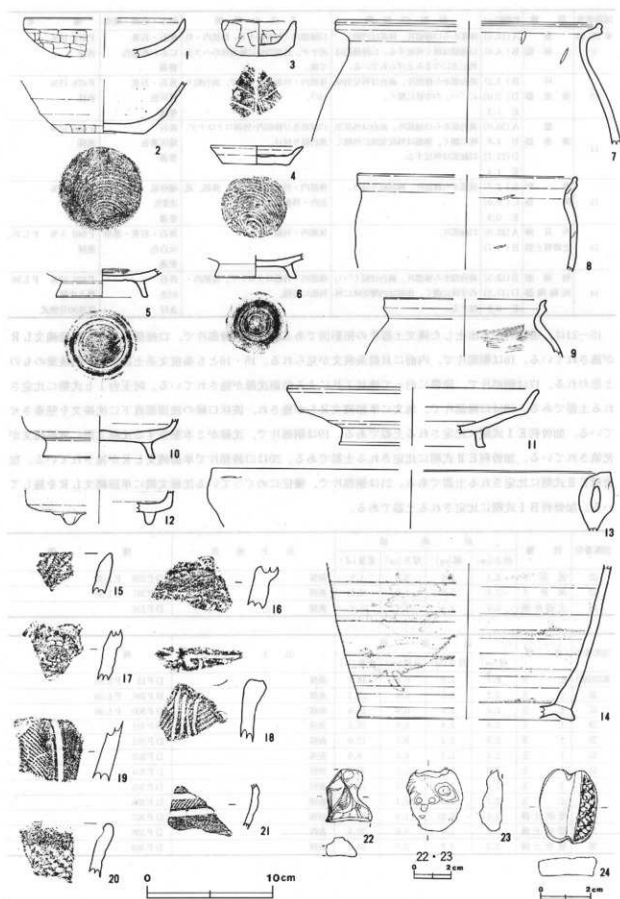
図版番号	器種	寸法(m)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第271図 1	坏 土師器	A (12.8) B (3.2)	底部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾し、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ。外面へラ削り後ナデ。	雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P 674 25% 表採
2	坏 土師器	B (4.3) C 6.6	底部から体部片。平底。体部は内彎欠味に外傾する。体部外面下に強い口クラ目。	体部内・外面口クラナデ。体部内面へラ磨き。体部下端手持りへラ削り。底部回転糸切り。	長石・石英 褐色 普通	P 675 40% 表採
3	手掘土器 土師器	A 5.8 B 2.9 C 5.2	口縁部一部欠損。丸みを帯びた平底。体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面ナデ。底部外面本葉肌。	長石・石英・スコリア 灰黄褐色 普通	P 635 70% P L 35 表採
4	小 土師器	A 7.4 B 1.6 C 5.4	底部一部欠損。平底。体部は外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	雲母 にぶい褐色 普通	P 681 95% P L 35 表採
5	高台付坏 土師器	B (2.3) D 7.2 E 1.3	高台部から体部片。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面口クラナデ。高台貼り付け。体部内面へラ磨き後、黒色処理。	長石・雲母・スコリア にぶい黄褐色 普通	P 296 15% 表採
6	高台付坏 土師器	B (2.0) D 6.4 E 1.1	高台部から体部片。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面口クラナデ。高台貼り付け。体部内面へラ磨き後。	石英・雲母・パミス 褐色 普通	P 287 15% 表採
7	甕 土師器	A (21.2) B (9.8)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面にへラ出で肌。	長石・石英・雲母・スコリア 褐色 普通	P 676 10% 表採
8	甕 土師器	A (17.4) B (7.6)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁端部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面に輪飾り肌。	長石・石英 褐色 普通	P 677 10% 表採

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第27図 9	壺 土 甌	A (13.0)	体部から口縁部片。体部は内彎し、口縁部は強く外反する。口縁部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面に指曲状のヘラ当て痕。	長石・石英 赤褐色 普通	P 678 10% 表採
		B (4.6)				
10	坏 器	B (3.2)	高台部から体部片。高台は外反気味に「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け。	長石・石英 黄灰色 普通	P 679 15% 表採
		D (9.0)				
		E 1.3				
11	壺 器	A (20.0)	高台部から口縁部片。高台は外反気味に開く。体部は外反気味に外反し口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ。高台貼り付け。	長石 暗灰黄色 普通	P 680 10% 表採
		B 4.6				
		D (11.7)				
		E 1.4				
12	香 陶 器	B (2.7)	底部から体部片。脚部貼り付け。	体部内・外面ロクロナデ。体部、底部内・外面に施釉。	細砂粒 淡黄色 普通	P 243 5% 表採
		C (9.0)				
		E 0.9				
13	内 耳 罎 土師黄土器	A (32.0)	口縁部片。	体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 灰白色 普通	P 640 5% P L35 表採
		B (4.7)				
14	短 頸 甌 灰 釉 陶 器	B (12.5)	高台部から体部片。高台は強く「ハ」の字状に開く。体部は内彎気味に外反する。	体部内・外面ロクロナデ。体部内・外面に施釉。	長石 灰白色 良好	P 328 10% P L30 覆土中層 黒色90号窯式
		D (17.2)				
		E 0.9				

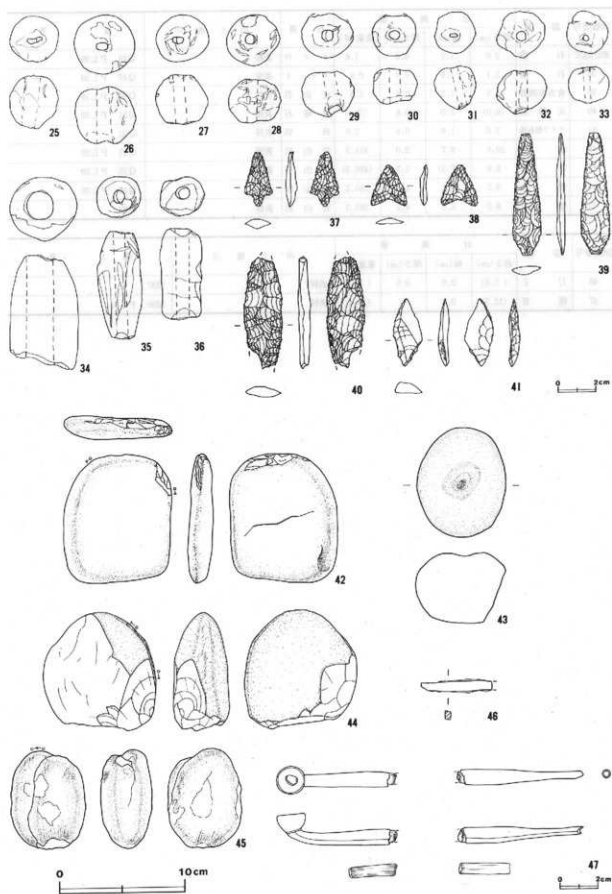
15～21は、遺構外から出土した縄文土器片の拓影図である。15は口縁部片で、口縁部直下から単節縄文L Rが施されている。16は胴部片で、内面に貝殻条痕文が見られる。15・16とも条痕文系土器で、早期後葉のものと思われる。17は胴部片で、隆帯に沿って棒状工具による結節沈線が施されている。阿玉台I b式期に比定される土器である。18は口縁部片で、地文に単節縄文R Lが施され、波状口縁の波頂部直下に沈線文を懸垂させている。加曾利E I式期に比定される土器である。19は胴部片で、沈線が2本懸垂する沈線文間に無節縄文が充填されている。加曾利E II式期に比定される土器である。20は口縁部片で単節縄文L Rが施されている。加曾利E II式期に比定される土器である。21は胴部片で、横位にめぐっている沈線文間に単節縄文L Rを施している。加曾利B I式期に比定される土器である。

図版番号	器種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
22	泥 面 子	2.1	1.9	0.8	1.9	表採	DP 298 P L38
23	泥 面 子	(2.4)	2.3	1.0	(3.9)	表採	DP 297 P L38
24	土 器 片 鏝	2.7	2.4	1.1	15.2	表採	DP 310

図版番号	器種	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第27図25	土 玉	2.7	2.9	0.8	18.7	表採	DP 19 P L36
26	土 玉	3.2	3.0	0.9	27.3	表採	DP 299 P L36
27	土 玉	2.8	2.6	0.6	16.6	表採	DP 300 P L36
28	土 玉	2.8	2.4	0.6	16.2	表採	DP 301
29	上 玉	2.8	2.4	0.7	13.0	表採	DP 302
30	土 玉	2.4	1.9	0.6	8.9	表採	DP 303
31	土 玉	2.3	2.3	0.5	10.3	表採	DP 304
32	土 玉	2.6	2.3	0.6	12.5	表採	DP 305
33	土 玉	2.2	2.0	0.4	8.1	表採	DP 306
34	管 状 土 鏝	3.6	(6.2)	1.4	(65.7)	表採	DP 307
35	管 状 土 鏝	2.4	5.7	0.6	22.8	表採	DP 308
36	管 状 土 鏝	2.3	4.8	0.7	24.5	表採	DP 309



第271図 遺構外出土遺物実測図(1)



第272图 遺構外出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
奉272回37	石 鏃	2.8	1.5	0.6	1.6	メノウ	表採	Q48 P L39
38	石 鏃	2.1	1.9	0.3	0.9	チャート	表採	Q49 P L39
39	有舌尖鏃器	6.5	1.5	0.4	5.3	安山岩	表採	Q50 P L39
40	尖頭器	(6.0)	2.0	0.6	(7.4)	黒曜石	表採	Q51 P L39
41	ナイフ型石器	3.6	1.6	0.6	2.6	頁岩	表採	Q52
42	磨石	10.6	8.7	2.0	311.3	安山岩	表採	Q15 P L39
43	凹石	8.8	(7.2)	5.7	(496.3)	安山岩	表採	Q55 P L39
44	磨石	9.5	9.1	4.5	510.2	安山岩	表採	Q10 P L39
45	磨石	8.0	6.0	4.2	253.3	安山岩	表採	Q28

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
46	刀子	(5.8)	0.9	0.5	(8.3)	表採	M87
47	煙管	(12.5)	0.8	—	(10.4)	表採	M80 P L41

第4節 まとめ

今回の調査で、古墳時代後期から平安時代にかけての住居跡を106軒検出した。ここでは各時代ごとに住居跡や出土遺物について概要を述べ、まとめたい。また、当遺跡内からは鍛冶工房跡が2軒検出され、これ以外にも鍛冶に関連すると思われる遺構（土坑）が4基検出されている。これらについても若干の検討を加えたい。

旧石器時代

旧石器時代の遺構及び遺物集集中地点は確認されなかったが、尖頭器、ナイフ型石器が数点表土中から出土している。

縄文時代

遺構は確認されなかったが、早期後葉の条痕文系土器、中期前葉の阿玉台I式、中期中葉の加曾利EⅠ式、EⅡ式、後期中葉の加曾利BⅠ式に比定される土器片が採集されている。石器では石鏃、磨石、敲石、凹石等が出土している。こうしたことから当遺跡周辺を、当時の人々が生活の場として利用していたことが考えられる。

古墳時代

2期に分けることができる。

第1期（6世紀）

本期にあたる住居跡は、第15・98・104号住居跡で、6世紀後葉から末葉のものである。ただし第98号住居跡は、一部が調査区域外のため遺構全体の様子をつかめなかった。これらの住居跡はいずれも調査区南部で検出されている。平成9年度の調査結果からも、この時期の集落の中心は当遺跡の西部から南に伸びた舌状台地上にあるものと思われる。平面形は方形で、規模は第15号住居跡が一辺約6m、第104号住居跡が一辺約4mで、大きさに統一性はない。主軸方向はN-6°-22°-Wの範囲にあり、北方向を意識して構築されている。出土遺物は、土師器坏・甕・甔、須恵器坏・甕等である。土師器の坏に内面が黒色処理されたものがある。

第2期（7世紀）

本期にあたる住居跡は、第2・6・7・57・67・70・78・102号住居跡である。集落は、遺跡内の北西部と南東部の二つのグループに分けられる。主軸方向は、第2・57・70号住居跡を除いてN-10°-32°-Wの範囲にある。平面形は、方形または長方形である。規模は一辺が2.5mほどの第70号住居跡のような小形の住居跡から、一辺が8.5m前後の第7号住居跡のような大形住居跡までさまざまである。出土遺物は、土師器坏・高台付坏・甕、須恵器坏・高台付坏・甕・甔等である。第7号住居跡の竈内と竈右袖部付近から土師器の坏や甕が多量に出土している。第2号住居跡は、南西部が調査区域外のため全体は調査できなかったが、竈がなく中央部から炉が検出されている。住居以外の目的に使用された可能性も考えられるが、詳細は不明である。

奈良時代（8世紀）

当遺跡の中心となる時期で、この時期になると須恵器坏・高台付坏等の出土が多くなり、土師器が減少する。また、鉄製品や鉄甌、鉄滓等が多く出土してくる。

本期にあたる住居跡は遺跡全体で45軒検出され、調査区全域から検出されているが、西部より東部に多く検出されている。また、南部から鍛冶工房跡が1基検出されている。住居跡の規模は、一辺が3.5m以下の小形住居跡と4～5mの中形の住居跡が中心であるが、第41号住居跡のように一辺が8m以上の大形のものもあり、規模にばらつきがある。主軸方向は真北を中心にN-34°-WからN-40°-Eの範囲であるが、その中でもN-18°-WからN-15°-Eのものが多かった。出土遺物は、土師器杯・甕、須恵器杯・高台付杯・盤・蓋・甕・甗等である。土師器甕は大形で肩が張り、口縁部つまみ上げと、底部外面に木業痕のあるいわゆる常総型甕が多い。須恵器は8世紀の初めは少ないが、次第に量が増え中業から後業には多量になる。

当遺跡から出土する須恵器は、水戸市木業下窯跡群と新治村新治窯跡群の製品が出土するのが特徴である。須恵器杯は底径が大きく、器高は低いものが多く、体部下端を削っているものもある。底部は回転ヘラ削りのもの、一方向の手持ちヘラ削りのものとさまざまである。蓋は口縁部内側に短いえりをもつものと、口縁端部が短く折り返されているものがある。第95号住居跡は竈がなく、中央部からやや北東寄りに炉が2基検出されている。また、四方の壁際に補助柱穴があり、壁は粘土で補強されている。出土遺物は土師器片、須恵器片、炭化材900g、砥石5点、鉄製鑿先1点の他、土玉が130点以上出土している。第9号住居跡からは、銅製の帯金具（鈍尾）が出土している。

平安時代

奈良時代同様、当遺跡の中心となる時期で3期に分けた。

第1期（9世紀）

本期にあたる住居跡は遺跡全体で35軒検出され、調査区全域から検出されているが、調査区中央部には少なく、大きく東西二つの集落に分けられる。住居跡の規模は一辺が4m以上の住居跡は少なく、3.5m前後のものが大部分である。8世紀代の住居跡よりも小形になる傾向にある。第52・56・63・99号住居跡のように3mに満たないものもある。また、本期は8世紀代より住居跡の規模にばらつきがなく、大部分が一辺3～4mであるのも特徴の一つである。主軸方向はN-68°-WからN-103°-Eの範囲であるが、その中でもN-18°-WからN-21°-Eのものが多く、また、8世紀代の住居跡で主軸方向がN-72°-Eよりも西に偏するものはないが、9世紀代になるとN-80°-Eよりも西に偏する住居跡が7軒存在する。出土遺物は、土師器杯・甕、須恵器杯・高台付杯・高杯・盤が出土している。須恵器杯は8世紀代より底径が小さくなり、器高が高くなる。後半になると須恵器が減少し、ロクロ成形の土師器が多く見られようになる。高台付杯は、高台が高くなる。また、鏃、鎌、刀子などの出土量も多い。第31号住居跡からは銅製の帯金具（絞具）が出土し、第34号住居跡からは円面硯が出土している。

第2期（10世紀）

本期にあたる住居跡は、第22・26・42・59・62・76・79・103号住居跡である。また、鍛冶工房跡が1軒検出されている。鍛冶工房跡も含めて、第42・103号住居跡以外の住居跡はすべて調査区の東部から検出されている。また、住居跡の規模はほとんどが3.5m前後で方形である。主軸方向はN-58°-92°-Eの範囲内にあり、調査区内ではこの時期のすべての住居跡が東に竈を持っている。出土遺物としては、土師器が主体で須恵器はほとんど見られなくなる。土師器杯の底部は回転糸切り無調整のものが多くなる。第59号住居跡からは折戸53号窯式の灰軸陶器が出土している。

第3期（11世紀）

本期にあたる住居跡は、第80号住居跡である。規模は一辺が3.5m前後で、方形である。竈が北壁と東壁に

2基検出された。出土遺物は、土師器坏・高台付坏・椀・高台付皿・壺のほか、流れ込みと思われる須恵器坏・高台付坏が出土している。土師器高台付皿と椀は、内面が黒色処理されている。

鍛冶工房跡

当遺跡においては、試掘の段階から鉄滓等が多く出土し、製鉄関係の遺構が多数検出されるものと予想された。実際の調査でも南東部を中心に鉄滓や焼土、炭化材、砂等が出土する遺構が多かった。しかし、製鉄関係と推定される遺構（鍛冶工房跡）は2基のみで、当初製鉄関係の遺構としていたものも、遺構の構造や遺物からだけでは推定できないものがあり土坑として扱った。第165・166・167・168号土坑が該当する。ただ、これらの遺構からは鉄滓が多量に出土し、第168号土坑からは椀形鍛冶滓（製錬鍛冶滓）が出土している。なお、当遺跡の住居跡からは量に差はあるものの鉄滓が出土することが多い。

第1号鍛冶工房跡からは、多量の鉄滓、鍛造剥片、粒状滓が出土している。これらの遺物から、本跡は鍛錬鍛冶段階のものと思われる。鉄滓は合計298kg出土している。鉄滓の中には、椀形滓も多量に含まれている。鍛造剥片は、一辺が1mmのものから5mmの厚手のものまで多量に出土している。粒状滓も長径1mm以下のものから7mm程度のものでさまざまである。鉄滓は投棄された可能性もあるが、299kgと多量に出土している。また、金床石が出土しなかったのは本跡を廃棄した際、持ち去ったものと思われる。本跡の時期（10世紀）に存在したと思われる住居跡は、8軒だが、この時期の集落の中心は南東部であり、調査区域外に集落の範囲は広がるものと思われる。本跡は、この集落や周辺地域に鉄製品を供給した鍛冶工房と考えられる。さらに、多量の鍛造剥片や粒状滓が検出されていることから、長期にわたって鍛冶が行われた可能性がある。

第2号鍛冶工房跡は鍛冶炉の炉壁上部は消失しているものの、炉壁の下部と炉床が検出された。炉壁下部には4か所の羽口装着口があった。羽口は2点が装着口に差し込まれているような状態で出土しているが、本来の在り方とは逆向きであった。この他にも羽口は、炉の周囲から数点出土している。また、鍛冶炉の南側には掘り込みがあり、炉内から出た鉄滓等はここに投棄されたものと考えられる。本跡は炉の構築された状況を見るため、掘り方の土層断面を調査した。その結果、長径210cm、短径150cm、深さ80cmほど床を掘り込み、その中に砂質粘土（砂混じり粘土）を貼って突き固め、その上に炉を構築していた。砂質粘土は炉床に近いほど赤変色している。本跡の時期（8世紀）の住居跡は調査区全域から45軒検出され、刀子・鎌等が多量出土した。本跡は、これら生活に必要な鉄製品を供給するための、集落内の鍛冶工房であったと考えられる。

参考文献

- ・ 栃木県教育委員会 「一般国道4号（新4号国道）改築に伴う埋蔵文化財発掘調査 金山遺跡Ⅰ」 「栃木県埋蔵文化財調査報告第135集」 1993年3月
- ・ 勝田市文化・スポーツ振興公社 「武田Ⅳ—1990年武田遺跡群発掘調査の成果」 1991年3月
- ・ 財団法人 鹿島町文化・スポーツ振興事業団 「春内遺跡」 1995年3月
- ・ 穴澤義功 「製鉄遺跡からみた古代・中世の鉄生産」 1994年10月
- ・ 茨城県教育財団 「一般国道6号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 三反田下高井遺跡」 「茨城県教育財団文化財調査報告第128集」 1998年3月

付 章

木工台遺跡出土鉄滓の成分分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

木工台遺跡は北浦にそそぐ武田川左岸の台地上に立地する。これまでの発掘調査により、古墳時代後期～平安時代にわたる集落跡が確認されている。その中でも8世紀代～9世紀代に構築された製鉄関連の遺構が数基検出され、鍛冶に伴う鉄滓が出土している。

今回の自然科学分析では、出土した鉄滓の金属学的調査を実施し、当時の製鉄の様態に関する資料を得ることを目的とする。なお、本分析調査については、大澤正己先生に分析および解析を依頼した経緯から、本報告では署名原稿として示す。

木工台遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査

大澤 正己

1. 概要

9世紀代に属する木工台遺跡の鍛冶関連遺構 (SK-1) と住居跡 (SI-1・SI-26・SI-59)、土坑 (SK-168) から出土した鉄滓10点を調査して、次の点が明らかになった。

- < 1 > 出土鉄滓は、KBD-4の1点を除いて、塩基性砂鉄由来の荒鉄（製錬生成鉄で、表皮スラグや捲込みスラグ、更には炉材粘土などの不純物を含む原料鉄：鉄塊系遺物）を鍛冶原料として、成分調整の精錬鍛冶を行った鍛冶滓である。鍛冶工房の存在が推定される。
- < 2 > 鍛冶工房内には、鍛冶原料となる含鉄炉底塊（製錬滓）も搬入されて粗・小割り選別後の鉄塊抽出作業を行った形跡を残す。この時の残滓がNo.3485 KBD SK-168 Bトレ試料 炉底塊破片である。
- < 3 > 精錬鍛冶は、原料鉄に銑鉄を充当して脱炭下げ操業から一般荒鉄の成分調整まで想定された。また、鍛冶作業において赤熱鉄素材の酸化防止に粘土汁の塗布があって、ガラス質成分の多い鉄滓が生じている。
- < 4 > 坩堝鍛冶滓の表層に赤熱鉄素材の表面酸化膜が鍛冶作業で剝離・飛散した際に派生した粒状滓や鍛造切片が付着していた。本遺跡で鍛錬鍛冶作業があったことも間接的に確認できた。
- < 5 > 木工台遺跡では、出土鉄滓から荒鉄の成分調整を行った精錬鍛冶主体の工房跡の存在が推定された。また、鍛冶作業を行う製品製作の鍛錬鍛冶の可能性までが坩堝形鍛冶滓に付着する鍛造切片から予測される。また、製錬滓の炉底塊が搬入されているところからみて、近くに製鉄炉の存在があったと推定される。なお、精錬鍛冶滓中の酸化チタン (TiO₂) が4.34%～9.87%と高いので、鍛冶原料になる荒鉄は精錬度の低いものが除滓目的で精錬鍛冶されたと考えられる。

以上が、木工台遺跡における鍛冶作業の実態となろう。

2. 経 緯

木工台遺跡は、茨城県行方郡北浦町大字内宿1508他に所在する。本遺跡は、北浦に注ぐ武田川左岸の台地上に立地し、これまでの発掘調査により古墳時代後期～平安時代の集落跡（住居跡106軒）や製鉄関連遺構（2基）などが検出されている。分析試料とした鉄滓は、製鉄関連遺構（SX-1）と住居跡と考えられる遺構（SI-1・SI-26・SI-59）、及び土坑SK-168から出土したものである。

SI-26・SK-168・SX-1は年代的に9世紀後半頃、住居跡SI-1は8世紀末～9世紀初頭、SI-59は9世紀中頃と考えられている。いずれも年代的には大きな時間差はないが、各年代で様態が異なるのであれば、本遺跡周辺の8世紀～9世紀における製鉄の様態を考える上で興味ある資料が得られるのではないかとこの趣旨のもとに金属学的調査の運びとなった。

3. 試 料

表1に示す。SI-26は2点、SK-168は3点、SX-1は各2点、SI-1は1点、SI-59は2点の合計10点の調査となる。

表1 供試料の履歴および調査項目

試 料 名	試料の様態	年 代	計 測 値		調 査 項 目		
			大きさ(mm)	重量(g)	顕微鏡 組 織	ビッカース 断面硬度	化学組成
No.1603 KBD SI-26 E-6	含鉄橢形鍛冶滓	9世紀後半	90×90×28	410	○	○	○
No.1592 KBD SI-26 C-5	橢形鍛冶滓	9世紀後半	65×55×25	95	○	○	○
No.3493 KBD SK-168 Hトレ	鍛造薄片付着 橢形鍛冶滓	9世紀後半	95×65×36	250	○	○	○
No.3485 KBD SK-168 Bトレ	含鉄炉底塊	9世紀後半	55×50×60	300	○	○	○
No.3490 KBD SK-168 Eトレ	橢形鍛冶滓	9世紀後半	50×60×30	95	○	○	○
KBD SX-1 D7	扁平橢形鍛冶滓	9世紀後半	50×35×18	60	○	○	○
KBD SX-1 C8	橢形鍛冶滓	9世紀後半	80×55×25	110	○	○	○
KBD SI-1 No.163	橢形鍛冶滓	8世紀末 ～9世紀初頭	70×47×35	190	○	○	○
KBD SI-59 No.12	炉壁	9世紀中頃	60×92×15	95	○	○	○
KBD SI-59 No.34	橢形鍛冶滓	9世紀中頃	100×65×50	460	○	○	○

4. 調査項目

(1) 肉眼観察

表面の形状・付着物などの試料平面の観察を行った。

(2) 顕微鏡組織

供試材は水道水で十分に洗浄・乾燥後、中核部をベークライト樹脂に埋込みエメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1,000と順を追って研磨し、最後に被研面をダイヤモンドの3μと1μで仕上げ、光学顕微鏡観察を行った。

(3) ビッカース断面硬度

鉄滓の鉱物組成の同定を目的として、ビッカース断面硬度計 (Vickers Hardness Tester) を用いて、硬さ

の測定を行った。試験は鏡面研磨した試料に136度の頂角をもったダイヤモンドを押し込み、その時に生じた窪みの面積をもってその荷重を除いた商を硬度値としている。試料は顕微鏡試料を併用した。

(4) 化学組成分析

供試材の分析は次の方法で実施した。

- ・全鉄分 (Total Fe), 金属鉄 (Metallic Fe), 酸化第1鉄 (FeO) : 容量法。
- ・炭素 (C), 硫黄 (S) : 燃焼容量法, 燃焼赤外吸収法。
- ・二酸化珪素 (SiO_2), 酸化アルミニウム (Al_2O_3), 酸化カルシウム (CaO), 酸化マグネシウム (MgO), 酸化カリウム (K_2O), 酸化ナトリウム (Na_2O), 酸化マンガン (MnO), 二酸化チタン (TiO_2), 酸化クロム (Cr_2O_3), 五酸化燐 (P_2O_5), バナジウム (V), 銅 (Cu) : ICP (Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer) 法 : 誘導結合プラズマ発光分析。

5. 結果および考察

(1) SI-26遺構出土鉄滓

1-1. No.1603 KBD SI-26 E-6 : 含鉄腕形鍛冶滓 (精錬鍛冶滓)

・肉眼観察

平面は、ほぼ楕円形状で鍛冶炉の炉底に堆積形成された含鉄腕形鍛冶滓である。表面は黒赤色の滑らか肌で、含鉄のため亀裂が走り、既に4片に割れる。周縁は黄褐色のもらい錆を付着する。裏面は表と同色で全面がもらい錆に覆われる。僅かに炉底粘土との反応痕を留める。破面は黒色光沢で気泡少なく緻密質。断面上層側に金属鉄を含み、発錆から赤黒色を呈す。含鉄鉄滓であり、重量感あり。

・顕微鏡組織

図版1の①～⑨に示す。鉱物組成の主体は、③にみられる白色粒状結晶のウスタイト (Wustite : FeO) と、その粒内析出物の淡褐色微小結晶のウルボスピネル (Ulvospinel : $2\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$) 及び②の局部的に晶出する淡茶褐色独立結晶のウルボスピネル、それらの粒間を埋める淡灰色盤状結晶のファイヤライト (Fayalite : $2\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$) と基地の暗黒色ガラス質スラグから構成される。なお、当腕形鍛冶滓の底部で粘土接触近傍では、①にみられる淡灰色木ずれ結晶のファイヤライトと、極く微量のウルボスピネルを晶出する箇所も多く存在する。

一方、該品で注目しておきたいのは、腕形鍛冶滓中に零れ落ちた鉄鉄である。⑤～⑦にみられる様に片状黒鉛 (Flak graphite) を晶出して、基地はパーライト (Pearlite : フェライトとセメントタイトが交互に重なり合って構成された層状組織) をもつ亜共晶組成のねずみ鋳鉄 (Gray cast iron) である。この鍛冶作業は、鋳鉄の脱炭で可鍛鉄 (低炭素鋼) にする「下げ」作業で派生した滓と想定される。精錬鍛冶滓に分類される。

鋳鉄中の炭素は、黒鉛として存在するものをねずみ鋳鉄、セメントタイト (Cementite : Fe_3C) 析出するものを白鋳鉄 (White cast iron) と呼ぶ。同じ炭素含有量であっても凝固冷却速度が速くなればセメントタイト、おそくなれば黒鉛を晶出する。該品は、鍛冶炉内で徐冷されているので片状黒鉛を晶出した訳である。

腕形鍛冶滓の含鉄部分からの鉄鉄が発見される事例は数少なく、管見では熊本県所産頭地松本B遺跡の腕形鍛冶滓①が、想い浮かぶ程度である。

・ビッカース断面硬度

図1の③・⑨にパーライト基地の断面硬度測定印痕を示す。③はパーライトが白っぽく映る個所で硬度値268Hv、⑨は黒っぽいパーライトで208Hvであった。両者は共析鋼 (C : 0.77%) 領域であり、妥当な値と考えられる。

・化学組成分析

表2に示す。顕微鏡組織は鉄塊存在個所を選んだが、分析試料は滓側となった。全鉄分 (Totale Fe) は、51.03%に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.59%, 酸化第1鉄 (FeO) 50.34%, 酸化第2鉄 (Fe₂O₃) 16.17%の割合である。ガラス質成分 (SiO₂+Al₂O₃+CaO+MgO+K₂O+Na₂O) は26.03%で、このうち塩基性成分 (CaO+MgO) を2.51%と、やや高めに含む。砂鉄特有成分の二酸化チタン (TiO₂) 4.34%, バナジウム (V) 0.09%は製錬レベルの約1/6である。また、酸化マンガン (MnO) 0.17%など脈石成分は、或る程度含有されて、荒鉄 (製錬生成鉄で、表皮スラグや捲込みスラグ、更には炉材粘土などの不純物を含む原料鉄: 鉄塊系遺物) の成分調整で排出された精錬鍛冶滓に分類される。この場合の精錬鍛冶は、脱炭の下げ作業であった。

1-2. No.1592 KBD SI-26 C-5: 楕形鍛冶滓破片 (精錬鍛冶滓)

・肉眼観察

平面が正三角形状で、2面が破面である。表面は赤褐色～黄褐色の顆粒状酸化土砂被膜を付着させる。裏面は青灰色砂粒混じりの炉材粘土を固着。破面は灰褐色緻密質スラグで気泡はほとんどない。

・顕微鏡組織

図版2の①～③に示す。鉱物組成は、白色粒状グスタイトと、その粒状析出物、及び淡茶褐色多角形結晶のウルボスピネルと、その粒間の淡灰色長柱状結晶のファイヤライト、暗黒色ガラス質スラグから構成される。これも荒鉄の成分調整の精錬鍛冶滓に分類される。

・ピッカース断面硬度

図版2の①にみられる淡茶褐色多角形結晶の硬度測定の変痕を示す。硬度値は693Hvであった。ウルボスピネルに同定される⁹⁾。

・化学組成分析

表2に示す。脈石成分を一定量含有した精錬鍛冶滓成分である。全鉄分 (Total Fe) は48.12%に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.18%, 酸化第1鉄 (FeO) 38.69%, 酸化第2鉄 (Fe₂O₃) 25.55%の割合である。ガラス質成分 (SiO₂+Al₂O₃+CaO+MgO+K₂O+Na₂O) は24.97%あり、このうち塩基性成分 (CaO+MgO) 2.67%を含む。砂鉄特有成分の二酸化チタン (TiO₂) 5.69%, バナジウム (V) 0.17%は鍛冶滓レベルである。また、酸化マンガン (MnO) も0.18%と若干含有される。銅 (Cu) は0.005%留まりであった。精錬鍛冶滓に分類される。

1-3. No.3493 KBD SK-168 Hトレ: 楕形鍛冶滓 (精錬鍛冶滓)

・肉眼観察

平面は、楕円形状楕形鍛冶滓の半載品。表裏共に茶褐色を呈し、肌は凹凸はあるものの激しい粗粒さはなく、側面寄りに15mm幅の木炭痕を深く刻む。青灰色微小鍛造剥片を多く付着する。裏面は、僅かに反応痕と木炭痕を残し、側面寄りにガラス質スラグの突起がみられる。羽口先端部溶融物の付着であろう。破面は微小気泡を散在させるが緻密質。比重の大きいスラグである。

・顕微鏡組織

図版3に表層付着の鍛造剥片のみを提示した。鍛造剥片は、鉄素材を大気中で加熱、鍛打すると、表層酸化膜が剥離、飛散したものを指す。俗に鉄肌 (金肌) やスケールとも呼ばれる。鍛冶工程の進行により、表面が荒れ肌の手厚から平坦面をもち薄手へ、色調は黒褐色～青味を帯びた銀白色 (光沢を失う) へ変化する。これも、粒状滓同様に、鍛打作業の実証と、鍛冶の段階を押さえる上で重要な遺物となる⁹⁾。

表 2 - 1 供試料の化学組成(1)

試料名	種別	年代	全鉄分* A (Total-Fe)	金属鉄 (Metallic-Fe)	酸化第 1 鉄 (Feo)	酸化第 2 鉄 (Fe2O3)	二酸化硅素 (SiO2)	酸化アルミニウム (Al2O3)	酸化カルシウム (CaO)
No.1603 KBD SI-26 F-6	精錬級治萍	9世紀後半	51.03	0.59	50.34	16.17	16.63	5.79	1.50
			酸化マグネシウム (MgO)	酸化カリウム (K2O)	酸化ナトリウム (Na2O)	酸化マンガン (MnO)	二酸化チタン* B (TiO2)	酸化クロム (Cr2O3)	硫黄 (S)
			1.01	0.74	0.36	0.17	4.34	0.04	0.04
			五酸化リン (P2O5)	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	渣滓成分* C	C/A	B/A
			0.19	0.04	0.09	0.005	26.030	0.510	0.085
No.1592 KBD SI-26 C-5	精錬級治萍	9世紀後半	48.12	0.18	38.60	25.55	16.86	4.78	1.64
			酸化マグネシウム (MgO)	酸化カリウム (K2O)	酸化ナトリウム (Na2O)	酸化マンガン (MnO)	二酸化チタン* B (TiO2)	酸化クロム (Cr2O3)	硫黄 (S)
			1.03	0.44	0.22	0.18	5.69	0.07	0.05
			五酸化リン (P2O5)	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	渣滓成分* C	C/A	B/A
			0.18	0.17	0.17	0.005	24.970	0.519	0.118
No.3493 KBD SK-168 Hトレ	精錬級治萍	9世紀後半	50.61	0.19	55.04	10.92	19.13	4.73	1.37
			酸化マグネシウム (MgO)	酸化カリウム (K2O)	酸化ナトリウム (Na2O)	酸化マンガン (MnO)	二酸化チタン* B (TiO2)	酸化クロム (Cr2O3)	硫黄 (S)
			1.00	0.79	0.36	0.17	4.22	0.05	0.03
			五酸化リン (P2O5)	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	渣滓成分* C	C/A	B/A
			0.24	0.10	0.11	0.002	27.380	0.541	0.083
No.3485 KBD SI-26 Hトレ	砂鉄製精萍	9世紀後半	40.62	13.16	24.94	11.54	10.36	4.12	5.71
			酸化マグネシウム (MgO)	酸化カリウム (K2O)	酸化ナトリウム (Na2O)	酸化マンガン (MnO)	二酸化チタン* B (TiO2)	酸化クロム (Cr2O3)	硫黄 (S)
			3.22	0.82	0.28	0.79	24.02	0.09	0.08
			五酸化リン (P2O5)	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	渣滓成分* C	C/A	B/A
			0.37	0.10	0.31	0.008	24.510	0.603	0.591
No.3490 KBD SK-168 Eトレ	精錬級治萍	9世紀後半	53.86	0.72	43.32	27.63	8.56	3.15	0.85
			酸化マグネシウム (MgO)	酸化カリウム (K2O)	酸化ナトリウム (Na2O)	酸化マンガン (MnO)	二酸化チタン* B (TiO2)	酸化クロム (Cr2O3)	硫黄 (S)
			1.48	0.27	0.12	0.26	8.64	0.07	0.02
			五酸化リン (P2O5)	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	渣滓成分* C	C/A	B/A
			0.19	0.16	0.21	0.005	14.430	0.268	0.160

表 2-2 供試料の化学組成(2)

試料名	種別	年代	全鉄分* A (Total-Fe)	金属鉄 (Metallic-Fe)	酸化第 1 鉄 (Feo)	酸化第 2 鉄 (Fe2O3)	二酸化硅素 (SiO2)	酸化アルミニウム (Al2O3)	酸化カルシウム (CaO)
KBD SX-1 F7	精練級治萍	9 世紀後半	58.38	0.58	59.22	16.83	9.13	2.87	1.05
			酸化マグネシウム (MgO)	酸化カリウム (K2O)	酸化ナトリウム (Na2O)	酸化マンガン (MnO)	二酸化チタン*B (TiO2)	酸化クロム (Cr2O3)	硫黄 (S)
			1.05	0.26	0.13	0.22	6.18	0.04	0.03
			五酸化リン (P2O5)	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	渣滓成分*C	C/A	B/A
0.37	0.11	0.12	0.002	14.490	0.248	0.106			
KBD SX-1 C8	精練級治萍	9 世紀後半	49.38	0.68	43.46	21.33	12.68	3.93	1.96
			酸化マグネシウム (MgO)	酸化カリウム (K2O)	酸化ナトリウム (Na2O)	酸化マンガン (MnO)	二酸化チタン*B (TiO2)	酸化クロム (Cr2O3)	硫黄 (S)
			1.59	0.32	0.21	0.33	8.79	0.06	0.04
			五酸化リン (P2O5)	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	渣滓成分*C	C/A	B/A
0.96	0.17	0.16	0.002	20.690	0.419	0.178			
KBD SI-1 No.163	精練級治萍	8 世紀末 ~ 9 世紀初頭	18.04	0.21	7.24	17.45	48.78	11.24	1.91
			酸化マグネシウム (MgO)	酸化カリウム (K2O)	酸化ナトリウム (Na2O)	酸化マンガン (MnO)	二酸化チタン*B (TiO2)	酸化クロム (Cr2O3)	硫黄 (S)
			1.42	1.72	1.16	0.23	5.94	0.06	0.02
			五酸化リン (P2O5)	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	渣滓成分*C	C/A	B/A
0.31	0.12	0.10	0.002	65.930	3.655	0.329			
KBD SI-59 No.12	分選精練級	9 世紀中頃	18.58	0.23	13.22	11.54	53.69	12.77	1.78
			酸化マグネシウム (MgO)	酸化カリウム (K2O)	酸化ナトリウム (Na2O)	酸化マンガン (MnO)	二酸化チタン*B (TiO2)	酸化クロム (Cr2O3)	硫黄 (S)
			0.88	2.20	1.25	0.13	1.93	0.08	0.01
			五酸化リン (P2O5)	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	渣滓成分*C	C/A	B/A
0.22	0.03	0.05	0.002	72.550	3.905	0.104			
KBD SI-59 No.34	精練級治萍	9 世紀中頃	55.78	0.21	53.62	19.66	8.68	3.02	0.87
			酸化マグネシウム (MgO)	酸化カリウム (K2O)	酸化ナトリウム (Na2O)	酸化マンガン (MnO)	二酸化チタン*B (TiO2)	酸化クロム (Cr2O3)	硫黄 (S)
			1.39	0.17	0.10	0.28	9.87	0.07	0.02
			五酸化リン (P2O5)	炭素 (C)	バナジウム (V)	銅 (Cu)	渣滓成分*C	C/A	B/A
0.17	0.08	0.23	0.005	14.230	0.255	0.177			

鍛造切片は極めて微細で鍛冶派生物（3mm平方前後で厚みは0.01~0.03mm程度のものが今回の付着切片）であり、発掘調査中に土中~肉眼で識別するのは難しい。通常は鍛冶址の床面の土砂を水洗することにより検出される。鍛冶工場の調査に当たっては、鍛冶炉を中心にメッシュを切って土砂を取り上げ、水洗・乾燥・選別・秤量により分布状況を把握できれば、工房内の作業空間配置の手掛かりとなりうる重要な遺物でもある^④。

前置きが長くなったが、図版3の①~⑨が鍛造切片の断面である。次に鍛造切片の酸化物相としての組織を述べる。鉄素材を鍛冶炉内で高熱で加熱すると、速やかに酸化され、表面に硬い黒鍍を生じる。このものは、通常微厚の外層ヘマタイト（Hematite: Fe_2O_3 ）、中間層にマグネタイト（Magnetite: Fe_3O_4 ）、大部分は内層のヴスタイト（Wustite: FeO ）の3層から構成される。このうちのヘマタイト層は1,450℃を越えると存在しなく、ヴスタイト層は570℃以上で生成される事は、Fe-O系平衡状態図で説明されている^⑤。

図版3の③に示す切片は、内層のヴスタイトが結晶質で先発切片、⑤・⑦・⑧の内層は非晶質で後発切片である。なお、この鍛造切片はno etchの研磨のままでは3層の分離状況が不鮮明であるが、王水（塩酸3：硝酸1）で腐食（Etching）すると、外層ヘマタイトは腐食液に侵されず白色微厚層として残り、中間層のマグネタイトは黄変し、内層ヴスタイトの大部分は黒変する。ともかくも、鍛造切片の存在する場所は、鍛冶工房での鍛打作業のあったことを実証する有力な遺物となる。

次に鉄滓の鉱物組成を述べる。図版4の①~⑨が精錬鍛冶滓を表す鉱物相である。鉱物組成は、白色粒状ヴスタイトと、その粒内微小Fe-Ti化合物、淡茶褐色多角形結晶のウルボスピネルを中心に、淡灰色盤状結晶のファイヤライト、基地の暗黒色ガラス質スラグなどから構成されている。なお、⑥・⑧は参考のためにこの精錬鍛冶滓の鉱物相を王水で腐食した場合の組織を示しておく。淡茶褐色ウルボスピネルは王水に侵されず、白色粒状結晶は黒く侵される箇所とそうではない箇所が混在する。形状近似してヴスタイトとマグネタイトの2結晶の存在を知らせるのであろう。

・ピッカース断面硬度

図版4の③に白色粒状結晶、⑥に淡茶褐色多角形結晶の硬度測定の痕象を示す。硬度値は前者で533Hvであるのでマグネタイト、後者は682Hvでウルボスピネルが同定される。

＜小結＞

S1-26遺構から出土した3点の鉄滓を調査したところ、いずれも鍛冶炉の炉底堆積で形成された塊形鍛冶滓であり、組成は塩基性砂鉄由来の荒鉄（製錬生成鉄で、表皮スラグや推込みスラグ、更には炉材粘土などの不純物を含む原料鉄：鉄塊系遺物）の成分調整を行った精錬鍛冶滓に分類された。この時の鍛冶原料となる荒鉄は、一部は鉄鉄が充たされており、脱炭下げから、赤熱鉄素材の鍛打作業で派生した鍛造切片が付着するので鍛錬鍛冶までの工程があったと推定される。S1-26は、鍛冶工房関連遺構もしくは、鍛冶作業廃棄物のゴミ捨て場的な土坑の可能性をもつが、発掘調査所見をあわせて考慮する必要がある。

(2) SK-168遺構出土鉄滓

2-1. No.3485 KBD SK-168 Bトレ：砂鉄製錬滓（含鉄炉底塊）

・肉眼観察

製鉄炉のコーナー部で形成された炉底塊ブロックで、金属鉄抽出のために小割り選別された残滓である。隅丸2面は生きていて他の2面が破面となる。全面に黄褐色もらい錆を付け、1~2mmの気泡を散在させるも比重は大きい。底部側に亀裂を走らせ金属鉄の残存を表す。厚みが6.0cmを測るので、製鉄炉の炉底部の想定がつく。箱形製鉄炉であろう。

・顕微鏡組織

図版5の①～⑨に示す。①～③は暗黒色ガラス質スラグ中に遺存した砂鉄粒子残渣である。金属鉄粒の大部分は晶出し、チタン鉄鉱(Ilmenite: $\text{FeO} \cdot \text{TiO}_2$)の原形から徐々にスラグ結晶化を始める核が読みとれる。④・⑤は砂鉄粒子から金属鉄が晶出し始めて、まだ凝集しきれずにいる状況を示す。⑥・⑦は、砂鉄粒子の旧形は消滅した海綿状鉄であり、吸炭反応は起っており、フェライト粒界に僅く微量の紐状セメントタイトを析出する程度の極低炭素鋼である。鉄素材とはなりきれない低級含炭炉底塊で廃棄物である。SK-168周辺で鍛冶原料鉄の小割り選別作業があった可能性を物語る残渣である。製鉄炉も近くあったと推定される。

・ピッカース断面硬度

図版5の⑧はフェライト結晶粒の硬度測定の際の圧痕である。硬度値は148Hvでフェライトの硬度値としては若干高め傾向にある。また、⑨は不定形形状の茶褐色結晶と淡灰褐色結晶では、前者が683Hvでウルボスピネル、後者は526Hvでマグネタイトが同定された。

・化学組成分析

表2に示す。脈石成分が多くて製錬滓成分である。全鉄分(Totale Fe)は40.62%に対して金属鉄(Metallic Fe)13.16%と少量含み、酸化第1鉄(FeO)24.94%、酸化第2鉄(Fe_2O_3)11.54%の割合である。ガラス質成分($\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$)は精錬鍛冶滓と大差ないレベルの24.51%で、このうちの塩基性成分($\text{CaO} + \text{MgO}$)は製錬滓なので、多くて8.93%を占める。また、砂鉄特有成分の二酸化チタン(TiO_2)は24.02%と高く、バナジウム(V)0.31%も最高に多い。更に酸化マンガン(MnO)も0.79%も精錬鍛冶滓の4～5倍に達する。製錬滓の成分系であった。

2-2. No.3490 KBD SK-168 Eトレ:不定形塊形鍛冶滓(精錬鍛冶滓)

・肉眼観察

平面が不整形の塊形鍛冶滓。表面は中央へ三角堆状に突起し、木炭痕による凹凸はあるものの、肌荒れはない。裏面は木炭痕と反応痕が区別つかぬ程度に小波状に発生し、表裏全体に黄褐色酸化土砂被膜が覆う。波面をもたぬ滓で緻密質である。比重は大きい。

・顕微鏡組織

図版6の①～⑨に示す。表層の酸化土砂被膜の中に3層分離型(内層ヴスタイト非晶質)の鍛造剥片を付着する。剥片の組織を②～⑤に提示した。鉄滓の鉱物組成は、⑥～⑨にみられるように、白色粒状結晶のヴスタイトと、淡茶褐色多角形結晶のウルボスピネル、それらの粒間を淡灰色盤状結晶のファイアライト、基地の暗黒色ガラス質スラグが埋める。精錬鍛冶滓の晶癖である。

・ピッカース断面硬度

図版6の①に淡茶褐色多角形結晶の硬度測定の際の圧痕を示す。硬度値は655Hvであった。鉱物相はウルボスピネルに同定される。

・化学組成分析

表2に示す。全鉄分(Total Fe)は53.86%に対して、金属鉄(Metallic Fe)0.72%、酸化第1鉄(FeO)43.32%、酸化第2鉄(Fe_2O_3)27.83%の割合である。ガラス質成分($\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$)は14.43%で、このうち塩基性成分($\text{CaO} + \text{MgO}$)2.33%を含む。砂鉄特有成分の二酸化チタン(TiO_2)は8.64%、バナジウム(V)0.21%など、再成分はやや高めであった。また、酸化マンガン(MnO)0.26%は製錬滓より低めとなる。銅(Cu)は0.005%で、脈石成分を若干含むので精錬鍛冶滓に分類される。

＜小結＞

SK-168出土鉄滓の調査は2点である。そのうちの1点は、箱形製鉄炉の炉底塊ブロックが想定される外観で、鉱物組成は砂鉄粒子残骸や、砂鉄粒子からの純鉄晶出状況を留め、化学組成は二酸化チタン (TiO_2) 24.02%と多く、バナジウム (V) 0.31%、酸化マンガン (MnO) 0.79%、塩基性成分 ($CaO+MgO$) 8.93%など全般的に脈石成分が高め傾向を呈する滓であった。該品は、恐らく炉底塊もぐり込み鉄塊抽出後の小割選別残滓であろう。この炉底塊にも凝集しきれずに散存した海綿鉄が内蔵されていた。本遺構近傍で、鉄塊や含鉄炉底塊の小割り、選別といった鍛冶原料鉄調達の作業配置空間があったと推定される。

なお、残る1点の碗形鍛冶滓は組成的にはSI-26出土鉄滓に近似した精錬鍛冶滓であって、これの表層からも付着鍛造剥片が確認された。SI-26、SK-168は近接する遺構である。両遺構の近くで、精錬鍛冶滓→鍛錬鍛冶の作業工程があったことを傍証する鉄滓群の存在は貴重な存在である。

(3) SX-1遺構出土鉄滓

3-1. KBD SX-1 下7：偏平碗形鍛冶滓（精錬鍛冶滓）

・肉眼観察

平面は不整形形状を呈する碗形鍛冶滓の一部欠損品である。表面は黒褐色滑らか肌に赤褐色酸化土砂被膜を付着する。裏面は偏平で木炭灰と反応痕が認められ、色調は表面に準ずる。破面は、茶褐色で大気泡が散在するが緻密質であった。

・顕微鏡組織

図版2の④～⑥に示す。鉱物組成は、白色粒状グスタイトとマグネタイトで、その粒内に微小淡茶褐色鉄(Fe)-チタン(Ti)化合物を析出する結晶と、淡茶褐色多角形結晶のウルボスピネル、淡灰色盤状結晶のファイヤライト、基地の暗黒色ガラス質スラグなどから構成される。この品群は精錬鍛冶滓に分類される。

・ビッカース断面硬度

図版2の⑦に示した微小析出物含みの白色粒状結晶の硬度測定印痕を示す。硬度地は526Hvでマグネタイト、⑧の淡茶褐色多角形結晶は664Hvで、ウルボスピネルが同定された。

・化学組成分析

表2に示す。鉄が多くて脈石成分をある程度含有した精錬鍛冶滓成分を有する。全鉄分(Total Fe)は58.38%に対して、金属鉄(Metallic Fe)0.58%、酸化第1鉄(FeO)59.22%、酸化第2鉄(Fe₂O₃) + 16.83%の割合であった。ガラス質成分($SiO_2+Al_2O_3+CaO+MgO+K_2O+Na_2O$)は少なくとも14.49%、このうちに塩基性成分($CaO+MgO$)は2.10%留まりである。砂鉄特有成分の二酸化チタン(TiO_2)6.18%、バナジウム(V)0.12%を含有し、酸化マンガン(MnO)は0.22%であった。精錬鍛冶滓に分類される。

3-2. KBD SX-1 C8：碗形鍛冶滓（精錬鍛冶滓）

・肉眼観察

平面は不整形円形碗形鍛冶滓の一部を欠損。表面は多孔質状肌に黄褐色酸化土砂が付着する。側面は大部分が生きた旧面であり、ここにも酸化土砂がきつ付着して鉄滓本来の特徴が読みとれない。

・顕微鏡組織

図版7の①～⑤に示す。①には表層部に粒状滓を付着する。粒状滓は鍛冶作業において、凹凸をもつ鉄素材が鍛冶炉の中で、赤熱状態に加熱されて突起部が溶融酸化して溶け出すと、表面張力の関係から球状化する。

また、赤熱塊塊に酸化防止を目的に塗布された粘土汁が酸化膜と反応して、これが鍛打の折りに飛散する球状化の微細遺物である。精錬鍛冶の末期から鍛錬鍛冶の前半段階までに派生する。その極く微細粒(0.12mm径)の粒状滓が検出された。また、別視野では②・③にみられる3層分離型の鍛造切片も共存する。鉄滓の鉱物組成は、白色粒状結晶のヴスタイトと淡茶褐色多角形結晶のウルボスピネルが淡灰色盤状結晶と晶出して、精錬鍛冶滓に分類される。

・化学組成分析

表2に示す。派石成分を一定量内蔵した精錬鍛冶滓の成分系である。すなわち、全鉄分(Total Fe)は、49.38%に対して、金属鉄(Metallic Fe)0.68%、酸化第1鉄(FeO)43.46%、酸化第2鉄(Fe₂O₃)21.33%の割合である。ガラス質成分(SiO₂+Al₂O₃+CaO+MgO+K₂O+Na₂O)は20.69%あり、このうち塩基性成分(CaO+MgO)を3.55%を含む。砂鉄特有成分の二酸化チタン(TiO₂)は8.79%、バナジウム(V)0.16%高めで、酸化マンガン(MnO)0.33%と高め傾向にある。

<小結>

SX-1出土の2点の梘形鍛冶滓の調査を行った。2点の鉄滓は、鉱物組成にヴスタイトとウルボスピネルを晶出し、化学組成は二酸化チタン(TiO₂)6.18%~8.79%、バナジウム(V)0.12%~0.16%、酸化マンガン(MnO)0.22%~0.33%を含有する精錬鍛冶滓であった。SI-26とSK-168出土の梘形鍛冶滓の組成と近似する成分系であった。なお、KBD SX-1 C8試料の梘形鍛冶滓は、表層部に粒状滓と鍛造切片を付着しており、SX-1近傍においても精錬鍛冶と共に、鍛打作業を行う鍛錬鍛冶のあったことを示唆した。

(4) SI-1 遺構出土鉄滓

4-1. KBD SI-1 No.163: 梘形鍛冶滓(精錬鍛冶滓)

・肉眼観察

平面が不整形楕円形を呈する梘形鍛冶滓で一部を欠損して完形品ではない。表裏ともに黄褐色から赤褐色の酸化土砂の覆われて鉄滓の肌を十分に観察できない状態であった。破面は黒色光沢質で気泡なく緻密な個所とガラス質の多い個所が混在していた。

・顕微鏡組織

図版7の⑥~⑧に示す。鉱物組成は、白色粒状結晶のヴスタイトと、淡茶褐色多角形結晶のウルボスピネル、この両者の粒間を淡灰色盤状結晶のファイヤライトと少量の暗黒色ガラス質スラグが埋める。精錬鍛冶滓の晶癖である。

・ビッカース断面硬度

図版7の⑥に淡茶褐色多角形結晶の硬度測定の影響を示す。硬度値は674Hvであった。当結晶はウルボスピネルに同定される。

・化学組成分析

表2に示す。該品は外観が多孔質で偏析のある滓であり、分析試料側はガラス質の多い個所からの情報となる。全鉄分(Total Fe)は18.04%に対して、金属鉄(Metallic Fe)0.21%、酸化第1鉄(FeO)7.24%、酸化第2鉄(Fe₂O₃)17.45%の割合で鉄分は少ない。これに対してガラス質成分(SiO₂+Al₂O₃+CaO+MgO+K₂O+Na₂O)は多くて65.93%あり、このうち塩基性成分(CaO+MgO)は3.33%を含む。しかし、砂鉄特有成分の二酸化チタン(TiO₂)は前述してきた滓と大差なく5.94%、バナジウム(V)0.10%、更に酸化マンガン(MnO)も0.23%であった。

<小結>

SI-1出土の1点の椀形鍛冶滓の調査を行った。該品もSI-26・SK-168・SX-1と同様の精錬鍛冶滓に分類される。鉱物組成はヴスタイト+ウルボスピネルで構成され、化学組成は二酸化チタン (TiO_2) 5.94%, バナジウム (V) 0.10%, 酸化マンガン (MnO) 0.23% など隕石成分をある一定量含有する。ただし、該品は鉄分が少なく、ガラス質成分が66%台と多いのは、赤熱鉄素材に酸化防止のために粘土汁を塗布した作業が加わった可能性が窺えた。

(5) SI-59遺構出土鉄滓

5-1. KBD SI-59 No.12: 炉壁溶融物

・肉眼観察

平面が不整形形状の薄手 (15mm) ガラス質溶融物である。一見砂鉄焼塊壊らしき薄片であるが、砂鉄粒子ではなく、酸化土砂の被膜の付着のみである。断面は僅かに弧を描く。

・顕微鏡組織

写真図版8の①~③に示す。炉壁胎土の粘土鉱物は残存せず、総て加熱変化を経てガラス化し、微細なマグネタイトを晶出する部分と、マグネタイトと木ずれ状ファイヤライトの組み合わせで晶出する部分が認められた。該品の表層には砂鉄の付着がなく、製鉄炉壁ではなくて、高温操業の精錬鍛冶炉の可能性を考えておくべきであろう。

・化学組成分析

表2に示す。鉄分は少なくガラス質の多い成分系である。全鉄分 (Totale Fe) は18.58%に対して金属鉄 (Metallic Fe) 0.23%, 酸化第1鉄 (FeO) 13.22% 酸化第2鉄 (Fe_2O_3) 11.54%の割合である。ガラス質成分 ($SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO + K_2O + Na_2O$) は72.55%で、このうちに塩基性成分 ($CaO + MgO$) を2.64%とこれも高めである。二酸化チタン (TiO_2) は1.93%, バナジウム (V) 0.05% など砂鉄特有成分は少なく、酸化マンガン (MnO) も0.13%と低い。精錬鍛冶滓の成分系とは異なる数値であった。

5-2. KBD SI-59 No.34: 椀形鍛冶滓 (精錬鍛冶滓)

・肉眼観察

平面が不整形円形状の椀形鍛冶滓である。表層に2.0mm~3.0mm幅の木炭痕を深く刻み、表裏共に赤褐色から灰褐色を呈する酸化土砂に覆われる。表層に砂鉄粒子を付着するのは天然産であろう。

・顕微鏡組織

図版8の④~⑥に示す。鉱物組成は⑦・⑧のみでみられる白色粒状結晶のヴスタイト及びその粒状微小鉄 (Fe)-チタン (Ti) 化合物と、淡茶褐色多角形結晶のウルボスピネル、それらの粒間を埋める淡灰色盤状結晶のファイヤライトで構成される。精錬鍛冶滓の晶癖である。なお、外観に現れた砂鉄粒子は⑤の左側の4粒がそれである。白色粒子の磁鉄鉱 (Magnetite: $Fe_2O_3 \cdot FeO$) で被熱の痕跡はまったく認められない。また、これに隣接して鍛造切片も付着する。こちらは3層分離型の切片で、拡大組織を⑥に提示した。

・ビッカース断面硬度

図8の④に淡茶褐色多角形結晶の硬度測定の変痕を示す。硬度値は702Hvであり、ウルボスピネルに同定される。

・化学組成分析

表2に示す。鉄分が多くて、全鉄分 (Total Fe) は55.78%に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.21%、酸化第1鉄 (FeO) 53.62%、酸化第2鉄 (Fe₂O₃) 19.86%の割合である。ガラス質成分 (SiO₂+Al₂O₃+CaO+MgO+K₂O+Na₂O) はさほど多くなく14.23%留りで、このうちに塩基性成分 (CaO+MgO) が2.26%含まれる。砂鉄特有成分の二酸化チタン (TiO₂) 9.87%、バナジウム (V) 0.23%と高め傾向である。酸化マンガン (MnO) 0.28%などから精錬鍛冶滓に分類される。

<小結>

SI-59からの出土品2点を調査した。1点は炉壁溶融物で、ガラス質成分 (76%台) を主体にして砂鉄特有成分の二酸化チタン (TiO₂) が1.93%と低めの組成である。また、鉱物組成は砂鉄付着の痕跡はなく、暗黒色ガラス質スラグと少量のマグネタイトやファイヤライトを晶出する。鍛冶炉の炉壁溶融物に想定される。

残る1点は、碗形鍛冶滓でヴスタイト+ウルボスピネル晶出、二酸化チタン (TiO₂) 9.87%の精錬鍛冶滓であり、表層には3層分型 (内層のヴスタイトは非晶出) の鍛冶割片を付着する。ここでも精錬鍛冶→鍛錬鍛冶の工程が想定された。

6. まとめ

木工作台遺跡出土品の10点の調査結果を基に、9世紀代の鉄生産の様相を推定すると次のようになる。

製鉄原料砂鉄は二酸化チタン (TiO₂) が10%前後の塩基性砂鉄が木炭でもって還元されると、No.3485 KBD SK-168 Bトレ試料炉底塊レベルの脈石成分の多い製錬滓が排出される。その時の製鉄炉は、No.3485 KBD SK-168 Bトレ試料炉底塊の形状からみて箱形製鉄炉であろう。ここで生成された鉄塊は、No.3485 KBD SK-168 Bトレ試料に鉄滓中にみられる極低炭素鋼からNo.1603 KBD SI-26 E-6試料碗形鍛冶滓中に遺存した鉄塊までがある。これらは炭素含有量が異なり、表皮スラグや捲込みスラグをもつ鉄塊が鍛冶炉に装入されて木炭でもって酸化精錬を受ける。純度の上がった鉄塊は、鉄床石の上で鍛打を受けて粒状滓や鍛造割片を派生させ、延板状や鉄製品へと仕上げられる。以上の作業中に排出される鉄滓は、砂鉄のもつ脈石成分は徐々に低下していく。表3には脈石成分の変動を作業順に想定して並べてみた。

表3 製錬滓から精錬鍛冶滓への成分変動

種別	試料名	鉱物組成	化学組成					作業進行
			Total Fe	CaO+MgO	TiO ₂	V	MnO	
製錬滓	No.3485 KBD SK-168 Bトレ	砂鉄塊 U(大量)+W(少量)	40.62	8.93	24.02	0.31	0.79	↓
精錬鍛冶滓	KBD SI-59 No.34	鍛造割片付着 W(粒内析出物)+U	55.78	2.26	9.87	0.23	0.28	↓
精錬鍛冶滓	KBD SX-1 C8	粒状滓・鍛造割片付着 W(粒内析出物)+U	49.38	3.55	8.79	0.16	0.33	↓
精錬鍛冶滓	No.3490 KBD SK-168 Eトレ	鍛造割片付着 W+U	53.86	2.33	8.64	0.21	0.26	↓
精錬鍛冶滓	KBD SX-1 F7	W(粒内析出物)+U	58.38	2.10	6.18	0.12	0.22	↓
精錬鍛冶滓	KBD SI-1 No.163	W(粒内析出物)+U	18.04	3.33	5.94	0.10	0.23	↓
精錬鍛冶滓	No.1592 KBD SI-26 C-5	W(粒内析出物)+U	48.12	2.67	5.69	0.17	0.18	↓
精錬鍛冶滓	No.1603 KBD SI-26 E-6	W(粒内析出物)+U	51.03	2.51	4.34	0.09	0.17	↓
精錬鍛冶滓	No.3493 KBD SK-168 Bトレ	鍛造割片付着 W(粒内析出物)+U	50.61	2.37	4.22	0.11	0.17	↓
炉壁	BKD SI-59 No.12	ガラス+M	18.58	2.64	1.93	0.05	0.13	↓

U:Ulivospinel (2FeO-TiO₂) W:Wustite(FeO) M:Magnetite(Fe₃O₄)

(注)

- ① 熊本県教育委員会「頭地・松木B遺跡」(報告書準備中)、球磨郡五木村甲字松木、中・近世の建物跡・墓地から鉄鉄含みの塊形鍛冶滓と鍛冶原料鉄となる白鑄鉄の鉄塊系遺物が出土。
- ② 日刊工業新聞社(1968)「焼結鉄組成写真および識別法」、当刊行物にはウスタイトの硬度値は450~600Hv、マグネタイトで500~600Hv、ファイヤライトが600~700Hvとある。鉄(Fe)とチタン(Ti)化合物のウルボスピネルは、マグネタイトより硬度で600~700Hv程度の結晶はウルボスピネルと同定している。
- ③ 大澤正己(1992)房総風土記の丘実験試料と発掘試料、「千葉県立房総風土記の丘年報15」~シンポジウム 古代製鉄研究の現状(記録集)。
- ④ 大澤正己(1991)奈良尾遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査、福岡県教育委員会「奈良尾遺跡」(今宿バイパス関連埋蔵文化財調査報告書第13集)
- ⑤ 森岡ら(1972)「鉄鋼腐食科学」『鉄鋼工学講座』11、朝倉書店。